目次 | はじめに | 設定 | Peripherals | メンテナンス | デバイス設定 | 物理インターフェイス | 付録

Board
BoardPro、BoardPro G2
Codec EQ
Codec Plus
Codec Pro
デスク、デスクプロ、デスクミニ
Room Bar Pro、Room Bar
Room Kit、Room Kit Mini
Room Kit EQX
Room 55
会議室 55 デュアル、会議室 70
Room 70 G2
Room 70 Panorama
Room Panorama

アドミニストレーション ガイド

RoomOS 11.32 を実行する Cisco コラボレーションデバイス用

D15503.09
RoomOS 11.32
10-2025

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

目次の項目はすべてハイパーリンクになっており、このハイパーリンクをクリックすると、対応する章に移動することができます。メインセクション間を移動するには、上部のメニューバーにあるボタンを使用します。

このガイドは主に、ビデオ会議デバイスのセットアップと構成を行う管理者を対象にしています。

このガイドでは主にオンプレミスサービス (CUCM、VCS) に登録されているデバイスの機能と設定について説明していますが、ほとんどの機能と構成は Webex クラウドサービスに登録されているデバイスにも適用されます。

対象となるデバイスは次のとおりです。

Board シリーズ
- Board (55/55S、70/70S、および 85S)
- Board Pro (55 および 75)
- Board Pro G2 (55 および 75)

Desk シリーズ
- Desk Mini
- デスク
- Desk Pro

Room シリーズ
- Codec EQ
  (Room Kit EQ および Room Kit EQ PTZ 4K バンドルを含む)
- Codec Plus
  (Room Kit Plus、Room Kit Plus PTZ 4K、Room Kit Plus Precision 60、Room Kit Plus PTZ-12 バンドルを含む)
- Codec Pro
  (Room Kit Pro、Room Kit Pro PTZ 4K、および Room Kit Pro Precision 60 バンドルを含む)
- Room Bar
- Room Bar Pro
- 会議室キット EQX
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

目次

はじめに 5
RoomOS ソフトウェアおよびユーザ ドキュメント 6
製品機能一覧 11
Room シリーズの一覧 12
Desk シリーズの概要 16
Board シリーズの概要 17
ビデオ会議デバイスを管理する方法 18
タッチコントローラ 23

設定 24
ユーザ管理 25
デバイスのパスフレーズ 26
[設定] メニューへのアクセスを制限する 27
デバイスの構成 28
ログインバナーを追加する 29
ウェルカムバナーを追加する 30
デバイスのサービス証明書を管理する 31
信頼できる認証局 - CAのリストを管理する 32
安全な監査ログをセットアップする 36
CUCM トラストリストを削除する 37
永続モードを変更する 38
SMTP メールサーバーのセットアップ 39
臨時の複数拠点会議をセットアップする 40
Cisco Proximity をセットアップして使用する 42
ビデオ品質の通話帯域を調整する 47
背景画像として壁紙バンドルを選択する 49
ハーフウェイク モードのカスタム背景画像を追加する 50
ホーム画面のカスタム背景を追加する 51
画面とタッチコントローラにブランディングを追加する 52
仮想背景の追加 54
着信音を選択し、着信音の音量を設定します 55
お気に入りリストを管理する 56
アクセシビリティ機能をセットアップする 57
省電力動作をセットアップする 58
CUCM からの製品固有の構成のプロビジョニング 59

Peripherals 61
スクリーンおよびその他の出力デバイスを設定する 62
入力ソースの接続 72
入力ソースの数を増やす 85

D15503.09
RoomOS 11.32
10-2025

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ディスプレイに関する情報 86
解像度に関する情報 87
HDMI および USB-C ケーブルに関する情報 88
自動フレーミング機能をセットアップする (1/5 ページ) 89
ミーティング ゾーンをセットアップする 94
クロスビューと拡張発言者ビュー 95
PresenterTrack 機能をセットアップする 96
プレゼンタとオーディエンスの設定 102
会議室のセットアップ 116
クラスルームのセットアップ （1/11 ページ） 127
Board Pro、Board Pro G2、Room Bar Pro で外部マイクを使用する 138
スピーカーの接続をテストする 139
Bluetooth® ヘッドセット 143
タッチコントローラを接続する 144

メンテナンス 154
新しいソフトウェアをインストールする 155
オプションキーを追加する 157
デバイスのステータス 158
診断の実行 159
システムログファイルを取得する 160
通話ログを取得する 162
リモートサポートユーザーの作成 163
構成とカスタム要素のバックアップと復元 164
カスタム要素の CUCM プロビジョニング 165
カスタム要素の TMS プロビジョニング 166
以前使用したソフトウェアイメージに戻す 167
ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする 168
Cisco Room Navigator を工場出荷時設定にリセットする 176
Touch 10 を出荷時設定にリセットする 177
Cisco 自然音声モジュール IV を工場出荷時設定にリセットする 178
Table Microphone Pro を工場出荷時設定にリセットする 179
ユーザ インターフェイスのスクリーンショットをキャプチャする 180

デバイス設定 181
デバイス設定の概要 182
アプリの設定 193
音声設定 193
Bluetooth 設定 227
予約設定 228
BYOD 設定 230
CallHistory の設定 231
カメラ設定 232
会議設定 246
施設サービスの設定 255
ファイル設定 256
GPIO 設定 256
H323 設定 257
HttpClient 設定 260
HTTP フィードバックの設定 261
ログの設定 262
マクロ設定 264
MicrosoftTeams の設定 266
ネットワーク設定 267
ネットワークサービス設定 277
周辺機器の設定 288
電話帳設定 293
プロビジョニング設定 294
Proximity 設定 297
リモートアクセス設定 299
RoomAnalytics の設定 299
会議室クリーンアップの設定 302
RoomReset の設定 303
RoomScheduler の設定 304
RTP 設定 305
セキュリティ設定 308
Sensors 設定 312
シリアルポートの設定 312
SIP 設定 315
スタンバイの設定 320
SystemUnit settings 325
ThousandEyes の設定 328
時間設定 328
ユーザ操作の設定 333
ユーザインターフェースの設定 333
ユーザ管理設定 355
ビデオ設定 360
音声コントロールの設定 387
ウェブ エンジンの設定 387
Webex の設定 391
WebRTC 設定 395
Zoom の設定 396
実験的な設定 397

D15503.09
RoomOS 11.32
10-2025

Bluetooth® の用語マークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、かかる商標の Cisco による使用はライセンスに基づいています。その他の商標と商標名はそれぞれの所有者のものです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

物理インターフェイス 398
電源オン/オフおよび LED の動作 399
コネクタパネル: Codec EQ 410
コネクタ パネル: Codec Plus 411
コネクタ パネル: Codec Pro および Room Panorama 412
コネクタパネル: Room Kit 413
コネクタパネル: Room Kit Mini 414
コネクタパネル : Room Bar 415
コネクタパネル: Room Bar Pro 416
コネクタパネル: Room 55 417
コネクタパネル : Room Kit EQX 418
コネクタ パネル: Room 55 Dual および Room 70 419
接続パネル: Room 70 G2 および Room 70 Panorama 420
コネクタパネル : Desk Mini 421
コネクタパネル:Desk および Desk Pro 422
コネクタパネル : Board 423
コネクタパネル: Board Pro 424
コネクタパネル : Board Pro G2 425
コネクタパネル: Cisco 自然音声モジュール IV アンプ 426
Room Navigator の物理インターフェイス 427
Touch 10 物理インターフェイス 428

付録 429
デバイスをウェブカメラまたは BYOD として使用してラップトップから通話する 430
パノラマビデオ 434
リモート監視のセットアップ 435
デバイスのウェブ インターフェイスを使用して通話情報にアクセスし、通話に応答する 436
デバイスのウェブ インターフェイスを使用して発信する 437
デバイスのウェブ インターフェイスを使用してコンテンツを共有する 439
ローカル レイアウト コントロール 440
ローカル カメラを操作する 441
遠端カメラ制御 442
Room 解析 443
ビデオ会議デバイスのユーザ インターフェイスをカスタマイズする 445
マクロを使用してビデオ会議デバイスの動作をカスタマイズする 447
ユーザ インターフェイス上のボタンおよびその他の要素を表示または非表示にする 448
サードパーティの USB 入力デバイスを使用する 449
HTTP (S) リクエストを送信する 450
デジタル サイネージ 451
Web アプリ 452
API ドリブンのウェブ ビュー 453
送信元の構成 454
プレゼンテーションのソース構成 456
デバイスの XML ファイルにアクセスする 458
デバイスのウェブ インターフェイスから API コマンドと構成を実行する 459
音声の高度なカスタマイズ 460
イーサネットポートについて 465
ミニジャック コネクタのピン割り当てスキーム 466
音声入力と出力 467
GPIO および 3G-SDI コネクタ 469
COM ポートを使用した API アクセス 470
メンテナンス用シリアルインターフェイス 471
そのSystemtools コマンド 477
開いている TCP ポート 478
エフェメラル IP ポート 479
TMS からの HTTPFeedback アドレス 480
オンプレミスに登録されたデバイスをデバイス用の Cisco Webex Edge にリンクする 481
Cisco Webex クラウド サービスにデバイスを登録する 482
サポートされている RFC 483
最小帯域幅を計算しています 484
Cisco Web サイトのユーザ ドキュメント 485
Cisco の連絡先 486

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 1 章

はじめに

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RoomOS ソフトウェアおよびユーザ ドキュメント

RoomOS は、デバイスがOnプレミスサービス (CUCM、VCS) に登録されている場合、および Webex クラウド サービスに登録されている場合の両方で、Cisco コラボレーションデバイスを稼働させるオペレーティングシステムです。

ソフトウェアの入手方法およびユーザ ドキュメントの場所は、デバイスが登録されている場所によって異なります。

アドミニストレーション ガイドについて

この管理ガイドは主に、ビデオ会議デバイスのセットアップと設定を行う管理者を対象にしています。

このガイドでは主にオンプレミスサービス (CUCM、VCS) に登録されているデバイスの機能と設定について説明していますが、ほとんどの機能と構成は Webex クラウドサービスに登録されているデバイスにも適用されます。

Webex Workspaces

Webex Workspaces を参照して、ビデオ会議用のオフィスまたはミーティングルームを準備する際のインスピレーションとガイドラインを見つけることをお勧めします。

▶ https://www.webex.com/workspaces.html

Onプレミスの登録済みデバイス

ソフトウェア

Onプレミスの登録済みデバイス用の RoomOS の新しいバージョンは、年に 3-4 回リリースされます。ソフトウェアは Cisco のウェブサイトからダウンロードできます。

▶https://software.cisco.com/download/home

リリースノート

デバイスをアップグレードする前に、ソフトウェアのリリースノート (RoomOS 11) をお読みください。

▶https://roomos.cisco.com/doc/WhatsNew/ReleaseNotesRoomOS_11

その他のドキュメント

また、定期的に Cisco のウェブサイトにアクセスして、この管理者ガイドの最新版やお使いのデバイスの他のドキュメントを検索することをお勧めします。

▶https://www.cisco.com/go/board-docs (Boardシリーズ)

▶https://www.cisco.com/go/desk-docs (Deskシリーズ)

▶https://www.cisco.com/go/room-docs (会議室シリーズ)

アドミニストレーション ガイドを参照するには、*[ドキュメント (Documentation)]* をクリックし、*[メンテナンスと運用 (Maintain and Operate)] > [メンテナンスと運用ガイド (Maintain and Operate Guides)]* を検索します。

この製品のガイドに関する詳細は、付録 ▶ Cisco Web サイトのユーザ ドキュメント を参照してください。

Webex 登録済みデバイス

ソフトウェア

Webex クラウド登録デバイス用の RoomOS の新しいバージョンは、毎月リリースされます。ソフトウェアは、組織の Control Hub でセットアップされたとおりに、デバイスに自動的にインストールされます。

リリースノート

最新バージョンの Webex 展開の新機能を確認するには、Webex ヘルプセンターの *RoomOS デバイスの新機能* を参照することをお勧めします。

▶https://help.webex.com/article/6ger7db/

この記事では、以前にリリースされた機能の概要、およびまもなくリリースされる予定の機能の詳細についても記載しています。

その他のドキュメント

Webex クラウド サービスに登録されているデバイスの詳細については、Webex ヘルプ センターを参照してください:

▶https://help.webex.com

Cisco ウェブサイトに、*「オンプレミスの登録デバイス」* について説明されている、オンプレミスおよび Webex 登録デバイスの両方に対応するガイドがあります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

新機能 (4 ページ中 1 ページ目)

この章では、新機能と改善点の概要を提供し、新規、変更、削除されたデバイス設定 (構成) を一覧表示します。詳細については、ソフトウェアのリリースノート (RoomOS 11) を参照することをおすすめします。

RoomOS 11.32 の新機能と改善

Cisco Room Vision PTZ カメラのサポート

(Room Kit EQ、Room Kit EQX、Room Bar Pro、Board Pro G2、Board Pro、Codec Pro)

Cisco Room Vision PTZ は、電動のパン、チルト、ズームと組み込み AI を組み合わせることで、プレゼンターとスピーカーを動的に追跡してフレーミングするように設計されたビデオオーバー IP 追跡カメラです。

このカメラはビデオ オーバー IP 接続機能を備えているため、イーサネット経由で簡単にセットアップおよび管理できます。Room Vision PTZ は Cisco ビデオ デバイスと連携し、クラウドで管理できると同時に、複数のカメラを使用するシナリオや高度な展開を可能にするスケーラビリティも提供します。

LLDP ネットワーク検出のサポート

RoomOS は長い間、CDP ***(Cisco Discovery Protocol)*** を使用したネットワーク検出をサポートしてきました 。現在、ベンダー中立の IEEE 802.1AB 標準ネットワーク検出プロトコルである LLDP (Link Layer Discovery Protocol) のサポートを追加しています。LLDP はさまざまなネットワーク ベンダー間で動作し、相互運用性を向上させます。CDP は引き続きデフォルトの検出プロトコルですが、管理者は必要に応じてこれを LLDP に変更できます。

Room Navigator でのマクロと UI 拡張のサポート

ルーム外の Room Navigator パネルにマクロ、UI 拡張機能、Web ビューのサポートが追加されました。これにより、以前は室内でのみ利用可能だったのと同じプログラミング性と拡張性が得られます。UI 拡張はスケジューラ モードでサポートされ、マクロはスケジューラ モードと永続 Web アプリ モードの両方でサポートされます。

スタンドアロンの Room Navigator でサポートされます。

匿名のログと診断

お客様は、シスコの改善と問題の発見、そしてプロアクティブな解決に役立てていただくために、匿名のログと診断情報をシスコに送信することを選択できます。Cisco Unified CM 管理対象デバイスおよび顧客管理対象デバイスで利用できます。

ユーザは、初期ウィザードを実行した後、次の構成で診断データの送信を変更できます。

Webex プライバシー AllowUsageDataLogging: True/False

Cisco Table Microphone Pro *(Bar Pro、Board Pro、Board Pro G2)* ではデフォルトで BeamAndExtMic が使用されます

これにより、オーディオ ミキサーは内部マイクと Table Microphone Pro マイクの両方から音声を拾うことができます。

Table Microphone Pro および/または Ceiling Microphone Pro が唯一の外部マイクとして接続され、デバイス上でセットアップ キャリブレーション ウィザードが実行されている場合にサポートされます。それ以外の場合は、デフォルトの自動設定が使用され、外部マイクのみが使用されます。

Room Navigator のサイドパネル

Room Navigator には、設定にすばやくアクセスできるサイドパネルが追加され、デバイス間で一貫したエクスペリエンスが提供されます。Desk および Board シリーズのインターフェースで知られているように、すべてのデバイスの設定に同じエントリ ポイントが提供されるようになりました。

Zoom ロビー管理コントロール

Zoom CRC ミーティング UI にキーパッドへのアクセスを追加しました。キーパッドは、ロビーや名簿管理のような Zoom 管理コントロールなどの機能に使用できます。

2 列にまたがるフレーム *(Room Kit Pro、Room Kit EQ、Room Kit EQX、Room Bar Pro、Board Pro G2)*

フレーム カメラ モードでは、参加者が前の 1 列ではなく 2 列で表示され、最大 8 人の参加者が個別のフレームに表示されます。

オリジナルのフレームエクスペリエンスを使用するようにデバイスを設定できます。

サードパーティ製タッチスクリーン *(Room Bar、Room Bar Pro、Codec EQ、Codec Pro)* でのアクティブスタイラスのサポート

アクティブ スタイラスは、Cisco デバイスに接続されたサードパーティ製のタッチ スクリーンでサポートされるようになりました。ユーザは、アクティブ スタイラスを使用してホワイトボード上でシームレスに描画、パン、操作できるようになりました。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

新着情報 (4 ページ中 2 ページ目)

新しい構成

Audio SoundsAndAlerts DTMFFeedback (すべての製品)

Cameras Camera [n] ConnectorType (Codec EQ、Room Kit EQX、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)

カメラ カメラ [n] StageArea (Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Kit EQX、Room Panorama、Room 70 Panorama)

カメラ カメラ [n] トリガーエリア (Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Kit EQX、Room Panorama、Room 70 Panorama)

Cameras SpeakerTrack Frames RowConfiguration (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room Panorama、Room 70 Panorama)

カメラの立体視モード (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75)

ネットワークファイアウォール 着信 H323 (全製品)

ネットワーク ファイアウォールの着信ペアリング (全製品)

ネットワークファイアウォール着信 SIP (全製品)

ネットワーク FQDN (全製品)

ネットワークサービス検出プロトコル システム名 (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room Panorama、Room 70 Panorama、Cisco Desk)

ネットワーク サービス LLDP モード (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room Panorama、Room 70 Panorama、Cisco Desk)

NetworkServices SNMP SysNameSource (すべての製品)

Provisioning RoomType CameraLayout (すべての製品)

セキュリティ CSR キーサイズ (全製品)

SystemUnit SoftwareUpgrade TruncateCop (全製品)

UserInterface Accessibility ScreenReader Speed (すべての製品)

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp AllowInsecureHttps (すべての製品)

ビデオ入力コネクタ [n] 割り当てられたシリアル番号 (Desk Mini、Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Desk Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Cisco Desk、Codec EQ、Room Kit EQX、Codec Pro、Room 70 G2、Room Panorama、Room 70 Panorama)

ビデオ出力 タッチ入力 アクティブペンサポート (Codec EQ、Codec Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room Kit Mini)

Webex CloudUpgrades PreferredPackageProtocol (すべての製品)

Webex 近接モード (全製品)

変更される構成

オーディオ入力イーサネット [1..6] イコライザー ID (Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: 整数 (1..8)
- 新登場: 1/2/3/4/5/6/7/8

オーディオ入力イーサネット [1..8] イコライザー ID (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Bar Pro、Room Kit EQX)
- 旧: 整数 (1..8)
- 新登場: 1/2/3/4/5/6/7/8

オーディオ入力マイク [1..3] イコライザー ID (コーデック EQ、ルームキット EQX)
- 旧: 整数 (1..8)
- 新登場: 1/2/3/4/5/6/7/8

オーディオ入力マイク [1..8] イコライザー ID (Codec Pro、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: 整数 (1..8)
- 新登場: 1/2/3/4/5/6/7/8

オーディオ入力マイク [1] モード (Cisco Desk、Desk Mini、Desk Pro)
- 旧 : ユーザーロール : 管理者
- 新機能: ユーザロール: 管理者、インテグレーター

オーディオ出力イーサネット [1..4] イコライザー ID (Codec Pro、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: 整数 (1..8)
- 新登場: 1/2/3/4/5/6/7/8

オーディオ出力ライン [1..6] イコライザー ID (Codec Pro、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: 整数 (1..8)
- 新登場: 1/2/3/4/5/6/7/8

カメラ カメラ [2] コネクタタイプ (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: デフォルト: HDMI
- 新規: デフォルト: Auto
- 旧: イーサネット/HDMI
- 新機能: 自動/イーサネット/HDMI

カメラ カメラ [3] コネクタタイプ (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: デフォルト: HDMI
- 新規: デフォルト: Auto
- 旧: イーサネット/HDMI
- 新機能: 自動/イーサネット/HDMI

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

新着情報 (4 ページ中 3 ページ目)

Cameras Camera [4] ConnectorType (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: デフォルト: HDMI
- 新規: デフォルト: Auto
- 旧: イーサネット/HDMI
- 新: Auto/Ethernet/HDMI

Cameras Camera [5] ConnectorType (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: デフォルト: HDMI
- 新規: デフォルト: Auto
- 旧: イーサネット/HDMI
- 新機能: 自動/イーサネット/HDMI

カメラ カメラ [6] コネクタタイプ (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: デフォルト: HDMI
- 新規: デフォルト: Auto
- 旧: イーサネット/HDMI
- 新機能: 自動/イーサネット/HDMI

カメラ カメラ [7] コネクタタイプ (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: デフォルト: HDMI
- 新規: デフォルト: Auto
- 旧: イーサネット/HDMI
- 新機能: 自動/イーサネット/HDMI

カメラ PresenterTrack コネクタ (Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Kit EQX)
- 旧: 整数 (1..6)
- 新: 整数 (1..10)

会議のデフォルト通話 Webex 料金 (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Cisco Desk、Codec Pro、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar、Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: デフォルト: 0
- 新規: デフォルト: 20000

会議 MaxReceiveCallRate (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Cisco Desk、Codec Pro、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar)
- 旧: デフォルト: 6000
- 新規: デフォルト: 20000

会議の最大転送通話速度 (Board、Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Cisco Desk、Codec Pro、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar)
- 旧: デフォルト: 6000
- 新規: デフォルト: 20000

Files EndSessionAction (すべての製品)
- 旧: None/SendEmailToCreator
- 新: None/SendEmailToCreator/SendEmailToCurrentUser

Macros EvaluateTranspiled (すべての製品)
- 旧 : デフォルト: True
- 新: デフォルト: False

NetworkServices CommonProxy (すべての製品)
- 旧: デフォルト: Disabled
- 新機能: デフォルト: 有効

タイムゾーン (すべての製品)
- 値空間に追加: America/Coyhaique

ユーザインターフェース アクセシビリティ スクリーンリーダー ジェスチャー (全製品)
- 旧: デフォルト: Off
- 新: デフォルト: On
- 旧: Off/On
- 新: Off/On

UserInterface LiveAnnotation Enabled (Cisco Desk、Codec EQ、Codec Pro、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: デフォルト: False
- 新: デフォルト: True

Video DefaultMainSource (Desk Mini)
- 古い: 1/2
- 新登場 : 1/2/3

ビデオのデフォルトメインソース (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)
- 旧: 1/2/3/4/5/6/7/8
- 新: 1/2/3/4/5/6

ビデオのデフォルトメインソース (Cisco Desk)
- 旧: 1/2/3
- 新登場: 1/2/3/4

ビデオ入力コネクタ [1] カメラコントロール カメラ ID (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Desk Mini、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama)
- 旧: 1/2/3/4/5/6/7
- 新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

新機能 (4 ページ中 4 ページ目)

ビデオ入力コネクタ [2] カメラコントロール カメラ ID (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama)

旧: 1/2/3/4/5/6/7

新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

ビデオ入力コネクタ [3] カメラコントロール カメラ ID (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama)

旧: 1/2/3/4/5/6/7

新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

ビデオ入力コネクタ [4] カメラコントロール カメラ ID (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama、Room Bar Pro)

旧: 1/2/3/4/5/6/7

新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

ビデオ入力コネクタ [5] カメラコントロール カメラ ID (Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama、Room Bar Pro)

旧: 1/2/3/4/5/6/7

新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

Video Input Connector [6] CameraControl CameraId (Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Kit EQX、Room 70 Panorama、Room Panorama)

旧: 1/2/3/4/5/6/7

新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

Video Input Connector [7] CameraControl CameraId (Codec Pro、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama)

旧: 1/2/3/4/5/6/7

新: 1/10/2/3/4/5/6/7/8/9

ビデオプレゼンテーション DefaultSource (Desk Mini)

古い: 1/2

新登場: 1/2/3

ビデオプレゼンテーション DefaultSource (Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Room Bar Pro)

旧: 1/2/3/4/5/6/7/8

新: 1/2/3/4/5/6

ビデオプレゼンテーションのデフォルトソース (Cisco Desk)

旧: 1/2/3

新登場: 1/2/3/4

削除された構成

UserInterface RoomScheduler StatusWhenInUse (すべての製品)

Webex プライバシー AllowUsageDataLogging (Board、Codec Plus、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room Kit、Room Kit Mini)

Webex ProvisionalActivationService (Desk Mini、Cisco Desk、Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2 55、Board Pro G2 75、Codec EQ、Codec Pro、Desk Pro、Room 70 G2、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room Panorama、Room 70 Panorama)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

製品機能一覧

比類のないビデオと音声の体験と洗練されたデザインを組み合わせることで、Cisco Webex Room、Desk、Board のポートフォリオの各デバイスは、強力なコラボレーションソリューションを提供します。多機能で簡単に拡張できる Webex デバイスは、ハドル スペースから重役会議室まで、あらゆる会議室に適しています。また、パーソナル デスクトップにも対応しています。

Cisco Webex デバイスのポートフォリオには以下のような機能があります。

- スマートミーティング : カメラのベストオーバービュー、自動フレーミングと発言者トラッキング、ノイズ除去、OBTP による簡単なミーティングへの参加、Wi-Fi サポート、タッチコントローラまたは Webex アプリによる簡単なコントロール。
- スマート プレゼンテーション: シングル、デュアル、または 3 画面、有線またはワイヤレス 4k コンテンツ共有、デュアル コンテンツ ソースのサポート。
- スマート会議室 : 自動ウェイクアップ、人数カウント、環境および周辺機器のコントロール。
- フレキシブル登録: クラウドとオンプレミスの両方の展開向けに構築されています。また、 *デバイス用の Webex Edge* を使用して、オンプレミスの登録済みデバイスを Webex クラウドサービスにリンクし、一部のクラウド機能にアクセスできるようになります。

次のページには、デバイスによって異なる機能に関する情報を含む、各製品の詳細が記載されています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room シリーズの一覧 (1/4 ページ)

Room Bar、Room Bar Pro

Cisco Room Bar は、コンパクトでパワフルなビデオコラボレーションデバイスです。広視野 (120 度) カメラ、ノイズ キャンセリング マイク、デュアル ステレオ スピーカー、コーデックが 1 つのデバイスに統合されています。ハドル スペースや小規模なミーティングルーム (デバイスから 3 メートル以内にいる最大 5 名のユーザ) 向けに設計されています。少し大きい中規模の会議室では、外部マイクを追加して最高の音声体験を確保することができます。

より大きく、よりパワフルになった **Cisco Room Bar Pro** には、デュアルカメラ (112 度の画角とシームレスに連動する望遠レンズ) 、3 チャンネルのスピーカーシステム、内蔵マイクアレイ、豊富な接続オプションを備えた強力なコーデックが搭載されています。最大 3 台のスクリーンを接続できます。アナログまたはデジタルの外部マイクを選択すれば、中規模の大きな会議室で最高の音声体験を得ることができます。

どちらのデバイスも、HDMI CEC を通じてフラット パネル スクリーンと適切に統合され、壁やスクリーンのいずれかに簡単にマウントできます。

フラットパネルディスプレイの上部に取り付けられた Room Bar

フラットパネルディスプレイの前面に取り付けられた Room Bar Pro

Room Kit、Room Kit Mini

Cisco Room Kit には、カメラ、コーデック、スピーカー、マイクが 1 つのデバイスに統合されています。取り付けが簡単で、HDMI CEC を通じてフラットパネルスクリーンとうまく統合できます。Room Kit は、最大 7 名までの会議室用に設計されています。

サイズは少し小さいですが、**Cisco Room Kit Mini** には同じ機器が含まれています。120 度の広い画角を使用しているため、2〜5 人のグループのミーティングに最適です。Room Kit Mini をコンピュータに接続すると、USB カメラとして使用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip とバンドルされており、Room Kit Mini のビデオ会議機能と Samsung Flip のホワイトボードおよびコンテンツ機能が組み合わされています。

フラットパネルディスプレイの上部に取り付ける Room Kit

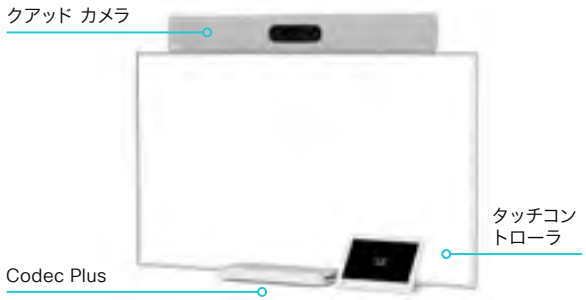
Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro

Cisco コーデックは、HDMI および CEC を介して外部ディスプレイとよく統合される強力なコラボレーション ソリューションです。Cisco は、コーデックを Cisco Quad Camera、Precision 60 カメラ[1]、PTZ 4K カメラ、または PTZ-12 カメラ[2]と組み合わせた Room Kit バンドルと Cisco タッチコントローラ ユーザー インターフェイスを提供します。

Cisco Codec EQ は最大 3 つのスクリーン、3 つのアナログまたは 8 つのデジタル指向性マイクと統合します。Codec Pro と同様に、 大きな会議室、重役会議室、トレーニングルーム、講堂などでの使用に適しています。AV インテグレーター パッケージ (オプションキー) では、完全版のインテグレーター音声 API が利用可能になります。

Cisco Codec Pro は最大 3 つのスクリーン、8 つのアナログまたは 4 つのデジタル指向性マイクと統合します。大きな会議室、重役会議室、トレーニングルーム、講堂などでの設置にも適しています。コーデックは AV インテグレータを念頭に置いて構築されています。

Cisco Codec Plus は、最大 2 つのディスプレイと 3 つのアナログマイクと統合します。中から大型の会議室に適しています。



[1] Codec Pro および Codec Plus のみ。

[2] Codec Plus のみ。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room シリーズを一目で見る (2/4 ページ)

Room 55

Cisco Room 55 には、カメラ、コーデック、スクリーン、スピーカー、マイクなど、すべてが 1 つのデバイスに統合されています。55 インチシングル スクリーンは、フロア スタンド、キャスター付きベース、壁取り付け型からお選びいただけます。Room 55 は中小規模のミーティングルームに最適です。ワークスペースをビデオ協同作業の中心地に変えます。

フロアスタンド上の Room 55

Room 70 G2、Room 70、Room 55 Dual

Cisco Room 70 G2 は Codec Pro をベースとしており、クアッドカメラ、70 インチ LED シングルまたはデュアル 4K スクリーン、統合型スピーカーとマイク付きです*。シングルスクリーンのセットアップは人間中心のエクスペリエンスを提供し、デュアルスクリーンのセットアップは魅力的な人間および人間/コンテンツ中心のエクスペリエンスを生み出します。

同様の機能を持つ **Cisco Room 70** は Codec Plus をベースにしています。

簡単に拡張でき、発言者トラッキングと自動フレーム機能を提供する Room 70/G2 Single または Dual は、最大 14 人まで収容できる大規模なミーティングルームに理想的なオールインワンのソリューションです。

Room 70 Dual と同様に画面が小さい **Cisco Room 55 Dual** は Codec Plus をベースとしており、1 台のクアッドカメラ、2 台の 55 インチ 4K 画面（スピーカーとマイク内蔵）を採用しています*。Room 55 Dual は最大 12 名までの中規模または大規模な会議室に最適です。

これらの各製品には、3 種類の取り付けキット オプションがあります。独立型フロア スタンド、壁に固定されたフロア スタンド、および壁取り付けキットです。

フロアスタンド上の Room 70 Single G2 / Room 70 Single

フロアスタンド上の Room 70 Dual G2 / Room 70 Dual

* 話者トラッキング専用の統合型マイク。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room シリーズの一覧 (3/4 ページ)

Room Kit EQX

Cisco Room Kit EQX は、Codec EQ とクアッドカメラをコアとして含むオールインワンバンドルです。独自の外部スクリーンを持ち込んで、ルーム会議ハードウェア コンポーネントと統合できる柔軟性があります。

3 つの取り付けオプション (壁付け、壁付けスタンド、独立型フロアスタンド) から選択できます。

デバイスは、高度なマルチカメラ シナリオをサポートし、スピーカー トラッキング、インテリジェントなプレゼンタとオーディエンス ビューを提供します。統合型マイクが最新の話者トラッキング ソリューションをサポートします。

内蔵マイクは話者トラッキング専用のため、音声ピックアップには外部マイクを接続する必要があります。アナログ、USB、または AES67 互換イーサネット (IP) マイクから選択できます。完全な外部 DSP コントロール マイク ソリューションをインストールすることもできます。複数のデジタル マイクを使用するには PoE 互換スイッチが必要です。

デバイスの統合スピーカーシステムは、6 つのメインスピーカーと、16 チャンネルのアンプで駆動されるバススピーカーで構成されています。

ウォール マウント

ウォールスタンド

フロアスタンド

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room シリーズの一覧 (4/4 ページ)

Room Panorama、Room 70 Panorama

現代の経営幹部に適した Cisco Room Panorama は、大きなミーティングスペースを変革し、世界中のチームと対面で参加することができます。

Codec Pro と Quad Camera をコアに備えたオールインワン ソリューションである Room Panorama は、コンテンツ プレゼンテーション用に 2 つの 82 インチ 8K ビデオ スクリーンと 65 インチ 4K スクリーンを備えています。カメラは、パノラマ ビデオ、発言者トラッキング、および自動フレーミング機能を提供します。特別に製造されたインテグレーション スピーカー システムは、12 個のメインスピーカーと 4 個の別々のベーススピーカーで構成され、16 チャンネルアンプで駆動されます。統合マイクロフォンアレイと最大 8 個の外部マイクのサポートにより、単語を聞き逃すことはありません。

Cisco Room 70 Panorama は、中規模から大規模の会議室やスペースに合わせて簡単に拡張できる、ハイエンドのコラボレーションシステムです。Cisco Room 70 Dual G2 ベースの Room 70 Panorama には、強力なコーデック、四眼カメラ、2 つの 70 インチ LED スクリーン、コンテンツプレゼンテーション用の 55 インチまたは 65 インチ 4K スクリーンが含まれています。統合ラウドスピーカーとマイクにより正確な話者トラッキングが可能で、システムは最大 8 個の外部マイクをサポートします。このカメラは、パノラマ ビデオ、発言者トラッキング、および自動フレーミング機能を提供します。取り付けキットには、自立型フロアスタンド、壁に固定されたフロアスタンド、壁面取り付けキットの 3 つのオプションがあります。

Room Panorama

ルーム 70 パノラマ、
上部に 65 インチのコンテンツスクリーンを備えた壁掛け式

ルーム 70 パノラマ、
フロアスタンドと下部に 55 インチのコンテンツスクリーン

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Desk シリーズの概要

Cisco Desk Pro、Cisco Desk、Cisco Desk Mini デバイスは、オフィスや集中作業室での個人のデスクベースのコラボレーションに設計されており、1 名または 2 名が利用可能です。高解像度タッチスクリーン、広角カメラ*、高度な音声システムを搭載した Desk シリーズは、Cisco の Room シリーズと同等のパワフルさを持ちつつ、デスクトップ用に設計されています。

タッチリダイレクト用の USB-C 接続、簡単なコンテンツ共有、画面拡張機能を備えた Desk シリーズのデバイスが、オールインワンのプライマリ モニタおよびコラボレーション デバイスになります。

Desk Pro：前面と側面から見た図

Desk Mini

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Board シリーズの概要

Cisco Board、**Cisco Board Pro**、および **Cisco Board Pro G2** は、4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、高解像度 4K タッチスクリーンを備えたオールインワンデバイスです。

このデバイスは、プレミアムなビジュアル コラボレーション、ビデオ会議、共同創作を組み合わせたものです。ビデオ会議、デジタル ホワイトボード、コンテンツのプレゼンテーションと共有に参加して、チームが物理的なさまざまなミーティング スペースでコラボレーションし、リモート メンバーとつながるのに役立ちます。

Board Pro および Board Pro G2 では、アナログ、USB、または AES67 互換イーサネット (IP) マイクから選択できます。

Board Pro および Board Pro G2

Board Pro および Board Pro G2 には、フロア スタンド、ホイール ベース、壁取り付けの 3 つの取り付けオプションがあります。

これらのボードには 2 種類の画面サイズがあり、小規模から大規模のミーティングスペースに対応するように設計されています。

- **Board Pro 55** および Board Pro 55 G2、55 インチ LED スクリーン付き。
- **Board Pro 75** および Board Pro 75 G2、75 インチ LED スクリーン付き。

Board

Board には、フロアスタンド、ウォールスタンド、壁取り付けの 3 つの取り付けオプションがあります。

Board には 3 種類の画面サイズがあります。

- **Board 55 および 55S**、55 インチ LED スクリーン付き。最大 5 名までのハドル スペース用に設計されています。
- **Board 70 および 70S**、70 インチ LED スクリーン付き。最大 8 名までの会議室に適しています。
- **Board 85S**、85 インチ LED スクリーン付き。講堂、トレーニングスペース、教室などの大規模なコラボレーションスペース向けに設計されています。

Board の第 2 世代は *S シリーズ*と呼ばれ、ハードウェア プラットフォームにマイナーな最適化が施されています。

ホイールベースの Board Pro

フロアスタンドの Board Pro

壁面取り付けの Board Pro

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを管理する方法 (1/5 ページ)

この管理者ガイドで説明されているように、通常、デバイスの管理とメンテナンスにはデバイス ウェブ インターフェイスを使用することを推奨します。

代わりに、他の方法でデバイスの API にアクセスできます。

- HTTP/HTTPS (デバイスのウェブ インターフェイスでも使用されます)
- WebSocket
- SSH
- シリアル接続

さまざまなアクセス方法の詳細および API の使用方法については、デバイスの *API ガイド* を参照してください。

ヒント

構成またはステータスが API で利用可能な場合、ウェブ インターフェイスの設定またはステータスは、API の構成またはステータスに変換されます。

X > Y > Z を **Value** に設定 (ウェブ)
これは次と同じです。
`xConfiguration X Y Z: Value` (API)

X > Y > Z ステータスを確認 (ウェブ)
これは次と同じです。
`xStatus X Y Z` (API)

次に例を示します。

SystemUnit > Name を **MySystem** に設定
これは次と同じです。
`xConfiguration SystemUnit Name: MySystem`

SystemUnit > Software > Version ステータスを確認
これは次と同じです。
`xStatus SystemUnit` **ソフトウェアバージョン**

デバイスのウェブインターフェースには、API よりも多くの設定とステータスがあります。

アクセス方法	注記	機能を有効/無効にする方法
HTTP/HTTPS	・デバイスのウェブ インターフェイスで使用 ・非セキュア (HTTP) またはセキュア (HTTPS) 通信 ・HTTPS: *デフォルトで有効* ・HTTP : *CE9.4 (またはそれ以降) に以前のソフトウェアバージョンからアップグレードしたデバイスに対してのみ、デフォルトで有効* 。ただし、購入後にデバイスが工場出荷時状態にリセットされていないことが条件です。	*[NetworkServices] > [HTTP] > [モード (Mode)]* 変更を有効にするためにはデバイスを再起動します
WebSocket	・HTTP に関連付けられているため、WebSocket を使用する前に HTTP または HTTPS も有効にする必要があります ・暗号化 (wss) または非暗号化 (ws) 通信 ・デフォルトでは *無効*	*[NetworkServices] > [HTTP] > [モード (Mode)]* *[NetworkServices] > [Websocket]* 変更を有効にするためにはデバイスを再起動します
SSH	・安全な TCP/IP 接続 ・デフォルトでは *Enabled*	*[NetworkServices] > [SSH] > [モード (Mode)]* デバイスを再起動する必要はありません。変更が有効になるまで少し時間がかかる場合があります
シリアル接続	・ケーブルでデバイスに接続します。IP アドレス、DNS、またはネットワークは必要ありません ・デフォルトでは *Enabled* ・デフォルトのボーレートを使用しないと、デバイスが多くのフィードバックを返す可能性があるため、デフォルトのボーレートの使用をお勧めします (*SerialPort > BaudRate*) ・セキュリティ上の理由から、デフォルトでログインが求められます (*SerialPort > LoginRequired*) *	*[シリアルポート] > モード* 変更を有効にするためにはデバイスを再起動します

* *Board : SerialPort > LoginRequired* 設定は、Board 55S、70S、85S でのみ利用できます。Board 55 と 70 では常にログインする必要があります。

⚠ すべてのアクセス方法が無効になっている場合 (**オフ**に設定)、デバイスを設定できなくなります。いずれのアクセス方法も再び有効に (**オン**に設定) することはできません。復旧するためにはデバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを管理する方法 (2/5 ページ)

デバイスのウェブ インターフェイス

デバイスのウェブ インターフェイスは、デバイスの管理ポータルです。コンピュータから接続し、デバイスをリモート管理することができます。フル設定アクセスとメンテナンスのためのツールとメカニズムを提供します。

注： デバイスのウェブインターフェイスで HTTP または HTTPS が有効になっている必要があります (*NetworkServices > HTTP > Mode* 設定を参照してください) 。

主要なウェブブラウザの最新リリースを使用することを推奨します。*

デバイスに接続する

ウェブブラウザを開き、アドレスバーにデバイスの IP アドレスを入力します。

IP アドレスの確認方法

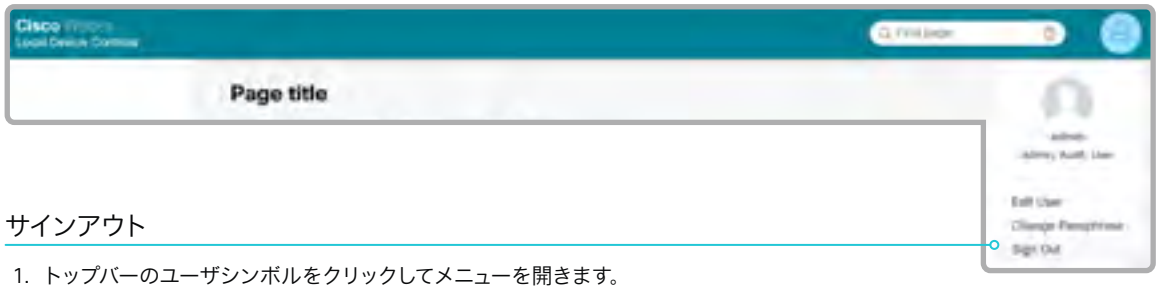
1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *デバイスの設定*を選択します。
2. *[このルームデバイスについて (About this room device)]* を選択します。

サインイン

デバイスのユーザー名とパスフレーズを入力し、*[サインイン (Sign In)]* をクリックします。

デバイスには、*admin* という名前のデフォルトユーザーが配布され、パスフレーズはありません。パスフレーズが設定されていない場合は、*[パスフレーズ (Passphrase)]* フィールドを空白にします。

管理者 ユーザーのパスワードを設定する必要があります。



サインアウト

1. トップバーのユーザシンボルをクリックしてメニューを開きます。
2. *[サインアウト (Sign out)]* をクリックします。

* Internet Explorer には対応していません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを管理する方法 (3/5 ページ)

デバイスのウェブ インターフェイスの構成

左側のメニューからページまたはトピックを選択します。上部のバーに検索フィールドがあり、探しているページを見つけるのに役立ちます。

どのページが表示されるかは、以下の条件によって異なります。

- デバイス タイプとサービスの登録 (Webex、Cisco UCM、VCS、デバイス用 Webex Edge)
- 接続済みの周辺機器とセットアップ
- ログインしているユーザーの役割とアクセス権

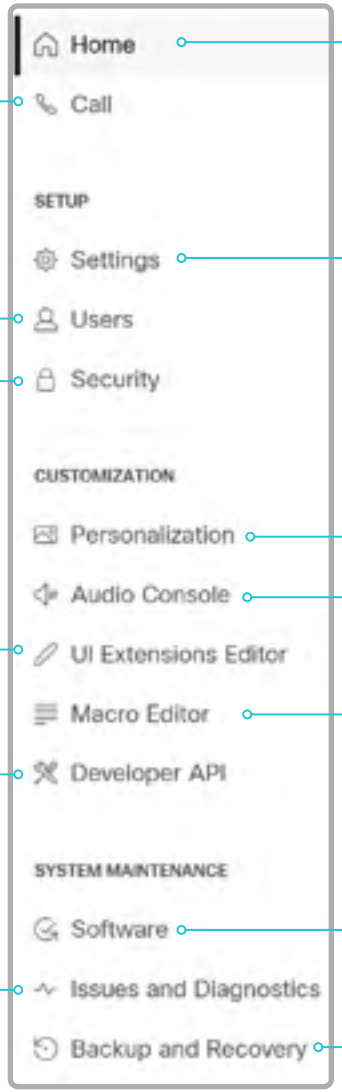
つまり、下の図に示されているメニューエントリの一部がお使いのデバイスには表示されない場合があります。

ユーザー管理、ユーザーの役割、アクセス権限の詳細については、▶ ユーザ管理 の章を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを管理する方法 (4/5 ページ)

デバイス ウェブ インターフェイスのメイン メニュー



Home
IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、アクティブなネットワーク インターフェイス、ソフトウェア バージョン、SIP アドレス、問題、登録ステータス、使用率、環境データなどの一般情報を一覧表示します。

Call
デバイスから発信をセットアップできるページが開きます。カメラの位置を変更したり、マイクをミュートにしたり、音量を調整したり、レイアウトを変更したり、通話内容の確認ができます。

Settings
以下にアクセス可能なページが開きます。

- デバイスの構成とステータス。
- 定義済みの会議室タイプのテンプレート。*(Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、および Room 70 G2 のみ)*
- カメラ、画面、マイク、およびその他の入力、出力、および周辺機器に関する詳細。
- プレゼンタトラッキングをサポートするカメラがある場合の設定と有効化。*(Board Pro、Board Pro G2、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2 のみ)*
- ホワイトボードと注釈をメールで送信できるように SMTP サーバーを設定します。*(Desk、Desk Mini、Desk Pro、Board、Board Pro、Board Pro G2、および Room Kit Mini with Samsung Flip のみ)*

Users
ユーザーの追加、編集、削除、あるいはユーザーのパスフレーズの変更ができるページが表示されます。このページからリモートサポート ユーザーを作成することもできます。

Security
異なるサービスおよびバックエンドとの通信に必要な証明書をアップロードして表示できるページを開きます。サインイン バナーを作成し、デバイスの再起動時に自動的にリセットするシステム コンポーネントを選択することもできます。

Personalization
ブランディング要素やその他の背景画像を追加し、着信音を選択し、ローカル連絡先リスト(お気に入り)を作成することで、デバイスをパーソナライズできるページが開きます。

Audio Console
Audio Console を開きます。これは、音声機能の高度なカスタマイズが可能なグラフィカル インターフェイスを備えています。*(AVIntegrator オプション付きの Codec EQ、AVIntegrator オプション付きの Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Panorama、および Room 70 Panorama のみ)*

UI Extensions Editor
UI 拡張機能エディタを開き、カスタム UI パネルとアクションボタンを作成できます。

Macro Editor
マクロ エディターが開きます。ここから、デバイスの動作を自動化またはカスタマイズするコード スニペット (マクロ) を作成できます。

Developer API
デバイスの XML ファイルを表示し、コマンドや構成を実行できるページが開きます。

Software
新しいソフトウェア*およびオプションキーをインストールできるページが開きます。プロダクトキーを変更することもできます。Cisco テクニカルサポートから指示された場合にのみ、プロダクトキーを変更してください。

Issues and Diagnostics
アクティブな診断メッセージを確認したり、ログをダウンロードしたり、ユーザ インターフェイス、画面上のメッセージとインジケータのスクリーンショットを作成したりできるページが開きます。

Backup and Recovery
ブランディング要素、お気に入りリスト、UI 拡張機能、マクロ、ログインバナー、構成など、デバイス上の情報をバックアップおよび復元できるページが開きます。以前のソフトウェア イメージにスワップしたり、工場出荷時設定にリセットしたり、デバイスを再起動したり、シャットダウンすることもできます。

* クラウド登録済みデバイスでは利用できません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ インターフェイス上の設定とデバイス情報

デバイスのユーザーインターフェイスでデバイス情報、基本的な設定とデバイステストにアクセスできます。

ネットワーク設定、サービスのアクティベーション、工場出荷時設定へのリセットなど、デバイスに不可欠な設定や機能は、パスフレーズで保護されている場合があります。 ► [設定] メニューへのアクセスを制限する の章を参照してください。

一部の設定とテストは、デバイスの電源を入れたときに起動される *セットアップアシスタント* の一部でもあります。

アクセス設定

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロール アイコン をタップして、コントロール パネルを開きます。それから *[デバイス設定 (Device settings)]* を選択します。

   南京錠のアイコン は、設定が保護されている (ロックされている) ことを示します。

2. 変更する設定または実行するテストを選択します。

   設定がロックされている場合、認証ウィンドウがポップアップ表示され、続行するには管理者資格情報でログインする必要があります。デバイスが Webex クラウドに登録されている場合、Control Hub から設定のロックを解除する必要があります。

Board、Board Pro、Board Pro G2 の場合

タッチコントローラをボードに接続している場合、2 つのデバイスはこのコンテキストで独立して動作します。一方にログインして設定をロック解除しても、もう一方には影響しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

タッチコントローラ

ビデオ会議デバイスを操作する

タッチコントローラは、ビデオ会議デバイスのコントロールに使用される Cisco インターフェイスユニットです。

現在、3 つのインターフェイスユニットが利用できます。これらはすべて「タッチコントローラ」と呼ばれます。

- Cisco Room Navigator
- Cisco Touch 10
- Cisco TelePresence Touch 10

タッチコントローラは、ミーティング、コンテンツ、連絡先、ディレクトリなどへのインスタント アクセスを提供します。『カスタマイズガイド』で説明されているように、カスタムボタンやパネルを使ってユーザーインターフェイスをカスタマイズすることができます。Room Navigator は、空気の質や温度などを監視するための環境センサーも提供します。

タッチコントローラは、デバイスに直接接続するか、ネットワーク経由（LAN）でリモートでデバイスにペアリングできます。

詳細については、 ▶ タッチコントローラを接続する タッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する方法についての章を参照してください。

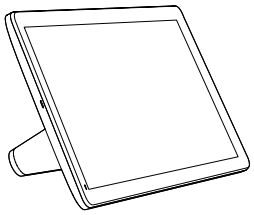
ビデオ会議デバイスの互換性

Room Navigator は以下でサポートされています。

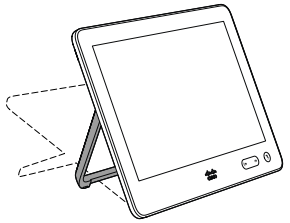
- Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro
- Roomシリーズ
- ボード 55S、70S、85S
- Board Pro および Board Pro G2

Touch 10 および TelePresence Touch 10 は以下によりサポートされています。

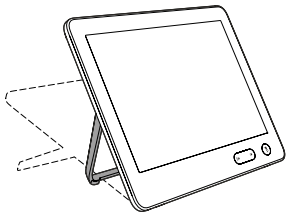
- Codec Plus および Codec Pro
- Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama および Room Panorama
- Board 55S、70S および 85S
- Board 55 および 70



Cisco Room Navigator
(2021 年初頭に発売)



Cisco Touch 10
(2 番目のバージョン、2017 年後半に発売)



Cisco TelePresence Touch 10
(最初のバージョン)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 2 章

設定

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ管理

例えば、デバイスのウェブ インターフェイスまたはコマンド ライン インターフェイスにアクセスするには、ローカル ユーザーとしてデバイスにログインする必要があります。ユーザーに異なるロールを割り当てて、アクセス権限が必要なものを決定することができます。

既定のユーザアカウント

デバイスには、フルアクセス権限を持つデフォルトの管理者ユーザアカウントが付属しています。ユーザ名は *admin* で、デバイスの Web インターフェイスまたは端末 (xAPI) に初めてログインするときにパスフレーズを設定する必要があります。

⚠ *管理者* ユーザーには必ずパスフレーズを設定してください。

パスフレーズの設定方法については ► デバイスのパスフレーズ の章を参照してください。

新規ユーザアカウントの作成

1. デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ユーザー (Users)]* に移動します。
2. *ユーザーの作成*をクリックします。
3. *[ユーザー名 (Username)]*、*[新しいパスフレーズ (New passphrase)]*、*[パスフレーズの確認 (Confirm passphrase)]* 入力フィールドに入力します。

   デフォルトでは、ユーザーは最初のログイン時にパスフレーズを変更する必要があります。

   認証にクライアント証明書を使用する場合にのみ、*[クライアント証明書 DN (Client Certificate DN)]* (識別名) フィールドに入力します。
4. 適切な *[役割 (Roles)]* のチェックボックスをオンにします。

   ユーザーに管理者ロールを割り当てた場合、確認のため、[*パスフレーズ*] 入力フィールドに自分のパスフレーズを入力します。
5. ユーザーをアクティベートするには、 *ステータス* を **アクティブ** に設定します。
6. *ユーザーの作成*をクリックします。

   [戻る (Back)] ボタンを使用して、変更を行わずに終了します。

既存のユーザアカウントを編集する

管理者の役割を持つユーザーに変更を加える場合、確認のため、*[パスフレーズ (Your passphrase)]* 入力フィールドに自分のパスフレーズを常に入力する必要があります。

ユーザ権限を変更する

1. デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ユーザー (Users)]* に移動します。
2. リストから適切なユーザーをクリックします。
3. ユーザーの役割を選択し、ステータスを **[アクティブ (Active)]** または **[非アクティブ (Inactive)]** に設定し、ユーザーにパスフレーズの変更を必須にするかどうかを決定します。

   HTTPS で証明書ログインを使用する場合のみ、[クライアント証明書 DN (識別名)] フィールドに入力します。
4. [*ユーザーの保存*] をクリックします。

   [戻る (Back)] ボタンを使用して、変更を行わずに終了します。

パスフレーズの変更

1. デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ユーザー (Users)]* に移動します。
2. リストから適切なユーザーをクリックします。
3. *[パスフレーズ (Passphrase)]* カードを探して、適切な入力フィールドに新しいパスフレーズを入力します。
4. [*新しいパスフレーズの設定*] をクリックして変更を保存します。

   [戻る (Back)] ボタンを使用して、変更を行わずに終了します。

ユーザアカウントを削除する

1. デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ユーザー (Users)]* に移動します。
2. リストから適切なユーザーをクリックします。
3. *削除*カードを検索し、*[ユーザーの削除 (Delete User)]* をクリックし、プロンプトが表示されたら確認します。

ユーザーの役割

1 つのユーザーアカウントに、1 つまたは複数の*ユーザーロール*を割り当てることができます。デフォルトの *admin* ユーザーのようなフルアクセス権限を持つユーザーアカウントには、管理者、ユーザー、監査のロールが必要です。

これらが*ユーザーロール*です。

管理者: この役割を持つユーザーは、新規ユーザーの作成、ほとんどの設定の変更、発信、連絡先リストの検索ができます。ユーザーは監査証明書をアップロードできず、セキュリティ監査設定を変更できません。

ユーザ: この役割を持つユーザーは、発信と連絡先リストの検索ができます。ユーザーは、着信音の音量の調整、日時の形式の設定など、いくつかの設定を変更することができます。

監査: この役割を持つユーザーは、セキュリティ監査設定の変更と監査証明書のアップロードを行うことができます。

ルーム管理 : このロールを持つユーザーは、カスタマイズされた UI パネル (例えば室内コントロール) を作成することができます。ユーザーは、UI 拡張機能エディターおよび対応する開発ツールにアクセスできます。

インテグレータ : このロールを持つユーザーは、高度な AV シナリオのセットアップ、および当社のデバイスと第三者の機器との統合に必要な設定、コマンド、ステータスへのアクセス権を持ちます。 このようなユーザーは、カスタマイズされた UI パネルを作成することもできます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのパスフレーズ

例えば、デバイスのウェブ インターフェイスまたはコマンド ライン インターフェイスにアクセスするには、ローカル ユーザーとしてデバイスにログインする必要があります。

既定のユーザアカウント

デバイスには、フルアクセス権限を持つデフォルトの管理者ユーザアカウントが付属しています。ユーザ名は *admin* で、デバイスの Web インターフェイスまたは端末 (xAPI) に初めてログインするときにパスフレーズを設定する必要があります。

注意: 別の管理者用に新しいデバイスまたは工場出荷時設定にリセットされたデバイスをセットアップする場合は、デバイスへの継続的なアクセスを確保するために、最初に設定されるパスフレーズをデバイス管理者に安全に伝えることが重要です。

⚠ デバイス設定へのアクセスを制限するために、デフォルトの *管理者*ユーザーのパスフレーズの設定は必須です。

.

他のユーザアカウント

デバイスに多数のユーザ アカウントを作成できます。

ユーザーアカウントの作成と管理の方法の詳細については、►ユーザ管理の章を読んでください。

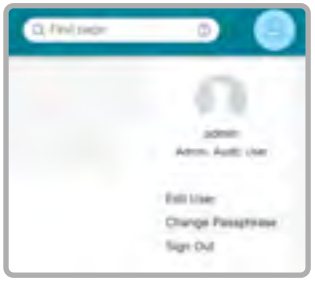
パスフレーズ ポリシー

ローカルユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは *ユーザー管理 (UserManagement) > パスワードポリシー (PasswordPolicy)* 設定に従わなければなりません。これらには、最小文字数、最小の大文字小文字の数、最小の数字桁および特殊文字、パスワードの有効期限が切れるまでの期間、パスワードの再使用が可能な期間などのルールがあります。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

パスフレーズを変更する

1. デバイスのウェブ インターフェイスにログインし、トップ バーのユーザ シンボルをクリックしてメニューを開きます。
2. *[パスフレーズの変更 (Change Passphrase)]* をクリックします。
3. 適切な入力フィールドに新しい現在のパスフレーズを入力し、*[新しいパスフレーズの設定 (Set New Passphrase)]* をクリックします。



他のユーザーのパスワードを変更する

管理者アクセス権限がある場合は、任意のユーザーのパスワードを変更できます。

1. デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ユーザー (Users)]* に移動します。
2. リストから適切なユーザーをクリックします。
3. 新しいパスフレーズを *[新しいパスフレーズ (New passphrase)]* および *[パスフレーズの確認 (Confirm passphrase)]* 入力フィールドに入力します。

   ユーザーが管理者の役割を持っている場合、確認のため、*[パスフレーズ (Your passphrase)]* 入力フィールドに自分のパスフレーズを入力する必要があります。
4. [*新しいパスフレーズの設定*] をクリックして変更を保存します。

   [戻る (Back)] ボタンを使用して、変更を行わずに終了します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[設定] メニューへのアクセスを制限する

デフォルトでは、どのユーザーにもユーザ インターフェイスの [設定] メニューへのアクセス権があります。

権限のないユーザーがデバイスの設定を変更するのを防ぐため、アクセスを制限することを推奨します。

Board、Board Pro、Board Pro G2 の場合

Board でタッチコントローラを使用している場合は、Board 自体とタッチコントローラの両方の [設定] メニューにアクセスできます。このコンテキストでは、ボードとタッチコントローラは独立して動作します。一方にログインして設定をロック解除しても、もう一方には影響しません。

[設定] メニューをロックする

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *ユーザーインターフェース (UserInterface) > 設定メニュー (SettingsMenu) > モード (Mode)* に移動し、**[ロック (Locked)]** を選択します。
3. [*保存*] をクリックして変更を有効にします。

   デバイスに不可欠な設定にアクセスするために、ユーザーはユーザーインターフェイスで管理者資格情報を使用してログインする必要があります。

設定メニューのロックを解除する

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *ユーザーインターフェース (UserInterface) > 設定メニュー (SettingsMenu) > モード (Mode)* に移動し、**[ロック解除 (Unlocked)]** を選択します。
3. [*保存*] をクリックして変更を有効にします。

   すべてのユーザーがユーザ インターフェイスの [設定] メニューにアクセスできるようになりました。

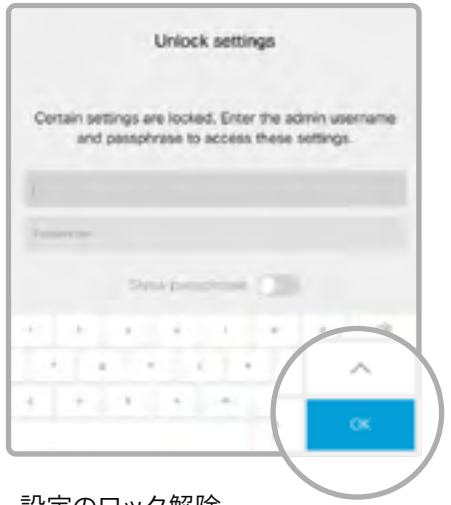
ユーザーインターフェイスの [設定] メニュー

メニューがロックされている場合は、ログインしてデバイスにとって重要な設定にアクセスする必要があります。

- 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *デバイスの設定*を選択します。

ロックダウンされた設定

ロックされた設定にはパドロックのマークが付きます。



設定のロック解除

パドロックをクリックすると、管理者ユーザーとしてログインするように求められます。いったんログインすると、[設定] メニューを閉じるまでの間、すべての設定にアクセスすることができます。

デバイスが Webex クラウドに登録されている場合、Control Hub から設定のロックを解除する必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスの構成

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。

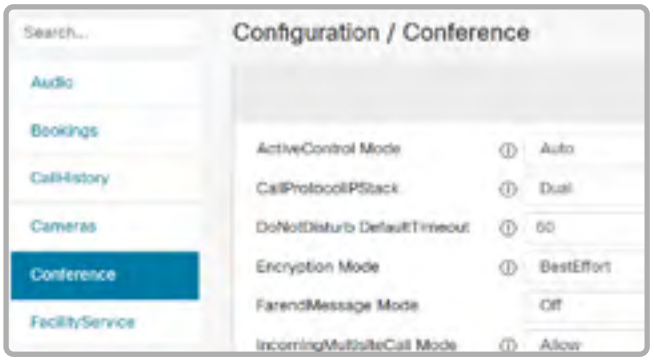
デバイス設定を見つける

設定の検索

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字を含むすべての設定が右ペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれる設定も表示されます。

カテゴリを選択し、設定に進む

デバイス設定はカテゴリ別にグループ化されています。左ペインでカテゴリを選択し、関連する設定が表示されます。



デバイス設定を変更する

値の範囲を確認する

設定の値の範囲は、入力フィールドの後に続くテキストか、矢印をクリックすると開くドロップダウンリストで指定します。

値を変更する

1. ドロップダウンリストから希望の値を選択するか、入力フィールドに新しいテキストを入力します。
2. [*保存*] をクリックして変更を有効にします。

   変更を行わない場合は、*[復元 (Revert)]* ボタン を使用します。

未保存の変更があるカテゴリには編集記号 ( ) が表示されます。

デバイス設定について

すべてのデバイス設定は、デバイス ウェブ インターフェイスから変更できます。

各デバイス設定については、 ▶ デバイス設定 の章で説明しています。

異なる設定には、異なるユーザー資格情報が必要な場合があります。管理者がすべてのデバイス設定を確実に変更できるように、管理者ユーザーはすべてのユーザ ロールを所有している必要があります。

ユーザー管理とユーザーの役割についての詳細は、▶ ユーザ管理 の章を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ログインバナーを追加する

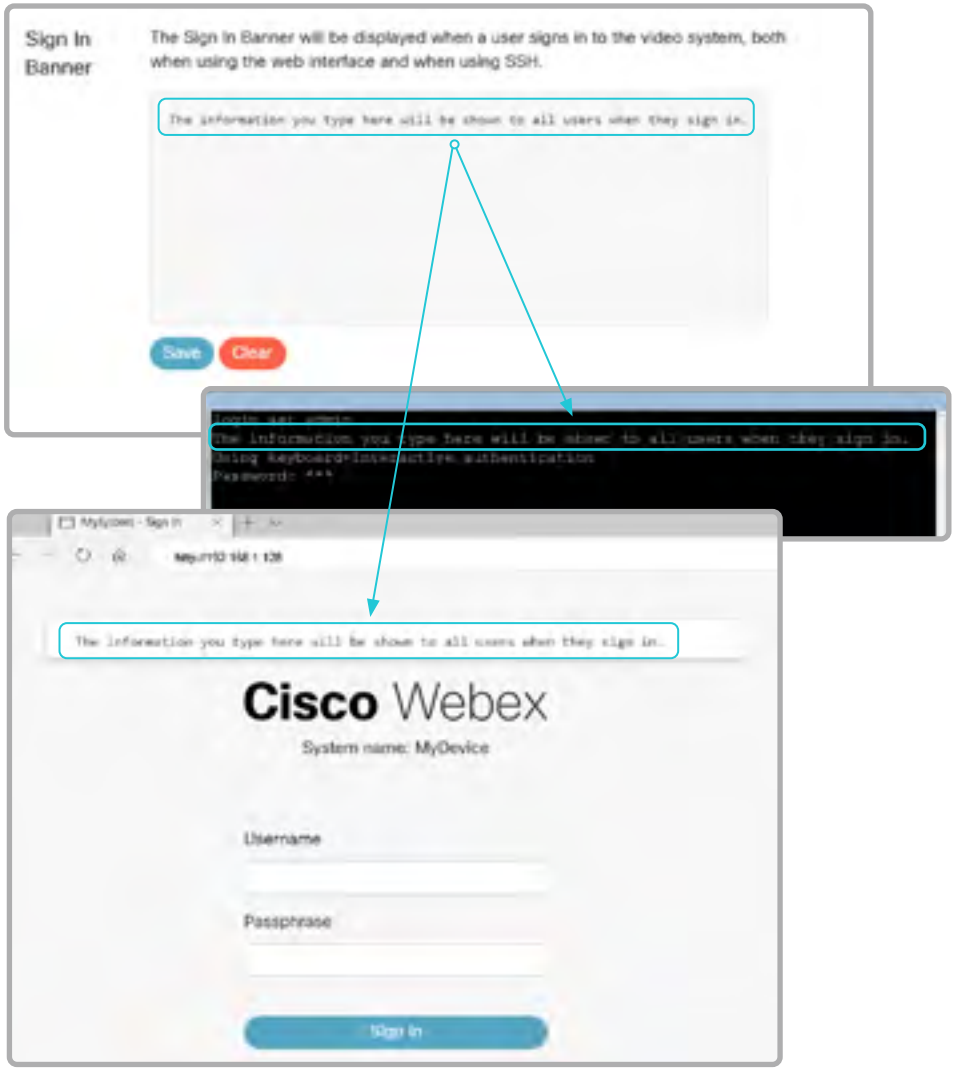
デバイスのウェブインターフェイスにログインして *[セキュリティ (Security)]* に移動して、*[サインインバナー (Sign-in Banner)]* を選択します。

ログインバナーを追加する

1. ユーザーがサインインしたときに表示するメッセージを入力します。
2. *[保存 (Save)]* をクリックしてバナーを有効にします。

サインインバナーを削除する

- *[クリア (Clear)]* をクリックしてサインインバナーを削除します。



ログインバナーについて

デバイス管理者がすべてのユーザーに初期情報を提供する場合、ログイン バナーを作成できます。ユーザーがデバイスのウェブ インターフェイスまたはコマンド ライン インターフェイスにサインインすると、メッセージが表示されます。

最大サイズ: 4KB

ウェルカムバナーとログインバナー

ログインバナー:

- バナーは、ユーザーがデバイス ウェブ インターフェースまたはコマンド ライン インターフェースにサインインする*前*に表示します。

ウェルカムバナー:

- バナーは、ユーザーがデバイス ウェブ インターフェースまたはコマンド ライン インターフェースにログインした*後*に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ウェルカムバナーを追加する

サインインバナーの追加には API コマンドを使用する必要があります。そのための専用のユーザーインターフェイスは提供していません。

API コマンド

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
```

これは複数行のコマンドです。コマンドの発行後に入力した内容すべてがコマンドとして入力されます (改行を含む)。新しい行にピリオドを入力し、改行して入力を終了します。

ウェルカム バナー コマンドが他にもいくつかあります。詳細については API ガイド を参照してください。

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear
```

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get
```

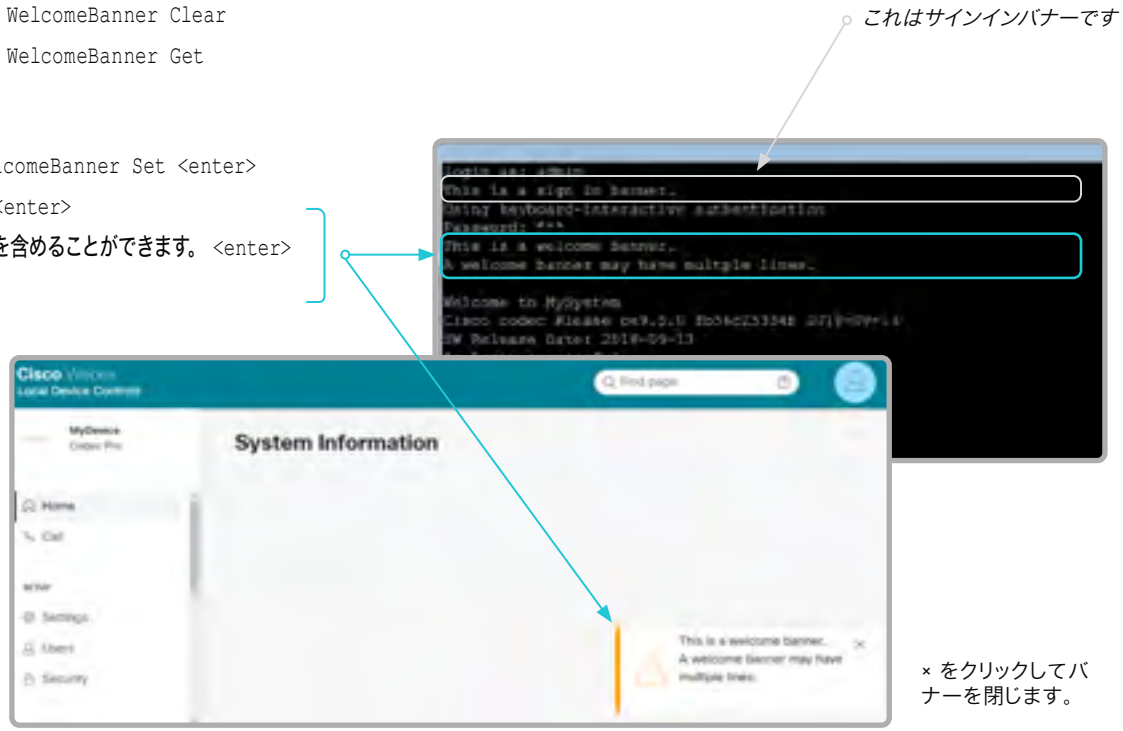
例

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set <enter>
```

これはウェルカムバナーです。 <enter>

ウェルカムバナーには複数の行を含めることができます。 <enter>

. <enter>



× をクリックしてバナーを閉じます。

ウェルカムバナーについて

ユーザーがデバイスのウェブ インターフェイスまたはコマンド ライン インターフェイスにログインした後に表示するウェルカム バナーをセットアップできます。バナーには複数行を含めることができます。

バナーには、開始するために必要な情報や、デバイスをセットアップするときに注意する必要がある情報などを含めることができます。

最大サイズ: 4 KB

ウェルカムバナーとログインバナー

ログインバナー:

- バナーは、ユーザーがデバイス ウェブ インターフェースまたはコマンド ライン インターフェースにサインインする*前*に表示します。

ウェルカムバナー:

- バナーは、ユーザーがデバイス ウェブ インターフェースまたはコマンド ライン インターフェースにログインした*後*に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのサービス証明書を管理する

デバイスのウェブ インターフェイスにログインして [*セキュリティ*] に移動します。[*証明書*] を選択し、サブタブ *サービス* を開きます。

次のファイルが必要です。

- 証明書 (ファイル形式 : .PEM)
- 個別のファイルとして、または証明書と同じファイルに含まれる秘密キー (ファイル形式 : .PEM)
- パスフレーズ (秘密キーが暗号化される場合にのみ必要)

証明書と秘密鍵はデバイス上の同じファイルに保存されます。

証明書の追加

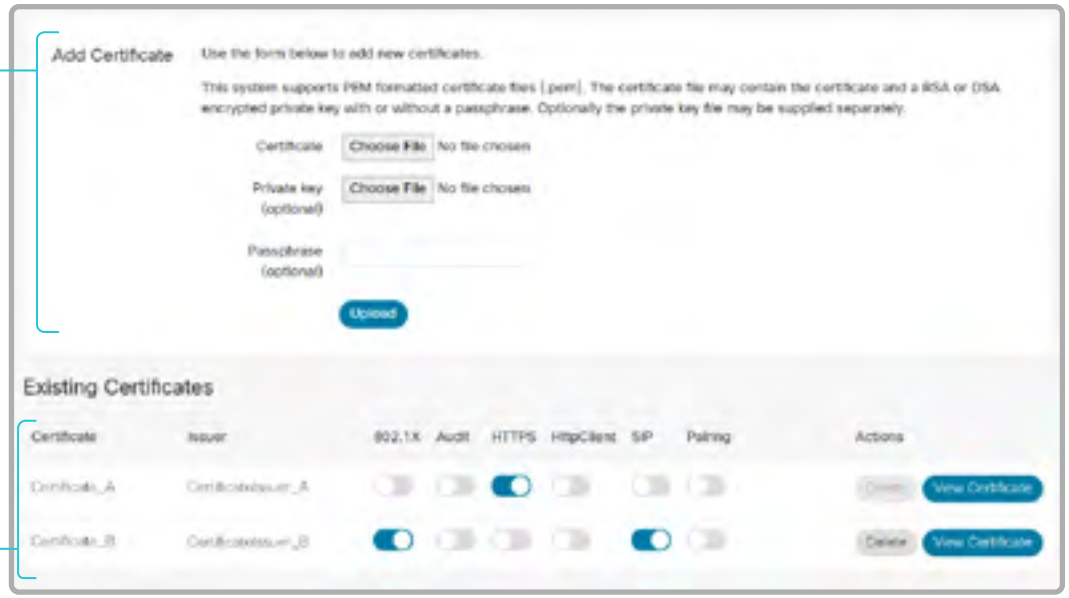
1. コンピュータにある証明書ファイルと 秘密鍵 ファイル (オプション) を探します。
2. 必要に応じて *パスフレーズ* を入力します。
3. *[アップロード (Upload)]* をクリックして、デバイスに証明書を保存します。

   有効期間が 10 年以内の証明書のみ使用できます。

証明書を有効または無効、表示、削除する

トグル ボタンを使用して、異なるサービスの証明書を有効または無効にします。

証明書を表示または削除するには、対応するボタンを使用します。



図中の証明書および証明書発行者は一例です。デバイスには他の証明書があります。

デバイスのサービス証明書について

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

サーバまたはクライアントは、通信をセットアップする前に、デバイスが有効な証明書を提示することを要求する場合があります。

デバイスの証明書は、デバイスの信頼性を確認するテキストファイルです。これらの証明書は、認証局 (CA) によって発行される場合があります。

証明書は次のサービスで使用されます:HTTPS サーバ、HTTP クライアント、SIP、802.1X、監査ログ。

デバイスには多くの証明書を保存できますが、各サービスで一度に有効にできる証明書は 1 つだけです。

認証が失敗した場合、接続は確立されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

信頼できる認証局 - CAのリストを管理する （1/4 ページ）

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信がセットアップされる前に、サーバまたはクライアントが証明書を提示することを要求するようにデバイスを構成できます。デバイスは証明書を使用して、サーバまたはクライアントの信頼性を確認します。認証が失敗した場合、接続は確立されません。

証明書 (テキストファイル) は、信頼できる認証局 (CA) によって署名されている必要があります。デバイスには信頼できる CA からの証明書のリストが存在します。

CA 証明書の一覧表

デバイスのウェブ インターフェイスから、信頼できる CA のリストを確認し、管理することができます。

- デバイスのウェブインターフェイスにログインし、[*セキュリティ*] に移動して、[*証明書*] を選択します。CA リストごとに 1 つのタブがあります。

これらは CA リストです。

- *プレインストール*: 外部サーバーの証明書を検証するために使用されるプレインストールされた CA 証明書、例えば、HTTPS、SMTP *(Samsung Flip を搭載した Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Kit Mini のみ)*、およびデバイスが通信する syslog。
- *コラボレーション エッジ*: デバイスが Expressway (MRA とも呼ばれる) 経由で Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によりプロビジョンされるときに、インターネット経由で接続されるサーバーの証明書を検証するために使用される、プリインストールされた CA 証明書。
- *カスタム*: デバイスに自分でアップロードした CA 証明書。ログ記録およびその他の接続の両方の証明書を確認するために必要なすべての CA がリストに含まれている必要があります (これらの証明書がプレインストールされたリストに含まれていない場合)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

信頼できる認証局 - CA リストの管理 (2/4 ページ)

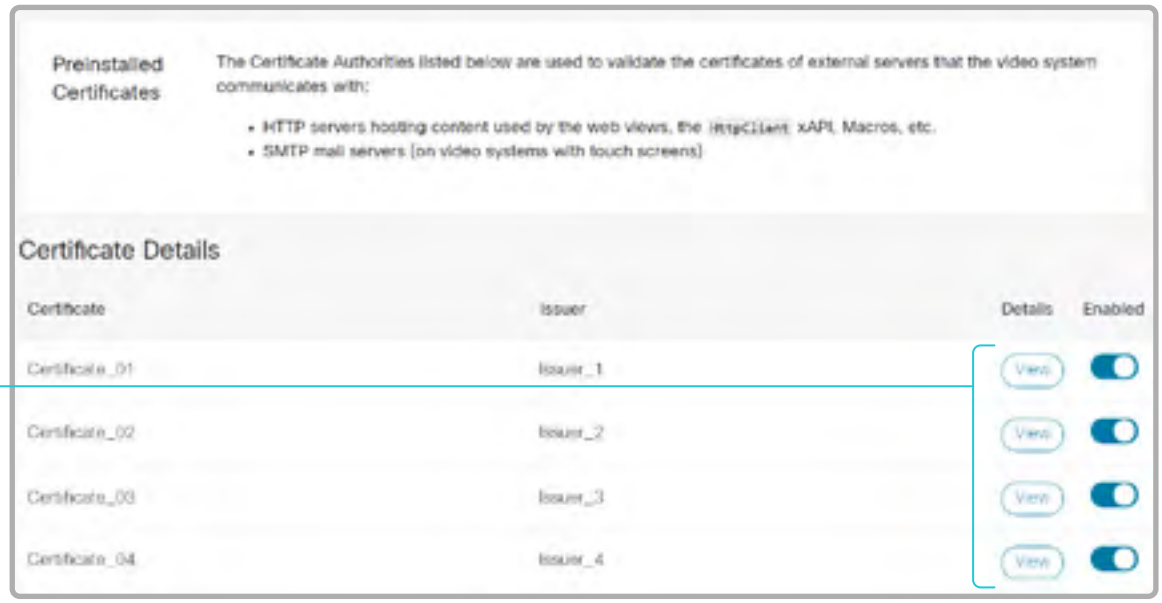
外部サーバーのプリインストールされた CA 証明書の管理

デバイスのウェブ インターフェイスにログインして [*セキュリティ*] に移動します。
[証明書(Certificates)] を選択し、*[プリインストール(Preinstalled)]* サブタブを開きます。

証明書の表示、有効化、または無効化

[*表示*] ボタンを使用して証明書の詳細を確認します。

トグル ボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。



図中の証明書および証明書発行者は一例です。デバイスには他の証明書があります。

プリインストールされた証明書を使用する代わりに、必要な証明書をカスタム証明書リストに手動で追加することができます。

信頼性のある CA 証明書のリストの更新方法については、
▶ CA 証明書をデバイスにアップロードする の章を参照してください。

プリインストールされた CA 証明書

一般的に使用される CA 証明書のリストは、デバイスに事前にインストールされています。デバイスは、通信する外部サーバからの証明書を検証するときに、このリストを使用します。

- HttpClient API またはマクロが使用するコンテンツをホストする HTTP サーバー
- Syslog サーバ (外部ロギング用)
- SMTP メールサーバー *(Samsung Flip を搭載した Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Kit Mini のみ)*

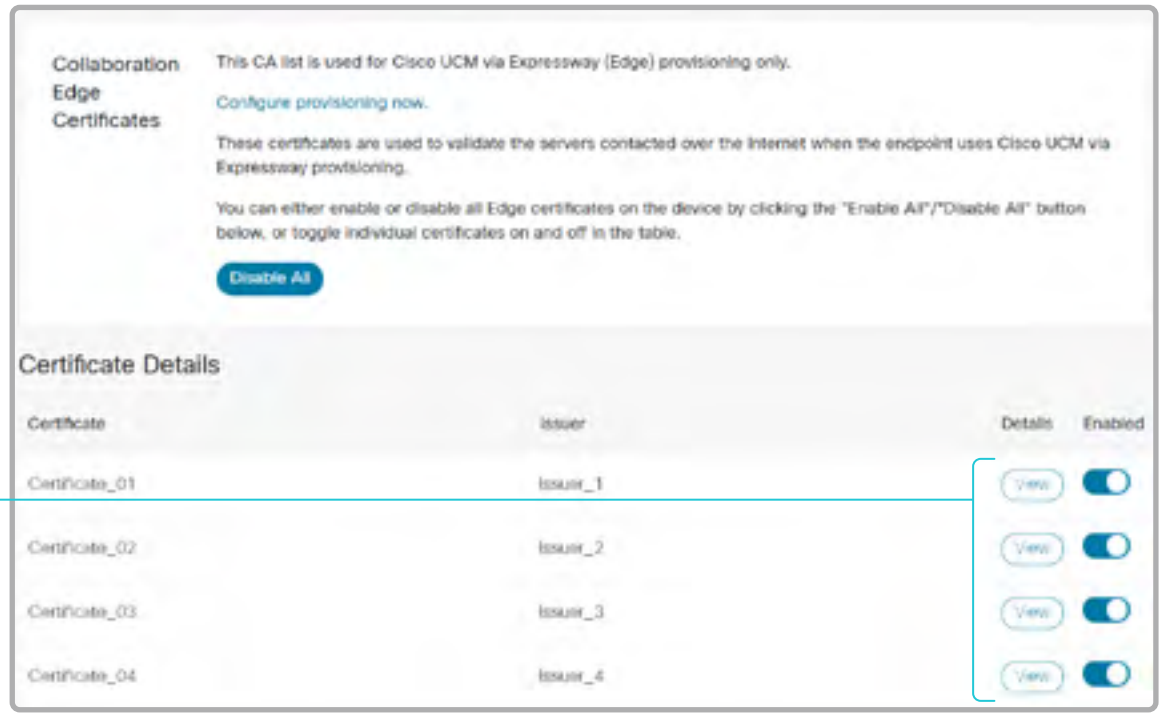
デバイスを出荷時設定に リセットしても、プリインストールされた証明書のリスト は削除されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

信頼できる認証局 - CA リストの管理 (3/4 ページ)

Expressway プロビジョニング経由で CUCM のプリインストールされた CA 証明書を管理する

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[セキュリティ(Security)]* に移動します。
[証明書(Certificates)] を選択し、*[Collaboration Edge]* サブタブを開きます。



図中の証明書および証明書発行者は一例です。デバイスには他の証明書があります。

証明書の表示、有効化、または無効化

[*表示*] ボタンを使用して証明書の詳細を確認します。

トグル ボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。

プリインストールされた証明書を使用する代わりに、必要な証明書をカスタム証明書リストに手動で追加することができます。

信頼性のある CA 証明書のリストの更新方法については、► CA 証明書をデバイスにアップロードする の章を参照してください。

Expressway 経由の CUCM 用にプリインストールされた CA 証明書

このリストのプリインストールされた CA 証明書は、デバイスが Expressway 経由で Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によりプロビジョニングされる場合にのみ使用されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書のみがこのリストに対してチェックされます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書の検証が失敗した場合、デバイスはプロビジョニングおよび登録されません。

デバイスを出荷時設定にリセットしても、プリインストールされた証明書のリストは削除されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

信頼できる認証局 - CA リストの管理 (4/4 ページ)

CA 証明書をデバイスにアップロードする

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[セキュリティ (Security)]* に移動します。 *証明書*を選択し、*カスタム* サブタブを開きます。

次のファイルが必要です:

- CA 証明書リスト (ファイル形式: .PEM)。

図中の証明書および証明書発行者は一例です。デバイスには他の証明書があります。

CA 証明書のリストをアップロードする

1. コンピュータ上にある CA 証明書を含むファイルを探します（ファイル形式 : .PEM）。
2. *[アップロード (Upload)]* をクリックして、デバイスに新しい CA 証明書を保存します。

   ファイルを選択すると、このボタンが表示されます。

⚠ 以前に保存した証明書は自動的には削除されません。

CA 証明書を含む新しいファイル内のエントリが既存のリストに付加されます。

証明書の表示、有効化、または無効化

[*表示*] ボタンを使用して証明書の詳細を確認します。

トグル ボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。

信頼できる CA 証明書のカスタムリストについて

このリストには、自分でデバイスにアップロードした CA 証明書が含まれています。これらは、ロギングおよびその他の接続の両方に対するクライアントおよびサーバ証明書の検証に使用できます。

以下の目的で使用できます。

- HttpClient API またはマクロが使用するコンテンツをホストする HTTP サーバー
- TMS プロビジョニングおよび電話帳サーバ
- SIP サーバ
- Syslog サーバ (外部ロギング用)
- SMTP メールサーバー *(Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini および Desk Pro のみ、Samsung Flip を搭載した Room Kit Mini)*
- Cisco Expressway インフラストラクチャ

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

安全な監査ログをセットアップする

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。

⚠ 監査サーバーの証明書を確認する認証局 (CA) は、デバイスの信頼できる認証局のリストに含まれている必要があります。そうしないと、ログが外部サーバーに送信されません。

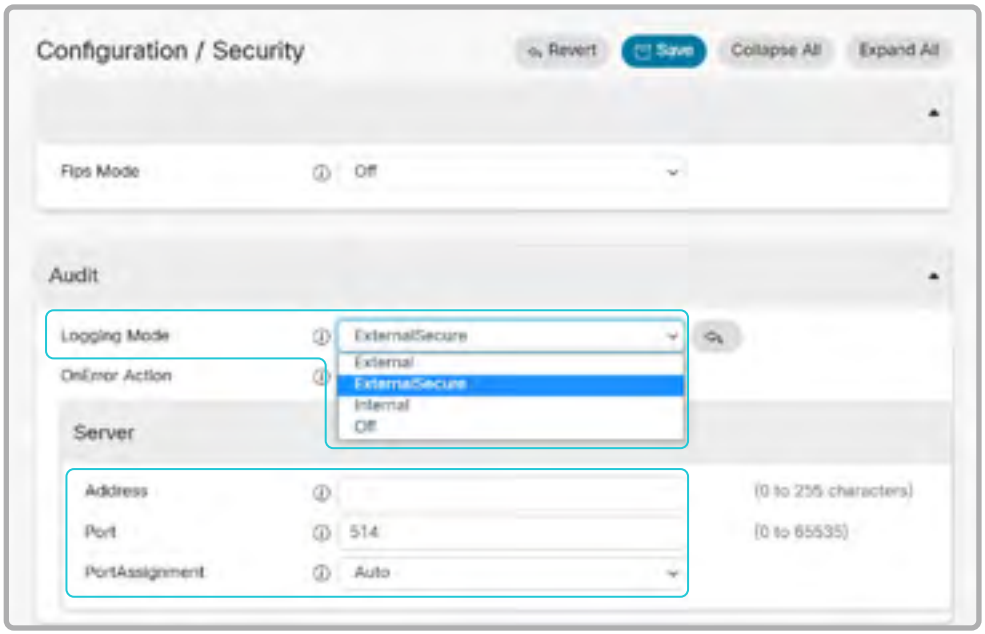
▶ CA 証明書をデバイスにアップロードする の章を参照して、リストの更新方法を確認してください。

1. *[セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [サーバー (Server)]* 設定で*[アドレス (Address)]* を入力します。

   [PortAssignment] を **[手動 (Manual)]** *に設定している場合*、監査サーバーの *[ポート (Port)]* 番号を入力する必要があります。

2. *[セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [ログ記録 (Logging)] > [モード (Mode)]* を **[ExternalSecure]** に設定します。

3. [*保存*] をクリックして変更を有効にします。



安全な監査ログについて

監査ログが有効になっている場合、すべてのログイン アクティビティとデバイスの構成変更が記録されます。

監査ログを有効にするモード設定は、*[セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [ログ記録 (Logging)] >[モード (Mode)]* です。監査ログはデフォルトで無効になっています。

ExternalSecure audit logging モードでは、デバイスは暗号化された監査ログを外部監査サーバー (syslog サーバー) に送信します。そのアイデンティティは署名された証明書によって確認される必要があります。

監査サーバーの署名は、プリインストールされた CA 証明書のリストまたはカスタム CA リストを使用して検証されます。

監査サーバーの認証が失敗した場合、監査ログは外部サーバーに送信されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

CUCM トラストリストを削除する

この章は、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されているデバイスにのみ関連します。

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[セキュリティ (Security)]* に移動します。[*証明書*] を選択し、[*Unified CM*] サブタブを開きます。

CUCM トラストリストを削除する

[CTL/ITL の削除 (Delete CTL/ITL)] をクリックして、信頼リストを削除します。

原則として、古い CTL (証明書信頼リスト) および ITL (初期信頼リスト) ファイルは削除しないでください。

これらの場合には、削除する必要があります。

- CUCM IP アドレスを変更するとき。
- CUCM クラスタ間でエンドポイントを移動するとき。
- CUCM 証明書を再生成または変更する必要がある場合。

トラストリストの指紋と証明書の概要

トラストリストのフィンガープリントとリスト中の証明書の概要はウェブページ上に表示されます。

この情報はトラブルシューティングに役立ちます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

永続モードを変更する

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[セキュリティ (Security)]* に移動して、*[持続性設定 (Persistency Settings)]* を選択します。

永続性ステータスを確認する

アクティブなラジオ ボタンは、デバイスの現在の永続性ステータスを示します。

または、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[ステータス (Statuses)]* を選択し、*[セキュリティ (Security)] > [永続性 (Persistency)]* のステータスを確認します。

永続性の設定を変更します

すべての永続性設定は、デフォルトで **永続的** にセットされています。これらの設定を**非永続的**にする場合は、変更する必要があります。

1. ラジオボタンをクリックして、構成の永続性、通話履歴、内部ログ、ローカル電話帳 (ローカルディレクトリとお気に入り)、および IP 接続 (DHCP) 情報を設定します。
2. [適用 (*Apply*)] をクリックします。

   デバイスは自動的に再起動します。再起動後、動作は新しい持続性設定に従って変更されます。

⚠ 非持続モードに切り替える前に保存されたログ、設定、その他のデータは消去されません。

持続性モード

構成、通話履歴、内部ログ、ローカル電話帳ローカルディレクトリおよびお気に入りリスト、および IP 接続情報はデフォルトで保存されます。すべての永続性の設定が [**永続**] に設定されているため、デバイスを再起動してもこの情報は削除されません。

通常、永続性の設定は変更しないことをお勧めします。前回のセッションで記録された情報を見たり、トレースバックしたりできないようにする必要がある場合にのみ、 **非永続** モードに変更してください。

非永続モードでは、デバイスを再起動するたびに、次の情報が失われるか、クリアされます。

- デバイス構成の変更
- 発信および受信した通話に関する情報 (通話履歴)
- 内部ログファイル
- ローカル連絡先またはお気に入りリストへの変更
- 前回のセッションからのすべての IP 関連情報 (DHCP)

ⓘ 非永続モードに変更する前に保存された情報は、自動的に消去または削除されることはありません。このような情報を削除するには、デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

工場出荷時設定へのリセットの実行についての詳細は、► ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする の章を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SMTP メールサーバーのセットアップ

SMTP サーバ接続をセットアップすることで、ビデオ会議デバイスのユーザーは、組織内外のユーザーとメール経由でホワイトボードや注釈を共有できます。

サーバーを手動でセットアップすることも可能ですが、セットアップウィザードの使用を強く推奨します。その後、セットアップ中に接続をテストでき、必要に応じてサーバ証明書をアップロードする方法のガイダンスを取得できます。

Room Kit および Room Kit Mini の制限

この機能は通常 Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip で使用されている場合にのみ利用できます (Webex on Flip)。Room Kit では利用できません。

メール共有を有効にする

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *[NetworkServices] > [SMTP] > [モード (Mode)]* に移動します。メールでの共有は、モードが **オン**の場合にのみ可能です。

ウィザードを使用してサーバーをセットアップする推奨

1. デバイスのウェブ インターフェイスにログインし、[*設定*] に移動して、[*ホワイトボードをメールに送信*] を選択します。
2. *[ウィザードを開始 (Start Wizard)]* をクリックして、サーバーアドレス、暗号化方法、ポート番号を入力します。
3. *[接続のテスト...]*をクリックします。

   問題ない場合は、*[OK]* をクリックしてウィザードを続行します。

   証明書が見つからない場合、[*再設定*] をクリックし、ウィザードの指示に従って、必要な証明書をデバイスにアップロードしてください。
4. ホワイトボードや注釈を送信するメールアドレスを入力します。
5. SMTP サーバーが認証を要求し、暗号化方法が TLS または STARTTLS である場合、ユーザ名とパスワードのフィールドに入力します。
6. [*確認して保存*] を選択してサーバ設定ウィザードを終了します。

   [NetworkServices] > [SMTP] > [モード (Mode)] が**オン**の場合、デバイスはホワイトボードと注釈をメールで送信する準備ができています。

ウィザードを開始する代わりに *[手動設定 (Manual Configuration)]* を選択する場合は、上記と同じフィールドへの入力が完了したら、*[確認して保存 (Verify and Save)]* を選択します。

構成ページからサーバーをセットアップする

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *[NetworkServices] > [SMTP]* に進み、*[サーバー (Server)]*、*[セキュリティ (Security)]* (暗号化方法) 、*[ポート (Port)]*、*[送信元 (From)]*、*[ユーザー名 (Username)]*、*[パスワード (Password)]* 設定を行います。
3. 必要に応じて、 ▶ CA 証明書をデバイスにアップロードする の章で説明されているように、CA 証明書をアップロードします。

暗号化の方法と証明書

メールサーバーが対応している暗号化方法を選択してください。

TLS および STARTTLS 暗号化方法はサーバ証明書を必要とします。SMTP サーバーの証明書を検証できない場合、デバイスは接続を許可しません。証明書の確認を無視することはできません。

サーバー証明書は、ほとんどの場合、デバイスに*プレインストールされている* CA リストを使用して検証することができます。そうでない場合は、必要な証明書を自分でデバイスにアップロードする必要があります。自分でアップロードした証明書は、 *カスタム* 証明書のリストに追加されます。

CA 一覧の詳細については、▶ 信頼できる認証局 - CAのリストを管理する の章を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

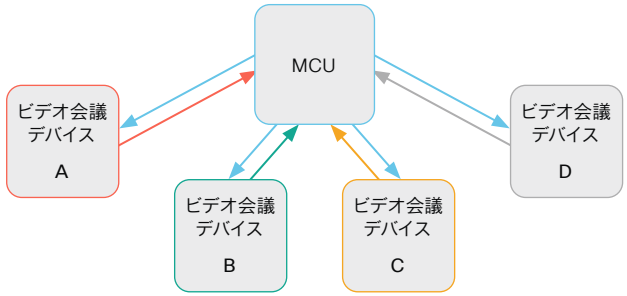
臨時の複数拠点会議をセットアップする

メモ: この章は通常の SIP 通話にのみ適用されます。Webex ミーティングには適用されません。お使いのデバイスがデバイス用 Webex Edge にリンクされていて、Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっている場合でも、これは適用されません。

ポイントツーポイントのビデオコール (2 名の通話者だけが関与するコール) を、より多くの参加者がいるマルチポイント会議に拡張するには、いくつかの方法があります。

一元化された会議インフラストラクチャ

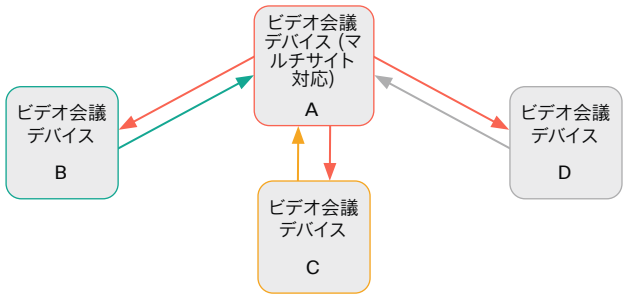
ほとんどのソリューションは、MCU (マルチポイント コントロール ユニット)[1] などの一元化された会議インフラストラクチャに基づいています。



このセットアップでは、ビデオ会議デバイス A、B、C、D が 4 者間の会議に参加します。MCU はすべてのデバイスからメディア ストリームを受信し、ストリームを処理し、他の参加者にすべてのメディアを送信します。

ローカル会議リソース - MultiSite

MultiSite シナリオでは、ビデオデバイスの 1 つに MCU 機能があります。



このセットアップでは、ビデオ会議デバイス A、B、C、D が 4 者間の会議に参加します。デバイス A は MultiSite 機能を使用し、MCU として機能します。すべてのデバイスからメディア ストリームを受信し、ストリームを処理して、すべてのメディアを他の参加者に送信します。

MultiSite は標準的な製品には含まれていません。アップグレードオプションを購入する必要があり、*MultiSite オプションキー* をデバイスにインストールします。

MultiSite がサポートする最大参加者数は製品により異なります。

- ご自身を含む 4 人の参加者 *(Board、Codec Plus、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70)*
- 自分を含めて 5 人の参加者 (*他の製品)*

マルチポイント設定

[会議 (Conference)] > [マルチポイント (Multipoint)] > [モード (Mode)] 設定を使用して、マルチポイント会議の取り扱い方法を決定します。この設定は次の値を取ります。

- 自動
- CUCMMediaResourceGroupList
- マルチサイト
- オフ

次のページの表では、さまざまな会議オプションについて説明します。

[1] MCU - マルチポイントコントロールユニット。ビデオ会議ゲートウェイまたはブリッジとも呼ばれます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

臨時の複数拠点会議をセットアップする (2/2 ページ)

会議マルチポイントモードの設定	MultiSite オプションキー	リモートデバイスタイプ [2]	参加者動作を追加する	
Off	該当なし	MCU	直接リモート追加	・MCU が *[参加者の追加 (Add Participant)]* に対応している場合、UI に *[追加 (Add)]* ボタンが表示され、次の参加者に発信することができます。新しい参加者はコールを受け入れるとすぐに電話会議に追加されます。 ・MCU が *参加者の追加*に対応していない場合、UI に *追加* ボタンが表示されません。
		ビデオ会議デバイス	音声を 1 つ追加 [3]	・音声のみの参加者を 1 名追加できます。 ・ビデオ参加者をこれ以上追加することはできません。
CUCM-MediaResource-GroupList	該当なし	ビデオ会議デバイス	コンサルタティブ追加	・CUCM 登録済みのデバイス、および *SIP >タイプ* 設定は **Cisco** でなければなりません。 ・新しい参加者に発信している間、電話会議は待機状態になります。新しい参加者が通話を受け入れると、新しい通話を電話会議にマージできます。 ・参加者を追加できるのは、電話会議に最初の新規参加者を加えた参加者だけです。
MultiSite [4]	可	該当なし	Local MultiSite [5]	・UI に *[追加 (Add)]* ボタンがあり、次の参加者に直接発信できます。 ・デバイスの最大数に達するまで、参加者を追加し続けることができます。
	不可	該当なし	音声を 1 つ追加 [3]	・音声のみの参加者を 1 名追加できます。 ・ビデオ参加者をこれ以上追加することはできません。
自動	可	MCU	直接リモート追加	・MCU が *[参加者の追加 (Add Participant)]* に対応している場合、UI に *[追加 (Add)]* ボタンが表示され、次の参加者に発信することができます。新しい参加者はコールを受け入れるとすぐに電話会議に追加されます。 ・MCU が *参加者の追加*に対応していない場合、UI に *追加* ボタンが表示されません。
		ビデオ会議デバイス	カスケード接続なしのローカル MultiSite [5]	・UI に *[追加 (Add)]* ボタンがあり、次の参加者に直接発信できます。 ・デバイスの最大数に達するまで、参加者を追加し続けることができます。 ・MultiSite 主催者 (現在 MCU として機能している) だけが参加者を追加できます。これにより、カスケード型の会議が防止されます。
	不可	MCU	直接リモート追加	・MCU が *[参加者の追加 (Add Participant)]* に対応している場合、UI に *[追加 (Add)]* ボタンが表示され、次の参加者に発信することができます。新しい参加者はコールを受け入れるとすぐに電話会議に追加されます。 ・MCU が *参加者の追加*に対応していない場合、UI に *追加* ボタンが表示されません。
		ビデオ会議デバイス	音声を 1 つ追加 [3]	・音声のみの参加者を 1 名追加できます。 ・ビデオ参加者をこれ以上追加することはできません。

[2] リモートデバイスタイプは、*[コール [n] (Call [n])] > [DeviceType]* のステータスで確認できます。
[3] 次の製品でサポート: Board、Codec Plus、Codec Pro、Desk Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2。
[4] MultiSite は、マルチストリームを使用している電話会議では自動的に無効になります。つまり、UI の [追加 (Add)] ボタンを使用して電話会議に新しい参加者を追加することはできません (ビデオ参加者も音声のみの参加者も追加できません)。
[5] *[電話会議 (Conference)] >[Multipoint] > [モード (Mode)]* を **[MultiSite]** ではなく、**[自動 (Auto)]** に設定することを、電話会議のカスケードを避けるためにおすすめします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

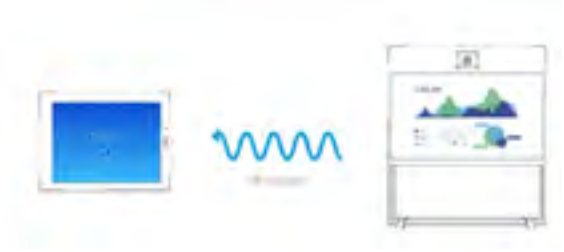
Cisco Proximity をセットアップして使用する (1/5)

Cisco Proximity を使用すると、ユーザーはビデオ会議デバイスの近くにいるときに、ラップトップからコンテンツをワイヤレスで共有したり、通話を発信したり、ビデオ会議デバイスを操作したりできます。

Cisco Proximity が有効になっている場合、ビデオ会議デバイスは超音波ペアリングメッセージを送信します。これらのメッセージは、Cisco Proximity クライアントとともに周辺のデバイスで受信され、ビデオ会議デバイスと自動的にペアリングされます。

Cisco はワイヤレス共有、デバイス コントロール、および簡単なミーティング参加のために Webex アプリを展開することを推奨しています。しかし、それが不可能な場合、Cisco Proximity はインフラストラクチャに依存しない、軽量でデバイス中心の代替サービスを提供します。

このガイドは、オンプレミスで登録されたビデオ会議デバイス向けの Cisco Proximity について記述されています。オンプレミスデバイスがデバイス版 Webex Edge にリンクされている場合、Cisco Proximity に関する情報については▶ Webex ヘルプセンター (https://help.webex.com/n1v31g9/) を参照してください。



Proximity 接続数

Proximity の同時接続の最大数:

- 30

最大接続数に達した場合、クライアントは新規ユーザーに警告します。

プロキシミティ サービス

通話を発信し、ビデオ会議デバイスを操作する:

- ダイヤル、ミュート、音量調節、電話を切る
- ラップトップ (OS X および Windows) で利用可能

ラップトップからのワイヤレス共有:

- プレゼンテーション ケーブルに接続せずにコンテンツを共有する
- ラップトップ (OS X および Windows) で利用可能

通話を発信し、ビデオ会議デバイスを操作する

モバイル デバイスからのワイヤレス共有

Cisco Proximity クライアントをインストールする

クライアントの入手先

ラップトップ用 Cisco Proximity クライアント (Windows および OS X) は、 ▶ https://proximity.cisco.com から無料でダウンロードできます。

エンドユーザ ライセンス契約

エンドユーザーライセンス契約をよくお読みください。
▶ https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html

サポートされているオペレーティング システム

- Mac OS X 10.9 以降
- Windows 7 以降

  Windows 8 で導入されたタイル ベースのインターフェイスはサポートされていません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Proximity をセットアップして使用する (2/5)

超音波の放出

Cisco ビデオ会議デバイスは、Proximity 機能の一部として超音波ペアリングメッセージを発信します。

業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

空中超音波が一部の個人に自覚的影響を与える可能性がある場合でも、75 db 以下のレベルであれば影響はほとんどないと考えられます。

Room 70、Room 70 G2、Room Panorama、Room 70 Panorama、Room 55、Room 55 Dual、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room Kit EQX、Room Kit EQ、Room Kit Plus*、Room Kit Pro* :*

- スピーカーから 50 cm 以上離れた場所では、超音波音圧レベルが 75 dB 以下です。

Desk、Desk Mini、および Desk Pro:

- スピーカーから 20 cm 以上離れた場所では、超音波音圧レベルが 75 dB 以下です。

Board、Board Pro、および Board Pro G2:

- 画面から 20 cm 以上離れた場所では、超音波音圧レベルが 75 dB 以下です。

  Board 55 および 70 (*S シリーズ*ではなく) では、スピーカーが下向きのため、レベルがスクリーンの真下でわずかに高くなる可能性があります。

Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro :

- これらのビデオ会議デバイスでは他社製のスピーカーから超音波を発生させるため、超音波音圧レベルを予測することはできません。

  スピーカーの音量コントロール、および *[音声 (Audio)] > [超音波 (Ultrasound)] > [MaxVolume]* の設定は超音波音圧レベルに影響します。リモートコントロールまたはタッチコントローラの音量コントロールは影響を及ぼしません。

超音波をオフにする方法

デバイスは、これらの機能のために超音波に依存しています。

- プロキシミティ ペアリング
- 動体検知

機能に対して超音波をオフにすると、その機能は使用できなくなります。

近接通信ペアリングの超音波発信をオフにするには、以下を設定する必要があります。

- *近接通信 > モード*: オフ
- *音声 > 超音波 > 最大音量*: 0

動体検知の超音波発信をオフにするには、以下を設定する必要があります。

- *[RoomAnalytics] > [PeoplePresenceDetector]*: オフ
- *[スタンバイ (Standby)] > [WakeupOnMotionDetection] > [モード (Mode)]*: オフ

超音波放出を完全にオフにするには、上記の設定をすべてオフにする必要があります。

* これは、クアッドカメラの内蔵スピーカーのみを 使用 する場合に適用されます。外部のサードパーティスピーカーを使用している場合は、Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro の情報を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Proximity をセットアップして使用する (3/5)

ヘッドセット

ヘッドセットまたはヘッドフォンは、製品に応じて複数の出力タイプに接続できます。

メモ: 超音波を発する出力にヘッドセットを接続しないでください。

専用ヘッドセット出力 (*アナログ*)、ミニジャック

Desk Pro:

- デバイスは専用ヘッドセット出力で超音波を発しません。そのため、ヘッドセットをいつでも接続できます。

音声回線出力 (アナログ) 、ミニジャックまたはユーロブロック

Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro :

- デバイスは音声回線出力で超音波を発するため、接続されているヘッドセットから音圧レベルをコントロールすることはできません。
- ヘッドセットをアナログ回線出力に接続する場合は、超音波発信をオフにすることを強くお勧めします* 。

Board、Board Pro、Board Pro G2、Room Bar Pro、Room Kit、Room Kit EQX、Room 55、Room 55 Dual、Room 70 、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama :

- デバイスは音声ライン出力で超音波を発しません。

USB 出力

Board Pro、Board Pro G2、Desk シリーズ、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55:

- デバイスは USB 出力から超音波を発信しません。そのため、ヘッドセットをいつでも接続できます。

Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro :

- デフォルトでは、デバイスは USB 出力から超音波を発信します。これらの出力は主に USB 音声インターフェイス用です。
- 直接または USB 音声インターフェイス経由でヘッドセットを接続する場合は、超音波発信*をオフにするか、これらの出力から超音波を発信しないでください。

Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama :

- デバイスは USB 出力から超音波を発信しません。

Board :

- USB 出力に音声がありません。

* 副次的な結果として、近接通信およびモーション検知機能が *使用できなくなります*。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Proximity をセットアップして使用する (4/5)

近接通信サービスを有効にする

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *[プロキシミティ (Proximity)] > [モード (Mode)]* に移動して、プロキシミティを**オン**にします。

   プロキシミティがオンになっている場合、ビデオ会議デバイスは超音波ペアリングメッセージを送信します。

   超音波ペアリングメッセージは、プロキシミティクライアントを持つ近くのデバイスによって受信され、デバイスの認証と承認をトリガーします。

   Proximity がデフォルトでオンまたはオフのどちらであるかは製品によって異なります。
3. 許可したいサービスを有効にしてください。*デスクトップクライアントからのワイヤレス共有* はデフォルトで有効になっています。

   Proximity の機能を十分に活用するには、両方のサービスを有効にすることをお勧めします。

   通話を発信し、ビデオ会議デバイスを操作する:

   - *[プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > [CallControl]* に移動して **有効**を選択します。

   デスクトップクライアントからのワイヤレス共有:

   - *[プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > [コンテンツ共有 (ContentShare)] > [クライアントから (FromClients)]* に移動して、**有効**を選択します。

デフォルトの動作

Room Bar Pro、Room Kit EQX、Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro:

- プロキシミティ機能はデフォルトで**オフ**になっています。サードパーティのスピーカーを使用する場合、プロキシミティが期待通りに機能するために追加のテストが必要になるためです。まれに、超音波により音声にノイズが発生する場合があります。その場合は、*[音声 (Audio)] > [超音波 (Ultrasound)] > [MaxVolume]* の設定で超音波の最大音量を下げてみてください。

Desk、Desk Mini、および Desk Pro:

- プロキシミティ機能はデフォルトで**オフ**になっています。これは、Desk 製品はオープンなオフィスで、複数のデバイスが近くに配置されることが多いためです。このような環境では、ペアリングが不安定になる場合があります。通常、プロキシミティは各会議室で 1 台のデバイスだけを**オン**にするべきです。

その他の製品:

- 近接通信機能はデフォルトで **オン** になっています。

推奨事項

通常、Cisco では、最高のユーザーエクスペリエンスのために、プロキシミティを常に**オン**にすることを推奨しています。

しかし、デフォルトで Proximity が **オフ** になっている製品では、Proximity が実際の環境やセットアップに適しているかどうかを、スイッチを入れる前に確認することが重要です。

プロキシミティへのフルアクセスを取得するには、プロキシミティサービス (*[プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > ...*) を **Enabled** にする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Proximity をセットアップして使用する (5/5)

会議室の考慮事項

会議室の音響特性

- 表面が固い会議室では、音声の反射が大きくなり、問題が生じる場合があります。最高のミーティング体験とプロキシミティの性能を得るために、会議室の音響処理をすることを強く推奨します。
- Cisco は、Proximity が有効なビデオ会議デバイスを会議室に 1 台だけ推奨しています。そうしないと、干渉が発生しやすくなり、デバイス検出とセッション メンテナンスで問題が発生する可能性があります。

プライバシーについて

Cisco プライバシーステートメントと Cisco プロキシミティサプルメントでは、クライアントのデータ収集と、この機能を組織でする際に考慮すべきプライバシーに関する懸念についての情報が記載されています。参照先:
▶ https://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy.html

基本的なトラブルシューティング

Webex クライアントを持つデバイスを検出できない

- ビデオ会議デバイスがスタンバイ モードになっているかどうかを確認してください。スピーカー (例えばスタンバイモードの TV) がオフの場合、超音波は送信されません。*(Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro のみ)*
- スピーカーの音量を確認してください。スピーカー自体の音量コントロール (リモート コントロールまたはタッチコントローラでコントロールされた音量ではない) は、超音波の音量に影響します。音量が小さすぎる場合、リスニングデバイスは超音波ペアリングメッセージを検出できません。*(Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro のみ)*
- 一部の Windows ラップトップでは、超音波周波数範囲 (20kHz-22kHz) の音声を録音できません。これは、特定のデバイスのサウンドカード、サウンドドライバ、または内部マイクの周波数制限が原因である可能性があります。詳細についてはサポートフォーラムを参照してください。
- ユーザーインターフェイス (コントロールパネル) の *[デバイス設定 (Device settings)] > [問題と診断 (Issues and diagnostics)]*、またはデバイスウェブインターフェイスの *[問題と診断 (Issues and Diagnostics)]* を確認してください。超音波関連の問題 (「超音波信号を確認できません」) がリストされていない場合、超音波ペアリングメッセージはビデオ会議デバイスから発信されます。クライアント検出に関するサポートについては、Proximity *サポートフォーラム* を参照してください。

音声の異常

- ハミングやクリッピングノイズが聞こえる場合は、超音波の最大音量を下げてください (*[音声 (Audio)] > [超音波 (Ultrasound)] > [MaxVolume]*) 。

ラップトップからコンテンツを共有できない

- コンテンツ共有が機能するには、ビデオ会議デバイスとラップトップが同じネットワーク上にある必要があります。このため、ビデオ会議デバイスが Expressway 経由で会社のネットワークに接続されており、ラップトップが VPN (VPN クライアント依存) 経由で接続されている場合、近接通信共有は失敗する可能性があります。

その他のリソース

Cisco Proximity サイト:
▶ https://proximity.cisco.com

サポートフォーラム :
▶ https://www.cisco.com/go/proximity-support

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ品質の通話帯域を調整する (1/2 ページ)

ビデオ入力品質の設定

ビデオをエンコードして送信する場合、高解像度と高フレームレートの間のトレードオフがあります。

[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [品質 (Quality)] を設定して、高フレームレート (**モーション**) または高解像度 (**シャープネス**) を優先するかどうかを決定します。

次のページの表は、メインのビデオチャンネル用で、そのため*品質*は**モーション**に設定されています。

最適解像度プロファイル

最適な解像度のプロファイルは、ビデオ会議室の照明条件とカメラ (ビデオ入力ソース) の品質を反映する必要があります。照明条件が良く、カメラの品質が高いほど、より高い最適解像度プロファイルを使用する必要があります。

一般的には、中程度のプロファイルが推奨されます。しかし、照明条件が非常に良好な場合、プロファイルを決定する前に、さまざまな最適定義プロファイル設定でエンドポイントをテストすることをお勧めします。ハイプロファイルは、特定のコールレートでの解像度を上げるために設定されている場合があります。

異なる最適定義プロファイルに使用されるいくつかの典型的な解像度、コールレート、送信フレームレートは、次のページの表に表示されています。解像度とフレームレートは、発信側と着信側の両方のデバイスでサポートされている必要があります。

60 fps で送信するビデオのしきい値

[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] >[OptimalDefinition] > [Threshold60fps] 設定を使用して、60 fps でビデオを送信するタイミングを決定します。

このしきい値より低いすべての解像度では、送信される最大フレームレートは 30 fps になります。より高い解像度で利用可能な帯域幅が十分であれば、60 fps も可能です。

60 fps のビデオを許可する

(適用対象: Room Kit、Room Kit Mini、および Room 55)

デフォルトでは、カメラは 30 フレーム/秒 (fps) で出力します。これにより、通常の帯域幅と照明条件で、クローズアップと概要の両方の画像で良好な品質を得ることができます。条件が良い場合、カメラからの 60 fps の出力が全体的な品質を向上させる可能性があります。

[カメラ (Cameras)] > [カメラ (Camera)] > [フレームレート (Framerate)] *設定でカメラの出力フレームレートを設定します。*

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。

1. *コネクタ 1 (統合カメラ) の Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room Kit Mini、および Room 55 を除くすべての製品とコネクタに適用されます。*

   [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [品質 (Quality)] に移動し、高フレームレートを優先するか高解像度を優先するかを選択します。

2. *[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [OptimalDefinition] > [プロファイル (Profile)]* に移動して、希望する最適鮮明度のプロファイルを選択します。

3. *[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [OptimalDefinition] > [Threshold60fps]* に移動して、最大送信フレームレートが 30 fps になるようにしきい値を設定します。

4. *Room Kit、Room Kit Mini、Room 55 に適用されます。*

   [カメラ (Cameras)] > [カメラ (Camera)] > [フレームレート (Framerate)] に移動し、60 fps のビデオを許可するかどうかを選択します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ品質とコールレートの比率を調整する (2/2 ページ)

H.264 をサポートする製品:

- すべての製品 *

H.264: 異なる最適解像度プロファイルとコール レートで取得した解像度とフレーム レート [w×h@fps]						
通話レート [kbps]	最大 30 fps、最大 128 kbps 音声ビットレート			最大 60 fps、最大 128 kbps 音声ビットレート		
	標準	*中*	*高*	*標準*	*中*	*高*
128	320×180@30	320×180@30	512×288@30	320×180@30	512×288@20	512×288@30
256	512×288@30	640×360@30	768×448@30	512×288@30	640×360@30	512×288@60
384	640×360@30	768×448@30	768×448@30	640×360@30	512×288@60	640×360@30
512	768x448@30	1024x576@30	1024x576@30	512×288@60	640×360@60	768×448@60
768	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30	640×360@60	768×448@60	1024x576@60
1152	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	768x448@60	1024x576@60	1280×720@60
1472	1280×720@30	1280×720@30	1920×1080@30	1024×576@60	1024x576@60	1280×720@60
1920	1280x720@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1024×576@60	1280x720@60	1280x720@60
2560	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1280x720@60	1920x1080@60
3072	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1280x720@60	1920x1080@60
4000	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1920x1080@60	1920x1080@60
6000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60

H.265 をサポートする製品:

- Board Pro
- Board Pro G2
- Codec EQ
- Codec Pro
- Codec Plus
- Room Bar Pro
- Room Kit
- Room Kit EQX
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama *
- Room Panorama *

H.265: 異なる最適解像度プロファイルとコール レートで取得した解像度とフレーム レート [w×h@fps]						
通話レート [kbps]	最大 30 fps、最大 128 kbps 音声ビットレート			最大 60 fps、最大 128 kbps 音声ビットレート		
	標準	*中*	*高*	*標準*	*中*	*高*
128	512×288@30	512×288@30	640×360@30	512×288@30	512×288@30	512×288@60
256	640×360@30	768×448@30	768×448@30	640×360@30	512×288@60	640×360@60
384	768×448@30	1024×576@30	1280×720@30	640×360@60	768×448@60	768×448@60
512	1024x576@30	1280x720@30	1280x720@30	640×360@60	768×448@60	1024×576@60
768	1280×720@30	1280×720@30	1920×1080@30	768×448@60	1024×576@60	1280×720@60
1152	1280×720@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1024x576@60	1280×720@60	1280×720@60
1472	1280×720@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1280×720@60
1920	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1280x720@60	1920x1080@60
2560	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1920x1080@60	1920x1080@60
3072	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@60	1920x1080@60	1920x1080@60
4000	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@60	1920x1080@60	1920x1080@60
6000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60

* Room Panorama および Room 70 Panorama の場合、データは非パノラマモードで適用されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

背景画像として壁紙バンドルを選択する

デバイスにプリインストールされた一連の壁紙バンドルから選択できます。壁紙のバンドルは、システムが覚醒状態の時に表示されます。独自のカスタムバンドルをアップロードすることはできません。

壁紙のバンドルには、いくつかのセットアップタイプの壁紙が含まれる場合があります。一部のバンドルは、複数の画面にまたがる画像を提供することで、マルチスクリーン設定用に準備されています。一部のバンドルにはタッチコントローラ用の壁紙が含まれています。

セットアップタイプの例:

- *single*: 単一画面の背景画像
- *dual*: 2 つの画面にまたがる背景画像 (横に並べて表示)
- *dualAbove*: 2 つの画面にまたがる背景画像 (画面を上下に)
- *triple*: 3 つのスクリーンにまたがる背景画像 (並べて表示)
- *tripleAbove/tripleBelow*: 3 つのスクリーンにまたがる背景画像、Room Panorama と Room 70 Panorama 用に設計されています。3 つ目のスクリーンは 2 つのメインスクリーンの上または下に配置されます。
- *コントローラ*: タッチコントローラの背景画像

壁紙バンドルを適用する場合、または別のバンドルに変更する場合は、*UserInterface WallpaperBundle* API コマンドを使用する必要があります。タッチコントローラまたはデバイスのウェブインターフェイスからはこれを実行できません。

壁紙バンドルを使用するには、*[UserInterface] > [壁紙 (Wallpaper)]* は自動に設定されています。

選択できる壁紙バンドルを確認する

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle List
```

バンドルの名前とセットアップタイプの両方が返されます。

別の壁紙バンドルに変更してください。

あなたの画面設定と一致する設定タイプを持つバンドルを選択する必要があります。*

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Set
Name: "Name"
```

壁紙バンドルを削除すると、デフォルトの背景の外観に戻ります。

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Clear
```

* 例外: 限定カラーの Desk および Desk Mini デバイスの「ベージュ」、「青」、「カーボン」、「フォレストグリーン」のバンドルは、予約されています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ハーフウェイク モードのカスタム背景画像を追加する

デバイスのウェブインターフェイスにログインして、*[パーソナライゼーション (Personalization)]* に移動して、*[壁紙とハーフウェイク (Wallpaper and Halfwake)]* を選択します。

デバイスがハーフウェイク モードのときに、メイン画面とタッチコントローラの両方に表示されるカスタム背景画像を適用できます。

ハーフウェイク画像のアップロードまたは置換

[画像のアップロード (Upload image)] または *画像の置換* をクリックし、参照して画像ファイルを見つけます。

サポートされているファイル形式:

- JPEG、PNG

推奨サイズ:

- 1920 × 1080 ピクセル
  (Desk、Desk Mini)
- 3840 × 2160 ピクセル
  (その他の製品)

カスタムのハーフウェイクの背景画像はデバイスに自動的に保存され、アップロード後に自動的に有効化されます。

ハーフウェイクの画像を削除する

[削除 (Delete)] はデバイスから画像を削除します。もう一度使用するには、もう一度アップロードする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

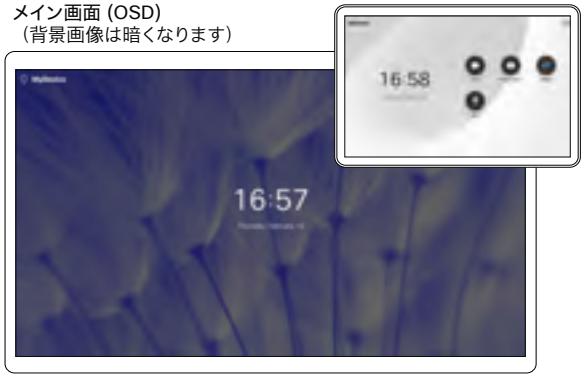
ホーム画面のカスタム背景を追加する

デバイスのウェブインターフェイスにログインして、*[パーソナライゼーション (Personalization)]* に移動して、*[壁紙とハーフウェイク (Wallpaper and Halfwake)]* を選択します。

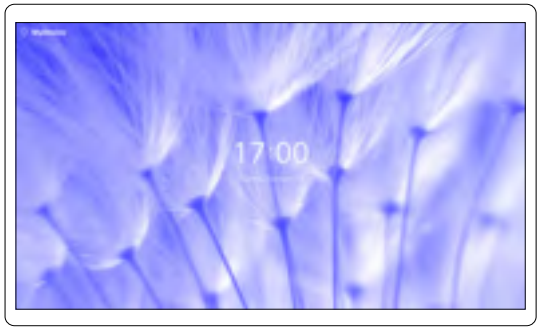
ホーム画面にカスタム背景 (壁紙) を適用することができます。カスタム背景はメイン画面でのみ表示されます。タッチコントローラはデフォルトの背景になります。

タッチコントローラ

メイン画面 (OSD)
（背景画像は暗くなります）



メイン画面(OSD)
(背景画像は暗く表示されません)



ホーム画面の壁紙をアップロードまたは置き換える

[画像のアップロード (Upload image)] または *画像の置換* をクリックし、参照して画像ファイルを見つけます。

サポートされているファイル形式:

- JPEG、PNG

推奨サイズ:

- 1920 × 1080 ピクセル
  (Desk、Desk Mini)
- 3840 × 2160 ピクセル
  (その他の製品)

カスタム壁紙はデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。

壁紙を選択する

使用する壁紙をクリックします。プリインストールされた背景画像またはカスタム壁紙から選択します。

背景画像を暗くする

背景画像を暗くして、背景とテキストの間のコントラストを高めることをお勧めします。

カスタム壁紙を削除する

[削除 (Delete)] はデバイスから画像を削除します。もう一度使用するには、もう一度アップロードする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

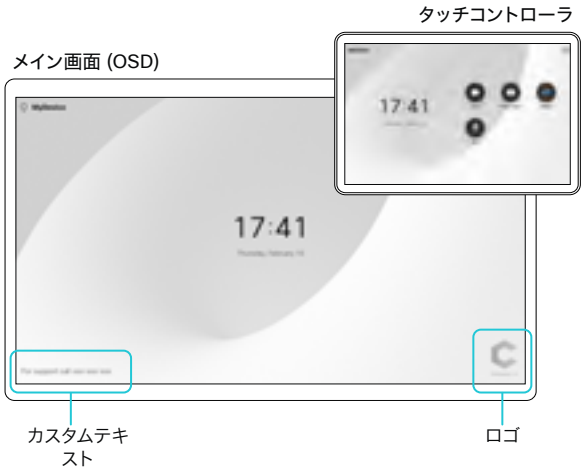
画面とタッチコントローラにブランディングを追加する

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[パーソナライゼーション (Personalization)]* に移動して、*[ブランディング (Branding)]* を選択します。

ホーム画面 (ウェイクモード) およびデバイスがハーフウェイクモードのときに、会社のロゴとカスタムテキストを表示することができます。

ホーム画面のブランディング

起動状態では、ロゴとカスタムテキストはメイン画面にのみ表示されます。ロゴは右下、カスタムテキストは左下です。これらのブランディング要素はタッチコントローラに影響を与えません。



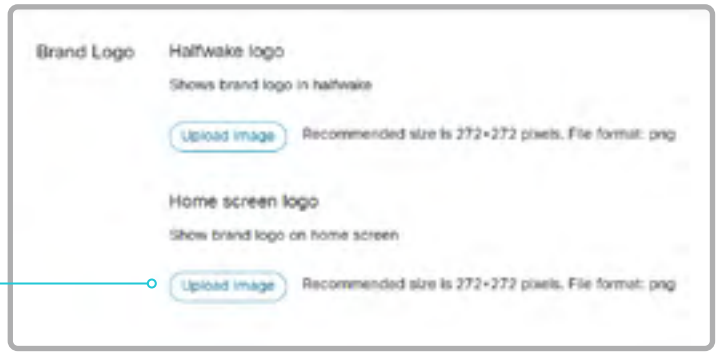
ホーム画面ロゴをアップロードする

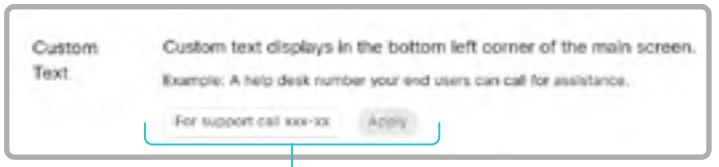
[画像のアップロード (Upload image)] または *画像の置換* をクリックし、参照して画像ファイルを見つけます。

サポートされているファイル形式: PNG

推奨サイズ: 272 × 272 ピクセル

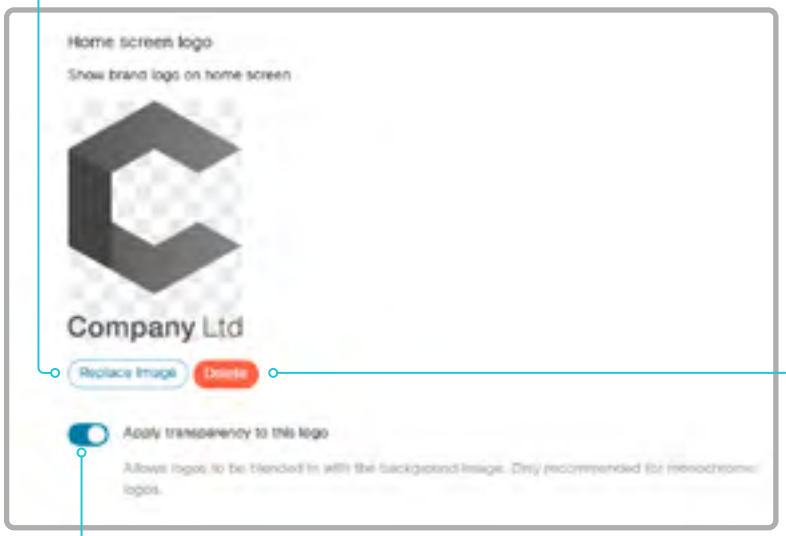
ロゴはデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。





カスタムテキストの追加

入力フィールドにテキストを入力し、*[適用 (Apply)]* をクリックします。



ハーフウェイクの画像を削除する

[削除] はデバイスからロゴを削除します。もう一度使用するには、もう一度アップロードする必要があります。

ホームスクリーンのロゴに透明度を適用する

ロゴに透明度を適用して、ホーム画面の背景になじむようにすることができます。モノクロのロゴの場合にのみお勧めします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面とタッチコントローラにブランディングを追加する (2/2 ページ)

ハーフウェイク モードでのブランディング

ハーフウェイク モードでは、ロゴはメイン画面とタッチコントローラの両方の右下に表示されます。ホーム画面に適用されるカスタム テキストは、ハーフウェイク モードでは表示されません。

デバイスの使用開始方法

[UserInterface] > OSD > [HalfwakeMessage] を使用して、画面中央のメッセージをカスタマイズまたは削除します (スクリーンのみ、タッチコントローラはなし)。これは、ユーザーにデバイスの使用 方法を知らせるメッセージです。

通常は、標準のメッセージ を使用しておくことをお勧めします。サードパーティのユーザーインターフェイスを使用している場合など、別のシナリオに適応させる必要がある場合にのみ、メッセージを変更してください。

ハーフウェイク モード用のロゴをアップロード

[画像のアップロード (Upload image)] または *画像の置換* をクリックし、参照して画像ファイルを見つけます。

- サポートされているファイル形式: PNG
- 推奨サイズ: 272 × 272 ピクセル

明るいロゴは、暗いスリープ状態の背景画像とうまく調和するようにすることをお勧めします。

ロゴはデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。

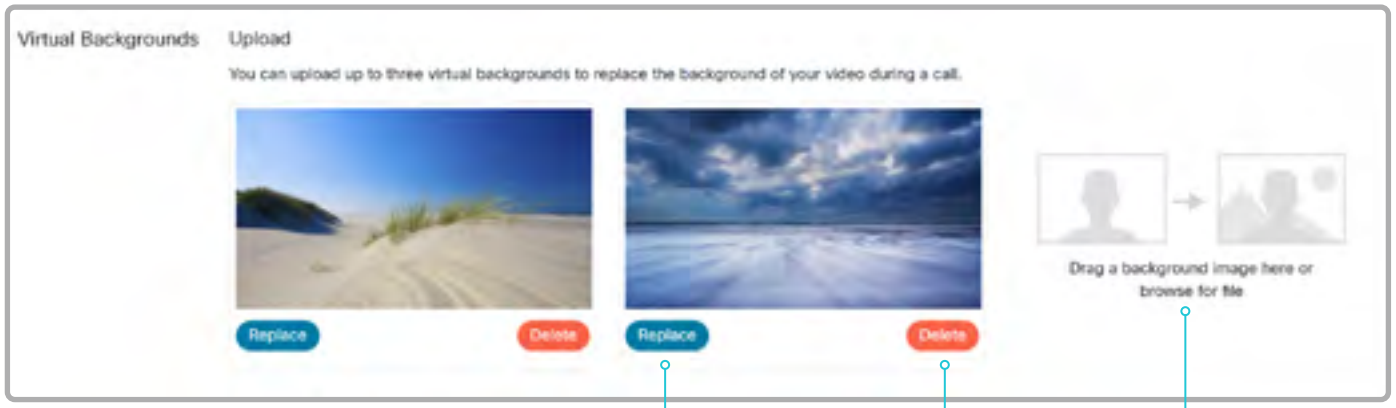
ハーフウェイクの画像を削除する

[削除] はデバイスからロゴを削除します。もう一度使用するには、もう一度アップロードする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

仮想背景の追加

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[パーソナライゼーション (Personalization)]* に移動して、*[仮想背景 (Virtual Backgrounds)]* を選択します。



背景画像を置き換える

*置換*により、仮想背景を新しいファイルと置き換えることができます。

背景画像を削除する

*削除*はデバイスから仮想背景を完全に削除します。

もう一度使用するには、もう一度アップロードする必要があります。

背景画像をアップロードする

新しい仮想背景を参照して選択するか、ファイル システムからファイルを選択し、デバイスのウェブ インターフェイスにドラッグします。

サポートされているファイル形式: BMP、GIF (アニメーションなし)、JPEG、PNG

最大ファイルサイズ *: 8MB

バーチャル背景について

通話中にカスタム画像を背景として使用する場合は、最大 3 つの*バーチャル背景*をアップロードして使用できます。

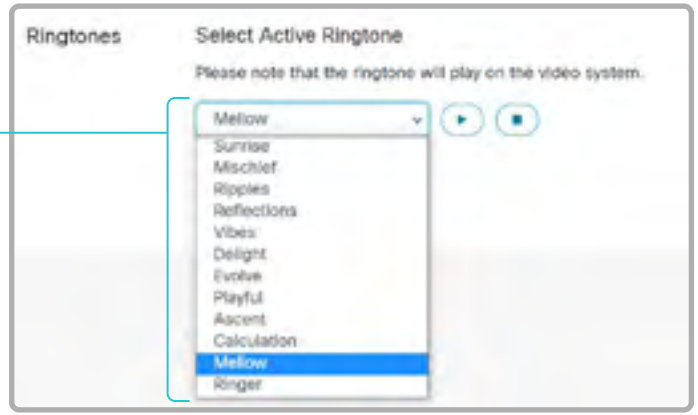
仮想背景は、ユーザーインターフェイスから選択できます。**セルフビュー**をタップして、またはコントロールパネルを開いて**背景**を選択して背景オプションを表示します。詳細についてはユーザガイドを参照してください。

* この最大数は Base64 エンコーディングのオーバーヘッドを含むため、画像ファイルはもう少し小さくする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

着信音を選択し、着信音の音量を設定します

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[パーソナライゼーション (Personalization)]* に移動して、*[着信音 (Ringtones)]* を選択します。



呼び出し音の変更

1. ドロップダウンリストから着信音を選択します。
2. *[保存 (Save)]* をクリックしてアクティブな着信音にします。

着信音の音量を設定する

スライドバーを使用して、着信音の音量を調整します。

着信音を再生する

再生ボタン (▶) をクリックして、着信音を再生します。

再生を終了するには、停止ボタン (■) を使用します。

着信音について

着信音のセットがデバイスにインストールされています。デバイスのウェブ インターフェイスを使用して、着信音を選択し、着信音の音量を設定します。

デバイスのウェブ インターフェイスから、選択した着信音を再生できます。着信音はデバイス自体で再生され、ウェブインターフェイスを実行しているコンピュータでは再生されないことに注意してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

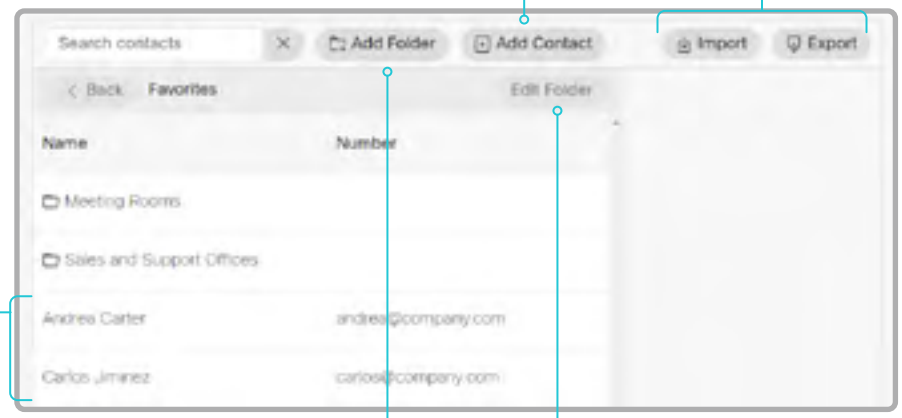
お気に入りリストを管理する

デバイスのウェブインターフェイスにログインして [*個人設定*] に移動して、[*連絡先*] を選択します。

ファイルから連絡先をインポートまたはエクスポートする

ローカル連絡先をファイルに保存するには、[*エクスポート*] をクリックします。ファイルから連絡先を取り込むには、[*インポート*] をクリックします。

ファイルから新しい連絡先をインポートすると、現在のローカル連絡先は破棄されます。



連絡先を追加または編集する

1. [*連絡先を追加*] をクリックして新しいローカル連絡先を作成します。または連絡先名をクリックして、[*連絡先を編集*] を選択します。
2. ポップアップするフォームに記入または更新します。

   サブフォルダに連絡先を保存するために、フォルダのドロップダウンリストからフォルダを選択します。

   [連絡方法を追加 (Add Contact Method)] をクリックし、新しい入力フィールドに入力します。
3. [*保存*] をクリックしてローカル連絡先を保存します。

連絡先を削除する

1. 連絡先名をクリックして *[連絡先を編集 (Edit Contact)]* を選択します。
2. [*削除*] をクリックしてローカル連絡先を削除します。表示されるダイアログで選択を確定します。

サブフォルダを追加または編集する

1. *[フォルダの追加 (Add Folder)]* をクリックして新しいサブフォルダを作成するか、リストされているサブフォルダの 1 つをクリックして *[フォルダの編集 (Edit Folder)]* をクリックして既存のサブフォルダを変更します。
2. ポップアップするフォームに記入または更新します。
3. *[保存 (Save)]* をクリックしてフォルダを作成または更新します。

サブフォルダを削除する

1. フォルダ名をクリックして、*[フォルダの編集 (Edit Folder)]* を選択します。
2. *[削除 (Delete)]* をクリックして、フォルダとその中のすべての連絡先およびサブフォルダを削除します。表示されるダイアログで選択を確定します。

デバイスのユーザ インターフェイスを使用してお気に入りを管理する

お気に入りリストに連絡先を追加する

1. ホーム画面で [*発信*] を選択します。
2. 追加する連絡先を選択します。
3. 連絡先カードの *[発信 (Call)]* の隣にある星印をタップします。星印の色が黒から白に変わります。

追加する連絡先は一番上のフォルダに配置されます。サブフォルダを選択または作成することはできません。

お気に入りリストから連絡先を削除する

1. ホーム画面で [*発信*] を選択します。
2. [*お気に入り*] タブを選択します。
3. 削除する連絡先を選択します。
4. 連絡先カードの *[発信 (Call)]* の隣にある星印をタップします。星印の色が白から黒に変わります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

アクセシビリティ機能をセットアップする

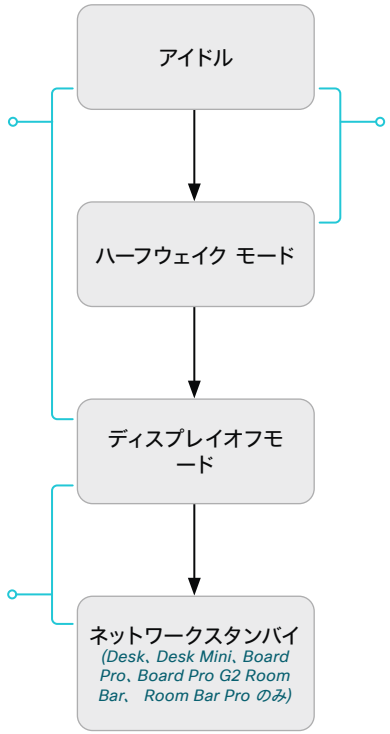
着信通話の点滅画面

聴覚障害のあるユーザーが着信があることに気づきやすくするため、着信時に画面が点滅するように設定することができます。

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *[UserInterface] > [アクセシビリティ (Accessibility)] > [IncomingCallNotification]* に移動し、**[AmplifiedVisuals]** を選択します。
3. *[保存 (Save)]* をクリックします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

省電力動作をセットアップする



デフォルトでは、デバイスは *y* 分後にディスプレイオフモードになります。既定の遅延は製品によって異なります。

希望の遅延を設定したり、これらの設定でこのモードをオフにしたりすることができます:

- *スタンバイ コントロール:* Off/On
- *スタンバイ遅延:* 整数 (1..480)

*スタンバイコントロール*が**オフ**の場合、デバイスは自動的にディスプレイオフモードになりません。*スタンバイコントロール***オン**の場合、*スタンバイ遅延*がタイムアウトしたときにデバイスはディスプレイオフモードになります。

*スタンバイ遅延*にはハーフウェイク期間も含まれることに注意してください。

デフォルトでは、アクティビティやアクティブなウェブ アプリやセッションがない場合、デバイスは 2 分後 (設定不可) にハーフウェイク モードに入ります。ハーフウェイクモードは*x* 分間表示されます。ここで、 *x = スタンバイ遅延 - 2* です。

例: *スタンバイ遅延:* 5

ハーフウェイク画面が 3 分間表示され、その後デバイスはディスプレイオフモードになります。

ハーフウェイク段階をスキップするには、この設定を使用します。

- *スタンバイハーフウェイクモード:* 手動

デフォルトでは、デバイスはディスプレイ オフ モードになった 2 分後にネットワーク スタンバイ状態になります。*

次の設定を使用して、優先遅延を設定したり、ネットワーク スタンバイへの自動移行をオフにしたりすることができます。

- *スタンバイ レベル ネットワーク モード:* Off/On
- *スタンバイレベルのネットワーク遅延:* 整数 (0..1440)

*スタンバイ レベル ネットワーク コントロール*が**オフ**の場合、デバイスはネットワークスタンバイレベルには入りません。*スタンバイ レベル ネットワーク コントロール*が**オン**の場合、*スタンバイレベルのネットワーク遅延*がタイムアウトになるとデバイスはネットワークスタンバイに入ります。

遅延が 0 に設定されている場合、デバイスは直接ネットワークスタンバイ状態になり、ディスプレイがオフになるステージをスキップします。

* 人の存在が検出された場合、または音声が Bluetooth 経由でデバイスにストリーミングされている場合、デバイスはディスプレイ オフ モードのままになり、ネットワークスタンバイにはなりません。

ハーフウェイク モード

ハーフウェイク モードは、アイドル モードとディスプレイ オフ モードの間の段階です。デバイスは、アクティビティが検出されるまで、またはディスプレイ オフ モードになるまで、ハーフウェイク モードのままになります。

ハーフウェイク モードでは、画面が黒くなってテキストが表示されたり、ウェブページやデジタルサイネージを含むブランディング情報を表示するように構成されたりする場合があります。

低電力モード

複数の低電力モードがあり、それぞれが異なる電力消費プロファイルを提供します。

ディスプレイオフモード

これは最初の低電力モードです。ディスプレイがオフになります。

ネットワークスタンバイ

(Desk、Desk Mini、Board Pro、Board Pro G2、Room Bar、Room Bar Pro のみ)

これは 2 番目の低電力ステージで、ディスプレイ オフ モードよりもさらに消費電力を削減します。

ディスプレイをオフにすることに加えて、CPU/GPU のクロックを下げ、下位レベルにある一部のモジュールの電源を切ります。

デバイスはネットワーク経由で引き続きアクセス可能であり、通話を受信するとウェイクアップします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

CUCM からの製品固有の構成のプロビジョニング (1/2 ページ)

この章では、Cisco UCM Release 12.5(1)SU1 で導入された方法を使用して、デバイス (エンドポイント) に設定またはパラメータをプロビジョニングする方法について説明します。

Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 以前は、限定された製品固有の構成のみが UCM からデバイスにプッシュされていました。管理者は、Cisco TMS またはデバイスのウェブ インターフェイスを使用して、他のすべての設定を構成する必要がありました。

CUCM リリース 12.5(1)SU1 以降、より多くの設定またはパラメータを CUCM からプロビジョニングできます。設定のリストは、ユーザーのデバイスに表示されるもの (public xConfigurations) と一致しますが、ネットワーク、プロビジョニング、SIP、H.323 の設定を除きます。

CUCM の詳細については、▶『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド、リリース 12.5(1)SU1』の *「ビデオエンドポイント管理」* の章を参照してください。

設定コントロールモード

展開のニーズに基づいて、管理者は CUCM 管理インターフェイスでさまざまな構成コントロールモードを設定できます。CUCM、デバイス、または両方から構成設定を制御するかどうかを決定できます。

これらは、さまざまな設定制御モードです。

- **Unified CM とエンドポイント**（デフォルト）: CUCM とデバイスをデバイスデータのプロビジョニングのためのマルチマスターソースとして動作させる場合は、このモードを使用します。CUCM は xConfiguration データをデバイスから自動的に読み取り、デバイスでローカルに行われた更新は即座に CUCM サーバーと同期されます。
- **Unified CM:** CUCM は、デバイスデータをプロビジョニングするための一元化されたマスターソースとして動作します。CUCM はデバイス上でローカルに行われた変更を無視するため、そのような変更は CUCM がデバイスに新しい構成を適用するときに上書きされます。
- **エンドポイント:** エンドポイントは、構成データの一元化されたマスターソースとして動作します。このモードでは、エンドポイントは CUCM からの構成データを無視し、ローカルで行われた変更を同期化しません。

  このモードは通常、インテグレーターがデバイスをインストールしており、デバイスからローカルに構成をコントロールする場合に使用されます。

オンデマンドでデバイスから設定を取得する

管理者は CUCM の *Pull xConfig. from Device* を使用して、いつでもオンデマンドでデバイスから設定の変更を引き出すことができます。

このオプションは、デバイスが登録されている場合にのみ有効です。

サポート対象の CE ソフトウェア バージョン

CE9.8 以降をサポートするデバイスは、CUCM でこの新しいプロビジョニング レイアウトを使用できます。

デバイスのソフトウェア バージョンが CE9.8 より前の場合、CUCM ユーザ インターフェイスでパラメータの完全なセットを表示できます。ただし、「#」が付いているサブセットのみ設定できます。「#」は各パラメータ値の右側にあります。

パラメータのフルセットは、デバイスを CE9.8 以降にアップグレードした場合にのみ機能します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

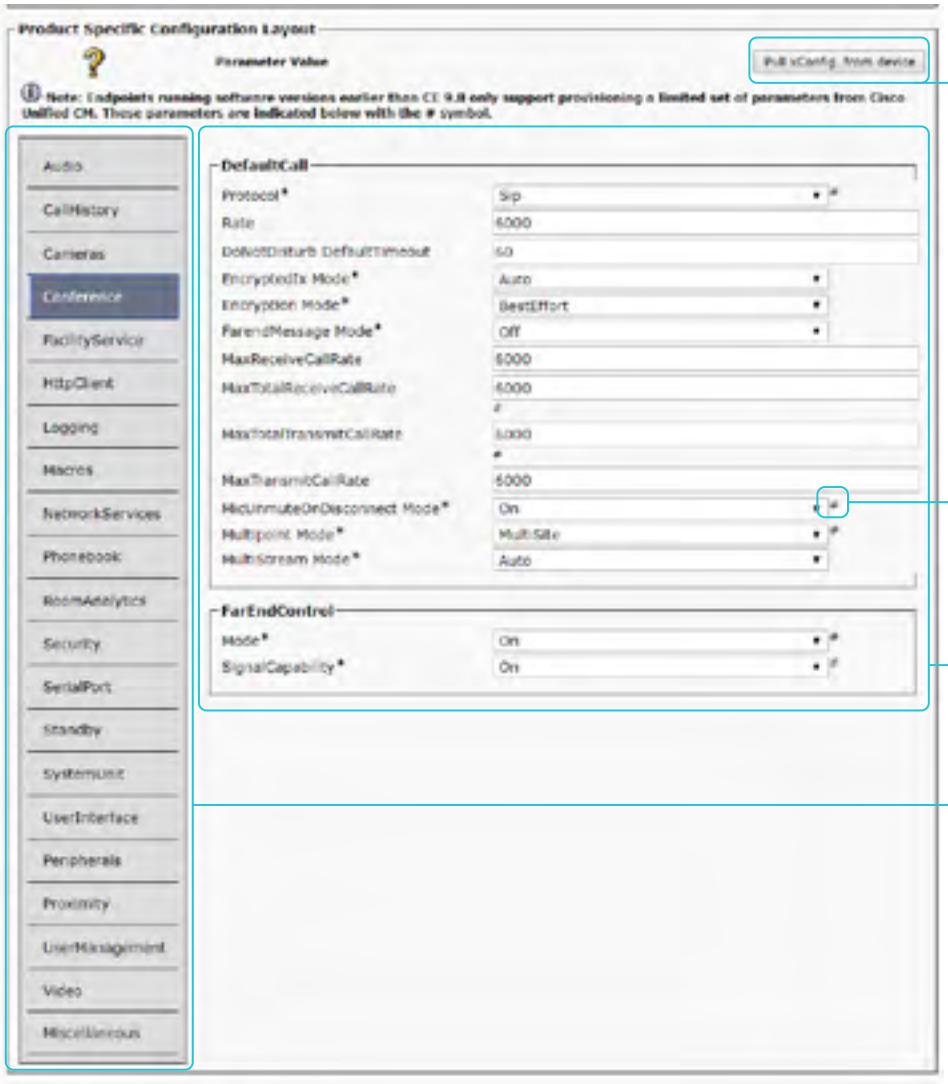
CUCM からの製品固有の設定 (2/2 ページ)

CUCM からプロビジョニングをセットアップする

1. CUCM にログインし、*[デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)]* に移動し、デバイスを探します。
2. [*製品固有の設定レイアウト*] セクション (図を参照) を見つけます。
3. [*その他*] カテゴリをクリックし、[*構成 コントロールモード*] 設定を見つけます。

   希望のモードを選択します:Unified CM、エンドポイント、または Unified CM とエンドポイント (前のページの説明を参照)。
4. デバイスから現在の設定をロードする場合は、*[Pull xConfig. from Device]* ボタンをクリックします。
5. カテゴリを選択し、変更したい構成の値を設定します。
6. 最後に、CUCM の以前のバージョンの場合と同様に、*[保存 (Save)]* と *[設定の適用 (Apply Config)]* をクリックします。

注 : CUCM からデバイスの管理者パスワードを更新する場合は、*TFTP Encrypted config* オプションを次の電話セキュリティプロファイル設定で有効にする必要があります。



オンデマンドでデバイスから設定を取得する

このボタンをクリックして、オンデマンドでデバイスからデータ設定をプルします。

でマークされた設定

12.5(1)SU1 以前の Cisco UCM リリースでも使用可能だった設定。

設定またはパラメータ

選択したカテゴリに属する設定です。

カテゴリ

デバイス設定はカテゴリ別にグループ化されています。これらは、デバイスのウェブ インターフェイスにあるものと同じカテゴリです。それらはまた、API コマンドパスにも対応しています。

その他 は例外です。このカテゴリには、CUCM でのみ設定可能な設定が記載されています。デバイスのローカル設定をサポートしていません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 3 章

Peripherals

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スクリーンおよびその他の出力デバイスを設定する

ビデオ出力 *数* は製品により異なります。通常、出力は画面または他のタイプの表示に使用されます。一部の製品はレコーダーの接続にも対応しています。

一部のデバイスには、1 つ以上の*内部スクリーン*に加えて、*外部スクリーン*で利用できるコネクタがあります。

デバイスは、使用可能なすべてのモニタにレイアウト (人物とコンテンツ) を配信します。詳細については、Webex ヘルプセンターの記事 ► Cisco デバイスの画面レイアウト (https://help.webex.com/zp1dhab/ を参照してください。レイアウトは、お使いのデバイスとセットアップの画面の数に応じて表示されます。

論理コネクタ

論理出力は各出力コネクタに割り当てられます。また、デバイスのコネクタ パネルの物理コネクタに接続されていない内部画面にも割り当てられます。

論理出力は、下の表で括弧内に追加されています。コネクタ1、コネクタ2、など。

これらは、構成パス、ステータス パス、および API コマンドで使用される名前です。

4K 解像度

高解像度および高フレームレートに対応するには、プレミアム HDMI ケーブルが必要です。

USB-C ケーブルは USB 3.1 Gen 1 / USB 3.2 Gen 1x1 をサポートしている必要があります (DisplayPort 代替モード) 。

音声サポート

音声はすべての出力でサポートされているわけではありません。

製品	ビデオ出力数	内部画面で使用中	外部画面およびその他の出力デバイスで利用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
Board	1	内部 (コネクタ 1)	None		
Board Pro	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2)	3840 × 2160 @ 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Board Pro G2	3	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 (60 fps) 3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Codec EQ	3	None	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 60 fps	接続されたカメラにスピーカーが搭載されているクワッドカメラの場合、HDMI 出力から音声が出力されません。すべてのコネクタが [自動] に設定されていて、クアッド カメラが接続されていない場合、デバイスは HDMI 1、HDMI 2、HDMI 3 の順に試行し、最初に使用可能な画面で音声を再生します。Audio Output HDMI [n] Mode の詳細は、デバイス設定のセクションを参照してください。
Codec Plus	2	None	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 60 fps	接続されたカメラにスピーカーが搭載されているクワッドカメラの場合、HDMI 出力から音声が出力されません。そうしないと、HDMI 1 に音声が流れます。
Codec Pro	3	None	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 30 fps	接続されたカメラにスピーカーが搭載されているクワッドカメラの場合、HDMI 出力から音声が出力されません。すべてのコネクタが [自動] に設定されていて、クアッド カメラが接続されていない場合、デバイスは HDMI 1、HDMI 2、HDMI 3 の順に試行し、最初に使用可能な画面で音声を再生します。Audio Output HDMI [n] Mode の詳細は、デバイス設定のセクションを参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (2/10 ページ)

製品	ビデオ出力数	内部画面で使用中	外部画面およびその他の出力デバイスで利用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
デスク	1	内部 (コネクタ 1)	None		
Desk Mini	1	内部 (コネクタ 1)	None		
Desk Pro	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2)	3840 × 2160 @ 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Room Bar	2	None	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 @ 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Room Bar Pro	3	None	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Room Kit	2	None	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 @ 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Room Kit Mini	1	None	HDMI (コネクタ 1)	3840 × 2160 @ 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Room 55	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2)	3840 × 2160 @ 60 fps	HDMI 出力で音声が聞こえない。
Room 55 Dual / Room 70 Dual	2	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	None		統合型画面では音声のみが利用可能です。
Room 70 Single	2	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 @ 60 fps	統合型画面では音声のみが利用可能です。必要に応じて、外部スピーカーを音声ライン出力コネクタに接続できます。
Room 70 Dual G2	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 で 30 fps	既定では、統合型画面では、デフォルトで音声のみが有効です。
会議室 70 シングル G2	3	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 で 60 fps 3840 × 2160 で 30 fps	既定では、統合型画面では、デフォルトで音声のみが有効です。
Room Kit EQX[1]	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 @ 60 fps	デフォルトでは、HDMI 出力の音声はありません。 Audio Output HDMI [n] Mode の詳細は、デバイス設定のセクションを参照してください。

[1] HDMI 1 と HDMI 2 は 2 つのデフォルト画面用に予約されています。コネクタの最大解像度は 3840 × 2160 で 60 fps です。デフォルト画面要件の詳細は、*『Room Kit EQX Room 準備ガイドライン』* (https://www.cisco.com/go/room-kit-eqx-installation) を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (3/10 ページ)

製品	ビデオ出力数	内部画面で使用中	外部画面およびその他の出力デバイスで利用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
Room 70 Panorama[2]	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	None		
Room Panorama[2]	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	None		

[2] 画面の調整は Room Panorama のインストールの必須部分です。これについては、 *Room Panorama スタートガイド*で説明されています。また、すべての Room Panorama 画面 (HDMI 1、2、3) および Room 70 パノラマ コンテンツ画面 (HDMI 3) のファームウェアも手動で更新する必要があります。*『Room Panorama および Room 70 Panorama ディスプレイファームウェア更新ガイド』*では、ファームウェアの更新が必要かどうかを確認する方法と、その方法を説明しています。両方のガイドは次の場所にあります: https://www.cisco.com/go/panorama-installation

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (4/10 ページ)

自動セットアップ

(ビデオ出力が 1 つしかないBoard、Desk、Desk Mini、または全画面が事前に定義された動作を持つ Room 70 Panorama および Room Panorama には関係ありません)

デフォルトでは、画面の数は自動検出され、各画面の役割 (1 番目、2 番目、3 番目のスクリーンのいずれか) は、物理的な接続に応じて自動的に設定されます。

デバイスのウェブインターフェイスにログインし、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択して、以下で参照する設定を見つけます。

例

画面の総数が 3 つの場合、 自動 に設定すると、次の設定が想定されます。

- *ビデオ (Video) > [モニタ (Monitors)]*: トリプル
- *Video > Output > Connector 1 > MonitorRole*: First
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 2 (Connector 2)] > [MonitorRole]*: Second
- *ビデオ>出力 >コネクタ 3 >モニタ役割*: 第 3

画面の総数が 2 つの場合、 自動に設定すると、次の設定が想定されます。

- *ビデオ> モニタ*: デュアル
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 1 (Connector 1)] > [MonitorRole]*: ファースト[3]
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 2 (Connector 2)] > [MonitorRole]*: Second

手動設定が必要になるのはいつですか

1 つまたは複数の設定を手動で設定することで、デフォルトの動作をオーバーライドできます。次のような場合には手動設定が必要になります。

- 1 つの画面をプレゼンテーションの表示専用にする
- レコーダー用の出力の 1 つを使用します *(Codec EQ、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Bar Pro、および Board Pro G2 で利用可能)*
- 複数の画面で同じレイアウトを複製する
- 最も番号が小さいビデオ出力とは異なる画面に、画面上のメッセージおよびインジケータ (OSD) を表示します *(Room 55、Desk Pro、Board Pro、および Board Pro G2 では利用できません)*
- 解像度を手動で設定します。例:デバイスが画面のネイティブ解像度とリフレッシュ レートを検出できない場合

[3] Room 55、Desk Pro、Board Pro、Board Pro G2 には、コネクタ 1 (内部スクリーン) の明示的な MonitorRole 設定がありません。このコネクタは常に、これらのデバイス上でモニタの役割を最初に担います。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (5/10 ページ)

手動セットアップ

(ビデオ出力が 1 つしかない Board、Desk、Desk Mini、または全画面が事前に定義された動作を持つ Room 70 Panorama および Room Panorama には関係ありません)

自動セットアップは、1 つまたは複数の画面を持つ一般的なシナリオでうまく機能します。より複雑なシナリオでは、手動構成が必要になる場合があります。

デバイスのウェブインターフェイスにログインし、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択して、以下で参照する設定を見つけます。

画面ごとに役割を設定する

各画面の役割を *ビデオ > 出力 > コネクタ n > MonitorRole* の設定で定義します。[1]

モニタの役割は、この出力に接続されている画面に表示されるレイアウト (ユーザーとコンテンツ) を決定します。

同じモニタの役割を持つ画面は、同じレイアウトになります。モニタの役割が異なる画面は、異なるレイアウトになります。

画面の設定に一致するモニタの役割を選択する必要があります。

画面の数を設定する

異なるレイアウトの画面の数を[ビデオ] > [モニタ]設定を使用して設定します。

ほとんどの場合、異なるレイアウトの数は物理的な画面の数と同じですが、常にそうであるとは限りません。まったく同じレイアウトが複数の画面で繰り返される場合、異なるレイアウトの数は少なくなります。

「自動」に設定すると、デバイスは画面がコネクタに接続されているかどうかを自動的に検出し、セットアップ内の画面の数も決定します。

その他のオプションを使用すると、シングル、デュアル、またはトリプル スクリーンの設定を固定したり、コンテンツ用に 1 つの画面を予約したりできます。

メッセージとインジケーターを表示する画面を選択してください。

「ユーザインターフェース」> 「OSD」> 「出力」 設定を使用して、画面上のメッセージとインジケーターを表示する画面を定義してください。

Auto に設定すると、コネクタの番号に基づいてどの画面を使用するかが決定されます。

画面解像度とリフレッシュ レートの設定

デバイスは画面のネイティブ解像度を読み取り、可能な場合はこれを出力します。通常、これは画面上で最良の画像が得られます。

解像度とリフレッシュレートの自動検出に失敗した場合は、[*ビデオ >出力 > コネクタ n >解像度*]を手動で設定する必要があります。

例

合計 2 つの画面があり、2 番目の画面はプレゼンテーションの表示専用です。

- *ビデオ> モニター*: DualPresentationOnly
- *ビデオ>出力 >コネクタ 1 >モニタロール*: 自動 [4]
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 2 (Connector 2)] > [MonitorRole]*: 自動
- *[UserInterface] > [OSD] > [出力 (Output)]*: 1 または Auto [5]

合計 3 つの画面[6]あり、3 番目の画面はプレゼンテーションのみを表示:

- *ビデオ> モニタ*: TriplePresentationOnly
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 1 (Connector 1)] > [MonitorRole]*: 自動
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 2 (Connector 2)] > [MonitorRole]*: 自動
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 3 (Connector 3)] > [MonitorRole]*: 自動
- *ユーザインターフェイス > OSD >出力*: 1

合計 2 つのスクリーン、録画デバイスはコネクタ 3 (HDMI) に接続されています。OSD がコネクタ 2 の画面上に表示される

- *ビデオ> モニタ*: 自動
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 1 (Connector 1)] > [MonitorRole]*: 自動
- *[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ 2 (Connector 2)] > [MonitorRole]*: 自動
- *ビデオ>出力 >コネクタ 3 >モニタ役割*: レコーダー
- *ユーザインターフェイス > OSD >出力*: 2

[4] Room 55、Desk Pro、Board Pro、Board Pro G2 には、コネクタ 1 (内部スクリーン) の明示的な MonitorRole 設定がありません。このコネクタは常に、これらのデバイス上でモニタの役割を最初に担います。

[5] その他のデバイスでは 自動 に設定します。Room 55、Desk Pro、Board Pro、Board Pro G2 では 1 に設定します。

[6] 合計 3 つの画面に対応するのは、Codec Pro、Codec EQ、Room 70 G2、Room Kit EQX、Room Bar Pro、Board Pro G2 だけです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (6/10 ページ)

サードパーティのタッチスクリーン

タッチ入力をサポートするディスプレイを Room Bar、Room Bar Pro、Codec EQ、Codec Pro のいずれかに接続することで、デバイスは Cisco Board と同じ UI を自動的に取得し、タッチ入力を受け入れます。

タッチスクリーン付き Room シリーズのデバイスを使用すると、ホワイトボードや注釈など、Cisco Board が提供するのと同じ機能を使用できます。タッチスクリーンまたは Room Navigator からデバイスをコントロールできます。

対応 Room シリーズ デバイス

- Room Bar
- Room Bar Pro
- Codec EQ
- Codec Pro

メモ: Room Bar Pro、Codec EQ、および Codec Pro には Room Navigator が必要です。両方の UI を使用してデバイスを使用できます。Room Bar の場合、Room Navigator はオプションです。

対応画面

認定済み画面のリストについては、 Cisco コラボレーションデバイス認定プログラムの詳細を参照してください。

この機能は、以下の認定されていない画面でもテストされています。

- Dell C シリーズラージフォーマット
- Dell P シリーズラージフォーマット
- Samsung QMR-T デジタルサイネージ シリーズ

制約事項

- タッチ リダイレクトはサポートされていません。

タッチスクリーンに接続する

Room シリーズ デバイスをタッチスクリーンに接続する場合、HDMI ケーブルと USB ケーブルの両方を使用する必要があります。

Room シリーズ デバイス:

1. HDMI ケーブルをタッチスクリーンからコネクタ 1 に接続します。
2. USB ケーブルを USB-A ポートに接続して、デバイスがタッチ入力を認識するようにします。

タッチスクリーンとパッシブ スクリーンを接続する

1 つのタッチスクリーンと 1 つのパッシブ スクリーンを Room シリーズ デバイスに接続できます。この組み合わせは 2 つの異なる方法でセットアップできます。

1: 画面 1 (左) がインタラクティブ/タッチスクリーン、画面 2 (右) がパッシブ画面

このシナリオでは、受信したプレゼンテーションの注釈を開始するときなど、インタラクティブコンテンツが画面 2 から画面 1 に移動します。

1. スクリーン 1 の HDMI ケーブルを コネクタ 1 に接続します。
2. USB ケーブルを画面 1 からデバイスの USB-A ポートに接続して、タッチ入力を認識させます。
3. スクリーン 2 の HDMI ケーブルを コネクタ 2 に接続します。

2: 画面 1 (左) がパッシブスクリーンとして、画面 2 (右) がインタラクティブ/タッチスクリーンとして

このシナリオでは、通話のコンテンツは、インタラクティブかどうかに関係なく、常に画面 2 に表示されます。通話がないときは、インタラクティブなアプリと要素は画面 2 に表示されています。

1. ディスプレイケーブルをスクリーン 1 から コネクタ 1 に接続します。
2. ディスプレイケーブルをスクリーン 2 から コネクタ 2 に接続します。

   USB ケーブルをスクリーン 2 からデバイスの USB-A ポートに接続して、タッチ入力を認識させます。
3. 次の構成を指定します。
   [UserInterface] > [OSD] > [出力 (Output)]: 2

アクティブスタイラスサポート

パッシブ スタイラスとアクティブ スタイラスを使用して、サードパーティのタッチ スクリーン上のコンテンツを操作できます。アクティブ スタイラスは、FlatFrog をサポートする画面で動作します。

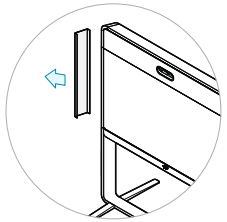
アクティブ スタイラスのサポートはデフォルトで有効になっています。設定により無効または有効にすることができます:
ビデオ出力 TouchInput ActivePenSupport: True/False

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (7/10 ページ)

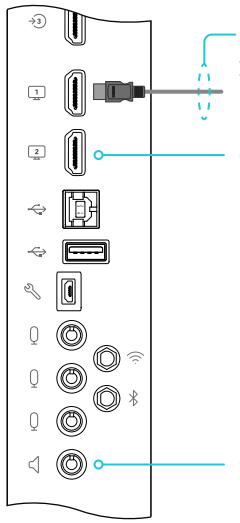
出力コネクタ

画面や周辺機器を接続、切断する際は必ず電源を切ってください。

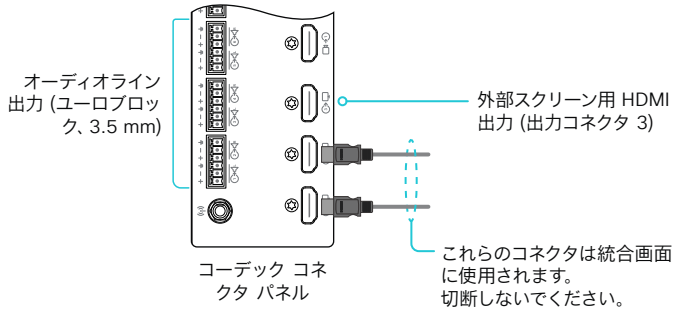


これらのデバイスのコネクタ パネルと電源スイッチにアクセスするには、左側のサイド カバーを取り外します。カバーはマグネットで留められます。

Room 70 Single



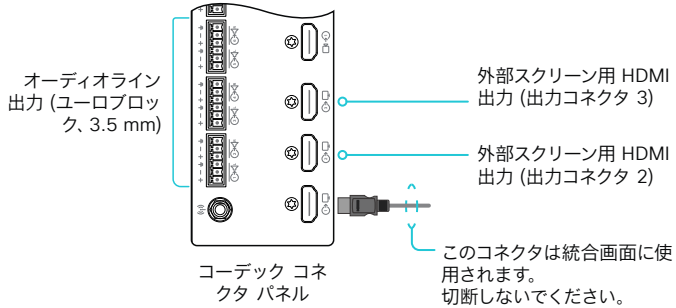
Room 70 Dual G2



Room 55 Dual および Room 70 Dual

両方の HDMI 出力 (出力コネクタ 1 および 2) は統合型スクリーンに使用されます。切断しないでください。

Room 70 Single G2



Room 55 Dual、Room 70 および Room 70 G2 の統合型スクリーンを切断しないでください。

統合型スクリーン接続は、デバイスのスピーカー システムを駆動するマルチチャンネル音声を利用します。サードパーティの機器を挿入すると、音声の観点からデバイスが故障する可能性があります。

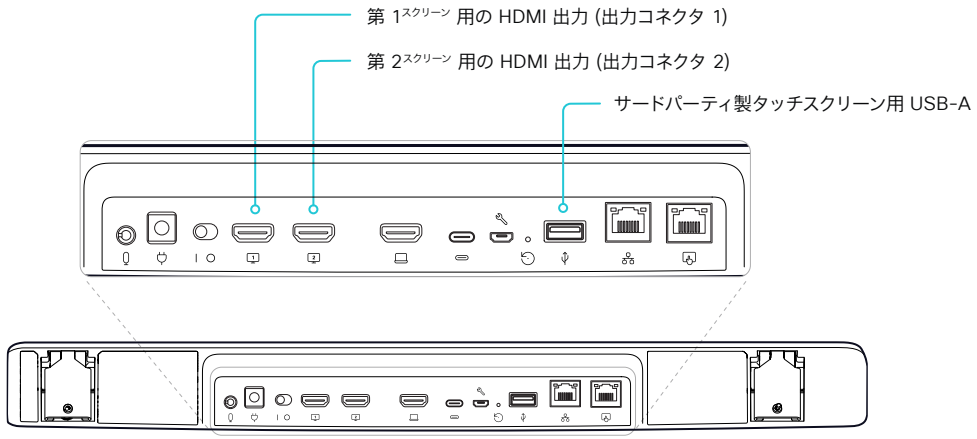
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (8/10 ページ)

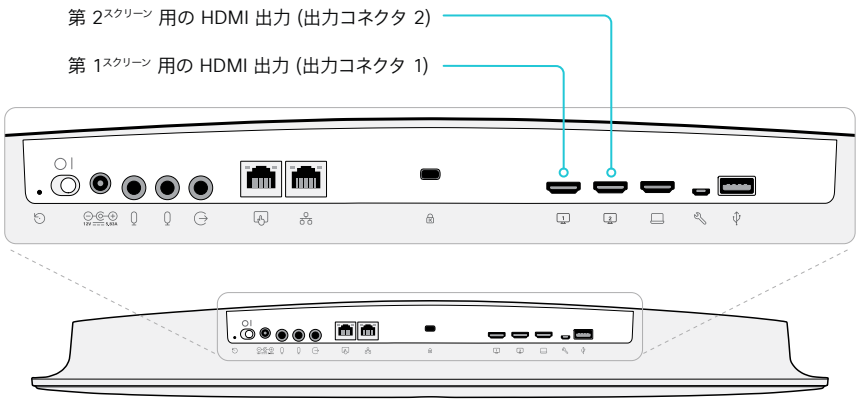
出力コネクタ

⚠ 画面や周辺機器を接続、切断する際は必ず電源を切ってください。

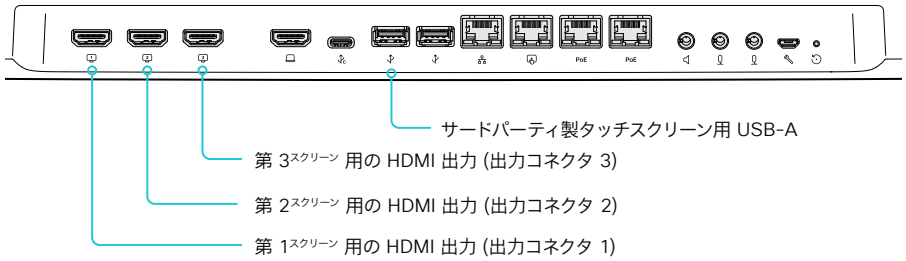
Room Bar



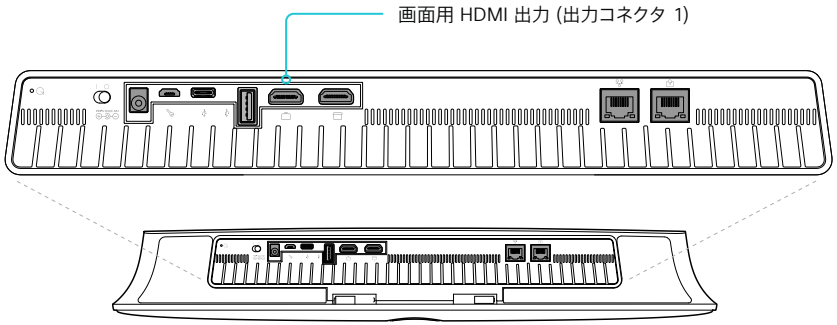
Room Kit



Room Bar Pro



Room Kit Mini



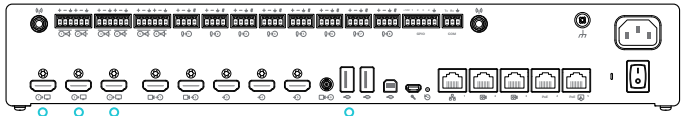
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (9/10 ページ)

出力コネクタ

⚠ 画面や周辺機器を接続、切断する際は必ず電源を切ってください。

Codec Pro

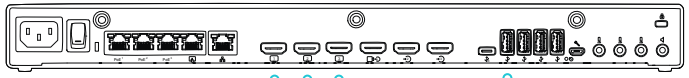


サードパーティ製タッチスクリーン用 USB-A
第 3スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 3)
第 2スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 2)
第 1スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 1)

Codec Plus

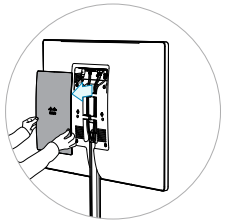
第 1スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 1)
第 2スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 2)

Codec EQ

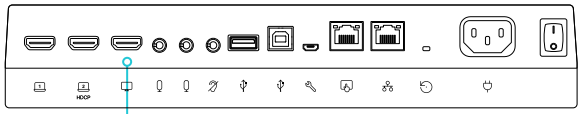


サードパーティ製タッチスクリーン用 USB-A
第 3スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 3)
第 2スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 2)
第 1スクリーン 用の HDMI 出力 (出力コネクタ 1)

Room 55

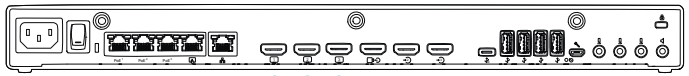


コネクタパネルと電源スイッチにアクセスするために、後部カバーを取り外します。



外部スクリーン用 HDMI 出力 (出力コネクタ 2)

Room Kit EQX



これらのコネクタは統合画面に使用されます。切断しないでください。

外部スクリーン用 HDMI 出力 (出力コネクタ 3)
右統合型スクリーン用 HDMI 出力 (出力コネクタ 2)
左統合型スクリーン用 HDMI 出力 (出力コネクタ 1)

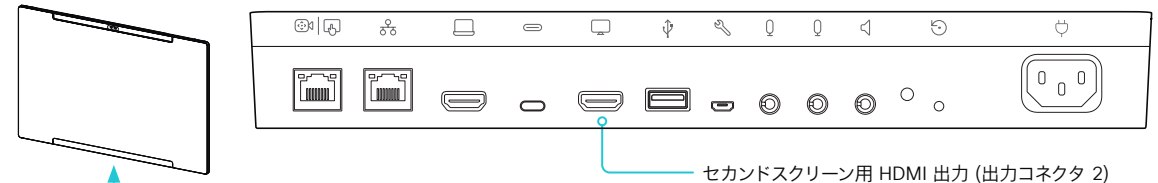
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

画面およびその他の出力デバイスを設定する (10/10 ページ)

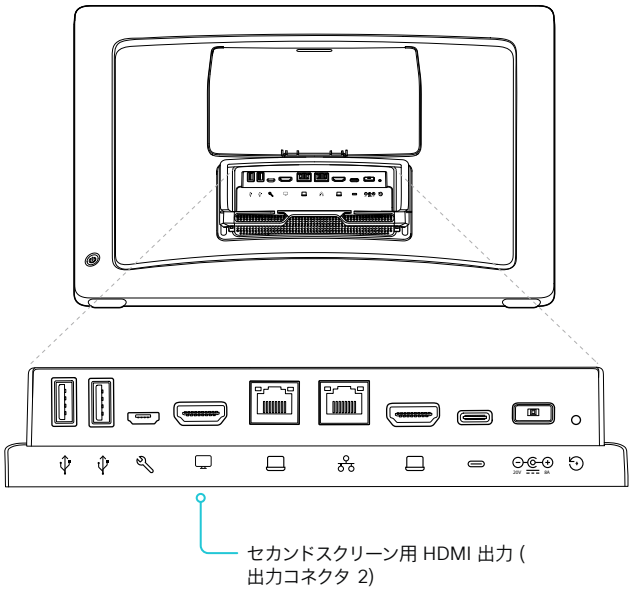
出力コネクタ

⚠ 画面や周辺機器を接続、切断する際は必ず電源を切ってください。

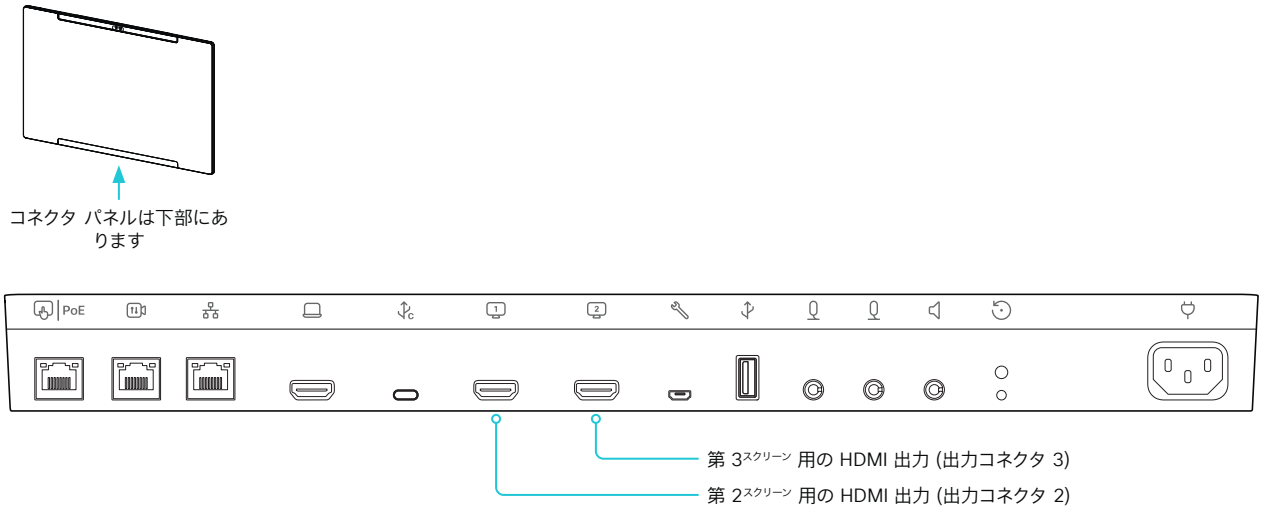
Board Pro



Desk Pro



Board Pro G2



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースの接続 (ページ 1/ 13)

デバイス ウェブ インターフェイスにログインし、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択して、この章で言及されている設定を見つけます。

ビデオ入力 の数は製品により異なります。通常、ビデオ入力はカメラとコンピュータに使用されます。他のコンテンツ ソースも接続できますが、他のタイプのビデオやコンテンツ ソースを接続することもできます。

コンピュータまたはコンテンツソースを入力に接続すると、コンテンツをローカルで共有したり、電話会議の参加者と共有することができます。

統合型デバイスには、 *内部カメラ* に加えて、 *外部* コンテンツソース用のコネクタがあります。キットとコーデックには、 *外部カメラとその他のコンテンツ ソース用のコネクタのみ* があります。

論理コネクタ

論理入力は各入力コネクタに割り当てられます。また、デバイスのコネクタ パネルの物理コネクタに接続されていない内部カメラにも割り当てられます。

論理入力は、次のページの表の括弧内に追加されます: コネクタ 1、コネクタ 2、など

これらは、構成パス、ステータス パス、および API コマンドで使用される名前です。

ビデオとコンテンツの品質について

ビデオをエンコードして送信する場合、高解像度と高フレームレートの間のトレードオフがあります。ビデオソースによっては、高解像度よりも高フレームレートの送信の方が重要な場合があります。

[ビデオ > 入力 > コネクタ n]を設定して、モーション (高フレームレート) または鮮明度 (高解像度) に対して品質を最適化します。

通常のビデオ入力や画像に多くの動きが含まれる場合は、[**モーション**] を選択します。最高品質の詳細な画像とグラフィックスを得るには、 **自動** または **シャープネス** を選択します。

ⓘ デバイスで Quad Camera、SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 カメラが検出された場合、この設定は自動的に **モーション** に設定されます。ユーザーがこの設定を手動で変更した場合、再起動またはカメラの再接続後に、 **モーション** に戻されます。

Autoに設定すると、デバイスは受信するビデオストリームを継続的に分析します。開始点として [自動] を選択すると、可能な最高の解像度 (鮮明度) になります。モーションが検出された場合、エンコードは可能な最高のフレームレート (モーション) になるように自動的に変更されます。

カメラに最もよく使用されるコネクタのデフォルト値は **Motion** で、プレゼンテーションソースに最もよく使用されるコネクタのデフォルト値は **Auto** です。表を参照してください。

製品	デフォルトの品質設定
Board	コネクタ 2: 自動
Board Pro /Board Pro G2	コネクタ 2、3: 自動
Codec EQ / Room Kit EQX	コネクタ 1、2: モーション コネクタ 3、4: 自動
Codec Plus / Room 55 Dual / Room 70	コネクタ 1: モーション コネクタ 2、3: 自動
Codec Pro / Room 70 G2 / Room Panorama / Room 70 Panorama	コネクタ 1、2: モーション コネクタ 3、4、5: 自動 コネクタ 6: モーション
Desk / Desk Pro	コネクタ 2、3: 自動
Desk Mini	コネクタ 2: 自動
Room Bar / Room 55	コネクタ 2、3: 自動
Room Bar Pro	コネクタ 2 : Motion コネクタ 3 : Auto
Room Kit / Room Kit Mini	コネクタ 2: 自動

入力ソースのタイプと名前を設定する

入力ソースのタイプと名前を設定することをお勧めします

- *ビデオ>入力 >コネクタn > InputSourceType*
- *ビデオ>入力 >コネクタn >名前*

これらの設定は、ユーザ インターフェイスに表示される名前とアイコンを決定します。直感的な名前とアイコンにより、ソースの選択が容易になります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 2 13/)

HDCP のサポート

(適用対象: Board Pro、Board Pro G2、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama)

HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) をサポートするように入力コネクタの 1 つを構成できます。これは、デバイスが HDCP 保護されたコンテンツを表示することを許可することを意味します。

これは特定のコネクタにのみ適用されます。次の表を参照してください。

この設定を使用して、この入力で HDCP を有効にします。

- *ビデオ > 入力 > コネクタ n > HDCP > モード*

この設定が **オン**の場合、指定されたコネクタに接続されたソースからのコンテンツはローカルでのみ再生できます。通話中は、他の電話会議参加者と共有することはできません。これは、コンテンツが HDCP 保護されているかどうかにかかわらず適用されます。

クアッド カメラの接続

(適用対象: Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro)

クアッド カメラをデバイスに接続するときは、常にコネクタ 1 を使用します。これは、カメラのスピーカーを通して音声を正しく再生するために必要です。

カメラの接続についての詳細は、オンラインの Room シリーズ製品のインストールガイドを参照してください。

コンピュータまたはその他のコンテンツソースを接続する

コンテンツをローカルで、または電話会議の参加者と共有するために、1 つまたは複数のコンテンツソース (コンピュータなど) をデバイスに接続することができます。サポートしている外部入力ソースの数と最大解像度は、下の表に記載されています。

より高い解像度とフレームレートに対応するには、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。

USB-C ケーブルは USB 3.1 Gen 1 / USB 3.2 Gen 1x1 をサポートしている必要があります (DisplayPort 代替モード) 。

内蔵マイクも持つデバイス上の外部アナログ マイク

(適用対象: Board Pro、Board Pro G2、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room 55)

これらのデバイスは、内蔵マイクに加えて 1 つまたは 2 つの外部マイクをサポートします。Cisco Table Microphone または Cisco Ceiling Microphone Pro をお勧めします。

マイク 1 は統合型マイクです。

Board Pro、Board Pro G2、Room Bar Pro の詳細は、▶ Board Pro、Board Pro G2、Room Bar Pro で外部マイクを使用する の章を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 3/ 13)

入力コネクタの概要

製品	ビデオ入力数	内部カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP のサポート	注
Board	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2：3840 × 2160 @ 30fps または 1080p @ 60fps	使用不可	
Board Pro	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 で 60fps コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30fps	HDMI (コネクタ 3)	USB-C: ・コンテンツ共有、画面の拡張機能 (コンピューターの外部画面)、およびタッチ転送がサポートされているオペレーティングシステムで可能です。 ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアント (USB カメラモード) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。また、ノートパソコンの充電に対応します (最大 60W)。 HDMI: ・コンテンツ共有および画面拡張用(コンピューターの外部画面)
Board Pro G2	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 で 60fps コネクタ 3: 3840 × 2160 で 60fps	HDMI (コネクタ 3)	USB-C: ・コンテンツ共有、画面の拡張機能 (コンピューターの外部画面)、およびタッチ転送がサポートされているオペレーティングシステムで可能です。 ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアント (USB カメラモード) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。また、ノートパソコンの充電に対応します (最大 60W)。 HDMI: ・コンテンツ共有および画面拡張用(コンピューターの外部画面)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 4 13/)

製品	ビデオ入力数	内部カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP のサポート	注
Codec EQ	4	該当なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) USB-C (コネクタ 4)	コネクタ 1: 1920 × 1080で60fps コネクタ 2: 3840 × 2160で30fps コネクタ 3: 3840 × 2160で30fps コネクタ 4: 3840 × 2160で30fps	HDMI 3 (コネクタ 3)	クアッド カメラ: ・常にコネクタ 1 を使用する カメラコントロール: ・補助イーサネットポートの 1 つを通じて ・イーサネット ポートが足りない場合は、イーサネット スイッチを接続して、すべてのカメラを制御できます。 HDMI: ・コンテンツ共有用。 USB-C: ・コンテンツ共有用。 ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。
Codec Plus	3	該当なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		HDMI 2 (コネクタ 2)	クアッド カメラ: ・常にコネクタ 1 を使用する SpeakerTrack 60: ・コネクタ 1 およびコネクタ 2 を使用 カメラコントロール: ・補助イーサネットポート経由 ・複数のカメラを接続する場合、イーサネット スイッチを接続して、すべてのカメラのカメラ コントロールを許可できます。
Codec Pro	6	該当なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1920 × 1080 (60fps) コネクタ 2: 1920 × 1080 (60fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30fps コネクタ 4: 3840 × 2160 で 30fps コネクタ 5: 3840 × 2160 で 30fps	HDMI 5 (コネクタ 5)	クアッド カメラ: ・常にコネクタ 1 を使用する SpeakerTrack 60: ・コネクタ 1 およびコネクタ 2 を使用 カメラコントロール: ・補助イーサネットポート経由 ・利用可能な補助イーサネット ポートより多くのカメラがある場合、すべてのカメラのカメラ コントロールを許可するイーサネット スイッチが必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースの接続 (5 ページ/ 13)

製品	ビデオ入力数	内部カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP のサポート	注
Desk Pro	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 で 60fps コネクタ 3: 3840 × 2160 で 60fps	使用不可	USB-C: ・コンテンツ共有、画面の拡張機能 (コンピューターの外部画面)、およびタッチ転送がサポートされているオペレーティングシステムで可能です。 ・USB-C では、ソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。さらに、ノートパソコンの充電も提供します (最大 60W)。 HDMI: ・コンテンツ共有および画面拡張用(コンピューターの外部画面)
デスク	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 1920 × 1080 で 60fps コネクタ 3: 1920 × 1080 で 60fps	使用不可	USB-C: ・コンテンツ共有、画面の拡張機能 (コンピューターの外部画面)、およびタッチ転送がサポートされているオペレーティングシステムで可能です。 ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。 HDMI: ・画面拡張機能とコンテンツ共有。
Desk Mini	2	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2)	コネクタ 2 : 1920 × 1080 @ 60fps	使用不可	コンテンツ共有、画面の拡張機能 (コンピューターの外部画面)、およびタッチ転送がサポートされているオペレーティングシステムで可能です。 USB-C では、任意のソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。
Room Bar	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 @ 30fps または 1920 × 1080 @ 60fps コネクタ 3: 3840 × 2160 @ 30fps または 1920 × 1080 @ 60fps	使用不可	USB-C: ・コンテンツ共有および画面拡張用(コンピューターの外部画面) ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。 HDMI: ・画面拡張機能とコンテンツ共有。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースの接続 (6 ページ/ 13)

製品	ビデオ入力数	内部カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP のサポート	注
Room Bar Pro	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2) USB-C (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 で 30fps または 1920 × 1080 で 60fps コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30fps または 1920 × 1080 で 60fps	使用不可	USB-C: ・コンテンツ共有および画面拡張用(コンピューターの外部画面) ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。 HDMI: ・画面拡張機能とコンテンツ共有。
Room Kit	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2 : 3840 × 2160 @ 30 fps	使用不可	
Room Kit Mini	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2 : 3840 × 2160 @ 30 fps	使用不可	
Room 55	3	内部 (コネクタ 1)	HDMI 1 (コネクタ 2) HDMI 2 (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 で 30 fps コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30 fps	HDMI 2 (コネクタ 3)	
Room 55 Dual / Room 70	3	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		HDMI 2 (コネクタ 2)	カメラコントロール: 補助イーサネットポート経由 追加のカメラを接続する場合、すべてのカメラのカメラ コントロールを許可するイーサネット スイッチが必要です。
Room 70 G2	6	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 2: 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30 fps コネクタ 4: 3840 × 2160 で 30 fps コネクタ 5: 3840 × 2160 で 30 fps	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 利用可能な補助イーサネット ポートより多くのカメラがある場合、すべてのカメラのカメラ コントロールを許可するイーサネット スイッチが必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 7 13/)

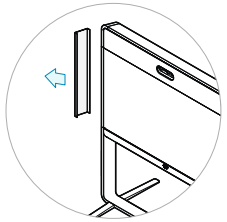
製品	ビデオ入力数	内部カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP のサポート	注
Room Kit EQX	4	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) USB-C (コネクタ 4)	コネクタ 1: 1920 × 1080で60fps コネクタ 2: 3840 × 2160で30fps コネクタ 3: 3840 × 2160で30fps コネクタ 4: 3840 × 2160で30fps	HDMI 3 (コネクタ 3)	カメラコントロール: ・補助的なイーサネットポート 1 経由 (その他は他の EQX コンポーネントによって使用されます) ・補助のイーサネットポートが足りない場合は、イーサネットスイッチを接続して、すべてのカメラを制御できます。 HDMI: ・コンテンツ共有用。 USB-C: ・コンテンツ共有用。 ・USB-C では、任意のソフトウェア クライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます (USB カメラ モード / USB-C パススルー)。
Room 70 Panorama	6	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1920 × 1080 (60fps) コネクタ 2: 1920 × 1080 (60fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30fps コネクタ 4: 3840 × 2160 で 30fps コネクタ 5: 3840 × 2160 で 30fps	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラの操作はイーサネットポート 2 経由で行います。
Room Panorama	6	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1920 × 1080 (60fps) コネクタ 2: 1920 × 1080 (60fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 で 30fps コネクタ 4: 3840 × 2160 で 30fps コネクタ 5: 3840 × 2160 で 30fps	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラの操作はイーサネットポート 2 経由で行います。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 8 13/)

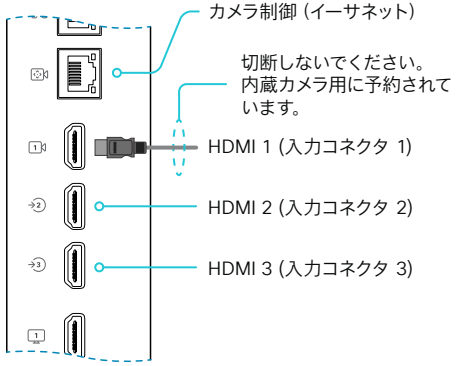
入力コネクタ

一般に、周辺機器に接続または切断する場合は、電源をオフにすることをお勧めします。それでも、ラップトップをいつでも接続して、ローカルで、または通話中に、デバイスの電源を切ることなく、コンテンツを共有できます。



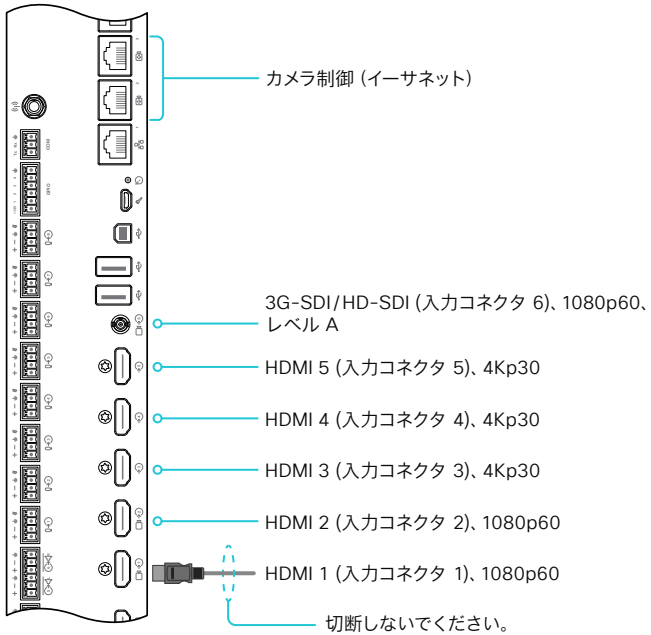
これらのデバイスのコネクタ パネルと電源スイッチにアクセスするには、左側のサイド カバーを取り外します。カバーはマグネットで留められます。

Room 55 Dual および Room 70



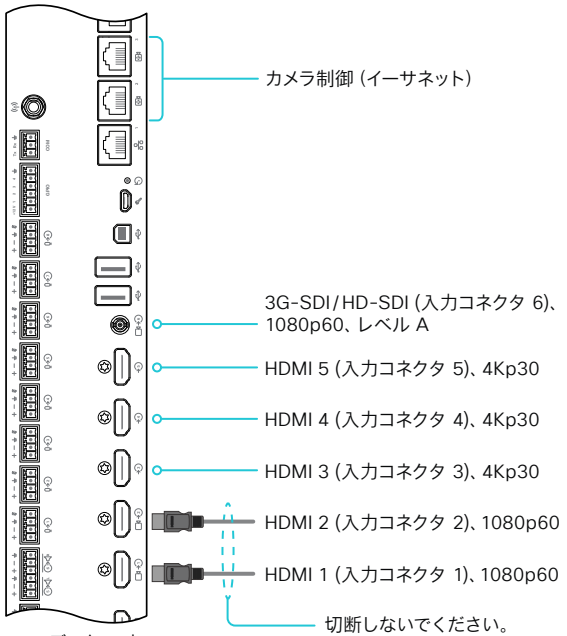
コーデック コネクタ パネル

Room 70 G2



コーデック コネクタ パネル

Room 70 Panorama



コーデック コネクタ パネル

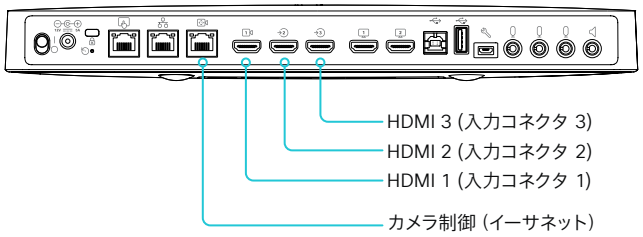
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 9 13/)

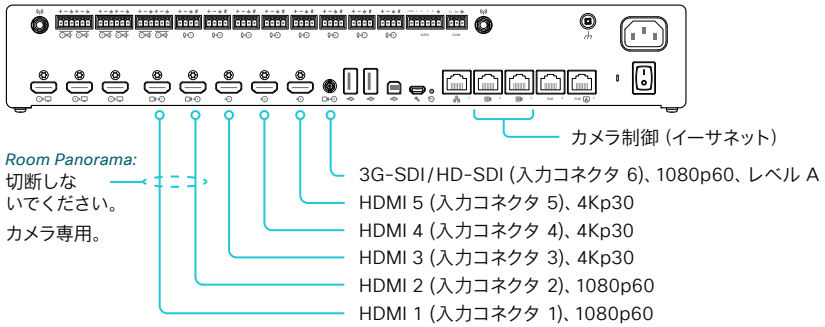
入力コネクタ

一般に、周辺機器に接続または切断する場合は、電源をオフにすることをお勧めします。それでも、ラップトップをいつでも接続して、ローカルで、または通話中に、デバイスの電源を切ることなく、コンテンツを共有できます。

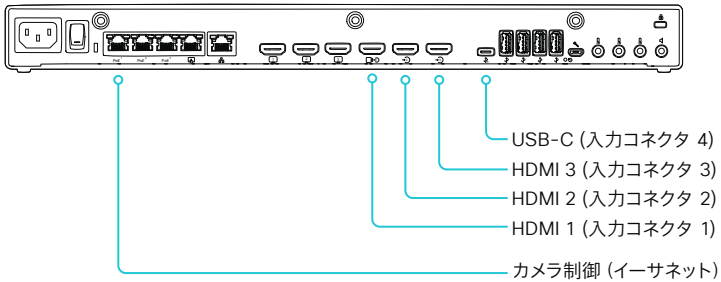
Codec Plus



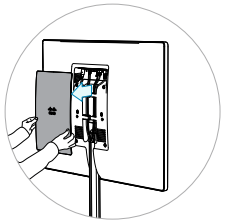
Codec Pro および Room Panorama



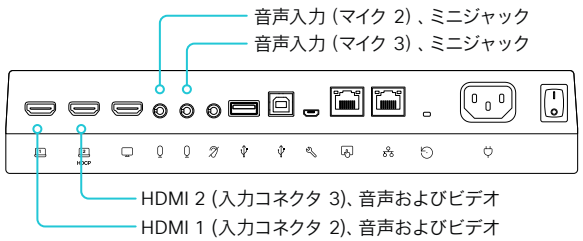
Codec EQ



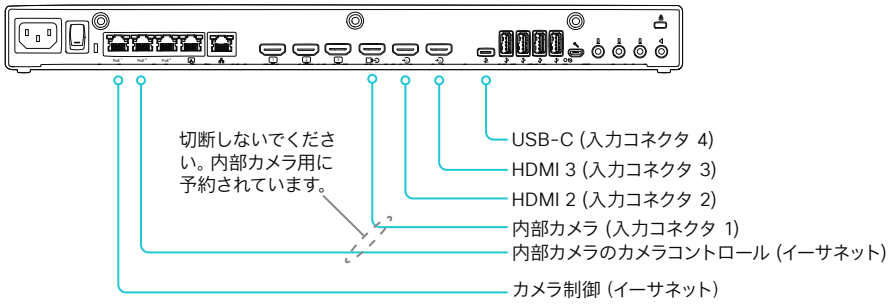
Room 55



コネクタパネルと電源スイッチにアクセスするために、後部カバーを取り外します。



Room Kit EQX



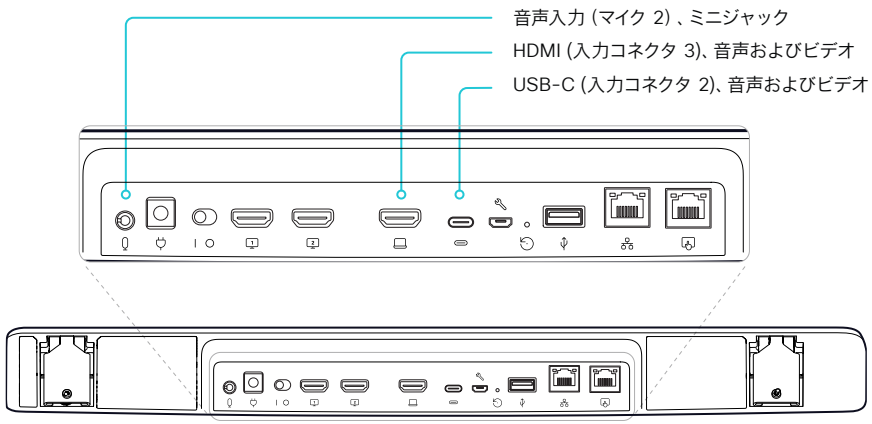
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 10 13/)

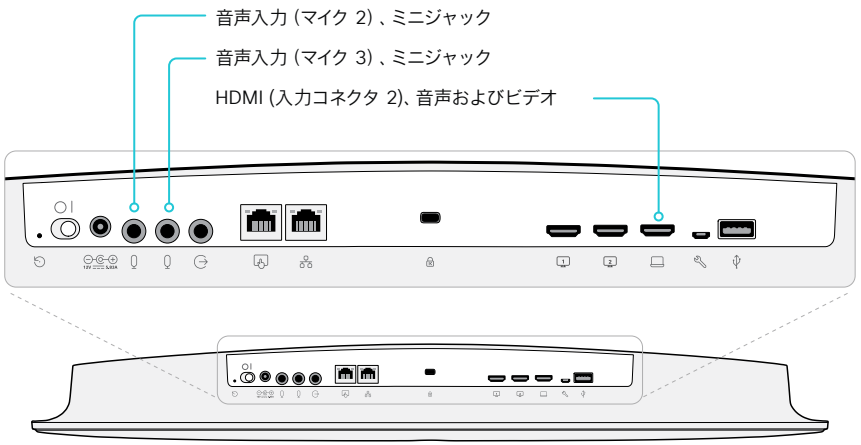
入力コネクタ

⚠ 一般に、周辺機器に接続または切断する場合は、電源をオフにすることをお勧めします。それでも、ラップトップをいつでも接続して、ローカルで、または通話中に、デバイスの電源を切ることなく、コンテンツを共有できます。

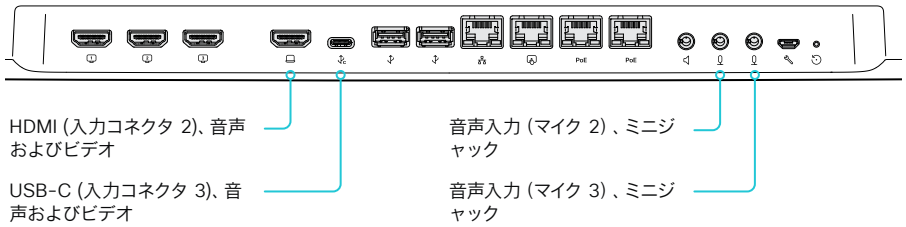
Room Bar



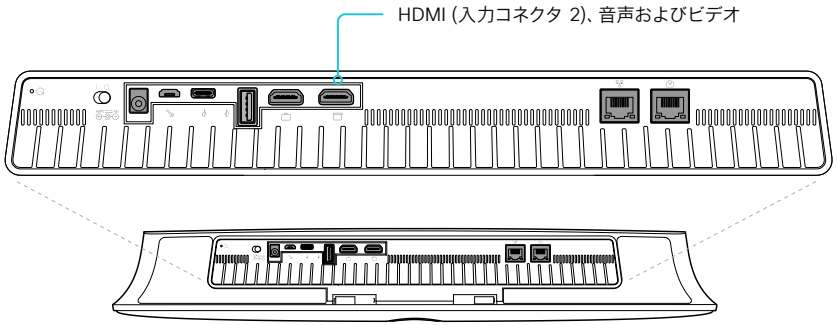
Room Kit



Room Bar Pro



Room Kit Mini



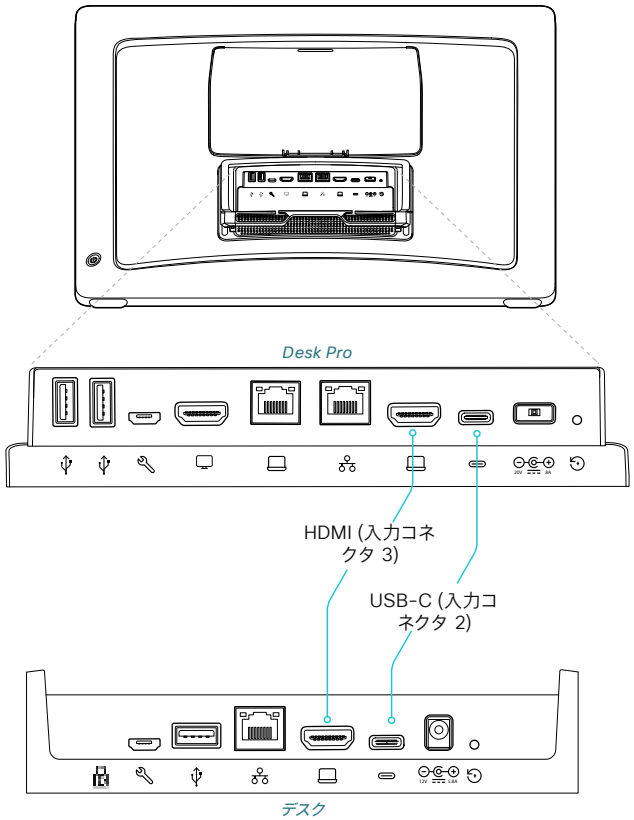
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 11 13/)

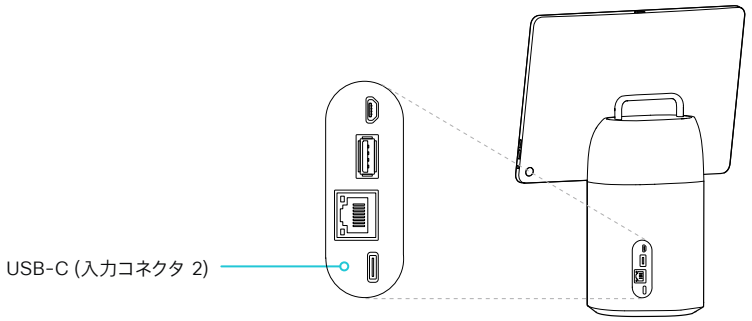
入力コネクタ

一般に、周辺機器に接続または切断する場合は、電源をオフにすることをお勧めします。それでも、ラップトップをいつでも接続して、ローカルで、または通話中に、デバイスの電源を切ることなく、コンテンツを共有できます。

Desk および Desk Pro



Desk Mini



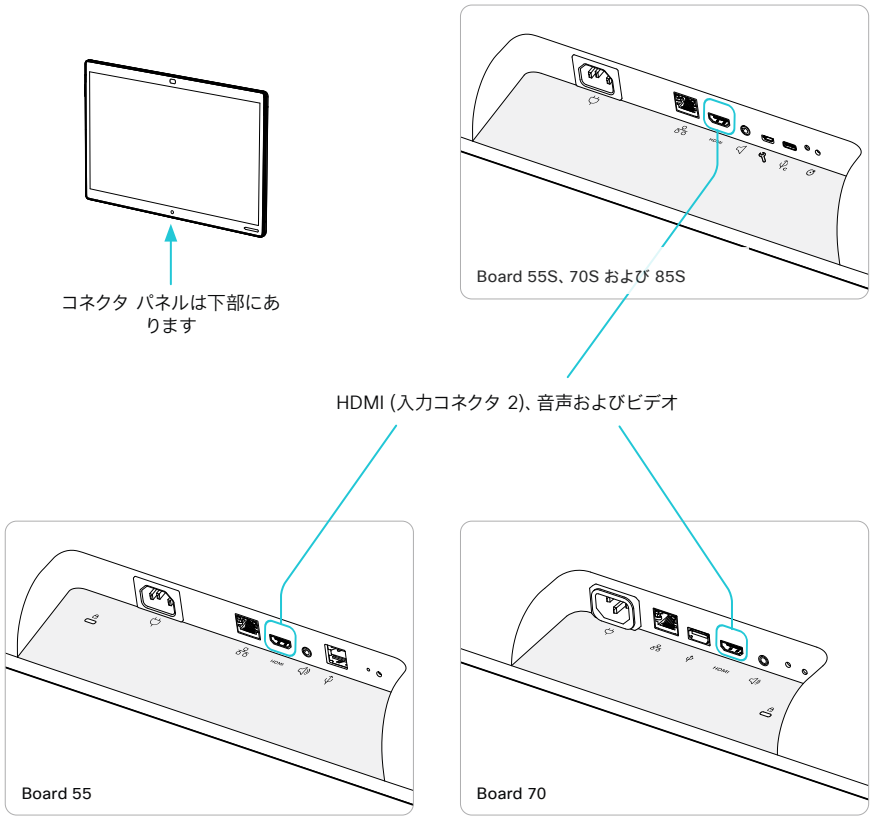
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 12 13/)

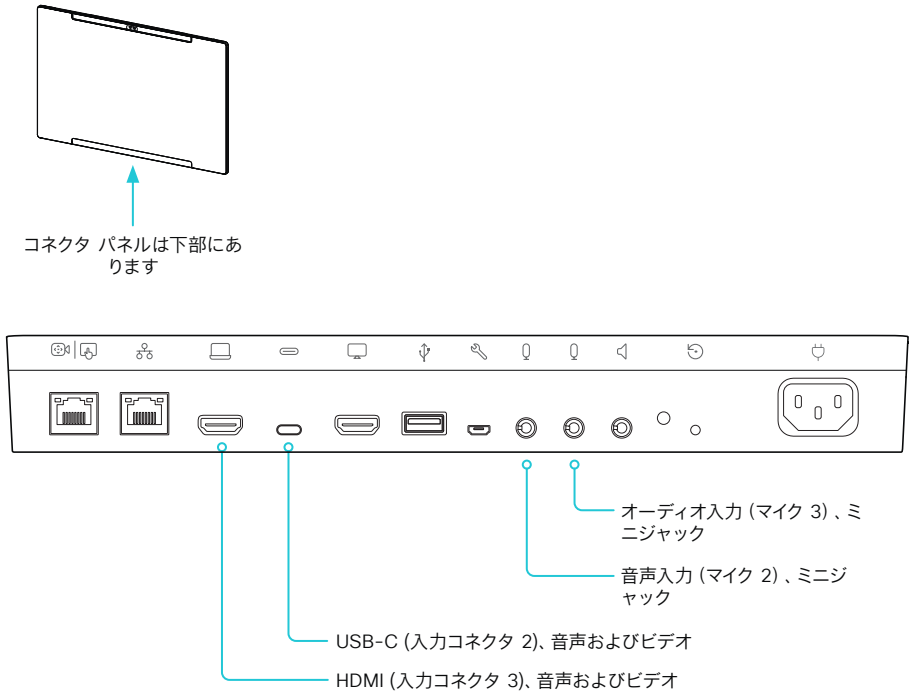
入力コネクタ

一般に、周辺機器に接続または切断する場合は、電源をオフにすることをお勧めします。それでも、ラップトップをいつでも接続して、ローカルで、または通話中に、デバイスの電源を切ることなく、コンテンツを共有できます。

Board



Board Pro



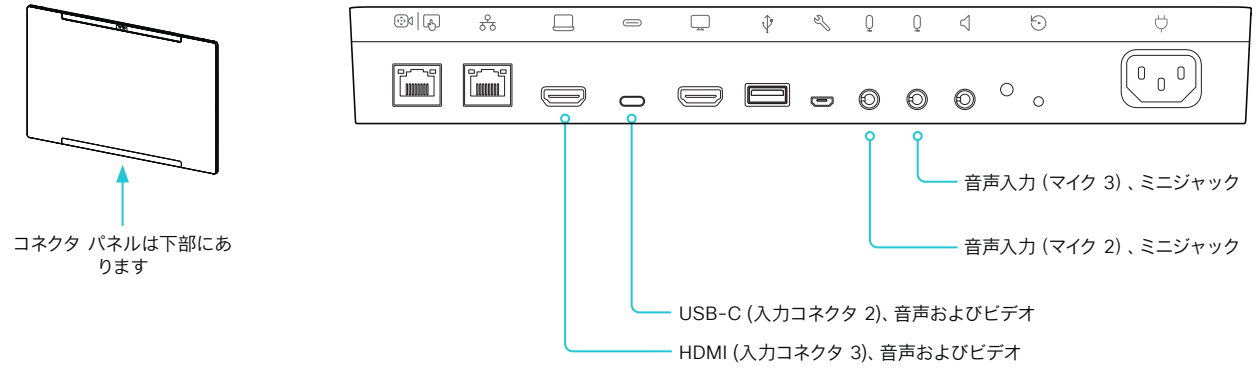
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースを接続する (ページ 13 13/)

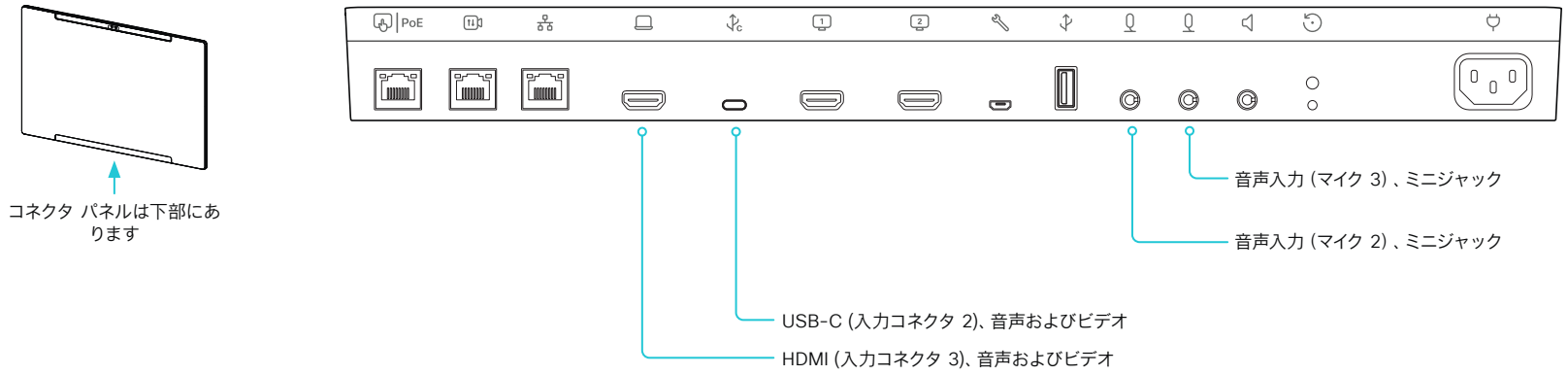
入力コネクタ

一般に、周辺機器に接続または切断する場合は、電源をオフにすることをお勧めします。それでも、ラップトップをいつでも接続して、ローカルで、または通話中に、デバイスの電源を切ることなく、コンテンツを共有できます。

Board Pro



Board Pro G2

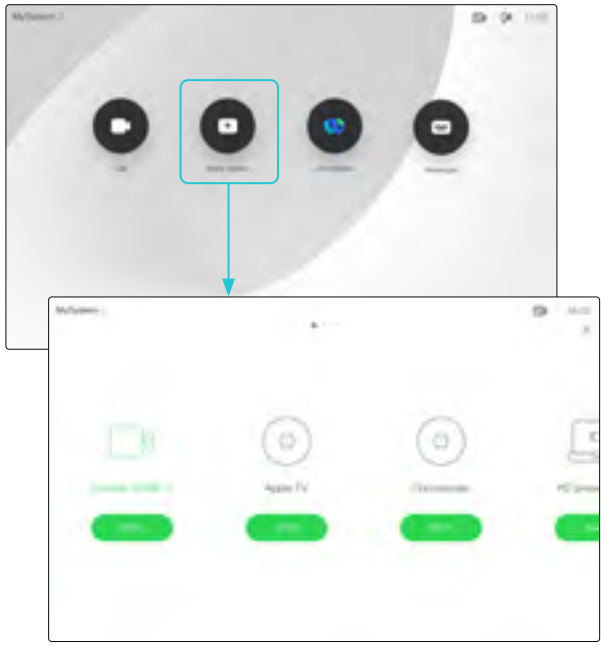


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースの数を増やす

タッチ ユーザ インターフェイスをカスタマイズして、サードパーティの外部ビデオ スイッチに接続された入力ソースを含めることができます。

ソースはビデオ会議デバイスに直接接続されている他のビデオ ソースと同様に表示され、動作します。



複数の外部入力ソースを備えたユーザーインターフェイス (例)

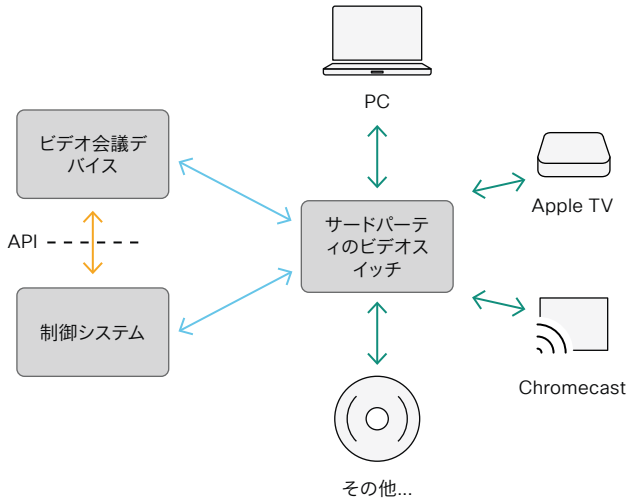
ユーザーインターフェイスの拡張方法、およびデバイスの API を使ったセットアップ方法の詳細は、 *カスタマイズガイド* を参照してください。次のリンクにアクセスします。

► https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

Architecture

タッチ インターフェイスを備えた Cisco ビデオ会議デバイス、サードパーティのコントロール システム (Lightware、Crestron、AMX など)、サードパーティのビデオ スイッチが必要です。ビデオスイッチを制御するのはコントロールシステムであり、ビデオ会議デバイスではありません。

コントロールシステムをプログラムする際には、ビデオスイッチとタッチ インターフェイス上のコントロールに接続するために、ビデオ会議デバイスの API (イベントおよびコマンド)* を使用する必要があります。このようにして、入力ソースの実際の状態を持つユーザーインターフェイスに表示され、実行されることを同期させることができます。



* 制御システムのプログラミング時に必要な API コマンドにアクセスするには、ルーム管理、インテグレータ、または管理者のユーザーロールを持つユーザーが必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ディスプレイに関する情報

ディスプレイの勧告

ビデオ会議のテクノロジー リーダーである Cisco は、サードパーティのディスプレイを使用したプレミアム ミーティング エクスペリエンスをさらに確実にするために、認定プログラムを作成しました。

Cisco の認定は、厳格な分析とテスト仕様に基づいて行われます。これらは、エンジニアリングの意図を忠実に再現するパフォーマンスの標準的なポイントを定義します。

Cisco コラボレーション デバイスは、画質を最適化し、カメラから画面への遅延を最小化し、堅牢なスタンバイ処理を実装するなど、最適なエクスペリエンスを実現するために設計されています。

Cisco 認定または互換性のあるディスプレイ

Cisco 認定または互換性のあるディスプレイの使用をお勧めします。互換性は確認済みです。Cisco デバイスに接続した場合に最高のエクスペリエンスが得られます。

認定プログラムに関する情報およびサポートされているサードパーティ ディスプレイのリストは、次の場所で確認できます:

▶ https://cs.co/certifiedvendors

その他のディスプレイ

認定済みのディスプレイを使用していない場合、ディスプレイを最高のエクスペリエンスを提供するように設定することが重要です。

デフォルトのディスプレイ設定では、ほとんどのディスプレイの遅延が非常に高くなります (>100 ms)。これは、リアルタイム通信の品質に悪影響を与える可能性があります。

次のディスプレイ設定により、遅延が軽減される場合があります。

- *ゲームモード、PC モード、または応答時間を短縮するために設計された同様のモードを有効にする。通常、遅延も軽減します。*
- *モーションフロー、ナチュラル モーションなどのモーション スムージングを無効にします。遅延を引き起こす他のビデオ処理を無効にします。*
- *仮想サラウンド効果や動的圧縮などの高度な音声処理を無効にしてください。これらは音響エコーキャンセリングで不具合を引き起こします。*

自動入力切り替えおよびスタンバイ制御を実現するには、ディスプレイのコンシューマー向け電子機器コントロール (CEC) 機能を手動で有効にする必要がある場合があります。

この機能は次のように使用されます。

- ディスプレイ上のアクティブビデオ入力は、製造元のユーザーインターフェイスを通じて、ユーザーによって変更できます。そのため、通話が発信されると、ビデオ会議デバイスはアクティブなビデオ入力ソースに問い合わせ、必要に応じてこの入力ソースを自分自身に切り替えます。
- ビデオ会議デバイスがアクティブな入力ソースでない場合にスタンバイ状態になると、ディスプレイはスタンバイ状態になりません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

解像度に関する情報

コンピュータを接続する

ビデオ会議デバイスに送信する解像度を最終的に決定するのは、接続されているコンピュータまたは他の入力ソースです。

ビデオデバイスは、サポートしている解像度とその優先解像度を通知します。既定の優先解像度は、ビデオデバイスによって異なります。また、同じデバイスの異なるコネクタは、異なる解像度をサポートし、優先することがあります。

デフォルトの優先解像度は次のように変更できます。

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *ビデオ > 入力 > コネクタ n > PreferredResolution*に移動し、値を調整します。
3. *[保存 (Save)]* をクリックします。

コンピューターの接続時にエラーが発生した場合は、画面またはタッチコントローラにメッセージが表示されます。

外部ディスプレイに接続する

(次の製品を除くすべての製品: Board、Desk、Desk Mini、Room 70 Panorama、Room Panorama)

デバイスを初めて起動するとき、設定アシスタントが自動的に開始します。ここでは、外部ディスプレイのテストと設定の調整を行います。画面の指示に従います。

後の段階で外部ディスプレイの設定を調整する必要がある場合は、デバイス ウェブ インターフェイスにログインして *[設定 (Settings)]* に移動し、*[構成 (Configurations)]* を選択します。 *ビデオに移動 > 出力 > コネクタ n > 解像度*をクリックし、画面の解像度を調整します。お使いのディスプレイがサポートする解像度に合わせて解像度を設定します。

画面が真っ暗になったり、ちらつく場合は、解像度を低く設定します。それでも問題が解決しない場合は、ケーブルが Ultra HD をサポートするディスプレイのポートに接続されていることを確認してください。また、お使いのディスプレイで Ultra HD 設定がオンに設定されていることを確認してください。

Cisco は Webex Room 認定済みおよび互換性のあるディスプレイのリストを提供しています。▶ディスプレイに関する情報 章を参照してください。

チェックリスト

動作を保証するには、Cisco のケーブル、またはその他の認定済みケーブルを使用してください。▶ HDMI および USB-C ケーブルに関する情報 章を参照してください。

ビデオ会議デバイスのコネクタ (入力および/または出力) が正しく設定されていることを確認してください。

接続されている外部デバイスが 4K をサポートしており、正しく設定されていることを確認してください。

4K の使用に伴い、高品質ケーブルのニーズが高まります。

- 4kp30 は 1080p60 の約 2 倍のデータレートを使用します
- 4kp60 は 1080p60 の約 4 倍のデータレートを使用します

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

HDMI および USB-C ケーブルに関する情報

以下には HDMI または USB-C ケーブルが必要です。

- プレゼンテーションのソース
- 外部カメラ *(Board、Desk、Desk Mini、Desk Pro ではサポートされていません)*
- 外部ディスプレイ *(Board、Desk、Desk Mini ではサポートされていません)*

HDMI 入力/出力を持つデバイス、USB-C 入力/出力を持つデバイス、HDMI と USB-C 入力/出力の組み合わせを持つデバイスがあります。各デバイスのコネクタパネルの詳細については、 物理インターフェイス の章を参照してください。

動作を保証するため、Ciscoから1,2 にケーブルを注文するか、認定済みのケーブルを使用することをお勧めします。

プレゼンテーションソース用 HDMI ケーブル

プレゼンテーションソースには、PC/ラップトップ、ドキュメントカメラ、メディアプレーヤー、ホワイトボード、またはその他のデバイスを使用できます。

1920×1080@60fps を超える解像度の形式では、高速 HDMI ケーブルを使用する必要があります。動作保証については、Cisco の HDMI ケーブルを使用するか、高速 HDMI 1.4b カテゴリ 2 仕様に準拠するケーブルを使用してください。

Cisco に HDMI プレゼンテーション ケーブル (HDMI 1.4b カテゴリ 2) を注文することをお勧めします。

外部カメラおよびディスプレイ用 HDMI ケーブル

1920×1200@60fps を超える解像度の形式では、高速 HDMI ケーブルを使用する必要があります。動作を保証するには、3840×2160@60fps での使用に対して事前に Cisco認定済みの HDMI ケーブルを使用してください、またはプレミアム HDMI ケーブル認証プログラムに合格したケーブルを使用してください。

HDMI ケーブルを延長する

通常、1920×1200@60fps より大きい形式の場合、高品質の高速 HDMI ケーブルを使用してソースをデバイスに直接接続することを推奨します。

単一のケーブルの対応範囲を超えてケーブルの到達距離を延長するには、必要な距離にわたって信号品質を維持できるエクステンダーまたはリピーターが必要です。パッシブアダプターは使用しないでください。

USB-C ケーブル

通常、USB-C ケーブルは USB 3.1 Gen 1 / USB 3.2 Gen 1x1 に対応する必要があります。

- パッシブケーブルの最大長さは2メートル [2]
- 電力供給 3A か 5A (60W か 100W) [4]
- DisplayPort 代替モードのサポート

関連資料

HDMI

HDMI ケーブルの詳細については、http://www.hdmi.org を見てください。

入力ソースとディスプレイをビデオ会議デバイスにつなぐ

以下のセクションでは、ディスプレイ、カメラ、およびコンピュータを異なるビデオデバイスに接続する方法に関する詳細を記載しています。

▶ 入力ソースの接続

▶ スクリーンおよびその他の出力デバイスを設定する

---

[1] 当社の 4K マルチヘッド ケーブル CAB-HDMI-MUL4K-9M および CAB-HDMI-MUL4K-2M は、最大 4Kp30 の解像度をサポートし、Board および Room シリーズのデバイスと互換性があります。ケーブルには HDMI タイプ A ↔ USB-C、Mini ディスプレイ ポート、HDMI タイプ A のコネクタがあります。

当社の 1080p マルチヘッドケーブル (CAB-HDMI-MULT-9M) はこれらのデバイスとの互換性がありません。

[2] 9m *アクティブ* オプティカル USB-C ケーブル (CAB-USBC-AC-9M) は USB 3.1 Gen 1 / USB 3.2 Gen 1x1 に準拠し、充電 (60W) が可能です。ケーブルは最大 4Kp60 の解像度をサポートし、Desk と Desk Pro を除く USB-C コネクタを持つすべてのデバイスで使用できます (コネクタの物理的なサイズによる例外があります)。

[3] 8m *アクティブ型* HDMI ケーブル (CAB-PRES-2HDMI-GR) は最大 4Kp30 の解像度に対応します。これはプレゼンテーション ソース専用です。ARC (クワッドカメラ) を必要とするカメラには使用しないでください。

[4] USB-C 経由で充電する電力を提供する入力にのみ必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

自動フレーミング機能をセットアップする (1/5 ページ)

デバイスの自動フレーミング機能は、カメラによって異なります。主なフレーミング機能は次のとおりです。

- 最良の概要 - 会議室のすべての参加者をカバーする最小のフレーム
- スピーカー トラッキング - アクティブな発言者にズームイン (クローズアップ)、または発言者の近くにいるユーザーのグループにズームイン (グループ フレーミング)
- フレーム - すべての人物のクローズアップの構成、余分な背景の削除

	最適な全体表示	接写とグループのフレーミング	フレーム
Board Pro G2、Board Pro、Board	x	x	x
Desk Pro、Desk、Desk Mini	x		
Codec EQ[1]、Codec Plus [2]、Codec Pro[2]	x	x	x
Room Bar、Room Bar Pro	x	x	x
Room Kit Mini、	x		x
Room Kit、Room 55	x	x	x
Room Kit EQX	x	x	x
Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2	x	x	x
Room 70 Panorama[3]、Room Panorama[3]	x	x	

最適な全体表示

頭部検出[4] と自動カメラフレーミングは、状況を評価し、会議室のすべての *人々を含む* 最適な概要 **を作成するために使用されます。** このシステムは、室内で参加者が移動したり、新たな参加者が入室した場合に、フレームにすべての人が含まれるように自動的に調整します。

最大ビュー (会議室の概要)を制限する

SpeakerTrack 60 カメラ、Desk シリーズ デバイス、または Room Panorama / Room 70 Panorama のパノラミック ビデオ シナリオではサポートされていません。

既定では、最大範囲/話者追跡 (会議室の概要) の最大ビューは、完全にズームアウトされたカメラビューです。

ユーザーは、ユーザーインターフェイスでズームアウトが少ないビューを最大表示に定義することができます [5]。

ミーティングゾーンを使用して表示を制限する

SpeakerTrack 60 カメラではサポートされていません。

会議エリア機能を使用すると、発言者トラックとビデオ フレーム ロジックがビデオ フレームに何を含めるかを決定するときに使用する領域を制限できます。この機能は、オープンOffィスや、壁がガラス張りの会議室などで便利です。定義された会議エリアの外にいる人々は、最も適切なビデオ フレームの選択に影響を与えません。

▶ 章を読み、ミーティングゾーンのセットアップ方法を学習してください。

接写とグループのフレーミング

Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Kit Mini では対応していません。

クローズアップが有効 (*[カメラ] > [スピーカートラック] > [クローズアップ]*) とき、オーディオトラッキングは室内でアクティブな発言者の位置を特定するために使用されます。

発言者が見つかると、デバイスは、発言者のみにフォーカスしてズームするか (クローズアップ)、あるいは、発言者だけでなく参加者をも含むフレームを作成するか を決定します。他の参加者はフレームから除外されます。

会議室にいる全員を常にカメラ フレームに映し出すには、クローズアップ機能をオフにします。

グループ フレーミングをサポートするカメラとデバイスの場合、適切なグループ フレーミングを見つけることは、アクティブな発言者のみのクローズアップを作成することよりも優先されます。これには、スイッチの総数が減るというプラスの効果があり、それにより、より自然なユーザーエクスペリエンスを提供します。例えば、フレーム内にいる別の人が話し始めても、カメラはリフレームする必要はほとんどありません。

また、カメラの最大ズーム倍率と発言者とカメラの距離によっては、発言者だけのフレームを作成できない場合があります。

[1] クアッド カメラが必要です。

[2] Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラが必要です。

[3] パノラマビデオのシナリオでは、2カメラのパノラマビューをオフに切り替えることはできません。他のすべてのシナリオでは、自動フレーミング機能が動作し、この章で説明されているように設定できます。

[4] 例外: SpeakerTrack 60 カメラは、頭検出アルゴリズムの代わりに顔検出アルゴリズムを使用しています。そのため、人々がマスクを着用している場合、スピーカー トラッキング/ベスト オーバービューは適切に機能しません。

[5] Board シリーズの場合: 接続されたタッチコントローラからの新しい表示制限のみ定義できます。Board自体からではありません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

自動フレーミング機能をセットアップする (ページ 2/5)

フレーム

フレームが有効になっている場合 *([カメラ (Cameras)] > [SpeakerTrack] > [フレーム (Frames)] > [モード (Mode)])*、カメラは個々の人々や小さなグループをズームして表示します。これらの個人フレームとグループフレームは、さらに 1 つの出力ビデオストリームに合成されます。このストリームでは、余分な背景が削除され、人物がより近くに表示され、同じサイズで、同じ目の高さで表示され、最大 8 つのフレームが 2 列に表示されます。

カメラは最大 4 つのフレームをサポートします。すべての画像処理は送信側で行われるため、受信側のデバイスがフレームをサポートしている必要はありません。

フレームモードは発言者トラッキング技術に依存します。このため、フレームを機能させるには *[カメラ (Cameras)] > [SpeakerTrack] > [モード (Mode)]* を Auto に設定する必要があります。

ビデオストリームが フレームなしで有効です

ビデオストリームが フレーム有効時です

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

自動フレーミング機能をセットアップする (5ページ中の3ページ)

カメラの詳細

Cisco クアッド カメラ

(Codec EQ、Codec Plus、および Codec Pro のオプション)

- カメラは最適な概観、クローズアップ、グループフレーミングをサポートします。
- 適切なグループ フレーミングを見つけることは、アクティブな発言者のみのクローズアップを作成することよりも優先されます。
- カメラの最大ズーム倍率は SpeakerTrack 60 カメラより低いため、カメラから遠く離れた発言者を細かくズームインすることはできません。
- プリセット カメラ位置に保存できる最大ズーム レベルは 95% です。この最大値を超えるズームレベルは 95% で保存されます。
- 照明や音響など特定の部屋の条件は、Quad カメラが存在するすべての人を検出する能力に大きな影響を与える可能性があります。話者トラッキング機能は、カメラの位置に対して最大8m/26ftの深さと最大5m/16ftの幅を持つ座席エリアと組み合わせた最適な部屋の条件下で最もよく機能します。 最適でない部屋の状態や、カメラの距離が 8m/26 フィート以上の場合、パフォーマンスが落ちます。
- 水平方向の視野 (83°) の外側に座っている参加者は検出されません。

Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラ

(Codec Plus および Codec Pro のオプション)

- デュアル カメラ アセンブリは、最良の概観とクローズアップをサポートする 2 つのカメラで構成されています。
- グループ フレーミングはサポートされていません。発言者の変更が検出されると、ビデオ会議デバイスが 2 つのカメラを自動的に切り替え、常に最適なカメラ フレームを表示します。
- カメラの位置に対し、部屋の座席エリアが最大 9m/30フィートの深さ以下、5m/16フィート幅の場合に SpeakerTrack 60 は最適に動作します。
- 水平方向の視野 (80°) の外側に着席している参加者は検出されません。照明などの部屋の条件も、カメラが人を検出する能力に影響を与えます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

自動フレーミング機能をセットアップする (4/5 ページ)

デバイス ウェブ インターフェイスにログインし、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択して、参照される設定を見つけます。

自動フレーミング機能を設定する

最適な概観 / スピーカートラッキング

[カメラ] > [スピーカー トラック] > モード

ベスト オーバービュー / スピーカー トラッキングを有効または無効にします。

自動: ベスト オーバービュー / 話者トラッキングはデフォルトで有効になっています。カメラのコントロールパネルのユーザーインターフェイスからすぐにモードのオンオフを切り替えることができます。

オフ: 最適なビュー / スピーカートラッキング がオフになり、ユーザーインターフェイスからオンに切り替えることはできません。

接写とグループのフレーミング

Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Kit Mini では対応していません。

[カメラ] > [スピーカートラック] > クローズアップ

この設定が適用されるのは、*[カメラ (Cameras)] > [SpeakerTrack] > [モード (Mode)]* が **Auto** に設定されている場合です。

クローズアップとグループ フレームの機能をオンまたはオフにします。

自動: 動作はデバイスタイプによって異なります。*Board* は常に会議室にいる全員をカメラフレームに収めるよう努めます。他のデバイスは発言者のみ、または発言者または発言者の近くにいる参加者 (グループフレーム) にズームインします。

オフ: デバイスは常に会議室の全員をカメラフレームに保ちます。

オン : 他のデバイスはズームインします 発言者のみ、または発言者または発言者の近くにいる参加者 (グループフレーム) が表示されます 。

フレーム

Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room 70 Panorama、Room Panorama には対応していません。

[カメラ] > [スピーカー トラック] > [フレーム] > [モード]

この設定が適用されるのは、*[カメラ (Cameras)] > [SpeakerTrack] > [モード (Mode)]* が **Auto** に設定されている場合です。

フレーム カメラ モード (余分な背景の除去) のサポートをオン/オフにします。

自動: ユーザーはデバイスのユーザ インターフェイス上のカメラ コントロールを使用して、フレームのオン/オフを切り替えることができます。

オフ: フレームは利用できません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

自動フレーミング機能をセットアップする (5/5 ページ)

トラッキングモード

これらのデバイスがSpeakerTrack 60 カメラを使用している場合、Codec Plus および Codec Pro に適用されます。

トラッキング モードは、トラッキング アルゴリズムが変化を検出したときに、カメラ ビューが新しい発言者に切り替わる速さを定義します。

[カメラ] > [スピーカー トラック] >トラッキングモード

自動: 既定の設定です。

保守的: 検出された変更に対するデバイスの反応が遅く、カメラ ビューの切り替えが遅くなります。

スピーカー トラック コネクタの検出

これらのデバイスがSpeakerTrack 60 カメラを使用している場合、Codec Plus および Codec Pro に適用されます。

ほとんどの場合、デバイスは Speaker Track 60 の左右のカメラがどの入力に接続されているかを自動的に検出します。そうでない場合にのみ、コネクタ検出モードを手動に設定する必要があります。

[カメラ (Cameras)] > [SpeakerTrack] > [ConnectorDetection] > [モード (Mode)]

Auto: デバイスはビデオ入力を自動的に検出します。

Manual: 各カメラのビデオ入力を手動で設定します。ビデオ会議デバイスがカメラから拡張ディスプレイ識別データ (EDID) 情報を受信しない状況では、手動構成を選択する必要があります。

コネクタ検出モードが手動に設定されている場合、左右のカメラが接続されるビデオ入力コネクタを指定する必要があります。

[カメラ] > [スピーカートラック] > [コネクタ検出] > [カメラ右]
[カメラ] > [スピーカートラック] > [コネクタ検出] > [カメラ左]

SpeakerTrack 60 の左右のカメラが接続されるビデオ入力コネクタの数を設定します。

スピーカー トラック機能によって上書きされる設定

これらのデバイスがSpeakerTrack 60 カメラを使用している場合、Codec Plus および Codec Pro に適用されます。

スピーカー トラッキングがオンの場合、これらの設定は自動的に変更されます。

- *ビデオ>入力 >コネクタn >品質*

  デュアルカメラが接続されているコネクタでは、これらの設定により常に **モーション** が強制されます。両方の設定がすでに **モーション**に設定されている場合、変更はありません。

- *[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [OptimalDefinition] > [Threshold60fps]*

  デュアル カメラが接続されているコネクタですでに等しい場合、これらの設定はそのまま残ります。等しくない場合、2 つの中で最も低いしきい値が優先されます。

- *ビデオ>入力 >コネクタ >最適定義 >プロファイル*

  デュアル カメラが接続されているコネクタですでに等しい場合、これらの設定はそのまま残ります。等しくない場合、リストの最初の値 (**Normal**、**Medium**、 **High**) を優先設定とします。これは 2 つの設定のうちの 1 つです。

スピーカー トラッキングがオフになると、上記の設定は以前の値に復元されます。これは、ユーザーインターフェイスを使用したか、*[カメラ (Cameras)] > [SpeakerTrack] > [モード (Mode)]* 設定を使用して話者追跡をオフにしたかに関係なく適用されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ミーティング ゾーンをセットアップする

SpeakerTrack 60 カメラではサポートされていません。

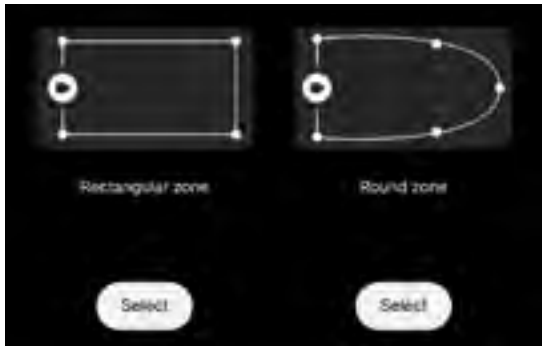
会議エリア機能を使用すると、発言者トラックとビデオ フレーム ロジックがビデオ フレームに何を含めるかを決定するときに使用する領域を制限できます。この機能は、オープンOffィスや、壁がガラス張りの会議室などで便利です。定義された会議エリアの外にいる人々は、最も適切なビデオ フレームの選択に影響を与えません。

会議エリアを設定しても、ゾーンの外側のエリアがカメラでキャプチャされず、相手に送信されないという保証はありません。

ミーティングゾーンを定義する

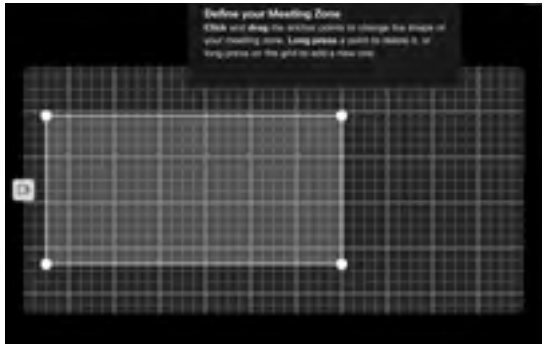
ミーティング ゾーンを定義する最も簡単な方法は、デバイスのユーザ インターフェイスでグラフィック ツールを使用することです。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *デバイスの設定*を選択します。
2. *[ミーティングゾーン]* を選択し、2 つの標準的なミーティング ゾーンレイアウト (長方形ゾーンまたは円形ゾーン) から選択します。

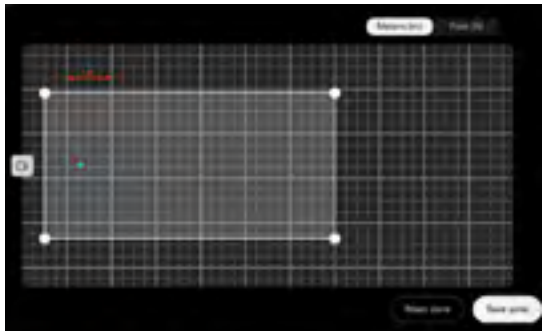


3. アンカーポイントをドラッグして、ゾーンの形を変更します。

   ポイントを長押しして削除するか、グリッド上の任意の場所を長押しして、新しいアンカーポイントを追加します。



   青い点は現在会議室にいる人々の位置を表します。これらのドットは、ミーティング ゾーンのサイズと形状が計画通りであることを確認する場合に役立ちます。部屋に複数の人がいると、より簡単です。



4. 完了したら [*ゾーンを保存*] をタップします。

代わりに、次の設定をウェブ UI または API から使用して、ミーティング ゾーンの形状を定義することもできます。

[カメラ] > [スピーカー トラック] >ミーティングゾーン >エリア

ミーティング ゾーン機能を有効にする

次の設定を使用して、ミーティングゾーンの機能を有効 (Auto) または無効 (Off) にします。

[カメラ] > [スピーカー トラック] >ミーティングゾーン >モード

ミーティングゾーンが定義され有効になっている場合、ユーザーはユーザーインターフェイス上の *ミーティングゾーンアクティブ* ボタンでオン/オフを切り替えることができます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

クロスビューと拡張発言者ビュー

クロスビューは、2 つのサイド PTZ 4K または Quad カメラ、画面の上の 1 つの Quad カメラ、Codec EQ/Room Kit EQX または Codec Pro、および Table Microphone Pro または Ceiling Microphone Pro を使用して、ミーティングに映画のようなビューをもたらす AI 主導の機能です。会議室の活動を分析し、発言者を認識し、人の向きをトラッキングすることで、システムは自動的に最高のビューに最適なカメラ アングルを選択します。

拡張発言者ビュー機能を使用すると、テーブルの後ろの端にいる人も含め、すべての参加者を高画質でクローズアップしてビデオ会議を強化できます。これを実現するには、Quad カメラの上にマウントされた PTZ 4K カメラ、Codec EQ/Room Kit EQX または Codec Pro、および卓上型マイクまたはシーリング マイク Pro が使用されます。

注 : エクスペリエンスと品質の改善は、今後のリリースで期待できます。今後、改善が確認され次第、再度会議室を設定する必要があります。

参考資料

クロスビューおよび拡張発言者ビューを適切にインストールして使用するためには、『会議室準備のガイドライン』をお読みください。

https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/camera/cross-view_guidelines.pdf

これらのガイドラインは、会議室の寸法、カメラの配置、およびその他の要因 (テーブル サイズ、席の配置、マイク、音響上の考慮事項、照明など) に関連する要素をカバーしています。

「複数のカメラディレクターのセットアップ」を確認し、複数カメラディイレクターの設定ウィザードの各ステップを確認してください。

https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/camera/Multi_camera_director_setup.pdf

「キャリブレーションボード」をダウンロードして印刷してください。複数カメラディイレクターのセットアップウィザードで必要になります。

https://help.webex.com/ikp5ys/

「外部マイクを使用して SpeakerTrack」を確認し、ウィザードの各ステップに従って Table Microphones Pro を使用して発言者の位置をトラッキングします。これにより、ビデオのフレーミングが向上します。

https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/camera/SpeakerTrack_using_external_microphones.pdf

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

PresenterTrack 機能をセットアップする (1/6 ページ)

PresenterTrack 機能を使用すると，カメラがステージ上の講演者の動きを追跡することができます。講演者がステージを離れると，追跡機能が停止します。

PresenterTrack のサポートはビデオデバイスとカメラの両方に依存します。プレゼンタトラッキングをサポートしているデバイスとサポートに必要なカメラが表に一覧表示されます。

機能と制限

- セットアップが完了したら、ユーザーはタッチコントローラのカメラ パネルから PresenterTrack を有効または無効にすることができます。
- カメラはデジタルパン、チルト、ズームを使用するため、プレゼンタの追跡中に物理的に移動することはありません。
- PresenterTrack は、ステージ上の 1 人または複数の人物のトラッキングをサポートしています。拡大表示の範囲内に収まらない場合には、カメラはズームアウトしてステージ全体を表示します。
- PresenterTrack は、スタンドアロン機能として、またはプレゼンタ、オーディエンス、ブリーフィングルームやクラスルームのシナリオの一環として使用することができます。
- PresenterTrack と SpeakerTrack を同時に使用することはできません。
  - PresenterTrack をアクティブにすると、SpeakerTrack は自動的に非アクティブ化します。
  - SpeakerTrack を有効にすると、PresenterTrack は自動的に無効になります。

  これには 1 つの例外があります。 プレゼンタとオーディエンス ブリーフィングルーム、および教室のシナリオでは、両方の機能が Q&A モードで同時にアクティブになります (デバイスが *ローカルプレゼンタ* モード中に、ローカル聴衆者が質問をしたとき)

PresenterTrack をサポートするデバイスとカメラ

	PTZ 4K カメラ	Precision 60 カメラ
Board Pro G2	✓	
Board Pro	✓	
Codec EQ	✓	✓
Codec Plus*	✓	✓
Codec Pro*	✓	✓
Room Bar Pro	✓	
Room Kit EQX	✓	✓
Room 55 Dual、Room 70	✓	✓
Room 70 G2	✓	✓

* SpeakerTrack 60 カメラ アセンブリを接続し、デバイスをセットアップして、アセンブリ内のカメラの1つをPresenterTrackに使用するように設定することができます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

PresenterTrack 機能をセットアップする (2/6 ページ)

カメラ設置前の考慮事項

PresenterTrack を設定する際、ステージ エリアとトリガーゾーンを定義する必要があります。ステージ上の後援者を追跡するカメラを配置する際は、位置とこのエリアの使用を考慮に入れてください。

PresenterTrack の設定を行う際は、ビデオ会議デバイスとカメラが設置された部屋で行うことを推奨します。

ステージエリア

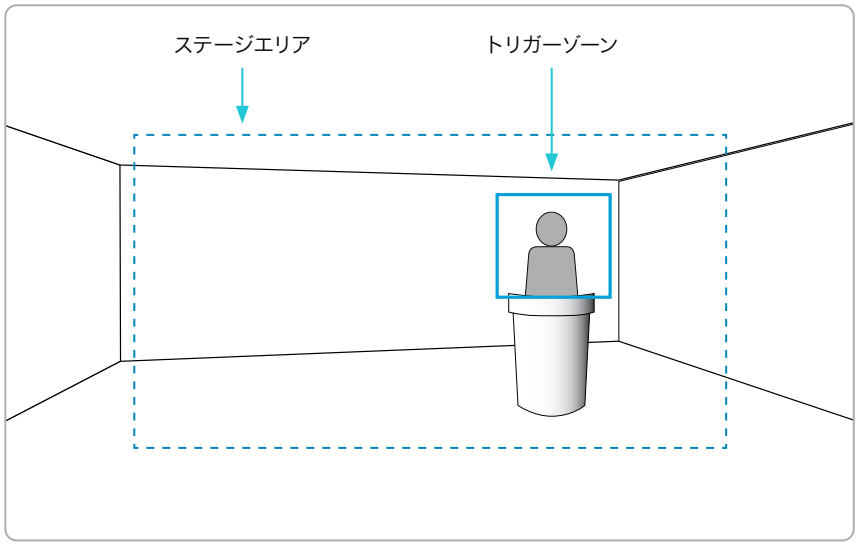
ステージ エリアがズームアウトされた概要画像です。

- 後援者のステージ上の動きを考慮して、このエリアは十分な大きさに設定します。講演者がステージ エリアを離れると, 追跡機能は停止します。
- 聴衆またはミーティングの参加者が、室内を自然に移動しても、追跡機能をトリガーしないように設定します。

トリガーゾーン

プレゼンタトラッキングは、カメラがトリガーゾーンに頭を検出するまで開始されません。

- 講演者が自然にステージに入ってくる場所を選択します（例えば、講演者テーブルや演壇など）。
- カメラが講演者の頭を検出できる範囲の大きさに設定してください。
- 誤って頭を検出することがないように、トリガーゾーンの背景は無彩色にします。トリガー ゾーンは、スクリーンの手前に設定しないでください。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

PresenterTrack 機能をセットアップする (3/6 ページ)

PresenterTrack をセットアップしてテストする

PresenterTrack の設定を行う際は、ビデオ会議デバイスとカメラが設置された部屋で行うことを推奨します。

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* タブを開きます。

   カメラが接続されるコネクタ (n) について、以下を設定します。

   - *ビデオ>コネクター n > InputSourceType*: **カメラ**
   - *[ビデオ (Video)] > [コネクタ n (Connector n)] > [CameraControl] > [モード (Mode)]*: On

2. PTZ4K カメラを使用している場合は、*[カメラ (Cameras)] > [カメラ n (Camera n)] > [VideoFormat]* :3840_2160_30 で 4K 解像度を有効にします。

   これが有効になるためには、コーデックをスタンバイ状態にする必要があります。

3. *[設定 (Settings)]* **に移動し、** *[音声とビデオ (Audio and Video)]* タブを開き、*[プレゼンタトラック (Presenter Track)]* サブタブを開きます。

4. *[プレゼンタトラッキングの有効化 (Enable PresenterTrack)]* をオンにし、*[設定 (Configure])]* をクリックして設定ページを開きます。

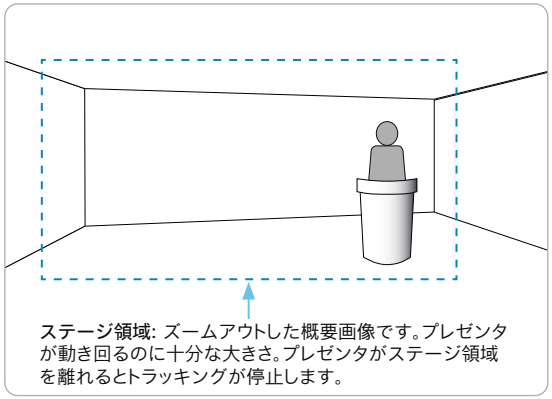
   設定ページを開くと、スタンバイ機能およびプレゼンタトラッキングが非アクティブ化され、フルスクリーンでセルフビューがアクティブになり、デバイス画面にトリガー ゾーンの枠が表示されます。

   ⚠ このウェブページを閉じる前に必ず *[完了 (Done)]* をクリックします。でないと、デバイス画面にトリガーゾーンの枠が表示されたままになります。

   または、デバイスのユーザーインターフェースのコントロールパネルを開き、*[カメラ (Camera)]* をタップし、新しいカメラモードまたはプリセットを選択して長方形を削除することもできます。

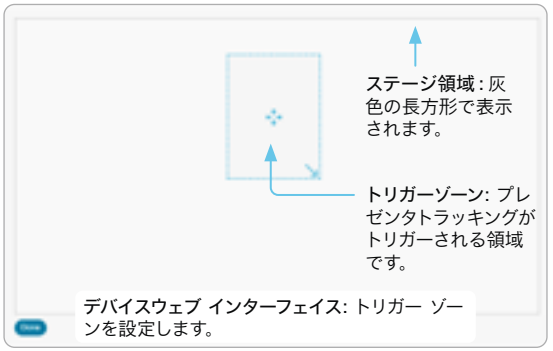
5. デバイスのユーザーインターフェイスで、コントロールパネルを開き、 *カメラ* の後に *マニュアル* を選択します。ドロップダウン リストから正しいカメラを選択します (デバイスに複数のカメラがある場合) 、タッチコントローラのカメラ コントロール (ズーム、パン、チルト) を使用して、ステージ エリアを定義します。

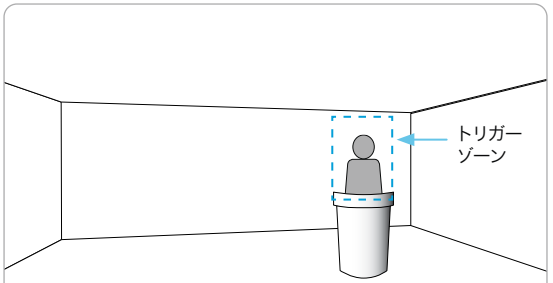
   カメラが PresenterTrack 機能をサポートしていない場合は、通知が表示されます。



ステージ領域: ズームアウトした概要画像です。プレゼンタが動き回るのに十分な大きさ。プレゼンタがステージ領域を離れるとトラッキングが停止します。

6. トリガー ゾーンを表す青の破線の長方形が、デバイスのウェブ インターフェイスに表示されます。デバイスの画面を見ながら、枠を移動させて、サイズ調整を行います。カメラのセルフ ビューにも同じ枠が表示されます。トリガー ゾーンが必要な場所に枠を配置します。





ビデオ会議デバイスの画面: トリガーゾーンを設定すると、会議室のビデオが表示されます。

より高度な多角形のトリガーゾーンをセットアップする場合は、▶ 多角形のトリガー ゾーンをセットアップする の章を参照してください。

7. [完了 (Done)] をクリックします。

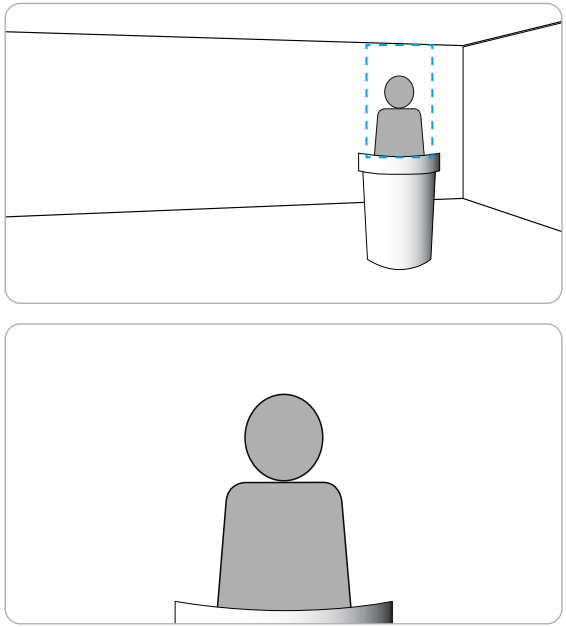
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

PresenterTrack 機能をセットアップする (4/6 ページ)

8. デバイスのユーザーインターフェイスで、コントロールパネルを開き、[*カメラ*]、[*プレゼンタ*] の順に選択します。

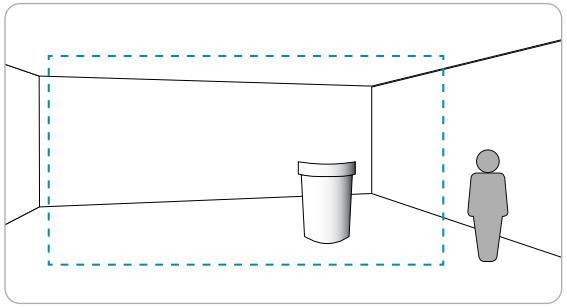
   プレゼンタトラッキングがアクティブになります。

9. トリガー ゾーン内に行ってみて、カメラがズームインされるか確認します。



10. ステージ上を動き回り、カメラが追跡していることを確認します。

11. ステージを退出したときにプレゼンタトラッキングが停止することを確認します。



何かが失敗した場合、ステップ 3、4、5 に戻って、ステージ領域とトリガー ゾーンのサイズと位置を調整します。

次のページに記載されているように、PresenterTrack *診断モードをオンにできます。*

PresenterTrack を一時的に有効または無効にする

ミーティング中に、タッチコントローラを使用して、一時的にプレゼンタトラッキングを有効または無効にすることができます。

1. デバイスのユーザインターフェイスで、コントロールパネルを開き、 *[カメラ]* を選択します。
2. カメラモードおよびプリセットの一覧から *プレゼンタ* を選択してプレゼンタトラッキングを有効にします。

   カメラモードおよびプリセットのリストから *プレゼンタ*以外を選択し、プレゼンタトラッキングを無効にします。

プレゼンタトラッキングが無効になっている場合、プレゼンタはトラッキングを開始するために、もう一度トリガーゾーンに入る必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

(6ページ中5ページ) PresenterTrack 機能をセットアップする

多角形のトリガー ゾーンをセットアップする

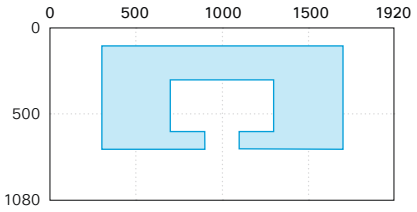
[プレゼンタトラック (Presenter Track)] Web ページで設定できるトリガー ゾーンは、四角形に限られます。

より高度な多角形トリガーゾーンを定義する場合は、*[設定 (Settings)]* に移動して *[構成 (Configurations)]* を選択し、そして *[カメラ (Cameras)] > [PresenterTrack] > [TriggerZone]* の設定に移動します。

この設定の値は、多角形のすべての頂点の座標ペアを含む文字列です。

例:

12 個の頂点を持つ次のトリガー ゾーンを定義します。こういったトリガー ゾーンは、講演者の背後に映りこませたくない画面がある場合に便利です。



頂点の座標は次のとおりです。

(300,100)
(1700,100)
(1700,700)
(1100,700)
(1100,600)
(1300,600)
(1300,300)
(700,300)
(700,600)
(900,600)
(900,700)
(300,700)

対応する設定値は次のとおりです。

Cameras > PresenterTrack > TriggerZone: 300、100、1700、100、1700、700、1100、700、1100、600、1300、600、1300、300、700、300、700、600、900、600、900、700、300、700

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

PresenterTrack 機能をセットアップする (6/6 ページ)

診断モード

問題のトラブルシューティングを行うときは、PresenterTrack 診断モードが便利なツールとなる場合があります。デバイスを診断モードに設定するには、デバイスの xAPI を使用する必要があります。

xAPI にログインして次のコマンドを実行してください:

- `xCommand Cameras PresenterTrack Set Mode: Diagnostic`

このモードでは、画面上のステージ領域 (縮小された概観図) と、次のインジケーターを持つオーバーレイが表示できます。

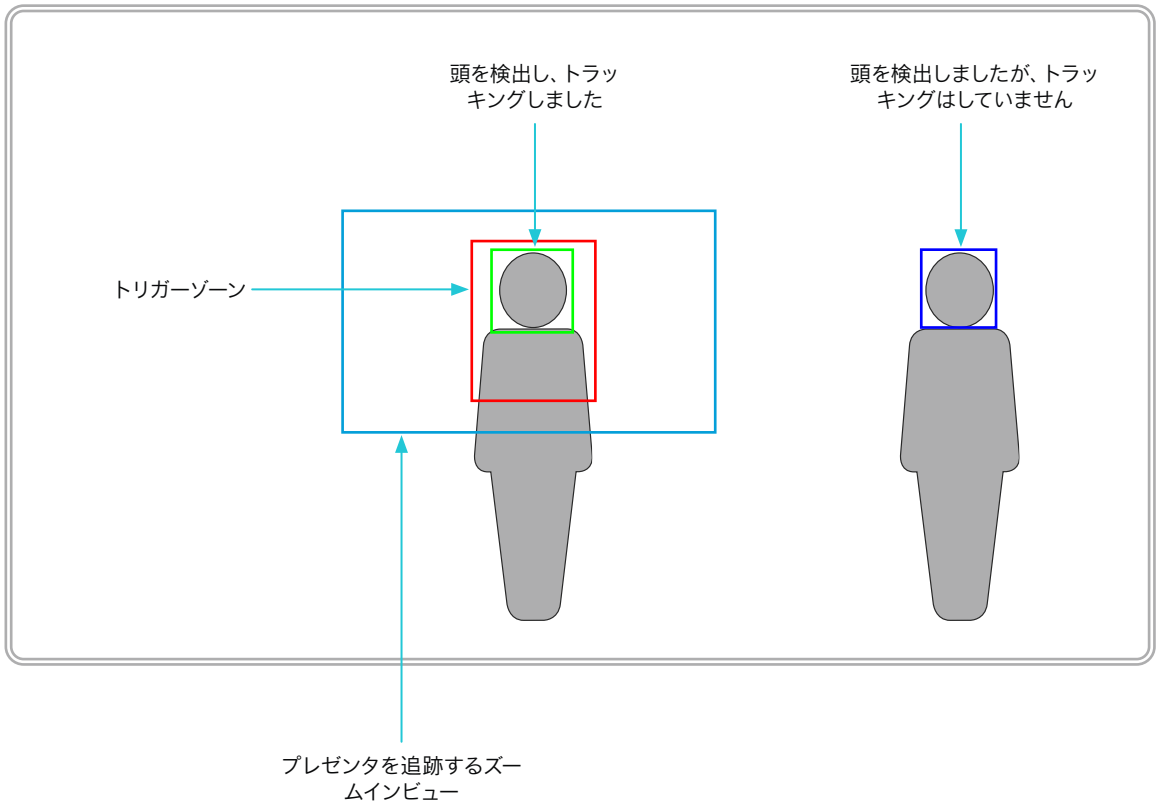
赤色の枠 : トリガー ゾーン。

明るい青のフレーム: プレゼンタのズームインビュー。

緑色の枠 : 頭が検出されており、追跡されている。

緑または赤の点滅枠 : 頭検出。緑色は信頼度が高いことを示し、赤色は信頼度が低いことを示します。

青: 頭は検出されましたが、頭はトラッキングされていません。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (1/14 ページ)

プレゼンタと聴衆者 のセットアップは、トレーニングセッションやタウンホールミーティングなど、会議室を使ってハイブリッドイベントを開催する場合に適しています。セットアップは 3 つのモードを中心に構築されています。

- プレゼンタは会議室にいます (ローカルプレゼンタ)
- プレゼンタはビデオでプレゼンテーションを行います (リモートのプレゼンタ)
- 会議室とビデオの両方にプレゼンタがいます (ハイブリッドプレゼンタ)

デバイスは自動的にプレゼンタの位置を検出し、それに基づいてモードを選択します。代わりに、ユーザーは自動動作を無効にして、ユーザ インターフェイスから手動でモードを選択できます。

プレゼンタとオーディエンス の設定を会議室タイプのテンプレートとして利用できます。テンプレートを使用して会議室をセットアップする場合、一連の構成がデバイスに自動的にプッシュされます。会議室が正しくセットアップされ、カメラとスクリーンが指定されたとおりに接続されていることが重要です。そうでなければ、設定は会議室と一致しません。

必要な機器

- 次のいずれかのデバイス:
  - Board Pro G2
  - Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro
  - Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2
  - Room Bar Pro
- 2 または 3 画面
- 2 台のカメラ (*オーディエンスカメラ*および *プレゼンタカメラ*)
- マイク
- ラウドスピーカー
- タッチコントローラ

詳細については、次のページを参照してください。

制約事項

- セットアップは Webex ミーティングと SIP 通話でのみ機能します。
- すべてのマイクが会議室モード (ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ) の自動切り替えをサポートしています。現在、最も高度な自動動作をサポートしているのはアナログ マイクだけです。

会議室タイプのセットアップを比較する

プレゼンタと参加者: これは次世代の *簡易会議室* および *クラスルーム* のセットアップです。更新と改善は *プレゼンタと聴衆*のみを対象としています。*

古いセットアップと比較して、次のものを得ます:

- 手動レイアウト選択オプションが簡単になりました。
- 音声アクティビティ検出に基づくカメラの切り替えを改善しました。
- タッチコントローラで利用できる診断ページなどの診断ツールが改善されました。

サポートされている製品: Board Pro G2、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、および Room Bar Pro

ブリーフィング ルーム

サポートされている製品: Board Pro G2、Codec EQ、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Bar Pro

セットアップには 3 つの画面が必要で、画面のレイアウトは特定のシナリオに合うように事前に構成されて固定されています。

クラスルーム: *ブリーフィングルーム の設定よりも、画面の数や画面上のレイアウトの配置が柔軟です。*

サポートされている製品: Board Pro G2、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、および Room Bar Pro

デバイスがサポートしている任意の数の画面 (通常は 2 または 3) を使用できます。デフォルトの動作が要件を満たしていない場合は、ビデオモニタ設定を使用して画面上のレイアウトの分布を設定します。

* *ブリーフィングルーム と クラスルーム* は今後のソフトウェアリリースで廃止される可能性があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (2/14 ページ)

定義と会議室の推奨事項

オーディエンスカメラ

それを持つビデオデバイスには、統合型カメラを使用します。他のデバイスでは、Quad Camera など、発言者トラッキングをサポートするカメラをお勧めします。また、スピーカートラッキング機能を持たないカメラを使用することもできます。

プレゼンタのカメラ

プレゼンタトラッキングが有効な PTZ 4K または Precision 60 カメラ

Screens

2 つまたは 3 つのスクリーンを使用できます (最大数はデバイスのタイプによって異なります)。

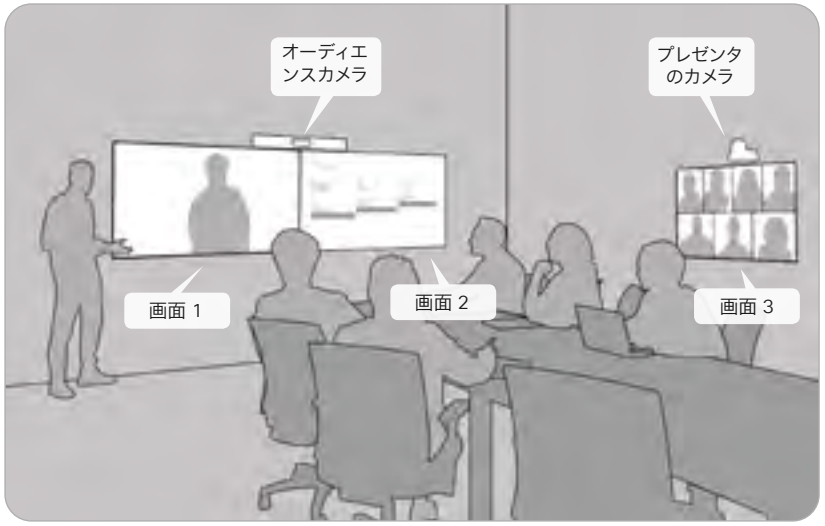
- *画面 1*: 前面に配置されます。2 つの画面を持つ統合型デバイスの場合、左側の画面です。
- *画面 2*:前面 *画面 1* の隣に配置します。2 つの統合型画面があるデバイスの場合、 *画面 2* が右側の画面です。
- *画面 3: 側面または背面に配置し、近くにいるプレゼンタが遠隔地の聴衆を見ることができるようにします。*

マイク

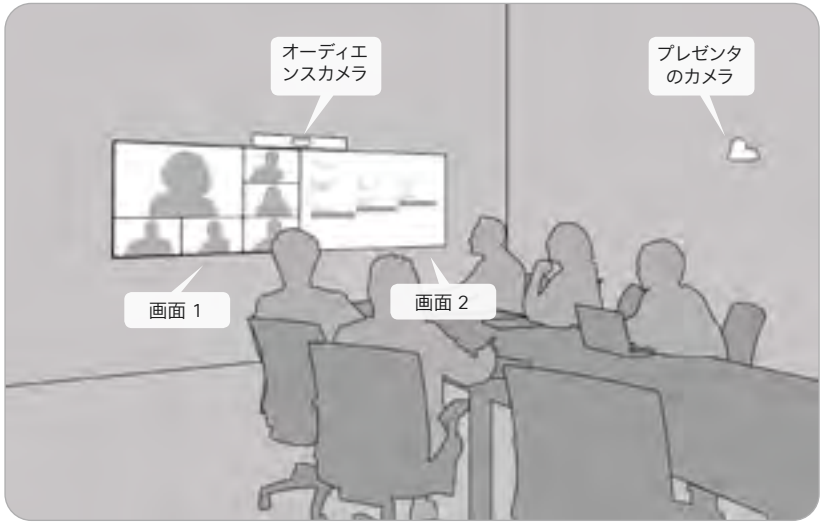
ステージを適切にカバーするにはマイクが必要で、オーディエンスがいる部屋を適切にカバーするにもマイクが必要です。

ラウドスピーカー

それを持つビデオデバイスには、スピーカーを使用します。その他のデバイスでは、高品質のステレオスピーカーをスクリーン 1 またはスクリーン 2 の隣に配置することをおすすめします。



プレゼンタとオーディエンスの3画面セットアップ



2 つの画面でのプレゼンタとオーディエンスのセットアップ

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (2/14 ページ)

会議室モード

ローカル プレゼンタ モード

プレゼンタがステージ上にいて、 *プレゼンタカメラ*で継続的にトラッキングされています。

このモードは、地元のオーディエンスの誰かが質問をした場合も含みます (Q&A) 。

リモートプレゼンタモード

プレゼンタが呼び出しをかけており、ステージ上に仮想的な存在として現れます。

ハイブリッド プレゼンタ モード

ローカル プレゼンタとリモート プレゼンタの両方が、物理的に 1 人、画面上に 1 人ずつ、同時にステージにいます。

このモードは、地元のオーディエンスの誰かが質問をした場合も含みます (Q&A) 。

		ローカルプレゼンタモード	リモートプレゼンタモード	ハイブリッドプレゼンタモード
セットアップの画面数 3	画面 1	プレゼンテーションを表示する[1]	電話で参加しているプレゼンタをフルスクリーンで表示します	電話で参加しているプレゼンタをフルスクリーンで表示します
	画面 2	プレゼンテーションを表示する[1]	プレゼンテーションを表示する[1]	プレゼンテーションを表示する[1]
	画面 3	呼び出し元のリモート参加者を表示します	呼び出し元のリモート参加者を表示します	呼び出し元のリモート参加者を表示します
セットアップの画面数 2	画面 1	リモート参加者を表示します (グリッドレイアウト)	プレゼンタと電話で参加しているリモート参加者を表示します (目立つレイアウトとアクティブスピーカー付き)	プレゼンタと電話で参加しているリモート参加者を表示します (目立つレイアウトとアクティブスピーカー付き)
	画面 2	プレゼンテーションを表示する[1]	プレゼンテーションを表示する[1]	プレゼンテーションを表示する[1]
	相手側にビデオを送る[2]	*プレゼンタカメラからビデオを送信する* Q&A : *プレゼンタカメラ* とオーディエンスカメラから*分割画面ビデオを送信する*スピーカートラッキング (つまり、ローカルのプレゼンタ **および** 質問している人) [3]	*オーディエンスカメラからビデオを送信する*	*プレゼンタカメラからビデオを送信する* Q&A : *プレゼンタカメラ* とオーディエンスカメラから*分割画面ビデオを送信する*スピーカートラッキング (つまり、ローカルのプレゼンタ **および** 質問している人) [3]

[1] プレゼンテーションがない場合、この画面には何も表示されません。

[2] さらに、プレゼンテーションが存在する場合、通常どおりプレゼンテーション チャネルの相手側にプレゼンテーションが送信されます。

[3] 自動切り替えモードでは、ローカルのプレゼンタがステージにいる間に、出席者の誰かが発言したことをデバイスが検出すると、分割画面ビデオが遠端に送信されます。ユーザーインターフェイスから手動でモードが選択され、ユーザーインターフェイスから*オーディエンスカメラを表示*に切り替えると、分割画面ビデオが遠端に送信されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (4/14 ページ)

会議室モードの切り替え

会議室モード (*ローカルプレゼンタ*、*リモートプレゼンタ*、*ハイブリッドプレゼンタ*) を切り替える。カメラ入力ソース、リモートおよびローカル画面レイアウトの変更は、次の 2 つの方法で行うことができます。

- 誰が話しているか、地元の司会者がステージにいるかどうかに基づいて自動的に表示されます。

  自動切り替えは、プレゼンタトラック機能が有効になっている (*Cameras > PresenterTrack > Enabled*が**True**に設定されている) 場合にのみサポートされます。
- **タッチコントローラのボタンを使用して手動。**

自動切り替えでは、以下が実行されます。

- 人物がプレゼンタトラックのトリガーゾーンで検出されると、デバイスは *[ローカルプレゼンタ (Local Presenter)]* モードに切り替えます。
- 追跡されていたローカルプレゼンタがステージを降りると、デバイスは *[リモートプレゼンタ (Remote Presenter)]* モードに切り替えます。
- デバイスは、 *ハイブリッドプレゼンタ* モードに切り替わります。トラッキングされているローカルのプレゼンタがまだステージ上にいる間に、遠端の人が話している場合です。
- デバイスが*ローカルプレゼンタ*または*ハイブリッドプレゼンタ*モードのときにローカルオーディエンスの誰かが質問をすると、デバイスはプレゼンタと質問者の両方を示す分割画面のビデオを送信します。これを行うには、*オーディエンスカメラ*で話者トラッキングがオンになっている必要があります。

会議室モードを手動で切り替える

ミーティング中に別のモードに切り替えることができます。

1. タッチコントローラの *[プレゼンタ & オーディエンス (Presenter & Audience)]* をタップします。
2. 変更したいモードをタップしてください: *ローカルプレゼンタ*、 *リモートプレゼンタ*、または *Hybrid プレゼンタ*。現在のモードは強調表示されています。

   ミーティング中、または別のモードを選択するまで、デバイスは選択したモードで維持されます。

   ミーティングが終了すると、システムは自動切り替え (**自動**) に切り替わります。

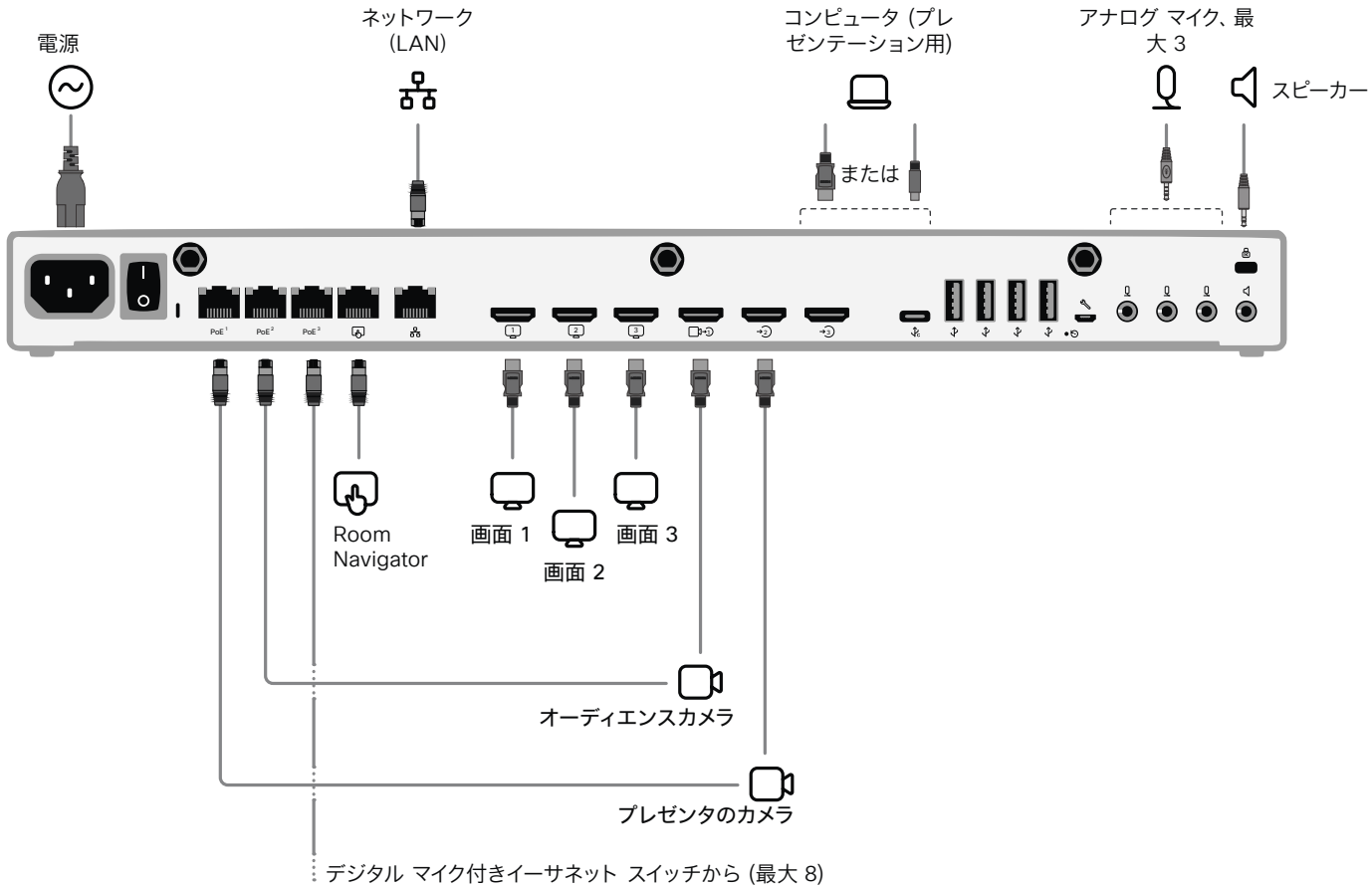
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (5/14 ページ)

Codec EQ: ケーブルの接続

⚠ 図に示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

2 つの画面のみ必要な会議室のセットアップの場合は、 *画面 3* をスキップします。

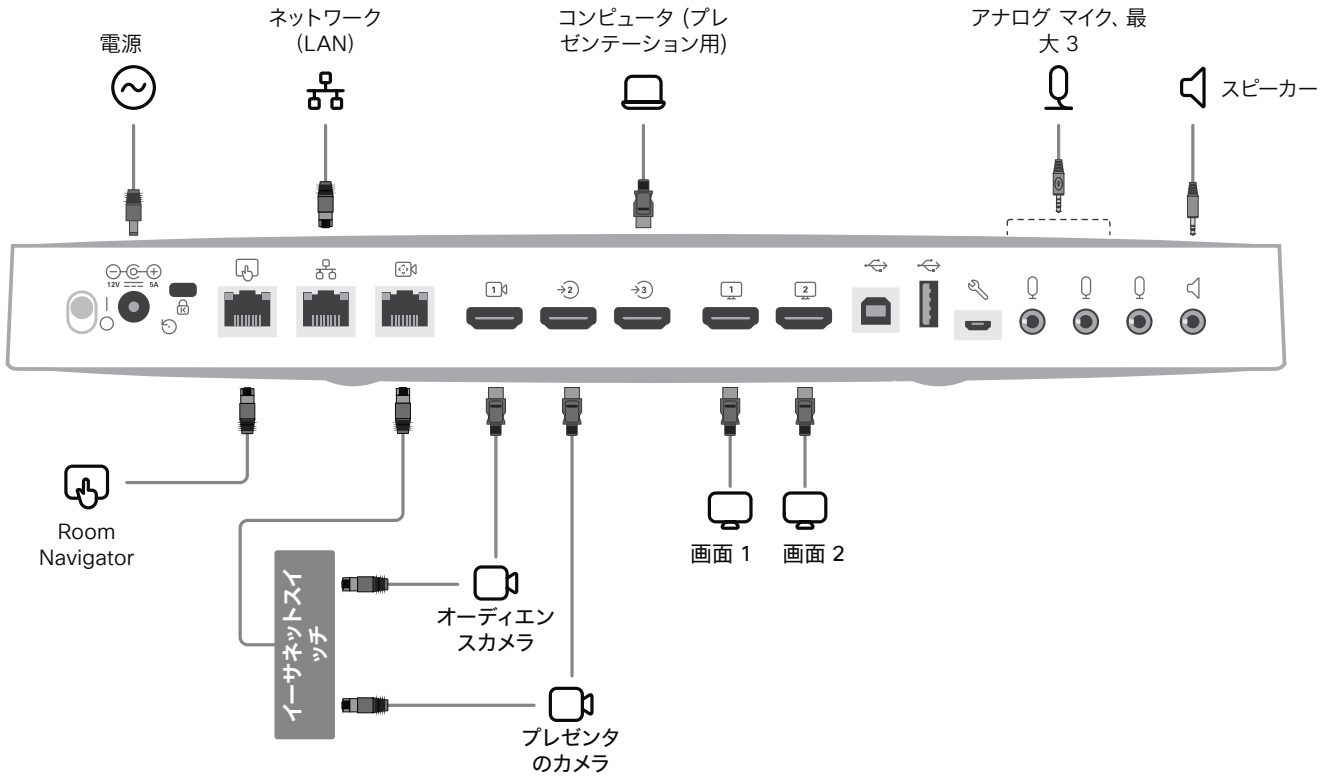


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (6/14 ページ)

Codec Plus:ケーブルの接続

⚠ 図で示すように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。



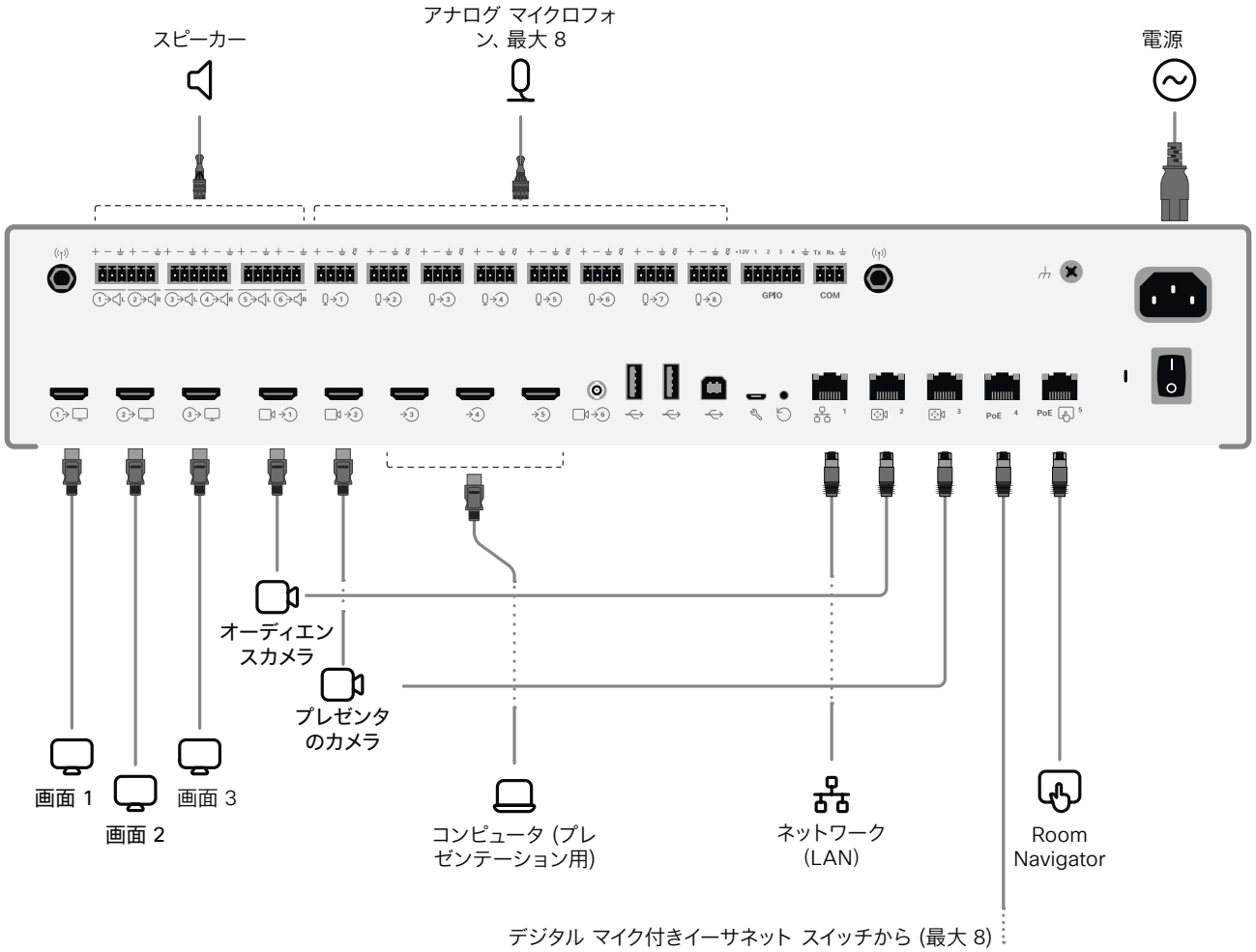
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (7/14 ページ)

Codec Pro:ケーブルの接続

図で示すように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

2 つの画面のみ必要な会議室のセットアップの場合は、 *画面 3* をスキップします。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (8/14 ページ)

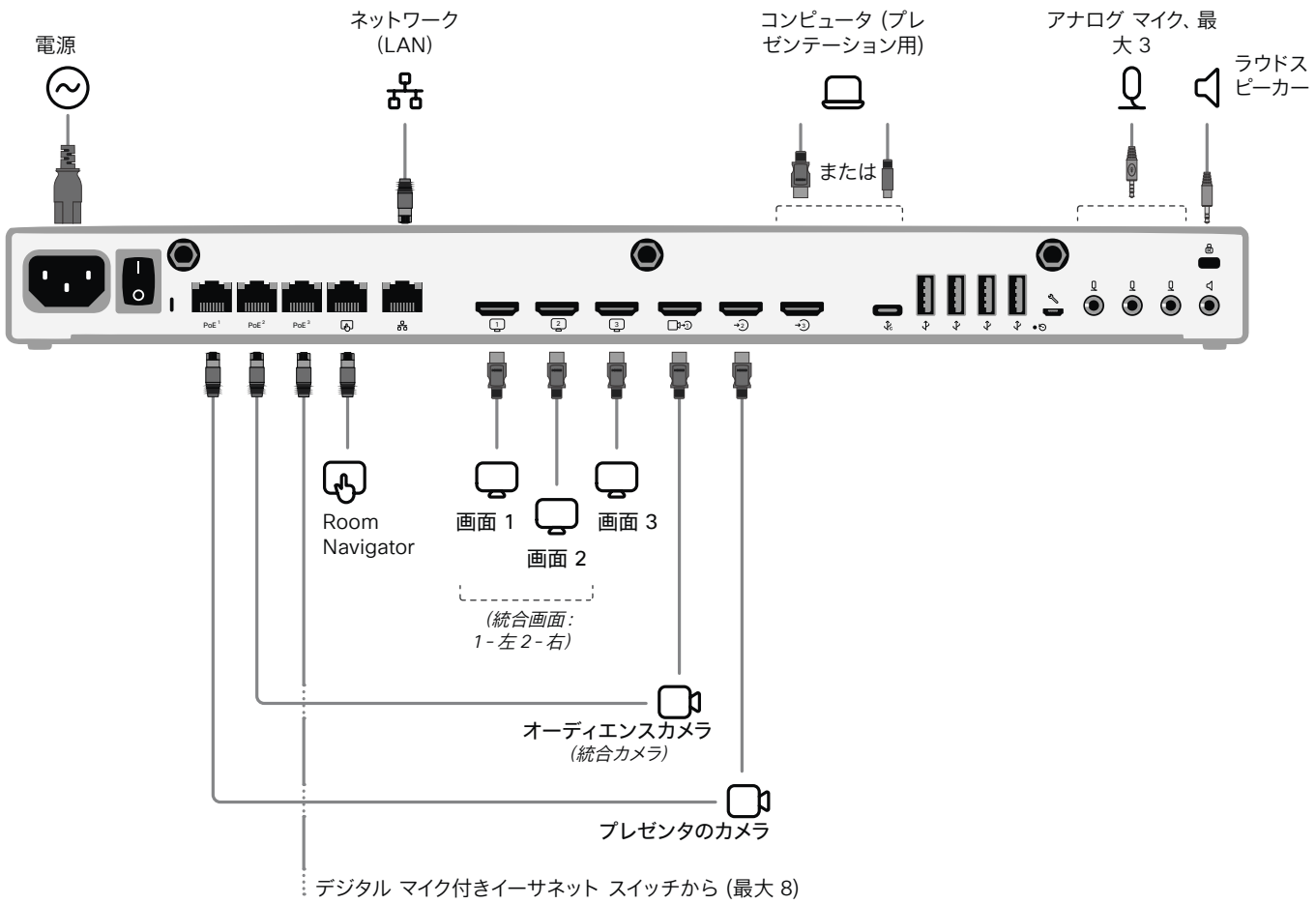
Room Kit EQX: ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

「Room Kit EQX インストール ガイド」に記載されているとおりに、すべてのケーブルを接続したままにします。これには、統合型カメラとスクリーンのケーブルが含まれます。

外部スクリーンとカメラを接続するだけで済みます。

- *プレゼンタのカメラ*
- *画面 3* **(会議室のセットアップで 3 つのスクリーンが必要な場合のみ)**



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (9/14 ページ)

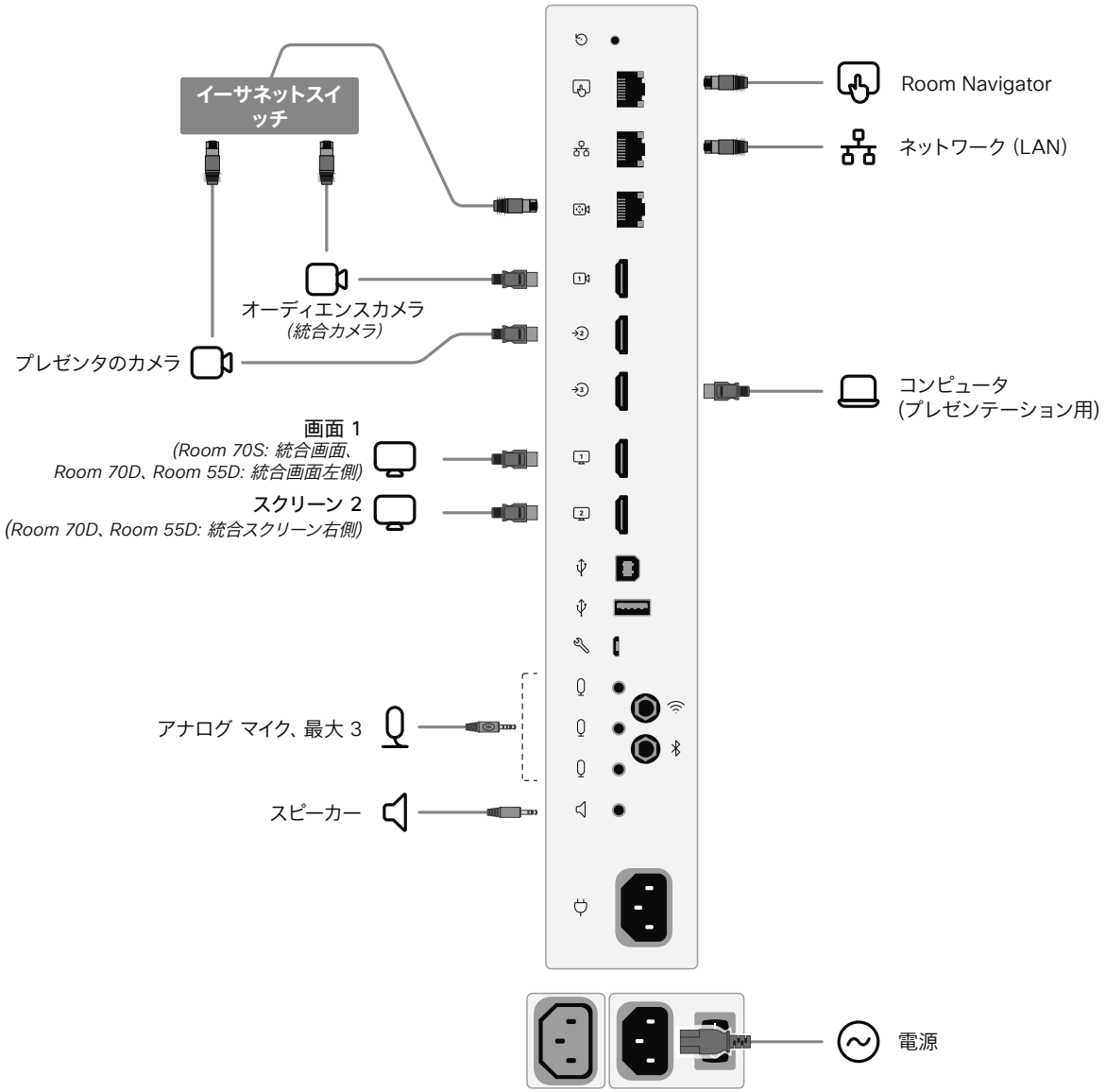
Room 55 Dual および Room 70:ケーブルの接続

図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

内蔵カメラとスクリーン用のケーブルを含め、すべての事前接続済みケーブルを工場出荷時の状態で保管してください。

外部スクリーンとカメラを接続するだけです。

- *プレゼンタのカメラ*
- *スクリーン 2* **(会議室 70 シングルのみ)**



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (10/14 ページ)

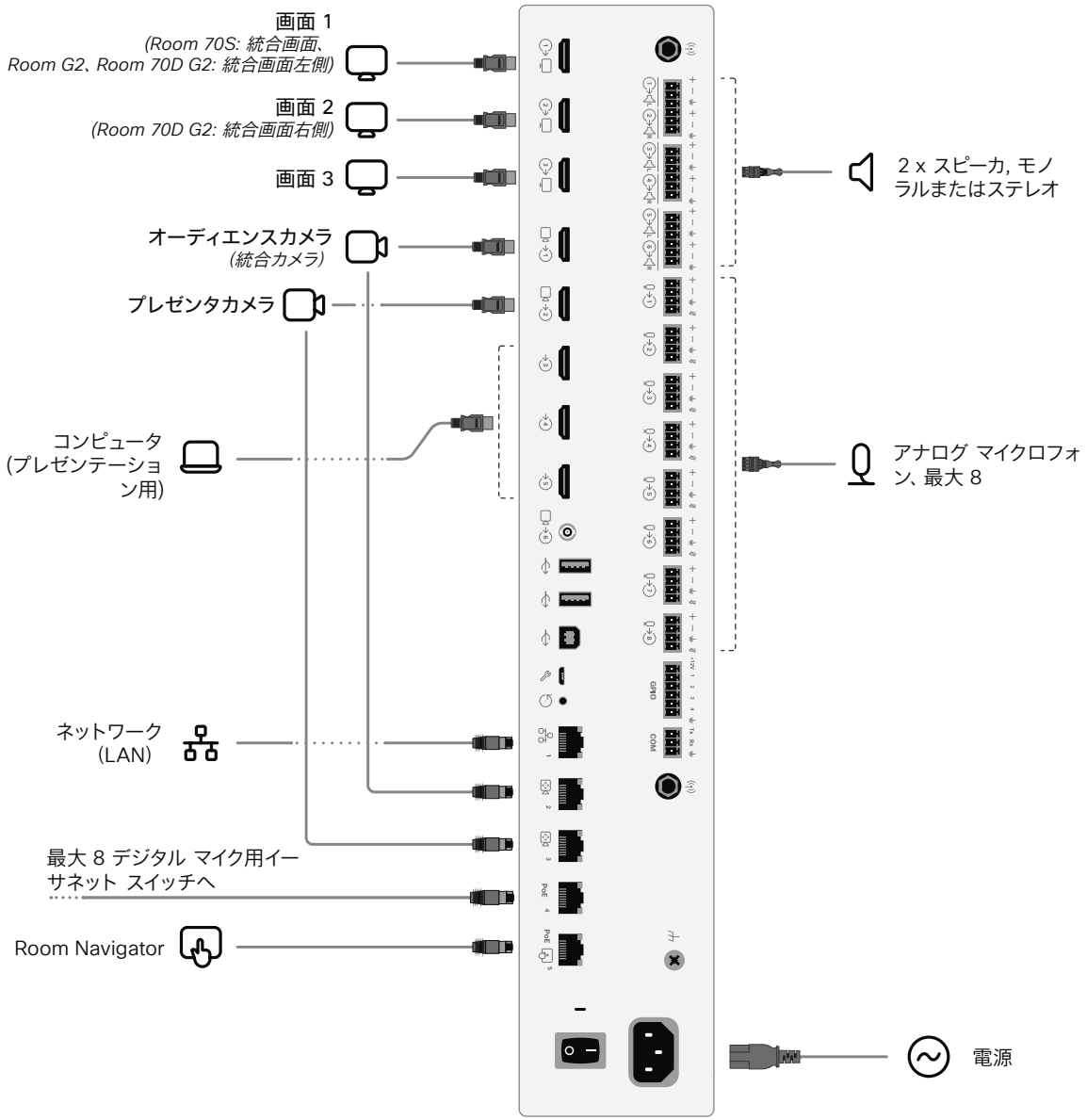
Room 70 G2: ケーブルを接続する

図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

内蔵カメラとスクリーン用のケーブルを含め、すべての事前接続済みケーブルを工場出荷時の状態で保管してください。

外部スクリーンとカメラを接続するだけです。

- *プレゼンタのカメラ*
- *スクリーン 2* **(会議室 70 シングル G2 のみ)**
- *スクリーン 3* **(会議室のセットアップで 3 つのスクリーンが必要な場合のみ)**



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

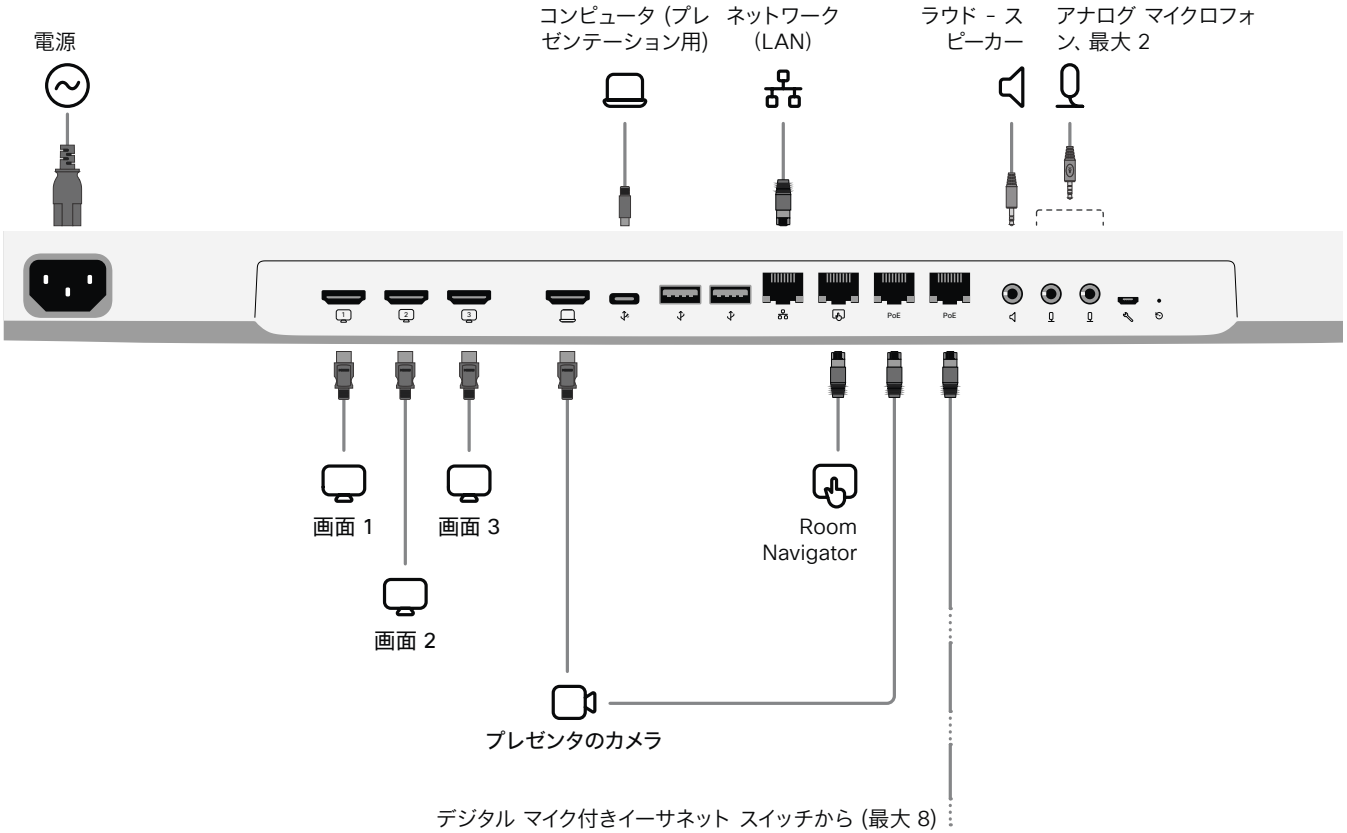
プレゼンタとオーディエンスの設定 (11/14 ページ)

Room Bar Pro:ケーブル接続

図で示すように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *プレゼンタと聴衆者* の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

2 つの画面のみ必要な会議室のセットアップの場合は、 *画面 3* をスキップします。

デバイスの統合カメラは、*オーディエンスカメラ*。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (12/14 ページ)

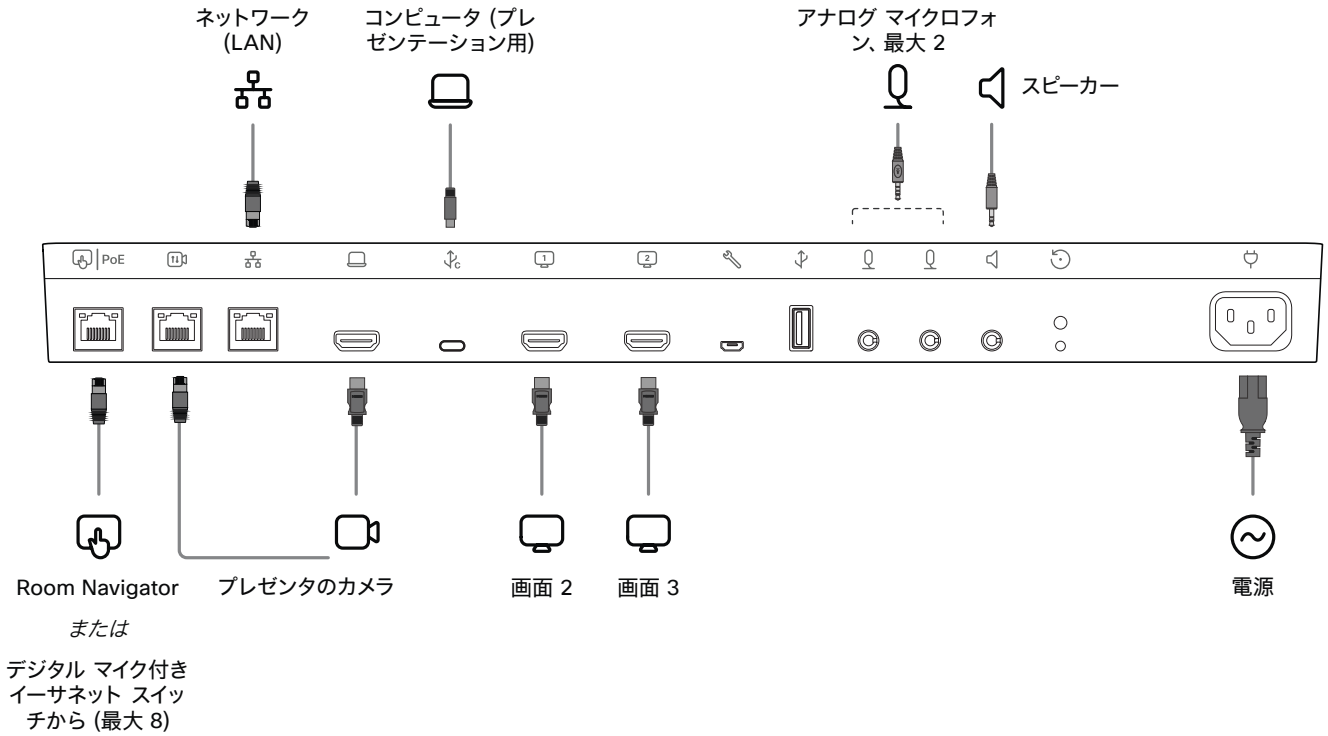
Board Pro G2:ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*プレゼンタと聴衆者*の会議室タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

「Board Pro G2 インストール ガイド」に記載されているとおりに、すべてのケーブルを接続したままにします。

外部スクリーンとカメラを接続するだけです。

- *プレゼンタのカメラ*
- *画面 2*
- *スクリーン 3 (会議室のセットアップで 3 つのスクリーンが必要な場合のみ)*



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (13/14 ページ)

デバイスを構成する

PresenterとAudienceのセットアップ中は、会議室にいることをお勧めします。さもないと、PresenterTrack を適切にセットアップするのが難しくなります。

1. 前のページの説明に従って、カメラとスクリーンを接続します。
2. *プレゼンタカメラ*からのビデオの共有を停止するには、タッチコントローラを使用します。PresenterとAudienceの設定中は、*Presenter カメラ* からのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
4. *ビデオ > 入力 > コネクタ 2*[1]に移動します、および次の項目を設定します:
   - *InputSourceType*: **カメラ**
   - *PresentationSelection*: **手動**
   - *品質*: **モーション**
   - *可視性*: **なし**
   - *CameraControl モード*: **オン**

   [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。
5. *プレゼンタカメラのために* PresenterTrack をセットアップします。 ▶の章を参照してください。

   この機能により、カメラはステージ上を動き回るプレゼンタ をフォローすることができます。
6. *設定*に移動し、 *会議室タイプ*を選択します。[*プレゼンタとオーディエンスの*] サムネイルをクリックして、対応する構成をデバイスにプッシュします。

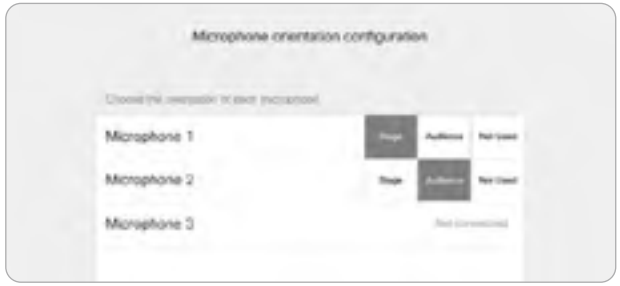
   その結果、デバイスのホーム画面には「プレゼンタ&オーディエンス」 *ボタンがあり、コントロールパネルには「プレゼンタ&オーディエンス診断」* ページがあります。

会議室に複数のマイクがある場合、どのマイクがステージ用で、どれが聴衆用なのかを指定することをお勧めします。

これにより、会議室モード (ローカル、リモート、またはハイブリッド プレゼンタ) 間のより正確な自動切り替えが可能になります[2].

7. デバイスのユーザインターフェイス (会議室ナビゲータ) で、右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *デバイスの設定*を選択します。
8. [問題と診断] を選択します 。*プレゼンタ &オーディエンス診断 >マイクの向きの設定*。

   各マイクで向きに応じて [*ステージ*] または [*オーディエンス*] をタップします[3]。



変更はすぐにデバイスにプッシュされます

[1] *コネクタ 2* は *Presenter カメラ* が接続されるコネクタです。

[2] すべてのマイクが会議室モード間の自動切り替えをサポートしています。現在、アナログ マイクのみが、ステージとオーディエンスからの音声信号の比較に基づく最も高度な動作をサポートしています。

[3] **未使用** は、マイクの向きが **自動** モードでのモード選択ロジックに影響を与えないことを意味します。マイク自体が無効になっているという意味ではありません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンタとオーディエンスの設定 (14/14 ページ)

診断はユーザインターフェースで利用可能です

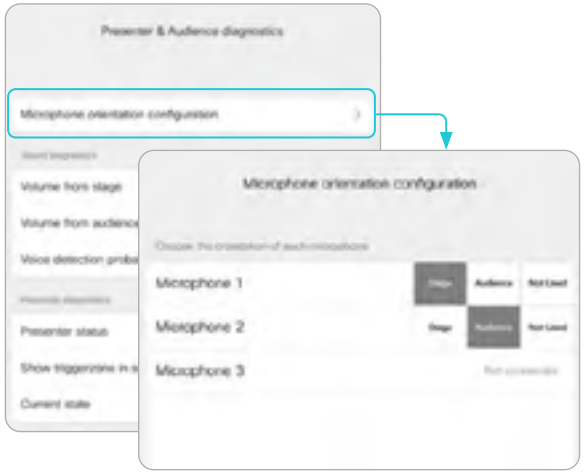
デバイスのユーザ インターフェイスから、プレゼンタと聴衆の設定の診断ページを開くことができます。コントロール パネルを開いて、 *[デバイス設定] > [問題と診断] > [プレゼンタと聴衆の診断]* を選択するだけです。

このページでは、マイクの設定、オーディオ レベル、プレゼンタの診断に関する情報を提供します。これらは、問題のトラブルシューティングを行うときに役立つツールです。

マイクの向きの設定

セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ) に向いているか、観客に向いているかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ モード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

マイクの向きの設定 ページには現在の設定が表示され、正しくない場合は変更できます*。



サウンド診断

少なくとも 1 つのマイクをステージに向け、少なくとも 1 つのマイクを観客に向けるように設定した場合、VU メーターにはステージと観客からの現在のオーディオ音量が表示されます。そうでない場合、マイクの向きが無効であるという通知が表示されます。

最後の指標である *音声検出確率*は、拾ったオーディオ信号が単なる背景ノイズではなく音声である確率を示します。

例:

- ステージ上の人物が話すと、 *ステージからの音量* メーターで高い信号レベルと高い *音声検出確率*が観測されます。
- 観客が拍手すると、 *観客の音量* が高レベルに表示されます。しかし、 *音声検出可能性* は低いため、出席者の中の誰かが話しているとして認識しないことが示されます。
- 聴衆者の誰かが発言を始めると、 *聴衆者の音量* と *音声検出可能性* の両方が上昇します。

自動 モードでは、オーディエンスの音量が高く、音声検出可能性が高い場合に Q&A モードがトリガーされます。このモードでは、オーディエンスカメラがオンになり、発言者トラッキングを使用してオーディエンス内の発言者にフォーカスします。

プレゼンタ診断

プレゼンタの状況:

- デバイスがステージ上でプレゼンタを検出したか (**検出**)、検出しない (**消えた**) かを示します。

セルフビューにトリガーゾーンを表示する:

- このスイッチをオンにすると、プレゼンタのトラックトリガーゾーンの位置がセルフビュー画像中に表示されます。

  これは、ローカル プレゼンタの検出に関する問題をトラブルシューティングする場合に役立ちます。

  トリガー ゾーン オーバーレイは相手側に送信されず、セルフビューにのみ表示されます。

現在の状態:

- このフィールドには、会議室の現在の状態が表示されます。主な状態は、ローカル プレゼンタ、リモート プレゼンタ、またはハイブリッド プレゼンタです。その他の有効な状態には、ローカル Q & A とハイブリッド Q & A があり、これらは聴衆の誰かが話す (質問をする) と発生します。ノイズ – Q&Aなし、これは、マイクがオーディエンスからのノイズを音声として検出せずに拾う場合に発生します。およびディスカッション状態

* **未使用** は、マイクの向きが **自動** モードでのモード選択ロジックに影響を与えないことを意味します。マイク自体が無効になっているという意味ではありません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

会議室のセットアップ (11ページ/1)

ブリーフィングルームの設定では、部屋の設定、管理、使用が簡単になり、グループの人々にトレーニングや教育のセッションを提供できます。

ブリーフィング会議室のセットアップには、さまざまなシナリオに対応する次の定義済みの会議室モードがあります:

- *ローカルプレゼンタ* (プレゼンタは部屋にいます)
- *リモートプレゼンタ* (プレゼンタが電話をかけています)
- *ディスカッション* (室内のローカルプレゼンタとの異なるサイト間のディスカッション用)

ブリーフィングルームの設定は、会議室タイプのテンプレートとして利用できます。テンプレートを使用して会議室をセットアップする場合、一連の構成がデバイスに自動的にプッシュされます。会議室が正しくセットアップされ、カメラとスクリーンが指定されたとおりに接続されていることが重要です。そうでなければ、設定は会議室と一致しません。

必要な機器

- 次のいずれかのデバイス:
  - Board Pro G2
  - Codec EQ
  - Room Kit EQX
  - Codec Pro
  - Room 70 G2
  - Room Bar Pro
- 3 台のディスプレイ (プレゼンテーションディスプレイ、リモートプレゼンタ用ディスプレイ、およびリモートオーディエンス用ディスプレイ)
- 2 台のカメラ (オーディエンスカメラおよびプレゼンタカメラ)
- マイク
- スピーカー
- タッチコントローラ

ブリーフィングルームのセットアップ*

会議室タイプのセットアップを比較する

プレゼンタと参加者: これは次世代の *簡易会議室* および *クラスルーム* のセットアップです。更新と改善は *プレゼンタと聴衆*のみを対象としています。*

古いセットアップと比較して、次のものを得ます:

- 手動レイアウト選択オプションが簡単になりました。
- 音声アクティビティ検出に基づくカメラの切り替えを改善しました。
- タッチコントローラで利用できる診断ページなどの診断ツールが改善されました。

サポートされている製品: Board Pro G2、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、および Room Bar Pro

ブリーフィング ルーム

サポートされている製品: Board Pro G2、Codec EQ、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Bar Pro

セットアップには 3 つの画面が必要で、画面のレイアウトは特定のシナリオに合うように事前に構成されて固定されています。

クラスルーム: *ブリーフィングルーム の設定よりも、画面の数や画面上のレイアウトの配置が柔軟です。*

サポートされている製品: Board Pro G2、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、および Room Bar Pro

デバイスがサポートしている任意の数の画面 (通常は 2 または 3) を使用できます。デフォルトの動作が要件を満たしていない場合は、ビデオモニタ設定を使用して画面上のレイアウトの分布を設定します。

* この図は、オーディエンスカメラとして Speaker Track 60 カメラが設定されたコーデックを示しています。同じ原則が、サポートされている統合デバイス、およびその他のサポートされているコーデックとカメラの組み合わせにも適用されます。

* *ブリーフィングルーム と クラスルーム* は今後のソフトウェアリリースで廃止される可能性があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (2/11 ページ)

会議室モード*

ローカル プレゼンタ モード

プレゼンタは会議室にいます。このモードは、地元のオーディエンスの誰かが質問をした場合も含みます (Q&A) 。

自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト) 、*プレゼンタカメラ*が発表者を部屋で検出すると、部屋のデバイスはこのモードに切り替わります。

リモートプレゼンタモード

プレゼンタが電話をかけています。

自動切り替えが有効 (デフォルト) の場合、*プレゼンタカメラ*が発表者を部屋で検出しないと、部屋のデバイスはこのモードに切り替わります。

ディスカッション モード

異なるサイト間のディスカッション。ローカルプレゼンタは会議室にいます。

このモードを有効にするには、常にタッチコントローラを使用してください。

	ローカル プレゼンタ モード	リモートプレゼンタモード	ディスカッション モード
相手側にビデオを送る	*プレゼンタカメラ*からビデオを送信する Q&A : *プレゼンタカメラ*と質問をしている人 (*オーディエンスカメラ*) からの分割スクリーンビデオが送信されます。	*オーディエンスカメラからビデオを送信する*	*オーディエンスカメラ*からビデオを送信する
リモートプレゼンタのディスプレイ	プレゼンテーションを表示する	電話で参加しているプレゼンタおよび他のリモートサイトを表示します (レイアウトはローカルで決定できます)	ディスカッションに参加しているリモートサイトを表示します (ローカルでレイアウトを決めることができます)
プレゼンテーションの表示	プレゼンテーションを表示する	プレゼンテーションを表示する	プレゼンテーションを表示する
リモートオーディエンスディスプレイ	別のサイトから発信しているリモート参加者を表示します	プレゼンテーションを表示する	プレゼンテーションを表示する

プレゼンテーションがない場合、関連する画面には何も表示されません (グレー)。

* この図は、オーディエンスカメラとして Speaker Track 60 カメラが設定されたコーデックを示しています。同じ原則が、サポートされている統合デバイス、およびその他のサポートされているコーデックとカメラの組み合わせにも適用されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

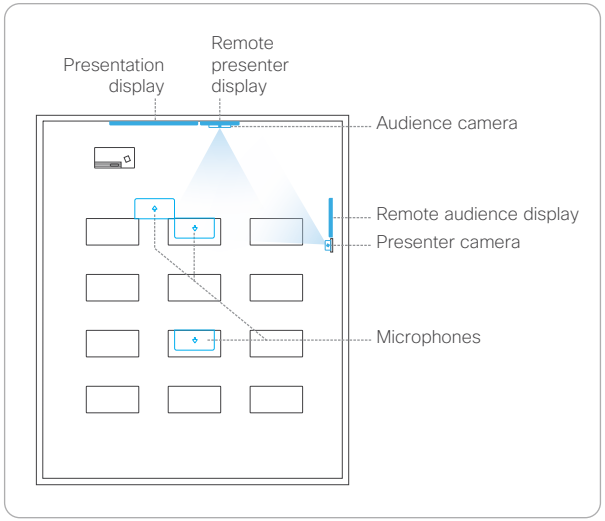
ブリーフィングルームのセットアップ (3/11 ページ)

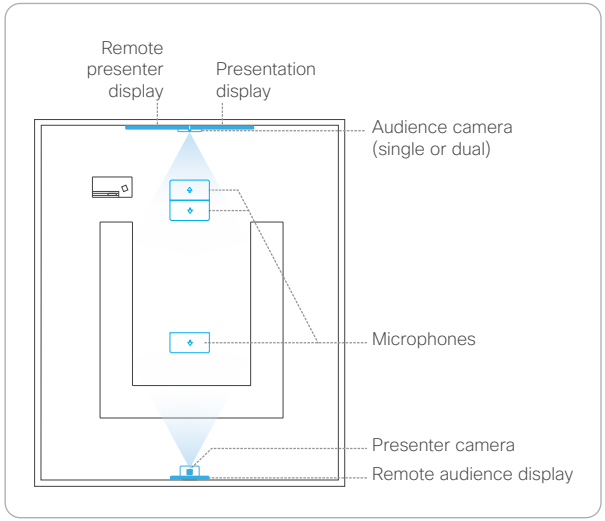
会議室の配置の例

これらの図は、スクリーン、カメラ、マイクの配置方法、最良の環境のために人を配置する場所の例を示しています。

推奨

- *リモートのプレゼンタ:* 1番目の 画面、前面に配置されます。統合型デバイスの場合、これは左側の画面です。
- *プレゼンテーションディスプレイ:* 2番目の画面、前面に配置されます。 2 つの画面を持つ統合型デバイスの場合、これが右側の画面です。
- *リモートオーディエンスディスプレイ:* 3番目の 画面。側面または背面に配置し、ローカルのプレゼンタがリモートオーディエンスを見ることができます。
- *オーディエンスカメラ:* 統合カメラが搭載されたビデオ会議デバイスで使用します。他のデバイスについては、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラをお勧めします。スピーカートラッキング機能付きのカメラをお勧めしますが、スピーカートラッキング機能なしでカメラを使用することも可能です。
- *プレゼンタのカメラ:*プレゼンタトラッキングが有効な PTZ 4K または Precision 60 カメラ。
- *マイク:*部屋を十分カバーする Cisco TelePresence 天井マイクを推奨します。他のマイク ソリューションを使用することもできます。
- *スピーカー:* ビデオ会議デバイスにはスピーカーが装備されています。他の機器の場合は、会議室の正面の*プレゼンテーション ディスプレイ*の隣に高品質のステレオスピーカーを設置することをお勧めします。



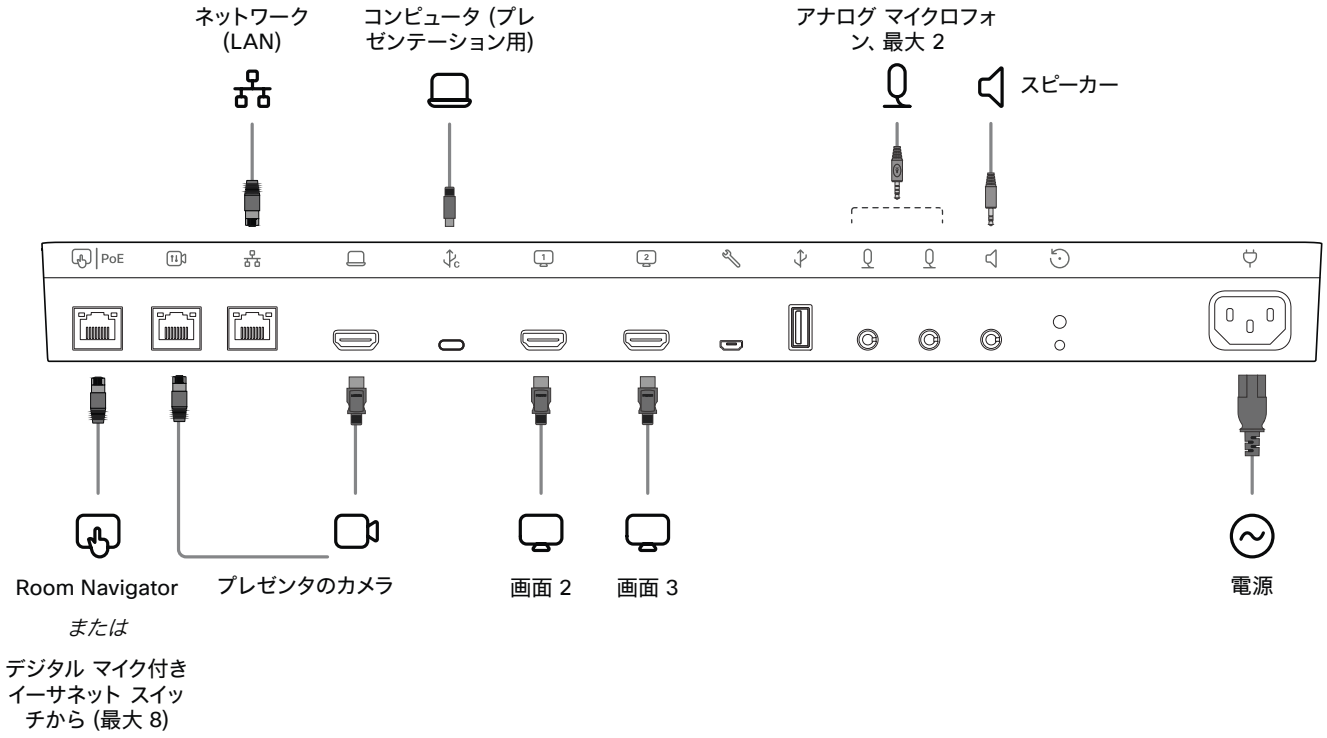


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (3/11 ページ)

Board Pro G2:ケーブルの接続

⚠ 図で示すように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *ブリーフィングルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

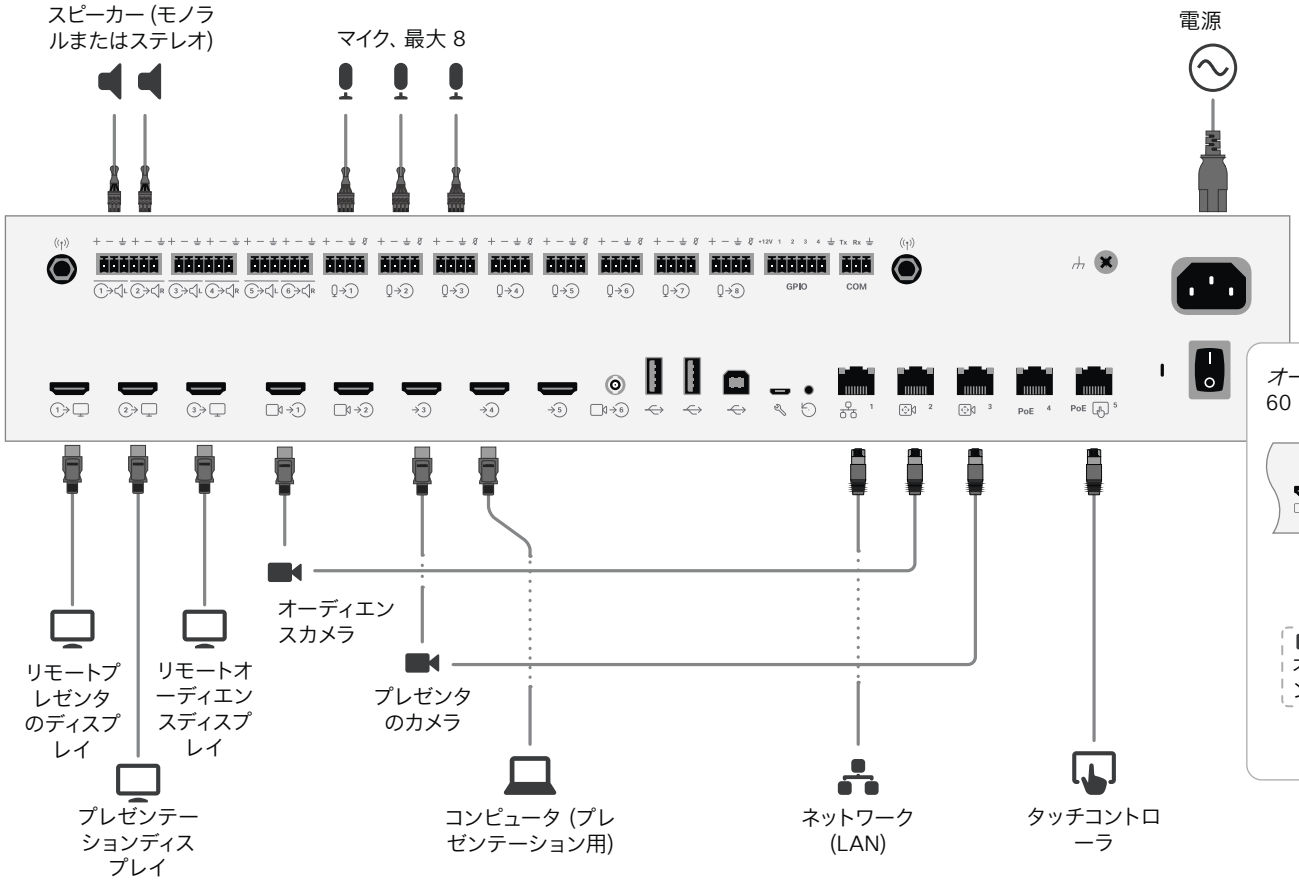


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

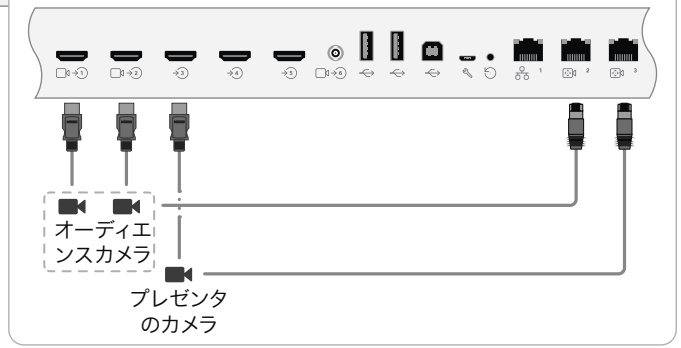
ブリーフィングルームのセットアップ (5/11 ページ)

Codec Pro:ケーブルの接続

⚠ 図に示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *ブリーフィングルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。



*オーディエンスカメラ*が Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラの場合は、2つの HDMI 入力を使用します。



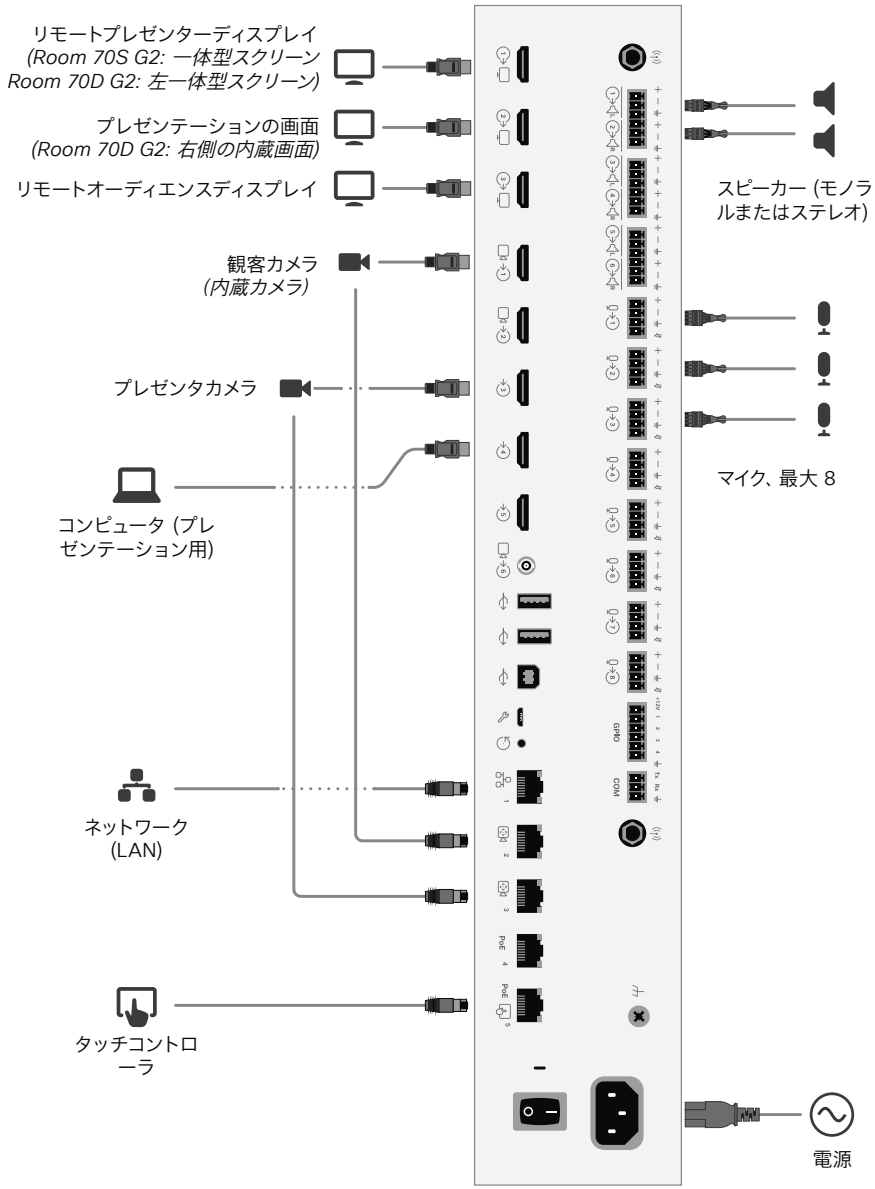
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (6/11 ページ)

Room 70 G2: ケーブルを接続する

図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *ブリーフィングルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

内蔵カメラとスクリーン用のケーブルを含め、すべての事前接続済みケーブルを工場出荷時の状態で保管してください。**外部スクリーンとカメラを接続するだけです。**

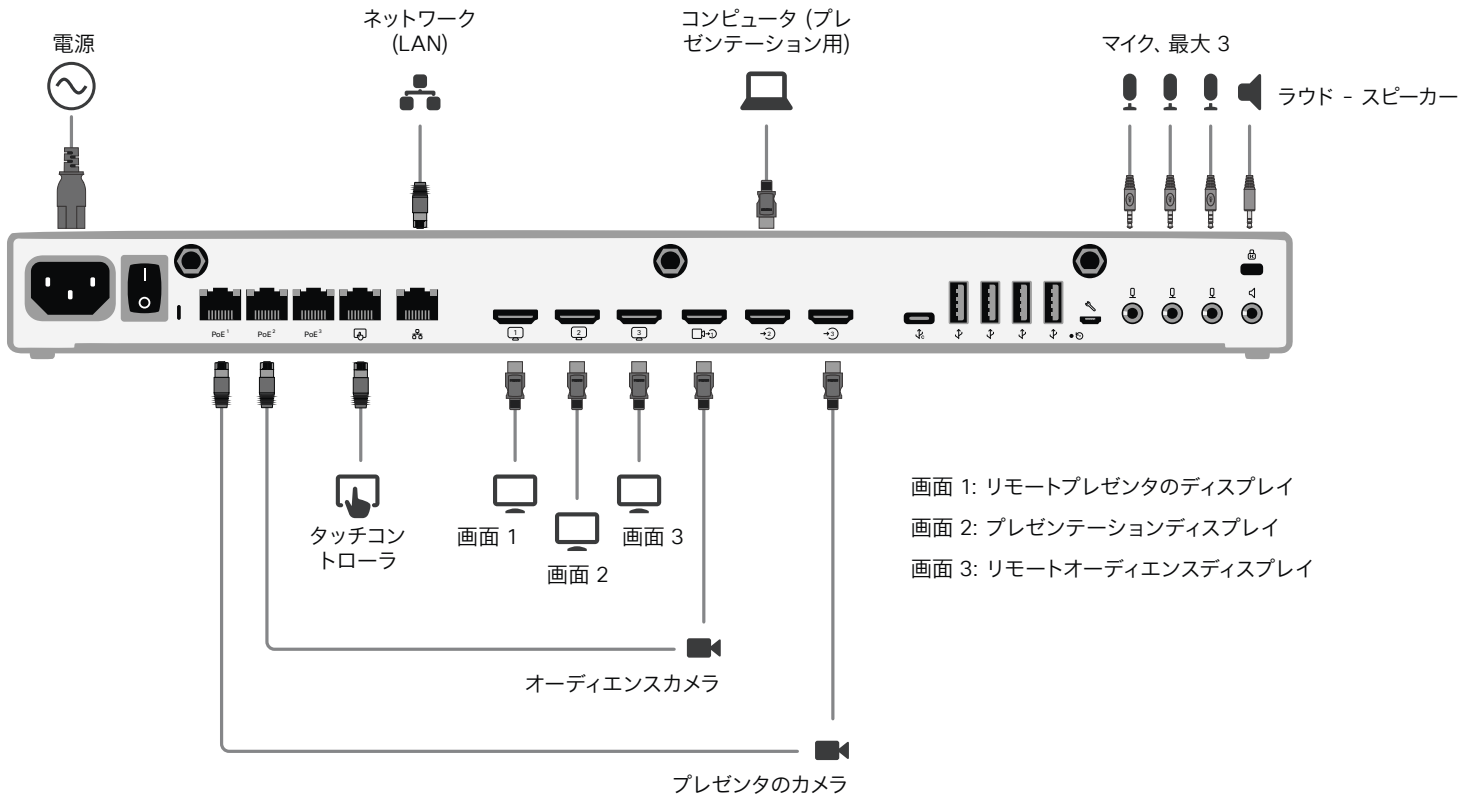


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (7/11 ページ)

Codec EQ: ケーブルの接続

⚠ 図に示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *ブリーフィングルーム*タイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。



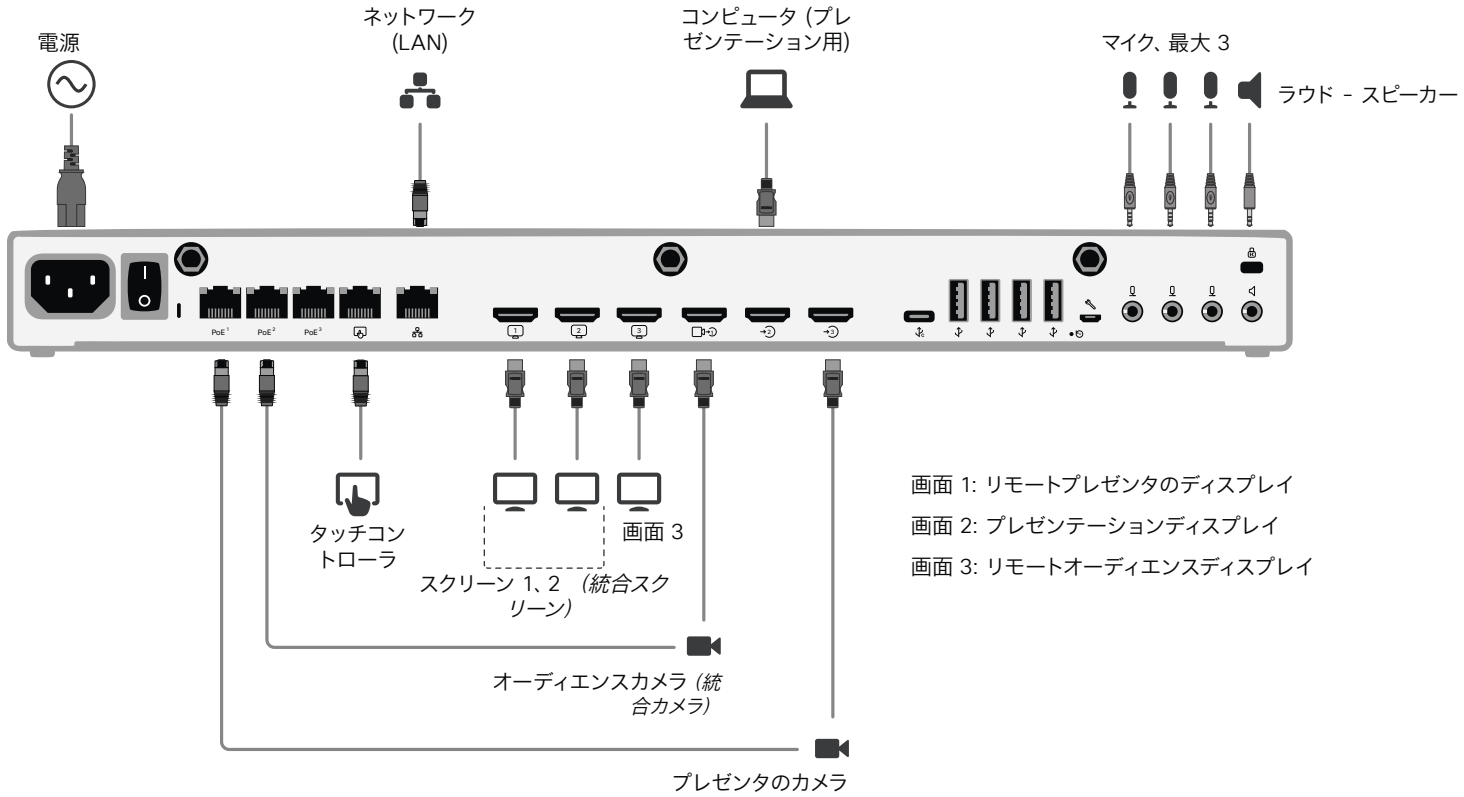
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (8 ページ目) 11

Room Kit EQX: ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *ブリーフィングルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

内蔵カメラとスクリーン用のケーブルを含め、すべての事前接続済みケーブルを工場出荷時の状態で保管してください。**外部スクリーンとカメラを接続するだけです。**



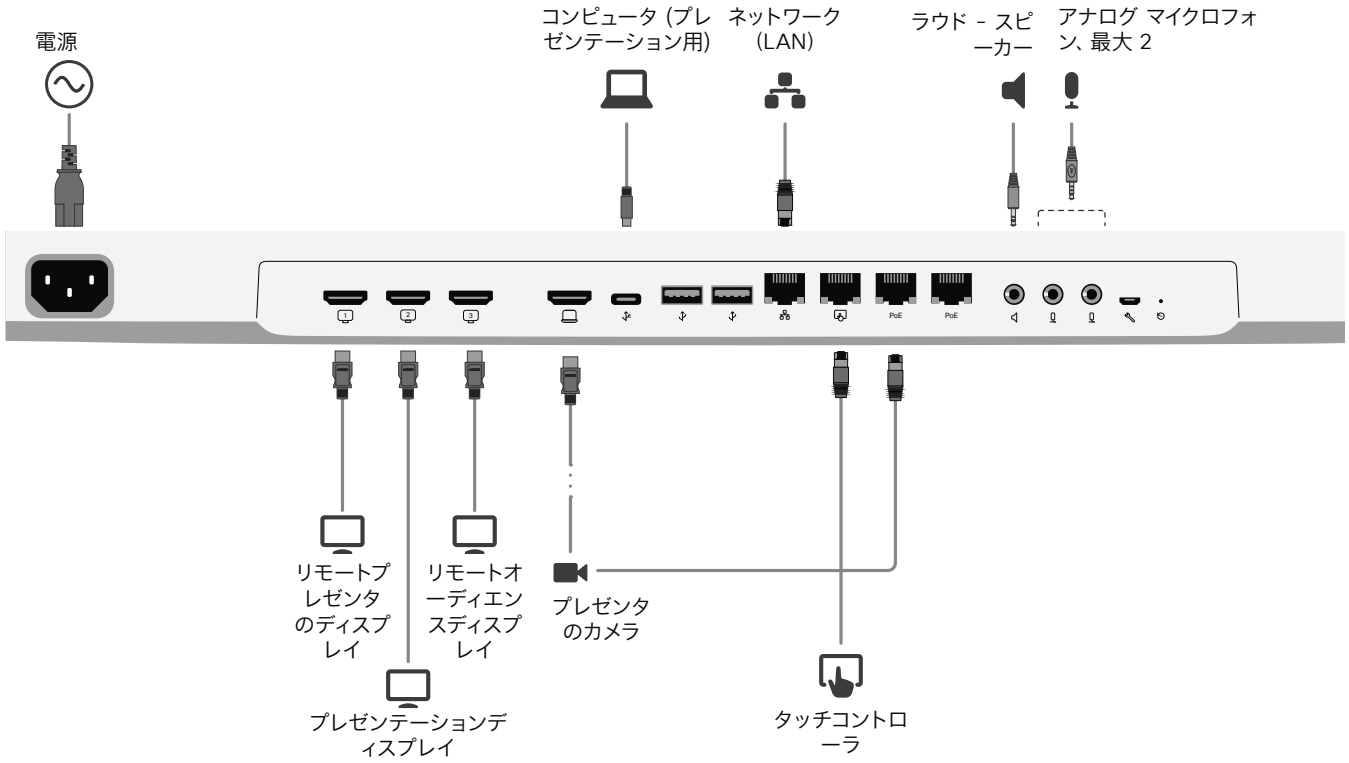
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (9 ページ目) 11

Room Bar Pro:ケーブル接続

⚠ 図で示すように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、 *ブリーフィングルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

デバイスの統合カメラは、*オーディエンスカメラ*。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (10/11 ページ)

デバイスを構成する

ブリーフィングルームを設置するときは、同じ部屋にいることをおすすめします。そうしないと、PresenterTrack を適切にセットアップすることができません。

1. 前のページの説明に従って、カメラとスクリーンを接続します。
2. *プレゼンタカメラ*からのビデオの共有を停止するには、タッチコントローラを使用します。ブリーフィングルームの設定中は、*プレゼンタカメラ*からのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
4. *ビデオ > 入力 > コネクタ 3* に移動し、次の項目を設定します。
   - *InputSourceType*: **カメラ**
   - *PresentationSelection*: **手動**
   - *品質*: **モーション**
   - *可視性*: **なし**
   - *CameraControl モード*: **オン**

   [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。
5. *プレゼンタカメラのために* PresenterTrack をセットアップします。▶ PresenterTrack 機能をセットアップする の章を参照してください。

   この機能により、カメラはステージ上を動き回るプレゼンタをフォローすることができます。
6. *[設定]* に移動し、 *[構成]* を選択します。*[カメラ (Cameras)] > [プレゼンタトラック (PresenterTrack)] > [プレゼンタ検出ステータス (PresenterDetectedStatus)]* に移動して、*ローカルプレゼンタモードとリモートプレゼンタモード*の間の自動切り替えを有効にする (デフォルト) か無効にするかを選択します。

   [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。
7. [*設定*] に移動し、[*会議室タイプ] を選択します*。[*ブリーフィング*] サムネイルをクリックして、対応する構成をデバイスにプッシュします。

会議室モードの切り替え

部屋のモード (*ローカル プレゼンタ*、*リモート プレゼンタ*、*ディスカッション*) を切り替えると、カメラ入力ソースとリモートおよびローカルの画面レイアウトが変更されますが、次の 2 つの方法で切り替えることができます。

- 誰が話しているか、地元の司会者がステージにいるかどうかに基づいて自動的に表示されます。

  自動切り替えは、*ローカルプレゼンタ*モードと*リモートプレゼンタ*モードの間でのみ行われます。現在のモードが *[ディスカッション (Discussions)]* の場合、ルームモードは自動的に変更されません。

  すべての自動切り替えを無効にするには、[カメラ] 、*PresenterTrack > PresenterDetectedStatus* を **無効**に設定します。

  PresenterTrack 機能が有効 (*カメラ > PresenterTrack > Enabled* が **True に設定されている場合にのみ、自動切り替えがサポートされます。**)。
- 手動で、タッチコントローラのボタンを使用します。

自動切り替えでは、以下が実行されます。

- PresenterTrack トリガー ゾーンで人物が検出されると、デバイスは *Local Presenter* モードに切り替わります。
- 追跡されていたローカルプレゼンタがステージを降りると、デバイスは *[リモートプレゼンタ (Remote Presenter)]* モードに切り替えます。
- デバイスが *[ローカルプレゼンタ (Local Presenter)]* モードのときにローカルオーディエンス内の誰かが質問をすると、デバイスはプレゼンタと質問者の両方を示す分割画面のビデオを送信します。この動作には、*オーディエンスカメラ*としてスピーカートラック60またはクワッドカメラが必要です。また、そのスピーカートラッキングはオンになっています。

会議室モードを手動で切り替える

会議中に、タッチコントローラを使用して別のモードに切り替えることができます。

1. タッチコントローラの*ブリーフィングルーム*をタップします。
2. 変更したいモードをタップします : *ローカルプレゼンタ*、*リモートプレゼンタ*または*ディスカッション*。現在のモードは強調表示されています。

   自動切り替えが無効になっていない場合、会議室モードは自動切り替えルールに従って変更され続けます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ブリーフィングルームのセットアップ (11/11 ページ)

制約事項

*ブリーフィングルーム*を使用する場合はサポートされていない機能:

- MultiSite (組み込みのマルチポイントスイッチ)
- 指向性オーディオ
- アクティブ制御 (CMS からのレイアウト選択)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

クラスルームのセットアップ (1/11 ページ)

クラスルームをセットアップすると、部屋の設定、管理、使用が簡単になり、グループの人々にトレーニングセッションや教育セッションを提供できます。

クラスルームのセットアップは会議室タイプのテンプレートとして利用できます。テンプレートを使用して会議室をセットアップする場合、一連の構成がデバイスに自動的にプッシュされます。会議室が正しく設定されていること、およびカメラが指定どおりに接続されていることが重要です。そうでなければ、設定は会議室と一致しません。

必要な機器

- 次のいずれかのデバイス:
  - Board Pro G2
  - Codec EQ
  - Codec Plus
  - Codec Pro
  - Room Kit EQX
  - Room 55 Dual
  - Room 70
  - Room 70 G2
  - Room Bar Pro
- 1 つ以上の画面 (設定可能)
- 2 台のカメラ (オーディエンスカメラおよびプレゼンタカメラ)
- マイク
- スピーカー
- タッチコントローラ

制約事項

Classroomを使用するときはサポートされていない機能 :

- MultiSite (組み込みのマルチポイントスイッチ)
- 指向性オーディオ
- アクティブ制御 (CMS からのレイアウト選択)

会議室モード

教室設定 には、さまざまなシナリオに対応する次の定義済み会議室モードがあります: ローカルプレゼンタ、リモートプレゼンタ、ディスカッション。

ローカル プレゼンタ モード

- プレゼンタは会議室にいます。このモードは、地元のオーディエンスの誰かが質問をした場合も含みます (Q&A) 。
- 自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト) 、*プレゼンタカメラ*が発表者を部屋で検出すると、部屋のデバイスはこのモードに切り替わります。
- *プレゼンタカメラ*から遠端にビデオを送信します。Q&Aの場合 : *プレゼンタカメラ*と質問をしている人 (*オーディエンスカメラ*) からの分割スクリーンビデオを遠端に送信します。

リモートプレゼンタモード

- プレゼンタが電話をかけています。
- 自動切り替えが有効 (デフォルト) の場合、*プレゼンタカメラ*が発表者を部屋で検出しないと、部屋のデバイスはこのモードに切り替わります。
- *オーディエンスカメラ*から相手側にビデオを送信します。

ディスカッション モード

- 異なるサイト間のディスカッション。現地のプレゼンタは会議室にいます。
- このモードを有効にするには、常にタッチコントローラを使用してください。
- *オーディエンスカメラ*から相手側にビデオを送信します。

会議室タイプのセットアップを比較する

プレゼンタと参加者: これは次世代の *簡易会議室* および *クラスルーム* のセットアップです。更新と改善は *プレゼンタと聴衆*のみを対象としています。*

古いセットアップと比較して、次のものを得ます :

- 手動レイアウト選択オプションが簡単になりました。
- 音声アクティビティ検出に基づくカメラの切り替えを改善しました。
- タッチコントローラで利用できる診断ページなどの診断ツールが改善されました。

サポートされている製品: Board Pro G2 、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、R oom Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70 、Room 70 G2、および Room Bar Pro

ブリーフィング ルーム

サポートされている製品: Board Pro G2 、Codec EQ、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Bar Pro

セットアップには 3 つの画面が必要で、画面のレイアウトは特定のシナリオに合うように事前に構成されて固定されています。

クラスルーム: *ブリーフィングルーム の設定よりも、画面の数や画面上のレイアウトの配置が柔軟です。*

サポートされている製品: Board Pro G2 、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、R oom Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70 、Room 70 G2、および Room Bar Pro

デバイスがサポートしている任意の数の画面 (通常は 2 または 3) を使用できます。デフォルトの動作が要件を満たしていない場合は、ビデオモニタ設定を使用して画面上のレイアウトの分布を設定します。

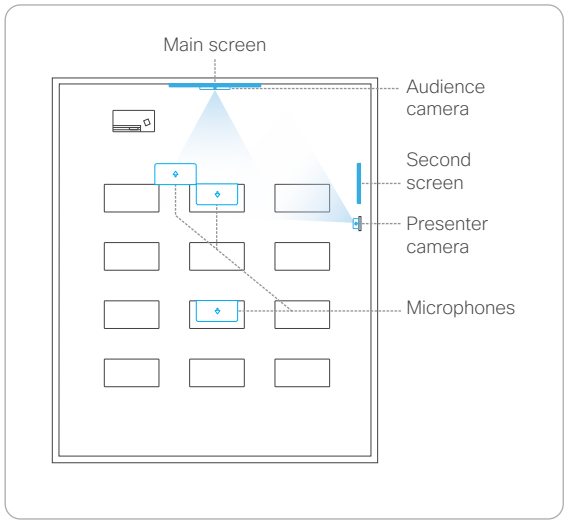
* *ブリーフィングルーム と クラスルーム は今後のソフトウェアリリースで廃止される可能性があります。*

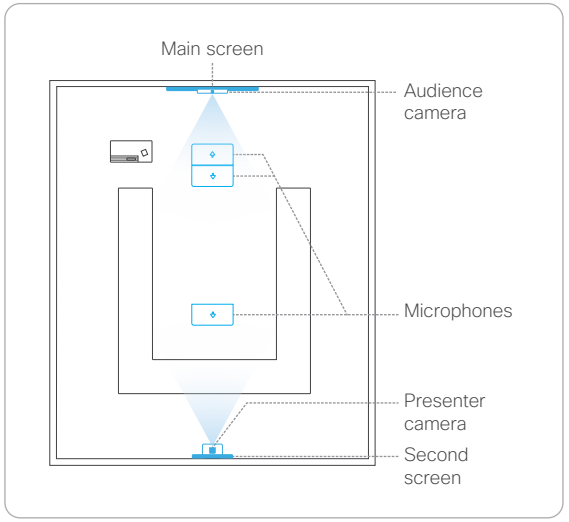
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

クラスルームのセットアップ (2/11 ページ)

会議室の配置の例

これらの図は、スクリーン、カメラ、マイクの配置方法、最良の環境のために人を配置する場所の例を示しています。





推奨

オーディエンスカメラ:

- それを持つビデオ会議には、統合型カメラを使用します。他のデバイスについては、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラをお勧めします。スピーカートラッキング機能付きのカメラをお勧めしますが、スピーカートラッキング機能なしでカメラを使用することも可能です。

プレゼンタカメラ:

- PTZ 4K または Precision 60 カメラ、プレゼンタトラッキングが有効。

マイク:

- 会議室を適切にカバーするには、Cisco シーリング マイクの使用をお勧めします。他のマイク ソリューションを使用することもできます。

スピーカー:

- それを持つビデオ会議には、統合型スピーカーを使用します。他の機器の場合は、会議室の正面のメインスクリーンの隣に高品質のステレオスピーカーを設置することをお勧めします。

画面:

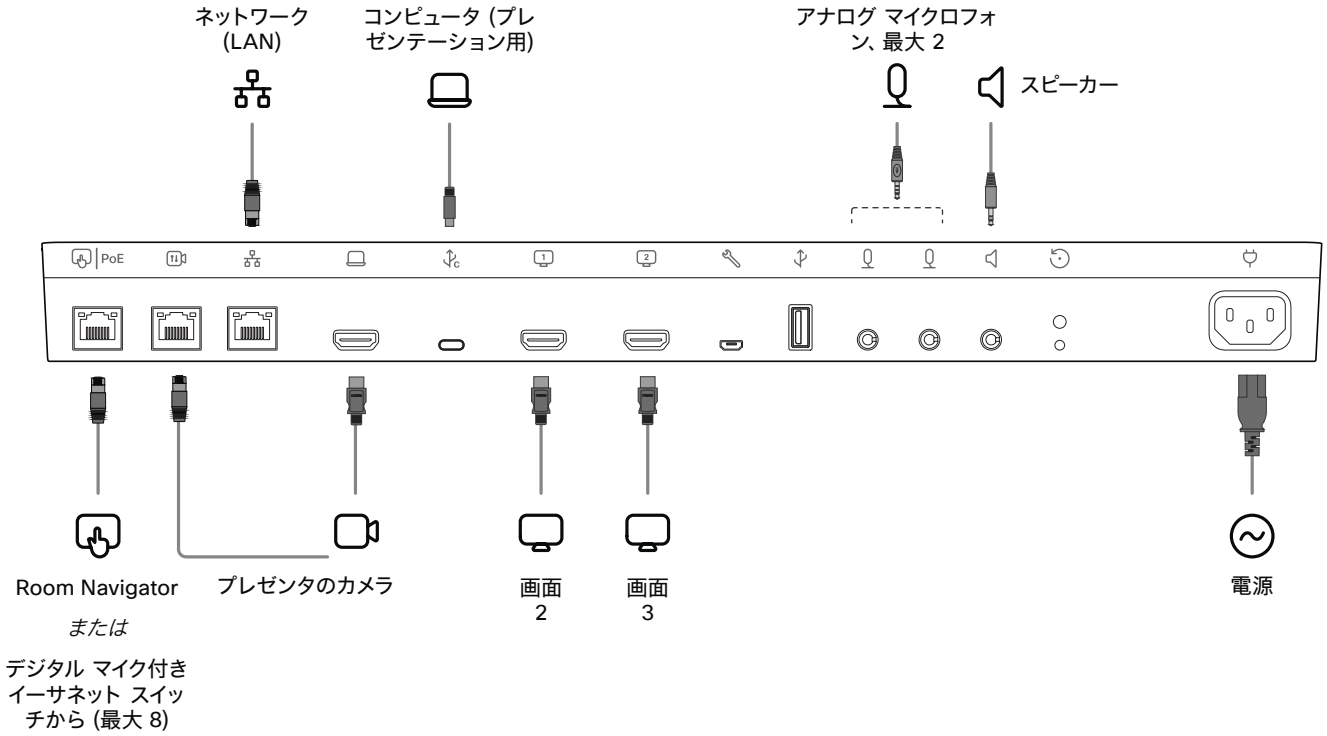
- 1 つ以上の画面を使用できます (画面の最大数はデバイスのタイプによって異なります)。
- ほとんどのセットアップでは、2 つ以上の画面を使用することをお勧めします。メインスクリーンを会議室の前に置きます。2人目のスクリーンを横または後ろに配置して、ローカルの発表者がリモートのオーディエンスに見えるようにします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

クラスルームのセットアップ (3/11 ページ)

Board Pro G2:ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルーム*ルームタイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

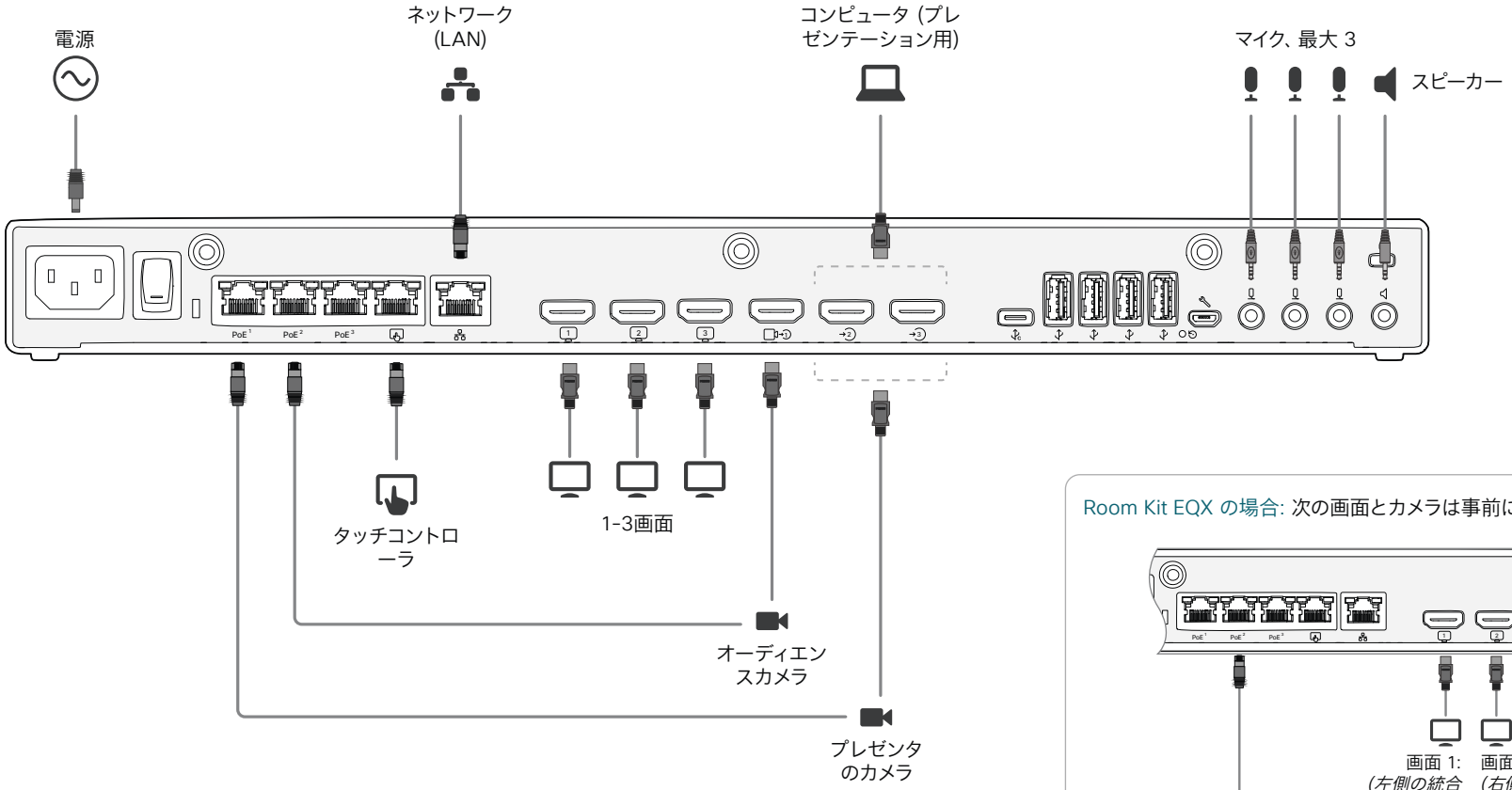


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

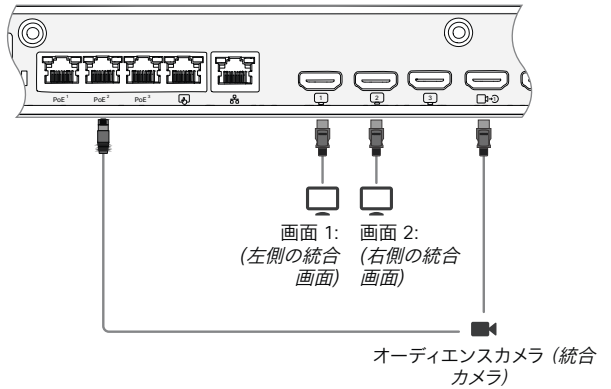
クラスルームのセットアップ (4/11 ページ)

Codec EQ および Room Kit EQX: ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルーム*ルームタイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。



Room Kit EQX の場合: 次の画面とカメラは事前に接続されています。

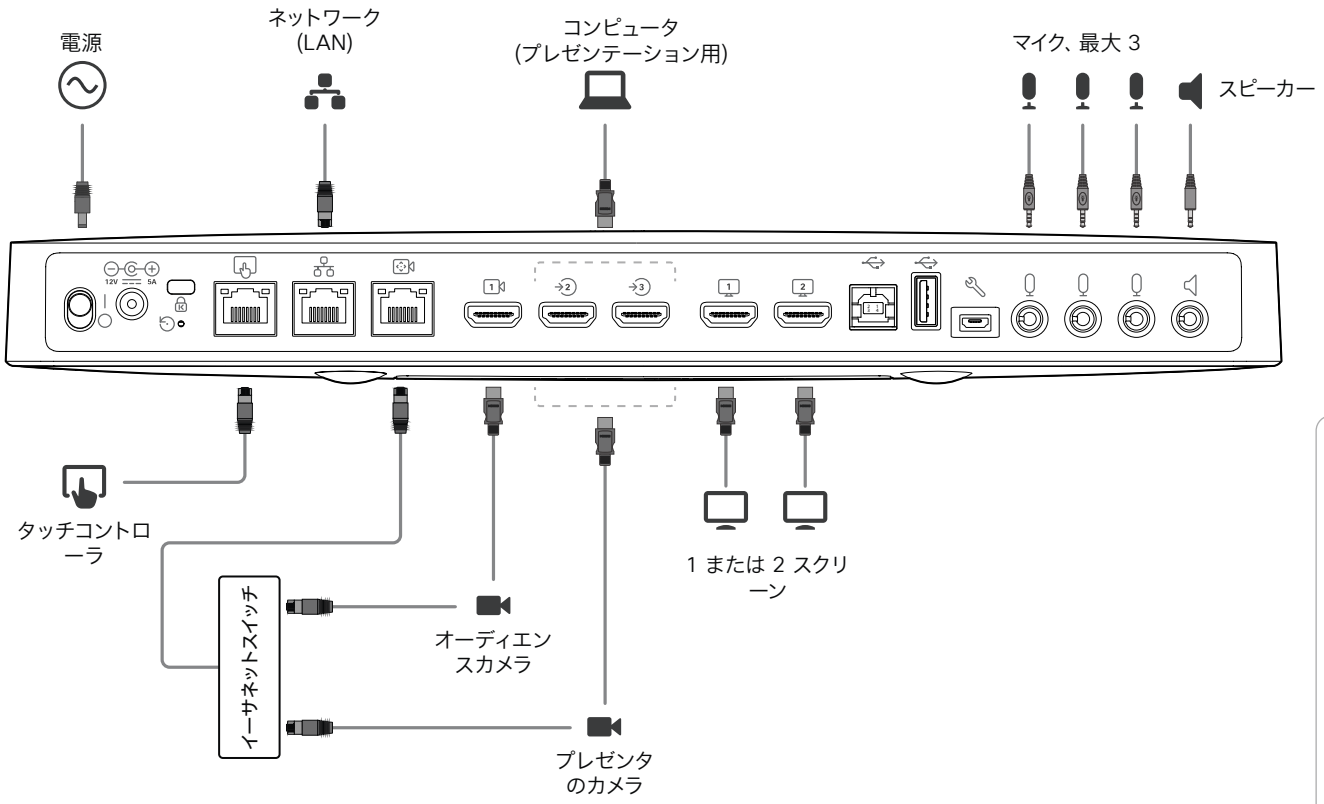


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

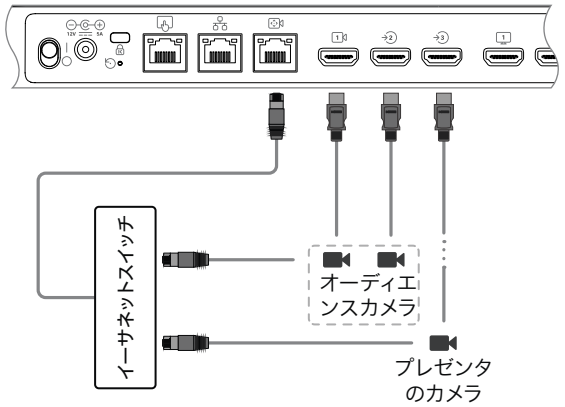
クラスルームのセットアップ (5/11 ページ)

Codec Plus:ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルームルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。



*オーディエンスカメラ*が Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラの場合は、2つの HDMI 入力を使用します。

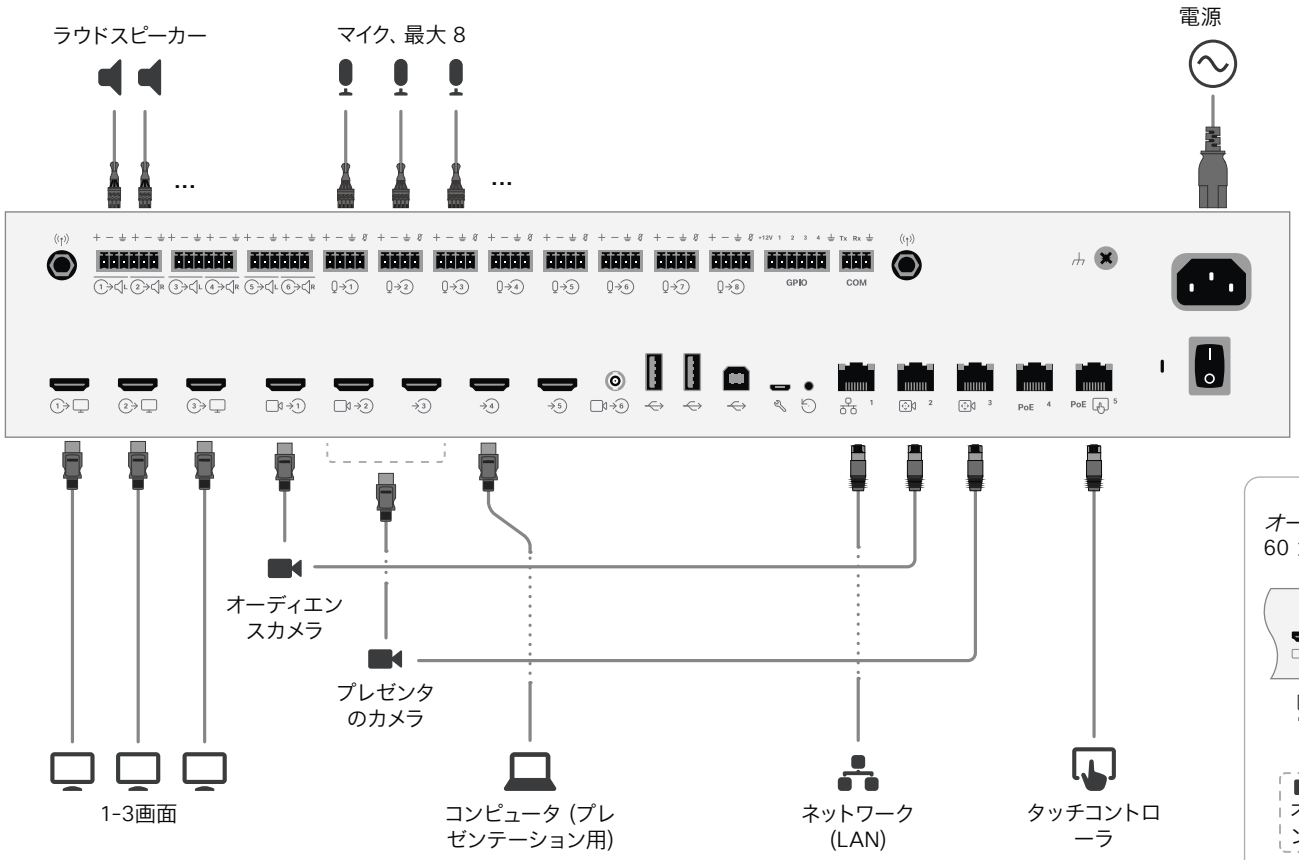


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

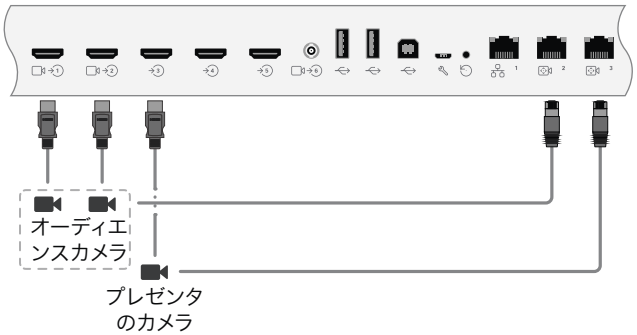
クラスルームのセットアップ (6/11 ページ)

Codec Pro:ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルーム*ルームタイプテンプレートを選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。



*オーディエンスカメラ*が Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラの場合は、2つの HDMI 入力を使用します。



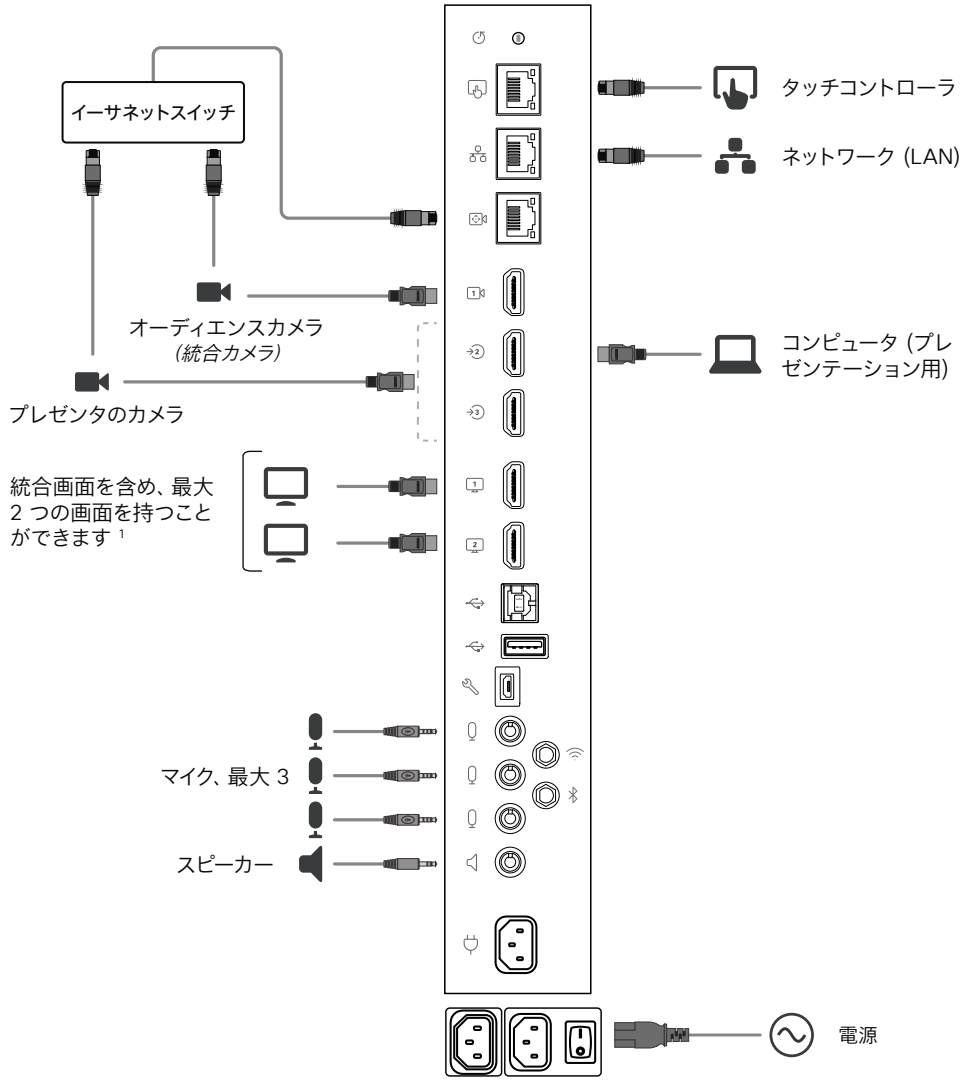
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

クラスルームのセットアップ (7/11 ページ)

Room 55 Dual および Room 70:ケーブルの接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルームルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

内蔵カメラとスクリーン用のケーブルを含め、すべての事前接続済みケーブルを工場出荷時の状態で保管してください。**外部スクリーンとカメラを接続するだけです。**



[1] *Room 55 Dual および Room 70 Dual :* HDMI 出力 1 と 2 は、デバイスの統合型スクリーン用です。外部画面はサポートされていません。*Room 70 シングル:* HDMI 出力 1 は端末の統合スクリーン用です。外部画面をHDMI出力2に接続することができます。

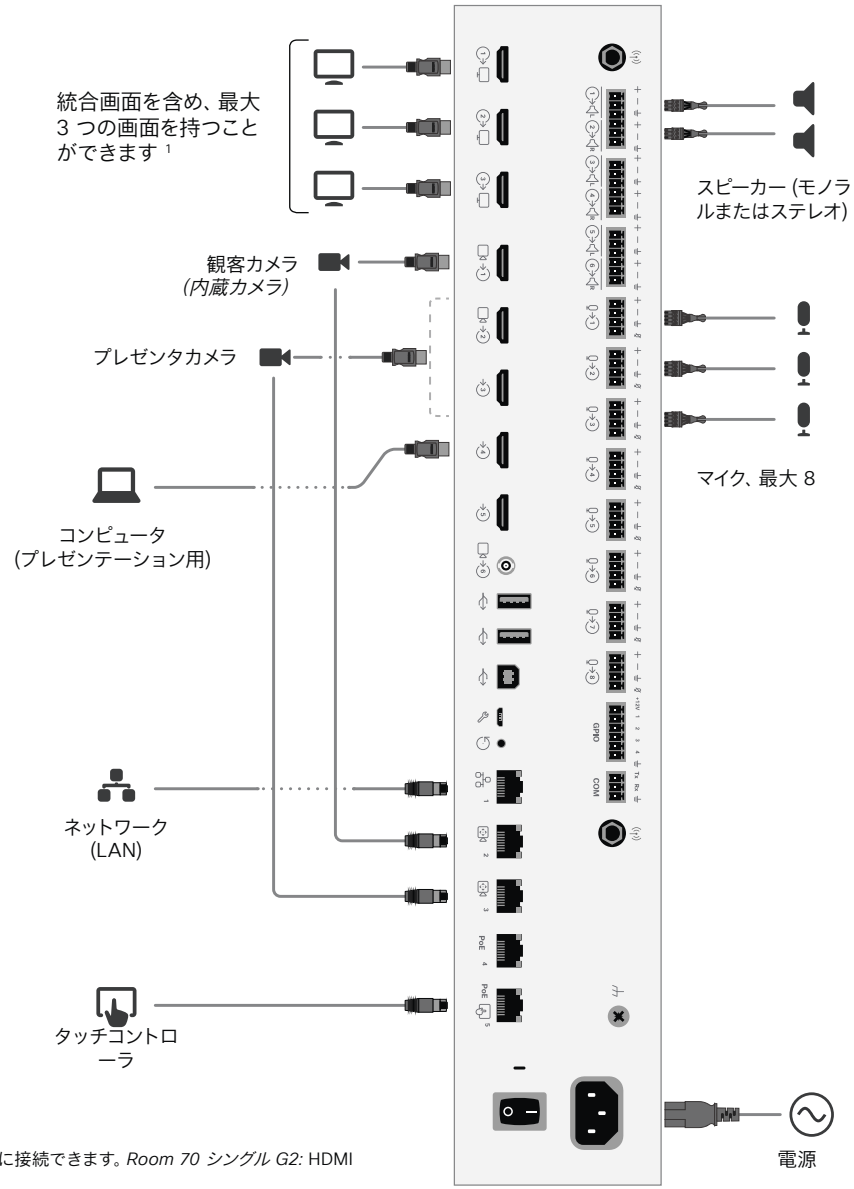
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

教室のセットアップ (8/11 ページ)

Room 70 G2: ケーブルを接続する

図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルームルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

内蔵カメラとスクリーン用のケーブルを含め、すべての事前接続済みケーブルを工場出荷時の状態で保管してください。**外部スクリーンとカメラを接続するだけです。**



[1] *Room 70 Dual G2:* HDMI 出力 1 および 2 は、デバイスの統合型スクリーン用です。外部スクリーンは HDMI 出力 3 に接続できます。*Room 70 シングル G2:* HDMI 出力 1 はデバイスの統合スクリーン用です。外部画面はHDMI出力2と3に接続できます。

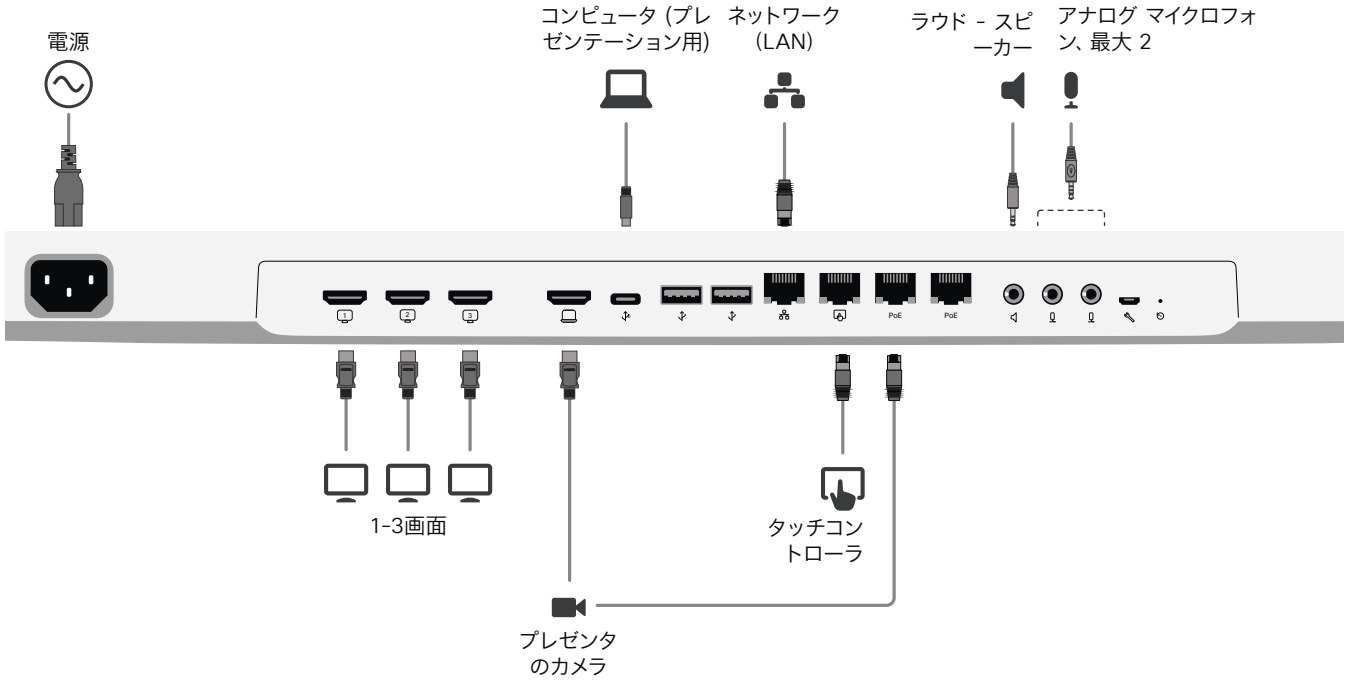
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

教室のセットアップ (9/11 ページ)

Room Bar Pro:ケーブル接続

⚠ 図で示されているように、カメラとスクリーンをデバイスに接続します。図に従うと、*クラスルームルームタイプテンプレート*を選択するときにデバイスに自動的にプッシュされる設定が、実際のセットアップと一致します。

デバイスの統合カメラは、*オーディエンスカメラ*。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

クラスルームのセットアップ (10/11 ページ)

デバイスを構成する

クラスルームを設定するときは、同じ部屋にいることをおすすめします。そうしないと、PresenterTrack を適切にセットアップすることができません。

1. 前のページの説明に従って、カメラとスクリーンを接続します。
2. *プレゼンタカメラ*からのビデオの共有を停止するには、タッチコントローラを使用します。クラスルームの設定中は、*プレゼンタカメラ*からのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
4. *ビデオ > 入力 > Connector n*に移動し、以下を設定します (*n* は [Connector の番号] で、*プレゼンタカメラ* が接続されています) 。
   - *InputSourceType*: カメラ
   - *PresentationSelection*: 手動
   - *品質*: モーション
   - *可視性* : なし
   - *CameraControl モード*: オン

   [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。
5. *プレゼンタカメラ*のために PresenterTrack をセットアップします。► PresenterTrack 機能をセットアップする の章を参照してください。

   この機能により、カメラはステージ上を移動しているプレゼンタに従うことができます。
6. *[設定]* に移動し、 *[構成]* を選択します。*[カメラ (Cameras)] > [プレゼンタトラック (PresenterTrack)] > [プレゼンタ検出ステータス (PresenterDetectedStatus)]* に移動して、*ローカルプレゼンタモードとリモートプレゼンタモード*の間の自動切り替えを有効にする (デフォルト) か無効にするかを選択します。

   [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

   モード間の切り替えについての詳細は次のページをお読みください。
7. デフォルトの画面とレイアウトの動作がセットアップに合わない場合、次の設定を使用して画面とレイアウトを構成する必要があります。
   - *ビデオ> モニタ*: 会議室セットアップの異なるレイアウトの数を定義します。
   - *ビデオ > 出力 > コネクタ n > モニタロール* : 各画面に表示されるレイアウトを定義します。モニタの役割が異なる画面ではレイアウトが異なります。

   詳細については、► スクリーンおよびその他の出力デバイスを設定する の章を参照してください。
8. [*設定*] に移動し、[*会議室タイプ*] を選択します。[*クラスルーム*] サムネイルをクリックして、対応する構成をデバイスにプッシュします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

教室のセットアップ (11/11 ページ)

会議室モードの切り替え

会議室モード (*ローカルプレゼンタ*、*リモートプレゼンタ*、*ディスカッション*) を切り替える。カメラ入力ソース、リモートおよびローカル画面レイアウトの変更は、次の 2 つの方法で行うことができます。

- 誰が話しているか、地元の司会者がステージにいるかどうかに基づいて自動的に表示されます。

  自動切り替えは、*ローカルプレゼンタ*モードと*リモートプレゼンタ*モードの間でのみ行われます。現在のモードが *[ディスカッション (Discussions)]* の場合、ルームモードは自動的に変更されません。

  すべての自動切り替えを無効にするには、[カメラ]、*PresenterTrack > PresenterDetectedStatus* を **無効**に設定します。

  PresenterTrack 機能が有効 (*カメラ > PresenterTrack > Enabled* が **True** に設定されている場合にのみ、自動切り替えがサポートされます。)。
- 手動で、タッチコントローラのボタンを使用します。

自動切り替えでは、以下が実行されます。

- 人物がプレゼンタトラックのトリガーゾーンで検出されると、デバイスは *[ローカルプレゼンタ (Local Presenter)]* モードに切り替えます。
- 追跡されているローカルプレゼンタがステージを離れると、デバイスは *リモートプレゼンタ* モードに切り替わります。
- デバイスが *[ローカルプレゼンタ (Local Presenter)]* モードのときにローカルオーディエンス内の誰かが質問をすると、デバイスはプレゼンタと質問者の両方を示す分割画面のビデオを送信します。この動作には、*オーディエンスカメラ*として SpeakerTrack 60 または Quad Camera が必要であり、スピーカートラッキングがオンになっている必要があります。

部屋のモードを手動で切り替える

会議中に、タッチコントローラを使用して別のモードに切り替えることができます。

1. タッチコントローラで*クラスルーム*をタップします。
2. 変更したいモードをタップします : *ローカルプレゼンタ*、*リモートプレゼンタ*または*ディスカッション*。現在のモードは強調表示されています。

   自動切り替えが無効になっていない場合、会議室モードは自動切り替えルールに従って変更され続けます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Board Pro、Board Pro G2、Room Bar Pro で外部マイクを使用する

これらの端末は、最大 4 m/13 ft の距離に調整された内蔵マイクアレイを搭載しています。ほとんどの中小規模のミーティングルームやコラボレーションスペースには十分です。大きな会議室では、最高の音声体験を保証するために、外部の卓上またはシーリング マイクを追加して、音声ピックアップを拡張することをお勧めします。

会議室の音響とバックグラウンド ノイズ レベルは、ミーティング スペースの音声ピックアップの距離と品質にも影響を与えることに注意してください。ベストプラクティスに関するガイダンスについては、Webex Workspaces を参照してください。

► https://www.webex.com/workspaces.html

内部マイク アレイ

デバイスの内部マイク アレイは、2 つの主要な部分で構成されています。

1. 近距離話者ゾーンで、デバイスから約 1.5 m/5ft までをカバーします。これにより、デバイスのそばに立っている、プレゼンテーションを行っている、または描画しているユーザーの音声をピックアップします。
2. 3 つのビームが一体となって広角カメラのレンズとほぼ同じ 120° の範囲をカバーします。デバイスから最大約 4 m/13ft 離れた会議室の人々の音声をデバイスが拾います。

外部マイク

会議室で端末から 4 m 13フィートを超える範囲での集音が必要な場合は、外部マイクを追加することをおすすめします。デバイスは、最大 2 つのアナログ マイク (ミニジャック) または複数のデジタル マイク (イーサネット)[1]をサポートします。デジタル USB マイクもサポートされています。

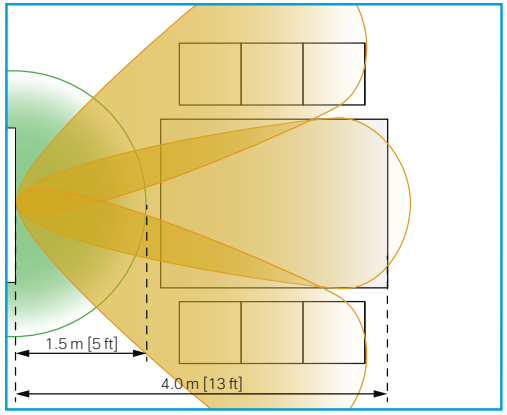
アナログまたはデジタル (イーサネット) マイクをデバイスに接続すると、内部マイク アレイの 3 つのビームは自動的に無効になります。近接話者ゾーンが有効かどうかは製品により異なります。

- *Board Pro、Board Pro G2:* 近接話者ゾーンに人がいるとこのゾーンがアクティブになります。そのため、デバイスのそばにいる人々の音声を拾います。
- *Room Bar Pro:* 近くの話者ゾーンはデフォルトで無効になっています。

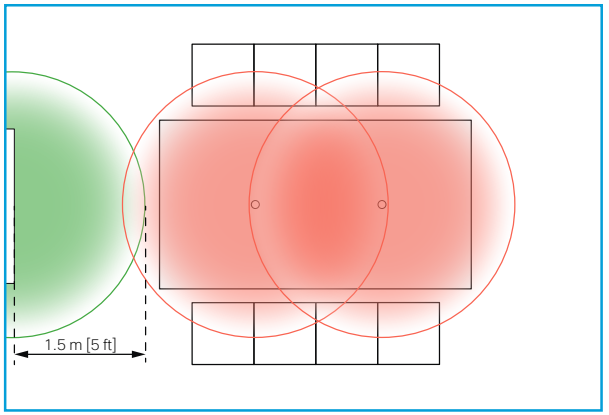
セットアップ ウィザードを実行せずに、外部アナログ マイクまたは Ethernet マイクを使用するときに 3 つのビームを有効にする場合は、次のように設定する必要があります: *Audio > Microphones > BeamMix > Inputs*: BeamsAndExtMics

注意: Ceiling Microphone Pro または Table Microphone Pro を使用する場合は、 自動 設定を使用してセットアップ ウィザードを実行することをお勧めします。これにより、マイク配置を考慮したよりスマートなオーディオ ミキサーが提供されます。

USB マイクを接続すると、すべての内部マイクおよびすべての外部アナログまたはデジタルイーサネット マイクが無効になります。

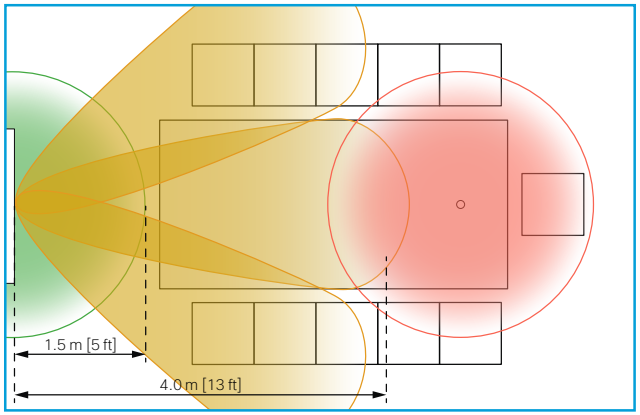


外部マイクなしのセットアップ: 近接話者ゾーン (緑) と 3 つのビーム (黄) を備えた内部マイク。



外部マイクによるセットアップ (自動動作): 2 つの外部マイク (赤) と内部マイク アレイの発言者ゾーン (緑)。

Ceiling Microphone Pro および Table Microphone Pro の場合、これはセットアップ ウィザードを使用しないエクスペリエンスです。



外部マイクとビーム有効時のセットアップ: 1 つの外部マイク (赤)、内部マイク アレイの発言者側ゾーン (緑)、3 つのビーム (黄)。

Ceiling Microphone Pro および Table Microphone Pro では、セットアップ ウィザードを使用して、ビーム ミキシングを 自動 に設定する必要があります。

[1] *Board Pro、Board Pro G2*: 最大 8 本のデジタル マイク。
Room Bar Pro: 最大 8 本のデジタル マイク。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スピーカーの接続をテストする (1/4 ページ)

デバイスのスピーカーがコーデックに正しく接続されていることは、電話会議のエクスペリエンスにとって非常に重要です。

正しいケーブル接続により、右のスピーカーから流れるはずの音声が実際には右のスピーカーから流れ、左のスピーカーから流れるはずの音声が左のスピーカーから流れることを確実にします。スピーカーケーブルが正しく接続されていない場合、これは起こりません。

スピーカーの接続をテストするときは、ビデオ会議デバイスと同じ会議室にいなければなりません。スピーカーのテストで問題が見つかった場合は、ケーブルを再接続する必要があります。

Room Kit EQX、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama

スピーカーが正しく接続されていることを確認するために実行できるスピーカー チェック ツールを提供しています。カメラ モジュール内のスピーカーもテストに含まれます。

Room Panorama: この方法は Room Panorama でも使用できますが、Room Panorama 設定アシスタントに含まれているスピーカーのテストを使用することをお勧めします。これについてはこの章の後で説明します。

デバイスウェブ インターフェースにログインして [*開発者 API*] に移動してください。

ラウドスピーカーチェックを実行する

1. 次のコマンドを *コマンドと設定を実行* テキストエリアに入力します: *

   `xCommand` **オーディオ** `SpeakerCheck`
   測定の長さ: <秒数>
   音量: <テスト信号音量>

   測定長さ および **音量** のパラメータを指定しない場合、テスト信号が発生するのは各スピーカーから 1 秒 、音量は 1 です。

2. *[実行 (Execute)]* をクリックします。

   スピーカーのチェックが実行され、テスト信号が各スピーカーから発信されます。

   Room Kit EQX、Room Panorama: 左から右に順番に再生されますが、カメラのスピーカー (中央) が最後に再生されます。

   その他の製品: 順番は左から右に流れます。これにはカメラのスピーカーも含まれます。

3. テスト信号を聞きます。

   1 つまたは複数のスピーカーから音が鳴らない、または順番が正しくない場合は、スピーカーケーブルを再接続し、スピーカーチェックを再度実行する必要があります。

* 構文とセマンティックスは、デバイスの API ガイドで説明されています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スピーカーの接続をテストする (4ページ中の2ページ目)

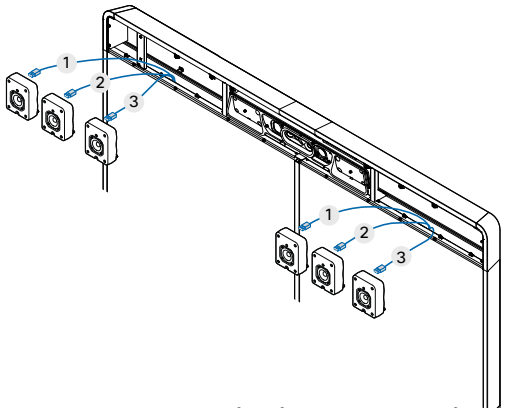
ケーブルを再接続する方法

詳細については、製品の *インストールガイド* を確認してください。

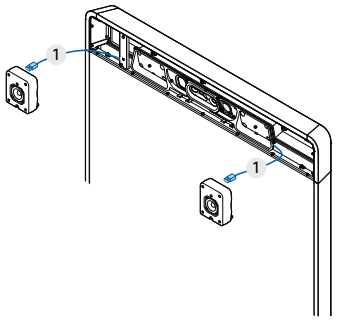
1. デバイスの上部のテキスタイル グリッドを取り外します。それは磁石にくっつきます。
2. スピーカー (Torx T20) を固定しているビスを外します。次に、スピーカーをそのペグからゆっくりと取り外します。
3. 誤って接続されているケーブルを外し、正しいケーブルを接続してください。

   ケーブルは番号でマークされています。図をチェックしてどのケーブルをどのスピーカーに接続するかを決めてください。

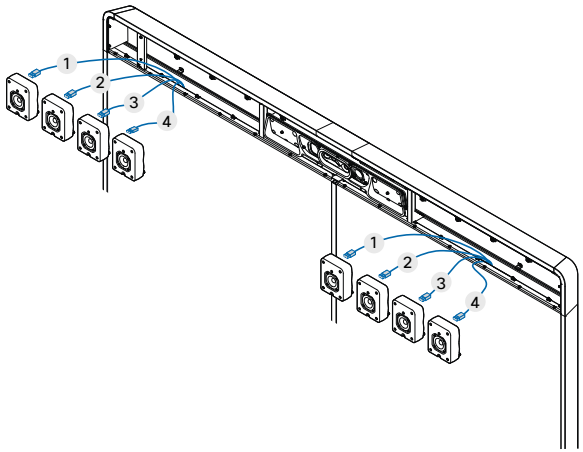
Room 55 Dual



Room 70 Single and Room 70 Single G2



Room 70 Dual、Room 70 Dual G2、Room 70 Panorama



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

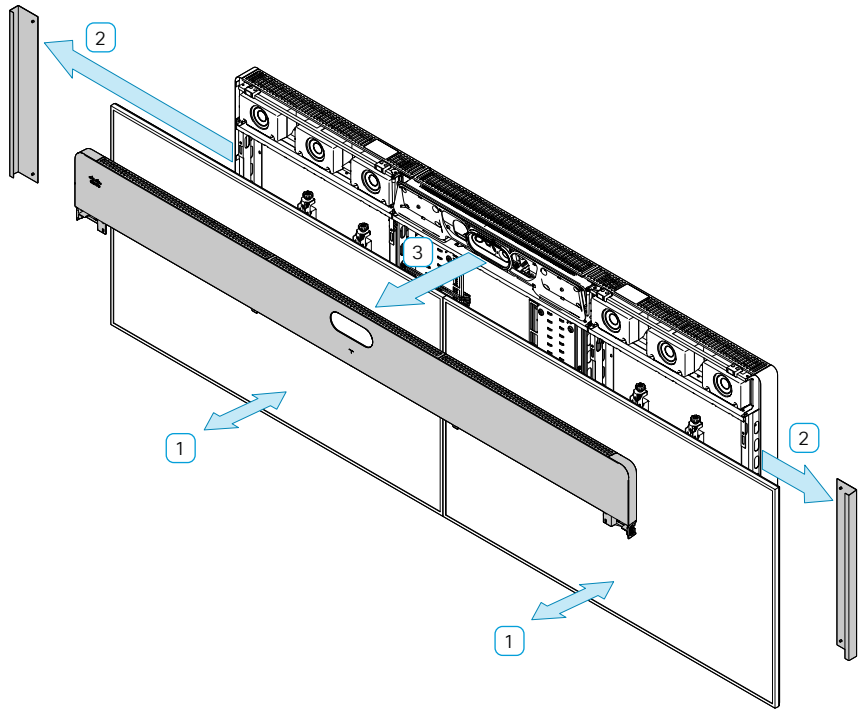
スピーカーの接続をテストする (3/4 ページ)

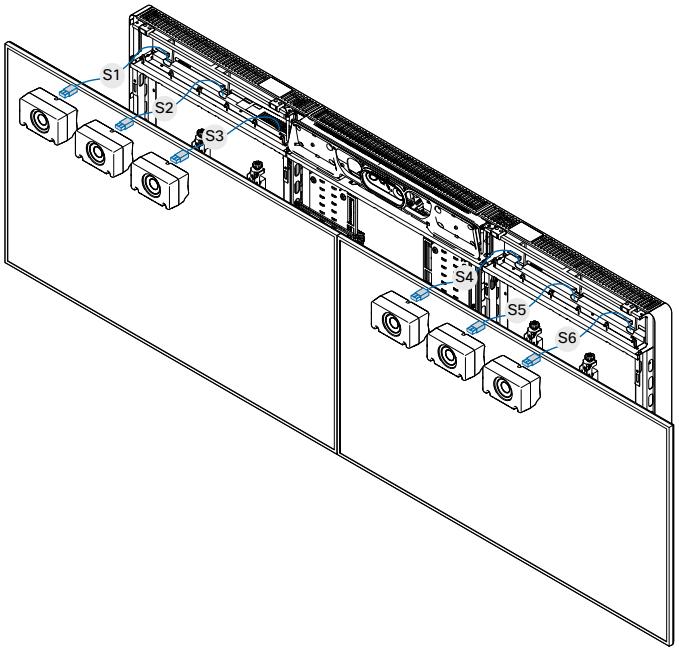
ケーブルを再接続する方法

詳細については、製品の *インストールガイド* を確認してください。

1. 画面をゆっくりと押してポップアウトしてください。
2. サイドパネルを取り外します。それぞれ 2 本のビスで固定されています。
3. 上部の布製グリルを取り外します。4 本のビスで固定されています。
4. スピーカー (Torx T20) を固定しているビスを外します。次に、スピーカーをそのペグからゆっくりと取り外します。
5. 誤って接続されているケーブルを外し、正しいケーブルを接続してください。

   ケーブルは番号でマークされています。図をチェックしてどのケーブルをどのスピーカーに接続するかを決めてください。





© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スピーカーの接続をテストする (4/4 ページ)

Room Panorama

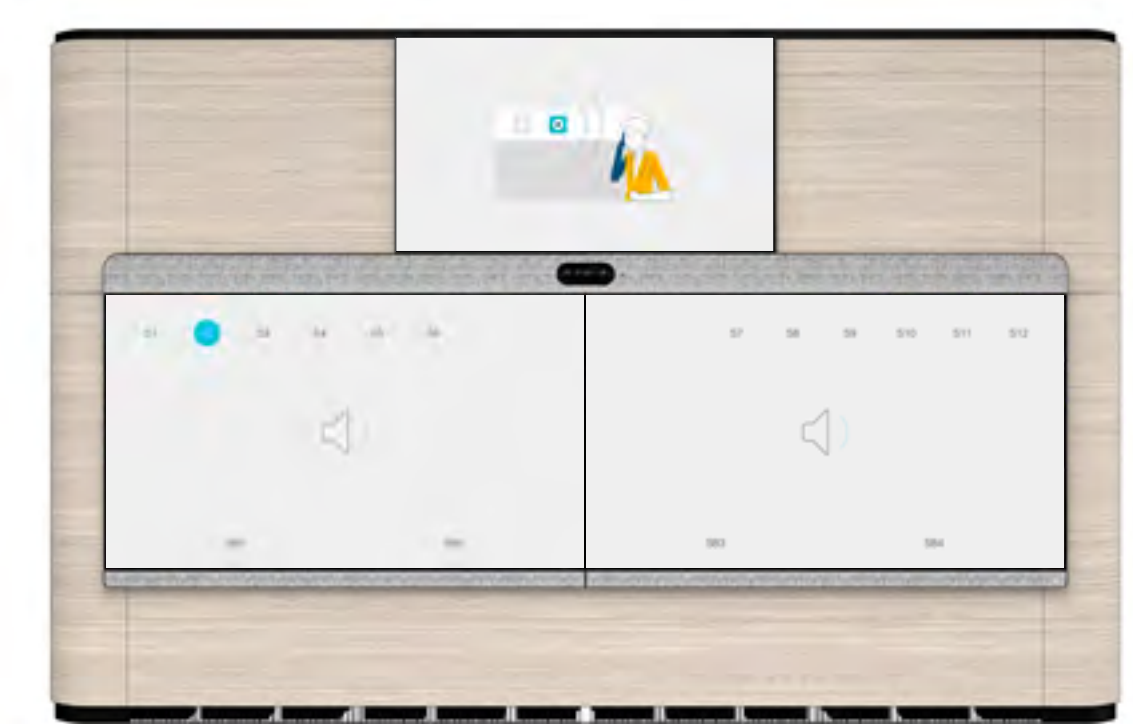
ラウドスピーカー テストは Room Panorama 設定アシスタントに含まれています。これについては、製品の 始め方ガイドで説明されています。

タッチコントローラから手動でテストを開始することもできます。

スピーカーのテストを実行するとき、各スピーカーから順番に音声が再生されます。

1. *をタップします > 設定 > 問題と診断 >手動スピーカーチェック > サウンドを再生* してテストを開始します。

2. 次へ *をタップして次のスピーカーを聞く、または前へ* をタップして前のスピーカーをもう一度聞く。



テストの実行中、画面上のグラフィックスでは、各スピーカーの位置の近くに数字が表示されます。再生するスピーカーの近くの番号が青でマークされます。

- S1-S12: スクリーン上部のラウドスピーカー (スピーカー格子の裏側)
- SB1-SB4: スクリーンの下のサブウーハー (コスメティックパネルの後ろ)

スピーカーとサブウーファーが正しく接続されていれば, 青色でマークされた位置にあるスピーカーから音が再生されるのがわかるでしょう.

ラウドスピーカーが乱れて再生される場合、またはラウドスピーカーがまったく再生されない場合は、ケーブルを確認する必要があります。はじめにガイドを読んで問題を解決する方法を見つけてください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Bluetooth® ヘッドセット

次の Bluetooth プロファイルがサポートされています。

- HFP（ハンズフリー プロファイル）
- A2DP（高度なオーディオ配信プロファイル）
- ヘッドセットは HFP と A2DP の両方をサポートしているか、または HFP のみをサポートしている必要があります。A2DP-only のヘッドセットはサポートされていません。

Bluetooth ヘッドセットは、埋め込み Bluetooth 無線で直接サポートされるか、または USB Bluetooth ドングルを使用してサポートされます。ビデオ会議デバイスには複数のヘッドセットをペアリングできますが、一度に接続できるのは 1 つだけです。

範囲は最大 10 m（30 フィート）です。通話中に圏外に移動すると、音声はビデオ会議デバイスのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中、ヘッドセットとビデオ会議デバイスの音量は同期されます。通話中でないとき、ヘッドセットとビデオ会議デバイスの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能：

- 着信コールに応答する
- 通話の保留と再開
- 着信通話の拒否
- 通話を切る
- 音量アップ、音量ダウン
- 一部のヘッドセットにはミュート コントロールが備わっています。Cisco ヘッドセットを使用している場合、ヘッドセットとビデオ会議デバイスのミュート コントロールが同期されます。その他のヘッドセットの場合、ヘッドセットのミュート コントロールは、ビデオ会議デバイスのミュート コントロールから独立して動作します。

USB Bluetooth ドングル

- USB Bluetooth ドングルを使用する場合、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。
- ドングルを使用している場合、ヘッドセットの音量とビデオ会議デバイスの音量は同期されません。
- Cisco 700 USB アダプター、Jabra Link 360、Jabra Link 370、Plantronics BT300、Plantronics BT600 でテスト済みですが、他のものも機能する可能性があります。

Bluetooth ヘッドセットをペアリングする

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。不明な点がある場合は、ヘッドセットの取扱説明書を参照してください。
2. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *[デバイス設定 (Device settings)]* を選択します。
3. *[Bluetooth]* を選択します。Bluetooth が無効になっている場合には、有効にします。
4. ビデオ会議デバイスが Bluetooth デバイスをスキャンします。正常に検出されると、デバイスの一覧に Bluetooth ヘッドセットが表示されます。
5. デバイスを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
6. ペアリングが正常に行われると、ビデオ会議デバイスはヘッドセットを接続済みとして表示します。ペアリングが完了しました。

デバイスを切り替える

ビデオ会議デバイスの内蔵スピーカーと、アナログ、Bluetooth または USB 経由で接続された音声デバイスの間で切り替えることができます。

- 内蔵音声（スピーカー）
- ヘッドセット/ヘッドホン（アナログ）
- ヘッドセット USB
- ハンドセット
- Bluetooth デバイス

ユーザーインターフェイスから使用する音声デバイスを選択する方法:

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。
2. 対応するドロップダウンメニューから音声デバイスを選択します。*(Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Pro、Desk Mini)*

   タップして *音声* を選択し、対応するドロップダウンメニューから音声デバイスを選択します。*(Room Bar、Room Bar Pro、Room Navigator)*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

タッチコントローラを接続する (1/ 10 ページ)

ビデオ会議デバイスの種類により、タッチコントローラ* は次の方法で接続できます。

- ビデオ会議デバイスに直接接続 *(Board は未対応)*
- ネットワーク (LAN) 経由でデバイスにペアリングします。これはリモートペアリングと呼ばれます。

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

適用: Board を除くすべての製品

Room Panorama: Room Panorama の設置では、イーサネット・スイッチがテーブルの下または近くに配置されています。タッチコントローラをこのスイッチに接続します。コーデックに直接接続しないでください。

Room Panorama は、最大 2 つのタッチコントローラをサポートしています。

その他の製品: 次のページの説明に従って、ビデオ会議デバイスの専用タッチコントローラ ポート (RJ45) にタッチコントローラを接続します。

Room Kit は Power over Ethernet (PoE) を提供しないため、タッチコントローラに電力を与えるために、ミッドスパン PoE インジェクターが必要であることに注意してください。

タッチコントローラのセットアップ

タッチコントローラはイーサネット (PoE) 経由で電源供給されています。接続すると、セットアップ手順が始まります。画面の指示に従います。

タッチコントローラのソフトウェア アップグレードが必要な場合、セットアップ手順の一部として、新しいソフトウェアがビデオ会議デバイスから自動的にダウンロードされ、ユニットにインストールされます。タッチコントローラはアップグレード後に再起動します。

タッチコントローラの手順に従って、セットアップを完了できます。

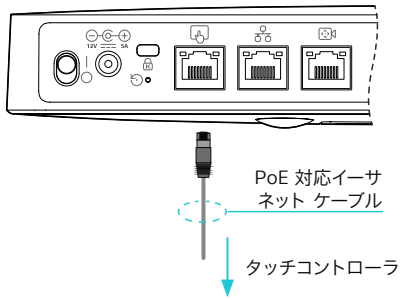
* サポートされているタッチコントローラ: Room Navigator (イラストに表示されている) および Touch 10。どのタイプのコントローラに対応するデバイスかについては、 ▶ タッチコントローラ の章を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

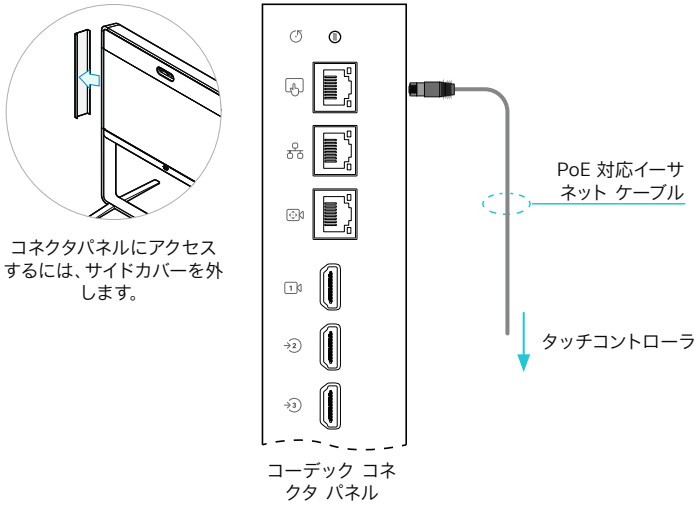
タッチコントローラを接続する (2 ページ/ 10)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

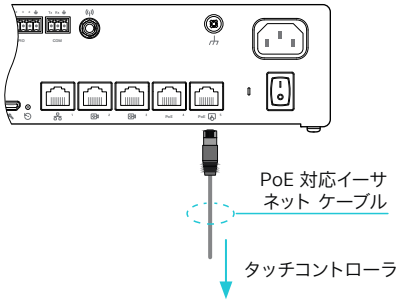
Codec Plus



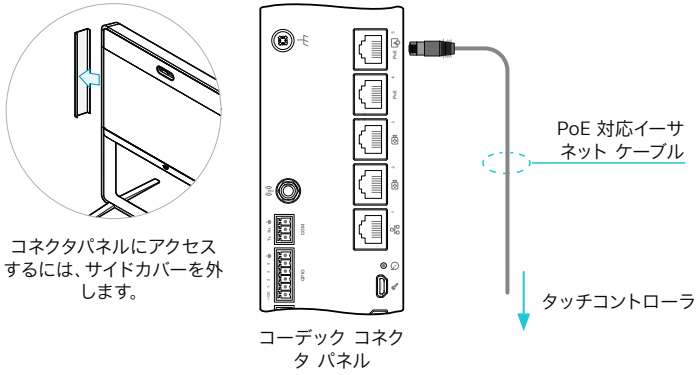
Room 55 Dual および Room 70

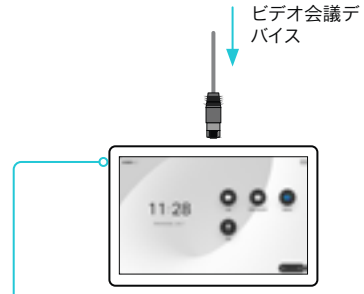


Codec Pro



会議室 70 G2 および Room 70 Panorama





連絡先情報

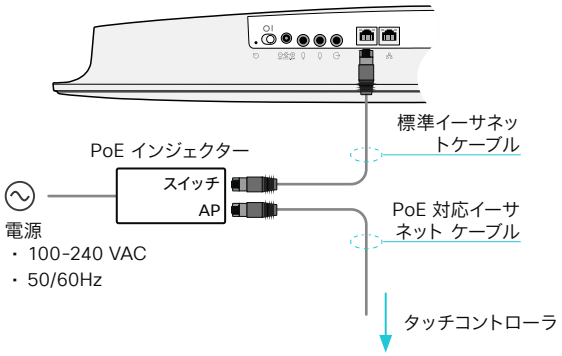
タッチコントローラがデバイスに正常に接続されると、ビデオ会議デバイスの名前またはアドレスが左上角に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

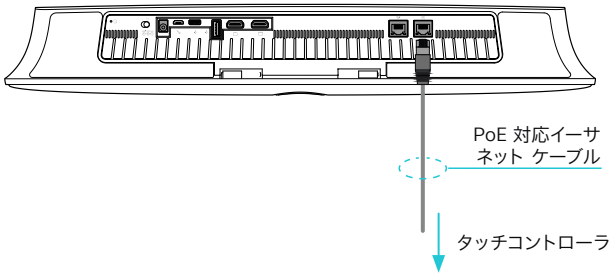
タッチコントローラを接続する (3/ 10 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

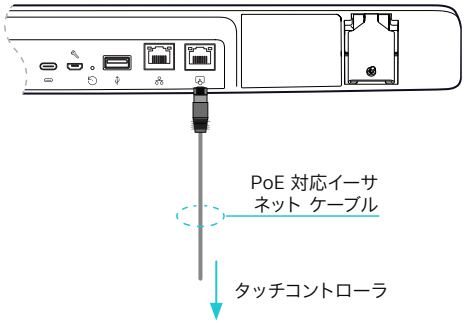
Room Kit



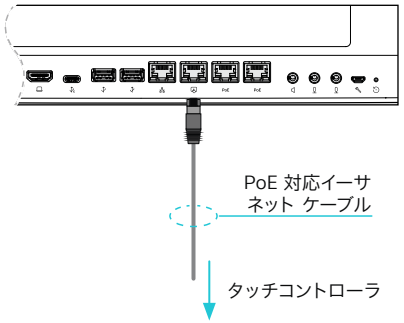
Room Kit Mini

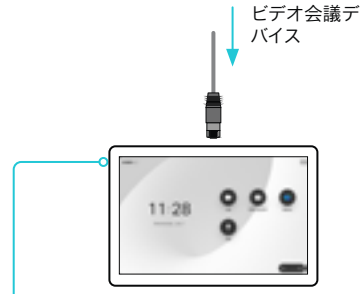


Room Bar



Room Bar Pro





イーサネット コネクタはタッチコントローラの背面にあります。

連絡先情報

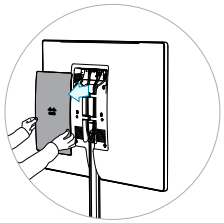
タッチコントローラがデバイスに正常に接続されると、ビデオ会議デバイスの名前またはアドレスが左上角に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

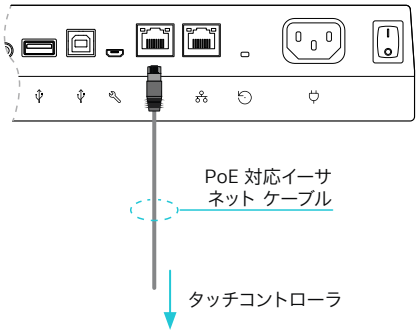
タッチコントローラを接続する (4/10 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

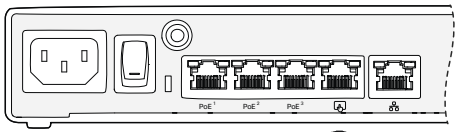
Room 55



コネクタパネルと電源スイッチにアクセスするために、後部カバーを取り外します。

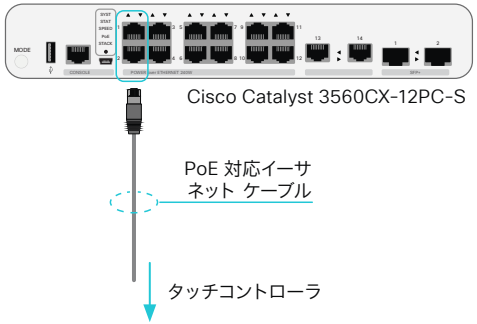


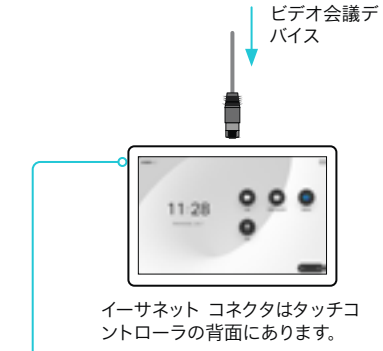
Codec EQ および Room Kit EQX



Room Kit EQX:右側の画面を取り出してコーデックにアクセスします。

Room Panorama





イーサネット コネクタはタッチコントローラの背面にあります。

連絡先情報

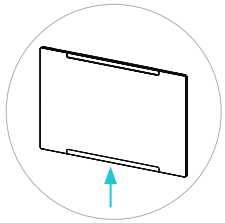
タッチコントローラがデバイスに正常に接続されると、ビデオ会議デバイスの名前またはアドレスが左上角に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

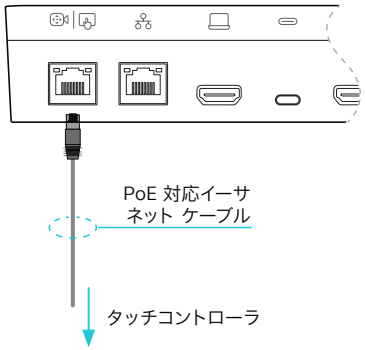
タッチコントローラを接続する (5/10 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

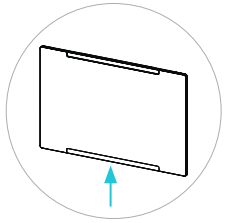
Board Pro



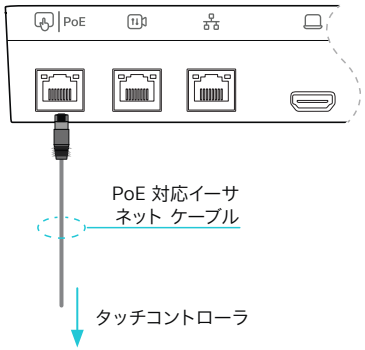
コネクタ パネルは下部にあります。

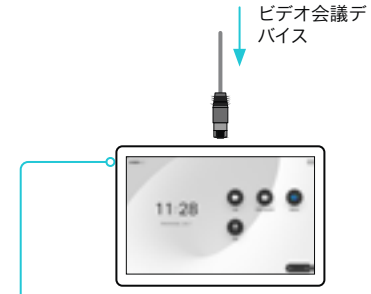


Board Pro G2



コネクタ パネルは下部にあります。





イーサネット コネクタはタッチコントローラの背面にあります。

連絡先情報

タッチコントローラがデバイスに正常に接続されると、ビデオ会議デバイスの名前またはアドレスが左上角に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

タッチコントローラを接続する (6/ 10 ページ)

ネットワーク (LAN) 経由でビデオ会議デバイスにタッチコントローラを接続する

次のページの図のように、タッチコントローラとビデオ会議デバイスを壁面のネットワークソケットまたはネットワークスイッチに接続します。

タッチコントローラのセットアップ

タッチコントローラが電源に接続されると、セットアップ手順が開始する。画面の指示に従います。

[*会議室デバイスを選択*] 画面が表示されたら、接続するビデオ会議デバイスを選択する。

- ペアリングが可能なことを通知するデバイスのリストが画面に表示されます。ペアリングするデバイスの名前をタップします。

  デバイスがリストに表示されるためには、以下の条件を満たす必要があります。

  - デバイスとタッチコントローラが同じサブネット上にある必要があります。
  - デバイスが直近 10 分以内に再起動されている必要があります。デバイスがリストに表示されない場合、再起動してみてください。
- 利用可能なデバイスのリストにデバイスが表示されない場合は、入力フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力します。[接続 (Connect)] をタップします。

タッチコントローラのソフトウェア アップグレードが必要な場合、新しいソフトウェアがセットアップ手順の一部として自動的にデバイスからダウンロードされ、ユニットにインストールされます。タッチコントローラはアップグレード後に再起動します。

[*デバイスにペアリング*] 画面が表示されたら、ペアリング方法を次のオプションから選択します:

- ユーザ名/パスフレーズ - ユーザ名とパスフレーズを使ってサインインします。右矢印をタップして進む。

  USER ロールを持つユーザーで十分です。このタスクを実行するために、管理者ロールは必要ありません。

  ユーザアカウントを作成して役割を割り当てる方法の詳細については、 ▶ ユーザ管理 の章を参照してください。
- PIN ペアリング - xAPI を通じて PIN を生成します。

PIN ペアリングを開始して PIN を作成するには:

```
xCommand Peripherals Pairing PinPairing Start
```

以下のパラメータを指定することができます。

- *継続時間* - ペアリングプロセスがアクティブである期間 (分)。
- *PinVisibleOnScreen* - PIN をビデオ会議デバイスに接続されたメイン画面に表示するかどうかを指定します。これが false の場合、管理者はタッチ コントローラー画面にいる人に PIN を提供する必要があります。
- *再試行* - 新しい PIN を生成するまでに許容される無効な試行の回数。

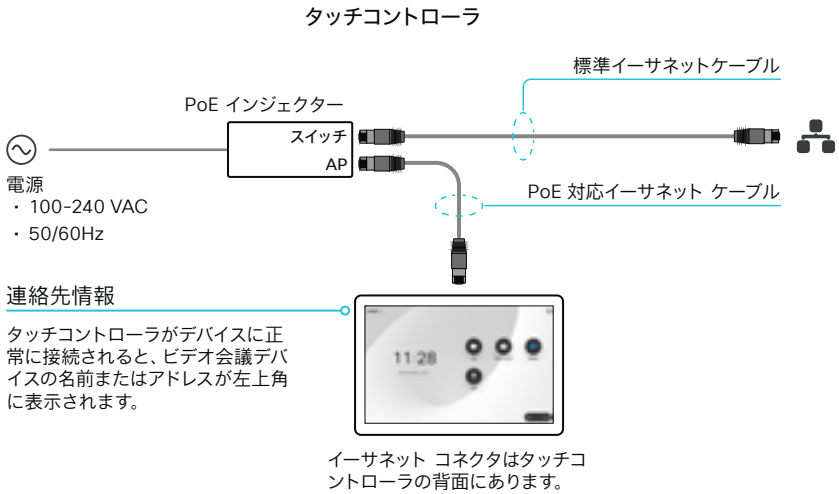
ネットワーク経由で接続されているタッチコントローラのペアリングを解除する

ネットワーク経由でデバイスに接続されているタッチコントローラ (リモートペアリング済み) のペアリングを解除するには、タッチコントローラの [*設定*] メニューに移動します。[*タッチコントローラのペアリングを解除*] を選択し、[*ペアリング解除*] をタップして確定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

タッチコントローラを接続する (7/ 10 ページ)

ネットワーク (LAN) 経由でビデオ会議デバイスにタッチコントローラを接続する



ネットワーク (LAN)

ネットワーク インフラストラクチャが Power over Ethernet (PoE) を提供する場合、PoE インジェクターは必要ありません。タッチコントローラは、PoE 対応のイーサネット ケーブルを使用して壁のコンセント (またはイーサネット スイッチ) に直接接続する必要があります。

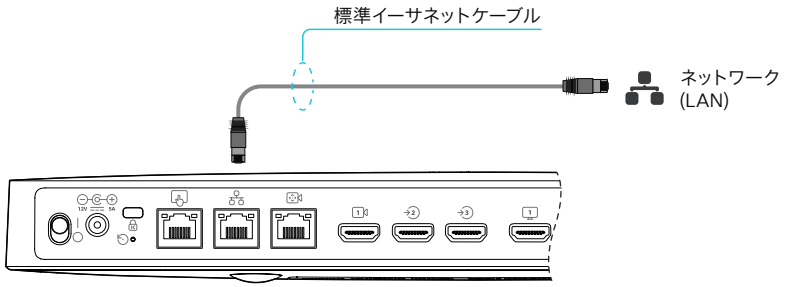
安全のために、PoE 電源はタッチコントローラと同じ建物内にある必要があります。PoE 対応のイーサネット ケーブルの長さは最大で 100 m (330 ft) です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

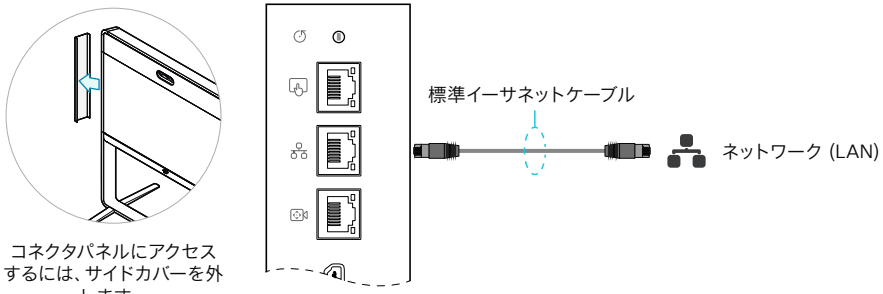
タッチコントローラを接続する (8/ 10 ページ)

ネットワーク (LAN) 経由でビデオ会議デバイスにタッチコントローラを接続する

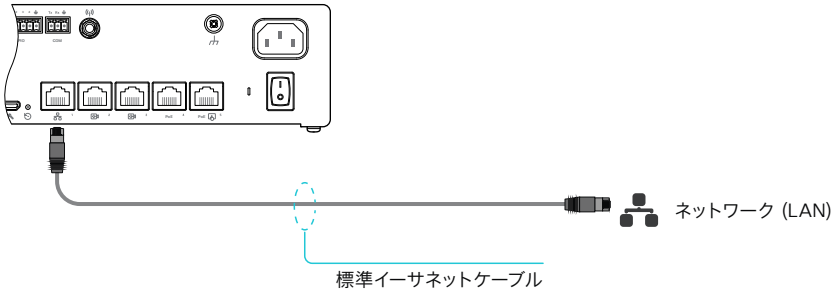
Codec Plus



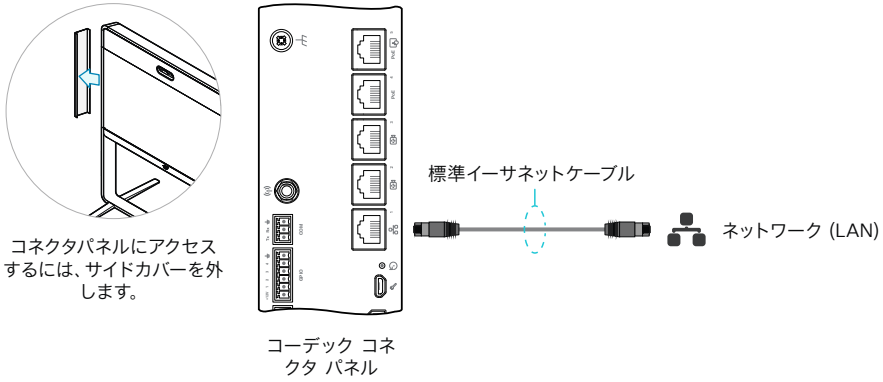
Room 55 Dual および Room 70



Codec Pro および Room Panorama



会議室 70 G2 および Room 70 Panorama

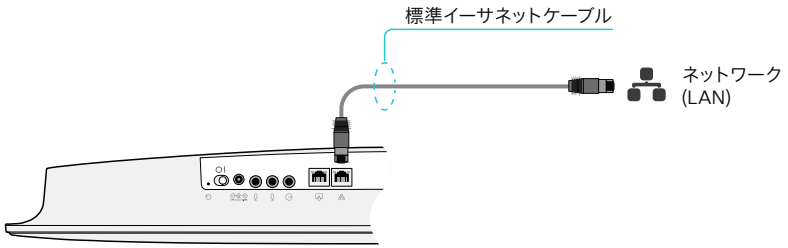


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

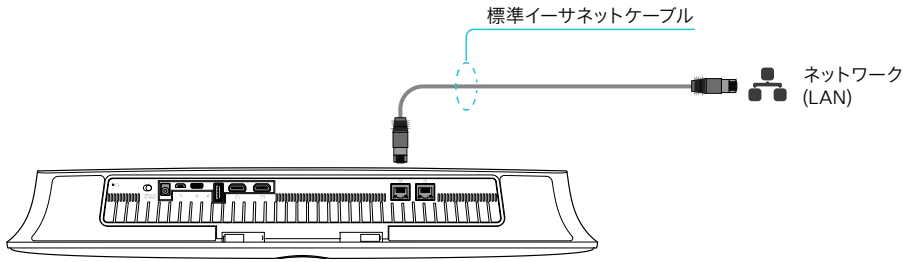
タッチコントローラを接続する (9/ 10 ページ)

ネットワーク (LAN) 経由でビデオ会議デバイスにタッチコントローラを接続する

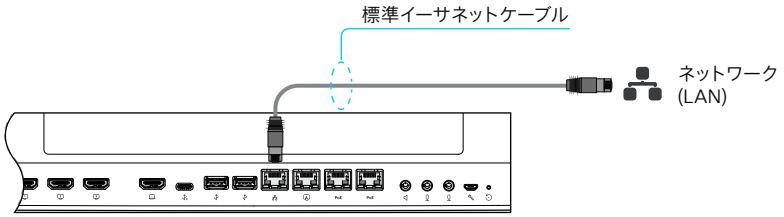
Room Kit



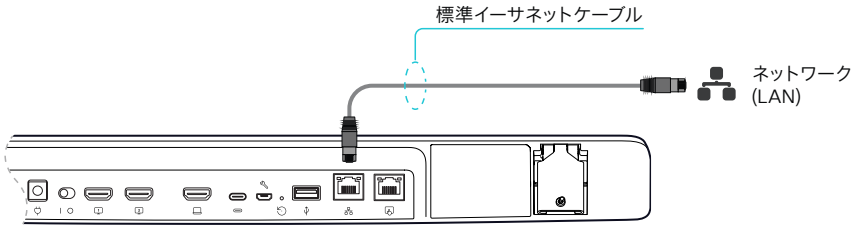
Room Kit Mini



Room Bar Pro



Room Bar

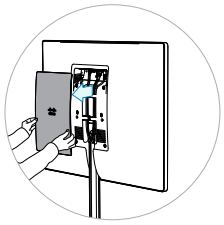


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

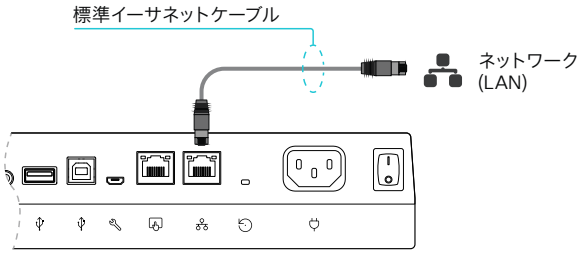
タッチコントローラを接続する (10/ 10 ページ)

ネットワーク (LAN) 経由でビデオ会議デバイスにタッチコントローラを接続する

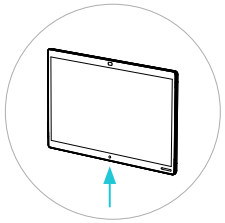
Room 55



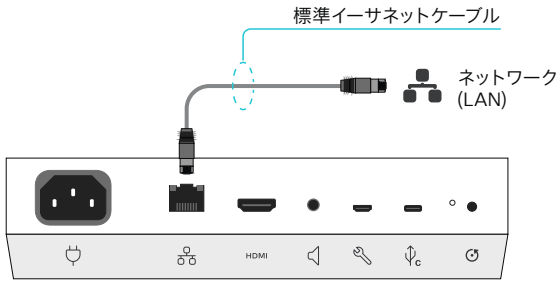
コネクタパネルと電源スイッチにアクセスするために、後部カバーを取り外します。



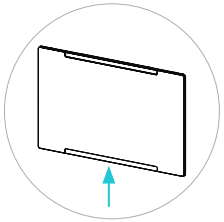
Board



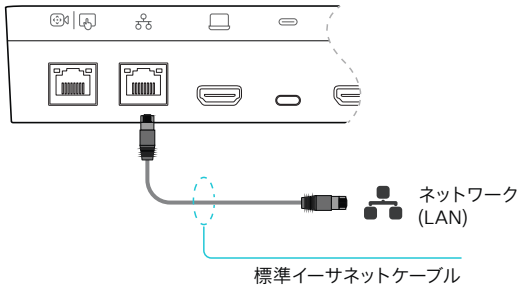
コネクタパネルは背面下部にあります。



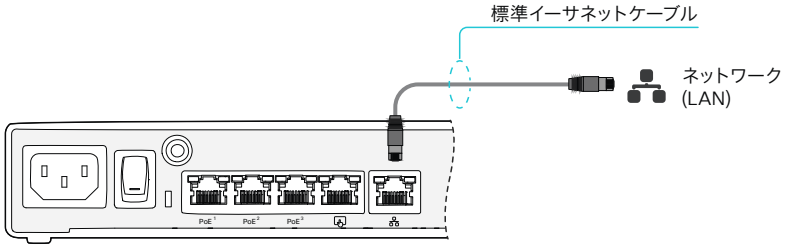
Board Pro



コネクタ パネルは下部にあります。

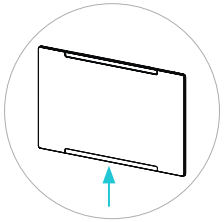


Codec EQ および Room Kit EQX

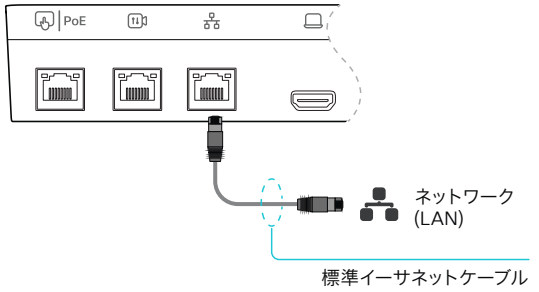


Room Kit EQX:
右側の画面を取り出してコーデックにアクセスします。

Board Pro G2



コネクタ パネルは下部にあります。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 4 章

メンテナンス

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

新しいソフトウェアをインストールする (1/2ページ)

新しいソフトウェアのダウンロード

各ソフトウェアバージョンには固有のファイル名が付けられています。Cisco Download Software ウェブページに移動して、お使いの製品を選択します。
▶ https://software.cisco.com/download/home

ファイル名の形式は次の通りです: *

- "cmterm-s53200ce11_x_y_z.k4.cop.sha512"
  (Board、Codec Plus、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、および Room 70)
- "cmterm-s53300ce11_x_y_z.k4.cop.sha512"
  (Board Pro、Board Pro G2、Desk Pro、Desk、Desk Mini、Codec EQ、Codec Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room 70 Panorama、および Room Panorama)

X はマイナーリリース番号、y はパッチ番号、z はビルド番号です。

ソフトウェアのアップグレードとダウングレード

ソフトウェア リリース ノート (サイド バーのリンク) を慎重に読み、ソフトウェアのアップグレードとダウングレードの要件を確認してください。これは、Cisco UCM、TMS、デバイスのウェブ インターフェイスなどを使用してソフトウェアをインストールする場合に適用されます。

アップグレードまたはダウングレードする場合、インストールしているバージョンに表示されない設定は削除されます。後で以前のソフトウェアバージョンに戻ろうとすると、削除された設定にはデフォルト値が割り当てられます。

クラウド管理のソフトウェアアップグレード

デバイスがデバイス版 Webex Edge にリンクされている場合、Webex クラウド サービスからソフトウェアをアップグレードすることを選択できます。新しい RoomOS ソフトウェア バージョンがクラウドから利用可能になるとすぐに、デバイスが自動的にアップグレードされます。

詳細についてはデバイス版 Webex Edge のクラウド管理ソフトウェアのアップグレード 、▶ デバイス版 Webex Edge (https://help.webex.com/cy2l2z/) のWebex ヘルプセンターの記事で参照してください。

PKG ファイルと COP ファイルについて

ビデオデバイスと周辺機器のソフトウェア イメージは別の PKG ファイルにあります。

そのため、これらのデバイスをアップグレードする際には COP ファイルを使用する必要があります。COP ファイルには、ビデオデバイスと周辺機器に必要な PKG ファイルが含まれ、COP ファイルのコンテンツがリストされた *ロード* ファイルが含まれます。

ソフトウェア リリース ノート

このリリースのニュースと変更点について完全に理解するためには、「ソフトウェア リリース ノート (RoomOS 11)」を参照してください。これは、すべての製品をカバーする 1 セットのリリースノートです。次のいずれかのページに移動してください:

▶ https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/products-release-notes-list.html

▶ https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-release-notes-list.html

▶ https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-board/products-release-notes-list.html

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

新しいソフトウェアのインストール (2/2 ページ)

デバイスウェブインターフェイスからソフトウェアをインストールする場合は、インターフェイスにサインインして [*ソフトウェア*] に移動し、[*ソフトウェアのアップグレード*] を選択します。

新しいソフトウェアをインストール

適切なソフトウェアパッケージをダウンロードし、コンピュータに保存します。これは .cop.sgn ファイルです。ファイル名を変更しないでください。

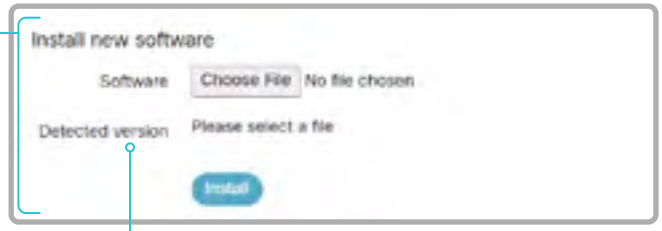
1. *ファイルの選択* をして、新しいソフトウェアを含む .cop.sgn ファイルを見つけてください。

   ソフトウェアのバージョンが検出され、表示されます。

2. [*インストール*] をクリックしてインストールを開始してください。

インストールの完了には、通常 15 分もかかりません。ウェブページで進行状況を追跡できます。インストール後、デバイスは自動的に再起動されます。

再起動後もデバイスのウェブ インターフェイスで作業を続けるためには、新たにログインする必要があります。



新しいソフトウェアバージョンの確認

ファイルを選択すると、ソフトウェアのバージョンがここに表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

オプションキーを追加する

デバイスのウェブインターフェイスにログインして、[*ソフトウェア*] に移動して、 *[オプションキー]* を選択します。

すべてのオプションキーと、お使いのデバイスにインストールされていないキーのリストが表示されます。

アンインストールされたオプションのオプション キーを取得する方法については、Cisco の担当者に問い合わせてください。

オプションキーをアンインストールする

削除ボタンをクリックしてオプションキーをアンインストールします。

デバイスのシリアル番号

オプションキーを注文するときに、デバイスのシリアル番号が必要です。

オプションキーを追加する

1. テキスト入力フィールドに *オプションキー* を入力してください。
2. [*Apply*] をクリックしてオプションキーを追加してください。

複数の option キーを追加する場合は、すべてのキーに対してこれらの手順を繰り返します。

オプションキーについて

デバイスには、1 つまたは複数のソフトウェアオプションがインストールされている場合とされていない場合があります。オプション機能を有効にするには、デバイスで対応する *オプションキー* が存在する必要があります。

各デバイスには固有のオプションキーがあります。

オプションキーはソフトウェアのアップグレードまたは工場出荷時設定へのリセットを実行しても削除されないため、追加する必要があるのは 1 回だけです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのステータス

デバイス情報の概要

デバイスのウェブインターフェイスにログインして [*ホーム*] を選択します。

これは *システム情報* ページで、IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、アクティブなネットワークインターフェイス、ソフトウェアバージョン、SIP アドレス、問題、登録ステータスなどの一般情報を表示します。使用率、環境データなどを表示します。

詳細なデバイス ステータス

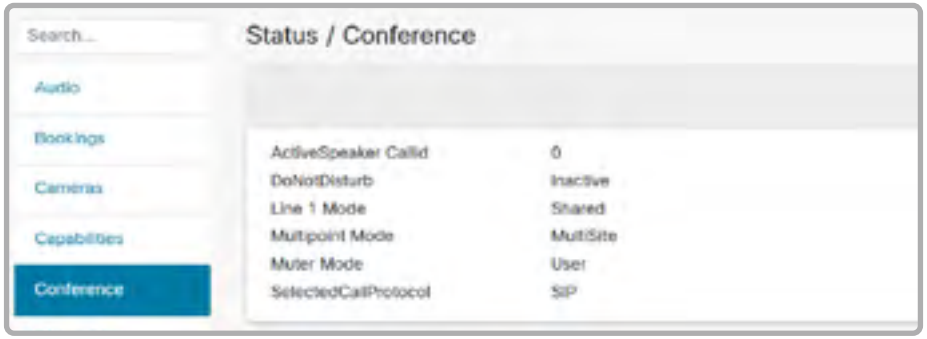
デバイスのウェブ インターフェイスにログインして、[*設定*] に移動して、 *ステータス*を 選択します。より詳細なステータス情報を見つけるために*を参照してください。

状況エントリの検索

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字を含むすべてのエントリが右ペインに表示されます。これらの文字を含むエントリも表示されます。

カテゴリを選択し、正しいステータスに移動します

デバイス ステータスはカテゴリ別にグループ化されます。左ペインでカテゴリを選択すると、関連するステータスが右に表示されます。



* 図示のステータスは一例です。お使いのデバイスのステータスは異なる場合があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

診断の実行

デバイスウェブ インターフェイスにログインし、*[問題と診断]* に移動して *[問題]* を選択します。

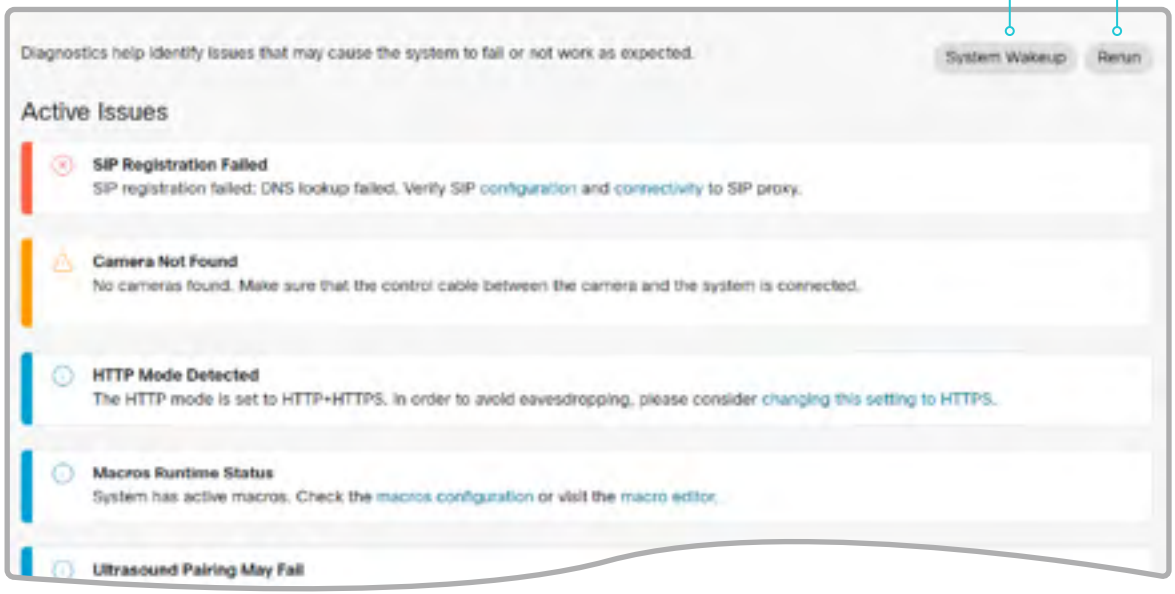
アクティブな問題 * のリストが表示されます。 エラーと重大な問題は赤で明確にマークされます。警告は黄色です。

診断の実行

[*再実行*] をクリックして、リストが最新であることを確認します。

スタンバイモードから抜ける

スタンバイモードのデバイスを復帰させるには、[*システムウェイクアップ*] をクリックしてください。



* 図中に示されている問題は例です。デバイスには他の情報が表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

システムログファイルを取得する (ページ 1/2)

システムログファイルは Cisco 固有のデバッグファイルで、テクニカルサポートが必要な場合に Cisco サポート組織から要求されることがあります。

現在のログと履歴ログ

現在のログファイル はタイムスタンプの付いたイベントログファイルです。

デバイスが再起動されるたびに、現在のすべてのログファイルがタイムスタンプ付きの *履歴ログファイル* に保存されます。過去のログファイル数が上限に達した場合、古いものから順に上書きされます。

拡張ログモード

拡張ログモードがオンになっていて、ネットワークの問題や通話設定の問題の診断に役立つ場合があります。このモードでは、より多くの情報がログファイルに保存されます。ネットワークトラフィックもこのモードでキャプチャされる可能性があります。

拡張されたログは、デバイスのリソースをより多く使用するため、デバイスのパフォーマンスが低下する可能性があります。問題をトラブルシューティングする場合にのみ、拡張ログモードを使用してください。

拡張されたログは、ネットワーク トラフィックの完全なキャプチャが含まれているかどうかに応じて、3 分または 10 分継続します。

ログ中の個人情報 *(PII)*

ログに PII を含めるかどうかを選択できます。場合によっては、個人情報が完全に削除されるのではなく、「 *プライバシーのために削除*」」とメモが表示されることがあります。

ユーザ インターフェイスからログを設定する

デバイスのユーザ インターフェイスからログを設定するためのいくつかのオプションがあります。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *[デバイス設定 (Device settings)]* を選択します。
2. *「問題と診断」* を開き、これらのトグルボタンを見つけます :
   - *拡張ログ:* 有効にすると、ネットワークトラフィックの完全なキャプチャがログに含まれます。PII 情報も含まれます。
   - *PII ログ:* オンにすると、詳細ログが有効になっていない場合でも、PII がログに記録されます。

Webex クラウドにログを送信する

デバイスが Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイス用の Webex Edge にリンクされている場合、ログをクラウドにアップロードすることもできます。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *[デバイス設定 (Device settings)]* を選択します。
2. [問題と診断 *] を開いて [* ログの送信] をタップします 。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

システムログファイルを取得する (2/2 ページ)

デバイスをログのダウンロードのために設定し、ログをダウンロードする

デバイスウェブインターフェイスにログインして、[*問題と診断*] に移動して、 *[システムログ]* を選択します。

すべてのログファイルをダウンロードする

[システムログ] カードを見つけ、*[ログのダウンロード...]*をクリックします。

フルログ または *匿名化ログ*のいずれをダウンロードするかを選択します。

指示に従ってファイルを保存します。

個人を特定できる情報 (PII) は [*プライバシーのために削除*] 表示に置き換えられ、匿名化されたログ中に記録されます。サポートケースに匿名化されたログを添付すると、問題の解決に時間がかかる場合があります。

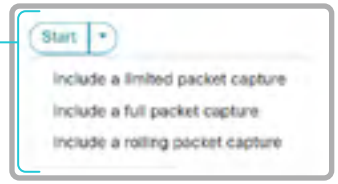
すべてのログファイルをダウンロード *(レガシー形式)* 推奨しません

システムログ カードを、 *従来の形式でログをダウンロード...*をクリックして見つけます。

完全な通話履歴 (非匿名の発信者/着信者)、匿名通話履歴、またはすべての通話履歴をログ ファイルに含めるかどうかを選択します。

指示に従ってファイルを保存します。

拡張ログ記録を開始する



拡張ロギング カードを探し、[*スタート*] をクリックします。

拡張されたログは、ネットワーク トラフィックの完全なキャプチャが含まれているかどうかに応じて、3 分または 10 分継続します。

タイムアウトになる前に長時間のログ記録を停止するには、[*停止*] をクリックします。

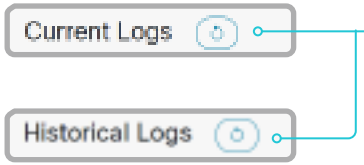
デフォルトでは、ネットワーク トラフィックはキャプチャされません。ネットワーク トラフィックの部分的または完全なキャプチャを含める場合は、ドロップダウン メニューを使用します。ローリングのフルキャプチャモードも利用できます。

ログファイルを開く、または保存する

現在のログファイル をクリックしてウェブブラウザでログファイルを開き、右クリックしてコンピュータにファイルを保存します。

履歴ログファイル をクリックし、手順に従ってファイルをコンピュータ上に保存してください。

ログファイル一覧を更新する



現在のログ または *履歴ログ* の更新ボタンをクリックしてリストを更新します。

ログファイル形式

CE9.15 のオンプレミス登録済みデバイスに新しいログ ファイル形式を導入しました。新しい形式は、クラウド登録済みデバイスに使用される形式に準拠しています。

従来の形式を使用するのではなく、より新しいファイル形式を使用してログをダウンロードすることをお勧めします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

通話ログを取得する

デバイスウェブインターフェイスにログインして、*[問題と診断 (Issues and Diagnostics)]* に移動して、*[通話履歴 (Call Logs)]* を選択します。表示されるリストから、詳細を表示する通話を選択します。

詳細には、リモート番号、発信コールの方向、プロトコル、コールレート、暗号化タイプ、継続時間に関する情報が含まれます。通話の切断に関する情報も表示されます。

切断理由タイプ フィールドは、通話が切断された理由を示すために使用されます。多くの可能な値があり、これらはダウンストリームで変更できます。いくつかの例を含みます: OtherLocal、LocalDisconnect、UnknownRemoteSite、LocalBusy、LocalReject、InsufficientSecurity、OtherRemote、RemoteDisconnect、RemoteBusy、RemoteRejected、RemoteNoAnswer、CallForwarded、NetworkRejected。

切断原因 **フィールド** は、切断原因 **タイプ**の補足情報として追加情報を提供することができます。

切断原因コード は、SIP および Q.850 で定義されています。

発生タイプ は、通話が発信されたか、受信したか、不在だったか、拒否されたか、相手側が通話に応答しなかったかどうか、通話に別のデバイスが応答したかどうかなどの詳細情報を提供します。

確認済み フィールドは、不在着信に対して確認済みであるかどうかをユーザーが確認できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

リモートサポートユーザーの作成

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ユーザー (Users)]* に移動します。

⚠ リモートサポートのユーザーは、トラブルシューティングの理由から、Cisco TAC から指示された場合にのみ有効にしてください。

リモートサポートユーザーの作成

1. *Remote Support User* カードを見つけて、*ユーザーを作成*をクリックします。
2. Cisco TAC でケースを開きます。
3. [*トークン*] フィールドのテキストをコピーして Cisco TAC に送信します。
4. Cisco TAC が *パスワード*を生成します。

リモートサポートユーザーの有効期間は 7 日間または削除されるまでです。

リモートサポートユーザーの削除

[*ユーザーの削除*] をクリックします。

リモートサポートユーザーについて

デバイスの問題を診断する必要がある場合、リモート サポート ユーザーを作成できます。

リモート サポート ユーザーには、デバイスへの読み取りアクセス権が付与され、トラブルシューティングに役立つ一部のコマンドにアクセスできます。

リモートサポートユーザーのパスワードを取得するには、Cisco Technical Assistance Center (TAC) の支援が必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

構成とカスタム要素のバックアップと復元

デバイスのウェブ インターフェイスにログインして [*バックアップと復元*] に移動します。

バックアップファイル (zip 形式) には、構成だけでなくカスタム要素も含めることができます。次の要素のうちどれをバンドルに含めるかを選択できます。

- ブランディング画像
- マクロ
- お気に入り
- サインイン バナー
- UI 拡張機能
- 構成/設定 (すべてまたは一部)

バックアップファイルは、デバイスのウェブインターフェイスから手動で復元することができます。あるいは、バックアップバンドルを一般化して、例えば Cisco UCM または TMS を使用して、複数のデバイスにわたってプロビジョニングできるようにすることができます (次の**章を参照してください)。**

バックアップファイルの作成

1. [*バックアップ*] を選択します。
2. バックアップファイルに含める要素を選択してください。
3. バックアップファイルに含めたい設定がある場合、それを選択してください。次の点に注意してください。
   - 既定では、すべての設定がバックアップファイルに含まれます。
   - ウェブページ上のリストから 1 つまたは複数の設定を手動で削除することができます。
   - 1 つのデバイスに固有のすべての設定を削除する場合は、*[システム固有の設定を削除]をクリックします。*

     これは、他のデバイスでバックアップ バンドルを復元する場合に役立ちます。
4. *ダウンロード* をクリックして、コンピュータ上に要素を zip 形式のファイルに保存してください。

バックアップファイルを復元する

1. [*復元*] を選択します。
2. *ファイルの選択* をクリックして、復元したいバックアップファイルを見つけます。

   バックアップファイル中のすべての設定と要素が適用されます。
3. アップロード *をクリックして* バックアップを適用してください。

   一部の設定では、有効にする前にデバイスを再起動する必要があります。

追加情報

マクロの復元

マクロを含むバックアップファイルがデバイス上で復元された場合、以下が適用されます。

- マクロランタイムが開始または再起動されます。
- マクロは自動的に有効化 (開始) されます。

ブランディング画像を復元中

バックアップバンドルにブランディング画像が含まれる場合、 *ユーザインターフェイスの壁紙* 設定が自動的に **自動になります。**

これにより、ブランディング画像が自動的に表示されます。

バックアップファイル

バックアップファイルは複数のファイルを含む zip ファイルです。ファイルは zip ファイルの最上位にあり、そしてフォルダには含まれてはならないことが重要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カスタム要素の CUCM プロビジョニング

バックアップファイルは、 ► 構成とカスタム要素のバックアップと復元 章として説明されているように、複数のデバイスの *カスタマイズテンプレート* として使用できます。

カスタマイズテンプレート (バックアップファイル) は次のいずれかでホストされます:

- CUCM TFTP ファイルサービス、または
- HTTP または HTTPS でデバイスが到達できるカスタム ウェブ サーバ。

デバイスが CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からカスタマイズテンプレートの名前と場所に関する情報を取得すると、デバイスはサーバーに接続してファイルをダウンロードし、カスタム要素を復元します。

ⓘ 構成は、カスタマイズ テンプレートとして使用するバックアップファイルの一部である場合でも、デバイスに復元されません。

カスタマイズ用テンプレートを TFTP ファイルサーバーにアップロードする

1. *Cisco Unified OS Administration* にサインインします。
2. *ソフトウェアアップグレード > TFTP ファイル管理に移動します。*
3. *[ファイルのアップロード (Upload File)]* をクリックします。入力フィールドにカスタマイズテンプレートの名前とパスを入力します。
4. *[ファイルのアップロード (Upload File)]* をクリックします。

   ファイルがアップロードされたら TFTP サービスを再起動してください。

各デバイスのカスタマイズ プロビジョニング情報を追加します。

1. *Cisco Unified CM Administration* にサインインします。
2. *[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]* に移動します。
3. 関連するデバイスの製品固有の構成セクションにある **カスタマイズ プロビジョニング** フィールドに入力します。
   - *カスタマイズファイル:* カスタマイズテンプレートのファイル名 (例:backup.zip) *
   - *カスタマイズハッシュタイプ:* SHA512
   - *カスタマイズハッシュ:* カスタマイズテンプレートの SHA512 チェックサム。

   これらのフィールドが存在しない場合、CUCM に新しいデバイス パッケージをインストールする必要があります。
4. クリックしてください *保存して設定を適用* して、構成をデバイスにプッシュします。

SHA512 チェックサム

ヒントウェブ インターフェイスを使用してデバイスにファイルを復元することで、ファイルの SHA512 チェックサムを確認できます。

1. デバイスのウェブインターフェイスにサインインして [*バックアップと復元*] に移動し、[*復元*] を選択します。
2. *「ファイル選択」* をクリックして、チェックサムを計算するファイルを選択します。

   その後、ページの下部に SHA512 チェックサムが表示されます。

CUCM ドキュメント

► https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/tsd-products-support-series-home.html

* TFTP サービスを使用しない場合、カスタマイゼーションテンプレートの完全な URI を入力する必要があります: `<hostname>:<portnumber>/<path-and-filename>`

  次に例を示します。
  - http://host:6970/backup.zip、または
  - https://host:6971/backup.zip

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カスタム要素の TMS プロビジョニング

バックアップファイルは、 ▶ 構成とカスタム要素のバックアップと復元 章として説明されているように、複数のデバイスの *カスタマイズテンプレート* として使用できます。

バックアップファイルは、HTTP または HTTPS でデバイスがアクセスできるカスタムウェブサーバーでホストされている必要があります。

デバイスが TMS (TelePresence Management Suite) からバックアップファイルの名前と場所に関する情報を取得すると、デバイスはサーバーに接続してファイルをダウンロードし、カスタム要素を復元します。

構成テンプレートを作成して適用する

1. 構成テンプレートを作成する。
2. 構成テンプレートに次の XML 文字列を含むカスタムコマンドを追加してください:

```
<コマンド>
  <プロビジョニング>
    <サービス>
      <取得>
        <URL>ウェブサーバーのアドレス</URL>
        <Checksum>checksum</Checksum>
        <Origin>origin</Origin>
      </Fetch>
    </Service>
  </Provisioning>
</コマンド>
```

   値は次のとおりです。

   ウェブサーバアドレス: バックアップファイルの URI (例: http://host/backup.zip)。

   チェックサム:バックアップファイルの *SHA512* **チェックサム。**

   Origin: **プロビジョニング中** *

3. 構成テンプレートをプッシュするデバイスを選択し、[*システムに設定*] をクリックします。

TMS 構成テンプレートの作成方法およびカスタムコマンドの作成方法の詳細については、 ▶ Cisco TMS 管理者ガイド を参照してください。

SHA512 チェックサム

ヒントウェブ インターフェイスを使用してデバイスにファイルを復元することで、ファイルの SHA512 チェックサムを確認できます。

1. デバイスのウェブインターフェイスにサインインして [*バックアップと復元*] に移動し、[*復元*] を選択します。
2. *「ファイル選択」* をクリックして、チェックサムを計算するファイルを選択します。

   その後、ページの下部に SHA512 チェックサムが表示されます。

* このパラメータを **プロビジョニング** に設定しない場合、バックアップファイルに含まれる設定もデバイスにプッシュされます。バックアップファイルに、1 つのデバイスに固有の構成 (静的 IP アドレス、デバイス名、連絡先情報など) が含まれている場合、到達できないデバイスが生じる可能性があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

以前使用したソフトウェアイメージに戻す

デバイスウェブインターフェイスにログインし、[*バックアップと復元*] に移動して、[*システム復元*] を選択します。

以前使用したソフトウェア イメージにスワップする前に、ログ ファイル、構成、およびデバイスのカスタム要素をバックアップすることを推奨します。

ログファイルのバックアップ

1. [*問題と診断*] に移動し、[*システムログ*] *を選択します*。
2. [*ログのダウンロード*] をクリックして手順に従ってコンピュータにログファイルを保存してください。

構成とカスタム要素をバックアップする

1. 「*バックアップと復元* 」に移動して、「*バックアップ*] を選択します。
2. *ダウンロード* をクリックして手順に従ってコンピュータにバックアップバンドルを保存してください。

以前使用したソフトウェアイメージに戻す

この手順は、管理者、または Cisco テクニカル サポートと連絡を取る人だけが実行してください。

1. [*] > [システム復元]* を選択します。
2. *ソフトウェア復元スワップ* カードを探し、[*ソフトウェアスワップ*] をクリックします。
3. クリック *確認* して続行するか、または *キャンセル* をクリックします。

デバイスがリセットされるのを待ちます。完了すると、デバイスは自動的に再起動されます。この処理には数分かかります。

前回使用したソフトウェアイメージについて

デバイスに重大な問題がある場合、前に使用したソフトウェア イメージに切り替えると、問題の解決に役立つ場合があります。

最後のソフトウェア アップグレード以降、デバイスが工場出荷時設定にリセットされていない場合、以前に使用されたソフトウェア イメージがデバイス上に残ります。ソフトウェアを再度ダウンロードする必要はありません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (1/8 ページ)

デバイスに重大な問題がある場合、最後の手段は工場出荷時の設定にリセットすることです。

⚠ 工場出荷時設定へのリセットを元に戻すことはできません。

工場出荷時設定へのリセットを実行する前に、以前使用したソフトウェア イメージに戻すことを常に検討してください。多くの場合、これによりデバイスが復元されます。▶ 以前使用したソフトウェアイメージに戻す ソフトウェアスワップについて▶の章でお読みください。

デバイスのウェブ インターフェイスまたはユーザ インターフェイスを使用して、デバイスを出荷時設定にリセットすることを推奨します。これらのインターフェイスが利用できない場合、ピンホールからリセット ボタンを使用できます。

出荷時設定へのリセットは、次のことを意味します。

- 通話履歴は削除されます。
- パスフレーズはデフォルトにリセットされます。
- すべてのデバイスパラメータはデフォルト値にリセットされます。
- デバイスにアップロードされているすべてのファイルが削除されます。これには、カスタム壁紙、ブランディング要素、証明書、およびお気に入りリストが含まれます。
- 前の非アクティブなソフトウェアイメージは削除されます。
- オプション キーは影響を受けません。

工場出荷時設定へのリセット後、デバイスは自動的に再起動されます。リセット前に使用したのと同じソフトウェアイメージを使用しています。

工場出荷時設定へのリセットを実行する前に、デバイスのログファイル、構成、およびカスタム要素をバックアップすることをお勧めします。そうしないと、このデータは失われます。

ウェブインターフェイスを使用して出荷時設定にリセットする

工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログファイルと構成をバックアップすることをお勧めします。

デバイスウェブインターフェイスにログインし、*[バックアップと復元 (Backup and Recovery)]* に移動して、*[システム復元 (System Recovery)]* を選択します。

1. *ファクトリーリセット* カードを見つけ、提供された情報を慎重に読んでください。
2. [*工場出荷時の設定にリセット*] をクリックします。
3. Factory Reset をクリックして選択を確認するか、変更した場合は *キャンセル* をクリックします。
4. デバイスが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了すると、デバイスは自動的に再起動します。これには数分かかります。

   デバイスが工場出荷時設定にリセットされると、セットアップアシスタント とようこそ *画面* が表示されます。

ユーザ インターフェイスから出荷時設定にリセットする

工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログファイルと構成をバックアップすることをお勧めします。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン ⇅ をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *デバイスの設定*を選択します。
2. *[工場出荷時の状態へのリセット (Factory reset)]* を選択します。
3. [*リセット (Reset)*] を選択して選択内容を確定します。考えを変更した場合は [*キャンセル (Cancel)*] を選択します。
4. デバイスが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了すると、デバイスは自動的に再起動します。これには数分かかります。

   デバイスが出荷時設定にリセットされると、 *セットアップアシスタント* の 「*ようこそ*」 画面が表示されます。

ログファイルのバックアップ

1. [*問題と診断*] に移動し、[*システムログ] を選択します。*
2. [*ログのダウンロード*] をクリックして手順に従ってコンピュータにログファイルを保存してください。

構成とカスタム要素をバックアップする

1. 「*バックアップと復元*」に移動して、「*バックアップ*」を選択します。
2. *ダウンロード* をクリックして手順に従ってコンピュータにバックアップバンドルを保存してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (2/8 ページ)

安全なデータ消去

デバイス上のファイル システムは、Linux ハード ディスク暗号化の標準である Linux Unified Key Setup (LUKS) を使用して暗号化されます。ファイルシステムの暗号キーは、NVRAM または NOR フラッシュのどちらかに保存されます。工場出荷時の状態にリセットすると、キーは上書きされ、回復できません。ディスク上の何かを読み取り不能にします。これにより、工場出荷時設定へのリセットは、米国 DOD 5220.22M および NIST 800-88r1 に準拠したデータの削除と消去の安全な方法になります。

NIST 800-88r1

NIST 標準 800-88r1 では、次の 3 つのレベルのサニタイズが規定されています。

- クリーン : 非侵襲的な回復技術を防ぐ
- パージ: データの復旧を不可能にする
- 破壊: データの回復を不可能にし、将来の使用を阻止する

標準のセクション 2.6 では、暗号消去 (CE) の使用と、それをパージ レベルを満たすために適用する方法について説明しています。

セクション 2.6.1 および 2.6.2 には、CE を考慮すべきかどうかの条件がリストされています。

- 機密データが事前にサニタイズされずにデバイスに保存された後に暗号化が有効にされた場合は、CE を使用してメディアを消去しないでください。
- 暗号化前に機密データがサニタイズされずにデバイスに保存されたかどうか不明な場合は、CE を使用しないでください。
- CE の対象となるすべてのデータ (データだけでなく仮想化されたコピーも含む) がメディアに保存される前に暗号化されている場合は、CE の使用を検討してください。
- 暗号化キー (ターゲット データの暗号化キーまたは関連するラッピング キー) が保存されているメディアの場所がわかっており、適切なメディア固有のサニタイズ手法を使用してそれらの領域をサニタイズして、キーが保存されているメディアの実際の場所が確実にアドレス指定される場合は、CE の使用を検討してください。
- 対象データの暗号化に使用される暗号化キーのすべてのコピーがサニタイズされていることが確認できる場合は、CE の使用を検討してください。
- ターゲット データの暗号化キー自体が 1 つ以上のラッピング キーで暗号化されており、対応するラッピング キーをサニタイズできると確信できる場合は、CE の使用を検討してください。
- ユーザがデバイスによって提供されるコマンドを明確に識別し、それを使用して CE 操作を実行できると確信できる場合は、CE の使用を検討してください。

RoomOS では、顧客データに使用される暗号化されたファイルシステムは、機密データが作成される前の初期ブートの早い段階で設定され、暗号化されます。キーは、上記のように eeprom (古いソフトウェア) または SoC の信頼ゾーン メカニズムを使用して保存され、安全にサニタイズできます。

キーはバックアップされず、キーエスクローメカニズムもありません。

これらすべてを考慮して、シスコは RoomOS の工場出荷時設定へのリセット メカニズムが NIST 800-88r1 のパージ レベルに準拠していると主張しています。

顧客データの暗号化

ディスク暗号化

これらのデバイスは大容量ストレージにフラッシュデバイスを使用しますが、安全な削除を保証することはできません。したがって、デバイス上のすべての顧客データは暗号化されたファイルシステムに保存され、工場出荷時のデフォルトにリセットすると、暗号化キーのみが削除され、顧客データにアクセスできなくなります。

これを容易にするために、メインフラッシュに適切な大きさのファイルを作成し、標準の Linux ツール cryptsetup を使用してループバック デバイスを作成します。このデバイス上に標準の ext4 ファイル システムを作成します。暗号キーを保存する場所の詳細については、次のセクションで説明します。ループ デバイスは、キー サイズが 512 ビットで、暗号が aes-xts-plain64 である LUKS1 を使用して作成されます。

`$ cryptsetup` **ステータス** `/dev/mapper/config`

`/dev/mapper/config` **はアクティブで使用中です。**

タイプ: `LUKS1`

暗号: `aes-xts-plain64`

キーサイズ: `512` **ビット**

キーの場所: `dm-crypt`

デバイス: `/dev/loop5`

ループ: `/mnt/base/image1/rwfs/config.img`

セクターサイズ: `512`

オフセット: `4096` **セクター**

サイズ: `61440` **セクター**

モード: **読み取り/書き込み**

デバイスの通常の操作中、cryptsetup は、ファイルシステムがマウントされる前に暗号化解除するために使用されます。暗号化キーが削除されると、ループデバイスを設定したりファイルシステムをマウントしたりできなくなります。

使用する暗号キーは、/dev/urandom から 20 バイトを読み取り、sha1sum を実行して ascii 表現を取得します。キーは工場出荷時設定へのリセット後の最初の起動時に生成され、新たな工場出荷時設定へのリセットが実行されるまで変更されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (3/8 ページ)

データ暗号化キーの保護

当社のデバイスでは 2 つの異なる暗号キーを使用しています。1 つは Android コンテナー内の /data パーティション用 (Microsoft MTR および Zoom 用)、もう 1 つは他のファイル システム用 (顧客構成、壁紙、通話ログ、履歴ログなどに使用) です。

Android の /data パーティションの場合、秘密鍵は常に Nvidia TrustZone 境界内に安全に保存されます。または、Room Navigator では、SoC の組み込み暗号化メカニズムを使用して暗号化されます。

ce-11.25.x までは、もう一方のキーは EEPROM に保存されます。EEPROM は通常のチャネルからアクセスするユーザからはアクセスできませんが、フラッシュ ディスクとともにデバイスから強制的に削除して、実際に内容を復号化することができます。

ce-11.26.x 以降では、通常のファイルシステム暗号化キーを ARM TrustZone[0] に基づく Nvidia の信頼できる実行環境（TEE) に移行しているため、Nvidia SoC からキーを抽出できなくなります。セキュア ブート プロセスを回避する唯一の (既知の) 方法は、Nvidia SoC 全体を交換してキーを削除することであるため、キーの抽出は、キーを取得するのに十分な権限を持つルート シェルを取得するために CE コードの脆弱性を見つけることに限定されます。

Room Navigator の場合、移行は後のバージョンで行われます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (4/8 ページ)

ピンホールからリセット ボタンを使用して出荷時設定にリセットする

工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログファイルと構成をバックアップすることをお勧めします。

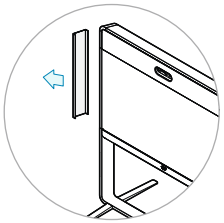
1. ペーパークリップ (または同等のもの) をピンホールに挿入します。画面が真っ暗になるまで、へこんだリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了すると、デバイスは自動的に再起動します。これには数分かかります。

   デバイスが工場出荷時設定にリセットされると、セットアップアシスタントにようこそ画面が表示されます。

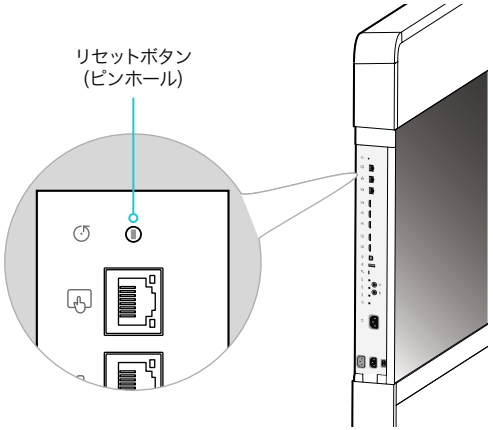
図を参照して、各製品の埋め込み型リセットボタンを見つけてください。

ボタンは使用するのがかなり難しい場合があります。ボタンを押すと、ボタンが下がるのを感じるはずです。

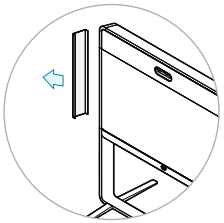
Room 55 Dual および Room 70



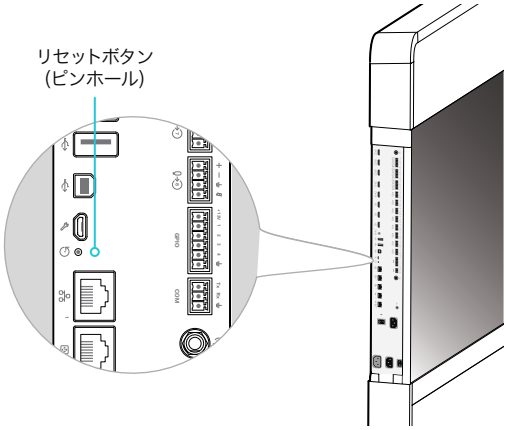
コーデック コネクタ パネルにアクセスするには、デバイスの左側のサイド カバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されます。



会議室 70 G2 および Room 70 Panorama



コーデック コネクタ パネルにアクセスするには、デバイスの左側のサイド カバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されます。

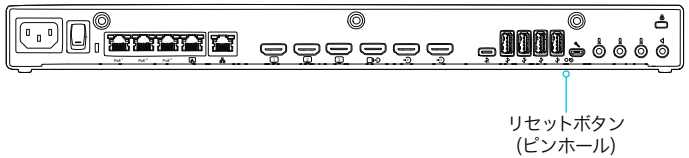


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (5/8 ページ)

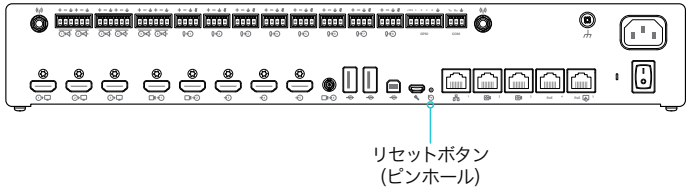
Codec EQ および Room Kit EQX

Room Kit EQX:
右側の画面を取り出してコーデックにアクセスします。



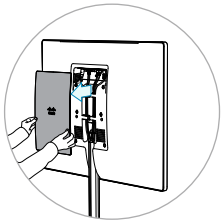
Codec Pro および Room Panorama

Room Panorama :
デコレーショングリルの下部のハンドルを使用し、左側のスクリーンを引き下げてコーデックにアクセスします。

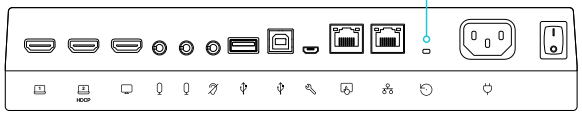


Codec Plus

Room 55



コネクタパネルにアクセスするには、背面カバーを取り外します。

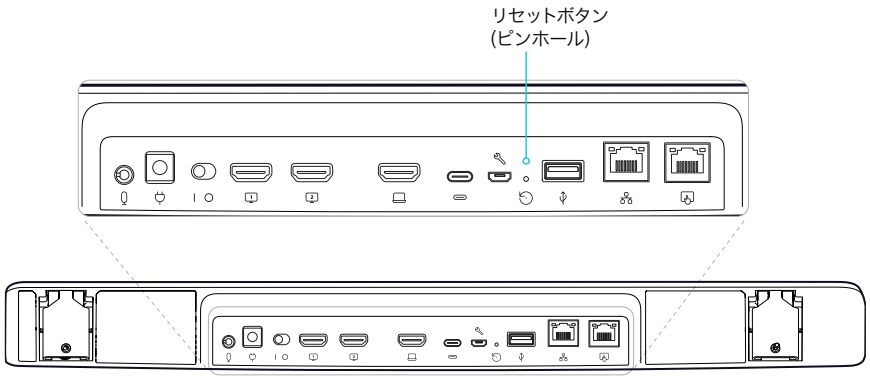


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (6/8 ページ)

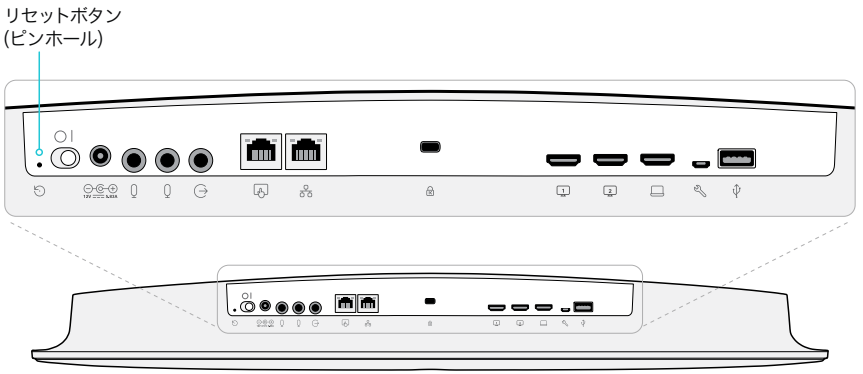
Room Bar

ユニットを前に傾けると、コネクタ パネルにアクセスできます。

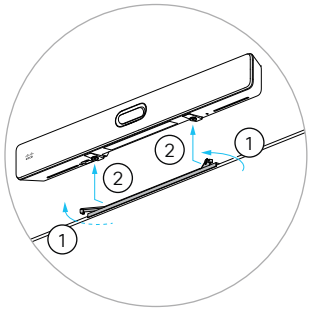


Room Kit

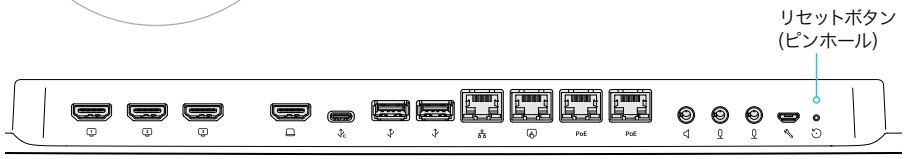
ユニットを前に傾けると、コネクタ パネルにアクセスできます。



Room Bar Pro

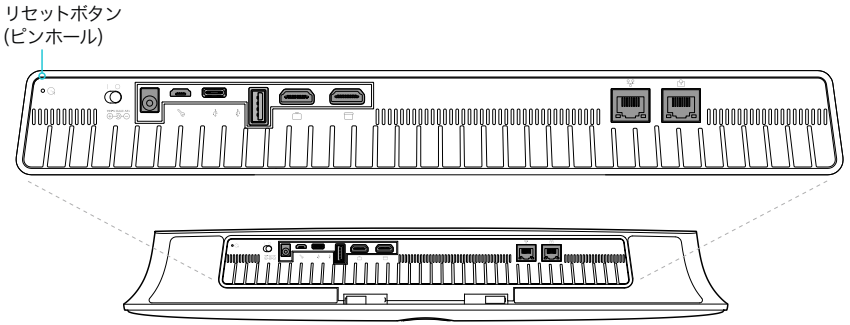


まず、取り付けバーの両側にあるロック ハンドルを引いて、デバイスのロックを解除します (1)。次に、デバイスをゆっくりと手前に引き出し、取り付けバーから持ち上げて (2)、コネクタ パネルにアクセスできるようにします。



Room Kit Mini

ユニットを前に傾けると、コネクタ パネルにアクセスできます。

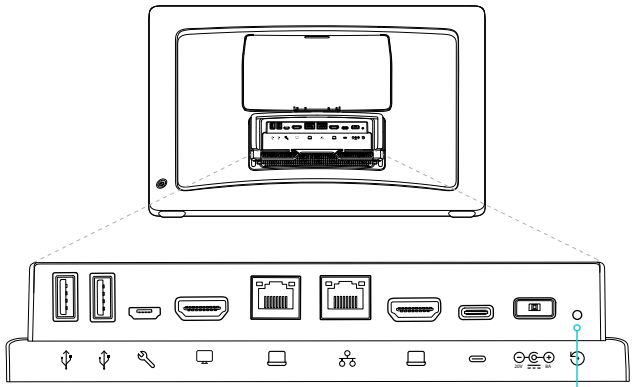


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (7/8 ページ)

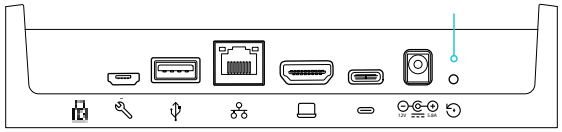
Desk および Desk Pro

デバイスの背面のカバーを開けると、コネクタ パネルにアクセスできます。



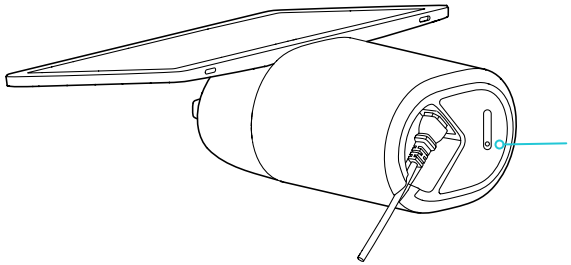
Desk Pro

リセットボタン (ピンホール)



デスク

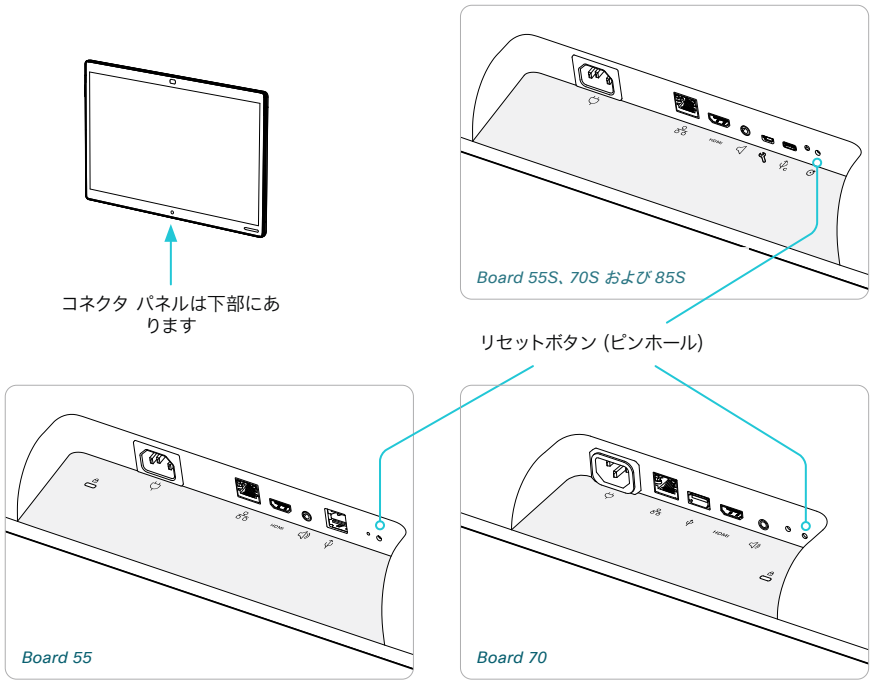
Desk Mini



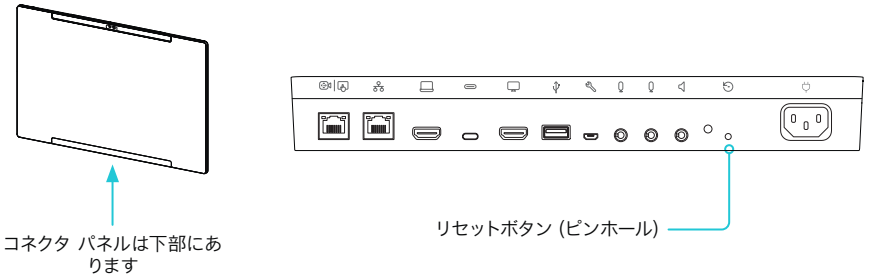
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ会議デバイスを出荷時設定にリセットする (8/8 ページ)

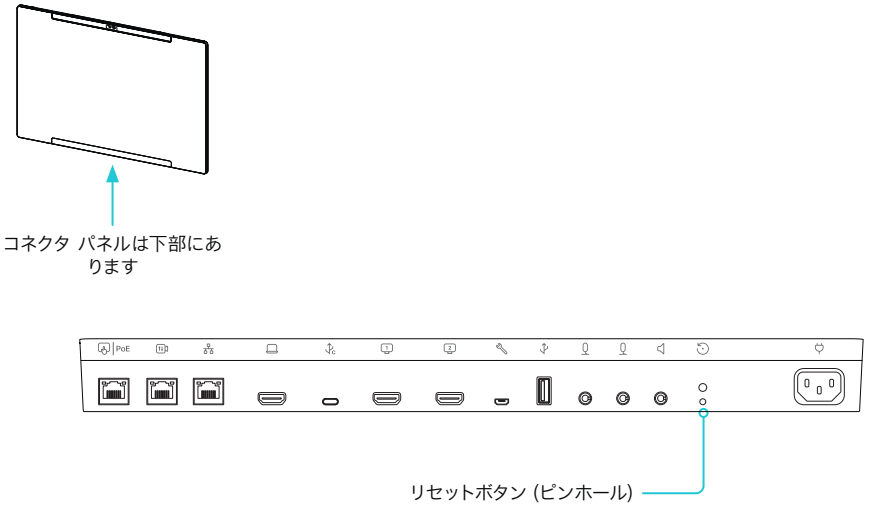
Board



Board Pro



Board Pro G2



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Room Navigator を工場出荷時設定にリセットする

エラーが発生した場合、接続を回復するために、タッチコントローラを工場出荷時設定にリセットする必要がある場合があります。

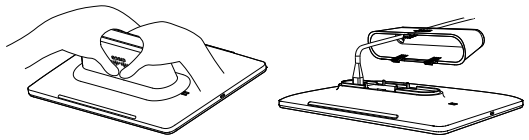
タッチコントローラを工場出荷時設定にリセットすると、ペアリング情報は失われ、タッチコントローラ自体 (ビデオ会議デバイスではなく) が工場出荷時のデフォルト設定に戻されます。

⚠ 工場出荷時設定へのリセットを元に戻すことはできません。

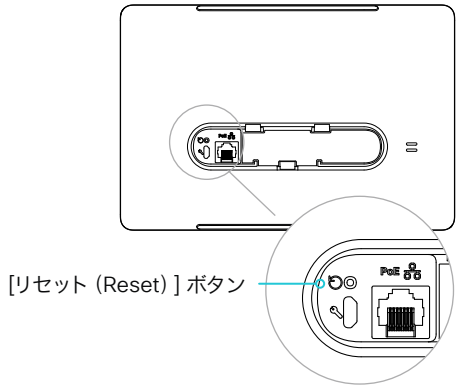
1. フットを外すと、コネクタパネル上のリセットボタン (ピンホール) が見つかります。
2. 埋め込み型のリセットボタンを、画面が黒くなるまでペーパークリップまたは類似の物で押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
3. Room Navigator が工場出荷時の設定に戻るまで待ちます。終了すると Room Navigator が自動的に再起動されます。これには数分かかります。

   Room Navigatorがビデオ会議デバイスに直接接続されている場合、デバイスから新しい構成を自動的に受け取ります。

   Room Navigator が LAN 経由で接続されている場合、新たにビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングに成功すると、デバイスから新しい構成を自動的に受け取ります。



テーブル スタンドを取り外すために、しっかり押しながら回転させます。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Touch 10 を出荷時設定にリセットする

エラーが発生した場合、接続を回復するために、タッチコントローラを工場出荷時設定にリセットする必要がある場合があります。

タッチコントローラを工場出荷時設定にリセットすると、ペアリング情報は失われ、タッチコントローラ自体 (ビデオ会議デバイスではなく) が工場出荷時のデフォルト設定に戻されます。

⚠ 工場出荷時設定へのリセットを元に戻すことはできません。

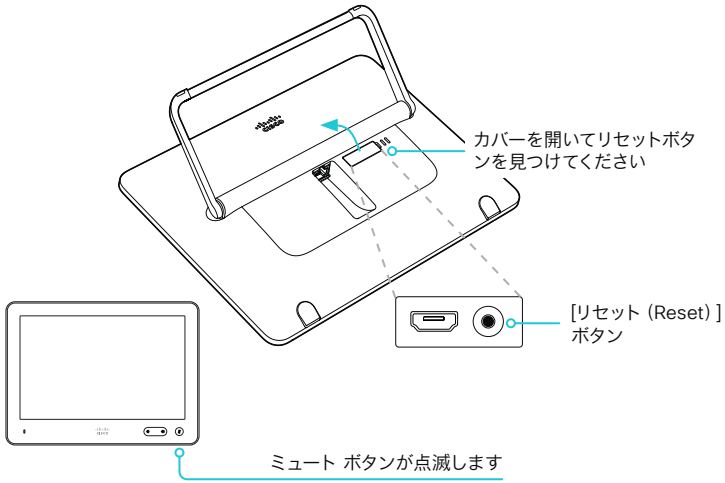
Cisco Touch 10

1. 後部の小さなカバーを開いてリセットボタンを探します。
2. 前面のミュートボタンが点滅し始めるまで (約 5 秒)、リセットボタンを押し続けます。その後、ボタンを離します。

   Touch 10 は自動的に工場出荷時設定に戻り、再起動します。

   Touch 10 がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合、デバイスから新しい構成を自動的に受け取ります。

   Touch 10 が LAN 経由で接続されている場合、ビデオ会議デバイスとペアリングし直す必要があります。ペアリングに成功すると、デバイスから新しい構成を自動的に受け取ります。



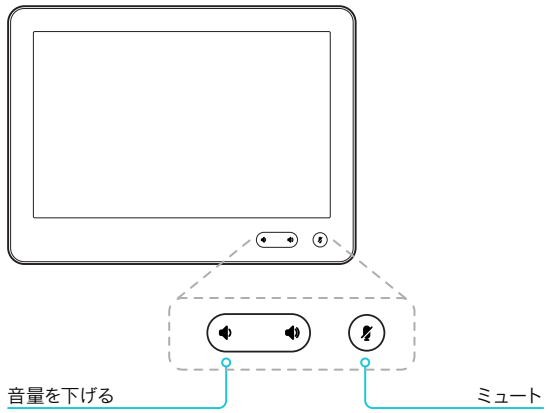
Cisco TelePresence Touch 10

1. *ミュート* と *音量を下げる* ボタンを見つけてください。
2. *ミュート* ボタンを赤と緑の点滅になるまで押し続けてください。これには約 10 秒かかります。
3. *[音量ダウン (Volume down)]* ボタンを 2 回押します。

   Touch 10 は自動的に工場出荷時設定に戻り、再起動します。

   Touch 10 がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合、デバイスから新しい構成を自動的に受け取ります。

   Touch 10 が LAN 経由で接続されている場合、ビデオ会議デバイスとペアリングし直す必要があります。ペアリングに成功すると、デバイスから新しい構成を自動的に受け取ります。



2 つの Touch 10 バージョン

Touch 10 には 2 つのバージョンがあります。外観も機能もほぼ同じです。

- *Cisco TelePresence Touch 10*: 最初のバージョンです。前面にロゴはありません。
- *Cisco Touch 10*: このバージョンは 2017 年末にリリースされました。前面のロゴと背面のコネクタが少ないことで識別できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco 自然音声モジュール IV を工場出荷時設定にリセットする

エラーが発生した場合は、アンプリファイアを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。

⚠ 工場出荷時設定へのリセットを元に戻すことはできません。

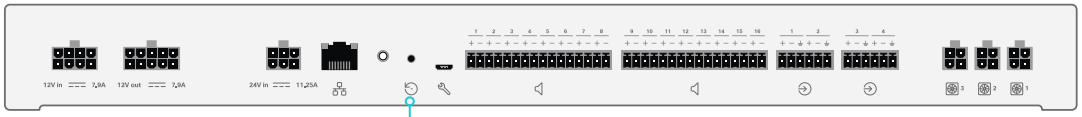
工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと構成をバックアップすることをお勧めします。

1. ペーパークリップ (または同等のもの) をピンホールに挿入します。画面が真っ暗になるまで、へこんだリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了すると、デバイスは自動的に再起動します。これには数分かかります。

   デバイスが工場出荷時設定にリセットされると、セットアップアシスタントにようこそ画面が表示されます。

ⓘ ボタンは使用するのがかなり難しい場合があります。押したときにボタンが押し込むのを感じるはずです。

アンプ : Cisco Natural Audio モジュール IV



リセットボタン (ピンホール)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Table Microphone Pro を工場出荷時設定にリセットする

メモ: Cisco Microphone Arrayと同じです。

エラーが発生した場合は、マイクを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。

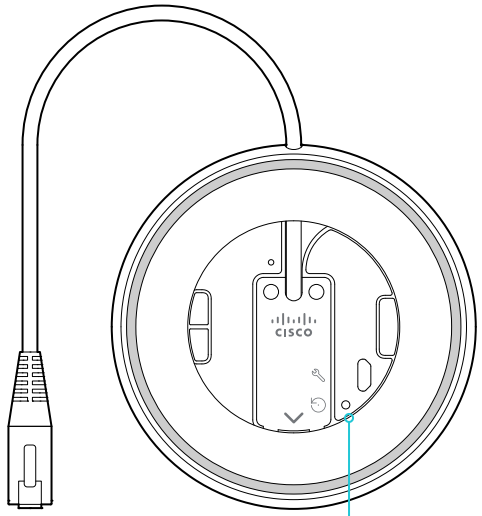
⚠ 工場出荷時設定へのリセットを元に戻すことはできません。

工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと構成をバックアップすることをお勧めします。

1. ペーパークリップ (または同等のもの) をピンホールに挿入します。画面が真っ暗になるまで、へこんだリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了すると、デバイスは自動的に再起動します。これには数分かかります。

   デバイスが工場出荷時設定にリセットされると、セットアップアシスタントにようこそ画面が表示されます。

ⓘ ボタンは使用するのがかなり難しい場合があります。押したときにボタンが押し込むのを感じるはずです。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ インターフェイスのスクリーンショットをキャプチャする

デバイスのウェブ インターフェイスにログインし、[*問題と診断*] に移動して、[*ユーザ インターフェイスのスクリーンショット*] を選択します。

スクリーンショットをキャプチャする

タッチパネルのスクリーンショット をクリックしてタッチコントローラのスクリーンショットをキャプチャするか、 *OSDスクリーンショット* をクリックしてメイン画面 (オンスクリーン ディスプレイ) のスクリーンショットをキャプチャします。

スクリーンショットは、 *現在のスクリーンショット* カードの下に表示されます。スクリーンショットの表示が完了するまでに最大 30 秒 かかります。

キャプチャされたすべてのスクリーンショットは、 *現在のスクリーンショット* カードに一覧表示されます。スクリーンショット IDを クリックして画像を表示します。

デバイスを起動します

これらのボタンを使用して、デバイスをスタンバイ状態から復帰させます。

スクリーンショットを削除する

すべてのスクリーンショットを削除するには、 *[すべて削除]をクリックします。*

スクリーンショットを 1 つだけ削除するには、そのスクリーンショットに対応する ✖ ボタンをクリックします。

ユーザーインターフェイスのスクリーンショットについて

ビデオ会議デバイスに接続されているタッチコントローラのスクリーンショットや、メニュー、インジケータ、メッセージの表示されたメイン画面 (オンスクリーン ディスプレイ *または OSD とも呼ばれる*) のスクリーンショットをキャプチャすることができます。

Desk、Desk Mini、Desk Pro の場合:

- OSD スクリーンショットのみ利用できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 5 章

デバイス設定

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイス設定の概要

次のページに、デバイス設定の完全なリストがあります。これらはデバイスのウェブ インターフェイスから設定できます。

ウェブブラウザを開き、デバイスの IP アドレスを入力してログインします。 *設定*に移動し、 *構成*を選択します。

IP アドレスの確認方法

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *デバイスの設定*を選択します。
2. *[このルームデバイスについて (About this room device)]* を選択します。

アプリの設定 193
アプリ WallpaperBundles HalfwakeImage 193
音声設定 193
Audio DefaultVolume 194
Audio Input Ethernet[n] Channel[1..4] Pan 196
Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Pan 197
Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Zone 197
Audio Input Ethernet [n] EchoControl NoiseReduction 198
Audio Input Ethernet [n] Mode 198
Audio Input HDMI [n] Gain 199
Audio Input HDMI [n] Level 199
Audio Input HDMI [n] Mode 199
Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo 200
Audio Input MicrophoneMode 205
Audio Input Microphone [n] Channel 200
Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation 201
Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode 200
Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction 201
Audio Input Microphone [n] Equalizer ID 201
Audio Input Microphone [n] Equalizer Mode 201
Audio Input Microphone [n] Gain 202
Audio Input Microphone [n] Level 202
Audio Input Microphone [n] Mode 203
Audio Input Microphone [n] MuteOverride 203
Audio Input Microphone [n] Pan 204
Audio Input Microphone [n] PhantomPower 204
Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo 204
Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource 204
Audio Input Microphone [n] Zone 205
Audio Input USBC [n] Gain 206
Audio Input USBC [n] Level 206
Audio Input USBC [n] Mode 206
Audio Input USBC [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo 207
Audio Input USBInterface [n] EchoControl Mode 207
Audio Input USBInterface [n] Gain 208
Audio Input USBInterface [n] Level 207
Audio Input USBInterface [n] Mode 208
Audio Input USBInterface [n] Zone 208
Audio Input USBMicrophone [n] EchoControl Mode 209
Audio Input USBMicrophone [n] Gain 209
Audio Input USBMicrophone [n] Level 209

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input USBMicrophone [n] Zone 209
Audio Input WebView [n] Mode 210
Audio Microphones HdmiPassthrough MuteButton 210
Audio Microphones PhantomPower 212
Audio Microphones UsbPassthrough MuteButton 212
Audio Output ARC [n] Delay DelayMs 212
Audio Output ARC [n] Delay Direct DelayMs 213
Audio Output ARC [n] Delay Mode 213
Audio Output ARC [n] Mode 213
Audio Output ConnectorSetup 214
Audio Output Ethernet[n] Delay DelayMs 214
Audio Output Ethernet [n] Delay Direct DelayMs 215
Audio Output Ethernet[n] Delay Mode 215
Audio Output Ethernet [n] Mode 216
Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs 216
Audio Output HDMI [n] Delay Direct DelayMs 216
Audio Output HDMI [n] Delay Mode 217
Audio Output HDMI [n] Gain 217
Audio Output HDMI [n] Level 217
Audio Output HDMI [n] Mode 217
Audio Output HDMI [n] Ultrasound 218
Audio Output InternalSpeaker Mode 218
Audio Output Line [n] Channel 218
Audio Output Line [n] Delay DelayMs 218
Audio Output Line [n] Delay Direct DelayMs 219
Audio Output Line [n] Delay Mode 219
Audio Output Line [n] Equalizer ID 219
Audio Output Line [n] Equalizer Mode 219
Audio Output Line [n] Gain 220
Audio Output Line [n] Level 220
Audio Output Line [n] Mode 220
Audio Output Line [n] OutputType 221
Audio Output USBC [n] Mode 221
Audio Output USBInterface [n] Delay DelayMs 222
Audio Output USBInterface [n] Delay Direct DelayMs 222
Audio Output USBInterface [n] Delay Mode 222
Audio Output USBInterface [n] Mode 222
Audio Panning HeadsetAnalog BinauralProcessing 223
Audio Panning HeadsetAnalog Mode 223
Audio Panning HeadsetUSB BinauralProcessing 224
Audio Panning HeadsetUSB Mode 224
Audio Panning Mode 223
Audio SoundsAndAlerts DTMFFeedback 224
Audio USB VolumeControl Capture Value 226
Audio USB VolumeControl Playback Mode 226
Audio USB VolumeControl Playback Value 226
オーディオマイクのVoiceActivityDetectorモード 212
オーディオマイクロフォン AGC 210
オーディオ入力イーサネット [n] チャンネル [1..4] ゾーン 197
オーディオ出力 ARC [n] 超音波 213
オーディオ出力 USB インターフェース [n] 超音波 223
オーディオ出力イーサネット [n] イコライザー ID 215
オーディオ出力イーサネット [n] イコライザーモード 215
オーディオ出力イーサネット [n] ゲイン 215
オーディオ出力イーサネット [n] レベル 216
オーディオ出力ライン [n] 超音波 221
ミュートが有効な音声マイク 211
音声 USB モード 225
音声 USB 音量コントロール キャプチャモード 226
音声イーサネット SAPDiscovery アドレス 194
音声イーサネット SAP 検出モード 195
音声イーサネット暗号化 194
音声コネクタのセットアップ 193
音声、サウンドとアラートの着信音 224
音声 サウンドとアラート リング音量 225
音声の配置 224
音声 マイク ニアトーカーセクターモード 211
音声マイクのノイズ除去モード 211
音声 マイク ビームミックス入力 206
音声入力 ARC [n] モード 195
音声入力 Ethernet[n] チャンネル [1..4] レベル 195
音声入力 イーサネット [n] EchoControl モード 197
音声入力 イーサネット [n] イコライザー ID 198
音声入力 イーサネット [n] イコライザー モード 198
音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..4] モード 196
音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..8] ゲイン 195
音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..8] モード 196
音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..8] レベル 196
音声超音波の最大音量 225

Bluetooth 設定 227
Bluetooth LEAdvertisementOutputLevel 227
Bluetooth カスタムビーコンデータ 227

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Bluetooth カスタムビーコンモード ... 227
Bluetooth 対応 ... 227
Bluetooth 許可 ... 227

予約設定 ... 228
Bookings AdhocBooking BookAhead Enabled ... 228
Bookings AdhocBooking BookingTimeout ... 228
Bookings AdhocBooking Enabled ... 228
Bookings AllowDecline ... 228
Bookings CheckIn Enabled ... 229
Bookings CheckIn WindowDuration ... 229
Bookings DeclinableBookingType ... 229
Bookings MaxDuration ... 230
Bookings ProtocolPriority ... 230
予約チェックイン自動チェックイン期間 ... 229

BYOD 設定 ... 230
BYOD HidForwarding Enabled ... 230
BYOD QR コード ペアリング ... 230
BYOD USBCXapi ... 231
BYOD タッチ転送が有効 ... 231

CallHistory の設定 ... 231
CallHistory Mode ... 231
CallHistory Recents DisplayName ... 231

カメラ設定 ... 232
Cameras Background Enabled ... 232
Cameras Background UserImagesAllowed ... 232
Cameras Camera Framerate ... 240
Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber ... 232
Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode ... 233
Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel ... 233
Cameras Camera [n] Brightness Mode ... 234
Cameras Camera [n] ExcludedArea ... 234
Cameras Camera [n] Flip ... 235
Cameras Camera [n] Gamma Mode ... 236
Cameras Camera [n] IrCutFilter Mode ... 237
Cameras Camera [n] IrCutFilter Threshold ... 237
Cameras Camera [n] Mirror ... 237
Cameras Camera [n] PtzAutoFraming ... 238
Cameras Camera [n] VideoFormat ... 238
Cameras Camera [n] Whitebalance Level ... 239
Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan ... 240
Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt ... 240
Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom ... 240
Cameras PresenterTrack Enabled ... 241
Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus ... 241
Cameras PresenterTrack TriggerZone ... 241
Cameras SpeakerTrack Closeup ... 245
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft ... 245
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight ... 246
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode ... 245
Cameras SpeakerTrack DefaultBehavior ... 242
Cameras SpeakerTrack GroupAndSpeaker Mode ... 243
Cameras SpeakerTrack HeadDetectorRange ... 243
Cameras SpeakerTrack MeetingZone Mode ... 243
Cameras SpeakerTrack Mode ... 244
Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode ... 246
Cameras SpeakerTrack ZoomRange MaxZoomFactor ... 244
[カメラ] > [スピーカー トラック] > [フレーム] > [モード] ... 242
カメラ PresenterTrack コネクタ ... 241
カメラ SpeakerTrack トラッキングモード ... 245
カメラ カメラ [n] スタンバイモード ... 238
カメラ カメラ [n] のガンマレベル ... 236
カメラ カメラ [n] フォーカス モード ... 235
カメラ カメラ [n] ホワイトバランスの補正レベル ... 238
カメラ カメラ [n] ホワイトバランスモード ... 239
カメラ カメラ [n] 明るさアルゴリズム ... 233
カメラ カメラの色彩度 レベル ... 239
カメラ カメラの露出補正レベル ... 239
カメラ スピーカートラック フレーム 行構成 ... 242
カメラ スピーカートラック マルチカメラ キャリブレーション モニタリング ... 244
カメラ スピーカートラック ミーティングゾーン エリア ... 243
カメラの立体視モード ... 246
カメラの電源周波数 ... 240

会議設定 ... 246
Conference ActiveControl Mode ... 246
Conference AutoAnswer Mode ... 246
Conference AutoAnswer Mute ... 247
Conference CallProtocolIPStack ... 247
Conference CapsetFilter ... 247
Conference DefaultCall Rate ... 248
Conference DefaultCall Webex Rate ... 248
Conference Diagnostics DegradedQualityNotifications ... 248

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference Diagnostics StreamStatusOverlay 249
Conference EmbeddedApp NotificationsOnly 249
Conference EndToEndEncryption Identity PreferredDomain 250
Conference FarEndControl Mode 250
Conference HideNonVideo OnCall Mode 251
Conference IncomingMultisiteCall Mode 253
Conference JoinLeaveNotifications 251
Conference MaxMultisiteReceiveRate 252
Conference MaxMultisiteTransmitRate 252
Conference MaxReceiveCallRate 251
Conference MaxTransmitCallRate 251
Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode 252
Conference Multipoint Mode 253
Conference MultiStream Mode 253
Conference PeopleFocus OnCall Mode 254
Conference Presentation OnPlacedOnHold 254
Conference Presentation RelayQuality 254
Conference Webex CallProtocolIPStack 254
会議 DefaultCall プロトコル 247
会議の暗号化モード 249
相手側会議メッセージモード 250
電話会議 DoNotDisturbのデフォルトタイムアウト 249
電話会議の相手先コントロール信号機能 250
電話会議自動応答の待ち時間 247

施設サービスの設定 255
FacilityService Service [n] CallType 255
FacilityService Service [n] Name 255
FacilityService Service [n] Number 255
FacilityService Service [n] Type 255

ファイル設定 256
Files Services OneDrive TemporaryPersonalSignIn 256
ファイル サービス Webex SaveToUser 256

GPIO 設定 256
GPIO ピン [n] モード 256

H323 設定 257
H323 Authentication LoginName 257
H323 H323Alias E164 258
H323 H323Alias ID 258
H323 NAT アドレス 259
H323 NAT モード 259
H323 ゲートキーパーアドレス 258
H323 ポート割り当て 259
H323 暗号化 AES256 に対応 258
H323 暗号化キーサイズ 258
H323 認証パスワード 257
H323 認証モード 257
H323 通話セットアップ モード 257

HttpClient 設定 260
HttpClient AllowHTTP 260
HttpClient AllowInsecureHTTPS 260
HttpClient UseHttpProxy 260
HttpClient モード 260

HTTP フィードバックの設定 261
HttpFeedback TlsVerify 261
HttpFeedback UseHttpProxy 261

ログの設定 262
Logging CloudUpload Mode 262
Logging Debug Bluetooth 262
Logging Debug Wifi 262
Logging External Mode 262
Logging External Protocol 263
Logging External Server Address 263
Logging External Server Port 263
Logging External TlsVerify 263
ロギング内部モード 263
ログモード 264

マクロ設定 264
Macros Diagnostics JavascriptErrors 265
Macros EvaluateTranspiled 264
Macros Mode 265
Macros QuickJSEngine 265
マクロの自動開始 265
マクロ無応答タイムアウト 265

MicrosoftTeams の設定 266
MicrosoftTeams CVI CrossTenant 266
MicrosoftTeams Diagnostics ShowUnsupportedConsoleNotification 266
MicrosoftTeams Zoom クロスローンチ 266
MicrosoftTeams のログレベル 266
MicrosoftTeams ログモード 266

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク設定 **267**
Network [n] IEEE8021X Eap Ttls 270
Network [n] QoS Diffserv Audio 274
Network [n] QoS Diffserv Video 274
Network [n] RemoteAccess Allow 276
ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード 267
ネットワーク [n] DNS サーバ [m] アドレス 267
ネットワーク [n] DNS ドメイン名 267
ネットワーク [n] FQDN 268
ネットワーク [n] IEEE8021X AnonymousIdentity 270
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Md5 270
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Peap 271
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Tls 270
ネットワーク [n] IEEE8021X TlsVerify 269
ネットワーク [n] IEEE8021X UseClientCertificate 269
ネットワーク [n] IEEE8021X アイデンティティ 269
ネットワーク [n] IEEE8021X パスワード 269
ネットワーク [n] IEEE8021X モード 268
ネットワーク [n] IPStack 271
ネットワーク [n] IPv4 アドレス 271
ネットワーク [n] IPv4 インターフェース識別子 272
ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ 272
ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク 272
ネットワーク [n] IPv4 の割り当て 271
ネットワーク [n] IPv6 DHCP オプション 273
ネットワーク [n] IPv6 アドレス 273
ネットワーク [n] IPv6 インターフェイス識別子 273
ネットワーク [n] IPv6 ゲートウェイ 273
ネットワーク [n] IPv6 の割り当て 272
ネットワーク [n] MTU 274
ネットワーク [n] QoS Diffserv ICMPv6 275
ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP 275
ネットワーク [n] QoS Diffserv シグナリング 275
ネットワーク [n] QoS Diffserv データ 275
ネットワーク [n] QoS モード 274
ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId 277
ネットワーク [n] VLAN 音声モード 276
ネットワーク [n] トラフィック制御モード 276
ネットワーク [n] ファイアウォール 着信 H323 267
ネットワーク [n] ファイアウォール 着信 SIP 268
ネットワーク [n] ファイアウォール着信ペアリング 268
ネットワーク [n] 速度 276

ネットワークサービス設定 **277**
NetworkServices CommonProxy 277
NetworkServices HTTP Proxy LoginName 279
NetworkServices HTTP Proxy PACUrl 280
NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion 280
NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity 281
NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate 281
NetworkServices HTTP プロキシ URL 280
NetworkServices HTTP プロキシ パスワード 280
NetworkServices HTTP プロキシ モード 279
NetworkServices HTTP プロキシ認証方法 278
NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithm 282
NetworkServices NTP Server [n] KeyId 282
NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス 282
NetworkServices NTP サーバ [n] キー 282
NetworkServices PTP 優先順位 283
NetworkServices SMTP セキュリティ 285
NetworkServices SMTP パスワード 284
NetworkServices SMTP ユーザ名 284
NetworkServices SNMP CommunityName 285
NetworkServices SNMP SystemLocation 286
NetworkServices Wifi Allowed 287
NetworkServices Wifi Settings FrequencyBand 287
NetworkServices XMLAPI モード 288
ネットワークサービス CDP モード 277
ネットワークサービス H323 モード 278
ネットワークサービス HTTPS OCSP URL 280
ネットワークサービス HTTPS OCSP モード 280
ネットワークサービス HTTP モード 278
ネットワークサービス LLDP モード 281
ネットワークサービス NTP モード 281
ネットワークサービス SIP モード 283
ネットワークサービス SMTP サーバ 283
ネットワークサービス SMTP ポート 284
ネットワークサービス SMTP モード 283
ネットワークサービス SMTP 送信元 284
ネットワークサービス SNMP SysNameSource 285
ネットワークサービス SNMP システム連絡先 285
ネットワークサービス SNMP モード 285

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワークサービス SSH キー交換アルゴリズム レガシー許可 286
ネットワーク サービス SSH ホストキーアルゴリズム 286
ネットワークサービス SSH モード 286
ネットワークサービス UPnP タイムアウト 287
ネットワークサービス UPnP モード 286
ネットワークサービス Wi-Fi が有効 288
ネットワークサービス ウェブソケット 287
ネットワークサービスのウェルカムテキスト 287
ネットワークサービス検出プロトコル システム名 278

周辺機器の設定 288
Peripherals ActivePen Enabled 288
Peripherals InputDevice Mode 288
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels EmcResilience 289
Peripherals Profile Cameras 289
Peripherals Profile Cameras 290
Peripherals Profile Microphones USBInterface 291
Peripherals Profile Microphones USBMicrophone 291
Peripherals Profile NetworkSwitches 291
周辺機器のセキュリティ証明書 SyncToPeripheralsが有効化されています 292
周辺機器プロファイルコントロールシステム 290
周辺機器 プロファイル タッチパネル 292
周辺機器 プロファイル マイク アナログ 290
周辺機器 プロファイル マイク イーサネット 290
周辺機器 ペアリング CiscoTouchPanels HttpProxy 289
周辺機器 ペアリング CiscoTouchPanels リモートペアリング 289

電話帳設定 293
Phonebook Server [n] TlsVerify 293
電話帳サーバ [n] ID 293
電話帳サーバ [n] URL 294
電話帳サーバ [n] タイプ 294
電話帳サーバ [n] ページネーション 293

プロビジョニング設定 294
CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics のプロビジョニング 294
Provisioning Connectivity 294
Provisioning ExternalManager Address 295
Provisioning ExternalManager AlternateAddress 295
Provisioning ExternalManager Domain 295
Provisioning ExternalManager Path 295
Provisioning ExternalManager Protocol 295
Provisioning RoomType CameraLayout 296
Provisioning TlsVerify 297
Provisioning WebexEdge 297
プロビジョニングパスワード 296
プロビジョニング モード 296
プロビジョニングログイン名 296

Proximity 設定 297
Proximity AlternatePort Enabled 297
Proximity Services CallControl 298
Proximity Services ContentShare FromClients 298
Proximity Services ContentShare ToClients 298
近接通信モード 298

リモートアクセス設定 299
RemoteAccess ShowTapIndicator 299
リモートアクセスモード 299

RoomAnalytics の設定 299
RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval 299
RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall 300
RoomAnalytics PeoplePresenceDetector 300
RoomAnalytics PeoplePresence 入力ヘッド検知器 300
RoomAnalytics PeoplePresence 入力超音波 300
RoomAnalytics RoomInUse InCall 301
RoomAnalytics RoomInUse LocalUsage 301
RoomAnalytics T3AlarmDetection タイムアウト 302
RoomAnalytics T3 アラーム検出モード 302
RoomAnalytics 周囲ノイズ推定モード 299
RoomAnalytics 残響時間モード 301
RoomAnalytics 残響時間間隔 301

会議室クリーンアップの設定 302
RoomCleanup AutoRun ContentType TemporaryAccounts 302
RoomCleanup AutoRun ContentType WebData 302
RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards 303
RoomCleanup AutoRun HourOfDay 303

RoomReset の設定 303
RoomReset コントロール 303

RoomScheduler の設定 304
RoomScheduler BookingTimeout 304
RoomScheduler が有効になりました 304

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface RoomScheduler OverlayOpacity 304
UserInterface RoomScheduler State Available Color 304
UserInterface RoomScheduler State Busy Color 305
UserInterface RoomScheduler State Pending Color 305

RTP 設定 305
RTP Audio Ports Range Webex Stop 306
RTP Ports Range Stop 306
RTP Video Ports Range Stop 307
RTP Video Ports Range Webex Start 307
RTP Video Ports Range Webex Stop 307
RTP ビデオポート範囲の開始 306
RTP ポート範囲の開始 305
RTP 音声ポート範囲 Webex 開始 306

セキュリティ設定 308
Security Audit OnError Action 308
Security Audit Server Port 309
Security Session FailedLoginsLockoutTime 310
Security Session InactivityTimeout 310
Security Session MaxFailedLogins 310
Security Session MaxTotalSessions 311
Security Session ShowLastLogon 311
Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed 311
セキュリティ CSR キーサイズ 309
セキュリティ Fips モード 310
セキュリティセッション MaxSessionsPerUser 310
セキュリティ登録キーサイズ 309
セキュリティ監査サーバーのポート割り当て 309
セキュリティ監査サーバアドレス 308
セキュリティ監査ログモード 308

Sensors 設定 312
Sensors Radar Mode 312
センサー超音波モード 312

シリアルポートの設定 312
SerialPort LoginRequired 313
SerialPort ボーレート 312
SerialPort 送信ポート [n] 説明 314
シリアルポート アウトバウンド モード 313
シリアルポートモード 312
シリアルポート 送信ポート [n] パリティ 314
シリアルポート 送信ポート [n] ボーレート 314

SIP 設定 315
SIP ANAT 315
SIP DefaultTransport 315
SIP Ice DefaultCandidate 316
SIP Ice モード 316
SIP TlsVerify 318
SIP Turn Password 319
SIP Turn UserName 319
SIP URI 319
SIP ターンサーバ 319
SIP タイプ 319
SIP トランスポートセキュリティ証明書検証モード 318
SIP プロキシ [n] アドレス 317
SIP メールボックス 317
SIP リッスンポート 316
SIP 優先IPシグナリング 317
SIP 最小TLSバージョン 317
SIP 回線 316
SIP 表示名 315
SIP 認証パスワード 315
SIP 認証ユーザ名 315

スタンバイの設定 320
Standby BootAction 320
Standby BrightnessDelay 320
Standby Control 320
Standby Delay 320
Standby Halfwake Screensaver 321
Standby Level DeepSleep Delay 321
Standby Level DeepSleep Mode 321
Standby Level Networked Mode 322
Standby Signage RefreshInterval 323
Standby StandbyAction 323
Standby WakeupAction 324
Standby WakeupAtMeetingStart 324
Standby WakeupOnMotionDetection 324
Standby WakeupOnPairing 324
スタンバイ サイネージ URL 323
スタンバイ サイネージ インタラクション モード 322
スタンバイ サイネージの音声 322
スタンバイ サイネージ モード 323
スタンバイ ハーフウェイク モード 322

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スタンバイ レベルのネットワーク遅延 321

SystemUnit settings 325
SystemUnit CrashReporting Advanced 325
SystemUnit CrashReporting URL 326
SystemUnit CustomDeviceId 326
SystemUnit Extension MouseSupport 326
SystemUnit Name 325
SystemUnit SoftwareUpgrade Provider 326
SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode 327
SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url 327
SystemUnit ソフトウェアアップグレード TruncateCop 327
SystemUnit ブロードキャスト名 325
システムユニットクラッシュレポートモード 325
システムユニットハードウェア USBC [n] モード 326

ThousandEyes の設定 328
ThousandEyes の ConnectionString 328

時間設定 328
Time DateFormat 328
Time OfficeHours Enabled 330
Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby AutoWakeup 330
Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby Delay 331
Time OfficeHours WorkDay End 331
Time OfficeHours WorkDay Start 331
Time OfficeHours WorkWeek Friday 332
Time OfficeHours WorkWeek Saturday 332
Time OfficeHours WorkWeek Sunday 332
Time OfficeHours WorkWeek Thursday 332
Time OfficeHours WorkWeek Tuesday 331
Time OfficeHours WorkWeek Wednesday 331
Time TimeFormat 328
タイムゾーン（Time zone） 329
時間 月曜日の勤務時間の勤務地 331

ユーザ操作の設定 333
UserInteraction RaiseHand CMS 333

ユーザインターフェースの設定 333
UserInterface Accessibility IncomingCallNotification 333
UserInterface Accessibility ScreenReader Default Mode 333
UserInterface Accessibility ScreenReader Gesture 334
UserInterface Accessibility ScreenReader Speed 334
UserInterface Assistant ProactiveMeetingJoin 334
UserInterface Bookings AdhocBooking DefaultTitle 335
UserInterface Bookings AdhocBooking TimeSlotSize 335
UserInterface Bookings AdhocBooking UseDefaultTitle 335
UserInterface Bookings Visibility AllDayMeetings 335
UserInterface Bookings Visibility EarlyJoin 335
UserInterface Bookings Visibility JoinedParticipants Avatars 336
UserInterfaceBookingsVisibilityMeetingReminder 336
UserInterface Bookings Visibility NonJoinableMeetings 336
UserInterface Bookings Visibility Organizer 336
UserInterface Bookings Visibility Personal FullDayCalendar 336
UserInterface Bookings Visibility Personal NonJoinableMeetings 336
UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings 337
UserInterface Bookings Visibility Title 337
UserInterface CameraControl Presets Mode 337
UserInterface ContactInfo Type 337
UserInterface CustomMessage 338
UserInterface CustomWallpaperOverlay 339
UserInterface DecemberThemeBeta 338
UserInterface DevicePersonalization QRCodeNotification 338
UserInterface Diagnostics Notifications 339
UserInterface Features Call AudioMute 339
UserInterface Features Call CameraControls 340
UserInterface Features Call End 340
UserInterface Features Call HdmiPassthrough 340
UserInterface Features Call JoinGoogleMeet 340
UserInterface Features Call JoinMicrosoftTeamsCVI 340
UserInterface Features Call JoinMicrosoftTeamsDirectGuestJoin 341
UserInterface Features Call JoinZoom 341
UserInterface Features Call Keypad 341
UserInterface Features Call LayoutControls 341
UserInterface Features Call MidCallControls 342
UserInterface Features Call MusicMode 342
UserInterface Features Call ParticipantList 342
UserInterface Features Call SelfviewControls 342
UserInterface Features Call Start 342
UserInterface Features Call VideoMute 342
UserInterface Features Call Webcam 343
UserInterface Features Files Start 343
UserInterface Features HideAll 343
UserInterface Features Share MTRAutoSelectSource 338

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Features Share MTRShareExperience....343
UserInterface Features Share Start....344
UserInterface Features Whiteboard Start....344
UserInterface HomeScreen Dashboard....344
UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp AllowInsecureHttps....344
UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL....345
UserInterface Language....346
UserInterface LedControl OutsideOfficeHours....346
UserInterface LiveAnnotation AvailabilityForPresenter....346
UserInterface LiveAnnotation Enabled....347
UserInterface LiveAnnotation EnabledOutOfCall....347
UserInterface MeetingJoin CVITenants....347
UserInterface NameAndSiteLabels Mode....348
UserInterface OSD EncryptionIndicator....348
UserInterface OSD HalfwakeMessage....348
UserInterface OSD Mode....348
UserInterface Phonebook DefaultSearchFilter....349
UserInterface Proximity Notifications....350
UserInterface RoomScheduler AmbientTemperature Show....350
UserInterface RoomScheduler DevicePersonalization QRCodePairing....350
UserInterface RoomScheduler PeopleCount Current....351
UserInterface ScreenLock Workspace Allowed....351
UserInterface SettingsMenu Mode....352
UserInterface SettingsMenu Visibility....352
UserInterface WallpaperFillMode....339
UserInterface WebcamOnlyMode....353
UserInterface Whiteboard ShareInCall....354
ユーザーインターフェース機能コール JoinWebex....341
ユーザーインターフェイス キオスク URL....345
ユーザーインターフェイステーマ名....353
ユーザーインターフェイスのインスタントミーティング招待状....338
ユーザーインターフェイスのヘルプのヒント....344
ユーザーインターフェイスの壁紙....353
ユーザーインターフェイス 機能 カレンダーの開始....339
ユーザーインターフェイス画面ロックポリシー....351
ユーザ インターフェース キオスク モード....345
ユーザインターフェースの OSD 出力....349
ユーザ インターフェイス LED コントロール モード....346
ユーザインターフェイス RoomScheduler モード....350
ユーザインターフェイス RoomStatus メニューの可視性....351
ユーザ インターフェイス アシスタント モード....334
ユーザ インターフェイス キートーン モード....345
ユーザ インターフェイス サウンド効果モード....352
ユーザインターフェイスセキュリティモード....352
ユーザインターフェイスのミュート警告....347
ユーザ インターフェイス ブランディングのアウェイクブランディング カラー....337
ユーザ インターフェイス ホワイトボード アクティビティインジケータ....353
ユーザ インターフェイス ホワイトボードの削除....353
ユーザインターフェイス電話帳モード....349

ユーザ管理設定....355
UserManagement LDAP Attribute....355
UserManagement LDAP BindPassword....356
UserManagement LDAP VerifyServerCertificate....357
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits....358
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength....358
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase....358
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial....358
UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime....359
ユーザ管理 LDAP サーバアドレス....357
ユーザ管理 LDAP サーバポート....357
ユーザ管理 LDAP バインド DN....355
ユーザ管理 LDAP ベース DN....355
ユーザ管理 LDAP メンバー属性....356
ユーザ管理 LDAP モード....357
ユーザ管理 LDAP 最小 TLS バージョン....356
ユーザ管理 LDAP 暗号化....356
ユーザ管理 LDAP 管理グループ....355
ユーザ管理 LDAP 管理フィルター....355
ユーザ管理パスワードポリシー再利用制限....359
ユーザ管理パスワードポリシー複雑度 最小大文字....359

ビデオ設定....360
Video ActiveSpeaker DefaultPIPPosition....360
Video DefaultLayoutFamily LocalContent....361
Video DefaultLayoutFamily Remote....361
Video DefaultMainSource....362
Video Input AirPlay Beacon....362
Video Input AirPlay DiscoveryInstructions NetworkName....362
Video Input AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo....363
Video Input AirPlay Password....363
Video Input CameraConfigMode....364
Video Input Connector [n] CameraControl CameraId....365

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input Connector [n] InputSourceType 367
Video Input Connector [n] OptimalDefinition Profile 368
Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps 369
Video Input Connector [n] PresentationSelection 370
Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange 371
Video Input Miracast MaxBitrate 373
Video Input Miracast Mode 373
Video Input Miracast PresentationSelection 374
Video Input Miracast Transport 374
Video Monitors 375
Video Output Connector [n] BrightnessMode 375
Video Output Connector[n] ContentType 376
Video Output Connector [n] HDCPPolicy 377
Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset 378
Video Output Connector [n] Location VerticalOffset 379
Video Output Connector [n] MonitorRole 379
Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange 381
Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay 383
Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Enabled 382
Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Mode 382
Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Name 382
Video Output MirroringType 383
Video Output Webcam USBMode 383
Video Presentation DefaultPIPPosition 384
Video Selfview Default Mode 385
Video Selfview Default OnMonitorRole 385
Video Selfview OnCall Duration 386
ビデオ DefaultLayoutFamily Local 360
ビデオセルフビューのデフォルト PIP 位置 386
ビデオセルフビュー通話中モード 386
ビデオプレゼンテーション デフォルトソース 384
ビデオプレゼンテーションの優先順位 384
ビデオ入力 AirPlay PresentationSelection 363
ビデオ入力 AirPlay セキュリティモード 364
ビデオ入力 AirPlay モード 363
ビデオ入力コネクタ [n] CameraControl モード 365
ビデオ入力コネクタ [n] CEC モード 366
ビデオ入力コネクタ [n] HDCP モード 366
ビデオ入力コネクタ [n] の可視性 372
ビデオ入力コネクタ [n] 優先解像度 369
ビデオ入力コネクタ [n] 最大解像度 367
ビデオ入力コネクタ [n] 名 368
ビデオ入力コネクタ [n] 品質 371
ビデオ入力コネクタ [n] 変換 372
ビデオ入力の Miracast PIN の長さ 373
ビデオ入力の [Miracast] 品質 374
ビデオ出力 HDMI パススルー出力コネクタ 382
ビデオ出力 HDMI パススルー可 381
ビデオ出力コネクタ [n] CEC モード 376
ビデオ出力コネクタ [n] HDCPForce1_4 377
ビデオ出力コネクタ [n] の明るさ 375
ビデオ出力コネクタ [n] ホワイトバランスレベル 383
ビデオ出力コネクタ [n] 解像度 380
ビデオ 自分の映像のデフォルト フルスクリーン モード 385

音声コントロールの設定 387
音声コントロール ウェイクワード モード 387

ウェブ エンジンの設定 387
WebEngine Certificates RevocationChecks NetworkAccess 387
WebEngine Features GpuRasterization 388
WebEngine Features Peripherals AudioOutput 388
WebEngine Features Peripherals WebGL 389
WebEngine Features SipUrlHandler 389
WebEngine Features WebGL 389
WebEngine RemoteDebugging 390
WebEngine の機能 CanvasOopRasterization 388
WebEngine の機能 Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts 389
Web エンジン FpsCounter 389
Web エンジンの MinimumTLSVersion 390
Web エンジンの機能 AllowDeviceCertificate 387
Web エンジン 機能 LocalWebAppManagement 388
ウェブ エンジン UseHttpProxy 390
ウェブ エンジン モード 390

Webex の設定 391
Webex CloudProximity GuestShare 391
Webex CloudProximity 手動ペアリング 391
Webex CloudUpgrades モード 391
Webex DevicePersonalization Features Whiteboard SignInRequired 391
Webex Hotdesking DefaultBookingEndTime 392
Webex Meetings AIAssistantAutoSummarize が利用可能 392
Webex Meetings HttpProxyForMedia モード 392
Webex Meetings MeetingChatNotifications Mode 393

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Webex Meetings ミーティングチャットプレビュー 394
Webex Meetings 参加プロトコル 393
Webex Privacy AllowUsageDataLogging 394
Webex UpgradeChannel 394
Webex デバイスパーソナライゼーション タスクベースサインイン 392
Webex 近接モード 394

WebRTC 設定 395
WebRTC EndCall タイムアウト 395
WebRTC Provider MicrosoftTeams CompatibilityMode 395
WebRTC インタラクション モード 395

Zoom の設定 396
Zoom DialStringOptions 396
Zoom EnhancedCallControls 396
ズームの DefaultDomain 396

実験的な設定 397

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

アプリの設定

アプリ WallpaperBundles HalfwakeImage

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

一部のシナリオでは、例えば、ユーザーインターフェイステーマ名が夜間に設定されている場合、ハーフウェイクモードで色付きの背景が表示されます。この設定でOffにして、常に黒の背景を使用することができます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

自動: 一部のシナリオでハーフウェイク モードで背景が色付けされます。

オフ: ハーフウェイクモードでは背景が黒になります。

音声設定

音声コネクタのセットアップ

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

音声入力と出力を手動でセットアップするか、お使いのカメラの種類と接続されているスクリーンに基づいてビデオ デバイスに自動的に実行させるかを選択できます。

自動モードでは、音声入出力を手動で追加、更新、削除、または接続することはできません。そのため、次の API コマンド: xCommand Audio Setup *、xCommand Audio LocalInput *、xCommand Audio LocalOutput * には効果がありません。

手動モードから自動モードに切り替える場合: 既存の音声設定は消去され (xCommand 音声設定消去)、入力および出力グループは製品のデフォルト設定に従ってセットアップされます。音声出力 HDMI [n] モードおよび音声出力 ARC [1] モードの設定は、デフォルト値に設定されています。

自動モードから手動モードに切り替える場合: HDMI および ARC 出力コネクタはメイン出力グループに接続されます。音声出力 HDMI [n] モードおよび音声出力 ARC [1] モードの設定は変更されません。

AVIntegrator オプションが必要です。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: コーデックEQの場合、ビデオデバイスはカメラを通して、またはHDMI出力の1つに接続されたスクリーンを通して音声を再生します。ビデオ会議端末は、以下のリストで最初に利用可能なデバイスで音声を再生することを選択します。

1.カメラ コントロールがビデオ デバイスのカメラ コントロール コネクタの 1 つに接続され、HDMI がビデオ デバイスのカメラ入力 (HDMI 1 入力) に接続された Quad Camera。さらに、[音声出力 ARC [1] モード] および [ビデオ入力コネクタ [1] CEC モード] 設定をOnにする必要があります。カメラで音声を再生するには、HDMI 1 入力の音声リターン チャネル (ARC) が使用されます。

2.音声出力 HDMI [1] モード設定がOnになっている場合、HDMI 1 出力に接続された画面。

3.音声出力 HDMI [2] モード設定がOnになっている場合、HDMI 2 出力に接続された画面。

4.音声出力 HDMI [3] モード設定がOnになっている場合、HDMI 3 出力に接続された画面。

クアッドカメラで音声が再生されると、ビデオデバイスは画面とカメラの間の遅延を確認して、カメラの音声を画面のビデオと同期できるようにします (リップ同期)。遅延を確認するために、ビデオデバイスは CEC (コンシューマー電子機器制御)を介して画面と通信します。上記のリストの最初の画面で、CEC をサポートし、Video Output Connector [n] CEC Mode が On に設定されているものが、遅延の評価に使用されます。

音声が画面を通して再生される場合、追加のリップシンクロの遅延は画面の責任です。ビデオデバイスによって遅延が発生することはありません。

Room Kit EQX の場合、Audio Output ARC [1] Mode および Audio Output InternalSpeaker Mode が On で、Audio Output Ethernet [2] Mode が On になっている場合、ビデオデバイスはその統合スピーカーから音声を再生します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Manual: Audio Console アプリケーションまたは API (xCommand Audio Local Input * および xCommand Audio LocalOutput *)を使用して、音声の入力と出力を手動でセットアップする必要があります。

Room Kit EQX では、コネクタが音声コンソールアプリケーションまたは API (xCommand Audio LocalOutput *)を使用して明示的に追加されている場合、接続された画面が音声出力に使用される場合があります。この場合、内蔵スピーカーシステムで再生される音声のステレオダウンミックスが画面で再生されます。超音波信号はスクリーンまたは回線出力では再生されず、統合型スピーカーシステムを通してのみ再生されます。

Audio DefaultVolume

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

スピーカーのデフォルトの音量を定義します。Desk シリーズを除くすべてのデバイスでは、デバイスの電源を入れるか再起動すると、音量はこのレベルに設定されます。Desk デバイスは、再起動後にも、ユーザーが設定した最後の音声レベルを記憶しています。

ユーザーインターフェイス上のコントロールまたは Audio Volume コマンドを使用して、通話中と通話外の両方の音量を変更できます。Audio Volume SetToDefault コマンドは、音量をデフォルト値にリセットします。

デフォルト値:

50 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro]*

70 *[Board BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

整数 (0..100)

範囲 : 1 から 100 までの値を選択します。これは、-34.5 dBから15 dBまでのdB範囲に対応し、0.5 dBのステップで増減します。0 に設定すると、音声がOffになります。

音声イーサネット暗号化

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオデバイスの内部ネットワークで暗号化されていない音声ストリームを許可するかどうかを決定します。

AES67 標準は暗号化されたメディア ストリームをサポートしないことに注意してください。そのため、AES67 音声を許可するには、この設定を Optional に設定する必要があります。

Codec EQ、Codec EQX、Room Bar Pro:AVIntegrator オプションが必要です。

デフォルト値:

Required

値スペース:

任意/必須

任意: 暗号化されたメディア ストリームと暗号化されていないメディア ストリームの両方を許可します。

Required: 暗号化されたメディアストリームのみを許可します。

音声イーサネット SAPDiscovery アドレス

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオデバイスがストリームアナウンスをリッスンし、自身のストリームをアナウンスするマルチキャストアドレスを設定します。周辺機器で必要な場合にのみ、この設定を変更してください。

Codec EQ、Codec EQX、Room Bar Pro:AVIntegrator オプションが必要です。

デフォルト値:

239.255.255.255

値スペース:

文字列 (0, 64)

ストリーム アナウンスのための有効なマルチキャスト アドレス。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声イーサネット SAP 検出モード

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオデバイスは、SAP (ServiceAnnouncement Protocol) を使用した検出をサポートしています。そのため、有効にすると、ビデオ デバイスは、周辺機器によって通知されるストリームを検出し、自身のストリームを通知することができます。聴取され、アナウンスメントを送信する IP アドレスは、音声イーサネットの SAP 検出アドレス設定で決定されます。

Codec EQ、Room Bar Pro: AVIntegrator オプションが必要です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスはストリームのアナウンスを聞いたり送信したりしません。

On: デバイスは、周辺機器によって通知されたストリームを検出し、自身のストリームを通知できます。

音声入力 ARC [n] モード

適用対象 : CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

各 HDMI 出力には、関連する音声リターンチャンネルがあります。ARC を使って、HDMI 出力に接続されている画面または TV の音声をビデオ会議端末に送信することができます。各 HDMI 出力コネクタ (n) について、音声送信を許可するかどうかを個別に決定することができます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : HDMI 出力 n の ARC チャンネルを無効にします (音声はビデオデバイスに送信されません)。

On: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを有効にします (音声はビデオデバイスに送信されます)。

n: ARC 入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[CodecPlus]*

範囲: 1..3 *[CodecPro]*

範囲 : Room 70 Dual G2 の場合は 3..3、Room 70 シングル G2 の場合は 2..3 *[Room70G2]*

範囲: 3..3 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..8] ゲイン

適用対象: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット入力の指定チャンネルのゲインを設定します。例えば、マイクまたは音声インターフェイス。入力ごとに最大 8 チャンネルを許可し、ゲインは各チャンネルに対して個別に設定されます。

ゲインは、接続されている音声ソースの出力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。ゲインの設定が高すぎる場合、音声信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎると、音声の S/N 比が低下します。しかし、これは通常、クリッピングよりも望ましい状態です。未処理の音声信号には通常、大きなレベル変動が含まれるため、十分な信号ヘッドルームを確保することが非常に重要であることに注意してください。

デフォルト値:

45

値スペース:

整数 (0..70)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2]*

音声入力 Ethernet[n] チャンネル [1..4] レベル

適用対象: RoomBar

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイクやオーディオ インターフェイスなどのイーサネット入力の指定されたチャネルのゲインを設定します。入力ごとに最大 4 チャンネルを許可し、ゲインは各チャンネルに対して個別に設定されます。

ゲインは、接続されている音声ソースの出力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。ゲインの設定が高すぎる場合、音声信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎると、音声の S/N 比が低下します。しかし、これは通常、クリッピングよりも望ましい状態です。未処理の音声信号には通常、大きなレベル変動が含まれるため、十分な信号ヘッドルームを確保することが非常に重要であることに注意してください。

デフォルト値:

45

値スペース:

整数 (0..70)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1 *[RoomBar]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..8] レベル

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイクや音声インタフェースなどのイーサネット入力の指定チャンネルのゲインを設定します。入力ごとに最大 8 チャンネルを許可し、ゲインは各チャンネルに対して個別に設定されます。

ゲインは、接続されている音声ソースの出力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。ゲインの設定が高すぎる場合、音声信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎると、音声の S/N 比が低下します。しかし、これは通常、クリッピングよりも望ましい状態です。未処理の音声信号には通常、大きなレベル変動が含まれるため、十分な信号ヘッドルームを確保することが非常に重要であることに注意してください。

デフォルト値:

45

値スペース:

整数 (0..70)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 BoardPro]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..4] モード

適用対象: RoomBar

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット入力の指定チャンネルの音声を無効または有効にします。入力ごとに最大 4 チャンネルを許可し、モードはチャンネルごとに個別に設定します。

Audio Input Ethernet [n] Mode をOff に設定すると、個別のチャンネルモード設定の効果が上書きされます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: このチャンネルからの音声を無効にします。

On: このチャンネルからの音声を有効にします。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1 *[RoomBar]*

音声入力 イーサネット [n] チャンネル [1..8] モード

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット入力の指定チャンネルの音声を無効または有効にします。入力ごとに最大 8 チャンネルを許可し、モードは各チャンネルに対して個別に設定します。

Audio Input Ethernet [n] Mode をOff に設定すると、個別のチャンネルモード設定の効果が上書きされます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: このチャンネルからの音声を無効にします。

On: このチャンネルからの音声を有効にします。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

Audio Input Ethernet[n] Channel[1..4] Pan

適用対象: RoomBar

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この入力チャンネルがミックスされる先のミックスチャンネル (左または右) を設定します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は影響しません。

デフォルト値:

Mono

値スペース:

左/モノラル/右

Left: 左のミックスチャンネルにパンします。

Right: 右のミックスチャンネルにパンする

Mono: 左右のチャンネルに均等にパンします。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1 *[RoomBar]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Pan

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この入力チャンネルがミックスされる先のミックスチャンネル (左または右) を設定します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は影響しません。

デフォルト値:

Mono

値スペース:

左/モノラル/右

Left: 左のミックスチャンネルにパンします。

Right: 右のミックスチャンネルにパンする

Mono: 左右のチャンネルに均等にパンします。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

オーディオ入力イーサネット [n] チャンネル [1..4] ゾーン

適用対象: RoomBar

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このコマンドは主にプレゼンタとオーディエンスの会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ)側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ モード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..3)

1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。

2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

3.マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1 *[RoomBar]*

Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Zone

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このコマンドは主にプレゼンタと対象者の会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ)側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ モード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..3)

1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。

2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

3.マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

音声入力 イーサネット [n] EchoControl モード

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

エコーキャンセラは、会議室の音声特性に合わせて継続的に調整し、音声環境で検出した変更を補償します。音声状態の変化が大きい場合、エコーキャンセラが再調整するのに 1、2 秒かかる場合があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: エコーコントロールをOffにします。エコーキャンセリングが外部機器によって実行される場合に推奨されます。

On: エコーコントロールをOnにします。一般に、相手側が自分の音声を聞くことを防ぐ場合に推奨されます。選択すると、エコーキャンセリングは常に有効になります。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1 *[RoomBar]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Ethernet [n] EchoControl NoiseReduction

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオデバイスにはノイズリダクション機能が内蔵されており、例えば、空調システムや冷却ファンなどの静止した背景ノイズを除去します。さらに、ハイパスフィルタ (Humfilter)は超低周波ノイズを除去します。ノイズ除去を使用するには、Audio Input Ethernet [n] EchoControl Mode が有効になっている必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: ノイズ除去をOffにします。

On: ノイズ除去をOnにします。低周波ノイズがある場合に推奨。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1 *[RoomBar]*

音声入力 イーサネット [n] イコライザー ID

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この入力に適用するイコライザープリセットを選択します。この入力に複数のチャンネルがある場合、処理はそれらすべてに等しく適用されます。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2/3/4/5/6/7/8

イコライザーのプリセット番号です。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1 *[RoomBar]*

音声入力 イーサネット [n] イコライザー モード

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この入力のイコライゼーション処理を有効または無効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: イコライゼーション処理を適用しません。

On: イコライゼーション処理を適用します。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

レンジ: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1 *[RoomBar]*

Audio Input Ethernet [n] Mode

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このイーサネット入力からの音声を無効または有効にします。

この入力に複数のチャンネルがある場合は、Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Mode 設定も参照してください。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : この入力からのすべての音声を無効にします。

On: アクティブなチャンネルからの音声を有効にします。

n: 論理イーサネット入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

範囲: 1..6 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1 *[RoomBar]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input HDMI [n] Level

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro BoardPro BoardPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24..0)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 2..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..5 *[CodecPro]*

範囲 : 1..1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..2 *[Room55]*

範囲: 2..5 *[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

Audio Input HDMI [n] Gain

適用対象: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24..0)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 1..1 *[RoomBarPro BoardProG2]*

Audio Input HDMI [n] Mode

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

HDMI 入力コネクタの音声を有効にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : HDMI 入力の音声を無効にします。

On: HDMI 入力で音声を有効にします。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 2..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 1..5 *[CodecPro]*

範囲 : 1..1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..2 *[Room55]*

範囲: 2..5 *[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、同じソースからのビデオが相手側と共有されるかどうかにかかわらず、この HDMI コネクタに接続されているプレゼンテーションソースからの音声を相手側と共有するかどうかを決定します。

デフォルト値:

On *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

HDMI 1: Off HDMI 2、3: On *[RoomKitEQX CodecEQ]*

HDMI 1、2: Off HDMI 3、4、5: On *[CodecPro]*

HDMI 2: Off HDMI 3、4、5: On *[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

Off/On

Off: プレゼンテーションソースが接続されている場合、音声は常にローカルと相手の両方で再生されます。つまり、ローカルでビデオのみを共有している場合、またはビデオをまったく共有していない場合でも、音声は遠端に送信されます。

On: 音声は常に入力コネクタのビデオ共有に従います。ローカルでのみ共有している場合、音声はローカルでのみ再生されます。ビデオが相手と共有されている場合、音声も相手と共有されます。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 2..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..5 *[CodecPro]*

範囲 : 1..2 *[Room55]*

範囲: 2..5 *[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

Audio Input Microphone [n] Channel

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マルチチャンネルミックスを生成する際の入力信号のミックス方法を定義します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は影響しません。

この機能をサポートする他の製品については、音声入力マイク [n] パン設定を参照してください。

デフォルト値:

Mono

値スペース:

左/モノラル/右

左: ステレオミックスを生成するときに、左チャンネルにミックスされます。

モノラル: ステレオミックスを生成するときに、両方のチャンネルにミックスされます。

右: ステレオミックスを生成するときに、右チャンネルにミックスされます。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode

適用対象: RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

エコーキャンセラは、会議室の音声特性に合わせて継続的に調整し、音声環境で検出した変更を補償します。音声状態の変化が大きい場合、エコーキャンセラが再調整するのに 1、2 秒かかる場合があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: エコーコントロールをOffにします。エコーキャンセリングが外部機器によって実行される場合に推奨されます。

On: エコーコントロールをOnにします。一般に、相手側が自分の音声を聞くことを防ぐ場合に推奨されます。選択すると、エコーキャンセリングは常に有効になります。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲: 2..3 *[RoomKit RoomBarPro Room55 BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 2..2 *[RoomBar]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation

適用対象 RoomKit RoomBar RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

ビデオ会議端末には、会議室の残響を軽減するための信号処理機能が内蔵されています。残響除去では、音声入力マイク [n] EchoControl モードが有効になっている必要があります。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off：残響除去をオフにする。
On: 残響除去をOnにします。

n: マイク入力を識別する一意の ID。
範囲：1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲：1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]*
範囲: 2..3 *[RoomKit Room55]*
範囲：2..2 *[RoomBar]*

Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction

適用対象: RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

ビデオ会議端末にはノイズリダクション機能が内蔵されており、例えば、空調システムや冷却ファンなどの静止した背景ノイズを除去します。さらに、ハイパスフィルタ (Humfilter) は超低周波ノイズを除去します。ノイズ除去を使用するには音声入力マイク [n] EchoControl モードが有効になっている必要があります。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
Off: ノイズ除去をOffにします。
On: ノイズ除去をOnにします。低周波ノイズがある場合に推奨。

n: マイク入力を識別する一意の ID。
範囲：1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲：1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]*
範囲: 2..3 *[RoomKit RoomBarPro Room55 BoardPro BoardProG2]*
範囲：2..2 *[RoomBar]*

Audio Input Microphone [n] Equalizer ID

適用対象：RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

このマイクに適用するイコライザー プリセットを選択します。

デフォルト値:
1

値スペース:
1/2/3/4/5/6/7/8
イコライザーのプリセット番号です。

n: マイク入力を識別する一意の ID。
範囲：1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲：1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

Audio Input Microphone [n] Equalizer Mode

適用対象：RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

このマイク入力のイコライザー処理を有効または無効にします。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off: イコライゼーション処理を適用しません。
On: イコライゼーション処理を適用します。

n: マイク入力を識別する一意の ID。
範囲：1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲：1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Microphone [n] Level

適用対象: RoomKit RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイク入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、接続されている音声ソースの出力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

ゲインの設定が高すぎる場合、音声信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎると、音声の S/N 比が低下します。しかし、これは通常、クリッピングよりも望ましい状態です。

未処理の音声信号には通常、大きなレベル変動が含まれるため、十分な信号ヘッドルームを確保することが非常に重要であることに注意してください。

0 dBのゲインでの最大入力レベルは製品によります: -18 dBu (Room Bar、Room Kit、Codec Plus、Room 55、Room 70、Room 55 Dual)、24 dBu (Codec Pro、Room 70 G2)。

例: マイクの最大出力レベルが -44dBu で、かつ Codec Pro に接続されている場合、ゲインを 24dBu - (-44dBu) = 68dB に設定します。

デフォルト値:

14 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro]*

58 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

整数 (0..24) *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro]*

整数 (0..70) *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 2..3 *[RoomKit Room55 BoardPro]*

範囲 : 2..2 *[RoomBar]*

Audio Input Microphone [n] Gain

適用対象: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイク入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、接続されている音声ソースの出力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

ゲインの設定が高すぎる場合、音声信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎると、音声の S/N 比が低下します。しかし、これは通常、クリッピングよりも望ましい状態です。

未処理の音声信号には通常、大きなレベル変動が含まれるため、十分な信号ヘッドルームを確保することが非常に重要であることに注意してください。

0 デシベルのゲインでの最大入力レベルは -18dBu です。

例: マイクの最大出力レベルが -40 dBu の場合、ゲインを -18 dBu - (-40 dBu) = 22 dB に設定します。

デフォルト値:

20 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ]*

14 *[BoardProG2]*

値スペース:

整数 (0..24)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 2..3 *[RoomBarPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Microphone [n] Mode

適用対象 : RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイク コネクタの音声を無効または有効にします。

Board Pro、Board Pro G2、Desk Mini、Desk、Desk Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room 55: マイク [1] はデバイスの内部マイクです。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 音声入力マイクコネクタを無効にします。

On: 音声入力マイクコネクタを有効にします。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..3 *[RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro BoardProG2]*

範囲: 1..2 *[RoomBar]*

範囲:1..1 *[DeskMini Desk DeskPro]*

Audio Input Microphone [n] MuteOverride

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、Codec Pro のアナログ マイク入力専用です。

マイク入力を構成して、システムのメインのミュート状態 (つまり、通常のミュート ボタンで制御されるミュート状態) をオーバーライドします。

これにより、マイク入力をミュート解除し、アクティブなビデオ入力中にプレゼンテーション音声などを送信するための回線入力として使用することができます。

マイクが非アクティブなビデオ入力に関連付けられており、非アクティブなビデオ入力でミュートに設定されている場合、マイクはミュートされたままになることに注意してください。

例えば、アナログソースからの音声を提供する必要がある場合、一部のマイク入力を回線入力として転用する必要があります。

[ミュートオーバーライド] を使用しない場合、プレゼンテーションの再生中にプレゼンタがマイクをミュートすると、これらのプレゼンテーションソースからの音声は無音になります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : ミュート設定を上書きしません。

On: ミュート設定を上書きします。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Microphone [n] Pan

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マルチチャンネルミックスを生成する際の入力信号のミックス方法を定義します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は影響しません。

この機能をサポートする他の製品については、音声入力マイク [n] チャンネル設定を参照してください。

デフォルト値:

Mono

値スペース:

左/モノラル/右

左: ステレオミックスを生成するときに、左チャンネルにミックスされます。

モノラル: ステレオミックスを生成するときに、両方のチャンネルにミックスされます。

右: ステレオミックスを生成するときに、右チャンネルにミックスされます。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..3

Audio Input Microphone [n] PhantomPower

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイク入力でファンタム電源 (48 V +/- 1 V) を使用するかどうかを指定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: マイク入力のファンタム電源を無効にします。外部ミキサーなど、ファンタム電源を必要としない機器に接続する場合は、これを使用します。

On: マイク入力のファンタム電源を有効にします。Cisco テーブルマイクおよび Cisco シーリングマイクを含む、ファンタム電源を必要とするマイクに直接接続する場合、これを使用します。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイクをビデオ入力コネクタに関連付けると、そのビデオ入力にビデオストリームまたはコンテンツがない場合にマイクが自動的にミュートになります。Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource 設定を使用して、どのビデオ入力コネクタにマイクを関連付けるかを選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : マイクのミュート状態はビデオ入力の状態から独立しています。

On: 関連するビデオ入力にビデオストリームまたはコンテンツがない場合、マイクが自動的にミュートされます。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイクを関連付けるビデオ入力コネクタを選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2/3/4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

1/2/3/4/5/6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

マイクが関連付けられているビデオ入力コネクタです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input Microphone [n] Zone

適用対象: RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このコマンドは主にプレゼンタとオーディエンスの会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ)側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ モード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..3)

1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。

2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

3.マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲 : 1..8 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..3 *[RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro BoardProG2]*

範囲: 1..2 *[RoomBar]*

Audio Input MicrophoneMode

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイクモードが集中型の場合、マイクを組み合わせて音声感度をフォーカスできます。その結果、会議室のノイズが抑制され、デバイスの前に座っているユーザーの声も聞こえやすくなります。デバイスの前に座っていない人々の声が抑制されます。

マイク モードがワイドの場合、デバイスは他のデバイスと同様に動作します。あなたの隣に座っている人々の声が聞こえ、部屋からのノイズも多くなります。

自分だけが発言者の場合は、フォーカスモードを使用することをお勧めします。デバイスの前面に複数の発言者がある場合は、ワイド モードを使用します。

デフォルト値:

集中的な

値スペース:

集中的な/ワイド

集中的な: 集中的な音声感度を設定し、デバイスの正面にないソースからの音声を抑制します。

広範囲モード: デフォルトのマイク動作で通常の音声感度です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声 マイク ビームミックス入力

適用対象: RoomBarPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

デバイスの内部マイクアレイは、2つの主要な部分で構成されています: 近くの話者セクター (デバイスから約1.5mまでをカバー)と、デバイスから約4mまでをカバーする3つのビーム。デバイスは、外部アナログまたはデジタル マイクもサポートします。この設定は、ビームと外部マイク (アナログまたはデジタル (イーサネット))を同時に使用する可能性についてです。

通常、ビームと外部マイクを同時に許可しないこと、つまりこの設定を [自動] にしておくことをお勧めします。

ビームと外部マイクを同時に許可する場合、残響が増えることに注意してください。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/BeamsAndExtMics/OnlyExtMics

自動: 1 つ以上の Cisco デジタル マイクが接続され、Cisco デジタル マイクのセットアップ ウィザードが完了すると、新しいスマート オーディオ ミキサーは内部ビームと Cisco デジタル マイクの両方を使用します。

その他のタイプの外部マイクの場合、内部ビームは無効になります。

BeamsAndExtMics: オーディオ ミキサーは、音声を拾うために常に内部ビームと外部マイクを使用します。Cisco デジタルマイクを使用する場合は、Cisco デジタルマイクの配置を考慮して、よりスマートな音声ミキサーを提供する自動設定を使用することをお勧めします。

OnlyExtMics: 音声ピックアップには外部マイクのみを使用し、外部マイクが接続されていない場合は内部ビームにフォールバックします。

Audio Input USBC [n] Level

適用対象: RoomBar DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

USB-C 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24..0)

利得をデシベル (db) で選択します。

n: USB-C 入力を識別する一意の ID。

範囲：1..1

Audio Input USBC [n] Gain

適用対象: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

USB-C 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24..0)

利得をデシベル (db) で選択します。

n: USB-C 入力を識別する一意の ID。

範囲：1..1

Audio Input USBC [n] Mode

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

USB-C 音声モードを設定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

On：USB-C からの音声を許可します。

Off: USB-C からの音声を一切許可しません。

n: USBC 入力を識別する一意の ID です。

範囲：1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input USBC [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、同じソースからのビデオが相手側と共有されるかどうかにかかわらず、このUSB-C コネクタに接続されたプレゼンテーションソースからの音声を相手側と共有するかどうかを決定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: プレゼンテーションソースが接続されている場合、音声は常にローカルと相手の両方で再生されます。つまり、ローカルでビデオのみを共有している場合、またはビデオをまったく共有していない場合でも、音声は遠端に送信されます。

On: 音声は常に入力コネクタのビデオ共有に従います。ローカルでのみ共有している場合、音声はローカルでのみ再生されます。ビデオが相手と共有されている場合、音声も相手と共有されます。

n: USBC 入力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Input USBInterface [n] EchoControl Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスのエコー キャンセラは、会議室の音声特性に合わせて継続的に調整し、音声環境で検出した変更を補償します。音声状態の変化が大きい場合、エコーキャンセラが再調整するのに 1、2 秒かかる場合があります。

外部機器でエコーキャンセリングを実行する場合、指向性音声は Audio Panning Mode 設定を使用してOffにする必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : デバイスのエコー キャンセリングをオフにします。エコーキャンセリングが外部機器によって実行される場合に推奨されます。

On: デバイスのエコー キャンセリングをOnにします。一般に、相手側が自分の音声を聞くことを防ぐ場合に推奨されます。選択すると、エコー キャンセリングは常にアクティブになります。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Input USBInterface [n] Level

適用対象 : CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

接続されている特定の USB デバイスの出力レベルに合うように、USB コネクタのゲインを設定します。USB デバイスの出力レベルは異なる場合があります。

ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0..24)

ゲインをデシベル (db) で設定します。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input USBInterface [n] Gain

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

接続されている特定の USB デバイスの出力レベルに合うように、USB コネクタのゲインを設定します。USB デバイスの出力レベルは異なる場合があります。
ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:
5

値スペース:
整数 (0..24)
ゲインをデシベル (db) で設定します。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..1

Audio Input USBInterface [n] Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

USB コネクタの音声入力を無効または有効にします。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
Off : USB コネクタの音声入力を無効にします。
On: USB コネクタで音声入力を有効にします。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..1

Audio Input USBInterface [n] Zone

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このコマンドは主にプレゼンタとオーディエンスの会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ)側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ モード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

デフォルト値:
1

値スペース:
整数 (1..3)
1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。
2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。
3.マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input USBMicrophone [n] EchoControl Mode

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスのエコー キャンセラは、会議室の音声特性に合わせて継続的に調整し、音声環境で検出した変更を補償します。音声状態の変化が大きい場合、エコーキャンセラが再調整するのに 1、2 秒かかる場合があります。

AEC 参照信号は常にデバイスから USB マイクに送信されます。エコー キャンセリングがデバイスまたは外部機器のどちらで実行されるかは関係ありません。

外部機器でエコーキャンセリングを実行する場合、指向性音声は Audio Panning Mode 設定を使用してOffにする必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: デバイスのエコー抑制をOffにします。エコーキャンセリングが外部機器によって実行される場合に推奨されます。

On: デバイスのエコー キャンセリングをOnにします。一般に、相手側が自分の音声を聞くことを防ぐ場合に推奨されます。選択すると、エコー キャンセリングは常にアクティブになります。

n: USB マイクを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Input USBMicrophone [n] Gain

適用対象 : RoomBarPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

接続されている特定の USB マイクの出力レベルに合うように USB コネクタのゲインを設定します。USB マイクの出力レベルは変動する場合があります。

ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0..24)

ゲインをデシベル (db) で設定します。

n: USB マイクを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Input USBMicrophone [n] Level

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

接続されている特定の USB マイクの出力レベルに合うように USB コネクタのゲインを設定します。USB マイクの出力レベルは変動する場合があります。

ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0..24)

ゲインをデシベル (db) で設定します。

n: USB マイクを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Input USBMicrophone [n] Zone

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このコマンドは主にプレゼンタとオーディエンスの会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ)側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、ハイブリッド プレゼンタ モード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..3)

1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。

2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

3.マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

n: USB マイクを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Input WebView [n] Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

埋め込みウェブブラウザ (WebView) からの音声再生を許可するかどうかを設定します。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
On : ウェブブラウザからの音声を許可します。
Off: ウェブブラウザからの音声の再生を許可しません。

n: WebView 入力を識別する一意の ID です。
範囲 : 1..1

オーディオマイクロフォン AGC

適用対象: RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイクの自動ゲイン コントロール (AGC) を有効または無効にします。
Codec EQ および AVIntegratorオプション付きの Room Kit EQX: 該当なし。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
Off: AGC を無効にします。外部ミキサーや DSP など、マイク信号に AGC がすでに適用されている機器に接続する場合は、これを使用します。
On: AGC を有効にします。

Audio Microphones HdmiPassthrough MuteButton

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ラップトップからの発信機能 ([ビデオ出力 HDMI パススルーの許可] が True に設定されている必要があります) を使用している場合、ミーティング アプリから音声をいつでもミュートできます。この設定を使用して、タッチコントローラおよび外部マイクからのミュートも許可するかどうかを構成します。ミーティング アプリは、ラップトップのマイクではなく、HDMI-USB コンバーター (キャプチャ デバイス) をマイクとして使用するようにセットアップする必要があります。

ミュートに関しては、タッチコントローラ/マイクはミーティング アプリと同期されないことに注意してください。そのため、会議室とミーティング アプリのミュート インジケーターは、常に実際のミュート状態を反映しているわけではありません。

Room 55 Dual および Room 70 Dual ではコンバーターに HDMI 出力がないため、この設定は利用できません。

デフォルト値:
アクティブ

値スペース:
アクティブ/非アクティブ
Active : ユーザーはタッチコントローラのボタンまたはマイクを使用してミュートできます。
非アクティブ: ユーザーはタッチコントローラまたはマイクからミュートできません。物理的なボタンは無効になり、ユーザ インターフェイスにはミュート ボタンはありません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声マイクのノイズ除去モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、デバイスのノイズ除去機能を有効または無効にしたり、機能が有効になったときの既定の動作を定義します。有効な場合 ([有効] または [手動])、ユーザ インターフェイスにボタンが表示され、ユーザーがバックグラウンド ノイズの除去をOnまたはOffに切り替えることができます。また、API コマンドを使用してOnまたはOffを切り替えることもできます。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

Disabled/Enabled/Manual

Disabled: ノイズ除去機能がオフになり、ユーザ インターフェイスを介して、または API コマンドを送信することによってオンにすることはできません。

有効: ユーザインターフェイスのボタンを使用するか、API コマンドを送信することで、ノイズ除去をOnまたはOffにできます。ノイズ除去はデフォルトでOnになっています。Webex クラウドに登録されているパーソナル モード デバイスの場合、通話が終了したとき、またはデバイスを再起動したとき、ノイズ除去の状態は影響を受けません。ノイズ除去がOnの場合はOnのままになります。Offになっている場合はOffのままです。他のデバイスの場合、ノイズ除去の状態は、通話が終了するか、デバイスを再起動すると、デフォルトの状態 (On) に戻ります。

手動: ユーザ インターフェイスのボタンを使用するか、API コマンドを送信することで、ノイズ除去をOnまたはOffにできます。ノイズ除去はデフォルトでOffになっています。Webex クラウドに登録されているパーソナル モード デバイスの場合、通話が終了したとき、またはデバイスを再起動したとき、ノイズ除去の状態は影響を受けません。ノイズ除去がOnの場合はOnのままになります。Offになっている場合はOffのままです。他のデバイスの場合、ノイズ除去の状態は、通話が終了するか、デバイスを再起動すると、デフォルトの状態 (Off) に戻ります。

ミュートが有効な音声マイク

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスでマイクのミュート動作を定義します。

デフォルト値:

True

値スペース:

InCallOnly/True

True: 音声のミュートはいつでも利用できます。通常、マイクのミュート LED は通話の外では点灯しませんが、API コマンドを使用してミュートすることができます。

InCallOnly: 音声のミュートは、デバイスが通話中の場合にのみ利用できます。アイドル中は、マイクをミュートすることができません。これは、外付け電話サービス/音声システムがデバイス経由で接続されていて、デバイスが通話中でないときに利用したい場合に便利です。InCallOnly に設定すると、音声システムが誤ってミュートされるのを防ぎます。

音声 マイク ニアトーカーセクターモード

適用対象: RoomBarPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスの内部マイクアレイは、2つの主要な部分で構成されています: 近くの話者セクター (デバイスから約1.5mまでをカバー)と、デバイスから約4mまでをカバーする3つのビーム。

この設定は、近くの話者セクターの有効化と使用に関するものです。

デフォルト値:

オフ *[RoomBarPro]*

オン *[BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

Off/On

Off : 発言者側のマイクが無効になります。そのため、このマイクからの音声は、会議室の最終的な音声ミックスを行う際には含まれません。

On: 近くの話者セクターのマイクは使用可能です。次の条件が満たされた場合、このマイクからピックアップされた音声は、会議室の最終的な音声ミックスを行う際に含まれることがあります: 近くの話者セクターで話している人が検出されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Microphones PhantomPower

適用対象 : RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

マイク入力でファントムパワー (11 V +/- 1 V) を使用するかどうかを指定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : マイク入力のファンタム電源を無効にします。外部ミキサーなど、ファンタム電源を必要としない機器に接続する場合は、これを使用します。

On: マイク入力のファンタム電源を有効にします。Cisco テーブルマイクおよび Cisco シーリングマイクを含む、ファンタム電源を必要とするマイクに直接接続する場合、これを使用します。

Audio Microphones UsbPassthrough MuteButton

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ラップトップからの通話機能を使用する場合 (つまり、ラップトップ ミーティング アプリがデバイスのカメラ、マイク、スピーカーを使用している場合)、ユーザーは常にミーティング アプリから自分の音声をミュートできます。この設定を使用して、外部マイクおよびデバイス自体からのミュートも許可するかどうかを構成します。ラップトップのマイクの代わりにデバイスのマイクを使用するようにミーティング アプリをセットアップすることは、前提条件です。

ミュートに関しては、デバイスとマイクはミーティング アプリと同期されないことに注意してください。そのため、会議室とミーティング アプリのミュート インジケーターは、常に実際のミュート状態を反映しているわけではありません。

デフォルト値:

アクティブ *[RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardPro BoardProG2]*

非アクティブ *[DeskMini Desk DeskPro]*

値スペース:

アクティブ/非アクティブ

アクティブ: ユーザーはデバイスのボタンとマイクを使用して音声をミュートできます。

非アクティブ: 人々はデバイスとマイクでミュートできません。物理的なボタンは無効になり、ユーザ インターフェイスにはミュート ボタンはありません。

オーディオマイクのVoiceActivityDetectorモード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このデバイスは、拾った音声信号が音声なのか、あるいは単に周囲のノイズや他の音なのかを検出することができます。

音声が拾われたかどうかは、Audio Microphones VoiceActivityDetector Activity ステータスで報告されます。これは、例えばミーティングエリアで音声が検出された場合に報告するマクロを作成する場合などに役立ちます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : ピックアップされた音声信号が声かどうかを確認しません。

On: ピックアップした音声信号が声かどうかを確認し、対応するステータスで報告します。

Audio Output ARC [n] Delay DelayMs

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

リップ同期を取得するために、他の接続済みデバイス (例えば、テレビや外部スピーカーなど) の遅延を補償する追加の遅延を各 ARC 出力に設定することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、Audio Output ARC [n] Delay Mode 設定で定義されているように、外部モニタで測定または報告される遅延に関連するものです。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

n: 音声 ARC 出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output ARC [n] Delay Direct DelayMs

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

専用のダイレクト遅延をオーディオ出力に適用できます。これは、ダイレクト モードが有効になっている入力グループのすべての入力に影響します。この構成は、ローカル音響強化や音声リフトなどのシナリオに特に役立ちます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

Audio Output ARC [n] Delay Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

Audio Output ARC [n] Delay DelayMs 設定で、音声 ARC 出力に追加の遅延を追加することができます。追加される遅延は、固定のミリ秒数、または外部モニタによって検出または報告された遅延に対するミリ秒数です。

デフォルト値:

RelativeToHDMI *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro]*

固定 *[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、外部モニタで検出された遅延または報告された遅延に相対的になります。実際の遅延は、検出遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

n: 音声 ARC 出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Output ARC [n] Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

HDMI [n] 入力コネクタで音声リターンチャネル (ARC) を有効にするかどうかを選択します。クアッド カメラで音声を再生する場合は、ARC 出力が有効になっている必要があります。

Room 70 G2 では、カメラは統合スピーカー システムの一部です。ARC 出力は有効にしておくことを推奨します。統合型スピーカー全体を無効にする場合は、[音声出力] [内部スピーカーモード] 設定を使用します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : HDMI 入力の ARC 出力を無効にします。

On: HDMI 入力で ARC 出力を有効にします。

n: 音声 ARC 出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

オーディオ出力 ARC [n] 超音波

適用対象: CodecEQ CodecPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この構成により、このコネクタを通じて超音波を放射できるかどうかが決まります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

自動: このコネクタを通じて超音波を放射できます。

オフ: このコネクタから超音波は放射されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output ConnectorSetup

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

音声入力と出力を手動でセットアップするか、お使いのカメラの種類と接続されているスクリーンに基づいてビデオデバイスに自動的に実行させるかを選択できます。

自動モードでは、音声入出力を手動で追加、更新、削除、または接続することはできません。そのため、次の API コマンド: xCommand Audio Setup *、xCommand Audio LocalInput *、xCommand Audio LocalOutput * には効果がありません。

手動モードから自動モードに切り替える場合: 既存の音声設定は消去され (xCommand 音声設定消去)、入力および出力グループは製品のデフォルト設定に従ってセットアップされます。音声出力 HDMI [n] モードおよび音声出力 ARC [1] モードの設定は、デフォルト値に設定されています。Codec Pro の場合、自動遅延測定が有効になっています。

自動モードから手動モードに切り替える場合: HDMI および ARC 出力コネクタはメイン出力グループに接続されます。音声出力 HDMI [n] モードおよび音声出力 ARC [1] モードの設定は変更されません。マイクのパススルーが Codec Pro または Room 70 G2 で有効になっている場合、マイクのパススルーが切断されます。Codec Pro の場合、遅延測定が停止されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: Codec Pro の場合、ビデオデバイスはカメラを通して、またはHDMI出力の1つに接続されたスクリーンを通して音声を再生します。ビデオ会議端末は、以下のリストで最初に利用可能なデバイスで音声を再生することを選択します。

1.カメラ コントロールがビデオ デバイスのカメラ コントロール コネクタの 1 つに接続され、HDMI がビデオ デバイスのカメラ入力 (HDMI 1 入力) に接続された Quad Camera。さらに、[音声出力 ARC [1] モード] および [ビデオ入力コネクタ [1] CEC モード] 設定をOnにする必要があります。カメラで音声を再生するには、HDMI 1 入力の音声リターン チャネル (ARC) が使用されます。

2.音声出力 HDMI [1] モード設定がOnになっている場合、HDMI 1 出力に接続された画面。

3.音声出力 HDMI [2] モード設定がOnになっている場合、HDMI 2 出力に接続された画面。

4.音声出力 HDMI [3] モード設定がOnになっている場合、HDMI 3 出力に接続された画面。

クアッド カメラで音声が再生されると、ビデオ デバイスは画面とカメラの間の遅延を測定し、カメラの音声を画面のビデオと同期できるようにします (リップ同期)。遅延を測定するために、ビデオ デバイスは画面に信号を送信し、画面は音声リターン チャネルを使用して信号をビデオ デバイスに送り返します。CEC (コンシューマー電子機器制御) をサポートし、ビデオ出力コネクタ [n] の CEC モードがOnに設定されている上記のリストの最初の画面が遅延測定に使用されます。

音声が画面を通して再生される場合、追加のリップシンクロの遅延は画面の責任です。ビデオデバイスによって遅延が発生することはありません。

Room 70 G2 では、ビデオデバイスは、その統合スピーカー システムを通して音声を再生します。ただし、統合型画面で、Audio Output ARC [1] Mode および Audio Output InternalSpeaker Mode が On で、Audio Output HDMI [n] Mode が On になっている必要があります。統合型スピーカーシステムとスクリーンの関係は既知であるため、自動遅延測定は必要ありません。

Manual: Audio Console アプリケーションまたは API (xCommand Audio Local Input * および xCommand Audio LocalOutput *)を使用して、音声の入力と出力を手動でセットアップする必要があります。

Room 70 G2 では、コネクタが音声コンソール アプリケーションまたは API (xCommand Audio LocalOutput *) を使用して明示的に追加されている場合、音声出力に外部スクリーンが使用される場合があります。この場合、内蔵スピーカーで再生される音声のステレオダウンミックスが外部スクリーンで再生されます。超音波信号は外部スクリーンまたは回線出力では再生されず、統合型スピーカーシステムを通してのみ再生されます。

Audio Output Ethernet[n] Delay DelayMs

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

リップ同期を取得するために、他の接続済みデバイス (例えば、テレビや外部スピーカーなど) の遅延を補償する追加の遅延を各イーサネット出力に設定することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、Audio Output Ethenet [n] Delay Mode 設定で定義されているように、外部モニタで測定または報告される遅延に関連するものです。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

n: イーサネット接続を識別する一意の ID です。

範囲: 1..4 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: AVIntegrator オプションなし: 1..2 AVIntegrator オプションあり: 1..4 *[RoomKitEQX]*

範囲: AVIntegrator オプションなし:1..1 AVIntegrator オプションあり:1..4 *[CodecEQ]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output Ethernet [n] Delay Direct DelayMs

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

オーディオ出力に個別の直接遅延を追加できます。この遅延は、ダイレクト モードが有効になっているすべての入力グループに適用されます。この構成は、ローカル音響強化や音声リフトなどのシナリオに特に役立ちます。

デフォルト値:
0

値スペース:
整数 (0..290)
ミリ秒単位の遅延。

Audio Output Ethernet[n] Delay Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

音声イーサネット出力に特別な遅延を追加することができます、これは Audio Output Ethernet [n] Delay DelayMs 設定を使用します。追加される追加の遅延は、固定のミリ秒数、または HDMI 出力で検出された遅延 (通常は接続されたテレビによって導入される) に関連するミリ秒の数です。

デフォルト値:
RelativeToHDMI

値スペース:
Fixed/RelativeToHDMI
固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。
RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延を基準にします。実際の遅延は、検出遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors Ethernet [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

n: イーサネット接続を識別する一意の ID です。
範囲:1..4 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲: AVIntegrator オプションなし: 1..2 AVIntegrator オプションあり: 1..4 *[RoomKitEQX]*
範囲: AVIntegrator オプションなし:1..1 AVIntegrator オプションあり:1..4 *[CodecEQ]*

オーディオ出力イーサネット [n] イコライザー ID

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この出力に適用するイコライザープリセットを選択します。

デフォルト値:
1

値スペース:
1/2/3/4/5/6/7/8
イコライザーのプリセット番号です。

オーディオ出力イーサネット [n] イコライザーモード

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この出力のイコライザー処理を有効または無効にします。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off: イコライゼーション処理を適用しません。
On: イコライゼーション処理を適用します。

オーディオ出力イーサネット [n] ゲイン

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット出力のゲインを調整する

デフォルト値:
0

値スペース:
整数 (-30..0)
利得をデシベル (db) で選択します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

オーディオ出力イーサネット [n] レベル

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット出力のゲイン設定を調整します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-30..0)

利得をデシベル (db) で選択します。

Audio Output Ethernet [n] Mode

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット [1]: 基準信号。音響エコー キャンセリング (AEC) に必要で、コーデックからこの接続で接続されているすべてのデジタル マイク Cisco Table Microphone Pro / Cisco Microphone Arrayに送信されます。無効になっている場合、AEC は機能しません。

イーサネット [2]: この接続は、Room Kit EQX および Room Panorama により、コーデックから DNAM IV アンプへの音声出力に使用されます。

その他のイーサネット [n]:接続は、コーデックから、スピーカーなど、AES67 標準をサポートするサードパーティの音声周辺機器への音声出力に使用されます。

埋め込み型 Room Kit EQX および Room Panorama 音声システムの使用をお勧めします。これには、この設定をOnにする必要があります。Offに切り替えると、内部スピーカーは使用されないため、外部スピーカーをコーデックに接続する必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : イーサネット接続が無効になっています。

On: イーサネット接続が有効になっています。

n: イーサネット接続を識別する一意の ID です。

範囲:1..4 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: AVIntegrator オプションなし: 1..2 AVIntegrator オプションあり: 1..4 *[RoomKitEQX]*

範囲: AVIntegrator オプションなし:1..1 AVIntegrator オプションあり:1..4 *[RoomBarPro CodecEQ]*

範囲 : 1..1 *[BoardPro BoardProG2]*

Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

リップ同期を得るために、他の接続済みデバイス (例えば、テレビや外部スピーカーなど) の遅延を補償する追加の遅延を各 HDMI 出力に設定することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、Audio Output HDMI [n] Delay Mode 設定で定義されているように、外部モニタで測定または報告される遅延に関連するものです。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3

Audio Output HDMI [n] Delay Direct DelayMs

適用先: CodecPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

オーディオ出力に個別のダイレクト遅延を追加できます。これは、ダイレクト モードが有効になっている入力グループのすべての入力に適用されます。この構成は、ローカル音響強化や音声リフトを伴うシナリオに特に役立ちます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output HDMI [n] Delay Mode

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs 設定で、音声 HDMI 出力に追加の遅延を追加することができます。追加される追加の遅延は、固定のミリ秒数、または HDMI 出力で検出された遅延 (通常は接続されたテレビによって導入される) に関連するミリ秒の数です。

デフォルト値:

混合

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延を基準にします。実際の遅延は、検出遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors HDMI [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3

Audio Output HDMI [n] Level

適用対象 : Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

HDMI 出力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24..0)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: HDMI 出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3 *[Room70G2]*

範囲 : Room Panorama の場合: 3..3; Room 70 Panorama の場合: 1..3 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

Audio Output HDMI [n] Gain

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

HDMI 出力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24..0)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: HDMI 出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3

Audio Output HDMI [n] Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この HDMI 出力コネクタの音声チャンネルを有効にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Room 70 Dual G2: HDMI 1、2: On HDMI 3: Off

Room 70 シングル G2: HDMI 1: On HDMI 2、3: Off *[Room70G2]*

Room 70 Panorama: HDMI 1,2: On HDMI 3: Off

Room Panorama: Off *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

オン *[CodecEQ CodecPlus CodecPro]*

オフ *[RoomKitEQX]*

値スペース:

Off/On

Off : コネクタは音声出力に使用されません。

On: コネクタを音声出力に使用できます。Codec Pro および Room 70 G2 の場合、Audio Output ConnectorSetup 設定に依存し、Codec EQ および Room Kit EQX の場合、Audio ConnectorSetup 設定に依存します。

n: HDMI 出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1 *[CodecPlus]*

範囲: 1..3 *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2]*

範囲 : Room Panorama の場合: 3..3; Room 70 Panorama の場合: 1..3 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output HDMI [n] Ultrasound

適用対象: CodecEQ CodecPro

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この構成により、このコネクタを通じて超音波を放射できるかどうかが決まります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

自動: このコネクタを通じて超音波を放射できます。

オフ: このコネクタから超音波は放射されません。

Audio Output InternalSpeaker Mode

適用対象 : RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecPlus Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスの内蔵スピーカーを使用するかどうかを定義します。

この設定を適用するには、Codec Plus が Quad Camera に接続されている必要があります。

Room Kit EQX、Room 70 G2、Room 70 Panorama、および Room Panorama の場合、統合型スピーカーでいずれかの音声を再生するには、統合型モニタの Audio Output HDMI [n] Mode 設定を On に設定する必要があります。また、[音声出力 ARC 1 モード] 設定が [On] になっている必要があります。

Codec Plus を除くすべての製品で、内蔵スピーカーの使用を制限して超音波のみを再生することができます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

オフ/オン *[CodecPlus]*

オフ/オン/超音波のみ *[RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Off: デバイスの内蔵スピーカーを無効にします。

On: デバイスの内蔵スピーカーを有効にします。

UltrasoundOnly: デバイスの内蔵スピーカーを超音波のみに対して有効にします。

Audio Output Line [n] Channel

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

音声ライン出力をモノラル信号またはマルチチャンネル信号の一部のどちらにするかを定義します。

デフォルト値:

行 1、3、5: Left 行 2、4、6: Right *[CodecPro Room70G2]*

Room Panorama: 行 1、3、5: Left 行 2、4、6: Right

会議室 70 のパノラマ: 回線 1、2:モノラル 回線 3、5:左 回線 4、6:右 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

左/モノラル/右

Left : 音声ライン出力信号はステレオ信号の左チャンネルです。

Mono: 音声回線出力信号はモノラル信号です。

右: 音声回線出力信号はステレオ信号の右チャンネルです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6

Audio Output Line [n] Delay DelayMs

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

リップシンクロを得るために、各音声回線の出力に追加の遅延を設定することで、他の接続済みデバイス (例えば、テレビや外部スピーカーなど) の遅延を補償することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、または Audio Output Line [n] Delay Mode 設定で定義されているように、HDMI 出力の遅延に関連するものです。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1..1 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output Line [n] Delay Direct DelayMs

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

オーディオ出力に直接遅延を導入することができます。これは、ダイレクト モードが有効になっている入力グループのすべての入力に適用されます。この構成は、ローカル音響強化や音声リフトを伴うシナリオに特に役立ちます。

デフォルト値:
0

値スペース:
整数 (0..290)
ミリ秒単位の遅延。

Audio Output Line [n] Delay Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

音声回線出力に特別な遅延を追加することができます、これは Audio Output Line [n] Delay DelayMs 設定を使用します。追加される追加の遅延は、固定のミリ秒数、または HDMI 出力で検出された遅延 (通常は接続されたテレビによって導入される) に関連するミリ秒の数です。

デフォルト値:
Fixed *[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
RelativeToHDMI *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro]*

値スペース:
Fixed/RelativeToHDMI
固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。
RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延を基準にします。実際の遅延は HDMI-delay + DelayMs です。Audio Output Connectors Line [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。
範囲 : 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲: 1..1 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

Audio Output Line [n] Equalizer ID

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この出力に適用するイコライザー プリセットを選択します。
Codec EQ、Room Kit EQX: AVIntegrator オプションが必要です。

デフォルト値:
1

値スペース:
1/2/3/4/5/6/7/8
イコライザーのプリセット番号です。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。
範囲 : 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲: 1..1 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

Audio Output Line [n] Equalizer Mode

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この出力のイコライザー処理を有効または無効にします。
Codec EQ、Room Kit EQX: AVIntegrator オプションが必要です。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off: イコライゼーション処理を適用しません。
On: イコライゼーション処理を適用します。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。
範囲 : 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲: 1..1 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output Line [n] Level

適用対象 : CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

回線出力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、接続されたデバイスの音声入力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

0 dB ゲインでの最大出力レベルは製品によって異なります: 8dbu (Room 70、Room 55 Dual)、18dBu (Codec Pro、Room 70 G2)。

例: Codec Pro に接続された音声デバイスの最大入力レベルが 10dBu である場合、ゲインを 10dBu - 18dbu = -8dB に設定します。

デフォルト値:

-4 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

0 *[Room70/Room55D]*

値スペース:

整数 (-24..0)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..1 *[Room70/Room55D]*

Audio Output Line [n] Gain

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

回線出力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、接続されたデバイスの音声入力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

0 dB ゲインでの最大出力レベルは 8dBu です。

例: 接続された音声デバイスの最大入力レベルが 4dBu の場合、ゲインを 4dBu - 8dBu = -4dB に設定するべきです。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24..0)

範囲 : ゲインをデシベル (db) で選択します。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Audio Output Line [n] Mode

適用対象 : RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

音声回線出力のモードを定義します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 音声ライン出力を無効にします。

On: 音声回線出力を有効にします。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 1..1 *[RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output Line [n] OutputType

適用対象 : RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

出力タイプは、接続されたデバイスと一致するように設定する必要があります。
Codec EQ および AVIntegratorオプション付きの Room Kit EQX: 該当なし。

デフォルト値:

スピーカー *[RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 BoardPro BoardProG2]*

LineOut *[Room70/Room55D]*

値スペース:

LineOut/ラウドスピーカー/マイク/レコーダー *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro BoardProG2]*

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder/Subwoofer *[RoomKit]*

ラウドスピーカー: ラウドスピーカーが回線出力に接続されている場合、[ラウドスピーカー] を使用します。このモードでは、コネクタの出力レベルはマスター音量コントロールに従い、出力信号にはすべてのシステムサウンド (着信音、Webex Assistant など) が含まれます。

マイク: このモードでは、接続されたマイクに拾われた音声は回線出力に送信されます。システムサウンドと遠端ソースからのサウンドは含まれません。

レコーダー: レコーダーが回線出力に接続されている場合、[レコーダー] を使用します。このモードでは、出力レベルは固定され、システムサウンドは含まれません。ローカル プレゼンテーション ソース、ローカル マイク、および遠端ソースからの音声が含まれます。

サブウーハー: サブウーハーが回線出力に接続されている場合に [サブウーハー] を使用します。このモードでは、低音は回線出力に送られ、残りの音声は内部スピーカーで再生されます。

LineOut: 他のデバイスで LineOut を使用してください。このモードでは、出力レベルは固定され、システムサウンドは含まれません。ローカルのプレゼンテーション ソースと相手側のソースの音声が含まれます。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

オーディオ出力ライン [n] 超音波

適用対象: CodecEQ CodecPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この構成により、このコネクタを通じて超音波を放射できるかどうかが決まります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

自動: このコネクタで超音波を放射できます。
オフ: このコネクタでは超音波は放射されません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 *[CodecPro]*

範囲: 1 *[CodecEQ]*

Audio Output USBC [n] Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

USB-C コネクタからの音声出力を有効または無効にします。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : USB-C コネクタからの音声出力を無効にします。
On: USB-C コネクタからの音声出力を有効にします。

n: USB-C コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Output USBInterface [n] Delay DelayMs

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

リップ同期を実現するために、各 USB インターフェイス出力に追加の遅延を設定して、テレビや外部スピーカーなどの他の接続デバイスの遅延を補正することができます。

ここで設定する遅延は、固定であるか、Audio Output USBInterface [n] Delay Mode 設定で定義されているように、外部モニターで測定または報告される遅延に関連するものです。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

Audio Output USBInterface [n] Delay Direct DelayMs

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

オーディオ出力に明確なダイレクト遅延を導入することができ、これはダイレクト モードが有効になっている入力グループのすべての入力に適用されます。この構成は、ローカル音響強化や音声リフトを伴うシナリオに特に役立ちます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

Audio Output USBInterface [n] Delay Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

Audio Output USBInterface [n] Delay DelayMs 設定を使用して、オーディオ USB インターフェース出力に追加の遅延を追加できます。追加される追加の遅延は、固定のミリ秒数、または HDMI 出力で検出された遅延 (通常は接続されたテレビによって導入される) に関連するミリ秒の数です。

デフォルト値:

RelativeToHDMI

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延を基準にします。実際の遅延は、検出遅延 + DelayMs です。オーディオ出力コネクタ USBInterface [n] DelayMs ステータスは実際の遅延を報告します。

Audio Output USBInterface [n] Mode

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

USB コネクタからの音声出力を無効または有効にします。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: USB コネクタからの音声出力を無効にします。

On: USB コネクタからの音声出力を有効にします。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

オーディオ出力 USB インターフェース [n] 超音波

適用対象: CodecEQ CodecPro

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

この構成により、このコネクタを通じて超音波を放射できるかどうかが決まります。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Auto/Off

自動: このコネクタで超音波を放射できます。
オフ: このコネクタでは超音波は放射されません。

Audio Panning Mode

適用対象：RoomBar RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecPlus Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

話している人がビデオストリーム レイアウトのどこにいるかをデバイスが認識しているシナリオでは、デバイスはその場所に最も近いスピーカーで音声を再生できます。ヘッドセットを使用する場合にも、同様の効果が得られます。これは指向性音声と呼ばれます。例えば、話している人がレイアウトの左側に配置されると、音声は左側のスピーカーから聞こえます。

ヘッドセットは、 Audio Panning HeadsetAnalog (Desk Pro のみ)および音声パンニングヘッドセット USB (Board Pro、Board Pro G2、Desk シリーズデバイスのみ)設定でさらに対応します。

この設定は、第 1 世代の Board (S シリーズ以外) では利用できません。

デフォルト値:
自動

値スペース:
Auto/Off

Auto: 利用できる場合、指向性音声を使用します。
Off: スピーカーとヘッドセットからの指向性音声を無効にします。

Audio Panning HeadsetAnalog BinauralProcessing

適用対象: DeskPro

必要なユーザーロール：管理者

アナログヘッドセット音声のバイノーラル処理を無効または有効にします。これは、自然な音声の指向性を実現する音声処理技術です。

デフォルト値:
True

値スペース:
False/True

False: バイノーラル処理は行わず、通常のパンを行い、左右の耳での単純な音量差だけを行う。
True: 音声にバイノーラル処理を実行します。

Audio Panning HeadsetAnalog Mode

適用対象: DeskPro

必要なユーザーロール：管理者

音声パンを無効または有効にして、アナログ ヘッドセットに指向性音声を提供します。

指向性音声が Audio Panning Mode 設定で全体的にOffになっている場合、Audio Panning HeadsetAnalog Mode が Auto に設定されている場合でも、ヘッドセットの指向性音声は得られません。

デフォルト値:
自動

値スペース:
Auto/Off

Auto: 利用できる場合、指向性音声を使用します。
Off: アナログ ヘッドセットの指向性音声を無効にします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Audio Panning HeadsetUSB BinauralProcessing

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザーロール：管理者

USB ヘッドセットの音声のバイノーラル処理を無効または有効にします。これは、自然な音声の指向性を実現する音声処理技術です。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: バイノーラル処理は行わず、通常のパンを行い、左右の耳での単純な音量差だけを行う。

True: 音声にバイノーラル処理を実行します。

Audio Panning HeadsetUSB Mode

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザーロール：管理者

USB ヘッドセットに指向性音声を提供する音声パンを無効または有効にします。

指向性音声が Audio Panning Mode 設定で全体的にOffになっている場合、Audio Panning HeadsetUSB Mode が Auto に設定されている場合でも、ヘッドセットの指向性音声は得られません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: 利用できる場合、指向性音声を使用します。

Off: USB ヘッドセットの指向性音声を無効にします。

音声の配置

適用対象: RoomBarPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール：管理者

デバイスのマウント設定を定義します。この設定に基づいてスピーカーシステムは音質を最適化するように設定されます。

デフォルト値:

独立型

値スペース:

自立型/壁掛け式

自立型: デバイスはマウントされ、背面に空きスペースがあります。Board Pro および Board Pro G2 では、デバイスがフロア スタンドまたはホイールベース キットを使用してマウントされている必要があります。

壁付け: デバイスは壁の近くに取り付けられます。Board Pro および Board Pro G2 では、デバイスが壁付けキットを使用してマウントされます。

Audio SoundsAndAlerts DTMFFeedback

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、USER

DTMF オーディオ フィードバックを有効または無効にする構成可能なオプションを導入します。以前は、WebUI または Phoenix インターフェイスのどちらを介して DTMF キーが押された場合でも、デバイスは常に音声フィードバックを再生していました。このアップデートにより、顧客は柔軟性の向上を求める要望に応えて、DTMF オーディオ フィードバックのオン/オフを選択できるようになりました。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オン: DTMF オーディオフィードバックを有効にする

オフ: DTMF オーディオフィードバックを無効にします

音声、サウンドとアラートの着信音

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、USER

着信通話に使用する着信音を定義します。

デフォルト値:

Sunrise BoardPro BoardProG2

値スペース:

文字列 (1, 100)

リストから着信音を選択します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声 サウンドとアラート リング音量

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

着信のリング音量を指定します。

デフォルト値:

50

値スペース:

整数 (0..100)

範囲 : 値は 0 から 100 まで 5 のステップで進みます (-34.5 から 15 まで)。音量 0 = Off。

音声超音波の最大音量

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、近接通信機能に適用されます。超音波ペアリングメッセージの最大音量を設定します。

Audio Ultrasound MaxVolumeとProximity Modeの設定は、超音波ペアリング メッセージにのみ影響します。プレゼンスおよびモーション検出での超音波の使用に関する情報については、RoomAnalytics PeoplePresenceDetector および Standby WakeupOnMotionDetection 設定を参照してください。

デフォルト値:

70

値スペース:

整数 (0..70) *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

整数 (0..90) *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro]*

指定された範囲の値を選択してください。0 に設定すると、超音波ペアリングメッセージは発信されません。

音声 USB モード

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

USB コネクタの音声チャンネルを有効または無効にします。

デフォルト値:

スピーカーアンドマイク

値スペース:

追加マイク/追加スピーカー/マイク/オフ/スピーカー/スピーカーとマイク *[RoomKitMini RoomBar]*

追加スピーカー/マイク/オフ/スピーカー/スピーカーとマイク *[RoomKit RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Additional Microphone : ビデオデバイスの内蔵マイクと外部音声入力デバイス (USB マイク) の両方が使用されます。USB 音声出力チャンネルは無効になっています。

AdditionalSpeaker: ビデオデバイスの内蔵スピーカーと USB 音声出力デバイスの両方が使用されます。USB 音声入力チャンネルが無効になっています。

USB に接続されたスピーカーは、デバイスの内部スピーカーよりも遅延が大きい場合があります。両方のスピーカーを同時に使用すると、奇妙な音声アーティファクトが発生する場合があります。

AdditionalSpeaker の一般的な使用例は、アナログ音声出力のないビデオデバイスでの補聴器/傍聴支援デバイス (ALD)をサポートすることです。遅延の違いは、このようなセットアップで問題を引き起こす可能性が低くなります。

マイク: 外部 USB マイクのみが使用されます。他のマイクは無効になっています。USB 音声出力チャンネルも無効になります。

Off: USB 経由の音声は流れませんが、シグナリングは有効のままです。これにより、USB デバイスをミュートまたは音量コントローラーとして使用できます。

スピーカー: USB 音声出力チャンネルが接続されます (スピーカー)。他のスピーカーは無効になっています。USB 音声入力チャンネルも無効になります。

SpeakerAndMicrophone: USB 音声デバイスの入力 (マイク) と出力 (スピーカー) の両方のチャンネルが接続されます。他のマイクとスピーカーは無効になっています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声 USB 音量コントロール キャプチャモード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

この設定は、USB キャプチャ デバイス (USB マイクなど) がビデオ デバイスに接続されている場合に適用されます。

USB デバイスに内部トリミング設定がある場合、それをビデオデバイスに送信する前に、音声信号レベルをトリミングするように USB デバイスに要求できます。[音声 USB ボリュームコントロールのキャプチャ値] 設定を使用して、適用するゲイン/アッテネーションの量を設定します。

デフォルト値:

バイパス

値スペース:

アクティブ/バイパス

アクティブ: 音声信号を送信する前に、ビデオデバイスが USB デバイスに出力レベルのトリミングを要求することを許可します。

バイパス: USB デバイスをビデオ デバイスに送信する前に、そのデバイスからの音量出力を調整しません。

Audio USB VolumeControl Capture Value

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

この設定は、[音声 USB 音量コントロール キャプチャ モード] が [アクティブ] に設定されている場合に適用されます。

これは、USB キャプチャデバイスに要求するゲインで、音声信号をビデオデバイスに送信する前に適用します。

USB デバイスが提供する実際の範囲は、[音声 USB ボリューム コントロール キャプチャ最大] および [音声 USB ボリューム コントロール キャプチャ最小] ステータスで確認できます。要求された音量値がこの範囲外の場合、最も近い許容値が使用されます。音声 USB ボリュームコントロールのキャプチャ値ステータスは、適用された実際のゲインを常に返します。

USB デバイスはデフォルトとしてゲインを適用する場合があることに注意してください。音声 USB ボリュームコントロールのキャプチャ値ステータスは適用された実際のゲインを常に返すため、どのゲインをリクエストするか決める前にこのステータスを確認することをお勧めします。例: 現在のレベルに 6 デシベルの増加を要求し、USB デバイスによりすでに適用されているデフォルトのゲインが 42 デシベルである場合、[オーディオ USB ボリュームコントロール キャプチャ値] 設定を 48、つまり 42+6 デシベルに設定する必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-100..100)

リクエストするゲインを db で指定します。

Audio USB VolumeControl Playback Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

この設定は、USB 再生デバイス (USB スピーカーなど) がビデオ デバイスに接続されている場合に適用されます。

USB デバイスに内部トリミング設定がある場合、さらに処理を行う前に、ビデオ デバイスから受信する音声信号レベルをトリミングするよう USB デバイスに要求できます。[音声 USB ボリュームコントロール再生値] 設定を使用して、適用するゲイン/減衰の量を設定します。

デフォルト値:

バイパス

値スペース:

アクティブ/バイパス

アクティブ: ビデオデバイスが USB デバイスに入力レベルをトリミングするよう要求することを許可します。

バイパス: 処理を進める前に、USB デバイスに入力される音量を調整しません。

Audio USB VolumeControl Playback Value

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

この設定は、[音声 USB 音量制御再生モード] が [アクティブ] に設定されている場合に適用されます。

これは、ビデオデバイスから音声信号を受信した後、USBキャプチャデバイスが適用するゲインです。

USB デバイスが提供する実際の範囲は、Audio USB VolumeControl Playback Max および Audio USB VolumeControl Playback Min ステータスで確認できます。要求された音量値がこの範囲外の場合、最も近い許容値が使用されます。音声 USB ボリュームコントロールの再生値ステータスは、適用された実際のゲインを常に返します。

USB デバイスはデフォルトとしてゲインを適用する場合があることに注意してください。音声 USB ボリュームコントロールの再生値ステータスは常に適用された実際のゲインを返すため、どのゲインをリクエストするか決める前にこのステータスを確認することをお勧めします。例: 現在のレベルに 6 デシベルの増加を要求し、USB デバイスによってすでに適用されているデフォルトのゲインが 42 デシベルである場合、[オーディオ USB ボリューム コントロールの再生値] 設定を 48、つまり 42+6 デシベルに設定する必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-100..100)

リクエストするゲインを db で指定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Bluetooth 設定

Bluetooth 許可

適用対象: RoomBar RoomBarPro DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、TOUCHUSER

デバイスには Bluetooth® モジュールが内蔵されています。デフォルトでは、ユーザーはユーザ インターフェイスを使用してこの機能をOnまたはOffにすることができます。この設定により、管理者は Bluetooth 構成を無効にして、ユーザ インターフェイスからセットアップできないようにすることができます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Bluetooth は管理者によりオフに切り替えられており、ユーザーはユーザ インターフェイスからオンにできません。

True: Bluetooth は有効です。ユーザーはユーザ インターフェイスからOnまたはOffにすることができます。

Bluetooth カスタムビーコンデータ

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、TOUCHUSER

BLE ビーコン データは、BLE アドバタイジング プロトコルを使用してブロードキャストされます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 58)

データは 16 進文字列としてフォーマットされ、最初の 2 バイトはベンダー コードを表します。

Bluetooth カスタムビーコンモード

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、TOUCHUSER

カスタムビーコンをブロードキャストするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off

自動 – 定義されたすべてのカスタムビーコンをブロードキャストします。オフ – すべてのカスタムビーコンのブロードキャストを停止します

Bluetooth 対応

適用対象: RoomBar RoomBarPro DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、TOUCHUSER

Bluetooth® 接続が許可されている場合は (Bluetooth 許可設定を参照)、この設定で Bluetooth を有効または無効にすることができます。ビデオ デバイスは、HFP (ハンズフリー プロファイル) および A2DP (高度音声配信プロファイル) プロファイルをサポートしています。A2DP のみをサポートするヘッドセットは使用できません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: Bluetooth は無効で、Bluetooth デバイスはビデオデバイスとペアリングできません。

True: Bluetooth が有効で、ペアリングして Bluetooth ヘッドセットを使用できます。

Bluetooth LEAdvertisementOutputLevel

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、TOUCHUSER

BLE アドバタイズメントの送信電力レベルを dbm 単位で調整します。

デフォルト値:

0

値スペース:

0/4/-4/-8 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ]*

0/4/8/12/-12/-16/-4/-8 *[RoomBar CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

BLE アドバタイズメントの送信電力レベル (dbm)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

予約設定

Bookings AdhocBooking BookAhead Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

[Book Ahead] を使用すると、ユーザは共有スペースで将来の時刻をスケジュールすることができます。Book Ahead enabled の場合、ユーザーは、現在予約が入っている場合でも、コントローラー、ボード、またはスケジューラーを通じて、その日の後で会議室を予約できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: Book aheadは利用できません。

True: 事前予約が可能です。

Bookings AdhocBooking BookingTimeout

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

アドホックのブッキングについては、バックエンドから確認されるまで一定時間待つ必要があります。この設定は、予約の確認を得るのに時間がかかるハイブリッド カレンダーの場合に便利です。アドホックを予約すると予約が表示されますが、バックエンド (Exchange、Google カレンダーなど) が時間内に確認しない場合は削除される可能性があります。この設定により、削除されるまでの待機時間が決定されます。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (60..300)

バックエンドからの確認がない場合、アドホックブッキングを削除するまでの待機秒数。

Bookings AdhocBooking Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

臨時予約機能を使用すると、ミーティングルームのナビゲータから直接会議室を予約できます。会議室がまだ利用可能な場合は、進行中のミーティングを延長することもできます。Webex Assistant (音声による仮想アシスタント) を使用して、ミーティングを予約または延長することもできます。

アドホック予約は、デバイス上のカレンダーまたは Control Hub で選択されたカレンダー プロバイダーによって提供されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: アドホックのブッキング機能は利用できません。

True: アドホックのブッキング機能が利用できます

Bookings AllowDecline

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティングを拒否できるかどうか、および拒否できる場所を設定します。カレンダー リストのドロップダウンを使用して削除するか、[チェックアウト] ボタンから削除します。例: 室内のコントローラーから、または会議室の外の壁に貼られたスケジューラから、またはその能力がない場合。

デフォルト値:

すべて (All)

値スペース:

すべて/内部だけ/なし

すべて: 会議室の内外の両方のナビゲータからのミーティングを拒否することができます。

InsideOnly: 会議室内のナビゲータからのミーティングを拒否することができます。

None: ナビゲータからミーティングを拒否することはできません (コントローラもスケジューラも)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

予約チェックイン自動チェックイン期間

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、チェックイン オプションが有効になっている場合にのみ適用されます (予約のチェックインの有効化設定を参照)。

有効にすると、終日予約などの期間が長い予約は、ユーザがチェックインに間に合わない場合に、自動的にチェックアウトされて削除される可能性が高くなります。

この設定を使用して、予約が自動的にチェックインされる期間のしきい値を指定し、チェックイン設定によって予約が削除されるのを防ぎます。

デフォルト値:

8

値スペース:

整数 (8..24)

自動的にチェックインされるには、予約が一定の最小時間 (時間単位) を満たす必要があります。

Bookings CheckIn Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

かなりの割合のミーティングで誰も出席せず、ミーティングのリソースは予約中に浪費されています。チェックインのオプションを有効にすると、この問題を軽減することができます。ユーザーは、ミーティングルームに到着すると、自分の予約をチェックインできます。これにより予約が確認されます。予約のために誰も到着しない場合、会議室が解放され、他の人は利用可能な会議室を予約できるようになります。

チェックインのオプションは、共有の予約可能なデバイスおよびスタンドアロンの Room Navigator で利用できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: チェックインのオプションは利用できません。

True: チェックインのオプションは利用できます。

Bookings CheckIn WindowDuration

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、チェックインのオプションが有効になっている場合にのみ関連します ([ブッキングのチェックインが有効] 設定を参照してください)。

予約開始の数分前にタッチパネルにチェックインボタンが表示されます。この設定を使用して、ユーザーが予約を開始してからチェックインできる期間を指定します。この期間中に誰もチェックインしない場合、手動または自動で会議室は自動的に解放され、主催者はキャンセルを通知するメールを受け取ります。

会議室デバイスは、次の場合に自動的にチェックインします: 臨時の予約、通話への参加時、共有セッション開始時 (有線またはワイヤレス)、または人数が 1 人以上の場合。

デフォルト値:

10

値スペース:

5/10/15/20/30/60

会議室の予約が解除される前の、チェックインオプションが利用可能になる時間 (分単位)

Bookings DeclinableBookingType

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定により、デバイス上で拒否できる会議の種類をコントロールできます。オプションには、すべてのミーティングを拒否するか、または臨時のミーティングのみに拒否を制限することが含まれます。これは、AllowDecline 設定で使用されます。

この設定は、チェックイン機能には影響しません。

デフォルト値:

AdhocOnly

値スペース:

AdhocOnly/All

すべて: すべてのタイプのミーティングを拒否できます。

臨時: 拒否できるのは臨時のミーティングのみです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Bookings MaxDuration

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

臨時の会議室ブッキングとホットデスキングの最長継続時間を設定できます。例えば、2 (時間) に設定すると、ブッキングの最大継続時間として次の2時間だけが選択可能になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..24)

最大予約継続時間 (時間単位)

Bookings ProtocolPriority

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ビデオデバイスは、Webex クラウドで提供されるサービスである Cloud Video Interop (CVI) ゲートウェイ経由で SIP を使用して、または Microsoft Teams ミーティング ウェブ アプリ (WebRTC) を実行することで、Microsoft Teams ミーティングに参加できます。

Microsoft Teams ミーティングへの参加はカレンダー サービスに依存し、Onプレミス サービスに登録されており、Webex Edge for Devicesにリンクされているデバイス、および Webex クラウド サービスに登録されているデバイスで利用できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/WebRTC

Auto: ミーティングの招待に CVI アドレスがある場合、デバイスは SIP/CVI 経由で Microsoft Teams ミーティングに参加します。そうでない場合、WebRTC を使用します。

WebRTC:デバイスは Microsoft Teams ミーティングに常に WebRTC を使用します。

BYOD 設定

BYOD HidForwarding Enabled

適用対象: DeskPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ラップトップで外付けのマウスまたはキーボード (有線 USB または USB ドングル) を使用する場合、ラップトップに直接接続する代わりに、ビデオ デバイスの USB ポートに接続することができます。HID 転送を有効にするには、構成パラメータの Peripherals InputDevice Mode がオフに設定されていることを確認します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 外付けのマウスまたはキーボードは、ノートパソコンに直接接続する必要があります。

True: お使いのラップトップ用の外付けマウスまたはキーボードをビデオデバイスに接続できます。

BYOD QR コード ペアリング

適用対象 : DeskPro Board

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーが QR コードを使用して、Webex アプリで携帯電話とビデオデバイスをペアリングできるかどうかをコントロールします。有効にすると、ユーザーはデバイスの画面に表示された QR コードをスキャンし、ペアリング プロセスが完了するのを待ちます。

この設定は、ホット デスキングにセットアップされているデバイスにのみ適用されます。つまり、共有モードで、Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Enabled: デバイスの画面に QR コードがあり、ユーザーはそれをスキャンしてデバイスにログインできます。

Disabled: デバイスに QR コードはありません。ユーザーは別の方法 (USB-C) でログインする必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

BYOD タッチ転送が有効

適用対象 : DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、タッチ リダイレクト機能を有効または無効にします。タッチ リダイレクトを使用すると、ボードまたはビデオ デバイスのタッチ スクリーンからラップトップをコントロールできます。HDMI ケーブル (有線共有) と USB-C ケーブルを使用してラップトップをデバイスに接続する必要があります。デバイスからラップトップへUSB-C to USB-C ケーブルまたは USB-C to USB-A ケーブルを使用できます。

この機能は、第 1 世代のボード (Board 55 および 70) では利用できません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: タッチ リダイレクトは無効です。

True: タッチリダイレクトが有効です。

BYOD USBCXapi

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

この設定では、USB-C ケーブルでビデオデバイスに接続された場合に、ラップトップを自動的にビデオデバイスにペアリングするかどうかを決定します。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: デバイスは自動的にペアリングされません。

有効: USB-C ケーブルで接続されるとデバイスがペアリングされます。

CallHistory の設定

CallHistory Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

不在着信および応答のない通話 (通話履歴) など、発信または着信の通話に関する情報を保存するかどうかを指定します。これにより、ユーザ インターフェイスの [最近] リストに通話が表示されるかどうかが決まります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: 新しいエントリは通話履歴に追加されません。

On: 新規エントリは通話履歴リストに保存されます。

CallHistory Recents DisplayName

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

[最近] リストでミーティングの議題を非表示にすることを選択できます。このリストは、UI の [通話] ボタンをタップするか、デバイス ウェブ インターフェイスの [通話] ページで利用できます。この設定は、ホットデスクが有効になっている共有モード デバイスやパーソナル モード デバイスではサポートされていません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ミーティングの議題が [最近] リストに保持されます。

非表示: [最近] リストでミーティングの議題を表示しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カメラ設定

Cameras Background Enabled

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

カメラの背景機能を有効または無効にします。

カメラの背景機能を使用すると、実際の周囲の代わりに、仮想背景 (画像または効果) をカメラ ビューの背景として表示できます。Cameras Background Set コマンドを有効にするには、この設定を有効にする必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

True: カメラの背景機能を有効にします。

False: カメラの背景機能を無効にします。

Cameras Background UserImagesAllowed

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーがミーティングまたは通話中に仮想背景としてカスタム画像を使用する機能を有効または無効にします。

この機能を使用するには、[カメラのバックグラウンド有効] 設定も有効にする必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

True: 仮想背景としてのカスタム画像の使用を有効にします。

False: 仮想背景としてのカスタム画像の使用を無効にします。

Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラ ID はカメラ [n] の中の番号 n です。既定では、カメラ ID はカメラに自動的に割り当てられます。カメラからビデオ デバイスに EDID 情報が渡されない場合、カメラ ID は再起動後に持続しません。これは、ビデオ デバイスが再起動されたときに、カメラが新しいカメラ ID を取得する可能性があることを意味します。

ビデオ デバイスが複数のカメラから EDID 情報を受信しない構成に対応するには、Cameras Camera AssignedSerialNumber 設定を使用する必要があります。この設定では、カメラ ID をカメラのシリアル番号に関連付けることで、カメラ ID をカメラに手動で割り当てることができます。設定はビデオ デバイスが工場出荷時設定にリセットされるまで持続します。

ビデオ デバイスが EDID 情報を受信しない一般的な状況は、EDID 情報を渡さない HDMI リピーターを使用している場合です。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 20)

カメラのシリアル番号です。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

逆光補正をOnまたはOffにします。逆光補正は、室内の人々の背後に光が多い場合に便利です。補正が行われない場合、人物が遠端で非常に暗く見える場合があります。

この設定は、Bar Pro、Board Pro、および Board Pro G2 の統合型カメラには適用されません。[カメラ] [カメラの明るさアルゴリズム] が [平均] に設定されていない場合、クアッド カメラおよび Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合カメラには適用できません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : カメラの逆光補正をオフにします。

On: カメラの逆光補正をOnにします。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

カメラ カメラ [n] 明るさアルゴリズム

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラの明るさアルゴリズムを指定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/平均/顔最適化

Auto: カメラの明るさのアルゴリズムは、デバイスによって自動的に設定されます。

平均: 従来の明るさアルゴリズムが適用されます。明るさの計算に画像領域全体が使用されます。

FaceOptimized: 明るさは、人が検出された領域を重視して計算されます。これには自動逆光補正が含まれます。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

明るさのレベルを設定します。カメラの [カメラの明るさモード] を [手動] にする必要があります。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1..31)

明るさのレベルです。数字が大きいほど、画像は明るくなります。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro]*

範囲: 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras Camera [n] Brightness Mode

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

明るさモードが [自動] に設定されている場合、明るさは現在の照明条件に基づいてデバイスによって設定され、継続的に調整されます。手動モードでは自動調整は行われません。明るさのレベルは [カメラ] [カメラの明るさ] [デフォルトレベル] 設定を使用して手動で設定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: カメラの明るさはデバイスにより自動的に調整されます。[カメラ] [カメラの明るさ] DefaultLevel 設定は効果がありません。

Manual: カメラの輝度レベルの手動コントロールを有効にします。明るさのレベルは、[カメラ] [カメラの明るさ] DefaultLevel 設定を使用して設定します。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro]*

範囲: 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

Cameras Camera [n] ExcludedArea

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定が有効になっている場合、Multi Camera Director は、カメラの視野の選択された領域に表示される顔を無視します。

セミコロンで区切られた多角形の形式です。各多角形はカンマで区切られた 3 つ以上の座標ペアで定義されます。

座標は球面座標で、単位は 100 分の 1 度です。たとえば、「0,0」はカメラからまっすぐ外に向かう光線を意味します。

「100,100」は、カメラから左に 1 度、上に 1 度向いた光線を意味します。電動カメラの場合、座標系は

は、カメラのニュートラル ポジションを基準にしており、カメラが移動しても変化しません。

マルチカメラのセットアップでは、除外ゾーンがカメラごとに定義されることに注意してください。

例:

"1000,500, 500,500, 500,-500, 1000,500; -2000,-1000, -2500,-1000, -2500,-1500, -2000,-1500"

これにより 2 つの除外ゾーンが定義されます。

- 1 つ目は (10°,5°) から (5°,-5°) までです。
- 2 つ目は (-20°、-10°) から (-25°、-15°) です

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro]*

範囲: 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras Camera [n] Flip

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

反転モード (垂直反転) を使えば、画像を上下反転することができます。反転は、自分のビューと相手側に送信されるビデオの両方に適用されます。

この設定は、Quad Camera、PTZ-12 カメラ、または Board Pro、Board Pro G2、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合型カメラではサポートされていません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off/オン

Auto: カメラが上下逆さまに取り付けられていることを検出すると、画像が自動的に反転します。カメラが上下逆に取り付けられているかどうかを自動検出できない場合、画像は変更されません。たとえば、Sony PTZ 4K カメラは上下逆さまになっていることを自動検出できません。上下逆に取り付ける場合は、このパラメータを [On] に設定する必要があります。

Off : 画面に画像を通常の方法で表示します。

On: 画像を上下反転して表示します。この設定は、カメラが上下逆に取り付けられている場合に使用されますが、取り付けられた向きを自動的に検出することはできません。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

カメラ カメラ [n] フォーカス モード

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラのフォーカス モードを定義します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/自動制限/手動 *[CodecPlus CodecPro]*

自動/手動 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

Auto: オートフォーカスの動作は製品によって異なります。Bar Pro、Board Pro、Board Pro G2、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合カメラ、およびクアッドカメラとコーデック (Codec EQ、Codec Plus、または Codec Pro) を使用する場合、通話が接続され、ビューが変更されると、カメラはシングル ショットの自動フォーカスを行います。

Precision 60 または PTZ 4K カメラを使用している場合、カメラは連続的な自動フォーカスを行います。通話が接続されると、パン、チルト、またはズームの後、そして通常、カメラがシーンの変化を識別すると、自動フォーカスが実行されます。

AutoLimited: このモードは、Codec Plus または Codec Pro で Precision 60 カメラを使用する場合にのみ適用されます。ほとんどの場合、このモードは自動フォーカスと同じように動作します。場合によっては、auto-limitedによりフォーカスハンチングが減少します。

問題のあるシーンには、コントラストのない、または低い大きな領域があります (例えば、ペイントされた壁の詳細がまったくない、部分的に空のホワイトボードなど)。オート フォーカスと比較して、このモードではバックグラウンド フォーカスの可能性がわずかに高くなります。

手動: 自動フォーカスをOffにして、カメラのフォーカスを手動で調整します。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カメラ カメラ [n] のガンマレベル

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

[Gamma Level] を設定することで、どのγ補正テーブルを使用するかを選択することができます。この設定は、明るさの設定を変更しても満足のいく結果が得られないような、厳しい照明条件で役立ちます。カメラのカメラ [n] Gamma Mode を手動に設定する必要があります。

この設定は、Quad Camera または Bar Pro、Board Pro、Board Pro G2、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。また、この機能は PTZ 4K カメラまたは PTZ-12 カメラではサポートされていません。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..14)

ガンマレベルを定義します。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

Cameras Camera [n] Gamma Mode

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定により、ガンマ補正が有効になります。ガンマは、画像のピクセルとモニタの明るさの間の非線形関係を説明します。

この設定は、Quad Camera または Bar Pro、Board Pro、Board Pro G2、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合カメラには適用されません。

これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。また、この機能は PTZ 4K カメラまたは PTZ-12 カメラではサポートされていません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: [自動] がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 手動モードでは、ガンマレベル設定でガンマ値が変更されます。参照: カメラ カメラ [n] のガンマレベル。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras Camera [n] IrCutFilter Mode

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は PTZ 4K カメラにのみ適用され、他のカメラには影響しません。

[IR カット フィルター] (赤外線カット フィルター) は、可視光を通過させながら、近赤外線の波長をブロックします。通常の照明条件では、フィルターをOn (デイモード) にして、赤外線による望ましくない副作用を避ける必要があります。しかし、暗い中でカメラで画像をキャプチャしたい場合は、フィルターをOffにして (夜間モード)、赤外線を利用できるようにします。

デフォルト値:

Day

値スペース:

自動/デイ/ナイト

Auto: デバイスは、明るさの変化に基づいて自動的にデイモードとナイトモードを切り替えます。2 つのモードをいつ切り替えるかを制御する方法については、IrCutFilter のしきい値設定を参照してください。

日: 赤外線カットフィルターがOnになっています。

夜間: 赤外線カットフィルターはOffになっています。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

Cameras Camera [n] IrCutFilter Threshold

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、カメラ [n] のIrCutFilterモードが自動に設定されている場合、つまり、カメラがデイナイトモード間で自動的に切り替えるように設定されている場合にのみ有効です。しきい値が高いほど、デイモードへの切り替えをトリガーするのにより多くの照明が必要になります。

デフォルト値:

14

値スペース:

整数 (0..255)

数値が高いほど、デイモードに切り替えるのにより多くの周囲光が必要になります。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

Cameras Camera [n] Mirror

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ミラーモード (水平反転) を使用すると、画面上のイメージをミラーリングすることができます。ミラーリングは、自分のビューと相手側に送信されるビデオの両方に適用されます。スピーカー トラッキングがOnの場合、ミラーリングは自動的に無効になります。

この設定は Precision 60 カメラを使用している場合にのみ適用できます。ただし、[カメラn反転] 設定が [On] になっている場合、PTZ 4K カメラは自動的に画像をミラーリングします。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off/オン

Auto: カメラが上下逆に取り付けられていることを検出すると、画像が自動的に反転されます。カメラが上下逆に取り付けられているかどうかを自動検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 他の人があなたを見るのと同じ画像を表示します。

On: ミラーに映し出された自分と同じ画像を表示します。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras Camera [n] PtzAutoFraming

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

Sony SRG-A40 および SRG-A12 の PTZ 自動フレーミング機能を有効にします。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オフ: 自動フレーミング機能を無効にします。

オン: AutoFraming 機能を有効にします。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7

カメラ カメラ [n] スタンバイモード

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

指定されたカメラ [n] のスタンバイモードを設定します。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: デバイスがスタンバイモードになったときに、電源オフのコマンドがカメラに送信されません。スタンバイが終了すると、カメラは前の状態を維持し、追加の動きなしで、すぐに使用できます。

有効: デバイスがスタンバイモードになると、電源Offがカメラに送信されます。スタンバイを終了する際に、電源Onが発行され、カメラに調整プロセスを実行させます。調整中、カメラは最大位置までパンし、その後中心に戻ります。これには約 12 秒かかります。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7

Cameras Camera [n] VideoFormat

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラの出力ビデオ解像度とフレームレートを設定します。

デフォルト値:

1920_1080_60

値スペース:

1920_1080_30/1920_1080_60/3840_2160_30

1920_1080_30: カメラ出力は 1920x1080 解像度、30 フレーム/秒です。

1920_1080_60: カメラ出力は 1920x1080 解像度、60 フレーム/秒です。

3840_2160_30: カメラ出力は 3840x2160 解像度、30 フレーム/秒です (PTZ 4K カメラでのみ対応)。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7

カメラ カメラ [n] ホワイトバランスの補正レベル

適用対象: RoomBarPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

指定されたカメラのホワイトバランス補正レベルを設定します。カメラ画像が常に寒すぎる (青みがかった色合い) または暖かすぎる (黄色がかった色合い) と感じる場合は、この設定を使用してデフォルトの自動ホワイトバランスをオフセットできます。ホワイトバランスは自動調整され続けます。

この設定を負の値にすると画像はより寒く見え、正の値にすると画像はより暖かく見えます。この設定を変更した後、変更を有効にするにはデバイスを再起動する必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-3..3)

カメラのホワイトバランス補正レベルです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カメラ カメラ [n] ホワイトバランスモード

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

この設定は、Bar Pro、Board Pro、および Board Pro G2 の統合型カメラには適用されません。このカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: カメラはビューに応じてホワイトバランスを継続的に調整します。

手動: カメラのホワイトバランスの手動コントロールを有効にします。ホワイト バランス レベルは、[カメラのホワイトバランス レベル] [カメラ] 設定を使用して設定します。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

Cameras Camera [n] Whitebalance Level

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ホワイトバランスレベルを定義します。Cameras Camera [n] Whitebalance Mode を手動に設定する必要があります。

この設定は、Bar Pro、Board Pro、および Board Pro G2 の統合型カメラには適用されません。このカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

また、この設定は、ホワイトバランス モードが手動に設定されている場合に Sony のワン プッシュ モードを使用する PTZ-12 カメラには影響しません。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..16)

ホワイトバランスのレベルです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..7 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 2..7 *[BoardPro BoardProG2]*

カメラ カメラの色彩度 レベル

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラから送信されるビデオの彩度を変更することができます。数値が高いほど、色の彩度が高くなります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-20..20)

範囲 : 数値が大きいほど、色の彩度が高くなります。値が 0 の場合、ニュートラルな彩度レベルになります。最も負の値にすると、すべての色が削除され、グレースケールの画像になります。

カメラ カメラの露出補正レベル

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラ画像が常に暗すぎる (露出不足) または明るすぎる (露出オーバー) 場合は、この設定を使用して、ターゲットの明るさをオフセットできます。明るさ/露出は引き続き自動調整されます。この設定は、[カメラ] [カメラの明るさモード] が [自動] に設定されている場合にのみ効果があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-3..3)

正の数を指定するとキャプチャされた画像の明るさが増します。負の数を指定すると暗くなります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras Camera Framerate

適用対象 : RoomKit RoomKitMini Room55

必要なユーザーロール : 管理者

デフォルトでは、カメラは毎秒 30 フレームを出力します。これにより、通常の帯域幅と照明条件で、クローズアップと概要の両方の画像で良好な品質を得ることができます。条件が良い場合は、カメラからの 60 フレーム/秒の出力が全体的な品質を向上させます。

デフォルト値:

30

値スペース:

30/60

30: カメラは毎秒 30 フレームを出力します。

60: カメラは毎秒 60 フレームを出力します。

カメラの電源周波数

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラが電源周波数のちらつき防止をサポートしている場合、カメラは電源からのちらつきノイズを補正することができます。このカメラの構成は、電源回線周波数に基づいて設定する必要があります。カメラが電源回線周波数の自動検出をサポートしている場合、構成で [自動] オプションを選択できます。

Cisco カメラはフリッカー防止と電源回線周波数の自動検出の両方に対応します。[自動] がデフォルト値であるため、自動検出をサポートしていないカメラを使用している場合は、この設定を変更する必要があります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

50Hz/60Hz/自動

50Hz: 電源周波数が 50Hz の場合はこの値を使用します。

60Hz: 電源周波数が 60Hz の場合はこの値を使用します。

Auto: カメラによる電源周波数の自動検出を許可します。

Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

機能がアクティブになったときにプレゼンタ トラッキング カメラ (PTZ 4K または Precision 60 カメラ) が移動するパンの位置を定義します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535..65535)

パンニングの位置です。

Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

機能がアクティブになったときにプレゼンタ トラッキング カメラ (PTZ 4K または Precision 60 カメラ) が移動するチルト位置を定義します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535..65535)

チルトの位置です。

Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

プレゼンタ トラッキング カメラ (PTZ 4K または Precision 60 カメラ) が有効になったときに移動するズーム位置を定義します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535..65535)

ズーム位置です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カメラ PresenterTrack コネクタ

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

プレゼンタ トラッキングカメラ (PTZ 4K または Precision 60 カメラ) が接続されるビデオ入力コネクタを定義します。

デフォルト値:

1 *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2]*

3 *[BoardPro BoardProG2]*

2 *[RoomBarPro]*

値スペース:

整数 (1..10) *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2]*

整数 (1..3) *[CodecPlus Room70/Room55D]*

Integer (2..2) *[RoomBarPro]*

Integer (3..3) *[BoardPro BoardProG2]*

ビデオ入力コネクタです。

Cameras PresenterTrack Enabled

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

PresenterTrack 機能を使用するかどうかを定義します。この機能を利用するには、プレゼンタのトラッキング カメラとして PTZ 4K または Precision 60 カメラが必要です。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: PresenterTrack 機能が無効になっています。

True: PresenterTrack 機能が使用可能です。

Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

Briefing 会議室と教室シナリオ (会議室タイプ テンプレート) で、リモート プレゼンタ モードとローカル プレゼンタ モード間の自動切り替えを有効または無効にします。

自動切り替えでは、PresenterTrack トリガー ゾーンで人が検出されるとデバイスがローカル プレゼンタ モードに切り替わり、ローカルのプレゼンタがステージを離れるとリモート プレゼンタ モードに戻ります。

この設定が有効な場合、新しい人がトリガー ゾーンに入ると、カメラの PresenterTrack PresenterDetected ステータスが更新されます。

Precision 60 および PTZ 4K カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。Briefing Room は Codec Plus、Room 70、および Room 55 Dual ではサポートされていません。

Briefing room と Classroom のどちらにも対応していないため、この設定は Board Pro および Board Pro G2 には適用されません。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: モード間の自動切り替えは行われません。

有効: ローカルプレゼンタモードとリモートプレゼンタモード間の自動切り替え。

Cameras PresenterTrack TriggerZone

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

トリガー ゾーンを定義します。トリガー ゾーンは、プレゼンタのトラッキングを開始するために、人の頭を検出する必要がある領域に対応します。

"x1,y1,...xn,yn" の形式は x 座標と y 座標のペアの文字列です。x の範囲は (0,1920)、y の範囲は (0,1080) です。2 つの座標ペアは、長方形のトリガー ゾーンの左上角と右下角を定義します。3 つ以上の座標ペアが、多角形のトリガー ゾーンの頂点を定義します。

この機能を利用するには、プレゼンタのトラッキング カメラとして PTZ 4K または Precision 60 カメラが必要です。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

トリガーゾーンの座標。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras SpeakerTrack DefaultBehavior

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

デバイスの自動フレーミング機能は、カメラによって異なります。フレーミングの主な機能には、ベストオーバービュー (会議室にいるすべての参加者を映し出す最小のフレーム); クローズアップ (発言者または発言者の近くにいる参加者のグループにズームイン); フレームズ (会議室にいるすべての参加者のクローズアップ画像を合成したもの、余分な背景が削除された状態で表示されます)。

カメラのデフォルト フレーミング モードを選択します。呼び出し後にこのモードに戻ります。通話中と通話外の両方で、ユーザ インターフェイスから別のモードに変更することができます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/ベストオーバービュー/クローズアップ/現在値/フレーム/グループとスピーカー/手動 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardProG2]*

自動/ベストオーバービュー/クローズアップ/現在値/フレーム/手動 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board BoardPro]*

Auto/BestOverview/Current/Frames/Manual *[RoomKitMini]*

自動/最適な概観/現在/手動 *[DeskMini Desk DeskPro]*

[カメラ] > [スピーカー トラック] > [フレーム] > [モード]

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

フレーム カメラ モードでは、カメラはズームし、個人または少人数のグループを表示します。これらの個人フレームとグループフレームは、さらに 1 つの出力ビデオストリームに合成されます。このストリームでは、余分な背景が削除され、人物がより近くに表示され、同じサイズで、同じ目の高さで表示されます。カメラは最大 4 つのフレームをサポートします。すべての画像処理は送信側で行われるため、受信側のデバイスがフレームをサポートしている必要はありません。

フレーム モードは発言者トラッキング機能に依存します。そのため、フレームが機能するには、カメラの SpeakerTrack Mode も Auto に設定されている必要があります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: ユーザーは、デバイスのユーザ インターフェイス上のカメラ コントロールを使用して、フレームのOnとOffを切り替えることができます。

Off : フレームは利用できません。

カメラ スピーカートラック フレーム 行構成

適用対象: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

部屋内の人数が 4 人を超えた場合の「フレーム」カメラ モードの動作を定義します。

デフォルト値:

SingleRow

値スペース:

MultiRow/SingleRow

SingleRow: グリッド レイアウトを作成し、水平方向にグリッド セルの 1 行を配置します。各グリッド セルにはグループまたは個々の参加者が含まれます。

MultiRow: 個別にフレーム化された人物を 2 行に配置します。2 行のグリッド レイアウトが指定されます。

どちらのモードでもグリッドを形成できない場合、システムはデフォルトでビュー内のすべての参加者を含む 16:9 フレーミングを使用します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras SpeakerTrack GroupAndSpeaker Mode

適用先: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

グループおよびスピーカーのカメラ モードでは、リモートのミーティング参加者に会議室の 2 つのビューを同時に送信します。グループの概要と発言者のクローズアップです。グループおよび発言者モードを使用するには、会議室に少なくとも 3 人いる必要があります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

自動: グループモードと発言者モードが有効です。

オフ: グループモードと発言者モードが無効になります。

Cameras SpeakerTrack HeadDetectorRange

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

頭部検出アルゴリズムが最適に動作する範囲には限界があります。良好な状態であれば、デフォルト値を維持することをお勧めします。室内の近くにいる人のトラッキングで問題が発生する場合は、頭検出器の範囲を [標準] に設定することを検討してください。この副作用として、遠くにいる人は、ビューの中心にいる場合でも検出されない場合があります。

Codec EQ、Codec Pro、および Codec Plus では、Quad Camera を使用している場合にのみ、この設定が適用されます。

デフォルト値:

拡張

値スペース:

拡張/標準

拡張: 最長の範囲。これは、カメラの視野の中央に配置された長方形に適用されます。この長方形は Speakertrack 診断ビューで視覚化されます。

標準: 最短の範囲

カメラ スピーカートラック ミーティングゾーン エリア

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

ミーティングゾーンを定義します。これは、カメラのSpeakerTrackミーティングゾーンモード設定が自動に設定されている場合に、ビデOffレームに含めるものを決定するときに発言者トラックとビデOffレーミングロジックが使用する領域です。

ミーティングゾーンは多角形であり、x,z 座標ペアの文字列で定義されます: "x1,z1, x2,z2, ..., xn, zn", 座標ペアは多角形の頂点を定義します。

会議室を上から見た場合、座標ペア (0,0) がカメラの位置を表します。(0,z) は、ビューの中心線に沿ったカメラからの z cm 点の位置を表します。(x,0) はカメラの側面 x cm の点を表します。カメラに面した会議室から見て、正の x 値はカメラの右側、負の x 値はカメラの左側を示します。負の Z 値は使用されません。それらはカメラの後ろになります。

ミーティング ゾーンを定義する最も簡単な方法は、タッチ ユーザ インターフェイスの [デバイス設定] で利用できるグラフィック ツールを使用することです。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

ミーティング ゾーンを定義する座標ペアの文字列。

Cameras SpeakerTrack MeetingZone Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

会議エリア機能を使用すると、発言者トラックとビデオ フレーム ロジックがビデオ フレームに何を含めるかを決定するときに使用する領域を制限できます。この機能は、オープンOffィスや、壁がガラス張りの会議室などで便利です。定義された会議エリアの外にいる人々は、最も適切なビデオ フレームの選択に影響を与えません。

タッチ ユーザ インターフェイスを使用して、ミーティング ゾーンを簡単に定義できます。代わりに、[カメラ][スピーカー トラック][ミーティング ゾーン][エリア] 設定を使用することもできます。

Codec Plus、Codec Pro、Codec EQ の場合: デバイスには、話者トラッキングをサポートするカメラが必要です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off

Auto: ミーティングゾーンが定義されている限り、それが使用されます。ミーティングゾーンが定義されていない場合、動作はOffと同じになります。

Off: ミーティングゾーンが定義されているかどうかに関わらず、ミーティングゾーン機能は使用されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

カメラ スピーカートラック マルチカメラ キャリブレーション モニタリング

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

適切に調整されていないカメラに対して診断メッセージを表示するかどうかを決定します。有効に設定すると、不適切に調整されたカメラは追跡に使用されません。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Cameras SpeakerTrack ZoomRange MaxZoomFactor

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

ズーム範囲と最大ズームイン画像の画質との間には、トレードOffの関係があります。範囲が長いほど、品質が低下します。

この設定では、自動フレーミング機能の最大ズーム レベルを構成できます。この設定は、手動カメラ コントロールのズーム範囲には影響しません。

この設定は、自動フレーミング機能をサポートする Cisco カメラ (外部または内部) に適用されます (SpeakerTrack 60、PTZ 4K、および PTZ-12 では非対応です)。

デフォルト値:

自動

値スペース:

2x/3x/4x/5x/オート *[RoomKitMini]*

3x/4x/5x/Auto *[RoomKit RoomBar RoomBarPro Room55 BoardPro BoardProG2]*

3x/4x/Auto *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

2x: 自動フレーミング機能の最大ズーム倍率は 2x です。

3x: 自動フレーミング機能の最大ズーム倍率は 3 倍です。

4x: 自動フレーミング機能の最大ズーム倍率は 4x です。

5x: 自動フレーミング機能の最大ズーム倍率は 5x です。

Auto: 推奨されるズーム範囲です。

Cameras SpeakerTrack Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、スピーカー トラッキングまたはベスト オーバービューをサポートするカメラを使用している場合にのみ適用されます。

クアッド カメラ: 発言者トラッキングは自動カメラ フレーミングを使用して、ユーザーが会議室のどこにいるかに基づいて最適なカメラ ビューを選択します。クアッド カメラは、アクティブな発言者のクローズアップを見つけてキャプチャする音声トラッキング技術を使用します。

SpeakerTrack 60 カメラ: デュアル カメラ アセンブリは 2 つのカメラで構成され、アクティブな発言者を見つけてクローズアップする音声トラッキング技術を使用します。発言者の変更が検出されると、ビデオ デバイスが 2 つのカメラ間で自動的に切り替わり、常に最良のカメラ ビューが表示されます。さまざまなモードの切り替えについては、[カメラ][スピーカー トラック] [TrackingMode] 設定を参照してください。

内蔵 Speakertrack カメラ搭載のビデオデバイス (Room Kit、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Board Pro、および Board Pro G2): 話者トラッキングは自動カメラを使用し、人がいる場所に基づいて最適なカメラ ビューを選択するためのフレーミングを使用できます。カメラは、現在の話者を検出してそのクローズアップをキャプチャするオーディオ トラッキング技術を使用します。

ベストオーバービューをサポートするが、カメラが話者トラッキングをサポートしない (Desk シリーズ製品) ベストオーバービューは自動カメラ フレームを使用して、会議室のユーザーの位置に基づいて最適なカメラ ビューを選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: 発言者のトラッキング (Room Kit Mini または Desk シリーズ製品ではサポートされていません) および最適な全体観がオンになっています。デバイスが室内にいる人を検出し、最適なカメラ フレームを自動的に選択します。ユーザーはタッチコントローラのカメラ コントロール パネルでこの機能をすぐにOnまたはOffに切り替えることができますが、この機能は各通話の後にOnに戻されるため、デバイスは次のユーザーのために準備されます。

Off: 発言者のトラッキング (Room Kit Mini または Desk シリーズ製品ではサポートされていません) およびベストオーバービューがOffになっています。SpeakerTrack 60 カメラ アセンブリがある場合、2 つのカメラは個別のカメラとして動作します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras SpeakerTrack Closeup

適用対象: RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、USER

クローズアップとグループ フレームの機能をOnまたはOffにします。

この設定は、カメラの SpeakerTrack モードが [自動] に設定されている場合にのみ適用されます。クローズアップ機能がOnになっている場合、デバイスは人が話していることを検出し、その人をカバーするのに最適なフレームを選択します。これはクローズアップと呼ばれるもので、会議室にいるすべての人が含まれているとは限りません。常に会議室の全員が映るようにしたい場合は、クローズアップ機能をOffにできます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off/オン

Auto: 動作はデバイス タイプによって異なります。Board 55/55S/70/70S/85S は、常に会議室にいる全員をカメラフレームに収めるように努めていますが、他のデバイスは、発言者のみ、または発言者とその近くにいる参加者のみにズームインします (グループフレーム)。

Off: デバイスは、会議室にいるすべての人をカメラのフレームに入れ続けます。

On: デバイスはアクティブな発言者またはグループ フレームにズームインします。

カメラ SpeakerTrack トラッキングモード

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、SpeakerTrack 60 カメラを使用し、カメラのSpeakerTrackモードが自動に設定されている場合にのみ適用されます。

話者トラッキング アルゴリズムは 2 つのモードでの変更に反応し、一方は他方より早く反応します。このモードでは、いつカメラ ビューが新しい発言者に切り替わるかを指定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/保守的

Auto:これは通常のトラッキングモードです。

保守的: カメラ ビューは通常のトラッキング モードよりも遅れて新しい発言者に変更されます。

Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は SpeakerTrack 60 カメラがビデオ デバイスに接続されている場合にのみ適用されます。

各カメラがどのビデオ入力に接続されているかを自動的に検出するか、または手動で構成するかを定義します。ビデオ デバイスがカメラからの EDID 情報を受信しない状況では、手動設定を選択する必要があります。通常、これは、EDID 情報を渡さない HDMI リピーターを使用する場合です。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: カメラが接続されているビデオ入力を自動的に検出します。

手動: カメラが接続されるビデオ入力を手動で定義します。Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft および Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight 設定を使用します。

Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SpeakerTrack 60 の左カメラが接続されるビデオ入力の番号を定義します。

この設定は SpeakerTrack 60 カメラがビデオ デバイスに接続されている場合にのみ適用されます。また、カメラ SpeakerTrack のコネクタ検出モードを手動に設定する必要があります。

Codec EQ は SpeakerTrack 60 カメラをサポートしていません。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..3) *[CodecPlus]*

整数 (1..5) *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro]*

有効なビデオ入力番号を設定してください。例えば、左カメラがビデオ入力 1 に接続されている場合、1 に設定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

SpeakerTrack 60 の右カメラが接続されるビデオ入力の番号を設定します。

この設定は SpeakerTrack 60 カメラがビデオ デバイスに接続されている場合にのみ適用されます。また、カメラ SpeakerTrack のコネクタ検出モードを手動に設定する必要があります。

Codec EQ は SpeakerTrack 60 カメラをサポートしていません。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (1..3) *[CodecPlus]*

整数 (1..5) *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro]*

有効なビデオ入力番号を設定してください。例えば、右カメラがビデオ入力 2 に接続されている場合、2 に設定します。

Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode

適用対象: RoomKit RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

この設定はホワイトボードにスナップする機能に属しますが、このソフトウェアバージョンではサポートされていません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

カメラの立体視モード

適用対象 : RoomBarPro BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

互換性のあるハードウェアを持つ参加者が会議に参加したときに立体 3D ビデオを送信する場合はオンにします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

会議設定

Conference ActiveControl Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

アクティブ制御は、電話会議の参加者がビデオデバイスのインターフェイスを使用して Cisco TelePresence Server または Cisco Meeting Server 上の電話会議を管理できるようにする機能です。各ユーザーはこのインターフェイスから、参加者リストの表示、ビデオレイアウトの変更、参加者の切断などを行うことができます。アクティブ制御機能は、インフラストラクチャ (Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 9.1.2 以降、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) バージョン X8.1 以降、Cisco Media Server (CMS) バージョン 2.1 以降) でサポートされている場合、デフォルトで有効になっています。アクティブ制御機能を無効にする場合は、この設定を変更します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto : インフラストラクチャでサポートされている場合、アクティブ制御が有効になります。

Off : アクティブ制御を無効にします。

Conference AutoAnswer Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

自動応答モードを定義します。通話に応答するまでの秒数を待つ場合は [電話会議の自動応答の遅延] 設定を使用し、通話が応答されるときにマイクをミュートする場合は [電話会議の自動応答のミュート] 設定を使用します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : タッチコントローラの [応答] をタップすると、着信に手動で応答できます。

On : デバイスは自動的に着信に応答します。ただし、すでに通話中である場合を除きます。通話中の場合でも、着信に手動で応答したり拒否したりすることができます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference AutoAnswer Mute

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

着信通話に自動的に応答する際にマイクをミュートにするかどうかを定義します。[自動応答モード] がOnになっている必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : 着信はミュートされません。

On: 自動応答時に着信通話をミュートにします。

電話会議自動応答の待ち時間

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

着信コールに対して、デバイスが自動的に応答するまでの待機時間 (秒) を定義します。[自動応答モード] がOnになっている必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..50)

自動応答の遅延時間 (秒)。

Conference CallProtocolIPStack

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが通信プロトコル (SIP、H323) に対して IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを有効にする必要があるかどうかを選択します。Webex については、電話会議の Webex CallProtocolIPStack 設定を参照してください。

デフォルト値:

デュアル

値スペース:

デュアル/IPv4/IPv6

Dual : 通話プロトコルで IPv4 と IPv6 の両方を有効にします。

IPv4: 通話プロトコルは IPv4 を使用します。

IPv6: 通話プロトコルは IPv6 を使用します。

Conference CapsetFilter

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定では、H.323 および SIP コールのメディア ネゴシエーションでフィルタリングするメディア コーデックを指定できます。デバッグの目的でのみ使用し、Cisco の同意を得て使用してください。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 200)

フィルター定義。

会議 DefaultCall プロトコル

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスから発信するときに使用される Default Call Protocol を定義します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/H323/Sip/Spark

Auto: 利用可能なプロトコルに基づいて、通話プロトコルの自動選択を有効にします。複数のプロトコルが利用できる場合の優先順位は以下の通りです。1) SIP; 2) H323。デバイスが登録できない場合、自動選択は H323 を選択します。

H323: すべての通話が H.323 通話としてセットアップされます。

Sip: すべての通話が SIP 通話としてセットアップされます。

Spark: すべての通話は Webex インフラストラクチャ経由でセットアップされます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference DefaultCall Rate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

発信時に使用する既定の通信速度を定義します。Webex ミーティングの場合、このデフォルトは [電話会議のデフォルトのWebex通話レート] 設定によって上書きされる場合があります。

コール レートは常に、Conference MaxReceiveCallRate および Conference MaxTransmitCallRate の設定によって制限されます。該当する場合は、Conference MaxMultisite ReceiveRate、Conference MaxMultiSiteTransmitRate によっても制限されます。

デフォルト値:

6000 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

10000 *[Board]*

16000 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

整数 (64..10000) *[Board]*

整数 (64..20000) *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

整数 (64..6000) *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

デフォルトのコールレート (kbps) です。

Conference DefaultCall Webex Rate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

Webex ミーティングで使用される既定の通話レートを定義します。この設定は、Webex クラウド サービスからソフトウェアを取得するデバイスにのみ適用されます。

コール レートは常に、Conference MaxReceiveCallRate および Conference MaxTransmitCallRate の設定によって制限されます。0 に設定すると、会議の DefaultCall Rate が Webex 通話にも使用されます。

デフォルト値:

0 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

20000 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ]*

10000 *[Board]*

値スペース:

整数 (0..10000) *[Board]*

整数 (0..20000) *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

整数 (0..6000) *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]*

デフォルトのコールレート (kbps) です。0 に設定すると、既定のコール レートは会議のデフォルトコールレート設定で指定されます。

Conference Diagnostics DegradedQualityNotifications

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ネットワークの問題や通話品質の低下に関する通話中の通知をユーザーに表示するかどうかを指定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : ネットワークの問題と通話品質の低下に関する通知は表示されません。

On: ネットワークの問題と通話品質の低下に関する通知が表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電話会議 DoNotDisturbのデフォルトタイムアウト

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定では、着信が拒否され、不在着信として登録されるまでの既定のDo Not Disturbセッションの継続時間を決定します。セッションは、ユーザインターフェイスを使用して早く終了することができます。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (1..1440)

分数 (最大 1440 分 = 24 時間)で、「邪魔しないで」セッションが自動的にタイムアウトします。

Conference Diagnostics StreamStatusOverlay

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ビットレートやフレームレートなどの各ビデオストリームに関する情報を画面に表示するかどうかを決定します。情報は各ビデOffレームの上部に透明レイヤーとして表示されます。これはデバッグを目的としたものであるため、通常は [Off] にします。表示される実際のデータは予告なしに変更される場合があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : ビデオストリームのみを表示します。オーバーレイ情報はありません。

On : 透明データレイヤーをビデオストリームの上部に表示します。

Conference EmbeddedApp NotificationsOnly

適用対象 : DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

埋め込みアプリのサポートにより、Webex クライアントを使用しているミーティング参加者が開始したアプリをデバイスで表示し、操作できます。

管理者は、デバイスに実際のアプリを表示するか、アプリが共有されているという通知のみを表示するかを設定できます。後者の場合、ユーザーはミーティング クライアントを開いて、アプリを表示して操作する必要があります。

埋め込みアプリはデバイスのウェブ エンジンを使用しているため、[ウェブ エンジン モード] 設定が [On] になっている必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ユーザーはデバイス上の埋め込みアプリを見て操作できる。

True: 埋め込みアプリが共有されると、ユーザーに通知が表示されます。デバイス上のアプリを見たり、操作したりすることはできません。ミーティングクライアントを使用する必要があります。

会議の暗号化モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、「暗号化On」または「暗号化Off」と表示された南京錠のアイコンが数秒間画面に表示されます。

メモ: デバイスに暗号化オプションキーがインストールされていない場合、暗号化モードは常にOffになります。

デフォルト値:

ベストエフォート

値スペース:

ベストエフォート/オフ/オン

Off: デバイスは暗号化を使用しません。

On: デバイスは暗号化された通話のみを許可します。

BestEffort: デバイスは可能な限り暗号化を使用します。

>ポイントツーポイント通話: 相手側のデバイスが暗号化 (AES-128) をサポートしている場合、通話は暗号化されます。そうでない場合、通話は暗号化されずに続行されます。

> MultiSite 通話: 暗号化された MultiSite 電話会議を使用するには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合、電話会議は暗号化されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference EndToEndEncryption Identity PreferredDomain

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これは、Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

この構成は、管理者が Control Hub からデバイスの優先ドメインを設定したときに行われます。組織に複数のドメインがある場合にのみ必要です。

Webex CA からの証明書を要求すると、デバイスはこのドメインを使用します。ドメインはデバイスを識別します。

デバイスがアクティブで外部から発行された証明書を持っている場合、この構成は適用されません。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

Conference FarEndControl Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

リモート側 (遠端) がビデオソースを選択し、デバイスのカメラをコントロール (パン、チルト、ズーム) できるかどうかを決定します。ローカルでカメラを操作したり、ビデオソースを選択することは可能です。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off/オン

Auto: スピーカー トラッキングが無効になっている場合に限り、相手はビデオ ソースを選択したり、カメラをコントロールしたりできます。パーソナル モードのデバイスでは、遠端コントロールは許可されていません。

Off : 相手側はビデオ ソースの選択やカメラの操作ができません。

On : 相手はビデオ ソースを選択し、すべてのデバイス (個人用と共有の両方) でカメラをコントロールできます。スピーカートラッキングは、デバイスが最初の FarEndControl Camera Move コマンドを受信したときに無効になり、通話が終了したときに再度有効になります。

電話会議の相手先コントロール信号機能

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを定義します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 遠端制御信号機能を無効にします。

On : 遠端制御信号機能を有効にします。

相手側会議メッセージモード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

コントロール システムまたはマクロで使用する、ポイントツーポイント コールの 2 つのデバイス間でのデータ送信を許可するかどうかを切り替えます。SIP 通話でのみ機能します。この設定により、xCommand Call FarEndMessage Send コマンドの使用が有効/無効になります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : 2 つのデバイス間でメッセージを送信することはできません。

On: ポイントツーポイント通話の 2 つのデバイス間でメッセージを送信できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference HideNonVideo OnCall Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティング中にビデオがOffになっている参加者をどのモードで表示するか指定します。

この機能は、Webex クラウド サービスに登録されている、または Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっているデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

非アクティブ

値スペース:

アクティブ/自動/非アクティブ/前回

アクティブ: 前回の通話での使用に関係なく、ミーティング中にビデオがオフになっている参加者を非表示にします。

Auto: Auto は、共有デバイスの通話の開始で「アクティブ」に解決され、個人用デバイスの場合、「Previous」に解決されます。

アクティブ: 前回の通話での使用に関係なく、ミーティング中にビデオがOffになっている参加者を非表示にします。

前回: [前回] は、最後の呼び出しと同じ状態を設定します。

Conference JoinLeaveNotifications

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティングに参加または退席するユーザーの通知をいつ表示するかを指定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

常時/自動/なし

常時: すべての通知を常に表示します。

自動的に: 参加者である最初の 25 名についてのみ通知を表示します。

決して: 通知を表示しません。

Conference MaxReceiveCallRate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

通話の発信または受信時に使用する最大受信ビットレートを定義します。通常、これは個々のコールの最大受信ビット レートです。

Onプレミスで登録されているデバイスの場合、個々の通話の最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate および Conference MaxMultisiteReceiveRate 設定の最も低い値になります。MultiSite 会議では、Conference MaxMultisiteReceiveRate はすべての同時アクティブ コールの集計最大値です。

デフォルト値:

6000 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

20000 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ RoomPanorama/Room70Panorama]*

10000 *[Board]*

値スペース:

整数 (64..10000) *[Board]*

整数 (64..20000) *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

整数 (64..6000) *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]*

最大受信コールレート (kbps)。

Conference MaxTransmitCallRate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

通話の発信または受信時に使用する最大送信ビットレートを定義します。通常、これは個々のコールの最大送信ビット レートです。

Onプレミスで登録されているデバイスの場合、個々の通話の最大転送ビットレートは、Conference MaxTransmitCallRate および Conference MaxMultisiteTransmitRate 設定の最も低い値になります。MultiSite 会議では、Conference MaxMultisiteTransmitRate はすべての同時アクティブ コールの集計最大値です。

デフォルト値:

6000 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

20000 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

整数 (64..20000) *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

整数 (64..6000) *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]*

最大送信コールレート (kbps) です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference MaxMultisiteReceiveRate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この構成は、デバイスの組み込み MultiSite 機能 (オプション) を使用して、マルチポイント ビデオ会議を主催する場合に適用されます。

許可される最大総受信ビット レートを定義します。ビット レートは、任意の時点でのすべてのアクティブ コール間で公平に分配されます。つまり、参加者が MultiSite 電話会議から退席または参加したとき、あるいは通話が保留 (中断) または再開されたときに、個々の通話は適切に上方修正または下方修正されます。

各通話の最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate 設定で定義されます。

デフォルト値:

6000 *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]*

15000 *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

整数 (64..15000) *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

整数 (64..6000) *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D ボード]*

MultiSite 電話会議での最大集約受信コールレート (kbps)。

Conference MaxMultisiteTransmitRate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この構成は、デバイスの組み込み MultiSite 機能 (オプション) を使用して、マルチポイント ビデオ会議を主催する場合に適用されます。

許可される最大の集約送信ビット レートを定義します。ビット レートは、任意の時点でのすべてのアクティブ コール間で公平に分配されます。つまり、参加者が MultiSite 電話会議から退席または参加したとき、あるいは通話が保留 (中断) または再開されたときに、個々の通話は適切に上方修正または下方修正されます。

各コールの最大送信ビット レートは、Conference MaxTransmitCallRate 設定で定義されます。

デフォルト値:

6000 *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]*

15000 *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

整数 (64..15000) *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

整数 (64..6000) *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D ボード]*

MultiSite 電話会議の最大集約送信コールレート (kbps)。

Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

すべての通話が切断されたときに、マイクを自動的にミュート解除するかどうかを定義します。ミーティングルームまたは他の共有リソースで、これは次のユーザーのためにデバイスを準備するために行われる場合があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 通話中にミュートされた場合、通話が切断された後もマイクはミュートされたままになります。

On: 通話が切断された後でマイクをミュート解除します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference Multipoint Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ポイントツーポイントのビデオコール 2 者だけが関与するコールを、より多くの参加者がいる多地点会議(アドホック会議)に拡張する方法を定義する。ローカル リソースのみに依存する組み込み MultiSite 機能、および集中型インフラストラクチャ (マルチポイント コントロール ユニット - MCU) に基づく異なるソリューションの両方が使用可能です。

MultiSite 機能はアップグレード オプションであり、MultiSite オプション キーがインストールされているデバイスでのみ利用できます。Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) に登録されている場合、そのデバイスは MultiSite を使って他のビデオ会議端末に発信できます。Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されている場合、デバイスは CUCM 会議ブリッジまたはデバイス自身の組み込みの MultiSite 機能のいずれかを使用できます。どのオプションを使用するかは、CUCM によりセットアップされます。

いずれの場合も、デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可する MCU に発信する場合、複数参加者の会議は MCU 経由でセットアップできます (直接リモート追加)。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off

Auto: マルチポイント方法が自動的に選択されます。MultiSite オプションキーがデバイスにインストールされており、別のデバイス (MCU ではない) と通信している場合、複数参加者の会議は組み込みの MultiSite 機能を使用してセットアップされます。参加者を追加できるのは、MultiSite の主催者だけです。これにより、カスケード型の会議が防止されます。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、ビデオで複数のデバイスに発信することはできません。別のビデオデバイス (MCU (マルチポイント制御ユニット) ではない) に発信する場合、一部のデバイスでは、音声のみの参加者を 1 人追加できます。

MultiSite オプションキーに関係なく、複数参加者の会議は、デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可するMCUに発信する場合、MCU 経由でセットアップされる場合があります。

CUCMMediaResourceGroupList: 複数参加者の電話会議は、CUCM が設定した電話会議ブリッジによって主催されます。この設定は CUCM 環境の CUCM によってプロビジョニングされ、ユーザーが手動で設定するべきではありません。

MultiSite: MultiSite オプション キーがデバイスにインストールされている場合、複数参加者の電話会議は、組み込みの MultiSite 機能を使用してセットアップされます。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、ビデオで複数のデバイスに発信することはできません。一部のデバイスでは、音声のみの参加者を 1 名追加できます。

Off: ビデオで複数の端末に発信できません。デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可する MCU に発信する場合、複数参加者の電話会議は MCU 経由でセットアップされる可能性があります (直接リモート追加)。別のビデオデバイス (MCU (マルチポイント制御ユニット) ではない) に発信する場合、一部のデバイスでは、音声のみの参加者を 1 人追加できます。

Conference MultiStream Mode

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者

サポートされているデバイスでは、Conference MultiStream Modeがマルチストリームをオン/オフにするオプションを提供します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: 会議インフラストラクチャがこの機能をサポートしている場合、マルチストリームが使用されます。必要な最小バージョン: CMS 2.2、CUCM 11.5、VCS X8.7。

Off: マルチストリームは無効です。Webex クラウド サービスに登録されているデバイスには影響しません。これらは常にマルチストリームを使用するためです。デバイスがデバイス用の Webex Edge にリンクされており、Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっている場合 (つまり、Webex 通話インフラストラクチャ経由でミーティングに参加する場合)、同じことが適用されます。

Conference IncomingMultisiteCall Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

通話/電話会議に参加している場合に、着信を許可するかどうかを選択します。

デフォルト値:

許可

値スペース:

許可/拒否

許可: 他の人からの通話がある場合、通知されます。着信通話を受け入れるかどうかを選択できます。進行中の通話は、着信に応答する間、待機状態になる場合があります。あるいは、通話をマージすることもできます (マルチパーティビデオ会議のサポートが必要です)。

拒否: すでに通話中の場合、着信を拒否します。着信については通知されません。ただし、通話履歴リストでは不在着信として表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Conference PeopleFocus OnCall Mode

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

ピープル フォーカスを有効にすると、あなたのローカルレイアウトは動的に変更されます。空の背景がトリミングされ、画面上の各参加者のスペースが最適化されます。この設定により、ミーティング参加時の人物フォーカスがOnかOffかを決定します。

この設定に関係なく、ユーザーはミーティング中に UI (レイアウト ボタン) から人物フォーカスのOnとOffを切り替えることができます。また、Conference PeopleFocus Activate および Conference PeopleFocus Deactivate コマンドを使用することもできます。

人物フォーカスは、Webex クラウドサービスに登録されているか、Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっているデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

アクティブ/自動/非アクティブ/前回

Auto: 共有モードのデバイスではアクティブと同様、パーソナルモードのデバイスでは前回の状態と同様です。

アクティブ: ミーティングに参加するとき、人々にフォーカスするはOnです。

非アクティブ: ミーティングに参加するとき、人々にフォーカスするはOffです。

前へ: 新しいミーティングに参加するとき、ピープル フォーカスの初期状態 (OnまたはOff) は、前のミーティングから退出したときと同じです。

Conference Presentation OnPlacedOnHold

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

リモートサイトがユーザーを保留状態にした後、プレゼンテーションの共有を継続するかどうかを定義します。

デフォルト値:

アクションなし

値スペース:

アクションなし/停止

アクションなし: デバイスが保留状態になっても、プレゼンテーションの共有は停止しません。保留中の間、プレゼンテーションは共有されませんが、通話が再開されると自動的に共有が継続されます。

停止: リモートサイトがユーザーを保留状態にすると、デバイスはプレゼンテーションの共有を停止します。通話が再開されるとプレゼンテーションは続行されません。

Conference Presentation RelayQuality

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この構成は、組み込みの MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイント ビデオ会議をホストするデバイスに適用されます。リモート ユーザーがプレゼンテーションを共有すると、デバイスがプレゼンテーションをコード変換し、マルチポイントビデオ会議の他の参加者に送信します。RelayQuality 設定では、プレゼンテーションソースに対して高フレームレートを優先するか、高解像度を優先するかを指定します。

デフォルト値:

シャープネス：

値スペース:

モーション/シャープネス

モーション: 可能な最高のフレームレートを提供します。より高いフレーム レートが必要な場合に使用します。一般的には画像の動きが多い場合です。

Sharpness: 可能な最高の解像度を提供します。最高品質の詳細な画像やグラフィックスが必要な場合に使用します。

Conference Webex CallProtocolIPStack

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この構成は、Webex クラウド サービスに登録されている、または Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっているデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デバイスが通話プロトコル (Webex) に対して IPv4 または IPv6 スタックのどちらを有効にするかを選択します。SIP および H.323 については、Conference CallProtocolIPStack 設定を参照してください。

デフォルト値:

PreferIpv4

値スペース:

IPv4/IPv6/PreferIpv4/PreferIpv6

Dual：通話プロトコルで IPv4 と IPv6 の両方を有効にします。

PreferIpv4: 呼び出しプロトコルは IPv4 を使用します。

PreferIpv6: 通話プロトコルは IPv6 を使用します。この値は顧客のネットワークの NAT64 および DNS64 を要求します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

施設サービスの設定

FacilityService Service [n] CallType

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

施設サービスは RoomOS でサポートされなくなりました。クイック ダイヤル機能は、代わりに UI 拡張機能とマクロを使用して作成できます。

デフォルト値:
ビデオ

値スペース:
音声/ビデオ

n: サービスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..5

FacilityService Service [n] Name

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

施設サービスは RoomOS でサポートされなくなりました。クイック ダイヤル機能は、代わりに UI 拡張機能とマクロを使用して作成できます。

デフォルト値:
サービス 1:「ライブサポート」その他のサービス:なし

値スペース:
文字列 (0, 1024)

n: サービスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..5

FacilityService Service [n] Number

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

施設サービスは RoomOS でサポートされなくなりました。クイック ダイヤル機能は、代わりに UI 拡張機能とマクロを使用して作成できます。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 1024)

n: サービスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..5

FacilityService Service [n] Type

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

施設サービスは RoomOS でサポートされなくなりました。クイック ダイヤル機能は、代わりに UI 拡張機能とマクロを使用して作成できます。

デフォルト値:
ヘルプデスク

値スペース:
ケータリング/コンシェルジュ/緊急対応/ヘルプデスク/その他/セキュリティ/交通

n: サービスを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..5

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ファイル設定

Files Services OneDrive TemporaryPersonalSignIn

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

有効にすると、ユーザーは Microsoft OneDrive アカウントにログインして、デバイスから OneDrive ファイルにアクセスできます。また、ホワイトボードにアクセスして、編集し、OneDrive に保存することもできます。デバイスがスタンバイ状態になると、ユーザーは自動的にサインアウトされます。

Room 70 Panorama および Room Panorama のこのソフトウェアバージョンでは、この機能は利用できません。

デフォルト値:

Disabled

値スペース:

無効/有効

Disabled: ユーザーはデバイスから OneDrive ファイルとホワイトボードにアクセスできません。

Enabled: ユーザーはログインして各自の OneDrive ファイルにアクセスしたり、ホワイトボードを保存したりできます。

ファイル サービス Webex SaveToUser

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ホワイトボード上の「作業内容の保存」ウィザード中に、ユーザのアカウントにホワイトボードを保存するオプションを有効または無効にすることができます。

デフォルト値:

Disabled

値スペース:

無効/有効

無効: このオプションは利用できません。

有効: ホワイトボードをユーザーのアカウントに保存するオプションが利用できます。

GPIO 設定

GPIO ピン [n] モード

適用対象 : CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

4 つの GPIO ピンは個別に構成されます。GPIO ピン [1..4] の状態で、実際に測定されたピンの状態 (低/高) を取得できます。

出力モードのピンのデフォルト状態は High (+12 V) です。

メモ: 出力モードに定義されたピンは、Low に強制的に設定できます。High に設定すると、回線をローにする外部デバイスに接続されていない場合にのみ、回線はハイになります。

デフォルト値:

InputNoAction

値スペース:

InputAcceptAllCalls/ InputDisconnectAllCalls/ InputMute Microphones/ InputNoAction/ OutputAllCallsEncrypted/ OutputInCall/OutputManualState/ OutputMicrophonesMuted/ OutputPresentationOn/OutputStandbyActive

InputAcceptAllCalls: 着信時に PIN が High から Low に変化すると、通話が受け入れられます (Call Accept コマンドが自動的に発行されます)。

InputDisconnectAllCalls: 通話中に PIN が High から Low に遷移すると、通話が切断されます (Call Disconnect コマンドが自動的に発行されます)。

InputMuteMicrophones: 通話中にピンが High から Low に移行すると、マイクがミュートされます。通話中にピンが低から高に移行すると、マイクがミュート解除されます(Audio Mute および Audio Unmute のコマンドは自動的に発行されます)。

InputNoActiOn : ピン 状態はアクションをトリガーしません。ピンの状態は、[GPIO ピン [1..4] 状態] で読み取ることができます。

OutputAllCallsEncrypted:すべての通話が暗号化されるとPINがLowに設定され、一つ以上の通話が暗号化されていない場合、PINがHighに設定されます。

OutputInCall: 通話中は PIN を Low に設定し、通話中でないときは High に設定します。

OutputManualState: ピンの状態は、GPIO 手動状態設定 PinX コマンドによって、高または低に設定できます。これは、それぞれ +12 V または 0 V に設定されます。

OutputMicrophonesMuted: マイクがミュートされている場合、ピンは Low に設定され、ミュートされていない場合は High に設定されます。

OutputPresentationOn : このピンは、プレゼンテーションがアクティブなときにローに設定され、アクティブでないときにハイに設定されます。

OutputStandbyActive: このピンは、デバイスがスタンバイモードの場合、ローに設定され、デバイスが非スタンバイモードの場合、ハイに設定されます。

n: GPIO ピン番号。

範囲: 1..4

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

H323 設定

H323 認証モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは H.323 ゲートキーパーに対して認証を試みませんが、通常のレジストレーションを試みます。

On: H.323 ゲートキーパーが認証を要求することを示している場合、デバイスはゲートキーパーに対して自身の認証を試みます。H323 認証ログイン名と H323 認証パスワード設定をデバイスとゲートキーパーの両方で定義する必要があります。

H323 Authentication LoginName

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスは H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを認証のために H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの一方向認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに対して認証されます。H.323 ゲートキーパーが認証が不要と表示した場合でも、デバイスは登録を試みます。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 50)

認証ログイン名です。

H323 認証パスワード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスは H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを認証のために H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの一方向認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに対して認証されます。H.323 ゲートキーパーが認証が不要と表示した場合でも、デバイスは登録を試みます。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 50)

認証パスワードです。

H323 通話セットアップ モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

H.323 通話を確立するときに、ゲートキーパーまたは直接通話のどちらを使用するかを定義します。

ダイレクト H.323 通話は、[H323 CallSetup モード] が [ゲートキーパー] に設定されている場合にも発信できます。

デフォルト値:

Gatekeeper

値スペース:

ダイレクト/ゲートキーパー

直通: H.323 通話の発信は、IP アドレスに直接ダイヤルすることによってのみ可能です。

ゲートキーパー: デバイスはゲートキーパーを使用して H.323 通話を発信します。このオプションを選択する場合、H323 ゲートキーパーアドレスも設定する必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

H323 暗号化 AES256 に対応

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスは、メディア トランスポートに対して 128 ビット AES 暗号化キーを常にサポートしています。256 ビット キーをサポートするようにデバイスを構成することもできます。256 ビット鍵を使用する場合、Diffie-Hellman 鍵交換方法の最小鍵サイズは 2048 ビットでなければなりません (H323 Encryption KeySize 設定を参照してください)。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは 128 ビット AES 暗号化キーのみをサポートします。

On: デバイスは 128 ビットと 256 ビットの AES 暗号化キーをサポートします。

H323 暗号化キーサイズ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーを確立するときに使用される Diffie-Hellman キー交換方法の最小または最大のキーサイズを定義します。

デフォルト値:

Min1024bit

値スペース:

Max1024bit/Min1024bit/Min2048bit

Max1024bit: 最大サイズは 1024 bit です。

Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。

Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

H323 ゲートキーパーアドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H323 CallSetup Mode を [ゲートキーパー] に設定する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

H323 H323Alias E164

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに実装されている番号計画に従って、デバイスのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号に相当し、アクセスコードと組み合わされることもあります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 30)

H.323 エイリアス E.164 アドレス。有効な文字は 0-9、*、# です。

H323 H323Alias ID

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

H.323 エイリアス ID を定義します。これは、H.323 ゲートキーパー上のデバイスのアドレス指定に使用され、コールリストに表示されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 49)

H.323 エイリアス ID です。例: "firstname.lastname@company.com", "My H.323 エイリアス ID"

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

H323 NAT モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

H323 NAT モードは、デバイスがプライベートネットワーク上にあり、ゲートキーパーに登録されていない場合に使用します。その後、H323 NAT モードを使用して、パブリック ネットワーク上のデバイスに到達できます。

NAT は IPv6 ではサポートされていません。

メモ: ビデオデバイスがゲートキーパーに登録されている場合、[H323 NAT モード] および [H323 NAT アドレス] の設定は無視されます。H323 NAT モードを使用するのではなく、ファイアウォールトラバーサル機能を持つゲートキーパーを使用することを推奨します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off/オン

Auto: 自動モードは、[H323 NAT アドレス] 設定で NAT アドレスを指定した場合にのみ機能します。

デバイスがゲートキーパーに登録されていない場合、デバイスのローカル アドレスがプライベートで、発信しているアドレス (リモート) がパブリックで、ローカル アドレスとリモート アドレスの両方が IPv4 の場合、NAT がOnになります。そうでない場合、NAT はOffになります。

これは、外部デバイス (プライベート ネットワーク外) だけでなく、プライベート ネットワーク上のデバイスにも発信できることを意味します。プライベートネットワークの通話の場合、H323 NAT アドレスは使用されません (存在している必要があります)。パブリックネットワークへの発信では、H323 NAT アドレスが使用されます。

Off: NAT がOffになり、H323 NAT アドレス設定は無視されます。この場合、ゲートキーパーを使用しない限り、プライベート ネットワーク外にあるデバイスへの発信をセットアップすることはできません。

On: NAT は常にOnになります。[H323 NAT アドレス] 設定で NAT アドレスを指定する必要があります。デバイスは、Q.931 および H.245 のプライベート IP アドレスの代わりに、常に H323 NAT アドレスをシグナリングします。H323 NAT アドレスが間違っているか、設定されていない場合、H.323 通話はセットアップできません。

H323 NAT アドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

NAT をサポートするルーターの外部/グローバル IP アドレスを定義します。このアドレスは、プライベートネットワーク外のデバイスへの通話を設定する際に公開されます。NAT アドレスが使用される場合、詳細については H323 NAT モード設定を参照してください。

ルーターでは、次のポートがビデオ デバイスの IP アドレスにルーティングされている必要があります。

* ポート 1720
* ポート 5555-6555
* ポート 2326-2487

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

IPv4 アドレス。ほとんどの場合パブリック IP アドレスで、RFC 1918 を参照してくださいが、別のプライベート アドレスの場合もあります (例えば、より大きな会社のネットワーク)。

H323 ポート割り当て

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、H.323 コールシグナリングに使用される H.245 ポート番号に影響します。

デフォルト値:

動的

値スペース:

動的/静的

動的: システムは、TCP 接続を開くときに使用するポートを割り当てます。これを行う理由は、後続のコールで同じポートを使用しないようにするためです。一部のファイアウォールはこれを攻撃の兆候と見なします。ダイナミックが選択されている場合、使用される H.323 ポートは 11000 から 20999 です。20999 に達すると、11000 から再び再開されます。ポートは、指定された範囲内でシステムによって自動的に選択されます。ファイアウォール管理者は、いつどのポートが使用されているかを推測してはなりません。上記の範囲内の割り当て方式は、通知なく変更される可能性があるためです。

静的: 静的に設定すると、ポートは静的な定義済み範囲 [5555-6555] 内に与えられます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

HttpClient 設定

HttpClient モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

HTTP(S) リクエストとレスポンスを使った外部 HTTP(S) サーバーとの通信を許可または禁止します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off:ビデオデバイスは外部 HTTP(S) サーバーと通信できません。

On:ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバーとの通信を許可されます。

HttpClient AllowHTTP

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

[HttpClient モード] 設定は、外部 HTTP(S) サーバーとの通信を許可または禁止するために使用されます。モード設定では、HTTP と HTTPS は区別されません。HttpClient AllowHTTP 設定を使用して、HTTP の使用をさらに許可または禁止する必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: ビデオデバイスは HTTPS 経由でのみ通信できます。

True: ビデオ デバイスは HTTPS と HTTP の両方で通信できます。

HttpClient AllowInsecureHTTPS

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

サーバーの証明書を最初に確認することなく、HTTPS 経由でビデオ デバイスがサーバと通信することを許可するかどうかを選択できます。

デバイスで証明書の検証プロセスをスキップすることが許可されている場合でも、自動的には行われません。証明書の検証なしでサーバとデータを交換するには、各 xCommand HttpClient コマンドで AllowInsecureHTTPS パラメータを明確に設定する必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: デバイスは、HTTPS サーバーが有効な証明書を持っていることを常に確認します。証明書の検証が失敗した場合、サーバとの通信は行われません。

True: デバイスは、サーバと通信する前に、証明書の検証プロセスをスキップできます。

HttpClient UseHttpProxy

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

UseHttpProxy 設定がいくつかあり、サービスが HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。HttpClient UseHttpProxy 設定は、HttpClient コマンドを使用するマクロおよび任意の HTTP(S) リクエストに適用されます。

この設定を有効にするには、NetworkServices HTTP プロキシ設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシ サーバーをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しない)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

HTTP フィードバックの設定

HttpFeedback TlsVerify

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、任意の HTTPS 通信のためにビデオ デバイスが HTTPS サーバーに接続する場合に適用されます (HttpClient の Post/Put/Patch/Get/Delete コマンドを参照してください)。電話帳、プロビジョニング、および外部ログサーバーについては、Phonebook Server 1 TlsVerify、Provisioning TlsVerify、およびLogging External TlsVerifyの設定を参照してください。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書はデバイスの CA リストに含まれ、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされる必要があります。

通常、HTTPS 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。このルールには 2 つの例外があります。1) 互換性の理由から、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは常にバージョン 1.2 を使用します。

メモ: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値はOffに設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、古い NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的にOnに設定されていなかった。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

HttpFeedback UseHttpProxy

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

UseHttpProxy 設定がいくつかあり、サービスが HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。HttpFeedback UseHttpProxy 設定は、ビデオ デバイスから送信されるフィードバックに適用されます。

この設定を有効にするには、NetworkServices HTTP プロキシ設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシ サーバーをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しない)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ログの設定

Logging CloudUpload Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスからのログを Webex クラウド サービスにアップロードできるかどうかを指定します。デバイス ログは、クラウドに送信される前に、個人を特定できる情報がフィルタリングされます。

有効にすると、ログのアップロードはデバイス自体または Control Hub から開始できます。デバイスのユーザー インターフェイスには [ログの送信] ボタンが表示され、Control Hub の [デバイス] ページには [ログの管理] セクションが表示されます。

デバイスは、Webex クラウド サービスに登録されているか、Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスからのログは Webex クラウドにアップロードできません。

On : デバイスからのログを Webex クラウドにアップロードできます。

Logging Debug Bluetooth

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

このオプションが有効な場合、ビデオ会議デバイスは Bluetooth 接続のセットアップとメンテナンスに関する詳細情報をログに記録します。これは、Bluetooth 接続の問題をトラブルシューティングする場合に役立ちます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 基本的な Bluetooth 情報のみをログに記録します。

On : Bluetooth 接続に関する大量の情報がログに記録されます。

Logging Debug Wifi

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

このオプションが有効な場合、デバイスはデバイスとアクセス ポイント間の Wi-Fi 接続のセットアップとメンテナンスに関する詳細情報をログに記録します。これは、Wi-Fi 接続の問題をトラブルシューティングする場合に役立ちます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 基本的な Wi-Fi 情報のみをログに記録します。

On : Wi-Fi 接続に関する大量の情報がログ記録されます。

Logging External Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

リモート syslog サーバーにデバイスログを保存するかどうかを指定します。[ログモード] 設定が [Off] に設定されている場合、この設定は影響しません。

[ログ外部サーバアドレス] 設定で、リモートサーバーのアドレスを入力する必要があります。[ロギング外部サーバ ポート] 設定で別段の指定がない限り、標準の syslog ポートが使用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスのログはリモート syslog サーバーに保存されません。

On : デバイスログはリモート syslog サーバーに保存されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Logging External Protocol

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

リモートログサーバーに対して使用するプロトコルを指定します。TLS (トランスポート層セキュリティ) 上の syslog プロトコル、またはプレーンテキストの syslog プロトコルのいずれかを使用できます。Syslog プロトコルの詳細については、RFC 5424 を参照してください。

デフォルト値:

SyslogTLS

値スペース:

Syslog/SyslogTLS

Syslog: プレーンテキスト形式の Syslog プロトコル。

SyslogTLS: TLS 上の Syslog プロトコル。

Logging External Server Address

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

リモート syslog サーバーのアドレスを指定します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Logging External Server Port

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

リモート syslog サーバーがメッセージをリッスンするポートです。0 に設定すると、デバイスは標準の syslog ポートを使用します。標準の syslog ポートは、syslog が 514、TLS 経由の syslog が 6514 です。

デフォルト値:

514

値スペース:

整数 (0..65535)

リモート syslog サーバーが使用しているポート番号。0 は、デバイスが標準の syslog ポートを使用することを意味します。

Logging External TlsVerify

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ビデオ デバイスがリモート syslog サーバーに接続するときに適用されます。これは、通常のロギング (ロギング エクスターナル モード設定を参照) と監査ロギング (セキュリティ監査ロギング モード設定を参照) の両方に適用されます。

デバイスと syslog サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、事前にインストールされているか、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされたデバイスの CA リストに含まれている必要があります。

Syslog 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは syslog サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、syslog サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

ロギング内部モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

システムログをデバイスに保存するかどうかを指定します (ローカルファイル)。これらは、デバイスからログ バンドルをダウンロードするときに取得するファイルです。[ログモード] 設定が [Off] に設定されている場合、この設定は影響しません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : システムログはデバイスに保存されません。

On : システムログはデバイスに保存されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ログモード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

デバイスのログモードを定義します (syslog サービス)。無効にすると、syslog サービスは開始せず、ほとんどのシステムログと監査ログは生成されません。過去のログと通話ログへの影響はありません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off：システムログサービスを無効にします。

On: システムログサービスを有効にします。

マクロ設定

Macros EvaluateTranspiled

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この設定は、Duktape をランタイムエンジンとして使用していた古いマクロランタイム環境をデコミッションするグレースフル非推奨戦略の一部です。このランタイム エンジンは、ECMA Script 2009 スタイルの JavaScript コード標準もサポートしており、Babel と呼ばれるトランスパイラー ライブラリを使用して内部で行われていました。

今後のランタイム エンジンは Quickjs であり、ECMA Script 2015/2020 コーディング標準のみをサポートします。QuickJS は、このソフトウェア リリースのデフォルトのランタイム エンジンです (必要に応じてマクロ QuickJS 設定を使用して、ランタイム エンジンを変更します)。しかし、Babel トランスパイラーはまだ使用されています。

QuickJSには、Babel トランスパイラーが無効になったときに完全に発揮される、速度と機能の両方に関する大きな利点があります。しかし、古いスタイルの JavaScript 構文と純粋な QuickJS 環境の間には、古いスタイルの JavaScript 構文の違いがいくつかあるため、Cisco は既存のマクロ展開が突然機能しなくなることを防ぐメカニズムを導入しました。

マクロの EvaluateTransfiled 設定は、マクロ エンジンが、javascript ライブラリをインポートするための古いスタイルの「require」形式を引き続きサポートするかどうかを制御します。const xapi = require("xapi").

古いマクロがこの構文を使用していたため、Cisco デバイスは Bable ライブラリを使用して後方互換性を提供することで、これを適切に許可していました。

よりモダンなライブラリのインポート構文をすでに使用しているマクロの場合。import xapi from "xapi" を使用するには、Macros EvaluateTranspiled を False に設定する必要があります。

「Macros EvaluateTranspiled を False に、Macros QuickJSEngine を On に設定し、マクロがデバイス上で意図したとおりに動作している」場合、マクロ ランタイム環境は、今後すべてのデバイスがあるべき状態になります。この動作は今後のリリースで強制します。

マクロの EvaluateTranspiled は一時的な設定であり、すべての顧客がライブラリのインポートに古い JavaScript スタイルを使用するマクロがなくなったことを Cisco が判断した時点で削除される一時的な設定であることに注意してください。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

True:バベルのトランスパイルが有効になっています。マクロランタイムエンジンは、古い形式の「require」を受け付けます。const xapi = require("xapi")

False:バベルのトランスパイルが無効になっています。古い形式の "require" を含むマクロは失敗します。例: const xapi = require("xapi")例えば、import xapi from "xapi" のみが機能します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Macros Mode

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

マクロを使用すると、ビデオデバイスの一部を自動化する JavaScript コード スニペットを記述して、ビヘイビアをカスタマイズすることができます。マクロの使用はデフォルトでは無効になっていますが、マクロ エディターを初めて開くとき、デバイスでマクロの使用を有効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。デバイスのマクロを手動で有効にするか、完全に無効にする場合は、この設定を使用します。マクロエディタ内でマクロの使用を無効にすることができます。ただし、端末がリセットされるたびにマクロが自動的に再度有効になるため、これによりマクロの実行が完全に無効になるわけではありません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off：このデバイスでのマクロの使用を完全に無効にします。

On：このデバイスでマクロの使用を有効にします。

マクロの自動開始

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

すべてのマクロは、マクロ ランタイムと呼ばれる、ビデオ デバイス上の単一のプロセスで実行されます。デフォルトで実行されているはずですが、手動で停止および開始することもできます。デバイスを再起動すると、自動開始が有効になっている場合、ランタイムが自動的に再開します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off：マクロランタイムは、装置の再起動後に自動的に開始されません。

On: マクロランタイムは、装置の再起動後に自動的に開始されます。

Macros Diagnostics JavascriptErrors

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

マクロまたはマクロに関連するエラーの診断メッセージを発行するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off：マクロがログに記録したエラーを診断として公開しません。

On：マクロログエラーを診断として表示します。

Macros QuickJSEngine

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

マクロコードの実行に使用する JavaScript エンジンタイプを変更します。この構成の変更はお勧めしません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

On：Quickjs をマクロ javascript エンジンとして使用します。

Off：マクロの javascript エンジンとして Duktape を使用します。

マクロ無応答タイムアウト

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

マクロは継続的に監視され、応答しないコードを検出します。マクロが応答しない場合、通常はプログラミング エラーのサインですが、システム リソースが制限されていることが原因の場合もあります。値を増やすと、マクロは終了せずにより長く実行できます。値を減らすと、不良なマクロがシステムリソースを消費しなくなります。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0..65535)

無応答のマクロを終了するまでの秒数を設定します。値 0 は全体的にチェックを無効にします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

MicrosoftTeams の設定

MicrosoftTeams Diagnostics ShowUnsupportedConsoleNotification

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

ビデオデバイスが Microsoft Teams を実行するように構成されている場合、2 GB メモリの Room Navigator ーはサポートされません。この構成で 2 GB Room Navigator を使用している場合は、メイン画面と、デバイス UI とデバイス ウェブ インターフェイスの問題と診断ページの両方で、通知 (サポートされていないタッチ デバイス) を表示します。サポート対象外の Room Navigator を使用している場合は、Cisco サポートに連絡して交換してください。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: メイン画面から通知を非表示にする設定に関係なく、問題と診断のページで通知を受け取ります。

True: メイン画面に通知を表示します。

MicrosoftTeams CVI CrossTenant

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Microsoft Teams ミーティングのクロステナント参加機能を構成します。この機能により、Video Integration for Microsoft Teams (VIMT) を使用するデバイスは、Microsoft Teams ボタンを使用して、別の企業またはテナントが主催する Teams ミーティングに参加できます。この方法では、WebRTC 直接ゲスト参加を使用する代わりに、VIMT ミーティング エクスペリエンスを提供します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/無効/有効

Auto: ミーティング招待状とデバイス構成に基づいて、クロステナント参加を自動的に有効にします。

無効:クロステナント参加機能を無効にします。

有効化: クロステナント参加機能を有効にします。

MicrosoftTeams のログレベル

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Microsoft Teams Rooms および関連コンポーネントからのログの詳細レベルを変更します。

デフォルト値:

情報

値スペース:

デバッグ/エラー/情報/詳細/警告

ログ記録のレベルを詳細化します。Verbose が最高レベルで、Error が最低レベルです。

MicrosoftTeams ログモード

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Microsoft Teams Rooms および関連コンポーネントからのログ記録を有効または無効にします。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

MicrosoftTeams Zoom クロスローンチ

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Microsoft Teams Room から Zoom カレンダー会議に参加するときに、Zoom CRC 会議が RoomOS ネイティブ アプリ経由で直接起動されないように設定します。無効にすると、代わりに Microsoft Teams Room 内で Zoom WebRTC 会議が開始されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Disabled

自動 : Zoom のクロス起動が有効です。

無効: Zoom のクロス起動は無効です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク設定

ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張機能 (DNSSEC) は、DNS の一連の拡張機能です。署名されたゾーンの DNS 応答を認証するために使用されます。未署名のゾーンは引 き続き許可されます。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off : ドメインネームシステムのセキュリティ拡張機能を無効化します。
On : ドメインネームシステムのセキュリティ拡張機能を有効化します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。
範囲 : 1..1

ネットワーク [n] DNS ドメイン名

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

DNS ドメイン名は、非修飾名に追加される既定のドメイン名サフィックスです。
例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyDevice」である場合、DNS ルックアップは「MyDevice.company.com」になります。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 64)
DNS ドメイン名です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。
範囲 : 1..1

ネットワーク [n] DNS サーバ [m] アドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

DNS サーバーのネットワークアドレスを定義します。最大 3 つのアドレスを指定することができます。ネットワークアドレスが不明な場合は、管理者またはインターネットサービスプロバイダに連絡してください。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 64)
有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。
範囲 : 1..1

m: DNS サーバーを識別するためのインデックスです。**最大で 3 つの DNS サーバーを指定できます。**
範囲 : 1..3

ネットワーク [n] ファイアウォール 着信 H323

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

着信 H.323 コールに許可される IP アドレス (IPv4 および IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切る必要があります。ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで、N は IPv4 の場合は 1 ～ 32、IPv6 の場合は 1 ～ 128 です。/N は最初の N ビットが設定されているネットワーク マスクを示すものです。たとえば、192.168.0.0/24 は、アドレスの最初の 24 ビットである 192.168.0 で始まるすべてのアドレスと一致します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
IP アドレス範囲

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] ファイアウォール着信ペアリング

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスへのリモート タッチ パネルのペアリングに許可される IP アドレス (IPv4 および IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切る必要があります。ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで、N は IPv4 の場合は 1 ～ 32、IPv6 の場合は 1 ～ 128 です。/N は最初の N ビットが設定されているネットワーク マスクを示すものです。たとえば、192.168.0.0/24 は、アドレスの最初の 24 ビットである 192.168.0 で始まるすべてのアドレスと一致します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
IP アドレス範囲

ネットワーク [n] ファイアウォール 着信 SIP

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

直接の着信 SIP 通話に許可される IP アドレス (IPv4 および IPv6) を定義します。この設定は直接 SIP 通話にのみ適用され、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) またはその他の SIP プロキシを経由してルーティングされる通話には影響しません。

複数の IP アドレスはスペースで区切る必要があります。ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで、N は IPv4 の場合は 1 ～ 32、IPv6 の場合は 1 ～ 128 です。/N は最初の N ビットが設定されているネットワーク マスクを示すものです。たとえば、192.168.0.0/24 は、アドレスの最初の 24 ビットである 192.168.0 で始まるすべてのアドレスと一致します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
IP アドレス範囲

ネットワーク [n] FQDN

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) は、デフォルトでは DNS (ドメインネームシステム) 検索ドメインとシステムユニット名から生成されます。この設定により、必要に応じて FQDN を明示的に指定できます。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
完全修飾ドメイン名。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。
範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IEEE8021X モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

このデバイスはIEEE 802.1X LANネットワークに接続でき、これはイーサネットネットワークの認証済みネットワークアクセスを提供するためのポートベースのネットワークアクセス制御を使用します。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off : 802.1X 認証が無効です。
On : 802.1X 認証は有効です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。
範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] IEEE8021X TlsVerify

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

TLS が使用される場合、802.1x 接続のサーバ側の証明書の検証がローカル CA リスト中の証明書と照合されます。CA リストがビデオ会議端末にアップロードされている必要があります。これはデバイスのウェブ インターフェイスから実行できます。

この設定は Network [1] IEEE8021X Eap Tls が 有効 (On) の場合にのみ有効です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : オフに設定すると、TLS 接続が許可されます、ローカル CA リストに対してサーバ側の X.509 証明書を検証せずに。CA リストがデバイスにアップロードされていない場合、これは通常選択する必要があります。

On : Onに設定すると、サーバ側の X.509 証明書はすべての TLS 接続に対してローカル CA リストに対して検証されます。有効な証明書を持つサーバーのみが許可されます。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IEEE8021X UseClientCertificate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

802.1x 接続で秘密鍵/証明書を使った認証。認証用の X.509 証明書がビデオ デバイスにアップロードされている必要があります。これはデバイスのウェブ インターフェイスから実行できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : オフに設定すると、クライアント側の認証は使用されません (サーバ側のみ)。

On: Onに設定すると、クライアント (ビデオ デバイス) はサーバとの相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IEEE8021X アイデンティティ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

802.1X 認証のユーザ名を定義します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

802.1X 認証のユーザ名です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IEEE8021X パスワード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

802.1X 認証のパスワードを定義します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 50)

802.1X 認証のパスワードです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] IEEE8021X AnonymousIdentity

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

802.1X 匿名 ID 文字列は、EAP-PEAP および EAP-TTLS のような異なるトンネル ID をサポートする EAP (拡張認証プロトコル) タイプで非暗号化 ID として使用されます。設定すると、匿名 ID は最初の (暗号化されていない) EAP Identity Request で使用されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

802.1X 匿名 ID 文字列です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Md5

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Md5 (メッセージ ダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは共有シークレットに依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。Md5 は弱いセキュリティレベルです。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : EAP-MD5 プロトコルが無効です。

On : EAP-MD5 プロトコルが有効です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

Network [n] IEEE8021X Eap Ttls

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

TTLS (Tunneled Transport Layer Security) モードを定義します。クライアント証明書を必要とせずに LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom により開発されました。通常、Agere Systems、Proxim、および Avaya でサポートされています。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : EAP-TTLS プロトコルが無効です。

On : EAP-TTLS プロトコルが有効です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Tls

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

802.1x 接続での EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用を有効または無効にします。RFC 5216 で定義されている EAP-TLS プロトコルは、最も安全な EAP 標準の 1 つと考えられています。LAN クライアントはクライアント証明書を使用して認証されます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : EAP-TLS プロトコルが無効です。

On : EAP-TLS プロトコルが有効です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Peap

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Peap (保護された拡張認証プロトコル) モードを定義します。クライアント証明書を必要とせずに LAN クライアントを認証します。Microsoft、Cisco、および RSA Security により開発されました。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : EAP-PEAP プロトコルが無効です。

On : EAP-PEAP プロトコルが有効です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPStack

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスがネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要があるかどうかを選択します。この設定の変更が有効になるまでに最大で 30 秒かかる場合があります。

デフォルト値:

デュアル

値スペース:

デュアル/IPv4/IPv6

Dual : デュアルに設定すると、ネットワーク インターフェースは両方の IP バージョンで同時に動作し、IPv4 と IPv6 アドレスを同時に持つことができます。

IPv4: IPv4 に設定すると、デバイスはネットワーク インターフェイスで IPv4 を使用します。

IPv6: IPv6 に設定すると、デバイスはネットワーク インターフェイスで IPv6 を使用します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv4 の割り当て

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。

DHCP 要求で使用されるクライアント識別子は、製品によって異なります : MAC アドレス (Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、Codec Pro)、そして RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

デフォルト値:

DHCP

値スペース:

DHCP/静的

静的: アドレスは、ネットワーク IPv4 アドレス、ネットワーク IPv4 ゲートウェイ、およびネットワーク IPv4 サブネットマスク設定 (静的アドレス) を使用して手動で構成する必要があります。

DHCP: デバイスアドレスは DHCP サーバーにより自動的に割り当てられます。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv4 アドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの静的 IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。[ネットワーク IPv4 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。[ネットワーク IPv4 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv4 インターフェース識別子

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

IPv4 DHCP に使用する識別子を選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/MAC/Opaque

MAC: デバイスは「01」を送信し、その後にデバイスの MAC アドレスが識別子として送信されます。

Opaque: デバイスは RFC4361 ベースの DHCP 一意識別子 (DUID) を使用します。DUID-LL、タイムスタンプのないリンクレイヤーアドレスに基づいています。

Auto: MAC または Opaque の識別子としての使用は製品によって異なります。MAC アドレス (Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、および Codec Pro)、RFC 4361で指定された DHCP 一意識別子 (DUID) (Room Navigator を含む他の製品) です。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

IPv4 ネットワーク サブネット マスクを定義します。[ネットワーク IPv4 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv6 の割り当て

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが IPv6 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。

DHCP 要求で使用されるクライアント識別子は、製品によって異なります : MAC アドレス (Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、Codec Pro)、そして RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

デフォルト値:

Autoconf

値スペース:

自動設定/DHCPv6/静的

静的:デバイスとゲートウェイ IP アドレスは、[ネットワーク IPv6 アドレス] および [ネットワーク IPv6 ゲートウェイ] 設定を使用して、手動で構成する必要があります。NTP および DNS サーバアドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。ネットワーク IPv6 DHCPOptions 設定により、使用する方法が決まります。

DHCPv6: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については、RFC 3315 を参照してください。ネットワーク IPv6 DHCPOptions 設定は無視されます。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェースの IPv6 ステートレス自動構成を有効にします。詳細については、RFC 4862 を参照してください。NTP および DNS サーバアドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。ネットワーク IPv6 DHCPOptions 設定により、使用する方法が決まります。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] IPv6 アドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの静的 IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。[ネットワーク IPv6 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

ネットワークマスクを含む有効な IPv6 アドレス。例: 2001:DB8::/48

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv6 ゲートウェイ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、[ネットワーク IPv6 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv6 DHCP オプション

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

NTP および DNS サーバアドレスなどの DHCP オプションのセットを DHCPv6 サーバから取得します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得を無効にします。

On: DHCPv6 サーバから選択した DHCP オプションセットの取得を有効にします。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] IPv6 インターフェイス識別子

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの IPv6 インターフェイス識別子を定義します。MAC または不透明性のいずれかを選択したインターフェイス識別子により、IPv6 アドレスの一部を生成するために使用される方法が決定されます。これは、リンクローカル IPv6 アドレスとステートレス アドレス自動設定 (SLAAC) アドレスの両方に適用されます。

アドレスには、デバイスによって生成された 64 ビットのプレフィックスと 64 ビットのインターフェイス識別子が含まれます。MAC では、RFC-2373 で説明されているように、EUI-64 ベースのインターフェイス識別子が生成されます。

Opaque では、RFC-7217 で説明されているように、デバイスの初回起動時にランダムな 64 ビット インターフェイス識別子が生成され、これは永久に使用されるか、出荷時設定にリセットされるまで使用されます。

デフォルト値:

MAC

値スペース:

MAC/Opaque

MAC: インターフェイス識別子の方法として MAC を選択します。

オペーク: インターフェイス識別子の方法としてオペークを選択します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] MTU

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

イーサネット MTU (最大転送ユニット) サイズを定義します。MTU サイズは、ネットワーク インフラストラクチャによってサポートされている必要があります。最小サイズは、IPv4 では 576、IPv6 では 1280 です。

デフォルト値:

1500

値スペース:

整数 (576..1500)

MTU (バイト) の値を設定します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] QoS モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

QoS (サービスの質) は、ネットワーク内の音声、ビデオ、その他のデータの優先順位を処理する方法です。QoS 設定がインフラストラクチャによってサポートされている必要があります。Diffserv (Differentiated Services) は、ネットワーク トラフィックを分類および管理するための、シンプルでスケーラブルな粗粒度のメカニズムを指定するネットワーク アーキテクチャです。IP ネットワーク上の QoS 優先順位を提供します。

デフォルト値:

Diffserv

値スペース:

Diffserv/オフ

Off: QoS 方式は使用されません。

Diffserv: Network QoS Diffserv 音声、Network QoS Diffserv ビデオ、Network QoS Diffserv データ、Network QoS Diffserv シグナリング、Network QoS Diffserv ICMPv6 および Network QoS Diffserv NTP 設定は、パケットの優先順位付けに使用されます。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

Network [n] QoS Diffserv Audio

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークで音声パケットの優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0から63までの10進数にマッピングされます。音声には EF を使用することを推奨します。EF は 10 進数の 46 と同等です。この設定は WebRTC ミーティングにも適用されます。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

デフォルト値:

46

値スペース:

整数 (0..63)

IP ネットワークにおける音声パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

Network [n] QoS Diffserv Video

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークでのビデオ パケットの優先順位を定義します。プレゼンテーション チャンネル (共有コンテンツ) のパケットもビデオ パケット カテゴリに含まれます。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0から63までの10進数にマッピングされます。ビデオには AF41 を使用することを推奨します。AF41 は10進数の 34 と同等です。この設定は WebRTC ミーティングにも適用されます。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

デフォルト値:

34

値スペース:

整数 (0..63)

IP ネットワークでのビデオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] QoS Diffserv データ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

データパケットの優先順位を IP ネットワークで定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0 ～ 63 の 10 進数値にマップされます。データには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 に相当します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

デフォルト値:

34

値スペース:

整数 (0..63)

IP ネットワーク内のデータ パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] QoS Diffserv シグナリング

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

リアルタイム操作にとって重要 (時間に敏感) であると見なされるシグナリング パケットが IP ネットワークで持つべき優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0 ～ 63 の 10 進数値にマップされます。シグナリングには CS3 を使用することをお勧めします。CS3 は 10 進数値の 24 に相当します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

デフォルト値:

24

値スペース:

整数 (0..63)

IP ネットワーク内のシグナリング パケットの優先度を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] QoS Diffserv ICMPv6

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークで ICMPv6 パケットの優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、063 の 10 進数でマッピングされます。ICMPv6 では 0 を使用することを推奨します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..63)

IP ネットワークでの ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークで NTP パケットの優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、063 の 10 進数でマッピングされます。NTP では 0 を使用することを推奨します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..63)

IP ネットワークにおける NTP パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Network [n] RemoteAccess Allow

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

SSH/HTTP/HTTPS からデバイスへのリモート アクセスを許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスは、空白で区切られます。

ネットワークマスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定します。ここで、N は 1-32 (IPv4 の場合)、N は 1-128 (IPv6 の場合) です。/N は最初の N ビットが設定されているネットワーク マスクを示すものです。したがって、192.168.0.0/24 は、192.168.0 で始まるアドレスに一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] 速度

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

イーサネット リンク速度を定義します。デフォルト値はネットワークとネゴシエートして速度を自動的に設定しますので、変更しないことをお勧めします。オートネゴシエーションを使用しない場合は、選択した速度がネットワーク インフラストラクチャで最も近いスイッチでサポートされていることを確認してください。

デフォルト値:

自動

値スペース:

10 フル/10 ハーフ/100 フル/100 ハーフ/1000 フル/自動

Auto: リンク速度を自動ネゴシエートします。

10half: リンクを強制的に 10Mbps 半二重にします。

10full: リンクを強制的に 10 Mbps 全二重にします。

100half: リンクを強制的に 100 Mbps 半二重にします。

100full: リンクを強制的に 100 Mbps 全二重にします。

1000full: リンクを 1 Gbps 全二重に強制します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] トラフィック制御モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ネットワークトラフィック制御モードを定義して、ビデオパケットの伝送速度を制御する方法を決定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off:リンク速度でビデオパケットを送信します。

On:ビデオパケットを最大20Mbpsで送信します。送信ネットワークトラフィックのバーストを滑らかにするために使用できます。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワーク [n] VLAN 音声モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

VLAN 音声モードを定義します。プロビジョニングのインフラストラクチャとして Cisco UCM Cisco Unified Communications Manager がある場合、VLAN 音声モードは自動的に設定されます。自動モードが適切に動作するには、NetworkServices CDP モードまたは NetworkServices LLDP モードのいずれかを有効にする必要があります。さらに、CDP 経由で受信した VLAN 値は、LLDP 経由で受信した VLAN 値よりも優先されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Manual/Off

自動: Cisco Discovery Protocol (CDP) または Link Layer Discovery Protocol (LLDP) (使用可能な場合) が音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP または LLDP が利用できない場合、VLAN は有効になりません。

Manual: VLAN ID はネットワーク VLAN 音声 VlanId 設定を使用して手動で設定されます。CDP または LLDP が使用可能な場合、手動で設定された値は CDP または LLDP によって割り当てられた値によって上書きされます。

Off: VLAN は有効ではありません。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、ネットワーク VLAN 音声モードが手動に設定されている場合にのみ有効になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1..4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲 : 1..1

ネットワークサービス設定

ネットワークサービス CDP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。CDP を有効にすると、デバイスは特定の統計とデバイス識別子を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP と NetworkServices LLDP モードの両方が無効になっている場合、ネットワーク VLAN 音声モード: 自動設定は機能しません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : CDP デーモンが無効化されています。

On : CDP デーモンが有効になっています。

NetworkServices CommonProxy

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

RoomOS では新しいプロキシ サポート モジュールが段階的に導入されています。この設定を使用して、新しいモジュールを有効または無効にします。有効にすると、RoomOS からのすべての発信 HTTP/S トラフィックが新しいサポート モジュールを通過します。

新しいモジュールへの切り替えが完了すると、この設定は削除されます。

現在のソフトウェア リリースで有効にする主な目に見える影響は、ローカルにペアリングされた Room Navigator のウェブ エンジンがインターネットにアクセスできることです (デバイスで構成されている HTTP プロキシを使用)。また、NetworkServices HTTP プロキシ認証方法設定を有効にするための要件でもあります。

デフォルト値:

Disabled

値スペース:

無効/有効

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワークサービス検出プロトコル システム名

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

送信される CDP (Cisco Discovery Protocol) および LLDP (Link Layer Discovery Protocol) パケットに含まれるシステム名 TLV (タイプ、長さ、値) のソースを選択します。

システム名は、デバイスの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレス (SEPMAC) または完全修飾ドメイン名 (FQDN) から派生します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/FQDN/SEPMAC

自動: CDP と LLDP の両方が有効になっている場合、システムはデフォルトで SEPMAC (デバイスの MAC アドレス) を識別子として使用します。LLDP モードのみが有効になっている場合、システムはデフォルトで完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用します。FQDN が利用できない場合は、SEPMAC がフォールバック識別子として機能します。

FQDN: CDP と LLDP の両方の送信システム名 TLV で FQDN を使用します。

SEPMAC: CDP と LLDP の両方の送信システム名 TLV で SEPMAC を使用します。

ネットワークサービス H323 モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが H.323 通話の受発信を可能にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : H.323 通話の受発信を無効にします。

On: H.323 通話の受発信を有効にします。

ネットワークサービス HTTP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

HTTP または HTTPS (HTTP Secure) プロトコルを使用したデバイスへのアクセスを許可するかどうかを定義します。デバイスのウェブ インターフェイスは HTTP または HTTPS を使用することに注意してください。この設定がOffになっている場合、デバイスのウェブ インターフェイスを使用することはできません。

追加のセキュリティ (ウェブサーバから返されるリクエストおよびページの暗号化と復号化) のため、HTTPS のみを許可すること。

メモ: デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされていない限り、以前のソフトウェア バージョンから CE9.4 (またはそれ以降) にアップグレードされたデバイスのデフォルト値は HTTP+HTTPS です。

デフォルト値:

HTTPS (CE9.4 で HTTP+HTTPS から HTTPS に変更)

値スペース:

HTTP+HTTPS/HTTPS/オフ

Off: HTTP または HTTPS 経由のデバイスへのアクセスは許可されません。

HTTP+HTTPS: デバイスへのアクセスは HTTP と HTTPS の両方で許可されます。

HTTPS: デバイスへのアクセスは HTTPS 経由で許可されますが、HTTP 経由では許可されません。

NetworkServices HTTP プロキシ認証方法

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが認証付き HTTP プロキシを使用するように構成されている場合、これを Basic に設定すると、デバイスは最初の HTTP CONNECT で発信プロキシ認証ヘッダーを送信し、各新しい接続の HTTP 認証チャレンジ/レスポンス ラウンド トリップを保存します。

この設定を有効にするには、NetworkServices CommonProxy 設定を Enabled にする必要があります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/基本

Auto: NetworkServices HTTP Proxy LoginName 設定で説明されているように、デバイスは認証スキームを自動的に選択します。

Basic: Basic HTTP 認証スキームのみが使用されます。発信 proxy-authentication ヘッダーは、プロキシからの個別の認証チャレンジなしで送信されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices HTTP Proxy LoginName

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これは HTTP プロキシに対する認証のための資格情報のユーザ名部分です。次の HTTP 認証スキームをサポートします: MD5 アルゴリズムを使用したダイジェスト、および Basic HTTP 認証スキーム。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 80)

認証ログイン名です。

NetworkServices HTTP プロキシ モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用にプロキシ サーバーを設定できます。HTTP プロキシは、手動でのセットアップ、自動構成 (PACUrl)、完全自動化 (WPAD)、またはOffにすることができます。

NetworkServices HTTP Proxy Mode がOffになっていない場合、HttpClient UseHttpProxy、HttpFeedback UseHttpProxy、および WebEngine UseHttpProxy 設定で、どのサービスがプロキシを使用するかをさらに指定することができます。

NetworkServices HTTP Proxy Mode がOffになっていない場合、Webex クラウドとの通信は常にプロキシ経由になります。

プロキシ モードに関係なく、デバイスはプロキシ経由で CUCM または MRA (Expressway 経由の CUCM) と通信することはありません。

NetworkServices CommonProxy が Enabled に設定されている場合、HTTP プロキシ認証はすべてのプロキシ モードでサポートされます。認証データは NetworkServices HTTP Proxy LoginName/Password 設定で構成されます。PAC ファイルは、特定のリクエストに対して任意の数の異なるプロキシを返すことができます。デバイスはこれらの資格情報を使用して、要求しているプロキシに対して認証を試みます。[NetworkServices CommonProxy] が [Disabled] に設定されている場合、HTTP プロキシ認証は手動プロキシ モードでのみサポートされます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

手動/オフ/PACUrl/WPAD

Manual : [ネットワークサービス] [HTTP プロキシ URL] 設定にプロキシ サーバーのアドレスを入力します。

Off : HTTP プロキシモードがOffになります。

PACUrl: HTTP プロキシは自動構成されます。PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を NetworkServices HTTP Proxy PACUrl 設定で入力する必要があります。

WPAD: WPAD (ウェブプロキシ自動検出) により、HTTP プロキシは完全に自動化され、自動構成されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices HTTP Proxy PACUrl

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を設定します。NetworkServices HTTP Proxy Mode が PACUrl に設定されている必要があります。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL。

NetworkServices HTTP プロキシ パスワード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これは HTTP プロキシに対する認証のための資格情報のパスワード部分です。次の HTTP 認証スキームをサポートします: MD5 アルゴリズムを使用したダイジェスト、および Basic HTTP 認証スキーム。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 64)
認証パスワードです。

NetworkServices HTTP プロキシ URL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

HTTP プロキシサーバーの URL を設定します。NetworkServices HTTP Proxy Mode が手動に設定されている必要があります。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
HTTP プロキシサーバーの URL。

ネットワークサービス HTTPS OCSP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

クライアント証明書がウェブ ユーザ インターフェイスへのログイン資格情報として使用され、xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate が有効な場合、オンライン証明書状況プロトコル (OCSP) レスポンダー サービスを使用して、クライアント証明書の失効状況を確認できます。

[モード] が [オン] に設定されている場合、ウェブ UI はクライアント証明書の OCSP URL を調べ、ホストに連絡してクライアントの証明書の有効性ステータスを確認します。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
オフ/On : OCSP クライアント証明書の検証を有効/無効にします。

ネットワークサービス HTTPS OCSP URL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

クライアントの証明書の有効性を確認するために使用される OCSP サーバーの URL を指定します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
有効な URL。

NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

HTTPS で許可される最も低いバージョンの TLS (トランスポート層セキュリティ) プロトコルを設定します。

デフォルト値:
TLSv1.2

値スペース:
TLSv1.1/TLSv1.2/TLSv1.3
TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。
TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。
TLSv1.3: TLS バージョン 1.3 以降のサポート。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

HTTP Strict Transport Security ヘッダーを使用すると、ウェブサイトはブラウザに、HTTP を使用してサイトをロードするべきではなく、HTTP を使用してサイトにアクセスしようとするすべての試みを HTTPS リクエストに自動的に変換することを通知できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : HTTP のストリクト トランスポート セキュリティ機能が無効になります。

On : HTTP のストリクトトランスポートセキュリティ機能が有効です。

NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ビデオデバイスが HTTPS クライアント (ウェブ ブラウザなど) に接続するとき、クライアントは、自身を識別するためにビデオデバイスに証明書を提示するよう要求することができます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : クライアント証明書を確認しません。

On: クライアントは、信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示する必要があります。これには、信頼できる CA のリストが事前にデバイスにアップロードされている必要があります。

ネットワークサービス LLDP モード

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

LLDP (Link Layer Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。注意: LLDP と NetworkServices CDP モードの両方が有効になっている場合、CDP 経由で受信したネットワーク設定は LLDP 経由で受信したネットワーク設定よりも優先されます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

オフ/オン/パッシブ

Off: LLDP デーモンが無効化されています。

オン: LLDP デーモンは、デバイスの統計情報と識別子を LLDP 対応スイッチに報告します。また、CDP モードが無効になっている場合は、ネットワーク VLAN 音声モードと連携して VLAN 設定も構成します。

パッシブ: LLDP デーモンは、デバイスの統計情報やデバイス識別子を報告せず、VLAN 設定も構成しません。LLDP 経由で受信した情報のみを収集します。

ネットワークサービス NTP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、デバイスの時刻と日付を基準タイム サーバーに同期させるために使用されます。タイム サーバーは時間の更新について定期的に照会されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Manual/Off

Auto: デバイスは時間の参照に NTP サーバーを使用します。既定では、サーバアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバーが使用されない場合、または DHCP サーバーが NTP サーバアドレスを提供しない場合、ネットワークサービス NTP サーバ [n] アドレス設定で指定されている NTP サーバアドレスが使用されます。

手動: デバイスは、時間の参照に NetworkServices NTP Server [n] アドレス設定で指定されている NTP サーバーを使用します。

Off: デバイスは NTP サーバーを使用しません。NetworkServices NTP Server [n] アドレスの設定は無視されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

NetworkServices NTP Mode が手動に設定されている場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定され、かつ DHCP サーバーがアドレスを提供しない場合に使用される NTP サーバーのアドレスです。

デフォルト値:

"0.tandberg.pool.ntp.org"

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲 : 1..3

NetworkServices NTP サーバ [n] キー

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

NTP 情報が信頼できるソースからのものであることを確認するために、ビデオ デバイスは NTP ソースが使用する ID/キー ペアを知っている必要があります。[NetworkServices NTP Server [n] Key] 設定を使用してキーを指定します。キーの先頭に「HEX:」を付けます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 2045)

NTP ソースが使用する ID/キー ペアの一部であるキー。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲 : 1..3

NetworkServices NTP Server [n] KeyId

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

NTP 情報が信頼できるソースからのものであることを確認するために、ビデオ デバイスは NTP ソースが使用する ID/キー ペアを知っている必要があります。ID に NetworkServices NTP Server [n] KeyId 設定を使用します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 10)

NTP ソースが使用する ID/キー ペアの一部である ID。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲 : 1..3

NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithm

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

NTP サーバーが使用する認証ハッシュ関数、およびタイム メッセージを認証するためにビデオデバイスが使用する必要がある認証ハッシュ関数を選択します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

なし/SHA1/SHA256

なし: NTP サーバーはハッシュ関数を使用しません。

SHA1: NTP サーバーは SHA-1 ハッシュ関数を使用します。

SHA256: NTP サーバーは SHA-256 ハッシュ関数 (SHA-2 ファミリーのハッシュ関数) を使用します。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲 : 1..3

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices PTP 優先順位

適用対象: RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

コーデック内部ネットワークでのコーデック PTP 優先順位を決定します。最高の PTP 優先順位を持つデバイスが、timeLeader として選択されます。値が小さいほど優先順位が高くなります。

デフォルト値:

255

値スペース:

整数 (0..255)

タイムリーダーにしたいコーデックでこの値を調整します。これは、コーデックの内部ネットワーク上の他のデバイスとの関係においてです。

ネットワークサービス SIP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが SIP 通話の受発信を可能にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : SIP 通話の受発信を無効にします。

On : SIP 通話の受発信を有効にします。

ネットワークサービス SMTP モード

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

SMTP (シンプルメール転送プロトコル) を使用して、デバイスからメールサーバーにメールを送信してリレーすることができます。これは、ユーザーが組織内外のユーザーにメールでホワイトボードやプレゼンテーションを送信することを許可する場合に必要です。

デバイスが暗号化通信にセットアップされている場合 (NetworkServices SMTP セキュリティ設定を参照)、デバイスは SMTP サーバーの証明書が検証された接続のみを許可します。証明書の確認を無視するオプションはありません。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : SMTP (およびメール) サポートを無効にします。

On : メール送信の SMTP サポートを有効にします。

ネットワークサービス SMTP サーバ

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

これは SMTP サーバーのアドレスです。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワークサービス SMTP ポート

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

このポートは、デバイスから SMTP サーバへの送信メールに使用されます。

暗号化設定 (NetworkServices SMTP Security) および SMTP サーバーの要件に基づいてポート番号を設定します。既定値を使用しないでください。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..65535)

デバイスからのメールの送信に使用されるポート。

NetworkServices SMTP ユーザ名

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

これは、SMTP サーバーでデバイスを認証するために使用される資格情報のユーザ名部分です。この設定は SMTP サーバーにより要求される場合があります。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

NetworkServices SMTP パスワード

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

これは、SMTP サーバーでデバイスを認証するために使用される資格情報のパスワード部分です。この設定は SMTP サーバーにより要求される場合があります。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

ネットワークサービス SMTP 送信元

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

このデバイスからメールメッセージを送信する場合、これはメッセージの送信元のメールボックスの名前です。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

SMTP サーバーの要件を満たすべきメールアドレス。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices SMTP セキュリティ

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスと SMTP サーバ間の通信をセキュリティ保護するかどうか、またその保護方法を選択します。

SMTP はタッチスクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用する必要があります。

デフォルト値:

StartTls

値スペース:

None/StartTls/Tls

なし: 暗号化せずに SMTP サーバーに接続します。

StartTls: 最初に暗号化なしで SMTP サーバーに接続し、それから STARTTLS コマンドを送信して暗号化接続 (TLS) にアップグレードします。

Tls: TLS (トランスポート層セキュリティ) 経由で SMTP サーバーに接続します。

NetworkServices SNMP CommunityName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は、SNMP v2c 使用時に SNMP 要求の認証に使用されます。管理システムからの SNMP 要求に一致する (大文字と小文字を区別する) コミュニティ名が含まれていない場合、メッセージは破棄され、ビデオデバイスの SNMP エージェントは応答を送信しません。

Cisco TelePresence Management Suite (TMS) がある場合、同じ SNMP コミュニティが設定されていることを確認する必要があります。

SNMP v3 を使用している場合、この設定は影響しません。SNMP v3 のユーザおよび認証は、[ネットワーク SNMP USM ユーザ] コマンドを使用して管理されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 50)

SNMP コミュニティ名です。空の文字列は、SNMP v2c がサポートされていないことを意味します。

ネットワークサービス SNMP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP (Simple Network Management Protocol) は、ネットワーク管理システムがネットワークデバイスを監視および管理するために使用します。ビデオ会議端末は SNMP v2c と v3 の両方をサポートします。どちらの場合も、デバイスは次のオブジェクト識別子 (OID) を公開するため、管理システムは基本パラメータの読み取りと書き込みができます。SNMPv2-MIB::sysDescr (読み取り)、SNMPv2-MIB::sysObjectID (読み取り)、DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance (読み取り)、SNMPv2-MIB::sysContact (読み取り/書き込み)、SNMPv2-MIB::sysName (読み取り/書き込み)、SNMPv2-MIB::sysLocation (読み取り/書き込み)、および SNMPv2-MIB::sysServices (読む) を参照してください。

NetworkServices SNMP CommunityName に空の文字列 ("") を設定することで、SNMP サポートを v3 のみに制限することができます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/ReadOnly/ReadWrite

Off: SNMP ネットワークサービスを無効にします。

読み取り専用: SNMP ネットワークサービスをクエリに対してのみ有効にします。

読み取り/書き込み: クエリとコマンドの両方に対して SNMP ネットワークサービスを有効にします。

ネットワークサービス SNMP SysNameSource

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP SysName MIB OID 要求によって返される値のソースを指定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/FQDN/システムユニット名

ネットワークサービス SNMP システム連絡先

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP サーバーが使用できる連絡先情報を定義します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 50)

ビデオデバイスの連絡先情報を示す文字列です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

NetworkServices SNMP SystemLocation

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

SNMP サーバーが使用できるロケーション情報を定義します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 50)
ビデオ会議デバイスの場所を示す文字列です。

ネットワークサービス SSH キー交換アルゴリズム レガシー許可

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

レガシー SSH キー交換アルゴリズムを許可するかどうかを指定します。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
Off : レガシーアルゴリズムは無効になります。
On : 旧式のアルゴリズムが許可されます。

ネットワークサービス SSH モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

SSH (または Secure Shell) プロトコルは、ビデオデバイスとローカル コンピュータ間の安全な暗号化通信を提供できます。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
Off : SSH プロトコルが無効です。
On : SSH プロトコルが有効です。

ネットワーク サービス SSH ホストキーアルゴリズム

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

SSH ホスト キーに使用される暗号アルゴリズムを選択します。選択肢は、2048 ビットのキーサイズを使用する RSA (リベスト-シャミア-アドルマン)、NIST 曲線 P-384 を使用する ECDSA (楕円曲線デジタル署名アルゴリズム)、および ed25519 署名スキーマを使用する EdDSA (Edwards-curve デジタル署名アルゴリズム) です。

デフォルト値:
RSA

値スペース:
ECDSA/RSA/ed25519
ECDSA: ECDSA アルゴリズム (nist-384p) を使用します。
RSA: RSA アルゴリズム (2048 ビット) を使用します。
ed25519: ed25519 アルゴリズムを使用します。

ネットワークサービス UPnP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) を完全に無効にするか、ビデオデバイスがOnになったり再起動した後の短い時間だけUPnPを有効にする。

デフォルトの動作では、ビデオ デバイスの電源を入れるか再起動すると、UPnP が有効になります。UPnP は [NetworkServices UPnP タイムアウト] 設定で定義されたタイムアウト期間後に自動的に無効になります。

UPnP が有効な場合、デバイスはネットワーク上でプレゼンスをアドバタイズします。アドバタイズメントにより、タッチ コントローラーがビデオ デバイスを自動的に検出できるようになるため、タッチ コントローラーをペアリングするために、デバイスの IP アドレスを手動で入力する必要はありません。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
Off : UPnP が無効です。ビデオ デバイスはプレゼンスをアドバタイズせず、デバイスにタッチ コントローラーをペアリングするために、デバイスの IP アドレスを手動で入力する必要があります。
On: UPnP が有効になっています。ビデオ デバイスは、タイムアウト期間が終了するまでプレゼンスをアドバタイズします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワークサービス UPnP タイムアウト

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの電源がオンになった後、または再起動された後に、UPnP が有効な状態を維持する秒数を定義します。この設定を有効にするには、NetworkServices UPnP Mode 設定を On にする必要があります。

デフォルト値:

600

値スペース:

整数 (0..3600)

範囲 : 0 から 3600 秒の間の値を選択します。

ネットワークサービス ウェブソケット

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

非セキュアおよびセキュア バージョン (ws および wss) の両方で、WebSocket プロトコルを介してデバイスの API と対話できます。WebSocket は HTTP に関連付けられているため、WebSocket を使用する前に、HTTP または HTTPS も有効にする必要があります (NetworkServices HTTP Mode 設定を参照してください)。

デフォルト値:

FollowHTTPService

値スペース:

FollowHTTPService/Off

FollowHTTPService: HTTP または HTTPS が有効な場合、WebSocket プロトコルを介した通信が許可されます。

Off: WebSocket プロトコルによる通信は許可されません。

ネットワークサービスのウェルカムテキスト

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーが SSH 経由でデバイスにログインするときに表示する情報を選択します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オフ時: ウェルカムテキスト: ログインに成功しました

On: ウェルカムテキスト: <system name>へようこそ、ソフトウェアバージョン、ソフトウェアのリリース日、ログインに成功しました。

NetworkServices Wifi Allowed

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

Wi-Fi アダプターが内蔵されているデバイスは、イーサネットまたは Wi-Fi 経由でネットワークに接続できます。イーサネットと Wi-Fi の両方がデフォルトで許可されており、ユーザーはユーザ インターフェイスからどちらを使用するかを選択できます。この設定により、管理者は Wi-Fi 構成を無効にして、ユーザ インターフェイスからセットアップできないようにすることができます。

デバイスは次の標準をサポートします: IEEE 802.11a、IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n、および IEEE 802.11ac。Codec EQ および Room Bar Pro も 802.11ax に対応しています。

デバイスは、オープン ネットワークとセキュア ネットワークの両方をサポートします。SHA-128、SHA-256、または高速移行 (802.11r) キー管理を使用して、パーソナルまたはエンタープライズの WPA2 と WPA3 をサポートしています。

パーソナルでは、次のキー管理プロトコルがサポートされています: WPA2-PSK および WPA3-SAE、両方とも CCMP128 (AES) 暗号化を使用します。エンタープライズの場合、CCMP128 (AES) 暗号化を含む IEEE 802.1X (EAP) を使用できます。サポートしている EAP タイプは、EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-FAST、PEAP (EAP-MSCHAPv2 または EAP-GTC) です。

デバイス背面の定格ラベルにある PID (製品 ID) に NR (無線なし) の文字が含まれている場合、そのデバイスは Wi-Fi に対応していません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Wi-Fi が使用できません。イーサネット経由でネットワークに接続する必要があります。

True: イーサネットと Wi-Fi の両方が許可されます。

NetworkServices Wifi Settings FrequencyBand

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスを Wi-Fi 経由でネットワークに接続するときに使用する周波数帯域を設定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

2_4Ghz/5Ghz/6Ghz/自動 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardProG2]*

2_4Ghz/5Ghz/Auto*[RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]*

2_4Ghz: 2.4 GHz 帯域を使用します。

5Ghz: 5 GHz 帯域を使用します。

6Hz: 6 GHz 帯域を使用します。

Auto: 最も強い信号を与える周波数帯域を使用します。または、アクセス ポイントが帯域制御でセットアップされている場合、アクセス ポイントの決定に従います。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ネットワークサービス Wi-Fi が有効

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

デバイスが Wi-Fi 経由でネットワークに接続することが許可されている場合は ([ネットワーク] サービス [WIFI 許可] 設定を参照)、この設定を使用して Wi-Fi を有効または無効にすることができます。

イーサネットと Wi-Fi を同時に使用することはできません。イーサネットケーブルが接続されている間に Wi-Fi の設定を試みる場合は、続行するためにイーサネットケーブルを抜く必要があります。Wi-Fi に接続している間にイーサネット ケーブルを接続すると、イーサネットが優先されます。イーサネット ケーブルを抜くと、デバイスは自動的に前回接続した Wi-Fi ネットワークに接続します (利用可能な場合)。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Wi-Fi が無効になっています。

True: Wi-Fi は有効になっています。

NetworkServices XMLAPI モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの XML API を有効または無効にします。セキュリティ上の理由から、これは無効になっている場合があります。XML API を無効にすると、TMS などのリモート管理が制限され、デバイスに接続できなくなります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : XML API が無効です。

On : XML API が有効です。

周辺機器の設定

Peripherals ActivePen Enabled

適用対象 : BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

アクティブペンの使用を有効または無効にします。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

True: アクティブペンが有効になっています。

False: アクティブペンは有効になっていません。ペンを使用しても影響はありません。

Peripherals InputDevice Mode

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

USB キーボードや USB ドングル付きワイヤレスリモートコントロールなど、サードパーティの入力デバイスの使用を許可するかどうかを定義します。入力デバイスは USB キーボードとして通知する必要があります。キークリックに対する応答として取られるアクションは、お客様ご自身で定義および実装する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : サードパーティの USB 入力デバイスは使用できません。

On: サードパーティの USB 入力デバイスを使用して、ビデオデバイスの特定の機能をコントロールできます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels EmcResilience

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Touch 10 タッチコントローラが、大量の電磁気ノイズが存在する環境で使用される場合、例えば誰もタッチコントローラをタップしていないのに誰かがタップしているように、誤った信号を受信する可能性があります。これを防ぐには、EMC レジリエンスモードを有効にします。これは Touch 10 にのみ適用され、Room Navigator には適用されません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : EMC レジリエンスは無効です。

On : EMC レジリエンスが有効になっています。

周辺機器 ペアリング CiscoTouchPanels HttpProxy

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

これにより、ビデオデバイスに直接接続されている (つまり、ローカルでペアリングされている) Room Navigator は、外部 HTTP(S) サーバーにアクセスできます。このようなアクセスを禁止するには、この設定を [Off] に切り替えます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: Room Navigator は外部 HTTP(S) サーバ上のコンテンツへのアクセスを許可されます。ビデオ デバイスは HTTP プロキシとして機能します。

Off : Room Navigator ーは外部 HTTP(S) サーバ上のコンテンツにアクセスできません。

周辺機器 ペアリング CiscoTouchPanels リモートペアリング

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

タッチ コントローラー (Room Navigator または Touch 10) をビデオ デバイスのユーザ インターフェイスとして使用するには、タッチ コントローラーがデバイスとペアリングされている必要があります。タッチ コントローラーがネットワーク (LAN) 経由でペアリングされる場合、これはリモート ペアリングと呼ばれます。リモートペアリングはデフォルトで許可されています。リモートペアリングを禁止するには、この設定を [Off] に切り替える必要があります。

Board 55/70 は Touch 10 のみをサポートし、Room Navigator はサポートしません。Board 55S/75S/85S、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、および Room Panorama は Room Navigator と Touch 10 の両方をサポートします。他の製品は Room Navigator のみに対応します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : タッチコントローラのリモート ペアリングは許可されません。

On : タッチコントローラのリモートペアリングが許可されます。

Peripherals Profile Cameras

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ デバイスに接続されることが予想される外部カメラの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているカメラの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。

デフォルト値:

Minimum1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

0 *[DeskMini Desk DeskPro]*

値スペース:

0 *[DeskMini Desk DeskPro Board]*

0/1/2/3/4/5/6/7/Minimum1/NotSet *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

NotSet: カメラチェックは実行されません。

最小1: 少なくとも 1 つのカメラをデバイスに接続する必要があります。

0-7: デバイスに接続されることが予想されるカメラの数を選択します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Peripherals Profile Cameras

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想される外部カメラの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているカメラの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。

デフォルト値:

0

値スペース:

0 *[DeskMini Desk DeskPro Board]*

0/1/2/3/4/5/6/7/Minimum1/NotSet *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

0: デバイスに接続することが予想されるカメラの数。

周辺機器プロファイルコントロールシステム

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

サードパーティのコントロールシステム (例えば、Crestron または AMX) をビデオ会議端末に接続するかどうかを定義します。この情報はビデオ デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているコントロールシステムの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。サードパーティのコントロールシステムは、一つだけがサポートされていることに注意してください。

1 に設定すると、コントロール システムは xCommand Peripherals のハートビート コマンドを使用してビデオ デバイスにハート ビートを送信する必要があります。これに失敗すると、ビデオ デバイスはコントロール システムとの接続が失われたことを示す警告を表示します。

デフォルト値:

未設定

値スペース:

1/NotSet

1: 1 つのサードパーティのコントロールシステムをデバイスに接続する必要があります。

NotSet: サードパーティのコントロールシステムのチェックは実行されません。

周辺機器 プロファイル マイク アナログ

適用対象: RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想されるアナログ マイクの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているアナログ マイクの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスはそれを不一致として報告します。

デフォルト値:

未設定

値スペース:

0/1/2/3/最小 1/未設定 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus]*

0/1/2/最小 1/未設定 *[RoomKit BoardPro BoardProG2]*

0/1/NotSet *[RoomBar]*

周辺機器 プロファイル マイク イーサネット

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想されるイーサネット マイクの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているイーサネット マイクの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスはそれを不一致として報告します。

デフォルト値:

未設定

値スペース:

0/1/2/3/4/5/6/7/8/Minimum1/NotSet *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardPro BoardProG2]*

0/1/2/3/4/5/6/Minimum1/NotSet *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

0/1/NotSet *[RoomBar]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Peripherals Profile Microphones USBMicrophone

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想される USB マイクの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されている USB マイクの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスはそれを不一致として報告します。

デフォルト値:

未設定

値スペース:

0/1/NotSet

NotSet: USB マイク チェックは実行されません。

0-1: デバイスに接続されることが予想される USB マイクの数を選択します。

Peripherals Profile Microphones USBInterface

適用対象 : RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想される USB インターフェイスの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されている USB インターフェイスの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスはそれを不一致として報告します。

デフォルト値:

未設定

値スペース:

0/1/NotSet

NotSet: USB インターフェース チェックは実行されません。

0-1: デバイスに接続されることが予想される USB インターフェイスの数を選択します。

Peripherals Profile NetworkSwitches

適用対象: RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想されるネットワークスイッチの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているネットワークスイッチの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。

デフォルト値:

Room Panorama: 2; Room 70 Panorama: NotSet

値スペース:

1/2/Minimum1/NotSet

NotSet: ネットワークスイッチが接続されていません。

最小1: 少なくとも 1 つのネットワークスイッチがデバイスに接続されている必要があります。

1-2: デバイスに接続されると予想されるネットワークスイッチの数を指定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

周辺機器 プロファイル タッチパネル

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想される Cisco タッチ コントローラーの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているタッチ コントローラーの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。

デフォルト値:

Auto *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

0 *[DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

0 *[DeskMini Desk DeskPro]*

0/1/2/3/4/5/Auto/Minimum1/NotSet *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

Auto: タッチ スクリーンのないデバイスの場合は最小値 1 に解決され、タッチ スクリーンのあるデバイスの場合は 0 に解決されます。

NotSet: タッチ コントローラー チェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 つの Cisco タッチコントローラがデバイスに接続されている必要があります。

0-5: デバイスに接続されると予想される Cisco タッチコントローラーの数を選択します。正式にサポートされているCiscoタッチコントローラの数は、Deskシリーズデバイスは0、Room PanoramaとRoom 70 Panoramaは2、その他の製品は1です。

周辺機器のセキュリティ証明書 SyncToPeripheralsが有効化されています

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスにアップロードする CA 証明書が、デバイスに接続されている Room Navigator にも適用されるかどうかを選択します。これは、デバイスに直接ペアリングされている Navigator およびリモートでペアリングされている Navigator の両方に適用されます。

Room Navigator に、接続されているデバイスと同じ証明書を取得させたくない場合、この設定は False である必要があります。

この設定が True の場合、以前アップロードされた CA 証明書も接続された Room Navigator に同期されます。Room Navigator のウェブ エンジンで使用するには、デバイスを再起動する必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: アップロードされた CA 証明書はデバイス自体にのみ適用され、接続された周辺機器には適用されません。

True: アップロードされた CA 証明書は、デバイス自体と接続されている周辺機器の両方に適用されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電話帳設定

電話帳サーバ [n] ID

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

外部電話帳の名前を定義します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

外部電話帳の名前です。

n: 電話帳サーバーを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

電話帳サーバ [n] ページネーション

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

電話帳サーバーがページネーション (ページング) に対応しているかどうかを設定します。ページネーションとは、サーバーが連続した検索をサポートしていることを意味し、これらの検索はOffセットを基準に行うことができます。これにより、ユーザ インターフェイスは完全な検索結果を得るために必要なだけ連続して検索を実行できます。

ページネーションが無効の場合、デバイスは検索を 1 回行い、検索結果で最大 100 エントリを返します。それ以上の検索結果にスクロールすることはできません。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: 電話帳サーバーはページネーションをサポートしていません。デバイスは単一検索を行い、検索結果の最大エントリ数は 100 です。

有効: 電話帳サーバーはページネーションをサポートしています。

n: 電話帳サーバーを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Phonebook Server [n] TlsVerify

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ビデオ デバイスが HTTPS 経由で外部電話帳サーバーに接続する場合に適用されます。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書はデバイスの CA リストに含まれ、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされる必要があります。

通常、HTTPS 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。このルールには 2 つの例外があります。1) 互換性の理由から、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは常にバージョン 1.2 を使用します。

メモ: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値はOffに設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、古い NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的にOnに設定されていなかった。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電話帳サーバ [n] タイプ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

電話帳サーバーの種類を選択します。

デフォルト値:
Off

値スペース:
CUCM/Off/Spark/TMS/VCS
Off: 電話帳を使用しません。
CUCM: 電話帳は Cisco Unified Communications Manager にあります。
Spark: 電話帳は Webex クラウド サービスにあります。
TMS: 電話帳は Cisco TelePresence Management Suite サーバ上にあります。
VCS: 電話帳は Cisco TelePresence Video Communication Server にあります。

n: 電話帳サーバーを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..1

電話帳サーバ [n] URL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

外部電話帳サーバーのアドレス (URL) を定義します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
電話帳サーバーの有効なアドレス (URL) である必要があります。

n: 電話帳サーバーを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..1

プロビジョニング設定

Provisioning Connectivity

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

この設定は、デバイスがプロビジョニング サーバから内部または外部の構成を要求する必要があるかどうかを検出する方法を制御します。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/外部/内部
内部: 内部設定を要求します。
外部: 外部設定を要求します。
Auto: NAPTR クエリーを使用して、内部構成と外部構成のどちらを要求するかを自動的に検出します。NAPTR応答に「e」フラグがある場合、外部設定が要求されます。そうでない場合、内部構成が要求されます。

CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics のプロビジョニング

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

デバイスが CUCM の通話管理レコードに入力される通話統計を CUCM に送信できるようにします。通話統計は、通話の終了時に CUCM に送信されます。

デフォルト値:
[有効 (Enabled)]

値スペース:
無効/有効
Enabled: CUCM 通話管理レコードのサポートを有効にします。
無効: CUCM 通話管理レコードのサポートを無効にします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Provisioning ExternalManager Address

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

外部マネージャ/プロビジョニングシステムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が構成されている場合、デバイスは起動時にこのアドレスにメッセージを送信します。外部マネージャ/プロビジョニングシステムはこのメッセージを受信すると、結果として設定/コマンドをユニットに返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャアドレスを自動的に提供するように DHCP サーバーをセットアップできます (TMS の場合は DHCP オプション 242、CUCM の場合は DHCP オプション 150)。[プロビジョニング外部マネージャアドレス] 設定で設定されたアドレスは、DHCP から提供されるアドレスを上書きします。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Provisioning ExternalManager AlternateAddress

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

デバイスが Cisco Unified Communication Manager (CUCM) によってプロビジョニングされ、冗長性のために代替 CUCM が利用できる場合にのみ適用されます。代替 CUCM のアドレスを定義します。メイン CUCM が利用できない場合、デバイスは代替 CUCM によってプロビジョニングされます。メイン CUCM が再び利用可能になると、デバイスはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Provisioning ExternalManager Protocol

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

外部マネージャ/プロビジョニングシステムにリクエストを送信する際に、HTTP (非セキュア通信) または HTTPS (セキュア通信) プロトコルのどちらを使用するかを定義します。

選択したプロトコルは NetworkServices HTTP Mode 設定で有効になっている必要があります。

デフォルト値:

HTTP

値スペース:

HTTP/HTTPS

HTTPS: HTTPS 経由でリクエストを送信します。

HTTP: HTTP 経由でリクエストを送信します。

Provisioning ExternalManager Path

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

外部マネージャ/プロビジョニングシステムへのパスを定義します。この設定は、複数の管理サービスが同じサーバ上にある場合、つまり、同じ外部マネージャアドレスを共有する場合に必要です。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

外部 Manager またはプロビジョニングシステムへの有効なパス。

Provisioning ExternalManager Domain

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

VCS プロビジョニングサーバーの SIP ドメインを定義します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なドメイン名。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プロビジョニング モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

プロビジョニング システム (外部 Manager) を使用してデバイスを設定することができます。これにより、ビデオ会議ネットワーク管理者は多くのデバイスを同時に管理することができます。この設定では、使用するプロビジョニングシステムのタイプを選択します。プロビジョニングはOffに切り替えることもできます。詳細については、プロビジョニング システム プロバイダ/担当者に問い合わせてください。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/CUCM/Edge/Off/TMS/VCS/Webex

Off: デバイスはプロビジョニング システムによって構成されていません。

Auto: DHCP サーバーでのセットアップとして、プロビジョニングサーバーが自動的に選択されます。

CUCM: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに設定をプッシュします。

Edge:CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに構成をプッシュします。デバイスは、Expressway インフラストラクチャ経由で CUCM に接続します。Expressway 経由で登録するには、暗号化オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

Webex: Webex クラウド サービスからデバイスに構成をプッシュします。Webex クラウド サービスに登録するには、暗号化オプション キーがデバイスにインストールされている必要があります。

TMS: TMS (Cisco TelePresence Management System) からデバイスに設定をプッシュします。

VCS: VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からデバイスに設定をプッシュします。

プロビジョニングログイン名

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

これはプロビジョニング サーバーでデバイスを認証するために使用される資格情報のユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニングサーバーで必要な場合に使用する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

プロビジョニングパスワード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

これはプロビジョニング サーバーでデバイスを認証するために使用される資格情報のパスワード部分です。この設定は、プロビジョニングサーバーで必要な場合に使用する必要があります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

Provisioning RoomType CameraLayout

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

非標準の部屋タイプでの合成カメラストリームのレイアウト

デフォルト値:

PIP

値スペース:

Equal/PIP/Prominent

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Provisioning TlsVerify

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

この設定は、ビデオデバイスが HTTPS 経由でプロビジョニング サーバーに接続する場合に適用されます。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書はデバイスの CA リストに含まれ、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされる必要があります。

通常、HTTPS 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。このルールには 2 つの例外があります。1) 互換性の理由から、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは常にバージョン 1.2 を使用します。

メモ: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値はOffに設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、古い NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的にOnに設定されていなかった。

デバイスが Expressway (MRA または Edge とも呼ばれる) 経由で Webex クラウド サービスまたは CUCM からプロビジョニングされている場合、この設定に関係なく、証明書の確認は常に実行されます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

Provisioning WebexEdge

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

デバイスが、特定の Webex クラウド サービスへのアクセスを許可するデバイス用の Webex Edge にリンクされているかどうかを定義します。

この設定は、Onプレミス サービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスはデバイス用の Webex Edge にリンクされていません。

On : デバイスはデバイス用の Webex Edge にリンクされています。

Proximity 設定

Proximity AlternatePort Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、NetworkServices HTTP Mode が HTTP+HTTPS または HTTPS に設定されている場合にのみ適用されます。

デフォルトでは、Proximity 接続は TCP ポート 443 を使用します。この設定を使用して、Proximity 接続をポート 65533 でも許可します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: Proximity接続は常に TCP ポート 443 を使用します。

True: Proximity 接続は TCP ポート 443 または 65533 のいずれかを使用します。使用されるポートはクライアントにより異なります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

近接通信モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

近接通信モード設定は、Webex クラウド サービスに登録されているデバイスには影響しません。クラウド登録済みデバイスが超音波ペアリング メッセージを送信しないようにするには、Audio Ultrasound MaxVolume を 0 に設定する必要があります。

Onプレミスで登録されているデバイスの場合、[近接モード] 設定によって、デバイスが超音波ペアリング メッセージを発信するかどうかが決定されます。デバイスが超音波ペアリング メッセージを発信すると、Cisco コラボレーション クライアントは、デバイスの近くにあることを検出できます。

クライアントを使用するには、少なくとも 1 つの Proximity サービスが有効になっている必要があります (Proximity サービス設定を参照)。通常、Cisco はすべての Proximity サービスを有効にすることを推奨します。

近接通信モードと音声超音波の最大音量設定は、超音波ペアリング メッセージにのみ影響します。すべての超音波放出を停止するには、RoomAnalytics PeoplePresenceDetector および Standby WakeupOnMotionDetection 設定もOffにする必要があります。

デフォルト値:

オン *[RoomKit RoomKitMini Room バー Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama Board BoardPro BoardProG2]*

オフ *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro DeskMini Desk DeskPro]*

値スペース:

Off/On

Off : Cisco コラボレーション クライアントはデバイスの近くにあることを検出できないため、Proximity サービスは使用できません。

On: Cisco コラボレーション クライアントは、デバイスが近くにあることを検出でき、有効になっている Proximity サービスを使用できます。

Proximity Services CallControl

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

Cisco コラボレーション クライアントで基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定が有効な場合、Cisco コラボレーションクライアントを使用して通話をコントロールできます (例えば、ダイヤル、ミュート、音量調整、電話を切る)。このサービスはモバイル端末 (iOS および Android) に対応しています。この設定を有効にするには、近接通信モードがOnになっている必要があります。

デフォルト値:

Disabled

値スペース:

無効/有効

Enabled: Cisco コラボレーションクライアントからの通話コントロールが有効になっています。

無効: Cisco コラボレーションクライアントからの通話コントロールは無効になっています。

Proximity Services ContentShare FromClients

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツ共有を有効または無効にします。この設定が有効な場合、Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツをワイヤレスでデバイス上で共有することができます。例えば、ラップトップ画面を共有することができます。このサービスはラップトップ (OS X および Windows) でサポートされています。この設定を有効にするには、近接通信モードがOnになっている必要があります。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Enabled: Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツ共有が有効になっています。

Disabled: Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツ共有が無効になっています。

Proximity Services ContentShare ToClients

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

これはもう適用できません。

デフォルト値:

Disabled

値スペース:

Disabled

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

リモートアクセス設定

リモートアクセスモード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

Control Hub およびウェブ UI からデバイスへのリモート アクセスを許可します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

オフ: 個々のデバイスでリモート アクセスを無効にします。

オン: 個々のデバイスでリモートアクセスを有効にします。

RemoteAccess ShowTapIndicator

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

リモートアクセスモードで画面上でマウスタップを表示するように構成します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

True: リモートアクセスモード時に画面上でのマウスタップを表示します。

False: リモートアクセスモードで画面上でのマウスタップを表示しません。

RoomAnalytics の設定

RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、USER

有効な場合に、周囲ノイズの推定が実行される間隔を設定します。xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode を使用して、周囲ノイズの推定を有効または無効にすることができます。

デフォルト値:

10

値スペース:

整数 (10..60)

周囲のノイズの推定を実行する間隔を秒単位で設定します。

RoomAnalytics 周囲ノイズ推定モード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、USER

デバイスは、室内の静止した周囲ノイズ レベル (背景ノイズ レベル) を推定できます。結果は RoomAnalytics 周囲ノイズ レベル DBA ステータスで報告されます。新しい周囲ノイズレベルが検出されると、ステータスが更新されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On：デバイスは、定常的な周囲のノイズ レベルを定期的に推定します。

Off：デバイスは、静止した周囲のノイズ レベルを推定しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

カメラと頭部検出を使用することで、デバイスは会議室にいる人々の数を見つける機能を備えています。この設定により、[人数] カウントが有効になるシナリオが決まります。

Desk、Desk Mini、Room Bar、Room Bar Pro で利用できるネットワーク スタンバイ (第 2 低電力/スタンバイ段階) では、人数カウントがアクティブになることはありません。これらのデバイスは、人数が 0 になるまでネットワークスタンバイ状態になりません。

Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro: デバイスにクアッド カメラが接続されている場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは通話中または自己映像がオンの場合にのみユーザーをカウントします。

On : 自己映像がOffの場合でも、デバイスは通話中以外の人数もカウントします。ホットデスキングにセットアップされていない共有モード デバイスの場合、デバイスがディスプレイ Off モードのとき (最初の低電力/スタンバイ段階)、人数のカウントもアクティブになります。

RoomAnalytics PeoplePresenceDetector

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

デバイスには、ユーザーが会議室に存在するかどうかを確認し、RoomAnalytics PeoplePresence ステータスで結果を報告する機能があります。デバイスは、会議室に誰がいたかではなく、会議室に人々がいるかどうかのみの記録を保持します。RoomAnalytics PeoplePresence 超音波入力および RoomAnalytics PeoplePresence 頭部検出器入力 設定を使用して、超音波、頭部検出、またはその両方に基づく人の存在検出を行うかどうかを指定します。

この設定とスタンバイの WakeupOnMotionDetection モードの設定がOffになっている場合、在席確認用の超音波信号は発信されません。音声超音波の最大音量と近接モードの設定は、在席状態検出に影響を与えません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 会議室の人々の存在は、デバイスのステータスで報告されません。

On : RoomAnalytics PeoplePresence Input Ultrasound 設定と RoomAnalytics PeoplePresence Input HeadDetector 設定の少なくとも 1 つがOnになっている場合、会議室の人々の存在はデバイスのステータスでレポートされます。

RoomAnalytics PeoplePresence 入力ヘッド検知器

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定を使用して、デバイスの RoomAnalytics PeoplePresence 状態で報告されるユーザーのプレゼンスの入力ソースとしてヘッド検出を使用するかどうかを決定します。

人のプレゼンス検出が通常Offになっている場合、この設定は影響しません (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector: Off)。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 人の存在を検出するための入力ソースとして頭検出を使用しません。

On : 人の存在を検出するための入力ソースとして頭検出を使用します。

RoomAnalytics PeoplePresence 入力超音波

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定を使用して、デバイスの RoomAnalytics PeoplePresence 状態で報告されるユーザーのプレゼンスの入力ソースとして超音波を使用するかどうかを決定します。

人のプレゼンス検出が通常Offになっている場合、この設定は影響しません (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector: Off)。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : 人の存在を検出するための入力として超音波を使用しません。

On : 人の存在を検出するための入力として超音波を使用します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RoomAnalytics 残響時間間隔

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、USER

RT60 が測定され、RoomAnalytics ステータスに報告される頻度を定義します。間隔の単位は秒です。

間隔を設定するには、RoomAnalytics の残響時間モード構成を有効にする必要があります。

デフォルト値:

1800

値スペース:

整数 (60..3600)

秒単位での間隔。

RoomAnalytics 残響時間モード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、USER

残響時間は、音が室内で「消えていく」またはディケイする速さの基準です。

これは、部屋の音響品質の認知と大きく関連しています。

Cisco デバイスは、アコースティック エコー キャンセラから直接、残響時間、RT60 を測定することができます。

室内にノイズやインパルス信号を放出する必要がある従来の残響時間の測定とは対照的に、Cisco のデバイスは「サイレント測定」として、RT60 を測定します。

サイレント測定の動作のため、RT60 値は指標であり、ISO 3382-2 標準に従って厳密に正確ではありません。

測定では、125Hz から 4kHz までの各オクターブバンドに対して、RT60 値を測定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off：サイレント RT60 測定を無効にします。

Off: サイレント RT60 測定を無効にします。

RoomAnalytics RoomInUse InCall

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この設定は、壁に取り付けられたナビゲーター（スケジューラモード）で LED を赤にする目的で会議室を「使用中」としてマークし、さらに RoomAnalytics RoomInUse ステータスで報告するかどうかを判断するのに役立ちます。

RoomAnlytics RoomInUse LocalUsage 設定も参照してください。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: デバイスが通話中であるという理由だけで、会議室は「使用中」としてマークされません。

Enabled: 通話があると会議室は「使用中」となります。

RoomAnalytics RoomInUse LocalUsage

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この設定は、壁に取り付けられたナビゲーター（スケジューラモード）で LED を赤にする目的で会議室を「使用中」としてマークし、さらに RoomAnalytics RoomInUse ステータスで報告するかどうかを判断するのに役立ちます。

RoomAnlytics RoomInUse InCall 設定も参照してください。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: 誰かがホワイトボード アプリを使用しているか、デバイス上でローカルにコンテンツを共有しているという理由だけで、会議室は「使用中」としてマークされません。

有効: 誰かがホワイトボード アプリを使用しているか、コンテンツをローカルで共有している場合、会議室は「使用中」としてマークされます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RoomAnalytics T3 アラーム検出モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

T3 警報検出機能を使用すると、デバイスが T3 型火災報知器の音声信号を認識できるようになります (T3 は米国の業界標準の警報パターンです)。アラームが検出されると、RoomAnalytics の T3AlarmDetected ステータスが False から True に変わります。

重要: デバイスがアラームを検出することは保証されません。例えば、マイクのレベルが低いと検出は阻止されます。したがって、警告に対する認識を高めるためにこの機能に依存しないでください。この機能は、他の安全およびセキュリティ対策およびドキュメントに代わるものではありません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : T3 アラーム検出は無効です。

On : T3 アラーム検出は有効です。

RoomAnalytics T3AlarmDetection タイムアウト

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

T3 アラーム検出が有効な場合、システムがアラームを検出すると、RoomAnalytics の T3AlarmDetected ステータスが False から True に切り替わります。タイムアウトとして定義された秒数の間にアラームが検出されなかった場合、ステータスは False に戻ります。

デフォルト値:

10

値スペース:

整数 (5..60)

秒単位のタイムアウト期間。

会議室クリーンアップの設定

RoomCleanup AutoRun ContentType TemporaryAccounts

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスにログインしている可能性のある一時アカウントを削除してください (例えば、エンタープライズ コンテンツ管理 (ECM) サービスを通じてアクセスされる OneDrive アカウント)。

デフォルト値:

毎日

値スペース:

日単位/Off

日単位: 一時アカウントを日単位で消去することを有効にします。

Off: 一時アカウントの日単位の消去を無効にします。

RoomCleanup AutoRun ContentType WebData

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブデータの日単位の会議室クリーンアップを有効または無効にします。時刻を設定するには、RoomCleanup AutoRun HourOfDay を使用します。

デフォルト値:

毎日

値スペース:

日単位/Off

日単位: ウェブデータの日単位の消去を有効にします。

Off : ウェブデータの日単位のクリアを無効にします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ホワイトボードの日単位の会議室クリーンアップを有効または無効にします。時刻を設定するには、RoomCleanup AutoRun HourOfDay を使用します。

デフォルト値:

毎日

値スペース:

日単位/Off

毎日: ホワイトボードを毎日消去できます。

Off : ホワイトボードの日単位のクリアを無効にします。

RoomCleanup AutoRun HourOfDay

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

毎日、会議室のクリーンアップを実行する時間を設定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..23)

会議室のクリーンアップが行われる一日の時間です。

RoomReset の設定

RoomReset コントロール

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定はコントロールシステムまたはマクロと共に使用するためのものです。マクロを使用すると、ビデオ会議デバイスの一部を自動化する JavaScript コード スニペットを記述して、ビヘイビアをカスタマイズすることができます。

会議室が一定時間アイドル状態になった場合、ビデオデバイスは会議室をリセットする準備ができたことを示すイベントを送信できます。

この設定が有効な場合に送信されるイベント:

*e RoomReset SecondsToReset: 30

** end

*e RoomReset Reset

** end

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : RoomReset イベントは送信されません。

On : 会議室リセットのコントロールが有効になり、RoomReset イベントが送信されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RoomScheduler の設定

RoomScheduler BookingTimeout

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定はまもなく廃止されます。代わりに、[アドホックブッキング] の Booking タイムアウト設定の使用を開始することをお勧めします。

スケジューラは、ユーザーが会議室またはデバイスを予約するとすぐにフィードバックを提供します。ただし、カレンダーサービスによる予約の確認には時間がかかる場合があります。確認を得るまでに時間がかかり、ここで設定した値を超えた場合、予約は消去され、デバイスまたは会議室は空いていると表示されます。

これは、Webex クラウド サービスに登録されているデバイス、または Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (60..300)

確認を待つ秒数。

RoomScheduler が有効になりました

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定はまもなく廃止されます。代わりに、[アドホックブッキングが有効] 設定の使用を開始することをお勧めします。

会議室のスケジュール機能を使用すると、会議室のタッチ コントローラーから直接会議室を予約できます。会議室がまだ利用可能な場合は、進行中のミーティングを延長することもできます。Webex Assistant (音声による仮想アシスタント) を使用して、ミーティングを予約または延長することもできます。

会議室のスケジュール機能を使用するには、デバイスが Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイスの Webex Edge にリンクされている必要があります。さらに、会議室には予約可能なカレンダーサービスがセットアップされている必要があります。会議室のスケジュール機能は、パーソナル モードのデバイスではサポートされていません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 会議室のスケジュール機能は利用できません。

True: 上記の前提条件が満たされている場合、会議室のスケジュール機能を使用できます。

UserInterface RoomScheduler OverlayOpacity

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

[会議室ナビゲーター] の上部パネルの不透明度を設定することができます。これにより、より多くの背景を表示したり、隠したりすることができます。

デフォルト値:

50

値スペース:

整数 (0..100)

0から100までの数字を設定して不透明度を設定します。

UserInterface RoomScheduler State Available Color

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ルーム ナビゲータが会議室予約デバイスとしてセットアップされている場合に適用されます (スケジューラ モードとも呼ばれます)。LED ストライプの色とルーム ナビゲータのルーム ステータス アイコンを変更することができます。選択した色が LED ストリップと会議室ステータスアイコンの両方に適用されます。この設定により、会議室が利用可能な場合にどの色を使用するかを決定します。

[ユーザインターフェイスの RoomScheduler 状態のビジー状態の色] および [ユーザインターフェイスの RoomScheduler 状態のペンディング状態の色] 設定を使用して、それぞれ会議室が占有されている場合、または占有されていないが予約されている場合に使用する色を選択します。

デフォルト値:

緑

値スペース:

水色/青/水色/フクシア/金/緑/ライム/マジェンタ/Off/オレンジ/ラン/パープル/レッド/スカーレット/ターコイズ/バイオレット/イエロー

リストから色を選択します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface RoomScheduler State Busy Color

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ルーム ナビゲータが会議室予約デバイスとしてセットアップされている場合に適用されます (スケジューラ モードとも呼ばれます)。LED ストライプの色とルーム ナビゲータのルーム ステータス アイコンを変更することができます。選択した色が LED ストリップと会議室ステータスアイコンの両方に適用されます。この設定により、会議室が占有されている場合にどの色を使用するかを決定します。

UserInterface RoomScheduler State Available Color および UserInterface RoomScheduler State Pending Color 設定を使用して、それぞれ会議室が使用可能な場合、または占有されていないが予約されている場合に使用する色を選択します。

デフォルト値:

赤

値スペース:

水色/青/水色/フクシア/金/緑/ライム/マジェンタ/Off/オレンジ/ラン/パープル/レッド/スカーレット/ターコイズ/バイオレット/イエロー

リストから色を選択します。

UserInterface RoomScheduler State Pending Color

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ルーム ナビゲータが会議室予約デバイスとしてセットアップされている場合に適用されます (スケジューラ モードとも呼ばれます)。LED ストライプの色とルーム ナビゲータのルーム ステータス アイコンを変更することができます。選択した色が LED ストリップと会議室ステータスアイコンの両方に適用されます。この設定により、会議室が予約されていない場合に使用される色を決定します。

UserInterface RoomScheduler State Available Color および UserInterface RoomScheduler State Busy Color 設定を使用して、それぞれ会議室が使用可能または占有されている場合に使用する色を選択します。

デフォルト値:

イエロー

値スペース:

水色/青/水色/フクシア/金/緑/ライム/マジェンタ/Off/オレンジ/ラン/パープル/レッド/スカーレット/ターコイズ/バイオレット/イエロー

リストから色を選択します。

RTP 設定

RTP ポート範囲の開始

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

RTP ポート範囲の最初のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディア データの [RTP ポート範囲の開始] と [停止] 設定で定義された範囲内のポートを使用しています。[RTP ビデオポート範囲] が無効な場合の最小範囲は 100、[RTP ビデオポート範囲] が有効な場合の最小範囲は 20 です。

[RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] が有効な場合、音声には [RTP ポート範囲 (RTP Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用され、他のメディアデータには [RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用されます。2 つの範囲は重複できません。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デバイスは、Webex ミーティングと Webex の最適化された通話に別のデフォルトの RTP ポート範囲を使用することに注意してください。Webex ミーティングおよび Webex 最適化通話の RTP 範囲は、RTP 音声ポート範囲 Webex の開始/停止および RTP ビデオポート範囲 Webex 開始/停止設定で定義されます。

デフォルト値:

2326

値スペース:

整数 (1024..65438)

RTP ポートの範囲で最初のポートを設定します。値は偶数でなければなりません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RTP Ports Range Stop

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

RTP ポート範囲の最後のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディア データの [RTP ポート範囲の開始] と [停止] 設定で定義された範囲内のポートを使用しています。RTP ビデオ ポート範囲が有効な場合、デバイスは 1024 から 65436 の範囲のポートを使用します。RTP ビデオポート範囲が無効な場合の最小範囲は 100 、RTP ビデオポート範囲が有効な場合の最小範囲は 20 です。

[RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] が有効な場合、音声には [RTP ポート範囲 （RTP Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用され、他のメディアデータには [RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用されます。2 つの範囲は重複できません。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デバイスは、Webex ミーティングと Webex の最適化された通話に別のデフォルトの RTP ポート範囲を使用することに注意してください。Webex ミーティングおよび Webex 最適化通話の RTP 範囲は、RTP 音声ポート範囲 Webex の開始/停止および RTP ビデオポート範囲 Webex 開始/停止設定で定義されます。

デフォルト値:

2487

値スペース:

整数 (1121..65535)

RTP ポート範囲の最後のポートを設定します。値は奇数でなければなりません。偶数を入力すると、自動的に +1 が適用されます。

RTP 音声ポート範囲 Webex 開始

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Webex ミーティングの RTP 音声ポート範囲の最初のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディアデータ用の Webex の [RTP 音声ポート範囲の開始] および [停止] 設定で定義された範囲内のポートを使用しています。最小の範囲は 20 です。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デフォルト値:

52050

値スペース:

整数 (1024..65454)

RTP ポート範囲の最初のポートです。値は偶数でなければなりません。

RTP Audio Ports Range Webex Stop

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Webex ミーティングの RTP 音声ポート範囲の最後のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディアデータ用の Webex の [RTP 音声ポート範囲の開始] および [停止] 設定で定義された範囲内のポートを使用しています。最小の範囲は 20 です。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デフォルト値:

52099

値スペース:

整数 (1121..65535)

RTP ポート範囲の最後のポート。値は奇数でなければなりません。偶数を入力すると、自動的に +1 が適用されます。

RTP ビデオポート範囲の開始

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

RTP ビデオポートの範囲で最初のポートを定義します。

開始値と終了値の両方が 0 に設定されている場合、[RTP ビデオポート範囲] は無効になります。有効にするには、最初のポートに 1024 から 65454 の間の値を設定し、最後のポートに 1024 から 65535 の間の値を設定します。最小範囲は 80 です。

[RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] が有効な場合、音声には [RTP ポート範囲 （RTP Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用され、他のメディアデータには [RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用されます。2 つの範囲は重複できません。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デバイスは、Webex ミーティングと Webex の最適化された通話に別のデフォルトの RTP ビデオ ポート範囲を使用することに注意してください。Webex ミーティングおよび Webex 最適化通話の RTP 範囲は、RTP Video Ports Range Webex Start/Stop および RTP Video Ports Range Webex Start/Stop 設定で定義されます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..65454)

RTP ビデオポートの範囲で最初のポートを設定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

RTP Video Ports Range Stop

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

RTP ビデオポート範囲の最後のポートを定義します。

開始値と終了値の両方が 0 に設定されている場合、[RTP ビデオポート範囲] は無効になります。有効にするには、最初のポートに 1024 から 65454 の間の値を設定し、最後のポートに 1024 から 65535 の間の値を設定します。最小範囲は 80 です。

[RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] が有効な場合、音声には [RTP ポート範囲 (RTP Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用され、他のメディアデータには [RTP ビデオポート範囲 (RTP Video Ports Range)] 設定で定義された範囲が使用されます。2 つの範囲は重複できません。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デバイスは、Webex ミーティングと Webex の最適化された通話に別のデフォルトの RTP ビデオ ポート範囲を使用することに注意してください。Webex ミーティングおよび Webex 最適化通話の RTP 範囲は、RTP Video Ports Range Webex Start/Stop および RTP Video Ports Range Webex Start/Stop 設定で定義されます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..65535)

RTP ビデオポート範囲の最後のポートを設定します。

RTP Video Ports Range Webex Start

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Webex ミーティングの RTP ビデオ ポート範囲で最初のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディア データの RTP Video Ports Range Webex Start と Stop の設定で定義された範囲内のポートを使用しています。最小値は 80 です。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デフォルト値:

52200

値スペース:

整数 (1024..65454)

Webex の RTP ポート範囲の最初のポート。値は偶数でなければなりません。

RTP Video Ports Range Webex Stop

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Webex ミーティングの RTP ビデオポート範囲の最後のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディア データの RTP Video Ports Range Webex Start と Stop の設定で定義された範囲内のポートを使用しています。最小値は 80 です。

設定の変更は新しい通話に対して有効になります。

デフォルト値:

52299

値スペース:

整数 (1121..65535)

RTP ポート範囲の最後のポート。値は奇数でなければなりません。偶数を入力すると、自動的に +1 が適用されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

セキュリティ設定

セキュリティ監査ログモード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : AUDIT

監査ログを記録または転送する場所を定義します。監査ログは syslog サーバーに送信されます。[ログモード] 設定が [Off] に設定されている場合、この設定は影響しません。

外部または外部セキュアモードを使用している場合、[セキュリティ監査サーバアドレス] 設定で監査サーバーのアドレスを入力する必要があります。

デフォルト値:

内線

値スペース:

External/ExternalSecure/Internal/Off

外部: デバイスは監査ログを外部 syslog サーバーに送信します。Syslog サーバーは UDP をサポートしている必要があります。

外部セキュア: デバイスは、監査 CA リスト中の証明書によって検証される外部 syslog サーバーに、暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルは、ウェブ インターフェイスを使用してデバイスにアップロードする必要があります。CA リスト中の証明書の Common_name パラメータは syslog サーバーの IP アドレスまたは DNS 名と一致しなければなりません。そしてセキュアな TCP サーバーはセキュアな (TLS) TCP Syslog メッセージをリッスンするようにセットアップする必要があります。

内部: デバイスは監査ログを内部ログに記録し、ログが一杯になるとローテーションします。

Off: 監査ログは実行されません。

Security Audit OnError Action

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : AUDIT

syslog サーバへの接続が失われた場合の動作を定義します。この設定は、Security Audit Logging Mode が ExternalSecure に設定されている場合にのみ関連します。

デフォルト値:

無視

値スペース:

停止/無視

停止: 停止状態が検出された場合、デバイスは再起動され、監査者だけが停止状態が解消されるまでユニットを操作することができます。停止状態から抜け出すと、監査ログが syslog サーバーに再スプールされます。停止条件は、ネットワーク遮断 (物理リンクなし)、syslog サーバーが動作していない (または syslog サーバへの不正なアドレスまたはポート)、TLS 認証失敗 (使用中の場合)、ローカルバックアップ (再スプール) ログが満杯です。

無視: デバイスは通常の動作を継続し、一杯になると内部ログをローテーションします。接続が回復すると、監査ログを再度 syslog サーバーに送信します。

セキュリティ監査サーバアドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : AUDIT

監査ログが送信される syslog サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を設定します。この設定は、[セキュリティ監査ログモード] が [外部] または [外部セキュア] に設定されている場合にのみ関連します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Security Audit Server Port

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : AUDIT

監査ログは syslog サーバーに送信されます。デバイスが監査ログを送信する syslog サーバーのポートを定義します。この設定は、セキュリティ監査サーバーのポート割り当てが手動に設定されている場合にのみ関連します。

デフォルト値:

514

値スペース:

整数 (0..65535)

監査サーバポートを設定してください。

セキュリティ監査サーバーのポート割り当て

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : AUDIT

監査ログは syslog サーバーに送信されます。外部 syslog サーバーのポート番号の割り当て方法を定義することができます。この設定は、[セキュリティ監査ログモード] が [外部] または [外部セキュア] に設定されている場合にのみ関連します。セキュリティ監査サーバーのポート状況でどのポート番号が使用されているか確認できます。[セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] に移動します。ウェブインターフェイス上の状況、または、コマンド回線インターフェイスを使用している場合は、コマンド xStatus Security Audit Server Port を実行します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: セキュリティ監査ログモードが外部に設定されている場合、UDP ポート番号 514 を使用します。セキュリティ監査ログモードが [外部セキュア] に設定されている場合、TCP ポート番号 6514 を使用します。

手動: [セキュリティ監査サーバポート] 設定で定義されたポート値を使用します。

セキュリティ CSR キーサイズ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定では、証明書署名要求 (CSR) のキー サイズを指定できます。

デフォルト値:

2048

値スペース:

2048/3072/4096

CSR の鍵サイズ

セキュリティ登録キーサイズ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

xCommand セキュリティ証明書サービス登録 SCEP 要求によって生成される CSR の証明書のキーサイズを定義します。

デフォルト値:

2048

値スペース:

2048/3072/4096

キーの長さはビット単位です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

セキュリティ Fips モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

必要に応じて、デバイスを FIPS モード (連邦情報処理標準 (FIPS) パブリケーション 140-3、暗号モジュールのセキュリティ要件) で設定できます。FIPS モードでは、ダイジェスト アクセス認証は FIPS では許可されていません。MD5 暗号ハッシュを使用しているため、デバイスと HTTP プロキシの間でサポートされていません。

HTTPS のみを許可し、FIPS モードでは SNMP または IEEE8021X をOnにしないでください (デフォルト値を保持してください)。

この設定の変更を完全に有効にするには、デバイスを再起動する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは FIPS モードではありません。

On: デバイスは FIPS モードです。

Security Session FailedLoginsLockoutTime

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブまたは SSH セッションへのログインに失敗した後、デバイスがユーザーをロックアウトする時間を定義します。

この設定の変更を有効にするには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (0..10000)

ロックアウト時間 (分) を設定します。

Security Session InactivityTimeout

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブまたは SSH セッションから自動的にログアウトする前に、デバイスがユーザーの非アクティブ状態を受け入れる時間を定義します。

この設定の変更を有効にするには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..10000)

非アクティブ タイムアウト (分) を設定します。0 を指定すると、1 時間のタイムアウトになります。最大タイムアウト時間は 12 時間です。

Security Session MaxFailedLogins

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブまたは SSH セッションで、ユーザあたりの最大失敗ログイン試行回数を定義します。ユーザーが最大試行回数を超えた場合、ユーザーはロックアウトされます。0 は失敗したログインに制限がないことを意味します。

この設定の変更を有効にするには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..10)

ユーザあたりの最大失敗ログイン試行回数を設定します。

セキュリティセッション MaxSessionsPerUser

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザあたりの同時セッションの最大数は 20 セッションです。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1..20)

ユーザあたりの同時セッションの最大数を設定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Security Session MaxTotalSessions

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

同時セッションの最大合計数を設定します。

デフォルト値:

30

値スペース:

整数 (1..30)

同時セッションの最大数。

Security Session ShowLastLogon

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

SSH を使用してデバイスにログインすると、ログインに成功した最後のセッションのユーザ ID、日時が表示されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On：最後のセッションに関する情報を表示します。

Off: 最後のセッションに関する情報を表示しません。

Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

リモートでペアリングされた Room Navigator から、ウェブ ソケット経由で API へのアクセスを有効または無効にします。API アクセスを必要とする一般的な使用例は、永続的なウェブ アプリです。例えば、 Room Navigator ーの LED の色を制御するカスタム予約アプリです。API アクセスが無効になっている場合、デバイスの API との通信を必要としないアプリは、 Room Navigator ーで実行できます。

メモ: 永続的なウェブ アプリは、ネットワーク経由でデバイスとペアリングされている Room Navigator でのみ利用できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

True: 会議室ナビゲータはウェブソケット経由でデバイスの API と対話できます。ただし、デバイスが WebSockets で一般的に API との対話を許可するようにセットアップされている必要があります (NetworkServices HTTP モード: HTTPS または HTTP+HTTPS および NetworkServices Websocket:FollowHTTPService)。また、アプリをホストするサーバーのドメインは、WebEngine機能 Xapi周辺機器 AllowedHostsホスト設定にリストされている必要があります。

False: Room Navigator は、ウェブ ソケット経由でデバイスの API と対話することはできません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Sensors 設定

Sensors Radar Mode

適用対象 : BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

このデバイスは、レーダ信号を送信し、近くの障害物からの反射を受信する可能性があります。デバイスはこれらの信号を使用して、室内に人や動きがあるかどうかを検出できます。レーダを使用する場合、レーダはデバイスから 5 メートル以上離れた場所にいる人を検出しません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: デバイスは、ディスプレイ オフ モードおよびネットワーク スタンバイ時に、レーダー信号を使用して動きを検出します。

Off: レーダー センサーがOffになり、デバイスはレーダー信号を送信しません。

センサー超音波モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このデバイスは超音波信号を使用して、人や動きを検出することができます。この設定は、動体検知の超音波の使用にのみ影響します。近接通信ペアリングの超音波の放出には影響しません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: デバイスは超音波信号を使用して動きを検出します。

Off: モーション検知に超音波を使用しません。

シリアルポートの設定

シリアルポートモード

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

シリアルポートを有効/無効にします。デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてに適用されます。

この設定は、第 1 世代のボード (Board 55 および Board 70) では利用できません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: シリアル通信が無効になっています。

On: シリアル通信が有効になっています。

SerialPort ボーレート

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

シリアルポートのボーレート (データ転送速度) を設定します。新しいボーレートは、デバイスの再起動後に有効になります。

シリアルポートの他の接続パラメータは以下の通りです。データビット: 8; パリティ: なし。ストップビット: 1;フロー制御: なし。

この設定は、専用メンテナンス ポート (micro USB) には影響しません。メンテナンスポートは常にデフォルトのボーレートを使用します。

この設定は、第 1 世代のボード (Board 55 および Board 70) では利用できません。

デフォルト値:

115200

値スペース:

115200 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

9600/19200/38400/57600/115200 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

リストからボー レートを選択します (ビット/秒)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SerialPort LoginRequired

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

シリアルポートへの接続時にログインを要求するかどうかを定義します。デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてに適用されます。

この設定は、第 1 世代のボード (Board 55 および Board 70) では利用できません。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : ユーザーはログインしなくてもシリアルポート経由でデバイスにアクセスできます。

On : シリアルポート経由でデバイスに接続する際にログインが必要になります。

シリアルポート アウトバウンド モード

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

お使いのデバイスをセットアップして、シリアル接続経由でサードパーティの周辺機器 (例えば、ディスプレイ、ビデオスイッチ、プロジェクタなど) を操作することができます。これをアウトバウンドのシリアル制御と呼びます。送信シリアル コントロールは Room Panorama でサポートされていますが、Room 70 Panorama ではサポートされていません。

USB-to-Serial ドングルを使用して、周辺機器をデバイスの USB-A ポートに接続する必要があります。Codec Pro および Room Panorama のビルトインシリアルポート、または他のデバイスのマイクロ USB メンテナンスポートを送信コントロールに使用することはできません。これらのポートは受信コントロール用に予約されています。

デバイスと周辺機器間の通信はコネクションレス型です。つまり、デバイス間に永続的なシリアル ポート接続を確立しません。接続は、SerialPort PeripheralControl Send コマンドが発行されると最初に確立され、コマンドが終了すると切断されます。

これらのシリアル接続パラメータは構成できません。データ ビット (8)、ストップ ビット (1)、フロー制御 (なし) です。ボーレートとパリティは、それぞれ SerialPort 送信ポート [1] のボーレートと SerialPort 送信ポート [1] のパリティ設定で指定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : シリアルポートのアウトバウンドコントロールは有効ではありません。

On : シリアルポートのアウトバウンドコントロールは有効です。アウトバウンドシリアル接続は 1 つのみ許可します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

シリアルポート 送信ポート [n] ボーレート

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

シリアルポートの発信ボーレート (データ転送速度) を設定します。発信シリアルコントロールの詳細については、シリアルポートのアウトバウンドモード設定を参照してください。送信のシリアル コントロールは、Room 70 パノラマではサポートされていません。

この設定は通常の (受信) シリアルポート/メンテナンスポートには影響しません。

デフォルト値:

115200

値スペース:

9600/19200/38400/57600/115200

リストからボーレートを選択します (ビット/秒)。

SerialPort 送信ポート [n] 説明

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、発信シリアルポートの接続先を説明するテキストを追加します。発信シリアルコントロールの詳細については、シリアルポートのアウトバウンドモード設定を参照してください。送信のシリアル コントロールは、Room 70 パノラマではサポートされていません。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 512)

ポートが何に接続されているかを説明するテキスト、例えば「Projector」。

シリアルポート 送信ポート [n] パリティ

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

シリアルポートのアウトバウンドデータ伝送にパリティビットを追加するかどうかを選択します。発信シリアルコントロールの詳細については、シリアルポートのアウトバウンドモード設定を参照してください。送信のシリアル コントロールは、Room 70 パノラマではサポートされていません。

この設定は通常の (受信) シリアルポート/メンテナンスポートには影響しません。

デフォルト値:

None

値スペース:

偶数/なし/奇数

偶数: 偶数パリティを追加します。

奇数: 奇数パリティを追加します。

なし: パリティ ビットを追加しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SIP 設定

SIP ANAT

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ANAT (代替ネットワーク アドレス タイプ) は、RFC 4091 で指定されているように、複数のアドレスおよびアドレス タイプのメディア ネゴシエーションを有効にします。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off: ANAT を無効にします。
On : ANAT を有効にします。

SIP 認証ユーザ名

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これは SIP プロキシに対する認証に使用される資格情報のユーザ名部分です。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 128)
有効なユーザ名。

SIP 認証パスワード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これは SIP プロキシに対する認証に使用される資格情報のパスワード部分です。
このパスワードは Webex クラウドに送信されず、クラウドからプロビジョニングできません。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 128)
有効なパスワード。

SIP DefaultTransport

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

LAN 経由で使用されるトランスポートプロトコルを選択します。

デフォルト値:
自動

値スペース:
Auto/TCP/Tls/UDP
TCP: デバイスは既定の転送方法として常に TCP を使用します。
UDP:デバイスは既定の転送方法として常に UDP を使用します。トランスポート プロトコルが UDP に設定されている場合、SIP ListenPort を有効にする必要があります (オンに設定)。
Tls: デバイスは、既定のトランスポート方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをデバイスにアップロードできます。そのような CA リストがデバイスで利用できない場合、匿名の Diffie Hellman が使用されます。
Auto: デバイスは、TLS、TCP、UDP の順にトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

SIP 表示名

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

構成すると、着信通話は SIP URI の代わりに表示名を報告します。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 550)
名前はSIP URI の代わりに表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SIP Ice DefaultCandidate

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

ICE プロトコルは、どのメディア ルートを使用するかについて結論に達するまで、少し時間が必要です (呼び出しの最初の 5 秒まで)。この期間中に、デバイスのメディアは、この設定で定義されているとおり、既定の候補に送信されます。

デフォルト値:
ホスト

値スペース:
ホスト/リレー/Rflx
主催者: デバイスのプライベート IP アドレスにメディアを送信します。
Rflx: TURN サーバから見えるデバイスのパブリック IP アドレスにメディアを送信します。
リレー: TURN サーバーに割り当てられた IP アドレスとポートにメディアを送信します。

SIP Ice モード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

ICE (Interactive Connectivity Establishment、RFC 5245) は、デバイスが最適化されたメディア パスを検出するために使用できる NAT トラバーサル ソリューションです。このようにして、音声とビデオの最短ルートは常にデバイス間で確保されます。メディアパスのセットアップ時に、最初に STUN (NAT 用セッショントラバーサルユーティリティ) メッセージが交換されます。

STUN もまた、SIP Ice Mode に関係なく、NAT バインディングを更新するキープアライブ メカニズムとして使用されることに注意してください。

デフォルト値:
自動

値スペース:
Auto/Off/オン
Auto: TURN サーバーが提供されている場合、ICE が有効になります。提供されていない場合、ICE は無効になります。
Off：ICE が無効です。
On: ICE が有効です。

SIP 回線

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されている場合、デバイスはシェアードラインの一部である可能性があります。これは、複数のデバイスが同じディレクトリ番号を共有することを意味します。同じ番号を共有するさまざまなデバイスは、RFC 4235 で定義されているように、回線上の他の出現からステータスを受け取ります。

シェアードラインはデバイスではなく、CUCM によりセットアップされることに注意してください。このため、この設定を手動で変更しないでください。CUCM は必要に応じてこの情報をデバイスにプッシュします。

デフォルト値:
プライベート (Private)

値スペース:
プライベート/共有
共有: デバイスは共有回線の一部であるため、そのディレクトリ番号を他のデバイスと共有しています。
プライベート: このデバイスは共有回線の一部ではありません。

SIP リッスンポート

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをOnまたはOffにします。Offにすると、デバイスは SIP プロキシ (CUCM または VCS) 経由でのみ到達可能になります。セキュリティ対策として、デバイスが SIP プロキシに登録されている場合、SIP リッスンポートはOffにする必要があります。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Auto/Off/オン
Auto: デバイスが SIP プロキシに登録されている場合、SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンは自動的にオフになります。それ以外の場合はオンになります。
Off: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンがOffになります。
On: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンがOnになります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SIP メールボックス

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、プライベートボイスメールボックスのオプションが提供される場合があります。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
有効な番号またはアドレスです。ボイス メールボックスがない場合は、文字列は空欄にしてください。

SIP 最小TLSバージョン

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

SIP で許可される最も低いバージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:
TLSv1.2

値スペース:
TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2/TLSv1.3
TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降に対応します。
TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降に対応します。
TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降に対応します。
TLSv1.3: TLS バージョン 1.3 以降に対応します。

SIP 優先IPシグナリング

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

シグナリング (音声、ビデオ、データ) の優先 IP バージョンを定義します。[ネットワーク IP スタック] と [電話会議プロトコル IP スタック] の両方が [デュアル] に設定されており、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ適用できます。また、DNS での A/AAAA ルックアップの優先順位を決定するため、優先 IP バージョンが登録に使用されます。

デフォルト値:
IPv4

値スペース:
IPv4/IPv6
IPv4: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv4 です。
IPv6: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv6 です。

SIP プロキシ [n] アドレス

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

[プロキシ アドレス] は発信プロキシ用に手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名または IP アドレスを使用することができます。TCP および UDP の既定のポートは 5060 ですが、別のポートを提供することもできます。

デフォルト値:
「」

値スペース:
文字列 (0, 255)
有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

n: プロキシを識別するインデックス (最大で 4 つのプロキシを定義できます)。
範囲: 1..4

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SIP TlsVerify

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

SIP TLS 経由で接続を確立する前に、デバイスはピアの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA は、ウェブ インターフェイスまたは API を使用してデバイスに手動でアップロードされる CA リストに含まれる必要があります。プリインストールされた証明書のリストは、SIP TLS 接続の証明書の検証には使用されません。

注: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値はOffに設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、設定が明示的にOnに設定されていなかった場合が対象です。

SIP の [MinimumTLSVersion] 設定を使用して、許可する TLS バージョンを指定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off：デバイスはピアの証明書を確認しません。SIP TLS 接続はとにかく確立されます。

On: デバイスは、ピアの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、SIP TLS 接続は確立されていません。

SIP トランスポートセキュリティ証明書検証モード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この構成は、プロキシなしで TLS 経由で接続するときに、リモート SIP サーバからの X.509 証明書を検証するために使用される方法を決定します。

これは、以下のように設定されていることを前提としています。

SIP DefaultTransport: Tls

SIP TlsVerify: オン

SIP ListenPort: オン

Provisioning WebexCalling Mode: オフ

SIP Proxy N アドレス: ""

SIP タイプ: 標準

検証プロセスは、デバイスからの発信通話に影響を与えます。すべての着信は自動的に拒否されます。関連するルート CA 証明書をデバイスにアップロードする必要があります。CA 証明書をアップロードするには、次のコマンドを参照してください:

xCommand Security Certificates CA Add

この xConfiguration が変更された場合は、デバイスを再起動することをお勧めします。

セキュリティ対策として、以下の設定もお勧めします。

xConfiguration Conference Encryption Mode: オン

メディアが確実に暗号化されるようにします。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/レガシー/RFC5922

自動: [自動] に設定すると、デバイスは証明書の検証にレガシーまたは RFC5922 のいずれかの方法を使用します。指定されたソフトウェアバージョンは、常にいずれかの方法のみを使用します。使用される方法は、ソフトウェアのバージョンによって異なる場合があります。

レガシー: レガシーに設定すると、デバイスは古い検証方法を使用します。これは、RFC5922 標準を適用せずに、DNS SRV レコードを含む名前のリストを、受信した証明書内のものと比較します。

RFC5922: RFC5922 に設定すると、デバイスは、ダイヤルされた URI のホスト名 (例: webex.com または zoomcrc.com) を、RFC5922 のルールに従って、X.509 証明書のサブジェクトの別名 (SAN) または共通名 (CN) と比較します。RFC5922 は、受け取った証明書から SIP ドメインのアイデンティティを抽出する方法、およびそのアイデンティティを SIP ドメイン認証に使用する方法のガイドラインを提供します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SIP ターンサーバ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバーのアドレスを定義します。これは、メディア リレーのフォールバックとして使用され、デバイス自体のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

推奨される形式は DNS SRV レコードです (例: _turn._udp.<domain>)。あるいは有効な IPv4 または IPv6 アドレスを使用することもできます。

SIP Turn UserName

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

TURN サーバーへのアクセスに必要なユーザ名を定義します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なユーザ名。

SIP Turn Password

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードを指定します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

SIP タイプ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ベンダーまたはプロバイダーの SIP 内線と特別な動作を有効にします。

デフォルト値:

標準

値スペース:

Cisco/Standard

標準:標準 SIP プロキシ (Cisco TelePresence VCS でテスト済み) に登録する場合にこれを使用します。

Cisco: Cisco Unified Communication Manager に登録する際にこれを使用します。

SIP URI

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、デバイスを識別するために使用されるアドレスです。URI は登録され、SIP サービスによって使用され、着信通話をデバイスにルーティングします。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スタンバイの設定

Standby BootAction

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

ビデオ会議デバイスの再起動後のカメラの位置を定義します。

デフォルト値:

DefaultCameraPosition *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk BoardPro BoardProG2]*

RestoreCameraPosition *[DeskPro Board]*

値スペース:

DefaultCameraPosition/None/RestoreCameraPosition

なし: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ デバイスを再起動すると、カメラは再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition:ビデオ デバイスが再起動すると、カメラが工場出荷時のデフォルト位置に移動します。

Standby BrightnessDelay

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、Microsoft Teams のルームがセットアップされているデバイスにのみ適用されます。

デバイスがホーム画面を表示し、非アクティブになるまでの時間と、その後画面の明るさが低下するまでの時間を設定します。このタイマーが切れる前に、デバイスがハーフウェイク、ディスプレイ Off、またはより深いスタンバイ状態になった場合、この設定は効果がありません。

デフォルト値:

30

値スペース:

整数 (1..60)

ライトを暗くするまでの分数。

Standby Control

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスを自動的にスタンバイモードにするかどうかを定義します。とにかく、UI から、または Standby Activate コマンドを使用して、いつでも手動でデバイスをスタンバイモードに設定できます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

On *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

Off : デバイスは自動的にスタンバイモードになりません。

On: スタンバイの遅延時間がタイムアウトすると、デバイスはスタンバイモードになります。

Standby Delay

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスがスタンバイ モードになるまでのアイドル モードの時間 (分) を定義します。

スタンバイ コントロールを有効にする必要があります。

デフォルト値:

10 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro]*

4 *[Board BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

整数 (1..480)

スタンバイ遅延時間 (分) を設定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Standby Halfwake Screensaver

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、Microsoft Teams のルームがセットアップされているデバイスにのみ適用されます。

デバイスが半覚醒モードのときに画面に表示するものを選択します。

デフォルト値:

Halfwake

値スペース:

Clock/Halfwake

時計: 時計を表示します。

ハーフウェイク: デフォルトのハーフウェイク画像を表示します。

Standby Level DeepSleep Delay

適用対象 : BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ディープ スリープに移行する前に、デバイスが以前のスタンバイ状態を維持する必要がある時間を指定します。

デフォルトでは、以前のスタンバイ状態はネットワーク スタンバイになります。ネットワーク スタンバイが無効になっている場合、デバイスはデフォルトでディスプレイ オフ状態になります。

デフォルト値:

14

値スペース:

整数 (1..1440)

ディープ スリープ スタンバイ レベルへの移行の遅延 (分単位で指定)。

Standby Level DeepSleep Mode

適用対象 : BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ディープスリープスタンバイモードを設定します。

ディープスリープは、デバイスがほとんどの機能をシャットダウンし、ネットワークから切断して電力を節約する超低電力モードです。有効にすると、デバイスは、Standby Level DeepSleep Delay 設定で定義されたとおり、指定された時間、ネットワーク スタンバイ維持した後、ディープ スリープ状態に移行します。

ネットワーク スタンバイが無効になっている場合、デバイスがディスプレイ オフ状態になったときに遅延タイマーが開始されます。

デフォルト設定である Standby WakeupOnMotionDetection 機能が有効な場合、動きが検出されても、デバイスはディープスリープモードになりません。

さらに、デバイスは毎晩 1 回起動してソフトウェアの更新を確認します。営業時間が有効になっている場合、デバイスは設定された営業時間の開始時刻の 20 ～ 40 分前にランダムに起動します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

オフ/オン/営業時間外

オフ: デバイスは自動的にディープスリープに移行しません。

OutsideOfficeHours: 営業時間が終了すると、デバイスは設定された遅延後にディープ スリープ状態に移行します。

デバイスが必要な期間アイドル状態になっている場合は、直ちにディープ スリープ状態に移行します。

xConfiguration Time OfficeHours を使用して営業時間を指定できます。

オン: オフィス時間の設定に関係なく、デバイスは他のスタンバイ レベルと同様に、設定された遅延後にディープ スリープに移行します。

スタンバイ レベルのネットワーク遅延

適用対象: RoomBar RoomBarPro DeskMini Desk BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ネットワーク スタンバイ状態になる前に、デバイスがOff ディスプレイ スタンバイモードになっている必要がある時間を定義します。

遅延が 0 に設定されている場合、デバイスはハーフウェイク モードから数秒間のディスプレイ Off モードの後、ネットワーク スタンバイモードになります。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (0..1440)

ネットワークスタンバイレベルの遅延時間 (分) 。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Standby Level Networked Mode

適用対象: RoomBar RoomBarPro DeskMini Desk BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ディスプレイ Offからネットワーク スタンバイモードへの自動移行を無効または有効にします。

ネットワークスタンバイモードは、より深いレベルのスタンバイモードであり、通常のディスプレイOff スタンバイモードよりも消費電力を削減します。

デバイスは、スタンバイ レベルのネットワーク遅延設定で定義されているとおり、Offディスプレイ スタンバイモードの状態が x 分間続いた後、ネットワーク スタンバイ状態になります。

スタンバイモードが自動的に開始されるように、Standby Control 設定がOnにセットされている必要があります。ただし、[スタンバイ アクティベート] コマンドを使用して手動でトリガーすることもできます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

On : スタンバイ レベルのネットワーク遅延時間がタイムアウトすると、デバイスはネットワーク スタンバイ モードに入ります。

Off: デバイスはネットワーク スタンバイモードになりません。

スタンバイ ハーフウェイク モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスがスタンバイ状態になる前に自動的にハーフウェイク モードに入るか、ハーフウェイク モードをスキップして直接スタンバイ状態にするかを決定します。ハーフウェイク モードでは、暗い画面にテキストが表示されたり、ウェブページやデジタルサイネージを含むブランディング情報が表示されるように構成されたりする場合があります。

スタンバイ コントロール設定で有効になっている場合、スタンバイのハーフウェイク モード設定に関係なく、デバイスは非アクティブ状態が x 分間続くとスタンバイ状態になります。x はスタンバイ遅延設定で定義されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto:デバイスは、非アクティブ状態が 2 分間続くと、ハーフウェイク モードに切り替わります。アクティビティを検出するか、スタンバイモードになるまで、半覚醒モードのままになります。

Manual: 自動ハーフウェイクモードが無効になります。xCommand StandbyHalfwake を使用して手動でのみトリガーできます。

スタンバイ サイネージの音声

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

既定では、ウェブページに音声がある場合でも、デジタルサイネージモードではデバイスは音声を再生しません。この設定を使用して、デフォルトの動作を上書きすることができます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスはウェブページの音声を再生しません。

On: ウェブページに音声がある場合、デバイスは音声を再生します。音量はデバイスの音量設定に従います。

スタンバイ サイネージ インタラクション モード

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ユーザーがデジタル サイネージ ウェブページで操作することを許可するかどうかを決定します。

インタラクティブ モードでは、デバイスにタッチ スクリーン (内蔵または接続済み) が必要です。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) で使用する必要があります。

デフォルト値:

非インタラクティブ

値スペース:

インタラクティブ/非インタラクティブ

インタラクティブ: ユーザーはウェブページと対話できます。

非インタラクティブ: ユーザーはウェブページを操作できません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

スタンバイ サイネージ モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

URL (ウェブページ) からのコンテンツは、従来のハーフウェイクの背景画像と情報を置き換えることができます。

この機能をデジタルサイネージと呼びます。デバイスにインタラクティブ画面がある場合、ユーザーはウェブページと対話できます。たとえば、リンクをクリックしたり、フォームにテキストを入力したりできます。

デジタル サイネージの使用は、デバイスが通常の方法でスタンバイ状態になることを妨げるものではありません。そのため、[スタンバイの遅延] 設定では、デバイスがスタンバイ状態になる前にデジタル サイネージが表示される時間を決定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デジタル サイネージはデバイスで有効になっていません。

On : デジタル サイネージが有効になり、デバイスのハーフウェイク モードが置き換えられます。ただし、WebEngine Mode設定もOnにする必要があります。

Standby Signage RefreshInterval

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

一定の間隔 (秒) でウェブページを更新します。

これは、ウェブページを更新できない場合に便利です。

インタラクティブモードでの更新間隔の設定はお勧めしません。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..1440)

各ウェブページの更新間隔の秒数。値 0 はウェブページが更新を強制されないことを意味します。

スタンバイ サイネージ URL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

画面 (デジタル サイネージ) に表示するウェブページの URL を設定します。

URL の長さが 0 の場合、デバイスは通常のハーフウェイクモードを保持します。

URL が失敗した場合、デバイスは通常のハーフウェイクモードを維持し、診断メッセージが発行されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 2048)

ウェブページの URL です。

Standby StandbyAction

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

スタンバイ モードに入るときのカメラの位置を定義します。

デフォルト値:

PrivacyPosition

値スペース:

None/PrivacyPosition

なし: アクションはありません。

PrivacyPositiOn : ビデオデバイスがスタンバイ状態になると、PrivacyPositionのため、カメラが横向きの位置に回転します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Standby WakeupAction

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

スタンバイ モードを終了するときのカメラの位置を定義します。

デフォルト値:

カメラ位置の復元

値スペース:

DefaultCameraPosition/None/RestoreCameraPosition

なし: アクションはありません。

RestoreCameraPositiOn : ビデオデバイスがスタンバイを離れると、カメラはスタンバイに入る前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ デバイスがスタンバイを離れると、カメラが工場出荷時のデフォルト位置に移動します。

Standby WakeupAtMeetingStart

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ミーティングの開始がスケジュールされたときに、デバイスを自動的に復帰させるかどうかを選択します。誰もミーティングに参加しない、またはデバイスと対話しない場合、ハーフウェイクモードになり、スケジュールされた開始の数分後にスタンバイします。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: スケジュールされたミーティングの開始前に、デバイスが起動します。

Off: ミーティングの開始がスケジュールされている場合でも、デバイスはスタンバイ状態のままになります。

Standby WakeupOnPairing

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

Webexアプリとペアリングされるときにデバイスが自動的にスリープ解除するかどうかを選択します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オン: このデバイスは、Webex アプリとペアリングされると起動します。

オフ: このデバイスは、Webex アプリとペアリングされていても、スタンバイ状態のままです。

Standby WakeupOnMotionDetection

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

動体検知でウェイク アップが有効になっている場合、人が入室することを検出すると、デバイスは自動的にウェイクして、ハーフウェイクモードに入ります。

この機能により、ユーザーが会議室に入室したときにデバイスがそれを検出できます。モーションが検知されると、ミーティングがモーション検知時にスケジュールされていない限り、システムはスタンバイからハーフウェイクに移行します。その場合、システムはスタンバイからウェイク状態に移行します。この機能では主に超音波を使用して検出を行いますが、Board Pro および Board Pro G2 などの特定の製品では、スタンバイモードのときにレーダーも使用します。

音声超音波の最大音量と近接モードの設定は、モーション検知に影響を与えません。

デフォルト値:

On *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 Room 70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardPro BoardProG2]*

Off *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro]*

値スペース:

Off/On

Off : モーションを検出しても、デバイスはスタンバイから復帰しません。

On: 人が入室したときなど、動きを検出すると、デバイスは自動的にスタンバイからハーフウェイクに切り替わります。モーションが検出されたときにミーティングがスケジュールされている場合、システムは完全に覚醒します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SystemUnit settings

SystemUnit Name

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

デバイス名を定義します。デバイスが SNMP エージェントとして機能している場合や、デバイス名が DHCP リクエストでホスト名として送信される場合に使用されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 50)

デバイス名を定義します。

SystemUnit ブロードキャスト名

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

ブロードキャスト名は、ラップトップや携帯電話などの他のデバイスの Airplay、Miracast、Bluetooth などのサービスのスキャン リストに表示される名前です。この設定で特定のブロードキャスト名を指定することができます。ここでブロードキャスト名を明確に設定しない場合、スキャン リストには、デバイスが Webex クラウド サービスに登録されている場合は Webex DisplayName、Onプレミス サービスに登録されている場合は SystemUnit 名が含まれます。どちらの名前も設定されていない場合、製品タイプ (id) が表示されます。

ブロードキャスト名には PII (個人を特定できる情報) を含めないことをお勧めします。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 256)

他のデバイスのスキャン リストに表示されるブロードキャスト名。

SystemUnit CrashReporting Advanced

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

デバイスがクラッシュした場合、デバイスは分析のために Cisco 自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動的に送信できます。詳細については、システムユニットクラッシュレポートモード設定を参照してください。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off：ACR ツールは標準のログ分析を実行します。

On：ACR ツールは高度なログ分析を実行します。

システムユニットクラッシュレポートモード

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

デバイスがクラッシュした場合、デバイスは分析のために Cisco 自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動的に送信できます。

Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスでは、すべてのデバイスで自動クラッシュ レポートを利用できます。ログを Webex クラウドに送信する前に、PII 情報は削除または匿名化されます。

CUCM などのOnプレミス サービスに登録されているデバイスの場合、自動クラッシュ レポートは Cisco 内部デバイスのみが対象です。クラッシュレポートはシステムユニットのクラッシュレポート URL設定で指定された URL に送信されます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off：ログは ACR ツールに送信されません。

On: ログは自動的に ACR ツールに送信されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SystemUnit CrashReporting URL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスがクラッシュした場合、デバイスは分析のために Cisco 自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動的に送信できます。詳細については、システムユニットクラッシュレポートモード設定を参照してください。

デフォルト値:

"acr.cisco.com"

値スペース:

文字列 (0, 255)

Cisco 自動クラッシュレポートツール (ACR) への URL。

SystemUnit CustomDeviceId

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

SystemUnit CustomDeviceId は、ユニットに関するカスタム情報を保存する場所を提供します。これは、たとえば、プロビジョニング設定でデバイスを追跡するのに役立ちます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

SystemUnit Extension MouseSupport

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

たとえば、Microsoft ログイン画面が表示されているときにOnボードする Microsoft クラウドを選択するなど、Microsoft Teams UI との対話が必要になる場合があります。このような場合、デバイスの USB-A ポートにマウスを接続できます。このマウスは Microsoft Teams UI と対話する場合にのみ使用できます。通常の RoomOS UI では使用できません。

別のキーボードを USB 接続することには対応していません。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: デバイスはマウスをサポートしていません。

有効: USB マウスを使用して Microsoft Teams UI と対話できます。

システムユニットハードウェア USBC [n] モード

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ DeskMini Desk

必要なユーザーロール : 管理者

新しい USB 3.0 バージョンにも対応している場合でも、USB-C ポートで USB2.0 プロトコルのみを使用するようにデバイスに指示する場合は、この設定を使用します。

一部のラップトップでは、私たちのデバイスをウェブカメラとして使用する際に必要になる場合があります。

この設定を有効にするには、デバイスを再起動する必要があります。

デフォルト値:

USB3

値スペース:

USB2/USB3

USB2 : USB ネゴシエーションには USB 2.0 のみを提供します。

USB3: 標準 USB ネゴシエーションを提供します。つまり、利用可能な場合は USB3.0 を使用し、利用できない場合は USB 2.0 を使用します。

SystemUnit SoftwareUpgrade Provider

適用対象 : RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Cisco バックエンド サービス (Webex や Cisco Unified CM など) に登録されている Microsoft Teams ルーム用の Cisco デバイスでは、どのサービスから自動ソフトウェア アップグレードを入手するかを決定できます。

RoomOS ソフトウェアはこの設定に従いますが、Microsoft Teams アプリケーションは Teams 管理センターからいつでもアップグレードできることに注意してください。

デフォルト値:

Cisco

値スペース:

Cisco/Microsoft

Microsoft: Microsoft からソフトウェアアップグレードを入手。

Cisco: Cisco サービスからソフトウェアアップグレードを入手してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

SystemUnit ソフトウェアアップグレード TruncateCop

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

.cop ファイルを使用したアップグレード方法が変更されました。この構成オプションを使用すると、問題が発生した場合に以前のアップグレード動作に戻すことができます。このオプションは将来のリリースで削除される予定ですのでご了承ください。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

通常、デバイスは Webex クラウドからソフトウェアを直接ダウンロードします。トランスポートを最適化するために、ウェブ キャッシュ (HTTP キャッシュ) のセットアップを選択できます。

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

手動/オフ

Manual : デバイスはウェブ キャッシュ (HTTP キャッシュ) を通じてソフトウェア アップグレードをダウンロードします。ウェブキャッシュの URL は [システムユニットのソフトウェアのアップグレード] の [ウェブキャッシュの URL] 設定で指定されています。キャッシュが機能していない場合、デバイスは標準ネットワーク接続の使用に切り替えます。

Off : デバイスはウェブ キャッシュを使用せずに、Webex クラウドからソフトウェアを直接ダウンロードします。

SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Webex クラウドからのソフトウェアのダウンロードに使用できるウェブ キャッシュの URL を設定します。SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode がマニュアルに設定されている場合にのみ使用されます。

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

ウェブキャッシュの URL です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ThousandEyes の設定

ThousandEyes の ConnectionString

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

ThousandEyes エージェントは RoomOS ソフトウェアの一部ですが、Control Hub から有効にする必要があります。エージェントは接続文字列パラメータを必要とします。これは、エージェントが属するアカウントグループを正確に識別するトークンとして機能します。組織の ThousandEyes 管理者から接続文字列を取得する必要があります。

デバイスで実行されている ThousandEyes エージェントが ThousandEyes クラウド サービスに登録できるように、この文字列が必要です。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 512)

アカウントグループの接続文字列です。

時間設定

Time DateFormat

適用対象：すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

日付形式を定義します。

デフォルト値:

DD_MM_YY

値スペース:

DD_MM_YY/MM_DD_YY/YY_MM_DD

DD_MM_YY: 日付は 2010 年 1 月 30 日、表示: 10.01.30

MM_DD_YY：2010 年 1 月 30 日の日付は、01.30.10 と表示されます

YY_MM_DD：2010 年 1 月 30 日の日付は、10.01.30 と表示されます

Time TimeFormat

適用対象：すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

時間形式を定義します。

デフォルト値:

24 時間

値スペース:

12 時間/24 時間

24 時間: 時間形式を 24 時間に設定します。

12 時間: 時間形式を 12 時間 (AM/PM) に設定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

タイムゾーン (Time zone)

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

デバイスの地理的な場所のタイムゾーンを定義します。値のスペースの情報は、IANA タイムゾーン データベースとも呼ばれる tz データベースからのものです。

デフォルト値:

Etc/UTC

値スペース:

アフリカ/アビジャン/アフリカ/アクラ/アフリカ/アディスアベバ/アフリカ/アルジェ/アフリカ/アスマラ/アフリカ/アスメラ/アフリカ/バマコ/アフリカ/バンギ/アフリカ/バンジュル/アフリカ/ビサウ/アフリカ/ブランタイア/アフリカ/ブラザビル/アフリカ/ブジュンブラ/アフリカ/カイロ/アフリカ/カサブランカ/アフリカ/セウタ/アフリカ/コナクリ/アフリカ/ダカル/アフリカ/ダルエスサラーム/アフリカ/ジブチ/アフリカ/ドアラ/アフリカ/エルアイウン/アフリカ/フリータウン/アフリカ/ガボローネ/アフリカ/ハラレ/アフリカ/ヨハネスブルグ/アフリカ/ジュバ/アフリカ/カンパラ/アフリカ/ハルツーム/アフリカ/キガル/アフリカ/キンシャサ/アフリカ/ラゴス/アフリカ/リブレビル/アフリカ/ロメ/アフリカ/ルアンダ/アフリカ/ルブンバシ/アフリカ/ルサカ/アフリカ/マラボ/アフリカ/マプト/アフリカ/マセル/アフリカ/ムババーネ/アフリカ/モガディシュ/アフリカ/モンロビア/アフリカ/ナイロビ/アフリカ/ンジャメナ/アフリカ/ニアメ/アフリカ/ヌアクショット/アフリカ/ワガドゥグー/アフリカ/ポルトノボ/アフリカ/サントメ/アフリカ/トンブクトゥ/アフリカ/トリポリ/アフリカ/チュニス/アフリカ/ウィントフック/アメリカ/アダック/アメリカ/アンカレッジ/アメリカ/アンギラ/アメリカ/アンティグア/アメリカ/アラグアイナ/アメリカ/アルゼンチン/ブエノスアイレス/アメリカ/アルゼンチン/カタマルカ/アメリカ/アルゼンチン/コモドリバダビア/アメリカ/アルゼンチン/コルドバ/アメリカ/アルゼンチン/フフイ/アメリカ/アルゼンチン/ラ・リオハ/アメリカ/アルゼンチン/メンドーザ/アメリカ/アルゼンチン/リオ・ガレゴス/アメリカ/アルゼンチン/サルタ/アメリカ/アルゼンチン/サンファン/アメリカ/アルゼンチン/サンルイス/アメリカ/アルゼンチン/トゥクマン/アメリカ/アルゼンチン/ウシュアイア/アメリカ/アルバ/アメリカ/アスンシオン/アメリカ/アティコカン/アメリカ/アトカ/アメリカ/バイーア/アメリカ/バイーア・デ・バンデラス/アメリカ/バルバドス/アメリカ/ベレン/アメリカ/ベリズ/アメリカ/ブランサブロン/アメリカ/ボア・ヴィスタ/アメリカ/ボゴタ/アメリカ/ボイジー/アメリカ/ブエノスアイレス/アメリカ/カンポ・グランデ/アメリカ/カンクン/アメリカ/カラカス/アメリカ/カタマルカ/アメリカ/カイエンヌ/アメリカ/ケイマン/アメリカ/シカゴ/アメリカ/チワワ/アメリカ/シウダッドファレス/アメリカ/コーラルハーバー/アメリカ/コルドバ/アメリカ/コスタリカ/アメリカ/コジャイケ/アメリカ/クレストン/アメリカ/クイアバ/アメリカ/キュラソー/アメリカ/デンマークシャウン/アメリカ/ドーソン/アメリカ/ドーソン・クリーク/アメリカ/デンバー/アメリカ/デトロイト/アメリカ/ドミニカ/アメリカ/エドモントン/アメリカ/エイルネペ/アメリカ/エルサルバドル/アメリカ/エンセナーダ/アメリカ/フォート・ネルソン/アメリカ/フォート・ウェイン/アメリカ/フォルタレザ/アメリカ/グレース・ベイ/アメリカ/ゴットホープ/アメリカ/グース・ベイ/アメリカ/グランド・ターク/アメリカ/グレナダ/アメリカ/グアドループ/アメリカ/グアテマラ/アメリカ/グアヤキル/アメリカ/ガイアナ/アメリカ/ハリファックス/アメリカ/ハバナ/アメリカ/エルモシージョ/アメリカ/インディアナ/インディアナポリス/アメリカ/インディアナ/ノックス/アメリカ/インディアナ/マレンゴ/アメリカ/インディアナ/ピーターズバーグ/アメリカ/インディアナ/テル・シティ/アメリカ/インディアナ/ビベイ/アメリカ/インディアナ/ヴァンセンヌ/アメリカ/インディアナ/ウィナマック/アメリカ/インディアナポリス/アメリカ/イヌヴィク/アメリカ/イカルイト/アメリカ/ジャマイカ/アメリカ/フフイ/アメリカ/ジュノー/アメリカ/ケンタッキー/ルイビル/アメリカ/ケンタッキー/モンティチェロ/アメリカ/ノックス・インディアナ/アメリカ/クラレンダイク/アメリカ/ラパス/アメリカ/リマ/アメリカ/ロサンゼルス/アメリカ/ルイビル/アメリカ/ローワー・プリンシズ/アメリカ/マセイオ/アメリカ/マナグア/アメリカ/マナウス/アメリカ/マリゴ/アメリカ/マルティニーク/アメリカ/マタモロス/アメリカ/マサトラン/アメリカ/メンドーザ/アメリカ/メノミニー/アメリカ/メリダ/アメリカ/メタカトラ/アメリカ/メキシコシティ/アメリカ/ミクロン島/アメリカ/モンクトン/アメリカ/モンテレイ/アメリカ/モンテビデオ/アメリカ/モントリオール/アメリカ/モントセラト/アメリカ/ナッソー/アメリカ/ニューヨーク/アメリカ/ニピゴン川/アメリカ/ノーム/アメリカ/ノローニャ/アメリカ/ノースダコタ/ビューラー/アメリカ/ノースダコタ/センター/アメリカ/ノースダコタ/ニューサレム/アメリカ/ヌーク/アメリカ/オヒナガ/アメリカ/パナマ/アメリカ/パンナータング/アメリカ/パラマリボ/アメリカ/フェニックス/アメリカ/ポルトープランス/アメリカ/ポートオブスペインン/アメリカ/ポルトアクレ/アメリカ/ポルトヴェリェ/アメリカ/プエルトリコ/アメリカ/プンタ・アレーナス/アメリカ/レイニーリバー/アメリカ/ランキンインレット/アメリカ/レシフェ/アメリカ/レジーナ/アメリカ/レゾリュート/アメリカ/リオブランコ/アメリカ/ロザリオ/アメリカ/サンタイザベル/アメリカ/サンタレン/アメリカ/サンティアゴ/アメリカ/サントドミンゴ/アメリカ/サンパウロ/アメリカ/スコアビスント/アメリカ/シップロック山/アメリカ/シトカ/アメリカ/セントバルテルミー島/アメリカ/セントジョンズ/アメリカ/セントキッツ/アメリカ/セントルシア/アメリカ/セントトーマス/アメリカ/セントビンセント/アメリカ/スイフトカレント/アメリカ/テグシガルパ/アメリカ/チューレ/アメリカ/サンダーベイ/アメリカ/ティファナ/アメリカ/トロント/アメリカ/トルトラ/アメリカ/バンクーバー/アメリカ/ヴァージン/アメリカ/ホワイトホース/アメリカ/ウィニペグ/アメリカ/ヤクタット/アメリカ/イエローナイフ/南極/ケーシー/南極/デイビス/南極/デュモン・デュルビル/南極/マッコーリー/南極/モーソン/南極/マクマード/南極/パーマー/南極/ロセラ基地/南極/南極点/南極/昭和基地/南極/トロール/南極/ボストーク/南極/ロングイェールビーン/アジア/アデン/アジア/アルマトイ/アジア/アンマン/アジア/アナディリ/アジア/アクタウ/アジア/アクトベ/アジア/アシュガバード/アジア/アシハバード/アジア/アティラウ/アジア/バグダッド/アジア/バーレーン/アジア/バクー/アジア/バンコク/アジア/バルナウル/アジア/ベイルート/アジア/ビシュケク/アジア/ブルネイ/アジア/カルカッタ/アジア/チタ/アジア/チョイバルサン/アジア/重慶/アジア/コロンボ/アジア/ダッカ/アジア/ダマスカス/アジア/ダカ/アジア/ディリ/アジア/ドバイ/アジア/ドゥシャンベ/アジア/ファマグスタ/アジア/ガザ/アジア/ハルビン/アジア/ヘブロン/アジア/ホーチミン/アジア/ホンコン/アジア/ホブト/アジア/イルクーツク/アジア/イスタンブール/アジア/ジャカルタ/アジア/ジャヤプラ/アジア/エルサレム/アジア/カブール/アジア/カムチャッカ/アジア/カラチ/アジア/カシュガル/アジア/カトマンズ/アジア/カトマンズ/アジア/ハンドゥイガ/アジア/コルカタ/アジア/クラスノヤルスク/アジア/クアラルンプール/アジア/クチン/アジア/クウェート/アジア/マカオ/アジア/マカオ/アジア/マガダン/アジア/マッカサル/アジア/マニラ/アジア/マスカット/アジア/ニコシア/アジア/ヴォクズネツク/アジア/ノヴォシビルスク/アジア/オムスク/アジア/オラル/アジア/プノンペン/アジア/ポンティアナク/アジア/平壌/アジア/カタール/アジア/コスタナイ/アジア/クジルオルダ/アジア/ラングーン/アジア/リヤド/アジア/サイゴン/アジア/サハリン/アジア/サマルカンド/アジア/ソウル/アジア/上海/アジア/シンガポール/アジア/スレドネコリムスク/アジア/台北/アジア/タシケント/アジア/トビリシ/アジア/テヘラン/アジア/テルアビブ/アジア/ティンブー/アジア/ティンブー/アジア/東京/アジア/トムスク/アジア/ウジュンパンダン/アジア/ウランバートル/アジア/ウランバートール/アジア/ウルムチ/アジア/ウスチネラ/アジア/ビエンチャン/アジア/ウラジオストック/アジア/ヤクーツク/アジア/ヤンゴン/アジア/エカテリンブルク/アジア/エレバン/大西洋/アゾレス/大西洋/バミューダ/大西洋/カナリア/大西洋/ケープベルデ/大西洋/フェロー諸島/大西洋/フェロー諸島/大西洋/ヤンマイエン島/大西洋/マディラ島/大西洋/レイキャビク/大西洋/サウスジョージア島/大西洋/セントヘレナ島/大西洋/スタンリー/オーストラリア/ACT/オーストラリア/アデレード/オーストラリア/ブリスベン/オーストラリア/ブロークンヒル/オーストラリア/キャンベラ/オーストラリア/カリー/オーストラリア/ダーウィン/オーストラリア/ユークラ/オーストラリア/ホバート/オーストラリア/LHI/オーストラリア/リンデマン/オーストラリア/ロードハウ/オーストラリア/メルボルン/オーストラリア/NSW/オーストラリア/北部/オーストラリア/パース/オーストラリア/クイーンズランド州/オーストラリア/南部/オーストラリア/シドニー/オーストラリア/タスマニア/オーストラリア/ヴィクトリア/オーストラリア/西/オーストラリア/ヤンコウィナ/ブラジル/アクレ/ブラジル/デノローニャ/ブラジル/東/ブラジル/西/CET/CST6CDT/カナダ/大西洋/カナダ/中部/カナダ/東部/カナダ/山岳部/カナダ/ニューファンドラン/カナダ/太平洋沿岸部/カナダ/サスカチュワン/カナダ/ユーコン/チリ/大陸部/チリ/イースター島/キューバ/EET/EST/EST5EDT/エジプト/アイルランド/Etc/GMT/Etc/GMT+0/Etc/GMT+1/Etc/GMT+10/Etc/GMT+11/Etc/GMT+12/Etc/GMT+2/Etc/GMT+3/Etc/GMT+4/Etc/GMT+5/

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Etc/GMT+6/Etc/GMT+7/Etc/GMT+8/Etc/GMT+9/Etc/GMT-0/Etc/GMT-1/Etc/GMT-10/Etc/GMT-11/Etc/GMT-12/Etc/GMT-13/Etc/GMT-14/Etc/GMT-2/Etc/GMT-3/Etc/GMT-4/Etc/GMT-5/Etc/GMT-6/Etc/GMT-7/Etc/GMT-8/Etc/GMT-9/Etc/GMT0/Etc/グリニッジ/Etc/UCT/Etc/UTC/Etc/ユニバーサル/Etc/ズールー/ヨーロッパ/アムステルダム/ヨーロッパ/アンドラ/ヨーロッパ/アストラハン/ヨーロッパ/アテネ/ヨーロッパ/ベルファースト/ヨーロッパ/ベオグラード/ヨーロッパ/ベルリン/ヨーロッパ/ブラティスラヴァ/ヨーロッパ/ブリュッセル/ヨーロッパ/ブカレスト/ヨーロッパ/ブダペスト/ヨーロッパ/ビュージンゲン/ヨーロッパ/キシニョフ/ヨーロッパ/コペンハーゲン/ヨーロッパ/ダブリン/ヨーロッパ/ジブラルタル/ヨーロッパ/ガーンジー/ヨーロッパ/ヘルシンキ/ヨーロッパ/マン島/ヨーロッパ/イスタンブール/ヨーロッパ/ジャージー/ヨーロッパ/カリーニングラード/ヨーロッパ/キエフ/ヨーロッパ/キロフ/ヨーロッパ/キーウ/ヨーロッパ/リスボン/ヨーロッパ/リュブリャナ/ヨーロッパ/ロンドン/ヨーロッパ/ルクセンブルク/ヨーロッパ/マドリード/ヨーロッパ/マルタ/ヨーロッパ/マリエハムン/ヨーロッパ/ミンスク/ヨーロッパ/モナコ/ヨーロッパ/モスクワ/ヨーロッパ/ニコシア/ヨーロッパ/オスロ/ヨーロッパ/パリ/ヨーロッパ/ポドゴリツァ/ヨーロッパ/プラハ/ヨーロッパ/リガ/ヨーロッパ/ローマ/ヨーロッパ/サマラ/ヨーロッパ/サンマリノ/ヨーロッパ/サラエボ/ヨーロッパ/サラトフ/ヨーロッパ/シンフェロポリ/ヨーロッパ/スコピエ/ヨーロッパ/ソフィア/ヨーロッパ/ストックホルム/ヨーロッパ/タリン/ヨーロッパ/ティラナ/ヨーロッパ/ティラスポリ/ヨーロッパ/ウリヤノフスク/ヨーロッパ/ウジゴロド/ヨーロッパ/ファドゥーツ/ヨーロッパ/バチカン/ヨーロッパ/ウィーン/ヨーロッパ/ヴィリニュス/ヨーロッパ/ボルゴグラード/ヨーロッパ/ワルシャワ/ヨーロッパ/ザグレブ/ヨーロッパ/ザポリージャ/ヨーロッパ/チューリッヒ/GB/GB/アイルランド/GMT/GMT+0/GMT-0/GMT0/グリニッジ/HST/香港/アイスランド/インド洋/アンタナナリボ/インド洋/チャゴス諸島/インド洋/クリスマス島/インド洋/ココス/インド洋/コモロ/インド洋/ケルゲレン諸島/インド洋/マヘー島/インド洋/モルディブ/インド洋/モーリシャス/インド洋/マヨット島/インド洋/レユニオン島/イラン/イスラエル/ジャマイカ/日本/クアジャリン/リビア/MET/MST/MST7MDT/メキシコ/バハノルテ/メキシコ/バハスル/メキシコ/中部/NZ/NZ-CHAT/ナヴァホ/PRC/PST8PDT/太平洋/アピア/太平洋/オークランド/太平洋/ブーゲンビル/太平洋/チャタム/太平洋/チューク/太平洋/イースター/太平洋/エファテ/太平洋/エンダベリー/太平洋/ファカオフォ/太平洋/フィジー/太平洋/フナフティ/太平洋/ガラパゴス/太平洋/ガンビア/太平洋/ガダルカナル/太平洋/グアム/太平洋/ホノルル/太平洋/ジョンストン/太平洋/カントン島/太平洋/キリティマティ島/太平洋/コスラエ島/太平洋/クアジャリン/太平洋/マジュロ/太平洋/マルケサス諸島/太平洋/ミッドウェー諸島/太平洋/ナウル/太平洋/ニウエ島/太平洋/ノーフォーク島/太平洋/ヌメア/太平洋/パゴパゴ/太平洋/パラオ/太平洋/ピトケルン島/太平洋/ポンペイ/太平洋/ポナペ島/太平洋/ポートモレスビー/太平洋/ラロトンガ島/太平洋/サイパン/太平洋/サモア/太平洋/タヒチ島/太平洋/タラワ島/太平洋/トンガタプ/太平洋/トラック諸島/太平洋/ウェーク島/太平洋/ワリーエフトゥーナ諸島/太平洋/ヤップ/ポーランド/ポルトガル/ROC/ROK/シンガポール/トルコ/UCT/米国/アラスカ/米国/アリューシャン/米国/アリゾナ/米国/中部/米国/東インディアナ/米国/東部/米国/ハワイ/米国/インディアナ/スターク/米国/ミシガン/米国/山岳部/米国/太平洋沿岸部/米国/サモア/UTC/ユニバーサル/W-SU/WET/ズールー

リストからタイムゾーンを選択します。

Time OfficeHours Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスにOffィス アワーを設定すると、通常のOffィス アワー以外は、サイネージなどの常時Onの機能をOffにすることができます。これにより、画面が常にアクティブになることがなくなり、画面の寿命が長くなります。ほとんどの画面は、週 7 日間の終日使用は認定されていません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: デバイスは、オフィス アワーをサポートするようにセットアップされていません。このため、他の OfficeHours 設定は効果がありません。

True: デバイスはOffィス アワーをサポートしています。他の OfficeHours 設定では、いつ勤務時間か、および勤務時間外のデバイス スタンバイ動作を設定します。

Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby AutoWakeup

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Offィス時間外に室内でモーションを検出したときにデバイスがどのように応答するかを設定します。この設定に関係なく、誰かが使用を開始すると、デバイスは常にウェイクアップします。

デフォルト値:

Disabled

値スペース:

無効/有効

Disabled: モーションを検出しても、デバイスはスタンバイ状態を維持します。

有効: モーションを検出すると、デバイスは通常どおり復帰します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby Delay

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

営業時間外、ディスプレイオフモードに入るまでのデバイスがアイドルモードでいる時間を指定します。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (1..30)

デバイスがアイドル モードのままになる時間 (分) は、ディスプレイ オフ モードに入る前です。

Time OfficeHours WorkDay End

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

通常のオフィス アワーが終了する時刻を設定します。

デフォルト値:

「19:00」

値スペース:

文字列 (5, 5)

"hh:mm" 形式の時刻で、hh は 00 から 23 までの 2 桁の時間 (am/pm はサポートされていません)、mm は 00 から 59 までの 2 桁の分を表します。

Time OfficeHours WorkDay Start

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

通常のオフィス時間の開始時刻を設定します。

デフォルト値:

「07:00」

値スペース:

文字列 (5, 5)

"hh:mm" 形式の時刻で、hh は 00 から 23 までの 2 桁の時間 (am/pm はサポートされていません)、mm は 00 から 59 までの 2 桁の分を表します。

時間 月曜日の勤務時間の勤務地

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

月曜日を稼働週とするかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 月曜日は稼働週に含まれません。

True: 月曜日が稼働週に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Tuesday

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

火曜日を稼働週にするかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 火曜日は稼働週に含まれません。

True: 火曜日が稼働週に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Wednesday

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

水曜日を稼働週とするかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 水曜日は稼働週に含まれません。

True: 水曜日が稼働週に含まれます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Time OfficeHours WorkWeek Thursday

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

木曜日を営業週とするかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 木曜日は稼働週に含まれません。

True: 木曜日が稼働週に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Friday

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

金曜日を営業週とするかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 金曜日は稼働週に含まれません。

True: 金曜日が稼働週に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Saturday

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

土曜日を稼働週とするかどうかを設定します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 土曜日は営業週に含まれません。

True: 土曜日を稼働週に含めます。

Time OfficeHours WorkWeek Sunday

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

日曜日を営業週とするかどうかを設定します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 日曜日は稼働週に含まれません。

True: 日曜日が稼働週に含まれます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ操作の設定

UserInteraction RaiseHand CMS

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

この設定は、CMS ミーティングでの挙手機能の可用性を制御します。CMS が挙手機能をサポートしており、この設定が True に設定されている場合、挙手ボタンがデバイスのユーザ インターフェイス上に表示されます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 挙手ボタンはありません。

True: CMS が機能をサポートしている場合、[挙手] ボタンが表示されます。

ユーザインターフェースの設定

UserInterface Accessibility IncomingCallNotification

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

視覚的に増幅された着信通知を有効にできます。画面とタッチ コントローラーが約 1 秒間隔 (1.75Hz) で赤/白に点滅し、聴覚障害者の方でも着信に気づきやすくなります。デバイスがすでに通話中の場合、進行中の通話を邪魔しないように、画面は点滅しません。代わりに、画面とタッチ パネルに通常の通知が表示されます。

デフォルト値:

デフォルト

値スペース:

AmplifiedVisuals/Default

AmplifiedVisuals: デバイスが通話を受信したときに、画面とタッチ パネル上で増幅されたビジュアルを有効にします。

デフォルト : 画面とタッチ パネル上の通知のデフォルトのビヘイビアを有効にします。

UserInterface Accessibility ScreenReader Default Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスがスタンバイ/ハーフウェイク状態になったときのスクリーン リーダー モードを構成します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

現在/オフ/オン

現在: 現在に設定すると、デバイスがハーフウェイク/スタンバイになっても何も起こりません。

オフ: デバイスがスタンバイ/ハーフウェイク状態になったときに、スクリーン リーダーをオフにします。

オン: デバイスがスタンバイ/ハーフウェイク状態になったときに、スクリーン リーダーをオンにします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Accessibility ScreenReader Gesture

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

タッチ スクリーン デバイスで「スクリーン リーダーの切り替え」ジェスチャを有効または無効にすることができます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オン: ジェスチャーでスクリーン リーダーを切り替えることができるようになります。有効にすると、「3本の指で下にスワイプ」ジェスチャによってスクリーン リーダーがすぐに有効になり、「スクリーン リーダーが有効です」というメッセージが音声で通知されます。

オフ: ジェスチャーが無効になり、スクリーン リーダーが切り替わりません。

UserInterface Accessibility ScreenReader Speed

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、スクリーン リーダーが有効になっているときに聞こえる音声の速度を制御します。デフォルト設定は 100 です。値を大きくすると音声速度が速くなり、小さくすると音声速度が遅くなります。

デフォルト値:

100

値スペース:

整数 (1..300)

音声出力の速度。

ユーザ インターフェイス アシスタント モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Webex Assistant では、音声コマンドを使用してデバイスをコントロールすることができます。Webex Assistant はクラウド サービスであるため、デバイスは Webex クラウド サービスに登録されているか、またはOnプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

この設定を使用して、デバイスの Webex Assistant を有効または無効にします。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : Webex Assistant はオフになっています。

On : インフラストラクチャでサポートされている場合、Webex Assistant を使用できます。

UserInterface Assistant ProactiveMeetingJoin

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

プロアクティブな参加は Webex Assistant が提供する機能です。「Proactive Join」が有効になっていて、OBTP ミーティングの開始直前に誰かが会議室にいるのを発見すると、デバイスは、まもなく開始されるミーティングに参加するかどうかを尋ねます。

この設定を使用して、デバイスのProactive Join機能を有効または無効にします。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Proactive Joinがオフになっています。

True: Webex Assistant がアクティブな場合、プロアクティブな参加機能を使用できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Bookings AdhocBooking DefaultTitle

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

アドホックブッキングのミーティングのタイトルです。このタイトルは、ミーティングルームの外にある Room Navigator に表示されます。

デフォルト値:
「アドホックミーティング」

値スペース:
文字列 (0, 32)
アドホックブッキングのデフォルトのタイトルです。

UserInterface Bookings AdhocBooking TimeSlotSize

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

スケジュールブッキングのタイムスロットサイズを設定できます。タイムスロットサイズにより、ユーザが予約の開始または終了時間を選択できる予定された間隔 (15、30、60 分) が決まります。

デフォルト値:
30

値スペース:
15/30/60
予約の開始または終了時刻を選択するための予定された時間間隔 (分単位) を指定します。

UserInterface Bookings AdhocBooking UseDefaultTitle

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

臨時ミーティングのスケジュール時に既定のミーティング議題を設定します。デフォルトのミーティングのタイトルは「Ad hoc meeting」です。

デフォルト値:
False

値スペース:
False/True
True: 既定のタイトルを使用します。
False: デフォルトのタイトルを使用しません。

UserInterface Bookings Visibility AllDayMeetings

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

「終日」の長さのミーティングを表示または非表示にします。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
自動: [終日] に設定されたミーティングを表示します。
非表示: 終日に設定されたミーティングを表示しません。

UserInterface Bookings Visibility EarlyJoin

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの [カレンダー] にある [参加] ボタンは、その日にスケジュールされているミーティングで使用できます。まだスケジュール時刻になっていない場合でも、このボタンは使用できます。早期参加が有効になっていない場合、スケジュールされた時刻の 5 分前に[参加 (Join)]ボタンが表示されます。これはミーティングのリマインダポップアップには反映されません。カレンダーのリストビューにのみ反映されます。

デフォルト値:
非表示

値スペース:
自動/非表示
Auto: 早期参加が有効になっています。
非表示: 早期参加は有効ではなく、スケジュールされたミーティング時刻の 5 分前に [参加] ボタンが表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Bookings Visibility NonJoinableMeetings

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

ワークスペースでミーティング参加情報なしのミーティングまたはその他のイベントを表示または非表示にします。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
自動: 参加できないミーティングまたはイベントを表示します。
非表示: 参加できないミーティングまたはイベントを非表示にします。

UserInterface Bookings Visibility JoinedParticipants Avatars

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティングに参加している参加者のアバターをユーザーインターフェイスに表示するかどうかを指定します。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: 参加者のアバターが表示されます。
非表示: 参加者のアバターは表示されません。

UserInterface Bookings Visibility Meeting Reminder

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティング開始前に、会議のリマインダーを画面に表示します。

デフォルト値:
コントローラのみ

値スペース:
すべて/コントローラのみ
すべて: リマインダは、デバイスの画面とタッチコントローラの両方に表示されます。
ControllerOnly: リマインダはタッチ コントローラーにのみ表示されます。

UserInterface Bookings Visibility Organizer

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

デバイスの画面にミーティングの開催者を表示します。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: ミーティングの開催者の名前がデバイスの画面に表示されます。
非表示: ミーティングの開催者名は非表示になります。

UserInterface Bookings Visibility Personal FullDayCalendar

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

パーソナル モード デバイスで、現在アクティブなミーティングのみとは反対に、終日のミーティングを表示または非表示にします。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On
オン: パーソナル モードのデバイスで終日カレンダーを表示します。
オフ: 現在アクティブなミーティングのみを表示します。

UserInterface Bookings Visibility Personal NonJoinableMeetings

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

パーソナル モードのデバイスで、ミーティング参加情報なしのミーティングやその他のイベントを表示または非表示にします。

デフォルト値:
非表示

値スペース:
自動/非表示
自動: 参加できないミーティングを表示します。
非表示: 参加できないミーティングを非表示にします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

通常、開催予定のミーティングのリストが画面とタッチコントローラに表示されます。一覧に仮のミーティングを含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: 仮のミーティングは一覧に含まれます。

非表示: 仮ミーティングはリストに表示されません。

UserInterface Bookings Visibility Title

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

ミーティングの詳細をプライベートに設定します。「スケジュール済みミーティング」がミーティングのタイトルとして表示されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ミーティングのタイトルが公開され、ユーザ インターフェイスに表示されます。

非表示: ミーティングのタイトルが非表示になり、「スケジュール済みミーティング」がユーザ インターフェイスに表示されます。

ユーザ インターフェイス ブランディングのアウェイクブランディング カラー

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスがブランディングのカスタマイズでセットアップされている場合、この設定は、デバイスが起動しているときに表示されるロゴの色に影響します。ロゴをフルカラーで表示するか、ロゴの不透明度を下げて背景や画面の他の要素に自然になじませるかを選択できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/ネイティブ

Auto: ロゴの不透明度が減少します。

ネイティブ: ロゴはフルカラーになります。

UserInterface CameraControl Presets Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーによるカメラ プリセットの追加、変更、削除を許可するかどうかを選択します。許可されている場合は、ユーザ インターフェイスの [手動カメラ コントロール] パネルからプリセットを編集できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/ロック

Auto: ユーザーはカメラ プリセットを追加、変更、削除できます。

ロック済み: カメラのプリセットがロックされています。ユーザーはプリセットを使用できますが、追加、削除、変更はできません。

UserInterface ContactInfo Type

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーインターフェースに表示する連絡先情報のタイプを選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/DisplayName/E164Alias/H323Id/IPv4/IPv6/None/SipUri/SystemName/WebexDisplayName

Auto:このビデオ デバイスに到達するために別のデバイスがダイヤルする必要があるアドレスを表示します。アドレスは、デフォルトの通話プロトコルとデバイス登録によって異なります。

なし: 連絡先情報を表示しません。

IPv4: デバイスの IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: デバイスの IPv6 アドレスを表示します。

H323Id: デバイスの H.323 ID を表示します (H323Alias IDのH323設定を参照してください)。

E164Alias: デバイスの H.323 E164 エイリアスを連絡先情報として表示します (H323 H323Alias E164 設定を参照してください)。

SipUri: デバイスの SIP URI を表示します (SIP URI 設定を参照してください)。

SystemName: デバイスの名前を表示します ([システム名] 設定を参照してください)。

DisplayName: デバイスの表示名を表示します (SIP DisplayName 設定を参照してください)。

WebexDisplayName: Cisco Webex クラウド サービス内で表示されるユーザまたはデバイスの名前です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface CustomMessage

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カスタム メッセージは、スリープモードではない状態で画面の左下側に表示することができます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 512)

カスタムメッセージを追加します。カスタムメッセージを削除するには、空の文字列を追加します。

UserInterface DecemberThemeBeta

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

12 月のみウィンター/季節限定テーマを有効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

オン: テーマを有効にします。

オフ: テーマを無効にします。

UserInterface DevicePersonalization QRCodeNotification

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これは、ホット デスキングでセットアップされたデバイスの右上隅に表示される通知です。これにより、ユーザは QR コード経由でデバイスにログインできます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オフ: 通知はオフです。

オン: 通知はオンです。

UserInterface Features Share MTRAutoSelectSource

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザが Microsoft Teams 会議室 (MTR) 通話の自動ソース選択をオフにできるようにします。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オン: Microsoft Teams 会議 (MTR) 通話の自動ソース選択をオンにします。

オフ: Microsoft Teams 会議 (MTR) 通話の自動ソース選択をオフにします。

ユーザーインターフェイスのインスタントミーティング招待状

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

インスタント ミーティングの開始時に、参加者の追加 (人々を招待) の機能がデバイスにどのように表示されるかを決定します。

デフォルト値:

プロモート

値スペース:

ManualAdd/Promote

プロモート: 追加/招待の機能は、ミーティングを開始すると自動的に画面に表示されます。

手動追加: 追加/招待機能は、画面に自動的には表示されません。UI の通常の [追加] ボタンを使用する必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface WallpaperFillMode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

画面と壁紙のアスペクト比が異なる場合に、壁紙をどうするかを決定します。

デフォルト値:

Crop

値スペース:

Crop/Fit/Stretch

クロップ: 画面全体に表示されるように壁紙を拡大します。壁紙のアスペクト比は変更されないまま保持されるため、必要に応じて画像の上/下または左側/右側が切り取られます。

合わせる: 画像が画面に収まるように、壁紙を拡大または縮小します。壁紙のアスペクト比は変更されず、画面全体に黒い帯が上部/下部 (レターボックス) または側面 (ピラーボックス) に追加されます。

引き伸ばし: 画面全体に表示されるまで壁紙を引き伸ばします。必要に応じて壁紙のアスペクト比を変更します。

UserInterface CustomWallpaperOverlay

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

カスタム壁紙を使用する場合、背景画像をソフトにし、UI 要素によりフォーカスするために、透明な黒のオーバーレイを適用することを選択できます。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 透明な黒のオーバーレイを適用しません。

On : 透明な黒のオーバーレイを適用します。

UserInterface Diagnostics Notifications

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザ インターフェイス上の診断通知を非表示または表示します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: 診断通知はユーザ インターフェイスに表示されます。

非表示: 診断通知はユーザ インターフェイスに表示されません。

ユーザーインターフェイス 機能 カレンダーの開始

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイスにカレンダー ウィジェットを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にカレンダー ウィジェットを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイス上にカレンダー ウィジェットを表示しません。

UserInterface Features Call AudioMute

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上の既定の [ミュート/ミュート解除] ボタンの表示/非表示を選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上に [ミュート/ミュート解除] ボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスに [ミュート/ミュート解除] ボタンは表示されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Features Call CameraControls

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス (コントロール パネル) からカメラ コントロールを表示または非表示にします。この設定は、通話中と通話外の両方に適用されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にカメラ コントロールを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからカメラ コントロールを削除します。

UserInterface Features Call End

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイスから既定の [通話の終了] ボタンを削除するかどうかを選択します。この設定はボタンのみを削除し、機能自体はそのまま削除しません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call HdmiPassthrough

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

タッチ コントローラーに [ラップトップから発信] ボタンを表示するかどうかを選択します。

HDMI パススルーおよびラップトップからの発信機能の詳細については、[ビデオ出力 HDMI パススルー可] 設定を参照してください。Room 55 Dual および Room 70 Dual では、ラップトップからの発信はサポートされていません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: タッチ コントローラーにボタンを表示します。

非表示: タッチ コントローラーにボタンを表示しません。

UserInterface Features Call JoinGoogleMeet

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上の Google Meet ボタンを表示または非表示にします。

このボタンにより、ユーザーは Google 招待によって生成されたミーティング コードを使用して Google Meet ミーティングにダイヤルインできます。

これは、Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスにボタンを表示しません。

UserInterface Features Call JoinMicrosoftTeamsCVI

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザ インターフェイスの [Microsoft Teams] ボタンの CVI (Microsoft Cloud Video Interop) 機能を表示するか非表示にするかを構成します。

有効にすると、ユーザーは Microsoft Teams ボタンを使用して、ミーティング招待からビデオ会議 ID とパスコードを入力することにより、CVI 経由で Teams ミーティングに参加できます。無効になっている場合、Microsoft Teams ボタンは引き続き表示されますが、ビデオ ID の CVI 固有の入力画面は非表示になります。

この機能は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge を通じて接続されているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

非表示

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザーがビデオ ID を入力できる Microsoft Teams ボタン上に CVI 機能を表示します。

非表示: [Microsoft Teams] ボタンに CVI 機能を表示しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Features Call JoinMicrosoftTeamsDirectGuestJoin

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイスの [Microsoft Teams] ボタンのダイレクト ゲスト参加機能を表示するか非表示にするかを構成します。

有効にすると、ユーザーは Microsoft Teams ボタンを使用して、招待からミーティング ID を入力することで、直接ゲスト参加経由で Teams ミーティングに参加できます。無効になっている場合、Microsoft Teams ボタンは引き続き表示されますが、ミーティング ID を入力するための入力画面は非表示になります。

この機能は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge を通じて接続されているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザーがミーティング ID を入力できるゲストダイレクト参加機能を表示します。

Microsoft Teams ボタンのダイレクト ゲスト参加機能を非表示にし、ユーザーがミーティング ID を入力できないようにします。

UserInterface Features Call JoinZoom

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上の [ズーム] ボタンを表示または非表示にします。

このボタンを使用すると、ユーザーは ズーム招待によって生成されたミーティング コードを使用して、ズーム ミーティングにダイヤルインできます。

デフォルト値:

非表示

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンを削除します。

ユーザーインターフェース機能コール JoinWebex

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上の既定の Webex ボタンを表示または非表示にします。

このボタンにより、ユーザーは Webex ミーティング番号を使用して Webex ミーティングにダイヤルインすることができます。ドメインは必要ありません。ただし、これを機能させるには、インフラストラクチャをセットアップして、通話が *@webex.com にルーティングされるようにする必要があります。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call Keypad

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

デフォルトの通話中キーパッド ボタンをユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。このボタンをクリックすると、DTMF 入力などに使用できるキーパッドが開きます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call LayoutControls

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

[レイアウト] ボタンを表示するかどうかを選択します。通話中、ユーザインターフェース上でデフォルトで利用可能です。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスにボタンを表示しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Features Call MidCallControls

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ほとんどの通話中オプションのボタンをユーザ インターフェイスから表示または非表示にするを選択してください。例えば、[保留]、[転送]、[再開] などがあります。
この設定はボタンのみを非表示にし、機能自体は削除しません。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。
非表示: ユーザ インターフェイスから削除ボタンを削除します。

UserInterface Features Call MusicMode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上のミュージック モードのトグル ボタンの表示または非表示を選択します。

デフォルト値:
非表示

値スペース:
自動/非表示
Auto: 進行中の通話でこの機能がサポートされている場合、ユーザ インターフェイス上に音楽モードのトグル ボタンが表示されます。
非表示: ミュージック モードのトグル ボタンはユーザ インターフェイスに表示されません。

UserInterface Features Call ParticipantList

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

[参加者 (Participants)] ボタンを表示するかどうかを選択します。通話中、ユーザインターフェース上でデフォルトで利用可能です。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。
非表示: ユーザ インターフェイスにボタンを表示しません。

UserInterface Features Call SelfviewControls

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上にセルフビュー コントロールを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: ユーザ インターフェイス上にセルフビュー コントロールを表示します。
非表示: ユーザ インターフェイス上にセルフビュー コントロールを表示しません。

UserInterface Features Call Start

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上のデフォルトの [発信] ボタン (ディレクトリ、お気に入り、最近の発信のリストを含む) およびデフォルトの通話中の参加者の追加ボタンの表示または非表示を選択します。この設定はボタンのみを非表示にし、機能自体は削除しません。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。
非表示: ユーザ インターフェイスから削除ボタンを削除します。

UserInterface Features Call VideoMute

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上の既定の [ビデオをオフにする] ボタンの表示/非表示を選択します。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示
Auto: 進行中の通話でこの機能がサポートされている場合、ユーザ インターフェイス上に [ビデオをオフにする] ボタンが表示されます。
非表示: ユーザ インターフェイス上に [ビデオをOffにする] ボタンは表示されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Features Call Webcam

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

タッチ コントローラーに [ラップトップから発信] ボタンを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: タッチ コントローラーにボタンを表示します。

非表示: タッチ コントローラーにボタンを表示しません。

UserInterface Features Files Start

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイスから既定の [ファイル] ボタンを削除するかどうかを選択します。[ファイル] ボタンは、内蔵または接続されたタッチスクリーンがあるデバイスでのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) で使用する必要があります。この設定はボタンのみを削除し、機能自体はそのまま削除しません。

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features HideAll

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイス上のすべてのボタンを非表示にする場合に選択します。

この設定はボタンのみを非表示にし、機能自体は削除しません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ユーザ インターフェイス上にすべての既定のボタンを表示します。

True: ユーザインターフェイスからすべての既定のボタンを削除します。

UserInterface Features Share MTRShareExperience

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

この構成により、Microsoft Teams 会議室 (MTR) と RoomOS の間で、MTR モードのデバイスでの共有機能を切り替えることができます。

デフォルト値:

RoomOS

値スペース:

Microsoft/RoomOS

Microsoft: 共有は MTR アプリケーションにより完全に管理されます。プレビューは、標準の動作とインターフェイスに従って、Microsoft Teams Rooms アプリ内で開始および表示されます。

RoomOS: 共有体験は Webex RoomOS によって管理されます。プレビューは Webex によって開始され、画面にオーバーレイされます。RoomOS は、マルチソース共有、マルチスクリーン構成、4K 解像度などの強化された機能を提供します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Features Share Start

適用対象 : すべての製品

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

通話中と通話外の両方で、コンテンツを共有およびプレビューするための既定の UI 要素をユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。この設定はボタンと UI 要素のみを削除し、機能自体は削除しません。Cisco Proximity または Cisco Webex アプリを使用してコンテンツを共有することは可能です。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンと UI 要素を表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンと UI 要素を削除します。

UserInterface Features Whiteboard Start

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザロール: ADMIN、INTEGRATOR、TOUCHUSER

ユーザ インターフェイスから既定のホワイトボード ボタンを削除するかどうかを選択します。[ホワイトボード] ボタンは、タッチ スクリーン内蔵または接続済みのデバイスでのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) で使用する必要があります。この設定はボタンのみを削除し、機能自体はそのまま削除しません。

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ユーザ インターフェイス上にボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスからボタンを削除します。

ユーザーインターフェイスのヘルプのヒント

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ヘルプのヒントは、ユーザ インターフェイスからアクセスできます。有効にすると、ホーム画面にヒントボタンが表示されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: ヘルプのヒントボタンを表示します。

非表示: [ヘルプ ヒント] ボタンを非表示にします。

UserInterface HomeScreen Dashboard

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ホーム画面から時計やミーティング リストなどの要素を削除するかどうかを選択します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

オフ/オン *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

オン *[DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

Off : ホーム画面の要素を削除します。

On: ホーム画面のすべての要素を保持します。

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp AllowInsecureHttps

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この構成で AllowInsecureHttps 設定が有効 (True に設定) になっており、WebEngine AllowInsecureHttps Add コマンドを使用してホストが明示的に許可リストに追加されている場合にのみ、自己署名証明書を提示する Web ページが表示されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Room Navigator で実行するウェブ アプリケーション (永続的なウェブ アプリ) の URL を設定します。アプリケーションは画面全体に表示され、ユーザーが閉じることはできません。

アプリがデバイスの API と対話する場合、[Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed: True] を設定し、アプリをホストしているサーバーのドメイン名を [WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts] 設定の許可リストに追加します。

メモ: 永続的なウェブ アプリは、ネットワーク経由でデバイスとペアリングされている Room Navigator でのみ利用できます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 2048)

ウェブアプリケーションの URL です。

ユーザ インターフェイス キートーン モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

テキストまたは数字を入力するときに、キーボードクリックサウンド効果 (キートーン) を鳴らすようにデバイスを構成できます。

デフォルト値:

オフ *[DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

On *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

Off/On

Off : キートーンの効果音はありません。

On : キートーンの効果音がOnになります。

ユーザ インターフェース キオスク モード

適用対象 : DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

キオスクモードでは、デバイスのホーム画面を、自分で主催および管理する自分のカスタム ウェブ アプリケーションに置き換えることができます。カスタムウェブアプリケーションの URL は、[ユーザーインターフェイスキオスク URL] 設定に追加する必要があります。たとえば、キオスクモードは、訪問者登録のためにデバイスをセットアップするレセプションエリアで使用され、施設の概要を提供したり、専門家サービスへの直通通話を許可したりできます。

キオスクモードがデバイスのウェブエンジンを使用しているため、キオスクモードを使用するには [ウェブエンジンモード] 設定が [On] になっている必要があります。発信を許可するには、WebEngine Features SipUrlHandler 設定も On にする必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは標準モードで動作します。

On: デバイスはキオスク モードでセットアップされます。

ユーザーインターフェイス キオスク URL

適用対象 : DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスがキオスク モードでセットアップされているときに表示されるカスタム ウェブ アプリケーションの URL。ユーザーインターフェイスのキオスクモード設定も参照してください。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 2048)

キオスクモードのウェブアプリケーションの URL です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Language

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

ユーザインターフェイスで使用される言語を選択します。言語がサポートされていない場合、既定の言語 (英語) が使用されます。

デフォルト値:

英語

値スペース:

Arabic/Catalan/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Czech/Danish/Dutch/English/EnglishUK/Finnish/French/FrenchCanadian/German/Hebrew/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/Portuguese/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/SpanishLatin/Swedish/Turkish/Ukrainian

リストから言語を選択します。

ユーザ インターフェイス LED コントロール モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Room Navigator の壁掛けバージョンには LED ライトが付いています。コントロール方法を設定することができます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Manual/Off

Auto: ビデオデバイスは、通常、会議室の予約状況に基づいて、自動的に LED ライトを制御します (例えば、緑: 会議室は利用可能、赤: 会議室は使用中)。UserInterface LedControl Color Set Color コマンドは効果がありません。

Manual: LED ライトの制御と色の設定には、UserInterface LedControl Color Set Color コマンドを使用します。

Off : LED ライトが完全にOffになります。

UserInterface LedControl OutsideOfficeHours

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Offィス時間外にディスプレイがスタンバイ モードになったときの LED ストリップの動作を制御します。既定では、ディスプレイがOffになっている場合でも、LED ストリップはアクティブになっており、在室状況を表示します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : オフィス時間外にディスプレイがスタンバイモードになると、LED ストリップは無効になります。

On: ディスプレイがOffの場合でも、LED ストリップはアクティブで、占有状況を示します。

UserInterface LiveAnnotation AvailabilityForPresenter

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

プレゼンタが、コンテンツ共有フローを中断することなく、ミーティングの画面共有に注釈することを許可します。この機能は、タッチスクリーンがある場合にのみ適用されます。他のユーザーが共有しているホワイトボードの共同注釈は、Webex (統合型)ミーティング、Webex クラウドサービスに登録されている、またはデバイスが Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

常に

値スペース:

Always/MultiPlayerSupportedByCall

常時: プレゼンタは常にライブ注釈を利用できます。

MultiPlayerSupportedByCall: ライブ注釈は、複数参加者 (または双方向) 注釈をサポートする通話でのみ有効です。これにより、プレゼンタは、自分の共有コンテンツか他のユーザーの共有コンテンツかに関係なく、共有コンテンツに共同で注釈を付けることができます。これは、1 対 1 の通話には適用されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface LiveAnnotation Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ライブ注釈機能を使用すると、ユーザーは、コンテンツ共有のフローを中断することなく、通話中または通話外でも画面共有に対して注釈を付けることができます。この機能は、タッチスクリーンがある場合にのみ適用されます。他のユーザーが共有しているホワイトボードの共同注釈は、Webex (統合型)ミーティング、Webex クラウドサービスに登録されている、またはデバイスが Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

この設定を使用して、コンテンツへのライブ注釈を許可するかどうかを決定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: ライブ注釈を作成できません。フローティング ツールバーの注釈ボタンには、[コンテンツをポイントして注釈を付ける] オプションがありません。[スクリーンショットに注釈を付ける] オプションは、この設定による影響を受けません。

True: ライブ注釈を作成できます。フローティング ツールバーの注釈ボタンをタップして開始し、それから [コンテンツをポイントして注釈する] オプションを選択します。

UserInterface LiveAnnotation EnabledOutOfCall

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、通話以外のコンテンツでライブ注釈を許可するかどうかを決定します。この機能は、タッチスクリーンがある場合にのみ適用されます。他のユーザーが共有しているホワイトボードの共同注釈は、Webex (統合型)ミーティング、Webex クラウドサービスに登録されている、またはデバイスが Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 通話中以外でライブ注釈を作成することはできません。

True: 通話中にライブ注釈を付けることができる。

UserInterface MeetingJoin CVITenants

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが CVI (Cloud Video Interop) を使用するようにセットアップされている場合、Microsoft Teams ミーティングに使用されるデフォルトのホスト名/テナント キーを設定します。ミーティングを主催する組織を識別するこのホスト名がビデオ会議 ID と組み合わされて、ミーティングの完全な SIP URI が生成されます。

次の例では、ビデオ会議 ID は 123456 です。UserInterface MeetingJoin CVITenants が「tenant@m.webex.com」に設定されている場合、URI は 123456.tenant@m.webex.com になります。UserInterface MeetingJoin CVITenants が「vc.example.com」に設定されている場合、URI は 123456@vc.example.com になります。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効なホスト名/テナント キー。

ユーザインターフェイスのミュート警告

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

マイクがミュートされている間に話し始めた場合に、画面に警告を表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: ミュートの警告を表示しません。

Enabled: ミュートの警告を表示します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface NameAndSiteLabels Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティングでリモート参加者のすべての名前とサイトラベルを非表示にするようにデバイスを設定できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: 名前とサイトのラベルを表示します。

非表示: 名前とサイトのラベルを非表示にします。

UserInterface OSD EncryptionIndicator

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティングの開始時に、画面に「暗号化された通話」/「暗号化されていない通話」通知を表示するかどうかを定義します。この設定に関係なく、画面 (右上角) をタップするか、コントローラ (上部) をタッチすると、[セキュリティ] (青い盾) でいつでも暗号化に関する情報を確認できます。

この設定は Webex および WebRTC 通話には適用されません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

常時オフ/常時オン/自動

Auto: 通話が暗号化されている場合、「暗号化された通話」通知が 5 秒間表示されます。通話が暗号化されていない場合、「通話は暗号化されていません」という通知が 5 秒間表示されます。

常時On : 通話が暗号化されている場合、「通話は暗号化されました」という通知が 5 秒間表示されます。通話が暗号化されていない場合、「通話は暗号化されていません」という通知が 5 秒間表示されます。

AlwaysOff:「通話が暗号化されています」/「通話が暗号化されていません」の通知は画面に一切表示されません。

UserInterface OSD HalfwakeMessage

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスがハーフウェイク状態の場合、カスタム メッセージをメイン画面の中央に表示できます。カスタムメッセージにより、デバイスの使用を開始するための手順が記載されている既定のメッセージが置き換えられます。カスタムメッセージを追加せずに、既定のメッセージを削除することもできます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 128)

カスタムメッセージです。空の文字列: 既定のメッセージを復元します。スペースのみ: メッセージは一切表示されません。

UserInterface OSD Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

クリーンなビデオ ストリームを出力するデバイスを設定できます。これはブロードキャストモードと呼ばれます。このモードでは、インジケータ、通知、および制御が削除されます。このモードは主に、視聴者にビデオを渡すだけのブロードキャストおよび録画サービスに適しています。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/視界不良なし

Auto: インジケータ、通知、コントロールがビデオストリームに含まれます (通常モード)。

表示物なし: インジケータ、通知、コントロールは、ビデオストリームから削除されます (ブロードキャスト モード)。名前ラベルは削除されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザインターフェースの OSD 出力

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

画面上の情報およびインジケータの表示に使用するモニタを指定します。これがOnスクリーンディスプレイ(OSD)です。

デフォルト値:

1 *[Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

Auto *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

1 *[Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

1/2/3/自動 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

1/2/自動 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]*

自動 *[RoomKitMini]*

Auto: 内蔵画面を備えたデバイスの場合、画面上の情報とインジケーターが内蔵画面に送信されます。デバイスに 2 つの内蔵画面がある場合、左側の画面が使用されます。

内蔵画面がないデバイスの場合、デバイスはスクリーンがビデオ出力に接続されると検出し、接続された最初のスクリーンに画面上の情報とインジケータを送信します。マルチスクリーン設定があり、デバイスの電源を入れる前にすべてのスクリーンが接続されている場合、画面上の情報とインジケータは、出力コネクタ 1 (HDMI 1) から始まる最小の番号のビデオ出力に送信されます。

1..n: デバイスは画面上の情報とインジケータを指定された出力先に送信します。N を選択して、画面上の情報とインジケータをデバイスの出力コネクタ n に送信します。

統合型スクリーンを持つデバイスでは、最も小さい番号が統合型スクリーンを示します。

UserInterface Phonebook DefaultSearchFilter

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ディレクトリで名前を検索する場合、すべてを検索したり、フィルターをかけてユーザまたは会議室のみを含めたりできます。これは、Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

すべて (All)

値スペース:

すべて/ユーザ/会議室

すべて: 検索結果には人々と会議室の両方が含まれます。

人々: 検索結果には人々のみが含まれます。

会議室: 検索結果には会議室のみが含まれます。

ユーザインターフェイス電話帳モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定では、ユーザーがデバイスのユーザ インターフェイスからディレクトリおよびお気に入りリスト中の連絡先を追加または変更できるかどうかを決定します。

デフォルト値:

ReadWrite

値スペース:

ReadOnly/ReadWrite

読み取り専用: 発信前に、連絡先をお気に入りリストに追加したり、お気に入りリストの連絡先を編集したり、ディレクトリまたはお気に入りリストの連絡先を編集することはできません。

読み書き: 発信前に、連絡先を [お気に入り] リストに追加したり、[お気に入り] リストの連絡先を編集したり、ディレクトリまたはお気に入りリストの連絡先を編集したりすることができます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Proximity Notifications

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイス上の近接通信通知の表示を構成します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off/オン

Auto: 近接通信通知をいつ表示するかをシステムに自動的に決定させます。

Off : 近接性の通知はユーザーインターフェースに表示されません。

On : プロキシミティ通知はユーザーインターフェースに表示されません。

UserInterface RoomScheduler AmbientTemperature Show

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ルーム ナビゲータが会議室予約デバイスとしてセットアップされている場合に適用されます (スケジューラ モードとも呼ばれます)。Room Navigator は、接続されているデバイスから利用可能な場合、室内の温度を表示する場合があります。この設定を使用して、表示するかどうかを決定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Hidden/ShowCelsius/ShowFahrenheit

Auto: 温度を摂氏と華氏の両方で表示します。

非表示: 温度を表示しません。

ShowCelcius: 摂氏を表示する

ShowFahrenheit: 華氏を表示する

UserInterface RoomScheduler DevicePersonalization QRCodePairing

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

室内でペアリングされたデバイスでホットデスキングが有効な場合、会議室の予約ナビゲータは、室外からログインするために使用できる QR コードを表示できます。この機能により、ホット デスキング シナリオでのユーザーのサインインが容易になります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 会議室予約ナビゲータでの QR コード表示を無効にします。

On: 会議室の予約ナビゲータで QR コードの表示を有効にし、ユーザーが会議室の外からログインできるようにします。

ユーザインターフェイス RoomScheduler モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ルーム ナビゲータが会議室予約デバイスとしてセットアップされている場合に適用されます (スケジューラ モードとも呼ばれます)。Room Navigator の動作モードを設定し、デバイスが会議室のスケジュール情報を表示および管理する方法を決定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/CalendarOnly/RoomInUseOnly

Auto: 必要に応じてカレンダー イベントと会議室の使用状況の両方を表示します。

CalendarOnly: カレンダーベースのスケジュール情報のみを表示し、会議室の使用状況は統合しません。

RoomInUseOnly: カレンダーイベントを表示せずに、会議室の使用状況のみを表示します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface RoomScheduler PeopleCount Current

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ルーム ナビゲータが会議室予約デバイスとしてセットアップされている場合に適用されます (スケジューラ モードとも呼ばれます)。Room Navigator は、接続されているデバイスで情報を利用できる場合、現在会議室にいる人々の数を表示する場合があります。この設定を使用して、この情報を表示するかどうかを決定します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: 人数を表示します。

非表示: 人数を表示しません。

ユーザインターフェイス RoomStatus メニューの可視性

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定により、ユーザ インターフェイスの左上メニューを表示または非表示にできます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: 左上のメニューが表示されています。

非表示: 左上のメニューが非表示です。

ユーザーインターフェイス画面ロックポリシー

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスに PIN ロックの設定を強制するかどうかを選択します。ロックモードでは、緊急通話と重要な通知の受信 (詳細は表示されない) のみが利用できます。

この設定は、パーソナル モードの Board、Desk、Room シリーズ デバイスと共有モードの Desk シリーズ デバイスに適用されます。デバイスは Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

デフォルト値:

任意

値スペース:

強制/任意

強制: デバイスを使用する前に、PIN ロックを設定する必要があります。共有モードのデバイスでは、これは UserInterface ScreenLock Workspace Allowed 設定が True の場合にのみ適用されます。

オプション: ユーザーは、パーソナル デバイスに PIN ロックを設定するかどうかを決定できます。共有モードのデバイスでは、[ユーザ インターフェイスの画面ロック] [ワークスペースの許可] 設定が True の場合にのみ、PIN ロックを設定できます。

UserInterface ScreenLock Workspace Allowed

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーがデバイスに PIN ロックを追加できるかどうかを選択します。パーソナル モードのデバイスでは常に PIN ロックを追加できるため、この設定は共有モードのデバイスにのみ適用されます。

デバイスの PIN ロックの設定を開始する方法については、UserInterface ScreenLock AdminInitiateRecovery コマンドを参照してください。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ユーザーは PIN ロックを追加できません。

True: ユーザーは PIN ロックを追加できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザインターフェイスセキュリティモード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定により、ユーザ インターフェイスの左上のドロップダウン メニューから連絡先情報を非表示にすることができます。ただし、これにより、コントロール パネル (右からスワイプするか、ユーザ インターフェイスの右上角にあるアイコンをタップ) から開くことができる [デバイス設定] パネルの詳細が非表示になることはありません。

デバイス設定を保護し、ユーザ インターフェイスから情報を非表示にする方法の詳細については、UserInterface SettingsMenu ModeおよびUserInterface SettingsMenu Visibilityを参照してください。

デフォルト値:

標準

値スペース:

ふつう/強い

標準: ドロップダウンメニューに連絡先情報が表示されます。

強力: ドロップダウン メニューに連絡先情報が表示されません。

UserInterface SettingsMenu Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

コントロール パネル (右からスワイプするか、ユーザー インターフェイスの右上角にあるアイコンをタップ) から開くことができる [デバイス設定] パネルは、デバイスの管理者パスワードで保護できます。パスワードで保護されていない場合、誰でもこれらの設定にアクセスでき、デバイスを工場出荷時状態にリセットできます。パスワードで保護されている場合、認証が必要なすべての設定に南京錠のアイコンが表示されます。

ユーザー インターフェイスからコントロール パネル (デバイス設定パネルを含む) を削除する場合は、[ユーザー インターフェイスの設定] メニューの [可視性] を参照してください。

デフォルト値:

ロック解除済み

値スペース:

ロック/ロック解除

ロック済み: デバイス設定にアクセスするには、管理者のユーザ名とパスフレーズを使用してログインする必要があります。

ロック解除済み: すべてのユーザーがデバイス設定にアクセスできます。

UserInterface SettingsMenu Visibility

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定により、ユーザー インターフェイスからコントロール パネル (デバイス設定パネルを含む) を削除することができます。

パスワードでデバイス設定を保護する場合は、ユーザインターフェイス設定メニューモードを参照してください。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: コントロール パネルは、右からスワイプするか、ユーザ インターフェイスの右上角にあるアイコンをタップすると開きます。

非表示: コントロール パネルがユーザー インターフェイスから削除されます。

ユーザ インターフェイス サウンド効果モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

例えば、Proximityを通じてラップトップやモバイルが接続されたときに、効果音が鳴るようにデバイスを設定できます。

テキスト入力時のキーボードクリック音は、この設定の影響を受けません (ユーザーインターフェイスのキートーンモードの設定を参照してください)。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : 効果音がありません。

On: 効果音がOnになっています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザーインターフェイステーマ名

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

ユーザ インターフェイスのテーマを変更します。
この構成は将来変更されるか、置き換えられる可能性があることに注意してください。

デフォルト値:
自動

値スペース:
アークティックナイト/オート/カーボンブラック/チリプラム/クリスタルミスト/イブニングフィヨルド/ファーストライト/フォギームーア/ライト/メドウストーン/ナイト/ペブルショール/ポピーブリーズ/サンドショール/スモークローズ

Auto: デフォルト設定を使用し、システムに最適な設定を判断させます。
ライト:「ライト」背景テーマを使用します。
夜間:「夜間」の背景テーマを使用します。

ユーザーインターフェイスの壁紙

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

アイドル時のビデオ画面の背景画像 (壁紙) を選択します。
ウェブ インターフェイスを使用して、デバイスにカスタムの壁紙をアップロードすることができます。
次のファイル形式がサポートされています: JPEG、PNG。
ファイルサイズの上限は 8M バイトです。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/カスタム/なし

Auto: デフォルトの壁紙を使用します。
なし: 画面の背景画像はありません。
カスタム: 画面の背景画像としてカスタム壁紙を使用します。
デバイスにカスタム壁紙がアップロードされていない場合、設定はデフォルト値に戻ります。

UserInterface WebcamOnlyMode

適用対象 : RoomKitMini

必要なユーザーロール : 管理者

このソフトウェアバージョンには適用できません。

デフォルト値:
自動

値スペース:
Auto/Off

ユーザ インターフェイス ホワイトボード アクティビティインジケータ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

アクティビティインジケータを使用すると、コール中にだれが描画し、注釈を付けているかを確認できます。
参加者のアバターまたはデバイスのイニシャルがホワイトボードを操作しているときに表示されるため、描画や注釈をしている人を追跡することができます。
クラウド登録済みデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:
オン

値スペース:
Off/On

On : アクティビティインジケータを有効にします。
Off: アクティビティインジケータを無効にします。

ユーザ インターフェイス ホワイトボードの削除

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ホワイトボード アプリとファイル アプリの両方で、ユーザ インターフェイスからホワイトボードを削除するオプションを非表示にするかどうかを選択します。これはホワイトボード自体の削除を無効にするものではなく、UI からボタンを削除するだけです。xAPI (Files Delete コマンド) は引き続き使用できます。

デフォルト値:
自動

値スペース:
自動/非表示

Auto: ユーザーインターフェイス上に削除ボタンを表示します。
非表示: ユーザ インターフェイスから削除ボタンを削除します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserInterface Whiteboard ShareInCall

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイス (通話アプリおよびホワイトボード アプリ) からの通話で、既存のホワイトボードを共有するオプションを非表示にするかどうかを選択します。これは、別のデバイスからの通話でホワイトボードが共有されるのを防ぎませんし、API からの通話でホワイトボードの共有を無効にしません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/非表示

Auto: UI に [共有] ボタン (通話中の共有オプション) を表示します。

Hidden: UI から [共有 (Share)] ボタン (通話中の共有オプション)を削除します。そのため、UI から通話中にホワイトボードを共有するオプションを削除します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ管理設定

ユーザ管理 LDAP 管理フィルター

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

LDAP フィルターは、どのユーザーに管理者権限を与えるかを決定するために使用されます。

LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルターのいずれかを常に設定する必要があります。LDAP 管理フィルターが優先されるため、ユーザ管理 LDAP 管理フィルターが設定されている場合、ユーザ管理 LDAP 管理グループ設定は無視されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 1024)

この文字列の構文については LDAP 仕様を参照してください。例: "(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com) (sAMAccountName=username))"

ユーザ管理 LDAP 管理グループ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

このグループのメンバーには管理者アクセスが与えられます。この設定は、(メンバー:1.2.840.113556.1.4.1941:=<グループ名>) の短縮形です。

LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルタのいずれかを常に設定する必要があります。LDAP 管理フィルターが優先されるため、ユーザ管理 LDAP 管理フィルターが設定されている場合、ユーザ管理 LDAP 管理グループ設定は無視されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

グループの識別名。例: "CN=管理者グループ、OU=会社グループ、DC=会社、DC=com"

UserManagement LDAP Attribute

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

指定されたユーザ名にマッピングするために使用される属性。設定されていない場合、sAMAccountName が使用されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

属性名です。

ユーザ管理 LDAP ベース DN

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

検索を開始するエントリーの識別名 (ベース) です。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

ベースの識別名例: "DC=company, DC=com"

ユーザ管理 LDAP バインド DN

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

これらの資格情報を使用して LDAP サーバーにログインすることでユーザーの完全 DN (識別名) を検索し、その DN をグループ検索に使用します。ルックアップは、ユーザーのログイン名と「属性」構成アイテムの値の照合に基づいて行われます。ユーザ管理 LDAP メンバー属性設定を参照してください。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

ユーザーの完全 DN (識別名) 。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserManagement LDAP BindPassword

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

UserManagement LDAP BindDN 設定で定義されたユーザーに関連付けられたパスワード。
このパスワードは Webex クラウドに送信されず、クラウドからプロビジョニングできません。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

ユーザーのパスワード。

ユーザ管理 LDAP 暗号化

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスと LDAP サーバ間の通信をセキュリティ保護する方法を定義します。UserManagement LDAP Server Port 設定を使用してポート番号を上書きすることができます。

デフォルト値:

LDAPS

値スペース:

LDAPS/なし/STARTTLS

LDAPS: TLS (トランスポートレイヤーセキュリティ) 上のポート 636 で LDAP サーバーに接続します。

なし: LDAP サーバーに暗号化なしでポート 389 に接続します。

STARTTLS: LDAP サーバーにポート 389 で接続し、STARTTLS コマンドを送信して暗号化接続 (TLS) にアップグレードします。

ユーザ管理 LDAP メンバー属性

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ユーザーのグループメンバーシップを確認するには、このグループ属性を使用します。設定されていない場合は、memberUid を使用します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

メンバーの属性名です。

ユーザ管理 LDAP 最小 TLS バージョン

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

LDAP で許可される最も低いバージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.2

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2/TLSv1.3

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降に対応します。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降に対応します。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降に対応します。

TLSv1.3: TLS バージョン 1.3 以降に対応します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ管理 LDAP モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスは、ユーザ名とパスワードを保存および検証するための中央の場所として LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) サーバーの使用をサポートしています。この設定を使用して、LDAP 認証を使用するかどうかを構成します。当社の実装は、Microsoft Active Directory (AD) サービスに対してテストされています。

LDAP モードをOnに切り替える場合、他の UserManagement LDAP 設定がセットアップに合うように構成されていることを確認してください。以下に例を示します。

例 1:

- ユーザ管理 LDAP モード: On
- ユーザ管理 LDAP アドレス: "192.0.2.20"
- UserManagement LDAP BaseDN: "DC=company, DC=com"
- UserManagement LDAP Admin Group: "CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com"

例 2:

- ユーザ管理 LDAP モード: On
- ユーザ管理 LDAP アドレス: "192.0.2.20"
- UserManagement LDAP BaseDN: "DC=company, DC=com"
- UserManagement LDAP Admin Filter: "(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : LDAP 認証は許可されていません。

On: LDAP 認証が許可されます。

ユーザ管理 LDAP サーバアドレス

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を設定します。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはホスト名。

ユーザ管理 LDAP サーバポート

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

LDAP サーバーに接続するポートを設定します。0 に設定すると、選択したプロトコルのデフォルトが使用されます (ユーザ管理 LDAP 暗号化設定を参照してください)。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..65535)

LDAP サーバーのポート番号です。

UserManagement LDAP VerifyServerCertificate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが LDAP サーバーに接続するとき、サーバーは証明書を提示することによってデバイスに自身を識別します。この設定を使用して、デバイスがサーバ証明書を確認するかどうかを決定します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off : デバイスは LDAP サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、LDAP サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されていることを確認する必要があります。CA は、事前にデバイスにアップロードされている信頼できる CA のリストにある必要があります。デバイスのウェブ インターフェイスを使用して、信頼できる CA のリストを管理します (詳細については、管理者ガイドを参照してください)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに必要な数字の最小文字数 (0..9) を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..4)

数字の最小文字数。0 は制限なしを意味します。

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードの最小文字数を指定します。

デフォルト値:

8

値スペース:

整数 (0..256)

最小文字数です。0 は制限なしを意味します。

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに含まれる小文字の最小数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..4)

最小限の小文字の数。0 は制限なしを意味します。

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに使用する最小特殊文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..4)

最小特殊文字数。0 は制限なしを意味します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ユーザ管理パスワードポリシー複雑度 最小大文字

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに含まれる大文字の最小数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..4)

最小限の大文字の数。0 は制限なしを意味します。

UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードが無効になるまでの最大日数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0..7300)

日数の最小値です。0 は制限なしを意味します。

ユーザ管理パスワードポリシー再利用制限

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア バージョンで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次回のパスワード変更から有効になります。

この設定では再使用の制限 (n) を指定します。これはユーザーが過去 n 回まで使用したパスワードに変更することができないことを意味します。

デフォルト値:

12

値スペース:

整数 (0..24)

パスワードに必要な最小数。0 は制限なしを意味します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ設定

Video ActiveSpeaker DefaultPIPPosition

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

アクティブな発言者のピクチャーインピクチャー (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、アクティブな発言者が PiP であるビデオレイアウトを使用する場合にのみ適用されます (ビデオデフォルトレイアウトファミリーローカル設定を参照してください)。この設定は、次回の呼び出しから有効になります。通話中に変更しても、現在の通話には影響しません。

デフォルト値:

現在

値スペース:

CenterLeft/CenterRight/Current/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

現在: 通話を終了するときに、発言者 PiP の位置は変更されずに保持されます。

左上: アクティブな発言者 PiP は画面の左上角に表示されます。

上部中央: 発言者 PiP が上部中央に表示されます。

UpperRight : アクティブな発言者 PiP は画面の右上角に表示されます。

CenterLeft : 発言者 PiP は中央左に表示されます。

CentreRight : 発言者 PiP が中央右に表示されます。

LowerLeft : アクティブな発言者 PiP は画面の左下角に表示されます。

LowerRight : アクティブな発言者 PiP は画面の右下角に表示されます。

ビデオ DefaultLayoutFamily Local

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ローカルで使用するビデオレイアウトファミリーを選択します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/等幅線/オーバーレイ/プロミネント/プロミネント L/シングル

Auto: デバイスが提供するレイアウト データベースで指定されているデフォルトのレイアウトファミリが、ローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: グリッドレイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。参加者はグリッド内に同じサイズのビデオで表示されます。共有コンテンツがある場合は、グリッドの横に表示されます。

オーバーレイ: このソフトウェア リリースでは適用されません。

Prominent_L: Prominent レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。アクティブな発言者は画面の左上部分に表示され、他の参加者は画面下部と右の横に表示されます。

単一: フォーカス レイアウト ファミリーがローカル レイアウトとして使用されます。アクティブな発言者、または存在する場合はプレゼンテーションがフルスクリーンで表示されます。他の参加者は表示されません。アクティブな発言者間のトランジションは音声による自動切り替えです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video DefaultLayoutFamily LocalContent

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

コンテンツ共有開始時にローカルでデフォルトで切り替えるビデオレイアウトファミリーを選択します。この構成は、シングル スクリーン エンドポイントにのみ適用され、デュアル スクリーン エンドポイントには影響しません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/等幅線/オーバーレイ/プロミネント/プロミネント L/シングル

Auto: デバイスが提供するレイアウト データベースで指定されているデフォルトのレイアウトファミリが、ローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: グリッドレイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。参加者はグリッド内に同じサイズのビデオで表示されます。グリッドの横に共有コンテンツが表示されます。

オーバーレイ: このソフトウェア リリースでは適用されません。

Prominent_L: Prominent レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。コンテンツは画面の上部左側に表示され、参加者は画面下部と右側の横に表示されます。

単一: フォーカス レイアウト ファミリーがローカル レイアウトとして使用されます。共有コンテンツがフルスクリーンで表示されます。参加者は表示されません。

Video DefaultLayoutFamily Remote

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

リモート参加者 (遠端) に送信されるストリームで使用されるビデオレイアウトファミリーを選択します。この設定は、デバイスの組み込み MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイント ビデオ会議を主催する場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Equal/Overlay/Prominent/Single

Auto: デバイスが提供するレイアウト データベースで指定されているデフォルトのレイアウトファミリが、ローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: グリッドレイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。参加者はグリッド内に同じサイズのビデオで表示されます。共有コンテンツがある場合は、グリッドの横に表示されます。

オーバーレイ: このソフトウェア リリースでは適用されません。

Prominent : [プロミネント] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。アクティブな発言者は画面の左上部分に表示され、他の参加者は画面下部と右の横に表示されます。

単一: フォーカス レイアウト ファミリーがローカル レイアウトとして使用されます。アクティブな発言者、または存在する場合はプレゼンテーションがフルスクリーンで表示されます。他の参加者は表示されません。アクティブな発言者間のトランジションは音声による自動切り替えです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video DefaultMainSource

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

通話のメイン ビデオのデフォルトの入力ソースを定義します。ビデオ会議端末の電源を入れるか再起動すると、メインのビデオがこのソースで再生されます。ビデオ入力 SetMainVideoSource コマンドを使用して、デバイスの実行中に別のソースに変更します。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2 *[RoomKit RoomKitMini Board]*

1/2/3 *[CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini]*

1/2/3/4 *[Desk]*

1/2/3/4/5 *[RoomBar DeskPro BoardPro]*

1/2/3/4/5/6 *[RoomBarPro BoardProG2]*

1/2/3/4/5/6/7/8/9 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

メインビデオの既定の入力です。

Video Input AirPlay Beacon

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

検出ビーコンサポートをOnにします。検出標識により、ビデオ デバイスと iPhone、iPad、または Mac が同じブロードキャスト ドメイン (VLAN またはサブネット) 上にあることが保証されていない環境での AirPlay の展開が容易になります。これは、エンタープライズ ネットワークがセットアップで典型的なケースです。

ビーコン検出には Bluetooth® が必要です。Desk シリーズ、Board Pro、Board Pro G2、Room Bar、Room Bar Pro では、専用の [Bluetooth 許可] および [Bluetooth 有効] 設定で Bluetooth を有効にする必要があります。専用の Bluetooth 設定がないデバイスでは、検出標識をOnにすると、Bluetooth が自動的に有効になります。

これらのデバイスは AirPlay をサポートしていないため、この設定は、Board (非 S シリーズ) の第一世代にはありません。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: AirPlay 標識が有効になり、デバイスが検出可能になります。通常、エンタープライズ ネットワークのセットアップで使用されます。

Off : AirPlay 標識が無効になり、デバイスは標識サービスを通じて検出できなくなります。通常、ホーム ネットワークのセットアップで使用されます。

Video Input AirPlay DiscoveryInstructions NetworkName

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Apple デバイスが接続する必要があるネットワークの名前を挿入します。設定されていない場合、ビデオ入力 AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo 設定により、ネットワーク自体で定義された名前が表示されます。

これらのデバイスは AirPlay をサポートしていないため、この設定は、Board (非 S シリーズ) の第一世代にはありません。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 32)

ネットワークの名前です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

Apple デバイスが接続する必要があるネットワークの名前をビデオデバイスの AirPlay 情報画面 (カーテン) に表示するかどうかを決定します。ネットワーク名は、ネットワーク自体で定義されるか、または [ビデオ入力 AirPlay 検出手順] [ネットワーク名] 設定で明示的に設定されます。後者が優先されます。

これらのデバイスは AirPlay をサポートしていないため、この設定は、Board (非 S シリーズ) の第一世代にはありません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: AirPlay 情報画面でネットワーク名を表示しない。

True: AirPlay 情報画面にネットワーク名を表示します。

ビデオ入力 AirPlay モード

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

第一世代の Board (S シリーズ以外) を除くすべてのデバイスは、AirPlay をサポートしています。AirPlay により、ユーザーは iPhone、iPad、または Mac にワイヤレス接続して、画面共有、コラボレーション、音声やビデオ コンテンツの再生を行うことができます。

この設定を使ってデバイスの AirPlay を有効にします。

いったんアクティベートされると、パーソナルモードのデバイスを使用している場合、ユーザーはデバイスの [設定] メニューから AirPlay を無効にしたり、再度有効にしたりできます。これは共有デバイスでは利用できません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: デバイスで AirPlay が有効になっています。

Off : デバイス上で AirPlay が非アクティブになります。

Video Input AirPlay Password

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

ビデオ入力 AirPlay セキュリティ設定がパスワードに設定されている場合に、AirPlay ペアリングに使用するパスワードを定義します。

これらのデバイスは AirPlay をサポートしていないため、この設定は、Board (非 S シリーズ) の第一世代にはありません。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 63)

AirPlay ペアリングパスワードです。

ビデオ入力 AirPlay PresentationSelection

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

AirPlay で表示されるコンテンツを自動的に共有するかどうかを定義します。

デフォルト値:

自動共有

値スペース:

AutoShare/OnConnect

PresentationSelection 設定が AutoShare に設定されている場合、コンテンツが自動的に共有される前に、5 秒のカウントダウンを含むポップアップが表示されます。カウントダウンが 0 になるまでは、自動共有を無効にすることができます。

PresentationSelection 設定が OnConnect の場合、ポップアップは、共有をタップするか、ポップアップを閉じるまで、画面に表示されたままになります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ入力 AirPlay セキュリティモード

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

iPhone、iPad、または Mac をデバイスにペアリングするときに使用する認証のタイプを定義します (AirPlay ペアリング)。

これらのデバイスは AirPlay をサポートしていないため、この設定は、Board (非 S シリーズ) の第一世代にはありません。

デフォルト値:

共有モードデバイス: PinAlways 個人モードデバイス: PinFirstTime

値スペース:

Password/PinAlways/PinFirstTime

パスワード:デバイスは AirPlay ペアリングのパスワードを要求します。[ビデオ入力用 AirPlay パスワード] 設定でパスワードを定義する必要があります。パスワードを定義しない場合、デバイスは既定に戻り、PIN を要求します。

PinAlways: デバイスは AirPlay ペアリングのたびに PIN を要求します (切断後 30 秒以内に再接続する場合を除く)。

PinFirstTime : デバイスは、最初の AirPlay ペアリングで PIN を要求します。初回以降は、正常にペアリングされたデバイスが記憶されます。

Video Input CameraConfigMode

適用対象 : RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、デバイスに 2 番目または 3 番目のカメラとして Precision 60、PTZ-12、または PTZ 4K カメラを接続する場合にのみ適用されます。

追加のカメラをデバイスに接続する場合、それに応じていくつかの設定を変更する必要があります。これは一度に 1 つずつ手動で実行するか、カメラの接続をデバイスが検出したときに自動的に実行できます。

自動モードではこれらの設定が適用されます (n はカメラが接続されるコネクタです)。

ビデオ入力コネクタ [n] CameraControl CameraId: n

ビデオ入力コネクタ [n] CameraControl モード: On

ビデオ入力コネクタ [n] InputSourceType: カメラ

ビデオ入力コネクタ [n] PresentationSelection: 手動

ビデオ入力コネクタ [n] 品質: モーション

Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber 設定が適用されている場合、CameraConfigモードが Auto に設定されている場合でも、上記の設定はプッシュされません。通常、EDID 情報が利用できない場合にこの問題が発生し、カメラが接続されたことをデバイスで検出できなくなります。この場合、デバイスは警告を表示します。

また、カメラ Camera n DetectedConnector ステータスが入力コネクタ番号 (n) と対応しない場合は、自動モードを使用しないでください。例: カメラ 2 が HDMI [2] に接続され、カメラ Camera 2 DetectedConnector ステータスが 2 を返す場合にのみ、自動モードを使用します。これらの番号が一致しない場合、代わりに Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber 設定を使用する必要があります。

デフォルト値:

手動

値スペース:

自動/手動

Auto: カメラが接続されたことをデバイスが検出すると、上記の設定が自動的にプッシュされます。

手動: カメラの接続時に、設定を 1 つずつ手動で構成する必要があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input Connector [n] CameraControl CameraId

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

カメラ ID は、このビデオ入力に接続されているカメラの一意の識別子です。

複数のカメラを持つデバイスの場合、現在割り当てられている ID は [カメラ] [カメラのステータス] で確認できます。

デフォルト値:

Connector n : n *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1: 1 コネクタ 2: 3 コネクタ 3: 2 *[BoardPro BoardProG2]*

1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board]*

値スペース:

1 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board]*

1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2]*

複数のカメラを持つデバイスでは、カメラの ID を設定します。1 台のカメラを装備するデバイスの場合、値は固定され、変更することはできません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲: 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

ビデオ入力コネクタ [n] CameraControl モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このビデオ入力コネクタのカメラを制御可能にするかどうかを定義します。一部のコネクタは制御できません(利用できる値はOffだけです)。

デフォルト値:

オン *[CodecPlus Room70/Room55D]*

コネクタ 1、2、3、4、5: On コネクタ 6: Off *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1 : オン その他のコネクタ : オフ *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

オフ *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

オフ/オン

Off : カメラコントロールを無効にします。

On: カメラコントロールを有効にします。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ入力コネクタ [n] CEC モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ入力 (HDMI) がConsumer Electronics Control (CEC)に対応していること。この設定が有効な場合、接続されたデバイスに関する情報 (例えば、デバイスの種類やデバイス名) は、接続されたデバイスも CEC をサポートしている場合に限り、ビデオ デバイスのステータス (Video Input Connector[n] ConnectedDevice CEC [n]) で利用できます。

クアッド カメラがある場合、そのコネクタの CEC をOffにしないでください。カメラのスピーカーから音声が聞こえなくなります。ビデオ会議デバイスからカメラに音声を送信するためのチャネルである HDMI ARC (Audio Return Channel) には CEC が必要です。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オン *[Room70/Room55D]*

Off: CEC は無効になっています。

On: CEC が有効になっています。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 1..5 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 2..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 2..3 *[RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

ビデオ入力コネクタ [n] HDCP モード

適用対象: RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ デバイスの HDMI 入力の 1 つは、HDCP で保護されたコンテンツ (高帯域幅デジタル コンテンツ保護、バージョン 1.4) をサポートするように構成できます。これにより、顧客は、DVD プレーヤー、Google ChromeCast、AppleTV、または HDTV デコーダーなどのデバイスを接続することで、ビデオ デバイスの画面を再利用することができます。通話中は、このタイプのコンテンツを共有できません。

入力コネクタが HDCP をサポートするようにセットアップされている場合、以下の制限が適用されます。通話中は、この入力からコンテンツを共有することはできません。ただし、HDCP で保護されたコンテンツおよび保護されていないコンテンツの両方をローカルで共有することができます。このソースのウェブスナップショットを取得することはできません。

HDCP で保護されたコンテンツをデバイスの画面に表示できるようにするには、ビデオ出力コネクタ [n] HDCPPolicy 構成が正しく設定され、画面自体が HDCP をサポートしていることも確認してください。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off

オフ/オン

Off : ビデオ入力は HDCP で保護されたコンテンツに対応していません。保護されていないコンテンツのみをサポートします。

On: ビデオ入力は HDCP で保護されたコンテンツと保護されていないコンテンツの両方に対応します。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 1..5 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..3 *[Room55 BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input Connector [n] InputSourceType

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

どのタイプの入力ソースをビデオ入力に接続するかを選択します。
デバイスに統合型カメラがある場合、コネクタ 1 は統合型カメラを指します。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: カメラ コネクタ 3、4、5:PC *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1: カメラ その他のコネクタ: PC *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

値スペース:

PC/カメラ/ドキュメントカメラ/メディアプレーヤー/その他/ホワイトボード

カメラ *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

PC:コンピュータがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

カメラ: カメラがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

document_camera : ドキュメントカメラがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

mediaplayer : メディアプレーヤーがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

whiteboard : ホワイトボードカメラがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

その他: その他のオプションが一致しない場合にこれを使用します。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

ビデオ入力コネクタ [n] 最大解像度

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ入力の優先最大解像度を設定します。この入力で共有されるすべてのコンテンツの解像度とフレームレート、またはそれ以下になります。最大解像度を設定することで、不必要なアップスケールを避け、意図した通りの解像度を達成することができます。

たとえば、4K をサポートするビデオ入力では、優先解像度を制限して、自動的に 4K にアップスケーリングされないようにすることができます。

デフォルト値:

コネクタ 1、2: 1920_1080_60 その他のコネクタ: 3840_2160_30 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1: 1920_1080_60 その他のコネクタ: 3840_2160_30 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

1920_1080_60 *[DeskMini Desk]*

3840_2160_30 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ Room55 Board]*

3840_2160_60 *[DeskPro BoardProG2]*

コネクタ 2: 3840_2160_60 コネクタ 3: 3840_2160_30 *[BoardPro]*

値スペース:

1920_1080_60 *[CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk]*

1920_1080_60/3840_2160_30 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board BoardPro]*

1920_1080_60/3840_2160_30/3840_2160_60 *[DeskPro BoardPro BoardProG2]*

解像度 (幅、高さ) およびフレームレート (w_h_f)

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 2..2 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar DeskMini]*

範囲 : 2..3 *[RoomBarPro Room55 Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

範囲: 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 1..5 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ入力コネクタ [n] 名

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

デフォルト値:

コネクタ 1: "Camera 1" コネクタ 2: "Camera 2" コネクタ 3: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 4: "PC 2 (HDMI)" コネクタ 5:"PC 3 (HDMI)" コネクタ 6: "Camera 3 (SDI)" *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1:「カメラ」コネクタ 2:「PC (USB-C)」コネクタ 3:「PC (HDMI)」*[RoomBar BoardPro BoardProG2]*

コネクタ 1:「カメラ」コネクタ 2:「PC (HDMI)」コネクタ 3:「PC (USB-C)」*[RoomBarPro]*

コネクタ 1:「カメラ」コネクタ 2:「PC 1 (HDMI)」コネクタ 3:「PC 2 (HDMI)」*[CodecPlus Room70/Room55D]*

コネクタ 1 :「カメラ」コネクタ 2 :「PC 1 (HDMI) 」コネクタ 3 :「PC 2 (HDMI) 」コネクタ 4 :「PC (USB-C) 」*[RoomKitEQX CodecEQ]*

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 3: "PC 2 (HDMI)" *[Room55]*

コネクタ 1:「カメラ」コネクタ 2:「PC」*[RoomKit RoomKitMini Board]*

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (USB-C)" *[DeskMini]*

コネクタ 1 :「カメラ」コネクタ 2 :「PC (USB-C) 」コネクタ 3 :「PC (HDMI) 」*[Desk DeskPro]*

値スペース:

文字列 (0, 50)

ビデオ入力コネクタの名前です。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

Video Input Connector [n] OptimalDefinition Profile

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

対応する Video Input Connector [n] Quality 設定が鮮明度に設定されている場合、この設定は有効になりません。

最適な解像度プロファイルは、ビデオ会議室の照明条件とカメラの品質を反映します。照明条件とカメラの品質が良いほど、プロファイルは高くなります。通常、Normal または Medium のプロファイルをお勧めします。ただし、照明条件が非常に良好な場合、High プロファイルを設定して特定のコールレートの解像度を上げることができます。解像度は、発信側と着信側の両方のデバイスでサポートされている必要があります。

ビデオ入力コネクタ [n] の OptimalDefinition Threshold60fps 設定を使用して、60 fps が許容される最低解像度を設定します。このしきい値を下回る場合、30 fps が最大フレームレートになります。

デフォルト値:

Medium *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk Board BoardPro BoardProG2]*

コネクタ 1: 中 コネクタ 2、3: 高 *[DeskPro]*

値スペース:

高/中/普通

標準: 一般的から照明が不十分な環境でこのプロファイルを使用します。解像度はやや保守的に設定されます。

中: 良好で安定した照明条件と高品質のビデオ入力が必要です。一部のコール レートでは、これにより解像度が高くなります。

高: 全体的に良好なエクスペリエンスを実現するには、ほぼ最適なビデオ会議照明条件と高品質のビデオ入力が必要です。かなり高い解像度が使用されます。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

各ビデオ入力に対して、この設定は 60 fps で伝送できる最低解像度をデバイスに通知します。この値より低いすべての解像度では、送信される最大フレームレートは 30 fps になります。この解像度以上で、利用可能な帯域幅が十分であれば60fpsが可能です。

デフォルト値:

1920_1080 *[RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

なし *[RoomKit Room55]*

値スペース:

512_288/768_432/1024_576/1280_720/1920_1080/Never

- 512_288: しきい値を 512x288 に設定します。
- 768_432: しきい値を 768x432 に設定します。
- 1024_576: しきい値を 1024x576 に設定します。
- 1280_720: しきい値を 1280x720 に設定します。
- 1920_1080: しきい値を 1920x1080 に設定します。
- 決して: 60fps で転送するためのしきい値を設定しません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲: 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

ビデオ入力コネクタ [n] 優先解像度

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ デバイスが接続された入力ソース (例えばラップトップ) に通知する優先画面解像度とリフレッシュ レートを定義します。ソース側の解像度の選択ロジックは、ソースデバイス (例えば、ラップトップのディスプレイ構成ソフトウェア) によって手動で上書きされない限り、この解像度とリフレッシュレートを自動的に選択します。

1920_1080_60 より大きい形式では、より多くのデータを使用するため、少なくとも HDMI 1.4b データ レートに認定されたプレゼンテーション ケーブル (またはアダプター) が必要になることに注意してください。

デフォルト値:

1920_1080_60 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk]*

コネクタ 2: 3840_2160_60 コネクタ 3: 3840_2160_30 *[BoardPro]*

コネクタ 1: 1920_1080_60 その他のコネクタ: 3840_2160_30 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

3840_2160_30 *[RoomBar RoomBarPro]*

3840_2160_60 *[DeskPro BoardProG2]*

1920_1080_60 *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]*

値スペース:

1920_1080_60 *[CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk]*

1920_1080_60/2560_1080_60/2560_1440_60/2880_1200_60/3440_1440_30/3840_1600_30/3840_1620_30/3840_2160_30 *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board BoardPro]*

1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 *[DeskPro BoardPro BoardProG2]*

- 1920_1080_60: 解像度は 1920 x 1080、リフレッシュレートは 60Hz です。
- 2560_1080_60: 解像度は 2560 x 1080、リフレッシュレートは 60Hz です。
- 2560_1440_60: 解像度は 2560 x 1440、リフレッシュレートは 60Hz です。
- 2880_1200_60: 解像度は 2880 x 1200、リフレッシュレートは 60Hz です。
- 3440_1440_30: 解像度は 3440 x 1440、リフレッシュレートは 30Hz です。
- 3840_1600_30: 解像度は 3840 x 1600、リフレッシュレートは 30Hz です。
- 3840_1620_30: 解像度は 3840 x 1620、リフレッシュレートは 30Hz です。
- 3840_2160_30: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 30Hz です。
- 3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 60Hz です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*
範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*
範囲 : 1..5 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
範囲: 2..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*
範囲 : 2..3 *[RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Video Input Connector [n] PresentationSelection

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

プレゼンテーションソースをビデオ入力に接続したときのビデオ会議端末の動作を定義します。デバイスがスタンバイモードの場合、プレゼンテーション ソースに接続するとスリープ解除されます。相手とプレゼンテーションを共有するには追加のアクション (ユーザーインターフェイスの [共有] を選択) が必要です。ただし、この設定が [自動共有] に設定されている場合を除きます。

複数のカメラを備えたデバイスの場合:任意の入力ソースをプレゼンテーション ソースとして使用できます。通常、メイン カメラをプレゼンテーション ソースとして使用することはありません。

統合型カメラ付きデバイスの場合: 統合型カメラをプレゼンテーション ソースとして使用することはできません。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: 手動 コネクタ 3、4、5: OnConnect *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*
コネクタ 1: 手動 その他のコネクタ: OnConnect *[CodecPlus Room70/Room55D]*
コネクタ 1、2: Manual その他のコネクタ: OnConnect *[RoomKitEQX CodecEQ]*
デスクトップ *[DeskMini Desk DeskPro]*
オンコネクト *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 BoardPro BoardProG2]*
自動共有 *[Board]*

値スペース:

AutoShare/Desktop/Manual/OnConnect

自動共有: 通話中、ケーブルに接続したとき、または他の方法でソースがアクティベートされたときに、ビデオ入力のコンテンツがローカル画面だけでなく自動的に相手側にも表示されます (例えば、接続されたコンピュータが復帰したときスリープモードから)。ユーザ インターフェイスで [共有] を選択する必要はありません。通話の発信または応答時にプレゼンテーションソースがすでに接続されている場合は、ユーザーインターフェイス上で [共有] を手動で選択する必要があります。

デスクトップ: ケーブルに接続されているとき、または別の方法でソースがアクティベートされたとき (接続されたコンピュータがスリープモードから復帰するときなど)、ビデオ入力のコンテンツが画面に表示されます。これはアイドル時と通話中の両方に適用されます。また、ビデオ入力のコンテンツは、通話を終了するときにアクティブな入力であった場合に限り、通話を終了しても画面に残ります。

手動: ビデオ入力のコンテンツは、ユーザー インターフェイスから [共有] を選択するまで、画面に表示されません。

OnConnect: ケーブルを接続したとき、またはソースが他の方法でアクティベートされたとき (接続されたコンピュータがスリープモードから復帰したときなど)、ビデオ入力のコンテンツが画面に表示されます。それ以外の場合の動作は手動モードと同じです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。
範囲 : 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*
範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*
範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

範囲: 2..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 2..3 *[RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

ビデオ入力コネクタ [n] 品質

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオをエンコードして送信する場合、高解像度と高フレームレートの間のトレードOffがあります。ビデオソースによっては、高解像度よりも高フレームレートの伝送の方が重要な場合があります。高フレームレートを優先するか、高解像度を優先するかを指定します。

デバイスで Quad Camera、SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 カメラが検出された場合、この設定は自動的に [Motion] に設定されます。ユーザーがこの設定を手動で変更した場合、再起動後またはカメラの再接続後に [モーション] に戻ります。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: Motion コネクタ 3、4、5: Auto *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama]*

コネクタ 1 : Motion その他のコネクタ : Auto *[CodecPlus Room70/Room55D]*

コネクタ 1、2 : Motion その他のコネクタ : Auto *[RoomKitEQX CodecEQ]*

Auto *[RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

コネクタ 2 : Motion その他のコネクタ : Auto *[RoomBarPro]*

値スペース:

オート/モーション/シャープネス

Auto: 開始点として自動が鮮明度に設定されます、ビデオストリームはそれに従ってエンコードされます。デバイスは受信ビデオ ストリームを継続的に分析し、モーションが検出されると、モーションのエンコードに自動的に変更します。

モーション: 可能な最高のフレームレートを提供します。より高いフレームレートが必要な場合、一般的には画像に動きがある場合に使用します。

Sharpness: 可能な最高の解像度を提供します。最高品質の詳細な画像やグラフィックスが必要な場合に使用します。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲: 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 2..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 2..3 *[RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオ入力に接続されたデバイスは、CTA-861 で定義されている、RGB ビデオ量子化範囲のルールに従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは標準に準拠していないため、この構成を使用して設定を上書きし、任意のソースで完全な画像を取得できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/フル/制限

Auto: CTA-861-F に準拠して、ビデオ形式に基づいて自動的に RGB 量子化範囲が選択されます。CE ビデオ形式は制限された量子化範囲レベルを使用します。IT ビデオ形式は完全な量子化範囲レベルを使用します。

フル: クOnタイズの範囲全体です。R、G、B の量子化範囲には、すべてのコード値 (0 - 255) が含まれます。これは CTA-861-F で定義されています。

制限付き:クOnタイズ範囲です。極端な (16 - 235) の一部のコード値を除外した R、G、B の量子化範囲。これは CTA-861-F で定義されています。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..3 *[CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲 : 1..5 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲: 2..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 2..3 *[RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ入力コネクタ [n] 変換

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

選択した変換をビデオ入力に適用します。このオプションを選択すると、共有メニューのボタンが「180 度回転」と「なし」を切り替えます。

デフォルト値:

None

値スペース:

水平反転/垂直反転/なし/回転 180 *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini DeskPro BoardPro BoardProG2]*

なし *[Desk]*

なし: 変換なし。

FlipHorizontal: 水平方向に反転します。

FlipVertical: 垂直に反転します。

Rotate180: 画像を 180 度回転します。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 4..5 *[RoomBar RoomBarPro DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲: 5..6 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 7 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

ビデオ入力コネクタ [n] の可視性

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイスのメニューとボタンでのビデオ入力コネクタの表示/非表示を定義します。

統合型カメラ付きデバイスの場合: コネクタ 1 はデバイスの統合型カメラであり、プレゼンテーション ソースとしては利用できません。

デフォルト値:

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: IfSignal *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

コネクタ 1: Never コネクタ 2: Never その他のコネクタ: IfSignal *[RoomPanorama/ Room70Panorama]*

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: Always *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D]*

値スペース:

Always/IfSignal/Never

決して *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

常時: ビデオ入力コネクタのメニュー選択は、常にユーザインターフェイス上に表示されます。

信号がある場合: ビデオ入力コネクタのメニュー選択は、何かがビデオ入力に接続されている場合にのみ表示されます。

なし: 入力ソースはプレゼンテーションソースとして使用されることはなく、ユーザーインターフェイスに表示されません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]*

範囲 : 1..3 *[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

範囲 : 1..4 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

範囲: 1..6 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input Miracast Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Miracast を使用すると、ミーティング参加者はクライアントを必要とせずに、ラップトップ (Windows または Android) からビデオ デバイスにコンテンツをワイヤレスで共有できます。Miracastは、Wi-Fi Directを使用して送信デバイス (通常はミーティング参加者のラップトップ) からビデオデバイスへの直接ネットワーク接続を確立するか、または既存のネットワークインフラストラクチャを使用してシグナリング (MS-MICEおよびRTSP) とメディアの両方にアクセスします。[ビデオ入力の [Miracast トランスポート] 設定で使用する方法を選択します。

どちらの方法も 2.4 GHz 帯域のみをサポートし、接続を確立する際にはシグナリング (RTSP) に TCP ポート 7236 を使用します。さらに、接続がインフラストラクチャを経由する場合、MS-MICE プロトコルは TCP ポート 7250 を使用します。MS-MICE プロトコルの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

Miracast がOnになると、ビデオデバイスは、近くのデバイスがピックアップできる (範囲は約100 メートル) ビーコンを発信します。近くにあるデバイスのスキャン リストに表示されるブロードキャスト名は、構成によって異なります。PII (個人を特定できる情報) が含まれないようにするために、SystemUnit BroadcastName 設定でブロードキャスト名を明確に設定することができます。それ以外の場合、スキャン リストには、デバイスが Webex クラウド サービスに登録されている場合は Webex DisplayName、Onプレミス サービスに登録されている場合は SystemUnit Name が含まれます。どちらの名前も設定されていない場合、製品タイプ (id) が表示されます。接続がインフラストラクチャ経由の場合、標識にはビデオ デバイスの IP アドレスとホスト名も含まれます。

Miracast は Wi-Fi を使用しているため、無線以外のデバイスではサポートされていません。また、これらの製品で Wi-Fi アンテナがオプションの場合は、接続することを忘れないでください。さらに、デバイスはケーブルでネットワークに接続されている必要があります (そして有線ネットワーク インターフェイスに IP アドレスを持つ必要があります)。

デフォルト値:

Off

値スペース:

手動/Off/On

On: Miracast がアクティブになり、ユーザーは無効化できません。

Off: Miracast は非アクティブ化されており、ユーザーはアクティブ化できません。

手動: Miracast はデフォルトで無効になっていますが、ユーザーはデバイスのユーザ インターフェイスの設定パネルから自分でトグルすることができます。

Video Input Miracast MaxBitrate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

送信デバイス (ラップトップなど) とローカル ビデオ デバイスの間の、Miracast コンテンツの最大ビットレートを設定します。この設定は、ミーティングでのローカル デバイスと遠端デバイス間の伝送には適用されません。

デフォルト値:

15000

値スペース:

整数 (5000..15000)

kbps 単位のビットレート。

ビデオ入力の Miracast PIN の長さ

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Miracast PIN コードの桁数を設定します。ミーティング参加者は、ビデオ デバイスへの必要な Wi-Fi Direct ネットワーク接続を確立するときに、ラップトップ (送信デバイス) でこのコードを入力する必要があります。ミーティング参加者は 30 秒以内に PIN コードを入力する必要があります。

デフォルト値:

4

値スペース:

4/8

PIN コードの桁数です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Input Miracast PresentationSelection

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

Miracast 接続が確立されると、プレゼンテーションがローカル画面に自動的に表示されます。デバイスがスタンバイ モードの場合は、起動します。

この設定では、相手とのプレゼンテーションの共有に追加のユーザアクションが必要かどうかを決定します。

デフォルト値:

自動共有

値スペース:

AutoShare/OnConnect

自動共有: プレゼンテーションが相手と自動的に共有されるまで 5 秒のカウントダウンがあります。カウントダウン中、ユーザーは UI から共有を停止できます。

OnConnect: プレゼンテーションが自動的に相手側と共有されることはありません。ユーザーは UI 上のポップアップから共有 (または閉じる) を選択する必要があります。

ビデオ入力の [Miracast] 品質

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

ビデオをエンコードして送信する場合、高解像度と高フレームレートの間のトレードOffがあります。コンテンツによっては、高解像度よりも高フレームレートの伝送の方が重要な場合や、その逆の場合があります。高フレームレートを優先するか、高解像度を優先するかを指定します。

この設定はローカルで共有されているコンテンツには影響しません。遠端に送信する信号にのみ影響します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

オート/モーション/シャープネス

Auto: 開始点として自動が鮮明度に設定されます、ビデオストリームはそれに従ってエンコードされます。デバイスは受信ビデオ ストリームを継続的に分析し、モーションが検出されると、モーションのエンコードに自動的に変更します。

モーション: 可能な最高のフレームレートを提供します。より高いフレームレートが必要な場合、一般的には画像に動きがある場合に使用します。

Sharpness: 可能な最高の解像度を提供します。最高品質の詳細な画像やグラフィックスが必要な場合に使用します。

Video Input Miracast Transport

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

Miracast 共有の場合、送信デバイス (ラップトップなど) とビデオ デバイスの間のメディア トランスポートが、Wi-Fi Direct またはインフラストラクチャ接続のどちらを経由するかを選択します。

Windows 10 v1809 以降を実行している送信デバイスのみが、インフラストラクチャ経由の転送をサポートしています。Android デバイスはそれをサポートしていません。送信側のデバイスとビデオ デバイスは、同じネットワーク上にあるか、または TCP シグナリングおよび UDP メディア トラフィックが間でルーティングできるネットワーク上にある必要があります。送信側のデバイスを暗号化されていない Wi-Fi ネットワーク上に置くことはできません。

インフラストラクチャ経由で接続する場合、中間者攻撃を防ぐために、ネットワーク インフラストラクチャが IPv4 ARP / IPv6 NDP スプーフィング防止を提供することを推奨します。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Direct/Infrastructure

Auto: 可能な場合はインフラストラクチャを使用し、それ以外の場合は Wi-Fi Direct を使用します。

直接: Wi-Fi Direct を使用して、ラップトップからデバイスへの直接ネットワーク接続でメディアを共有します。

インフラストラクチャ: 会社の既存のネットワークインフラストラクチャでメディアを共有します。RTSP および MS-MICE (Miracast over Infrastructure Connection Establishment protocol) を使用します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Monitors

適用対象 : RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

モニタの役割は、ビデオ出力コネクタ [n] MonitorRole 設定を使用して各画面に割り当てられます。モニタの役割は、この出力に接続されている画面に表示されるレイアウト (通話参加者とプレゼンテーション) を決定します。同じモニタの役割を持つ画面は、同じレイアウトになります。モニタの役割が異なる画面のレイアウトは異なります。

ビデオモニタ設定で設定されているモニタレイアウトモードは、あなたの会議室のセットアップで必要な異なるレイアウトの数を反映するべきです。一部の画面はプレゼンテーション用に予約できます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/デュアル/デュアルプレゼンテーションのみ/シングル *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro BoardPro]*

自動/デュアル/デュアルプレゼンテーションのみ/シングル/トリプル/トリプルプレゼンテーションのみ *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 BoardProG2]*

Auto/TriplePresentationOnly *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

Auto: デバイスに接続されている画面の数が自動的に検出され、モニタの役割に応じて画面上のレイアウトが配信されます。

シングル: レイアウトはデバイスの画面に表示されます。デバイスに複数の画面がある場合、すべての画面で同じレイアウトが表示されます。

ダブル: レイアウトは、1 番目と 2 番目のモニタの役割の画面に分配されます。レイアウトにプレゼンテーションが含まれる場合、通話のすべての参加者は 1 番目のモニタの役割の画面に表示されます、プレゼンテーションは 2 番目の役割の画面に表示されます。

ダブルプレゼンテーションのみ: 通話のすべての参加者が、まずモニタの役割の画面に表示されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションは 2 番目のモニタの役割で画面に表示されます。

Triple : レイアウトは、1 番目、2 番目、3 番目のモニタの役割の画面に分配されます。モニタの役割が 2 番目の画面が最初に使用され、次に 1番目、最後に 3 番目が使用されます。レイアウトにプレゼンテーションが含まれる場合、通話のすべての参加者は 1 番目と 2 番目のモニタの役割の画面に表示されます、プレゼンテーションは 3 番目の役割の画面に表示されます。

TriplePresentationOnly: 通話のすべての参加者に、モニタの役割が First と Second の画面が分配されます。モニタの役割が Second の画面が最初に使用され、次に First が使用されます。レイアウトにプレゼンテーションが含まれる場合、プレゼンテーションはモニタの役割が Third の画面に表示されます。

ビデオ出力コネクタ [n] の明るさ

適用対象 : Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

デバイスの統合画面の明るさのレベルを定義します。

デフォルト値:

80

値スペース:

整数 (0..100)

範囲 : 値は 0 と 100 の間でなければなりません。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

Video Output Connector [n] BrightnessMode

適用対象: DeskPro

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

画面の明るさのレベルを自動または手動でコントロールできるように設定してください。コネクタ [1] はデバイスの統合画面です。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/手動

Auto: 画面の輝度レベルをデバイスが自動的に設定します。

手動: 画面の輝度レベルをユーザーが手動で設定できます。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ出力コネクタ [n] CEC モード

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

このビデオ出力 (HDMI) はコンシューマー向け電子機器操作コントロール (CEC) に対応しています。

この設定が [On] の場合、ビデオデバイスは CEC を使用して、デバイス自体がスタンバイ状態になったときに画面をスタンバイ状態にします。同様に、デバイス自体がスタンバイから復帰すると、デバイスは画面を起動します。

画面上のアクティブなビデオ入力は、ユーザーによって変更される場合があります。通話が開始されると、デバイスはアクティブなビデオ入力が画面上で別の入力に切り替えられたかどうかを検出します。デバイスは入力を元に戻し、その結果、デバイスはアクティブなビデオ入力ソースになります。デバイスがスタンバイ状態になったときに、デバイスがアクティブな入力ソースではない場合、画面はスタンバイに設定されません。

出力に接続されているスクリーンは CEC と互換性があり、CEC がスクリーンで有効になっていることが前提条件です。

CEC には、製造元によって異なるマーケティング名が使用されていることに注意してください。例えば、Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、ブラビア同期 (Sony)、HDMI-CEC (日立)、クロリンク (パイオニア)、CE-Link および レグザリンク (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (パナソニック)、イージーリンク (Philips)、および NetCommand for HDMI (三菱) があります。

デフォルト値:

対応 RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 DeskPro BoardPro BoardProG2

Off *[Room70/Room55D Room70G2]*

会議室のパノラマ: 対応 Room 70 パノラマ: コネクタ 1: 非対応、コネクタ 2: 非対応、コネクタ 3: 対応 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

オフ/オン *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2]*

On *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

Off: CEC は無効になっています。

On: CEC が有効になっています。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1 *[RoomKitMini]*

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..2 *[Room55 DeskPro BoardPro]*

範囲: 2..3 *[BoardProG2]*

範囲: 2..2 Room 70 Single 用、Room 70 Dual では利用できません *[Room70/Room55D]*

Video Output Connector[n] ContentType

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオストリームのコンテンツタイプ情報を送信するかどうかを決定します。

ほとんどの場合、コンテンツ タイプ情報は送信しないことが最適です。しかし、遅延が予想以上に高い場合は、コンテンツ タイプを [ゲーム (低遅延ビデオ)] に設定してみてください。ただし、ほとんどのディスプレイでは、送信されるコンテンツ タイプ情報をチェックしないことに注意してください。

デフォルト値:

デフォルト

値スペース:

デフォルト/ゲーム

デフォルト: コンテンツ タイプ情報を送信しません。

ゲーム: コンテンツタイプ「ゲーム」をビデオストリームで送信します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus]*

範囲: Room 70 Singel: 1..1 Room 55 Dual、Room 70 Dual: 1..2 *[Room70/Room55D]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 1..1 *[RoomKitMini]*

範囲 : 2..2 *[Room55 DeskPro BoardPro]*

範囲: 2..3 *[BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ出力コネクタ [n] HDCPForce1_4

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスが新しい HDCP 2.2 バージョンもサポートしている場合でも、出力で HDCP 1.4 プロトコルのみを使用するように指示する場合は、この設定を使用します。

信号チェーン内の機器が HDCP 2.2 のサポートを通知するが、完全にはサポートしていない場合に、これが必要になることがあります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

オフ/オン *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

オン *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

オフ: 標準の HDCP ネゴシエーションを提供します。つまり、使用可能な場合は HDCP 2.2 を使用し、そうでない場合は HDCP 1.4 を使用します。

オン: HDCP ネゴシエーションに HDCP 1.4 のみを提供します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro BoardPro]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardProG2]*

範囲 : 1..1 *[RoomKitMini DeskMini Desk Board]*

Video Output Connector [n] HDCPPolicy

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

一部のビデオデバイスの HDMI 出力は、HDCP で保護されたコンテンツの送信を許可するように設定できます。HDCP で保護されたコンテンツを画面に表示するには、画面自体も HDCP に対応している必要があります。

デフォルト値:

Off *[RoomKit RoomKitMini Board]*

オン *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro]*

コネクタ 1、2: オン コネクタ 3: オフ *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1: On コネクタ 2: Off *[CodecPlus Room70/Room55D]*

On *[BoardProG2]*

値スペース:

オフ *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama Board BoardProG2]*

オフ/オン *[RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

オン *[Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Off : HDCP は出力リンクで無効です。そのため、ビデオ出力では保護されていないコンテンツのみが許可されます。

On: ビデオ出力は、HDCP (HDCP 1.4 または HDCP 2.2) 保護されたコンテンツと保護されていないコンテンツの両方を許可します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro BoardPro]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardProG2]*

範囲 : 1..1 *[RoomKitMini DeskMini Desk Board]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset

適用先 : RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

[HorizontalOffset] および [VerticalOffset] 設定は、各ビデオ出力に関連付けられます。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対位置を示すために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平方向および垂直方向の両方の中央に配置されることを示します。負の水平Offセットはモニタが中央より左に配置されることを示し、正の水平Offセットはモニタが中央より右に配置されることを示します。負の垂直Offセットはモニタが中心より下にあることを示し、正の垂直Offセットはモニタが中心より上にあることを示します。Offセットの大きさは、他のディスプレイと比較して、ディスプレイが中心からどれだけ離れているかを示します。

例: 2 つの画面が並んでいます。左の画面はコネクタ 1、右の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1", VerticalOffset = "0"

例:上下に 2 つの画面があるとします。上の画面はコネクタ 1、下の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "-1"

Board Pro、Board Pro G2、Desk Pro、および Room 55 の場合、統合画面コネクタ 1 は、HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" (暗黙的、構成不可) になります。

デフォルト値:

コネクタ 1:「-1」コネクタ 2:「0」コネクタ 3:「1」 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2]*

コネクタ 1:「0」コネクタ 2:「1」コネクタ 3:「0.5」 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

コネクタ 1: "0" コネクタ 2: "1" *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]*

コネクタ 2:「1」 *[Room55 DeskPro]*

コネクタ 2: "0" *[BoardPro]*

コネクタ 2: "-1" コネクタ 3: "0" *[BoardProG2]*

値スペース:

文字列 (1, 12)

文字列は、-100.0 から 100.0 まで (これらの数値を含む) の 10 進数を表します。C++ <string> ライブラリの std::stof 関数に準拠する入力文字列を受け付けます。これは、10 進数表記または E 記法を使用できることを意味します。例えば、"12", "12.0", "1.2e1", "1.2E1", "-0.12", "-12e-2" です。先頭の空白文字は切り捨てられ、小数点は "." です。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..2 *[Room55 DeskPro BoardPro]*

範囲: 2..3 *[BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Output Connector [n] Location VerticalOffset

適用先 : RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/ Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

[HorizontalOffset] および [VerticalOffset] 設定は、各ビデオ出力に関連付けられます。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対位置を示すために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平方向および垂直方向の両方の中央に配置されることを示します。負の水平Offセットはモニタが中央より左に配置されることを示し、正の水平Offセットはモニタが中央より右に配置されることを示します。負の垂直Offセットはモニタが中心より下にあることを示し、正の垂直Offセットはモニタが中心より上にあることを示します。Offセットの大きさは、他のディスプレイと比較して、ディスプレイが中心からどれだけ離れているかを示します。

Board Pro、Board Pro G2、Desk Pro、および Room 55 の場合、統合画面コネクタ 1 は、HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" (暗黙的、構成不可) になります。

例: 2 つの画面が並んでいます。左の画面はコネクタ 1、右の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1", VerticalOffset = "0"

例:上下に 2 つの画面があるとします。上の画面はコネクタ 1、下の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "-1"

デフォルト値:

コネクタ n: "0" *[RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro BoardPro BoardPro BoardProG2]*

コネクタ 1、2: 「0」 コネクタ 3: 「-1」 *[RoomKitEQX RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

文字列 (1, 12)

文字列は、-100.0 から 100.0 まで (これらの数値を含む) の 10 進数を表します。C++ <string> ライブラリの std::stof 関数に準拠する入力文字列を受け付けます。これは、10 進数表記または E 記法を使用できることを意味します。例えば、"12", "12.0", "1.2e1", "1.2E1", "-0.12", "-12e-2" です。先頭の空白文字は切り捨てられ、小数点は "." になります。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲: 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..2 *[Room55 DeskPro BoardPro]*

範囲: 2..3 *[BoardProG2]*

Video Output Connector [n] MonitorRole

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

モニタの役割は、このビデオ出力に接続された画面にどのビデオストリームが表示されるかを示します。すべての出力に対する Video Monitors 設定と MonitorRole 設定は、各画面に表示されるレイアウト (ビデオ ストリーム) を定義します。

デフォルト値:

自動 *[RoomKit RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Dual : コネクタ 1、2 : Auto、Single : コネクタ 1 : Auto コネクタ 2 : PresentationOnly *[Room70/ Room55D]*

値スペース:

自動/第 1/プレゼンテーションのみ/レコーダー/第 2/第 3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardProG2]*

Auto/First/PresentationOnly/Second *[RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus Room55 Room70/ Room55D DeskPro BoardPro]*

Auto/First/Second *[DeskPro BoardPro]*

Auto/First/Second/Third *[BoardProG2]*

Auto: スクリーンが接続されるとデバイスが検出され、ビデオモニタ設定に応じたモニタの役割 (第一、第二、第三) が自動的に割り当てられます。

第一/第二/第三: マルチスクリーン設定でのスクリーンの役割を定義します。単一画面のセットアップでは、第一、第二、第三の違いはありません。

PresentationOnly: アクティブな場合にプレゼンテーションビデオストリームを表示し、それ以外は表示しません。このモニタの役割を持つ画面/出力は、ビデオモニタ設定では無視されます。

レコーダー: ローカルメインビデオ (セルフビュー) を含むすべての参加者を表示します。アクティブな場合、プレゼンテーションも表示します。このモニタの役割を持つ画面/出力は、ビデオモニタ設定では無視されます。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..2 *[Room55 DeskPro BoardPro]*

範囲: 2..3 *[BoardProG2]*

範囲 : 1..1 *[RoomKitMini]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ出力コネクタ [n] 解像度

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ、USER

出力で使用される解像度とリフレッシュレートを設定します。指定された解像度とリフレッシュ レートが接続されたスクリーン/ディスプレイでサポートされていない場合、またはこの構成が [自動] に設定されている場合、出力解像度とリフレッシュ レートは画面の優先形式になります (EDID でレポートされ、ビデオ出力コネクタに渡されます) [n] 接続されたデバイスの優先形式のステータス。

ビデオ出力コネクタ [n] の幅、高さ、リフレッシュレートのステータスで送信される実際の解像度とフレームレートを常に確認できます。

接続されたスクリーンがサポートしていない解像度を選択すると、出力形式はスクリーンの優先形式になります (EDID で報告され、ビデオ出力コネクタ [n] 接続されたデバイスの優先形式のステータスで渡されます。

デバイスに統合画面がある場合、コネクタ [1] はこの画面を参照します。

1920_1200_60 を超える形式で外部スクリーンに接続するには、高品質ディスプレイケーブルを使用する必要があります。

一部の UHD テレビ/ディスプレイは、デフォルト設定として 3840_2160_30 (30Hz) のみをサポートし、3840_2160_60 (60Hz) をサポートしません。このような場合、対応する TV/ディスプレイの設定を再構成して、デバイスが接続されている HDMI 入力で 3840_2160_60 を許可する必要があります。

自動モードでは、Codec Pro Connector 3 は、3840x2160p30 に設定されていない限り、ディスプレイの優先解像度を使用します。3840x2160p30 に設定されている場合、自動的に 1920x1080p60 に切り替わります。

デフォルト値:

3840_2160_60 *[Board]*

1920_1080_60 *[DeskMini Desk]*

コネクタ 1: 3840_2160_60 その他のコネクタ: Auto *[Room55 DeskPro BoardPro BoardProG2]*

Auto *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/ Room55D Room70G2]*

コネクタ 1、2: Auto、コネクタ 3: 3840_2160_30 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1080_60/2560_1440_60/2880_1200_60/3440_1440_60/3840_1600_60/3840_1620_60/3840_2160_30/3840_2160_60/Auto *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2]*

1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/自動 *[CodecPro Room70G2]*

1920_1080_60 *[DeskMini Desk]*

3840_2160_30 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

3840_2160_60 *[Room55 DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

Auto: デバイスは、接続されたモニタとのネゴシエーションに基づいて、自動的に最適な解像度を設定しようとします。

1920_1080_50: 解像度は 1920 x 1080、リフレッシュレートは 50Hz です。

1920_1080_60: 解像度は 1920 x 1080、リフレッシュレートは 60Hz です。

1920_1200_50: 解像度は 1920 x 1200、リフレッシュレートは 50Hz です。

1920_1200_60: 解像度は 1920 x 1200、リフレッシュレートは 60Hz です。

2560_1080_60: 解像度は 2560 x 1080、リフレッシュレートは 60Hz です。

2560_1440_60: 解像度は 2560 x 1440、リフレッシュレートは 60Hz です。

2880_1200_60: 解像度は 2880 x 1200、リフレッシュレートは 60Hz です。

3440_1440_60: 解像度は 3440 x 1440、リフレッシュレートは 60Hz です。

3840_1600_60: 解像度は 3840 x 1600、リフレッシュレートは 60Hz です。

3840_1620_60: 解像度は 3840 x 1620、リフレッシュレートは 60Hz です。

3840_2160_30: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 30Hz です。

3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 60Hz です。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1 *[RoomKitMini DeskMini Desk Board]*

範囲: 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro BoardPro]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardProG2]*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

接続された HDMI ディスプレイは、CTA-861 で定義されている、RGB ビデオの量子化範囲のルールに従う必要があります。残念ながら、一部のディスプレイは標準に準拠していないため、この構成を使用して設定を上書きし、どのディスプレイでも完全な画像を得ることができます。

デフォルト値:

標準ガイダンス

値スペース:

自動/フル/制限

Auto: ディスプレイ信号が EDID で「選択可能な RGB 量子化範囲」をサポートしている場合、AVI InfoFrame はフルレンジの信号を RGB 量子化範囲ビット (Q0、Q1) で送信します。それ以外の場合は、制限範囲は AVI InfoFrame で CE ビデオ形式の場合および フルレンジの IT ビデオ形式で通知されます。

フル: クOnタイズの範囲全体です。R、G、B の量子化範囲には、すべてのコード値 (0 - 255) が含まれます。これは CTA-861-H で定義されています。

制限付き:クOnタイズ範囲です。極端な (16 - 235) の一部のコード値を除外した R、G、B の量子化範囲。これは CTA-861-H で定義されています。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1 *[RoomKitMini]*

範囲: 1..2 *[RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]*

範囲 : 1..3 *[RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

範囲 : 2..2 *[Room55 DeskPro BoardPro]*

範囲: 2..3 *[BoardProG2]*

ビデオ出力 HDMI パススルー可

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスの HDMI 出力の 1 つに接続されている HDMI-USB コンバーター (キャプチャ デバイス) の USB ソケットにラップトップを接続すると、ラップトップのミーティング アプリから発信するときに、デバイスのカメラとマイクを使用できます。デバイスの画面とスピーカーを利用するために、ラップトップと HDMI 入力の間のプレゼンテーション ケーブル (HDMI) も必要です。この機能は、ラップトップからの発信、ウェブカメラ モード、または HDMI パススルーと呼ばれています。

HDMIからUSBへのコンバーターが接続されている HDMI 出力は、[ビデオ出力 HDMI パススルー出力コネクタ] 設定で設定されています。また、[ビデオ モニタ] および [ビデオ出力コネクタ [n] モニタロール] の設定が正しいことを確認することもできます。

Room 55 Dual および Room 70 Dual はコンバーターで利用できる HDMI 出力がないため、ラップトップからの発信はサポートされていません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: この機能を無効にします。ラップトップ ミーティング アプリからの発信はサポートされていません。

True: この機能を有効にします。ラップトップ ミーティング アプリからの発信がサポートされており、ユーザ インターフェイスに [ラップトップから発信] ボタンがあります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Mode

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ラップトップからの発信 (HDMI パススルー) 機能を使用する場合、ユーザーは (ラップトップで) HDMI-USB コンバータ (取り込みデバイス) をマイクおよびカメラとして使用することを選択する必要があります。この設定では、選択するデバイスのリストに表示される名前をカスタマイズできます。

ラップトップからの通話の詳細については、[ビデオ出力 HDMI パススルー許可] 設定を参照してください。Room 55 Dual および Room 70 Dual はコンバーターで利用できる HDMI 出力がないため、ラップトップからの発信はサポートされていません。

デフォルト値:

全般

値スペース:

Auto/Custom/General

Auto: HDMI-USB コンバータがビデオデバイスに通知する名前を表示します。空の場合、HDMI-USB コンバータの汎用名が表示されます。アドバタイズされた名前は [ビデオ出力コネクタ [n] 接続デバイス名] ステータスで見つけることができます。n は HDMI-USB コンバーターを接続した HDMI 出力コネクタです。

全般: HDMI-USB コンバーターの名前として汎用名を表示します。

カスタム: Video Output Hdmi Passthrough HdmiUsbConverter Name 設定で、HDMI-USB コンバータの名前として定義されている名前を表示します。

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Name

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

[Video Output Hdmi Passthrough HdmiUsbConverter モード] が [カスタム] に設定されている場合、ここで HDMI-USB コンバーター (キャプチャ デバイス) の名前を設定する必要があります。これは、ラップトップからカメラとマイクを選択するときに、選択するデバイスのリストに表示される名前です。

Room 55 Dual および Room 70 Dual ではコンバーターに HDMI 出力がないため、この設定は利用できません。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 25)

HDMI-USB コンバータの名前です。

ビデオ出力 HDMI パススルー出力コネクタ

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI-USB コンバータ (キャプチャデバイス) を接続した HDMI 出力コネクタを設定します。既定では、デバイスは最も高い番号の HDMI 出力を使用するようにセットアップされています。

この設定は、[ラップトップからの発信] が有効な場合、つまり [ビデオ出力 HDMI パススルーの許可] が True に設定されている場合にのみ適用されます。

Room 55 Dual および Room 70 Dual ではコンバーターに HDMI 出力がないため、この設定は利用できません。

デフォルト値:

3 *[CodecPro Room70G2]*

2 *[RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]*

1 *[Room55]*

値スペース:

整数 (1..1) *[Room55]*

整数 (1..2) *[RoomKit CodecPlus]*

整数 (1..3) *[CodecPro]*

整数 (2..2) *[Room70/Room55D]*

整数 (2..3) *[Room70G2]*

整数 (3..3) *[Room70G2]*

範囲: 選択したビデオ出力コネクタの一意の識別子です。

Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Enabled

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザーがタッチコントローラから切断するのを忘れた場合など、指定された遅延の後に、デバイスが HDMI パススルーを自動的に切断するかどうかを決定します。遅延は [ビデオ出力 HDMI パススルー 自動切断遅延] で設定します。

HDMI パススルーおよびラップトップからの発信機能の詳細については、[ビデオ出力 HDMI パススルー可] 設定を参照してください。Room 55 Dual および Room 70 Dual では、ラップトップからの発信はサポートされていません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: HDMI パススルーは自動的に切断されません。ユーザーは常にタッチコントローラから切断する必要があります。

True: ビデオ出力 HDMI パススルー自動切断遅延時間がタイムアウトすると、HDMI パススルーが切断されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

デバイスが自動的に切断されるまでの時間 (分) を HDMI パススルー モードで設定します。この設定は、[ビデオ出力 HDMI パススルー自動切断の有効化] が True に設定されている場合にのみ効果があります。

HDMI パススルーおよびラップトップからの発信機能の詳細については、[ビデオ出力 HDMI パススルー可] 設定を参照してください。Room 55 Dual および Room 70 Dual では、ラップトップからの発信はサポートされていません。

デフォルト値:

120

値スペース:

整数 (1..1440)

分単位で測定された遅延。

Video Output MirroringType

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、デバイスが通話中でないときに、ローカル コンテンツが表示される画面を決定します。

デフォルト値:

Multiscreen *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk Board BoardPro BoardProG2]*

LastOnly *[DeskPro]*

値スペース:

LastOnly/Mirror/Multiscreen

LastOnly: ローカルコンテンツは、利用可能な最後の画面でのみ表示されます。他の画面に複製されることはありません。利用可能な画面とは、ホーム画面または何も表示されていない画面です。

ミラーリング: ローカルコンテンツは利用可能なすべてのスクリーンにミラーリングされます。新しいソースを接続すると、すべての画面で以前のソースが置き換えられます。

マルチスクリーン: ローカルコンテンツは利用可能なすべてのスクリーンに分散されます。接続した最初のソースが、利用可能なすべてのスクリーンにミラーリングされます。次に接続するソースは、前のソース (ある場合) の画面をそのままにし、新たな画面に表示されます。

Video Output Webcam USBMode

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

ビデオに接続したとき、またはビデオのストリーミングを開始したときに、USB モード (および邪魔しないモード) に入るかどうかを指定します。

デフォルト値:

OnStreaming

値スペース:

OnConnect/OnStreaming

OnConnect: ビデオに接続すると USB モードになります。

OnStreaming: ビデオのストリーミングを開始すると USB モードに切り替わります。

ビデオ出力コネクタ [n] ホワイトバランスレベル

適用対象 : Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

統合型スクリーンの色温度 (ホワイトバランス) は、4000 K (温色) から 9000 K (冷色) で調整することができます。

デフォルト値:

6500

値スペース:

整数 (4000..9000)

ケルビンで表した色温度です。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲 : 1..1

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Video Presentation DefaultPIPPosition

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

プレゼンテーションのピクチャーインピクチャー (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、例えばユーザーインターフェイスを使用して、プレゼンテーションが明示的に PiP に最小化された場合にのみ有効になります。設定は次回の呼び出しから有効になります。通話中に変更しても、現在の通話には影響しません。

デフォルト値:

現在

値スペース:

CenterLeft/CenterRight/Current/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

現在: 通話を終了するときに、プレゼンテーション PiP の位置は変更されません。

UpperLeft: プレゼンテーション PiP は画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: プレゼンテーション PiP は上部中央の位置に表示されます。

UpperRight : プレゼンテーション PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft : プレゼンテーション PiP が中央左の位置に表示されます。

CenterRight : プレゼンテーション PiP が中央右の位置に表示されます。

LowerLeft: プレゼンテーション PiP は画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: プレゼンテーション PiP は画面の右下隅に表示されます。

ビデオプレゼンテーション デフォルトソース

適用対象 : すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN、USER

既定のプレゼンテーションソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は API およびサードパーティのユーザ インターフェイスで使用される場合があります。Cisco が提供するユーザ インターフェイスを使用する場合には関係ありません。

デフォルト値:

2 *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

3 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

値スペース:

1/2 *[RoomKit RoomKitMini Board]*

1/2/3 *[CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini]*

1/2/3/4 *[デスク]*

1/2/3/4/5 *[RoomBar DeskPro BoardPro]*

1/2/3/4/5/6 *[RoomBarPro BoardProG2]*

1/2/3/4/5/6/7/8/9 *[RoomKitEQX CodecEQ]*

1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11 *[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

ビデオプレゼンテーションの優先順位

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

プレゼンテーション チャネルとメイン ビデオ チャネル間で帯域幅を分散する方法を指定します。この設定は SIP および H.323 通話にのみ適用されます。

デフォルト値:

等しい

値スペース:

Equal *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

Equal/High/Low *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

等しい: 利用可能な帯域幅は、プレゼンテーション チャネルとメイン ビデオ チャネルの間で均等に共有されます。

高:メイン ビデオ チャネルを犠牲にして、利用可能な帯域幅のより大きな部分をプレゼンテーション チャネルに割り当てます。

低:メイン ビデオ チャネルにより大きな帯域幅が割り当てられますが、プレゼンテーション チャネルの犠牲に。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオ 自分の映像のデフォルト フルスクリーン モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を通話後にフルスクリーンで表示するか、または小さいピクチャーインピクチャー (PiP) として表示するかを定義します。この設定はセルフビューがOnになっている場合にのみ有効です ([ビデオのセルフビュー デフォルト モード] 設定を参照)。

Desk および Desk Pro の場合、ユーザ インターフェイスを使用してフルスクリーンのセルフビューをOffにすると、次にユーザ インターフェイスを使用してOnにしたときに、PiP として戻ります。

デフォルト値:

現在

値スペース:

現在/オフ/オン

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

カレント: 通話を終了するときに、セルフ ビューの画像のサイズは変更されません。つまり、通話中は PiP であった場合、通話後も PiP のままとなります。通話中はフルスクリーン表示でも、通話後はフルスクリーンのままです。

On:セルフビュー画像がフルスクリーンで表示されます。

Video Selfview Default Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を通話中以外の画面に表示するかどうかを指定します。通話のセットアップ時および通話中にOnまたはOffになるかどうかは、[ビデオの自分のビュー] 通話モードによって指定されます。

セルフビューウィンドウの位置とサイズは、それぞれ Video Selfview Default PIPPosition と Video Selfview Default FullscreenMode によって決定されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/現在/Off/On

Auto: セルフビューは通話以外では常にオフです。

現在: セルフビューは現状のままです。つまり、通話中にOnになっている場合は、通話後もOnのままです。通話中にOffだった場合、通話後もOffのままです。

Off: セルフビューは通話外では常にOffです。

On: セルフビューは通話外で常にOnです。

Video Selfview Default OnMonitorRole

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

通話後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を表示する画面/出力を定義します。この値は、[ビデオ出力コネクタ [n] MonitorRole] 設定で異なる出力に設定されたモニタの役割を反映します。

この設定は、自分の映像がフルスクリーンで表示されている場合と、ピクチャーインピクチャー (PiP) で表示されている場合の両方に適用されます。

デフォルト値:

現在

値スペース:

Current/First/Second *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2]*

現在/1 回目/2 回目/3 回目 *[RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama]*

現在: 通話を退席するとき、セルフビュー画像は通話中と同じように出力されます。

First : セルフビュー画像は、First のモニタロールを持つ出力に表示されます。

Second : セルフビュー画像は、Second のモニタロールを持つ出力に表示されます。

Third : セルフビュー画像は、Third のモニタロールを持つ出力に表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ビデオセルフビューのデフォルト PIP 位置

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

通話後のセルフビュー ピクチャーインピクチャー (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、自分の映像がOnになっており ([ビデオの自分の映像のデフォルト モード] 設定を参照)、フルスクリーン表示がOffになっている ([ビデオの自分の映像のデフォルト フルスクリーンモード] 設定を参照) 場合にのみ有効です。

デフォルト値:

Current *[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2]*

下右 *[RoomPanorama/Room70Panorama]*

現行 *[ボード]*

値スペース:

CenterLeft/CenterRight/Current/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

現在: 通話を終了するとき、セルフ表示 PiP の位置は変更されないまま保持されます。

左上:セルフ ビュー PiP は画面の左上角に表示されます。

中央上: セルフ ビュー PiP が中央上部に表示されます。

右上:セルフビュー PiP は画面の右上角に表示されます。

CenterLeft : セルフビュー PiP が中央左の位置に表示されます。

CentreRight : セルフビュー PiP が中央右の位置に表示されます。

ローワーレフト:セルフビュー PiP は画面の左下隅に表示されます。

LowerRight : セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

ビデオセルフビュー通話中モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

通話のセットアップ時および通話中にセルフビューを表示するかどうかを指定します。この設定では既定の動作を指定します。ユーザーは、通話中に UI からいつでもセルフビューをOnまたはOffにできます。次の呼び出しでは、この設定で指定した動作が再び適用されます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

自動/現在/Off/On

Auto: セルフビューは通話セットアップ中にオンになり、ビデオ セルフビュー 通話中の持続時間設定で指定された期間オンのままになります。ビデオ セルフビュー デフォルトモード設定が [On] の場合、セルフビューは通話中Onのままになります。

現在: 通話を設定する前のセルフビューを保持します。

Off: 通話のセットアップ中にセルフビューは表示されず、通話中はOffのままです。これは、通話を開始する前にセルフビューがOnであっても適用されます。

On: 通話のセットアップ中にセルフビューが表示され、通話中はOnのままになります。

Video Selfview OnCall Duration

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定は、[ビデオのセルフビュー通話時モード] 設定が [自動] の場合にのみ有効です。この場合、ここで設定した秒数が、セルフビューが表示されてから自動的にOffになるまでの時間を決定します。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (1..60)

範囲 : 自分の映像がオンである時間を選択します。有効な範囲は 1 から 60 秒です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声コントロールの設定

音声コントロール ウェイクワード モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、Webex Assistant によって使用されるウェイクワード (例えば、「OK Webex」) を有効または無効にします。Webex Assistant を使用すると、デバイスをハンズフリーで使用できます。また、ウェイクワードを使用すると、通話の発信やプレゼンテーションの開始などのタスクを開始できます。

[Webex Assistant] をOnに切り替えるには、[ユーザ インターフェイス アシスタント モード] 設定を使用します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: ウェイクワードの使用を無効にします。

On : ウェイクワードの使用を有効にします。

ウェブ エンジンの設定

WebEngine Certificates RevocationChecks NetworkAccess

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デフォルトでは、ウェブ エンジンは失効確認中にネットワークを使用しないため、Stapled OCSP 応答と組み込みの CRL リストのみを確認します。

この設定を有効にすると、ウェブエンジンはネットワークに接続し、Stapled OCSP 応答がない場合に OCSP および CRL レスポンダに問い合わせることを許可されます。

デフォルト値:

許可

値スペース:

許可/拒否

Allow.ウェブエンジンは失効確認中はネットワークを使用しません。

Deny : ウェブ エンジンがネットワークに接続し、OCSP および CRL レスポンダーに要求することを許可しません。

Web エンジンの機能 AllowDeviceCertificate

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ビデオデバイスと Room Navigator ウェブビューがビデオデバイスの自己署名証明書を信頼できるかどうかを決定します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ビデオデバイスの自己署名証明書を信頼しないでください。

True: ビデオ会議端末の自己署名証明書を信頼する

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

WebEngine の機能 CanvasOopRasterization

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この構成により、プロセス外キャンバス ラスタライズを有効または無効にすることができ、HTML キャンバスを利用する Web アプリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On

オン: プロセス外キャンバス ラスタライズを有効にします。
オフ: プロセス外キャンバス ラスタライズを無効にします。

WebEngine Features GpuRasterization

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブビューが GPU にウェブページのラスタライズをオフロードすることを許可するかどうかを決定します。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Auto/Off/オン

Off : ウェブページのラスタライズが CPU 上で行われます。
On: ウェブビューは、ラスタライゼーションを GPU にオフロードする場合があります。

Web エンジン 機能 LocalWebAppManagement

適用対象: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスのユーザ インターフェイスの [設定] メニューにインストールされているウェブ アプリのリストを表示するかどうか、およびユーザーがこのメニューからウェブ アプリを管理 (追加、編集、または削除) できるかどうかを決定します。

デバイスで直接、デバイスのローカル ウェブ インターフェイスから、または API を使用してセットアップされたウェブ アプリのみ、[設定] メニューから管理できます (ローカル管理)。Control Hub からセットアップされたウェブアプリ 外部管理はリストに表示されますが、ユーザーが管理することはできません。

ウェブ アプリはタッチ スクリーン搭載のデバイス (内蔵または接続済み) でのみ利用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip (Webex on Flip) で使用する必要があります。

デフォルト値:
Off

値スペース:
許可/非許可/オフ

Allowed : ユーザーは、デバイスのユーザ インターフェイスの [設定] メニューから、ローカルに管理されたウェブアプリを追加、編集、削除できます。

不可: インストールされているウェブアプリの一覧が [設定] メニューに表示されますが、ユーザーが管理することはできません。

Off : [設定] メニューにウェブ アプリの一覧表示または管理のエントリがありません。

WebEngine Features Peripherals AudioOutput

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブブラウザ(ウェブエンジン)からの音声再生を会議室ナビゲータで許可するかどうかを設定します。例えば、ウェブアプリで音声ファイルを再生することを許可する場合などです。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On

Off : Room Navigator ウェブブラウザからの音声の再生を許可しません。
On : Room Navigator ウェブブラウザからの音声の再生を許可します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

WebEngine Features Peripherals WebGL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

会議室ナビゲーターのウェブブラウザー (ウェブエンジン) で WebGL™ を有効にするかどうかを設定します。WebGL は低レベルの3Dグラフィックス用のウェブ標準です。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
On : WebGL が Room Navigator ウェブブラウザで有効です。
Off : WebGL が Room Navigator ウェブブラウザで無効です。

WebEngine Features WebGL

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

WebGL™ は、低レベル 3D グラフィックのウェブ標準です。RoomOS での WebGL サポートは試験的な機能であり、今後変更される可能性があります。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
On : WebGL が有効です。
Off : WebGL が無効です。

WebEngine Features SipUrlHandler

適用対象: RoomKitMini DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

この構成により、ウェブ表示ベースの機能 (ウェブ アプリやデジタル サイネージなど) から直接 SIP 通話を開始できます。ユーザーが SIP:yourSipUrl のラベルが付いたボタンを選択して通話を開始すると、通話はデバイスから発信されます。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On
Off : ウェブ表示からの SIP 通話の開始が無効になります。
On: ウェブ表示からの SIP 通話の開始が有効になります。

WebEngine の機能 Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

永続的ウェブ アプリをホストするサーバーのドメイン名がここにリストされている場合、アプリはデバイスで API コマンドを実行できます。そうでない場合、 Room Navigator ーで実行できるのは、デバイスとの通信を必要としないアプリのみです。

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL 設定で指定された URL が確認され、デバイスで API コマンドの実行が許可される前に、許可された hosts のこのリストと照合されます。

メモ: 永続的なウェブ アプリは、ネットワーク経由でデバイスとペアリングされている Room Navigator でのみ利用できます。

デフォルト値:
""

値スペース:
文字列 (0, 1024)
1 つまたは複数のドメイン名を指定します。複数の場合は、カンマで区切ります。"*" をワイルドカードとして使用できます。例えば、「*.cisco.com」と入力すると、cisco.comで終わる任意のホストが許可されます。任意のドメインを許可するには "*" を指定します。

Web エンジン FpsCounter

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

このリリースには適用されません。

デフォルト値:
Off

値スペース:
Off/On

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Web エンジンの MinimumTLSVersion

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Web エンジンで許可される最も低いバージョンの TLS (トランスポート レイヤー セキュリティ) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.2

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2/TLSv1.3

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降のサポート。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

TLSv1.3: TLS バージョン 1.3 以降のサポート。

ウェブ エンジン モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブ エンジンは、デジタル サイネージやウェブ アプリなど、デバイスのウェブ ビューを使用する機能の前提条件です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : ウェブエンジンは無効です。

On : ウェブエンジンが有効になります。

WebEngine RemoteDebugging

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ウェブページで問題が発生した場合は、リモートデバッグをOnにすることをお勧めします。リモートデバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、ウェブページの潜在的な問題を特定できます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

リモートデバッグは、使用後にOffにしてください。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : リモートデバッグはオフになっています。

On : リモートデバッグがOnになっています。

ウェブ エンジン UseHttpProxy

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

UseHttpProxy 設定がいくつかあり、サービスが HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。WebEngine UseHttpProxy 設定は、デジタル サイネージ、API 駆動型ウェブ ビュー、ウェブ アプリなど、すべてのウェブ ビュー ベースの機能に適用されます。

この設定を有効にするには、NetworkServices HTTP プロキシ設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシ サーバーをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しない)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Webex の設定

Webex CloudProximity GuestShare

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定により、ゲスト共有 (devices.webex.com 経由) 機能をオフにすることができます。

デフォルト値:

自動

値スペース:

Auto/Off

Auto: ゲスト共有を許可するかどうかをシステムが自動的に決定することを許可します。これは現在デフォルトで有効になっています。

Off: ゲスト共有機能をOffにします。

Webex CloudProximity 手動ペアリング

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定により、手動ペアリング機能をOffにできます。手動ペアリングでは、まずペアリングするクライアントでデバイス名またはゲスト ペアリング コードを入力する必要があります。次に、デバイスと同じ会議室にいることを確認するために、デバイスの画面に表示される PIN コードでペアリングを確認する必要があります。

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、または Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっているデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: 手動ペアリングの使用が無効になっています。ゲスト共有 (Webex CloudProximity GuestShare 設定を参照) も無効になります。

有効: 手動ペアリングが有効になっています。

Webex CloudUpgrades モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスでは、ソフトウェアをOnプレミスのプロビジョニング サービスから、または Webex クラウド サービスからアップグレードするかどうかを選択できます (クラウド管理ソフトウェア アップグレード)。

クラウド管理型ソフトウェア アップグレードでは、新しい RoomOS ソフトウェア バージョンが利用可能になると、デバイスが自動的にアップグレードされます。これは、クラウドに登録されたデバイスがアップグレードされるのと同時に行われます。デバイスを手動でアップグレードする必要なく、最新の更新とバグ修正をより迅速に入手できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイス ソフトウェアはクラウドからアップグレードされていません。CUCM などのOnプレミスプロビジョニングサービスを使用するか、手動アップグレードに依存する必要があります。

On: 新しいソフトウェア バージョンがクラウドで利用可能になると、デバイス ソフトウェアが自動的にアップグレードされます。

Webex DevicePersonalization Features Whiteboard SignInRequired

適用対象 : DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

追加のプライバシーとセキュリティ対策として、ホワイトボードの使用にログインを必要とする設定が可能です。

ユーザーがログインしていない場合、ホワイトボード アプリを開くと、ユーザーは QR コードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。

また、ホワイトボード機能を終了するときにも、サインアウトするように促されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ユーザーはログインせずにホワイトボード機能を使用できます。

True : ユーザーがホワイトボード機能を使用するにはログインが必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Webex デバイスパーソナライゼーション タスクベースサインイン

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ホットデスク サインインによるユーザー パーソナライゼーションでは、デバイスまたは会議室カレンダーの予約を予約システムとして使用し、ユーザーがサインアウトしたタイミングを管理します。

デバイスまたは会議室カレンダーを通じてサインインを管理せずに、個人用ホワイトボードなどの個人データを必要とするタスクの個人サインインに対してこの設定を有効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

オン : ホットデスクサインインを通じたパーソナライズを有効にします。

オフ : ホットデスクサインインを通じたパーソナライズを無効にします。

Webex Hotdesking DefaultBookingEndTime

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、ホット デスキング機能がセットアップされたデバイスにのみ適用されます。つまり、デバイスは共有モードであり、Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

会社や組織によって通常の勤務時間は異なるため、既定では、ブッキングが期限切れになる時刻を構成することができます。これはデフォルトの時間であるため、ユーザーはデバイスを予約するときに別の終了時間を指定できます。

デフォルト値:

17

値スペース:

整数 (0..24)

24時間制による既定の予約終了時刻です。例: 0 は 00:00 / 午前0時- 真夜中; 12 は 12:00 / 正午- 正午; そして 17 は 17:00 / 5:00 p.m.

Webex Meetings AIAssistantAutoSummarize が利用可能

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、会議全体で AI と会議概要が有効になっていることを前提に、Webex 会議に参加するときに自動 AI アシスタント概要ポップアップの表示を制御します。

この機能は Webex Meetings 専用であり、OnPrem 環境向けの Webex 最適化が必要であることに注意してください。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

オン: AI アシスタントの概要ポップアップを有効にします。

オフ : AI アシスタントの概要ポップアップを無効にします。

Webex Meetings HttpProxyForMedia モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

この設定は、Webex クラウド サービスに登録されている、または Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっているデバイスに適用されます。

HTTPS および WebSocket トラフィックにプロキシ サーバーを使用するようにデバイスをセットアップできます。[NetworkServices] [HTTP プロキシ] 設定を参照してください。[ネットワーク][サービス][HTTP プロキシ モード] がOffになっていない場合、このプロキシをメディア トラフィックにも使用するかどうかを選択できます。

プロキシを使用すると、メディア品質が低下する場合があります。可能な限り良好なメディア品質を維持するために、プロキシは、環境で展開されたデバイスによって使用されるビットレートをサポートする必要があり、デバイスからメディア サーバへの合計往復時間をできる限り低くする必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off

Auto: サーバーが利用可能で正しくセットアップされ、NetworkServices HTTP Proxy Mode が Off に設定されていない場合に限り、メディアトラフィックにプロキシサーバーを使用します。

Off : メディア トラフィックにプロキシを使用しません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Webex Meetings 参加プロトコル

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Onプレミス サービスに登録され、デバイス用 Webex Edge にリンクされているデバイスは、Webex ミーティングに発信するために Webex クラウド サービスを使用できます。Webex 経由で発信すると、高度なミュート、共同主催者、主催者の転送、顔認証など、Webex Meetings のネイティブな通話中機能のフルセットを利用できます。

Webex Meetings 通話ルーティングが使用されるのは以下のような場合です。[Webex に参加 (Join Webex)] ボタンを使用する場合、Webex Assistant を使用してパーソナル ミーティング ルーム (PMR) に参加する場合、通話ボタンまたはダイヤル API コマンドを URI で使用する場合、@webex.com、@*.webex.com、@meet.ciscospark.com のいずれかのドメイン。その他の呼び出しは既定のプロトコルを使用します。

また、ネイティブの Webex Meetings 通話ルーティングでは、デバイスでクラウド管理ソフトウェア アップグレードが有効になっており、Control Hub からの構成が有効になっていて、さらに [電話会議マルチポイント モード] が [自動] に設定されている必要があります。

デフォルト値:

SIP

値スペース:

SIP/Webex

SIP: 通話プロトコルは SIP です。

Webex: 上記の要件が満たされている場合、通話プロトコルは Webex になります。それ以外の場合は SIP です。

Webex Meetings MeetingChatNotifications Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

既定でのチャット通知の表示方法を指定します。UI または Conference MeetingChatNotification Default コマンドを使用して、ミーティング中およびミーティング間の両方でモードを変更できます。

共有デバイスは、ミーティング終了後にここで設定したデフォルトの動作に戻ります。パーソナルデバイスは現在のモードを記憶し、UI から、またはコマンドを使用して変更されるまで保持します。

チャット通知の詳細については、Webex Meetings の MeetingChatPreview 設定を参照してください。

デフォルト値:

プレビュー

値スペース:

無効/フォーカス/プレビュー

Disabled: デバイスの画面にチャットの通知は表示されません。

フォーカス: デバイスの画面で、ミーティング中のメッセージがあることが通知されます。通知は最初のメッセージが送信されたときにのみ表示されます。このモードは、ミーティングから邪魔を取り除くことで、大規模なミーティングに適しています。

プレビュー: 新しいメッセージが送信されるたびに、デバイスの画面に通知のプレビューが表示されます。これは、ミーティングチャットを追いたい場合に適しています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Webex Meetings ミーティングチャットプレビュー

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ミーティング中にデバイスの画面の通知にミーティングメッセージ (チャット) のポップアップを許可するかどうかを設定します。これにより、デバイス ユーザーはチャットで何が起こっているのかを確認できます。

個々のミーティングチャット通知は画面に 8 秒間表示されます。ほぼ同じタイミングで送信されたメッセージのキューがある場合は、メッセージがいくつも重なって表示されるのを防ぐためにメッセージは少し短く 5 秒間だけ表示されます。チャット通知のテキストは最大 3 行まで表示されます。

チャット通知は、Webex クラウド サービスに登録されているか、Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっているデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

デバイスでは、Meeting チャット通知は利用できません。

True: ミーティングのチャット通知はデバイスで利用できます。UI から、または Conference MeetingChatNotification コマンドを使用して、デバイスの画面に表示するかどうかを決定できます。

Webex Privacy AllowUsageDataLogging

適用対象: RoomBar RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/ Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

有効にすると、ログとメトリックを匿名で Cisco に送信できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 使用状況データのログが無効になっています。ログまたはメトリックスは送信されません。

True: 使用状況データのログが有効になっています。ログとメトリクスは匿名で送信できます。

Webex 近接モード

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレータ

超音波ペアリングを有効または無効にします。この近接モード設定は、Webex クラウド サービスに登録されているデバイスにのみ影響します。

デフォルト値:

オン

値スペース:

Off/On

Webex UpgradeChannel

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

デバイスがダウンロードおよびインストールするソフトウェア チャネルを決定します。たとえば、"Preview" は新しいリリースへの早期アクセスを提供し、"Stable" はより信頼性の高いソフトウェアを提供します。

デフォルト値:

安定版

値スペース:

文字列 (1, 255)

ダウンロードおよびインストールされるソフトウェアチャネルです。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

WebRTC 設定

WebRTC EndCall タイムアウト

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro RoomKitQX CodecQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

WebRTC ミーティングで [通話を終了] を押してからウェブビューを閉じるまでの時間を延長することができます。

通常の運用では、この設定を変更する必要はありませんが、トラブルシューティングに役立つ場合があります。

WebRTC は、Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイス、および Webex クラウド サービスに登録されているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (0..600)

秒単位での期間。

WebRTC インタラクション モード

適用対象: RoomKitMini DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro BoardProG2

必要なユーザーロール : 管理者

WebRTC ミーティング中、デバイスの通話コントロールまたは WebRTC アプリの組み込みのコントロールを使用できます。

WebRTC は、Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイス、および Webex クラウド サービスに登録されているデバイスでのみ利用できます。

デフォルト値:

非インタラクティブ

値スペース:

インタラクティブ/非インタラクティブ

インタラクティブ:WebRTC アプリの組み込みのコントロールをデバイスのタッチ スクリーンから直接使用できます。これにより、組み込みの WebRTC 機能にアクセスできるようになります。

非インタラクティブ: WebRTC アプリのビルトイン コントロールは利用できません。デバイスの通常の通話コントロールしか使用できません。

WebRTC Provider MicrosoftTeams CompatibilityMode

適用対象 : RoomKit RoomKitMini RoomBarPro RoomKitEQX CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro Board

必要なユーザーロール : 管理者

WebRTC を使用した Microsoft Teams 通話の断続的なトラブルシューティングに一時的に適用できるオプション。Cisco TAC はこの設定をいつするべきかアドバイスできます。それ以外の場合は、Offにしておくことをお勧めします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off : 互換モードがオフになります。

On : 互換モードがOnになっています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Zoom の設定

ズームの DefaultDomain

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ここで入力するドメインは Zoom Join コマンドで使用されます。そのため、デバイス UI の [Zoom] ボタンをタップするときにも使用されます。Zoom Join コマンドが予約 (BookingID) から参加情報を取得する場合、ここで入力されたドメインは無視されます。

デフォルト値:

zoomcrc.com

値スペース:

文字列 (1, 256)

ズーム通話に使用するドメイン。

Zoom DialStringOptions

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ここで入力するダイヤル文字列オプションは、Zoom Join コマンドで使用されます。そのため、デバイス UI の [Zoom] ボタンをタップするときにも使用されます。その他にも、デュアルスクリーンやその他のビジュアル機能のオプションが利用可能です。ズームのダイヤル文字列オプションの詳細については、https://support.zoom.us/hc/en-us/articles/202405539-SIP-H-323-Room-Connector-Dial-Strings を参照してください。

[ズームの参加] コマンドが予約 (BookingID) から参加情報を取得する場合、取得した uri の形式が <meetingid>@<domain> 以外の場合、ここで入力したダイヤル文字列オプションは無視されます。

デフォルト値:

「」

値スペース:

文字列 (0, 200)

Zoom ダイヤル文字列のオプションです。

Zoom EnhancedCallControls

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

Cisco のカスタム ズーム ユーザ インターフェイス。これにより、どのようにダイヤルインするかに関係なく、Zoom 通話に参加するたびに一貫したエクスペリエンスが得られます。

デフォルト値:

[有効 (Enabled)]

値スペース:

無効/有効

Disabled: Cisco のカスタムユーザーインターフェースは無効になっています。

Enabled: Cisco のカスタム ユーザー インターフェイスが有効になり、一貫性が保証されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

実験的な設定

試験的設定はテスト専用であり、Cisco との合意がない限り使用しないでください。これらの設定は文書化されておらず、必ず今後のリリースで変更されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 6 章

物理インターフェイス

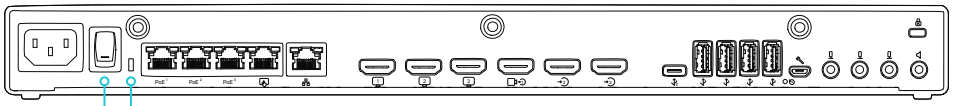
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフおよび LED の動作 (1/11 ページ)

Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro

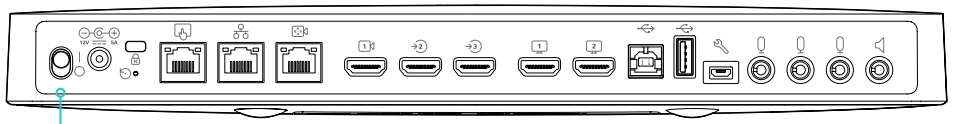
コーデックの背面にある電源スイッチは、メインのオン/オフ スイッチです。

コーデックが起動するまで数分かかる場合があります。コーデックの使用準備が完了すると、LED が安定して点灯します。

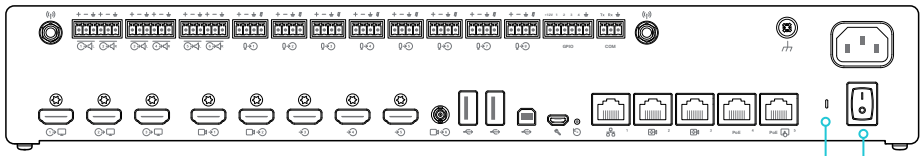


コーデックには、2 つの同一のステータス LED があります。1 つはデバイスの背面に、もう 1 つは前面にあります。

Codec EQ の電源スイッチ*。



Codec Plus* の電源スイッチ。LED はデバイスの上部にあります。



コーデックには、2 つの同一のステータス LED があります。1 つはデバイスの背面に、もう 1 つは前面にあります。

Codec Pro* の電源スイッチ。

LED の動作

アイドル モード中 (画面は起動中):
常時点灯。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です (例、不在着信または ネットワークに接続されていない):
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。

* 変更を保存してからわずか数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、構成の変更が失われる可能性があります。

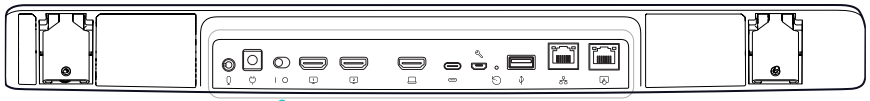
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (2/11 ページ)

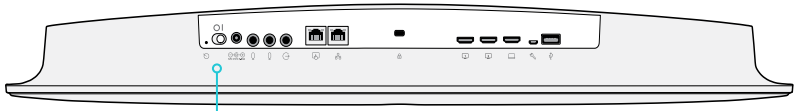
Room Bar、Room Kit、Room Kit Mini

メインのオン/オフ スイッチは Room Bar、Room Kit、および Room Kit Mini の背面にあります。[オン] の位置に切り替えます。起動には数分かかる場合があります。デバイスが使用できる状態になると、システム LED が点灯します。

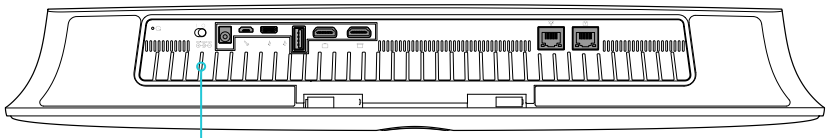
デバイスが画面上部にマウントされると、電源スイッチにアクセスするのが困難になる場合があることに注意してください。



Room Bar の電源スイッチ*
LED はデバイスの前面にあります。



Room Kit*の電源スイッチLED はデバイス
の前面にあります。



Room Kit Mini* の電源スイッチ。
LED はデバイスの前面にあります。

LED の動作

システム LED

アイドル モード中 (画面は起動中):
常時点灯。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です (例、不在着信または ネットワークに接続されていない):
LED が 2 回繰り返し点滅します。

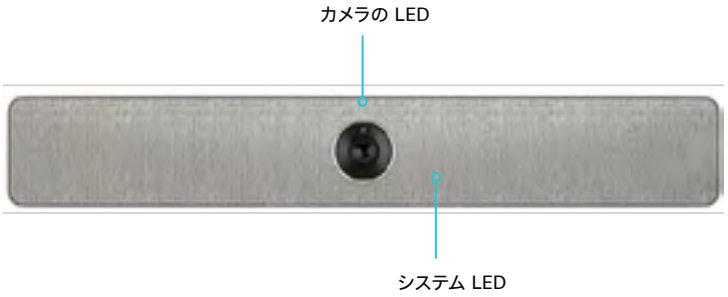
起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。

カメラ LED

着信:
LED が点滅します。

通話中 :
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。



* 変更を保存してからわずか数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、構成の変更が失われる可能性があります。

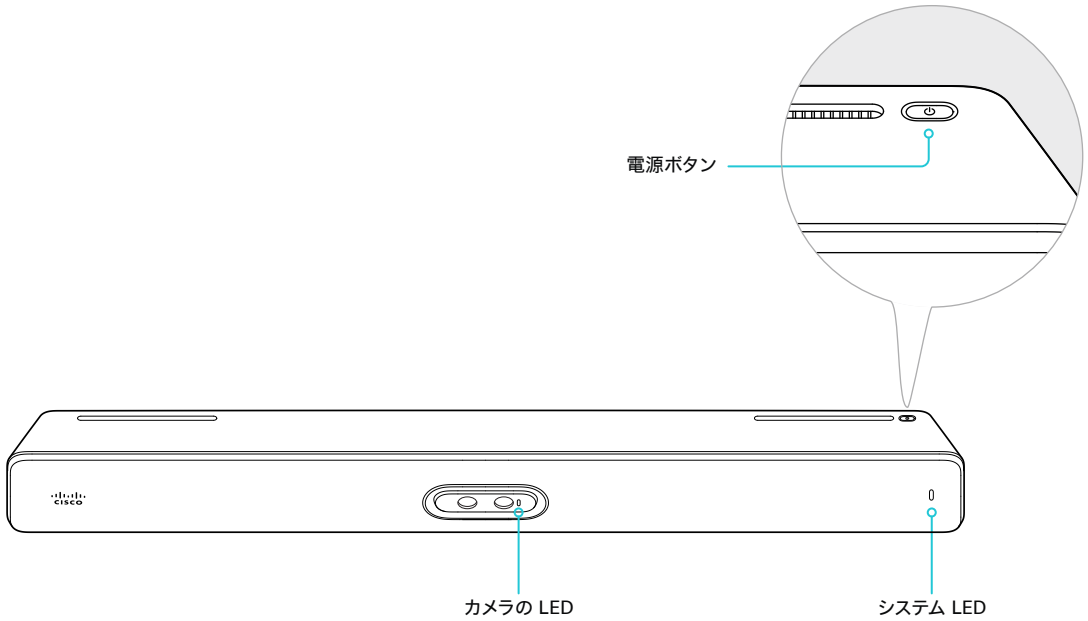
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (ページ 3/11)

Room Bar Pro

電源を接続すると、デバイスが起動します。起動には数分かかる場合があります。デバイスが使用できる状態になると、システム LED が点灯します。

電源ボタンはデバイスの上部にあります (デバイスを画面の下に逆さまに取り付けた場合は下にあります)。デバイスの電源をオンにするには、電源ボタンを 1 回押します。電源を切るには、電源ボタンを 1 回押します。



LED の動作

システム LED

アイドル モード中 (画面は起動中):
常時点灯。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です (例、不在着信または ネットワークに接続されていない):
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。

カメラ LED

着信:
LED が点滅します。

通話中 :
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (4/11 ページ)

Room Kit EQX

複数のコンポーネントがコンセントに接続されている

システムは、内部電源タップ、または壁のコンセントに直接接続された複数のコンポーネントで構成されています。[1] 内部電源タップは左スクリーンの背後にあります。[2]

一部のコンポーネントには電源スイッチがあります。システムの電源を完全にオフにするには、壁のコンセントからプラグを引き抜きます。

コーデックと他のコンポーネントが起動するまで数分かかる場合があります。コーデックの使用準備が完了すると、ステータス LED が点灯します。

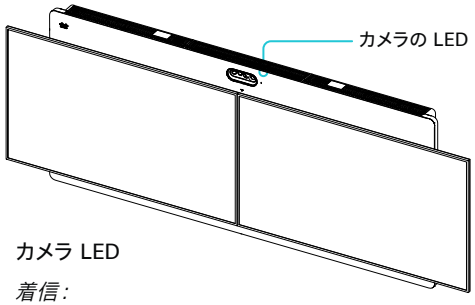
コーデックの電源スイッチ： コーデックは右のスクリーンの後ろにあります。電源スイッチは、インストールの一部としてオンに設定されています。

カメラの電源スイッチ: カメラの電源スイッチはインストール時にオンに設定されています。

システムが組み立てられると、このスイッチに簡単にアクセスすることができません。

24 V PSU 電源スイッチ : この PSU は左側スクリーンの後ろにあります。電源スイッチは、インストールの一部としてオンに設定されています。

画面の電源ボタン : この画面は Cisco が提供するものではありません。電源に接続されたときに自動的に電源がオンになる場合と、されない場合があります。



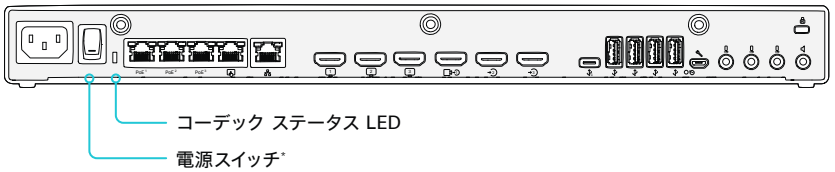
カメラ LED

着信 :
LED が点滅します。

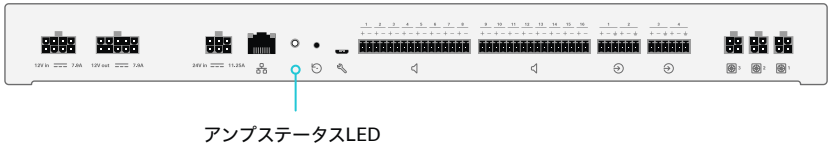
通話中 :
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。

コーデック [2]



アンプ : Cisco 自然音声モジュール IV[2]



アンプステータス LED

起動時 (boot):
常時点灯。

デバイスがコーデックに接続されていません (ペアリングされていない):
速く点滅しています。

デバイスはコーデックに接続されています。
常時点灯。

コーデックはスタンバイ モードです。
ゆっくり点滅しています。

コーデック ステータス LED

アイドル モード中 (画面は起動中):
常時点灯。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です (例、不在着信または ネットワークに接続されていない):
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。

[1] 変更を保存してからわずか数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、構成の変更が失われる可能性があります。

[2] 左の画面を取り出してアンプを表示します。右側の画面を確認してコーデックを確認します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (5/11 ページ)

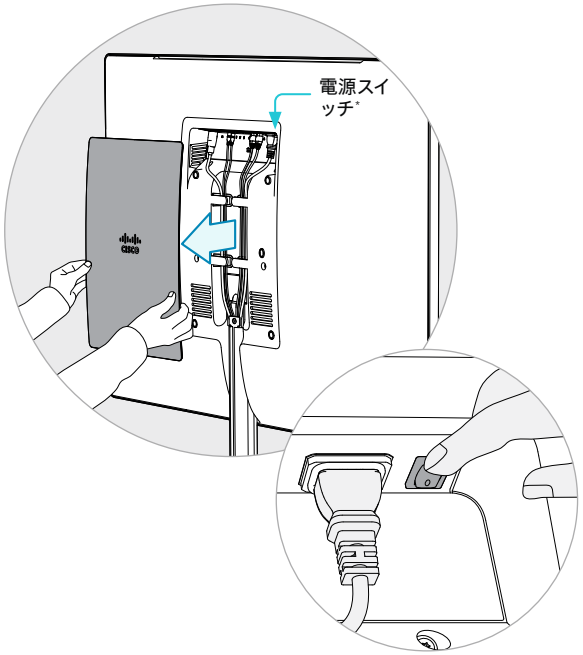
Room 55

Room 55 が壁に取り付けられている場合、電源スイッチにアクセスできません。Room 55 の電源スイッチが *オン* の位置にあることを確認してください。これにより、電源に接続すると自動的に電源がオンになります。

デバイスをコンセントから抜く前に、デバイス ウェブ インターフェース *バックアップと復元 > 再起動とシャットダウン > シャットダウン*からシャットダウンしてください。

適切にシャットダウンする前にデバイスのプラグを抜くと、問題が発生する可能性があります。このような場合、デバイスのウェブ インターフェイスを使用してビデオ システムを再起動し、通常の動作に戻してください。

フロアスタンドまたはホイールベースに取り付けられたRoom 55では、コネクタにアクセスするために背面のカバーを取り外します。電源スイッチは電源コネクタの隣にあります。



LED の動作

システム LED

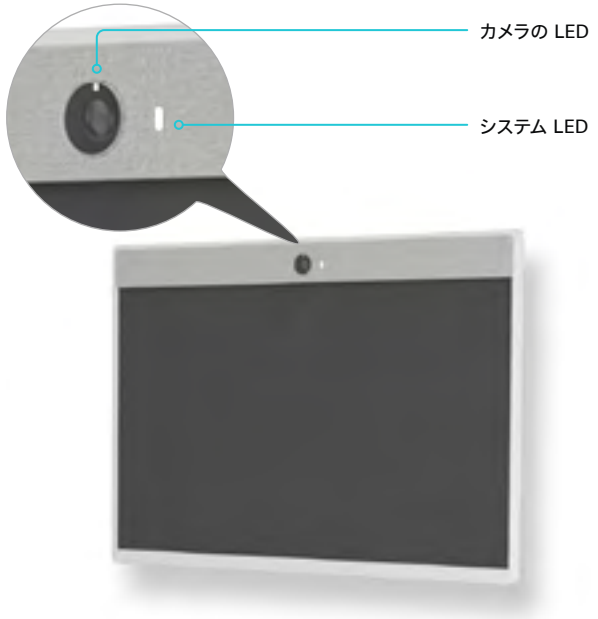
システム LED はカメラの右側にあります。通常の LED の色は白です。赤いライトはハードウェア障害を示します。

アイドル モード中 (画面は起動中):
LED はオフです。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です
(例 : 不在着信またはネットワークに接続されていない) :
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。



カメラ LED

カメラ LED はカメラ レンズのすぐ上にあります。

着信:
LED が点滅します。

通話中 :
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。

* 変更を保存してからわずか数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウン、またはプラグを抜くと、構成の変更が失われる可能性があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

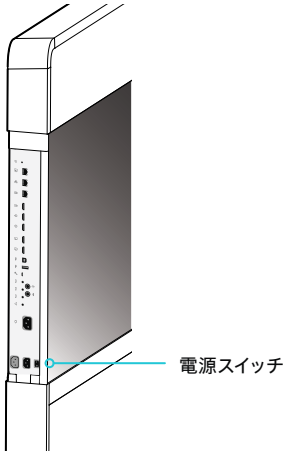
電源オン/オフと LED の動作 (6/11 ページ)

Room 70、Room 55 Dual、Room 70 G2、Room 70 Panorama

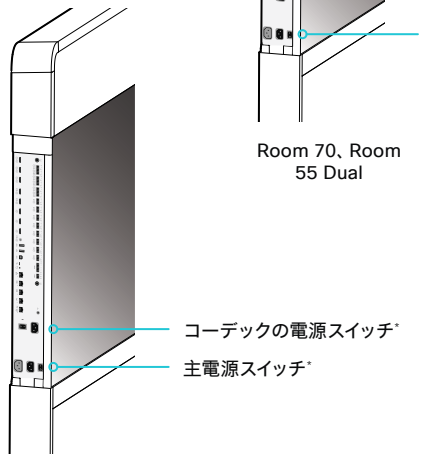
電源スイッチは左側カバーの裏側にあり、すべての取り付けオプションで同じ場所にあります。

スイッチにアクセスするには、左側のサイド カバーを取り外します。それは磁石で場所にスナップイン/アウトします。電源スイッチはコーデックの下の主電源コネクタの隣にあります。

(Room 70 G2、Room 70 Panorama) また、コーデックの電源スイッチがオンになっていることを確認してください。



Room 70、Room 55 Dual



Room 70 G2、Room 70 Panorama

LED の動作

システム LED

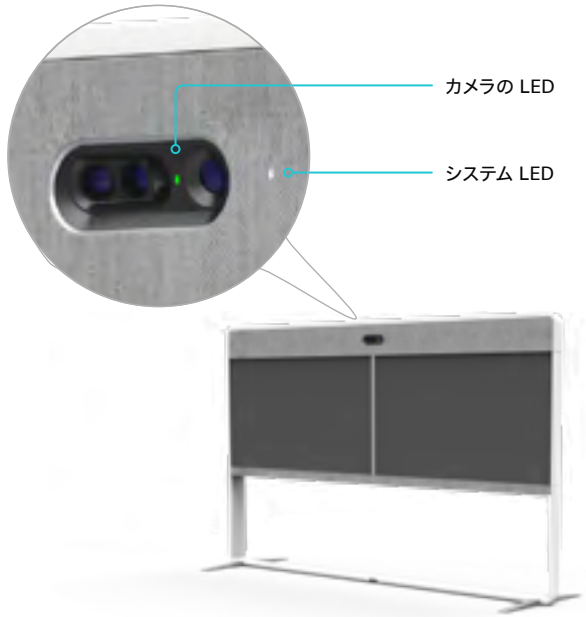
システム LED は、カメラの右側のカバーの背後にあります。通常の LED の色は白です。赤いライトはハードウェア障害を示します。

アイドル モード中 (画面は起動中):
LED はオフです。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です (例、不在着信または ネットワークに接続されていない):
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。



カメラ LED

カメラ LED はカメラ レンズのすぐ上にあります。

着信:
LED が点滅します。

通話中:
常時点灯。

自画面オン:
常時点灯。

* 変更を保存してからわずか数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、構成の変更が失われる可能性があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (7/11 ページ)

Room Panorama （1/2 ページ）

複数のコンポーネントがコンセントに接続されている

Room Panorama は多くのコンポーネントで構成されています。各コンポーネントには壁のコンセントに直接接続される電源コードが付いています。*

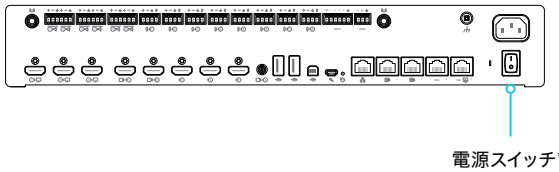
コンセントはシステムの両側にあります。デコ グリッドの下部にあるハンドルを使用し、左右のスクリーンを下に引くと、すべてのコンセントにアクセスできます。

一部のコンポーネントにのみ電源スイッチがあります。システムの電源を完全にオフにするには、壁のコンセントからプラグを引き抜きます。

コーデックの電源スイッチ

コーデックは左画面の背後にあります。Deco 格子の下部にあるハンドルを使用して、左側のスクリーンを下に引き出し、コーデックにアクセスできます。

- 電源スイッチは、インストールの一部としてオンに設定されています。



カメラの電源スイッチ

カメラの電源スイッチは設置時にオンに設定されています。

システムが組み立てられると、このスイッチに簡単にアクセスすることができません。

24 V PSU 電源スイッチ

この PSU は、左スクリーンの後ろの左のくぼみにあります。

- Deco 格子の下部にあるハンドルを使用して、左側のスクリーンを下に引き出し、PSU にアクセスできます。
- 電源スイッチは、インストールの一部としてオンに設定されています。

画面の電源ボタン

電源に接続すると、画面の電源が自動的にオンになります。それらが起動しない場合は、リモートコントロールか電源ボタンを使ってスイッチを入れてください。

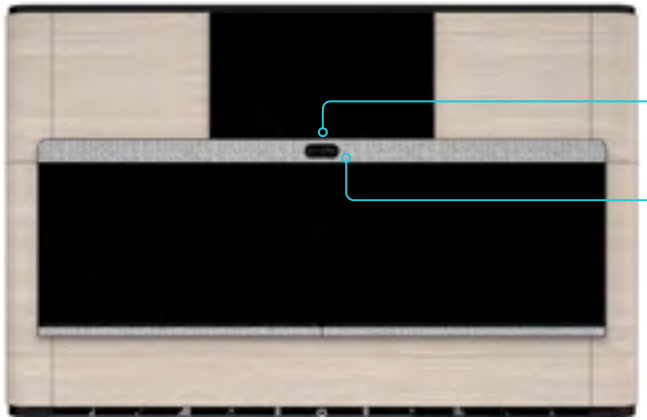
- メインスクリーン: ロゴの下 (右下) の電源ボタン
- コンテンツ画面: 電源ボタン (中央下部)

* 変更を保存してからわずか数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、構成の変更が失われる可能性があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (8/11 ページ)

会議室パノラマ (2/2 ページ)



左の画面をプルダウンしてアンプとコーデックを表示します。両方のユニットは、コネクタ パネルが上を向くように取り付けられます。

システム LED

アイドル モード中 (画面は起動中):
LED はオフです。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

起動時 (boot):
LED が点滅します。コーデックを使用する準備ができると、安定します。

システム全体 (すべての周辺機器) の使用準備が完了する前に、LED が消えます。

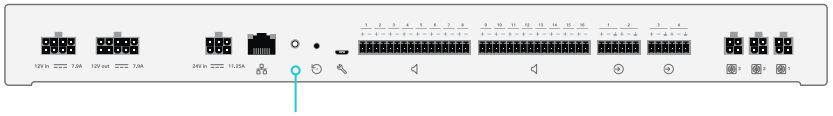
カメラ LED

着信 :
LED が点滅します。

通話中 :
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。

アンプ : Cisco Natural Audio モジュール IV



アンプステータス LED

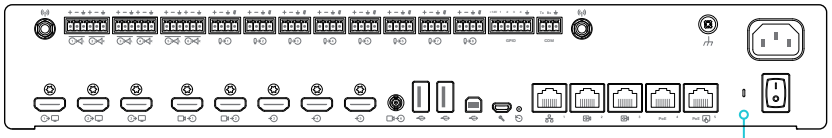
起動時 (boot):
常時点灯。

デバイスがコーデックに接続されていません (ペアリングされていない):
速く点滅しています。

デバイスはコーデックに接続されています。
常時点灯。

コーデックはスタンバイ モードです。
ゆっくり点滅しています。

コーデック: Cisco Webex Codec Pro



コーデック ステータス LED

アイドル モード中 (画面は起動中):
常時点灯。

スタンバイモード中 (画面オフ):
常時点灯。

デバイスに注意が必要です (例、不在着信または ネットワークに接続されていない):
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。デバイスを使用する準備ができると、安定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (9/11 ページ)

Desk、Desk Mini、および Desk Pro

LED インジケータ付きの電源ボタンは下に示すように背面にあります。

デバイスの電源をオンにするには、電源ボタンを 1 回押します。電源を切るには、電源ボタンを 1 回押します。デバイスの電源がオフになるまでに少なくとも 10 秒かかります。

Desk Mini では、電源ボタンを短く押してオン/オフを切り替えます。

LED の動作

システム LED

アイドルモード時 (画面がアクティブ):
LED は消灯しています。

スタンバイモード (画面オフ):
常時点灯。

不在着信 :
アイドルモードでは LED はオフですが、スタンバイモードでは繰り返し 2 回点滅します。

ネットワークに接続されていません。:
LED が 2 回繰り返し点滅します。

起動時 (boot):
LED が点滅します。

カメラ LED

カメラ LED は画面上部、カメラ レンズのすぐ上にあります。

着信:
LED が点滅します。

通話中:
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。

起動時 (boot):
LED が短時間点灯します。

マイク LED

通話中は、マイクがオンです :
緑色に点灯。

通話中は、マイクがオフです :
赤色に点灯。

* 変更を保存してからわずか数秒後に電源ボタンを使用してデバイスをシャットダウンすると、構成の変更が失われる場合があります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (10/11 ページ)

Board Pro および Board Pro G2

デバイスに電源ボタンはありません。プラグを抜くと完全に電源が切れます。

LED の動作

カメラ LED

カメラ LED は画面上部、カメラ レンズのすぐ上にあります。

着信:
LED が点滅します。

通話中:
常時点灯。

自画面オン :
常時点灯。

起動時 (boot):
LED が短時間点灯します。

ソフト電源ボタン LED

アイドルモード時 (画面がアクティブ):
LED は消灯しています。

スタンバイモード (画面オフ):
常時点灯。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

電源オン/オフと LED の動作 (11/11 ページ)

ユーザインターフェイスを使用した再起動とスタンバイ

デバイスを再起動する

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから *[デバイス設定 (Device settings)]* を選択します。
2. *[再起動 (Restart)]* を選択します。
3. 再度確認するために *[再起動 (Restart)]* を選択します。

スタンバイモードに入ります

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。
2. *[スタンバイ]* を選択します。

スタンバイモードを終了します

スタンバイ モードを終了するには、デバイスのタッチ スクリーン、または接続されたタッチコントローラをタップします。

デバイスをリモートでシャットダウンまたは再起動します

デバイスのウェブインターフェイスにログインして、*バックアップと復元 > 再起動とシャットダウン*に移動します。

デバイスを再起動する

[*再起動*] をクリックして選択を確定します。

デバイスが使用できるようになるまで数分かかります。

デバイスをシャットダウンする

[*シャットダウン*]をクリックして選択を確定します。

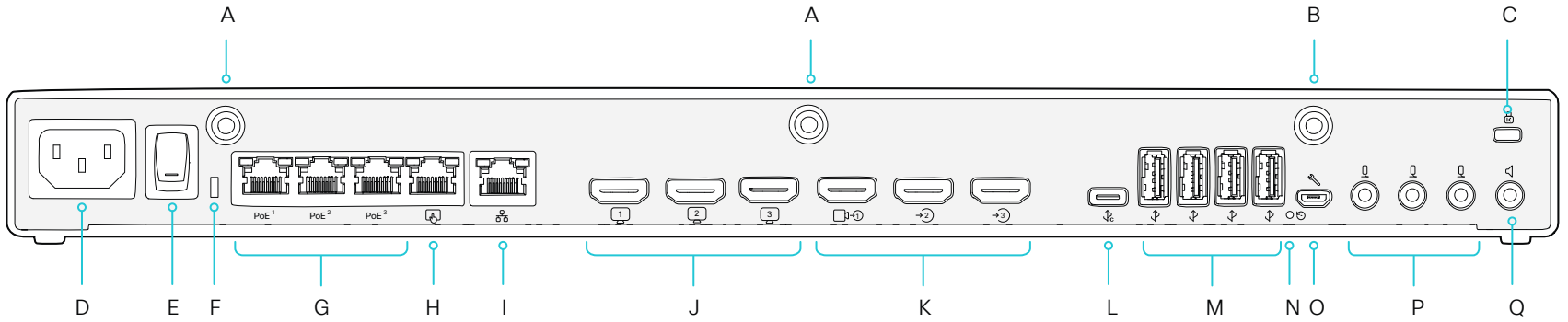
デバイスをシャットダウンし、物理的な存在が再度オンにする必要があります。

リモートシャットダウン後にデバイスの電源を入れるには:

- 電源プラグを一度抜き、再度差し込んでください。
  (Board、Board Pro、および Board Pro G2)
- デバイスの上部 (または画面の下に逆さまに取り付けられている場合は下部) にあるスタンバイ ボタンを押します。
  (Room Bar Pro)
- ユニットを傾けた後で、電源スイッチをオフにしてからオンにします。カメラを傾けた後、会議室の全体像を最適に得るために、ユニット/カメラを再調整する必要がある場合があります。または、電源プラグを抜き差ししてください。
  (Room Bar、Room Kit、Room Kit Mini)
- 電源スイッチをオフにしてからオンにします。
  (Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room 70 G2、Room 70、Room 55 Dual、Room Panorama、Room 70 Panorama、Desk、Desk Mini、Desk Pro)
- 電源プラグを一度外して、もう一度接続するか、または右画面をポップアウトしてコーデック電源スイッチをオフにしてからオンにします。
  (Room Kit EQX)
- 電源スイッチをオフにしてからオンにするか、または電源プラグをいったん切断してから、もう一度接続します。
  (Room 55)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Codec EQ



A. Wi-Fi アンテナ (RP-SMA コネクタ)
- コーデックは、ホイップアンテナと一緒に出荷されます。最高のパフォーマンスを得るために、見通し線を確保してください。

B. Bluetooth® アンテナ (RP-SMA コネクタ)
- コーデックは、ホイップアンテナと一緒に出荷されます。最高のパフォーマンスを得るために、見通し線を確保してください。

C. ケンジントン ロック
- デバイスの移動や盗難を防ぐことができます。

D. 電力 (100-240 V_{AC}、50-60 Hz、2.0-1.2 A)

E. 電源オン/オフ

F. ステータス LED
- 前面ステータス LED を反映します。

G. 内部ネットワーク用イーサネットポート (RJ45)
- カメラ コントロール、デジタル マイクなど。
- PoE++ (IEEE 802.3bt): ポートあたり最大 90 W; これらの3つのポート(G)とタッチコントローラ専用ポート(H)の合計でも最大 90 W。

H. タッチコントローラ (RJ45)
- タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。
- PoE++ (IEEE 802.3bt): このポート (H) と他の 3 つの PoE ポート (G) の合計で最大 90 W、このポートで最大 90 W。

I. ネットワーク
- イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

J. HDMI 出力。通常はスクリーンに使用されます。
- HDMI 2.0、最大解像度 3840 × 2160、60 fps。
- 音声とビデオスピーカーを備えた Quad カメラが HDMI 1 入力に接続されている場合、音声は無効になります。

K. HDMI 入力。通常、カメラやその他のコンテンツ ソースに使用されます。
- 通常、メイン カメラには HDMI 1 の使用を推奨します。Quad カメラには HDMI 1 を使用する必要があります。
- HDMI 2.0。3840 × 2160 (30 fps) までの解像度。
- コンテンツ共有。
- HDMI 3 で HDCP (高帯域幅デジタル コンテンツ保護) 暗号化コンテンツをサポートします。

L. USB-C
- DisplayPort 代替モード使用で最大 3840 × 2160 で 30 fps のフォーマットをサポートします。
- コンテンツ共有。
- ソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用してください (USB カメラモード)。
- 15 W 充電機能。

M. USB 3.0 タイプ A
- 1.5 A 充電機能 1 ポートあたり。
- スピーカー、マイク、ヘッドセット、DSP、および将来のインテグレーション用。

N. 初期設定リセットピンホール
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

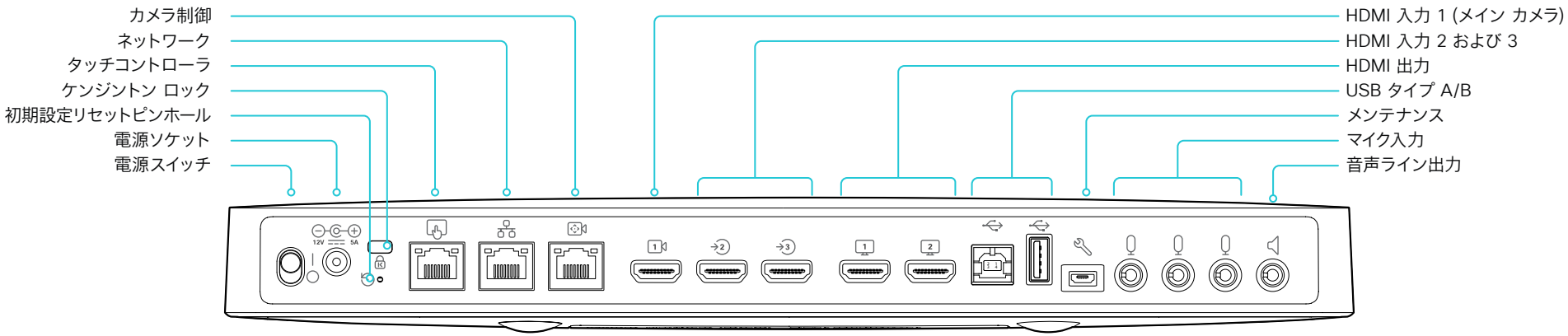
O. メンテナンス (マイクロ USB)
- デバイスとのシリアル通信用。

P. アナログ マイク (3.5 mm ミニジャック、4 ピン コネクタ)

Q. 音声ライン出力 (3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ)
- アナログ回線出力 (ステレオ)。
- アクティブスピーカーと一緒に使用するためのものです (アンプ内蔵)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタ パネル: Codec Plus



電源

常に付属の電源を使用してください。

- DC 出力: 5A、12 V
- AC 入力: 100-240V、50-60Hz、最大 1.2A

電源スイッチがオンの位置にあれば、デバイスは自動的に電源が入ります。

初期設定リセットピンホール

最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

ケンジントン ロック

ケンジントン ロックは、デバイスの移動や盗難を防ぐために使用できます。

タッチコントローラ

タッチコントローラは、このソケットから提供されるイーサネット経由で電力供給されます (PoE) 。

ネットワーク

イーサネットインターフェイス、 10Mb/100Mb/1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45) 。

HDMI 入力

HDMI 1: HDMI バージョン 1.4b、解像度最大 1920 × 1080 @ 60fps。メインカメラに最も多く使用されます。Quad カメラの場合は、常に HDMI 1 を使用する必要があります。

HDMI 2 および 3: HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 3840 × 2160 (30fps) / 1920 × 1080 (60fps)。コンピュータ、カメラ、外部再生デバイス (音声およびビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用します。高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。2 つ目の HDMI 入力コネクタは、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツの表示を可能にします。

HDMI 出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度 3840 × 2160 @ 60fps。出力 1 をメインモニタに使用し、出力 2 をオプションのセカンダリモニタに使用します。高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します。

接続されたカメラにラウドスピーカーがある場合 (Quad Camera) 、HDMI 出力に音声はありません。そうでない場合、コネクタ 1 で音声が聞こえます。

カメラ制御

カメラのコントロール (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続する場合、両方のカメラの制御を可能にするイーサネット スイッチが必要です。

USB

USB 2.0 タイプ A/B。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信用の Micro USB コネクタ。

マイク

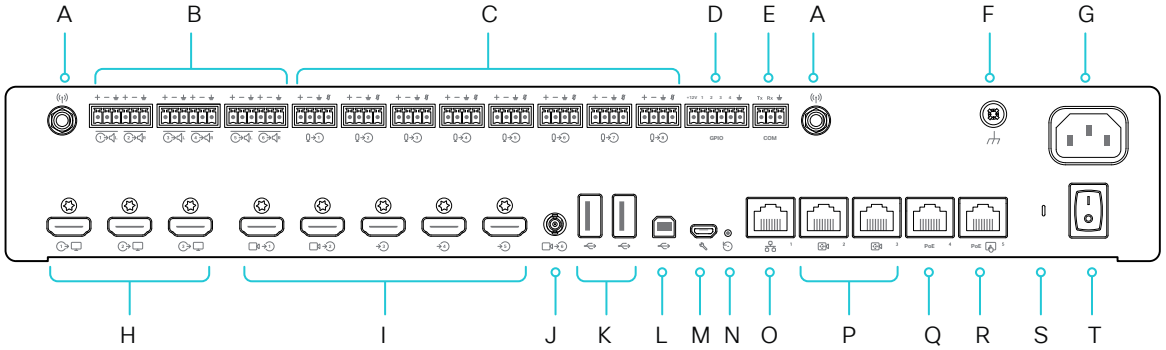
3 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用 4ピンのコネクタ:Cisco テーブルマイク 20 または Cisco TelePresence シーリングマイク。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。アクティブスピーカーと一緒に使用するためのものです (アンプ内蔵)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタ パネル: Codec Pro および Room Panorama



A. アンテナコネクタ (2)

2.4 GHz および 5 GHz のアンテナを使用して、ワイヤレスネットワークまたは Bluetooth® 接続。

B. ライン出力 (6)

バランスラインレベル出力。3 または 6 ピンのユーロブロック コネクタ。

C. マイク/ライン入力(8)

8 つのマイク、48V ファントム電源、それぞれに個別のエコーキャンセラとノイズリダクションを装備。すべてのマイクはバランスラインレベルに設定できます。4 ピン ユーロブロック コネクタ。

D. プログラム可能な GPIO ポート。6 ピン ユーロブロック コネクタ。

E. COM ポート。3 ピン ユーロブロック コネクタ。

F. グラウンド。保護接地。

G. 電力 (100-240 V_{AC}, 50-60 Hz、最大 1.3 – 0.6 A)

H. HDMI 出力 (3)

音声とビデオ。HDMI バージョン 2.0、最大 3840 × 2160 @ 60fps の解像度。高解像度および高フレームレートに対応するため、プレミアム HDMI ケーブルを使用してください。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します。接続されたカメラにラウドスピーカーがある場合 (Quad Camera) 、HDMI 出力に音声はありません。そうでない場合、このコネクタから音声が出力されます。

HDMI 1: メインディスプレイ
HDMI 2 および HDMI 3: オプションの 2 番目と 3 番目のディスプレイ

I. HDMI 入力 (5)

音声とビデオ。HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 3840 × 2160 @ 30 fps / 1920 × 1080 @ 60fps。高解像度および高フレームレートに対応するため、高速 HDMI 1.4b ケーブルを使用してください。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。

HDMI 1 および HDMI 2: メインカメラ入力として使用してください。クアッド カメラは常に HDMI 1 に接続します。

HDMI 3 - HDMI 5: コンピュータ、カメラ、外部再生デバイス (音声とビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用します。HDMI 5 入力コネクタにより、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツの表示が可能になります。

J. 3G-SDI/HD-SDI 入力端子

ビデオ。解像度最大 1920 × 1080 @ 60 fps。HD-BNC: 1080p60、レベル A 10 ビット データ ネイティブ カラー エンコーディング 4:2:2 YCbCr、75 Ω。

K. USB コネクタ (2)、2.0 タイプ A

L. USB コネクタ、2.0 タイプ B

M. メンテナンス

機器とのシリアル通信用の Micro USB コネクタ。

N. 初期設定リセットピンホール

最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

O. ネットワーク

RJ45: イーサネット インターフェイス、1Gb イーサネット インターフェイス。

P. カメラコントロール (2)

RJ45: カメラ コントロール (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続するには、両方のカメラをコントロールするためのイーサネット スイッチが必要です。

Q. イーサネット PoE

RJ45: PoE デバイス用の内部ネットワークポート。

R. タッチコントローラ

RJ45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

S. ステータス LED

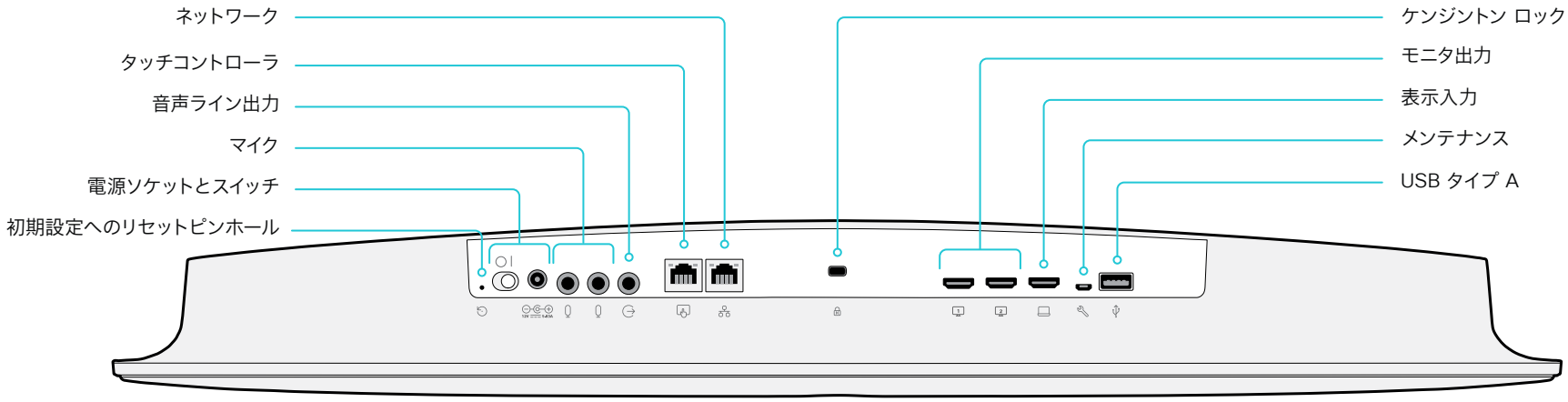
前面ステータス LED を反映します。

T. 電源オン/オフ

電源スイッチがオンの位置にあれば、デバイスは自動的に電源が入ります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Room Kit



ネットワーク

イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

タッチコントローラ

タッチコントローラはイーサネット経由で電力供給されますが、このソケット経由では提供されません。そのため、タッチコントローラとビデオ会議デバイスの間にミッドスパンパワーインジェクタが必要です。詳細については、► タッチコントローラを接続する の章を参照してください。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。アクティブスピーカー（アンプ内蔵）またはセルフパワーサブウーファーと使用します（*Audio Output Line OutputType* 設定を参照してください）。

マイク

外部マイク用 3.5 mm ミニジャック 2 個、4 ピン コネクタ:Cisco テーブル マイク 20 または Cisco TelePresence シーリング マイク。

電源

常に付属の電源を使用してください。

- DC 出力: 5.83 A、12 V
- AC 入力: 100-240 V、50-60 Hz、最大 1.2 A

電源スイッチがオンの位置にあれば、デバイスは自動的に電源が入ります。

初期設定リセットピンホール

最後の手段として、ピンホールを使用します。タッチコントローラまたはデバイス ウェブ インターフェイスから工場出荷時設定へのリセットを行うことを推奨します。

モニタ出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度 3840 × 2160 @ 60 fps。出力 1 をメインモニタに使用し、出力 2 をオプションのセカンダリモニタに使用します。これらの出力に音声がありません。高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します。

表示入力

HDMI バージョン 1.4b、解像度最大 3840 × 2160 @ 30 fps。コンピュータや外部再生デバイス (音声およびビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用します。高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信用の Micro USB コネクタ。

USB

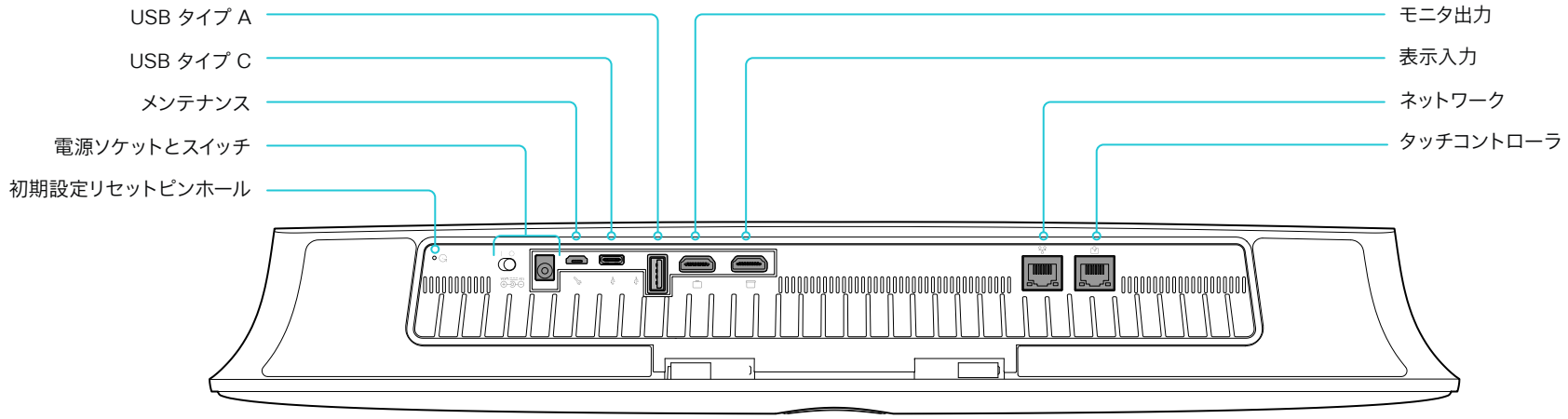
USB 2.0 タイプ A。

ケンジントン ロック

ケンジントン ロックは、デバイスの移動や盗難を防ぐために使用できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Room Kit Mini



初期設定リセットピンホール

最後の手段として、ピンホールを使用します。タッチ ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスから工場出荷時設定へのリセットを行うことを推奨します。

電源

常に付属の電源を使用してください。電源スイッチがオンの位置にあれば、デバイスは自動的に電源が入ります。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信用の Micro USB コネクタ。

USB

- USB 2.0 タイプ A
- USB 2.0 タイプ C

モニタ出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度 3840 × 2160 @ 60 fps。出力に音声がない。高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します。

表示入力

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 3840 × 2160 @ 30 fps（コンピュータ用）。高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。

ネットワーク

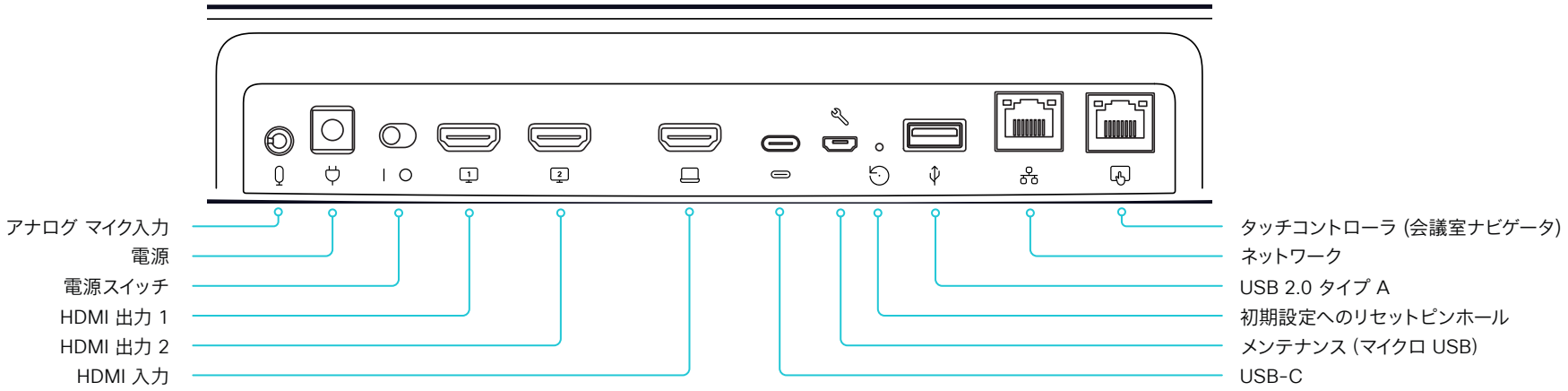
イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

タッチコントローラ

タッチコントローラは、このソケットから提供されるイーサネット経由で電力供給されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル：Room Bar



アナログ マイク入力

- 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用 4 ピン コネクタ;例: Cisco テーブルマイクまたは Cisco TelePresence シーリングマイク

電源

- 常に付属の電源を使用してください。電源スイッチがオンの位置にあれば、デバイスは自動的に電源が入ります。
- 100 から 240 VAC、50/60 Hz、12 V DC 入力
- 消費電力：
  - 平均：20 W
  - ピーク：86 W

HDMI 出力

- 2 つの HDMI 2.0 出力が 60 fps で最大 3840 × 2160 の形式に対応
- 出力に音声がありません
- 高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します

HDMI 入力

- HDMI 1.4 タイプ A 入力
- 1920 × 1080 で 60 fps、最大 3840 × 2160 で 30 fps を含む形式に対応
- コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
- 高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーション ケーブルの使用を推奨します

USB-C

- DisplayPort 代替モード使用で最大 3840 × 2160 で 30 fps、1920 × 1080 で 60 fps を含む形式をサポート
- コンテンツ共有と画面拡張機能 (コンピューターの外部画面)
- 1 本の USB-C ケーブルで接続されたコンピューターにカメラ、マイク、スピーカーを提供する能力 (USB-C パススルー)

メンテナンス - マイクロ USB

- デバイスとのシリアル通信用

初期設定リセットピンホール

- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザーインターフェイスまたはデバイス ウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることをお勧めします

ネットワーク

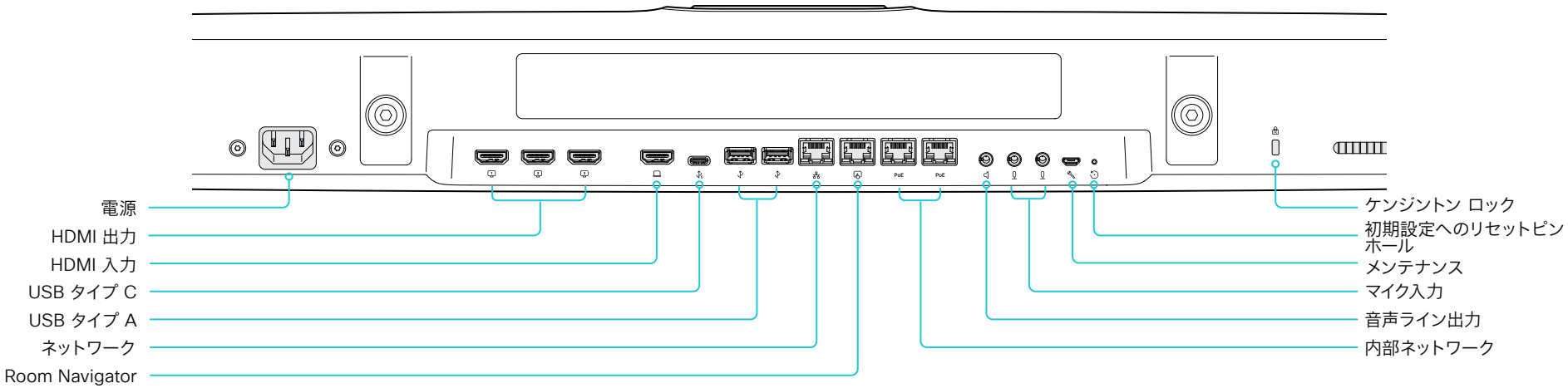
- LAN (外部ネットワーク) 用イーサネット (RJ45) 100/1000 Mbps

タッチコントローラ - Room Navigator

- イーサネット (RJ45) 100/1000 Mbps、タッチコントローラの直接接続に対応する PoE (Room Navigator)
- Room Navigator はイーサネットで電源供給されています

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Room Bar Pro



電源

- 100 - 240 V_{AC}、50-60 Hz、12 V DC 入力/2.0-1.2A
- 常に付属の電源ケーブルを使用してください

HDMI 出力

- 3 つの HDMI 2.0 出力は、60 fps で最大 3840 × 2160 の形式をサポートします
- 出力に音声がありません
- 高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します

HDMI 入力

- HDMI 1.4 タイプ A 入力
- 1920 × 1080 で 60 fps、最大 3840 × 2160 で 30 fps を含む形式に対応
- コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
- 高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーション ケーブルの使用を推奨します

USB

- USB タイプ A
- USB タイプ C
  - コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューター用外部画面)
  - 1 本の USB-C ケーブルで接続されたコンピューターにカメラ、マイク、スピーカーを提供する能力 (USB-C パススルー)

ネットワーク

- 10Mb /100 Mb / 1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)

タッチコントローラ - Room Navigator

- タッチコントローラ (Room Navigator) 用の専用イーサネット PoE ポート (RJ45)

内部ネットワーク、イーサネット PoE

- PoE デバイス用の 2 つの内部ネットワークコネクタ (RJ45)

音声ライン出力

- 3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ
- アナログライン出力 (ステレオ)
- アクティブスピーカーと組み合わせて使用する (アンプ内蔵)

マイク

- 2 個の 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ;例えば: Cisco テーブルマイクまたは Cisco TelePresence シーリングマイク

メンテナンス

- デバイスとのシリアル通信用の Micro USB

初期設定リセットピンホール

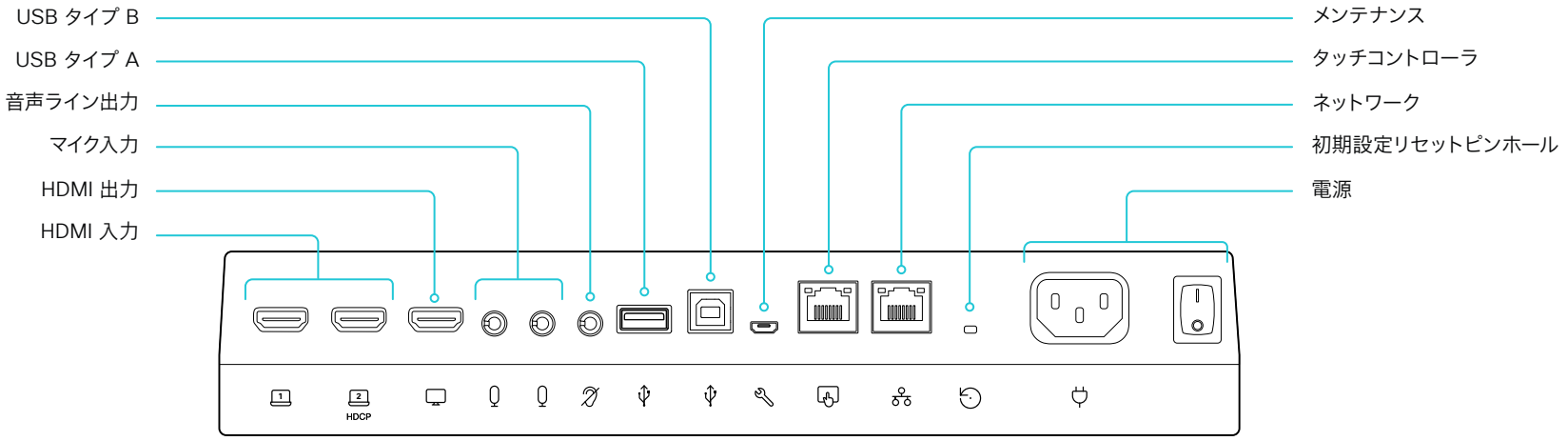
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザーインターフェイスまたはデバイス ウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることをお勧めします

ケンジントン ロック

- ケンジントン ロックは、デバイスの移動や盗難を防ぐために使用できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Room 55



HDMI 入力

HDMI バージョン 1.4b、解像度最大 3840 × 2160 @ 30 fps。コンピュータや外部再生デバイス (音声とビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用します。高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。

2 つ目の HDMI 入力は、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツの表示を可能にします。

HDMI 出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度 3840 × 2160 @ 60 fps。オプションの 2 つ目のディスプレイに使用します (ビデオのみ)。高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します。

マイク

外部マイク用 3.5 mm ミニジャック 2 個、4 ピン コネクタ:Cisco テーブル マイク 20 または Cisco TelePresence シーリング マイク。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。例えば、音声誘導ループ システムと一緒に使用することができます。

USB

- USB 2.0 タイプ A
- USB 2.0 タイプ B

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信用の Micro USB コネクタ。

タッチコントローラ

タッチコントローラは、このソケットから提供されるイーサネット経由で電力供給されます。詳細については ▶ タッチコントローラを接続する の章を参照してください。

ネットワーク

イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

初期設定リセットピンホール

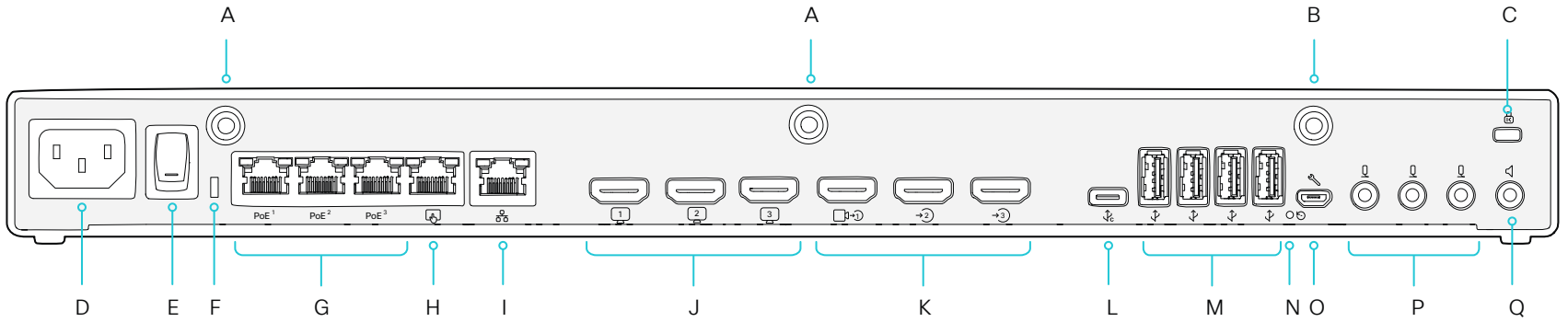
最後の手段として、ピンホールを使用します。タッチコントローラまたはデバイス ウェブ インターフェイスから工場出荷時設定へのリセットを行うことを推奨します。

電源

100-240 V交流、 1.8-0.8 A、50/60 Hz
電源スイッチがオンの位置にある限り、デバイスの電源は自動的にオンになります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル：Room Kit EQX



A. 2x Wi-Fi アンテナ (RP-SMA コネクタ)
- ホイップ アンテナは、システム上部のスピーカー グリルの裏側にあるブラケットにマウントされています。最高のパフォーマンスを得るために、見通し線を確保してください。

B. Bluetooth® アンテナ (RP-SMA コネクタ)
- ホイップ アンテナは、システム上部のスピーカー グリルの裏側にあるブラケットにマウントされています。最高のパフォーマンスを得るために、見通し線を確保してください。

C. ケンジントン ロック
- デバイスの移動や盗難を防ぐことができます。

D. 電力 (100-240 V_{AC}、50-60 Hz、2.0-1.2 A)
- コーデックのみ。

E. 電源オン/オフ
- コーデックのみ。

F. ステータス LED

G. 内部ネットワーク用イーサネットポート (RJ45) x 3
- カメラコントロール用、システムのアンプ用、デジタルマイク用など。
- PoE++ (IEEE 802.3bt): ポートあたり最大 90 W; これらの3つのポート(G)とタッチコントローラ専用ポート(H)の合計でも最大 90 W。

H. タッチコントローラ (RJ45)
- タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。
- PoE++ (IEEE 802.3bt): このポート (H) と他の 3 つの PoE ポート (G) の合計で最大 90 W、このポートで最大 90 W。

I. ネットワーク
- イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

J. 3x HDMI 出力
- HDMI 2.0、最大解像度 3840 × 2160、60 fps。
- 音声とビデオ (音声はデフォルトで無効になっています)。
- HDMI 1 および HDMI 2 はシステムの統合型スクリーンで使用されます。HDMI 1 が左側画面、HDMI 2 が右側画面になります。

K. 3 x HDMI 入力。通常、カメラやその他のコンテンツソースに使用されます。
- HDMI 2.0。3840 × 2160 (30 fps) までの解像度。
- コンテンツ共有。
- HDMI 1 はシステムの統合型カメラです。
- HDMI 3 で HDCP (高帯域幅デジタル コンテンツ保護) 暗号化コンテンツをサポートします。

L. USB-C
- DisplayPort 代替モード使用で最大 3840 × 2160 で 30 fps のフォーマットをサポートします。
- コンテンツ共有。
- ソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用してください (USB カメラモード)。
- 15 W 充電機能。

M. 4x USB 3.0 タイプ A
- 1.5 A 充電機能 1 ポートあたり。
- スピーカー、マイク、ヘッドセット、DSP、および将来のインテグレーション用。

N. 初期設定リセットピンホール
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

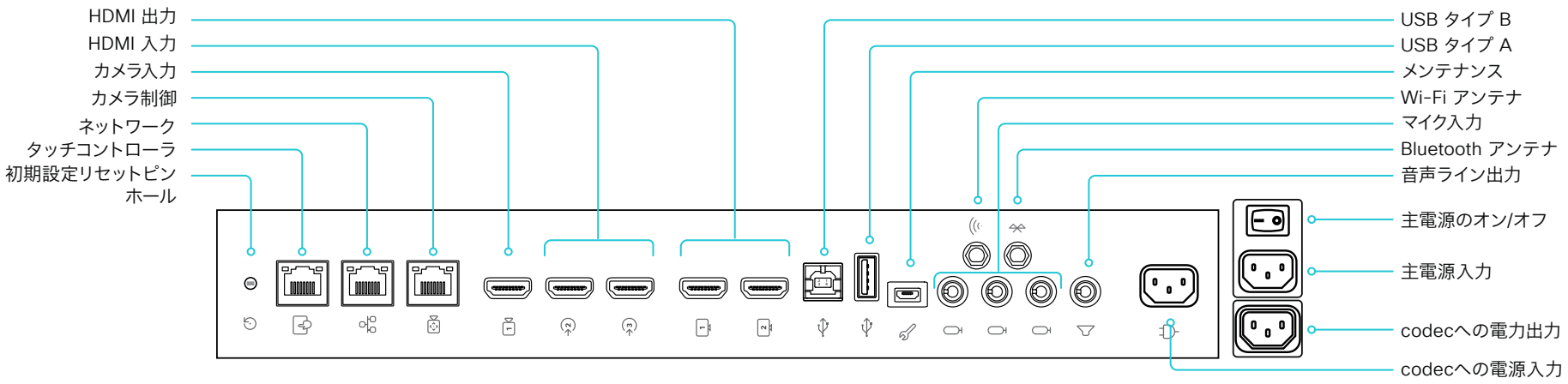
O. メンテナンス (マイクロ USB)
- デバイスとのシリアル通信用。

P. 3x アナログ マイク (3.5 mm ミニジャック、4 ピン コネクタ)

Q. 音声ライン出力 (3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ)
- アナログ回線出力 (ステレオ)。
- アクティブスピーカーと一緒に使用するためのものです (アンプ内蔵)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタ パネル: Room 55 Dual および Room 70



初期設定リセットピンホール

最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

タッチコントローラ

タッチコントローラは、このソケットから提供されるイーサネット経由で電力供給されます(PoE)。

ネットワーク

イーサネットインターフェイス、Mb/100Mb /1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

カメラ制御

統合型カメラのカメラ コントロール (パン、チルト、ズーム)。

カメラ入力

この HDMI 入力は統合型カメラ用に予約されています。

音声付き HDMI 入力

HDMI バージョン 1.4b、解像度最大 3840 × 2160、30 fps。コンピュータ、追加カメラ、または外部再生デバイス用。高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。2 つ目の HDMI 入力コネクタは、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツの表示を可能にします。

4K 解像度の HDMI 出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度 3840 × 2160、60 fps。出力 1 は、シングル スクリーン デバイスの内部スクリーン用に予約されています。両方の出力は、デュアルスクリーンデバイスの内部画面用に予約されています。高解像度および高フレームレートでの使用にはプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイケーブルを推奨します。シングルスクリーンデバイスの HDMI 出力コネクタ 2 には音声出力がありません。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。

マイク

3 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用 4 ピン コネクタ:Cisco テーブルマイク 20 または Cisco TelePresence シーリングマイク。

USB コネクタ

- USB 2.0 タイプ B
- USB 2.0 タイプ A、内部使用予約済み
- メンテナンス用 Micro USB ソケット

アンテナコネクタ

- ワイヤレスネットワーク接続用 Wi-Fi アンテナ
- Bluetooth アンテナ (将来の使用のため)

電源

- コーデックへの電源入力用に予約済み
- コーデックへの電源出力用に予約済み
- 主電源入力 (100-240 V交流、3.5-2.0 A、50/60Hz)
- 主電源のオン/オフ

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

接続パネル: Room 70 G2 および Room 70 Panorama

A. アンテナコネクタ (2)

ワイヤレスネットワークまたは Bluetooth 接続で使用する 2.4GHz および 5GHz アンテナ。

B. ライン出力 (6)

バランスラインレベル出力。ユーロブロック、3.5 mm。

C. マイク/ライン入力(8)

8 つのマイク、48V ファントム電源、それぞれに個別のエコーキャンセラとノイズリダクションを装備。すべてのマイクはバランスラインレベルに設定できます。ユーロブロック、3.5 mm

D. プログラム可能な GPIO ポート。3.5 mm ユーロブロック コネクタ。

E. COM ポート。3.5 mm ユーロブロック コネクタ。

F. アンテナコネクタ、A を参照

G. グラウンド。保護接地。

H. 電源入力

コーデックへの電源入力および電源のオン/オフスイッチ。

I. 主電源入力

主電源入力 (100-240 VAC、5.5-2.5 A、50/60Hz) および電源オン/オフ スイッチ。

J. HDMI 出力 (2)。

音声とビデオ。コネクタ 1 および 2、 4Kp60。

K. HDMI 出力 (1)

音声とビデオ。コネクタ 3、4Kp30。

L. カメラ入力 (2)

HDMI、コネクタ 1-2、1080p60。

M. HDMI 入力 (3)

音声とビデオ。コネクタ 3-5、4Kp30。コネクタ 5 は HDCP をサポートします。

N. カメラ入力

3G-HD/HD-SDI。コネクタ 6、1080p60、レベル A のみ、HD-BNC、75Ω。

O. USB コネクタ (2)、2.0 タイプ A。

P. USB コネクタ、2.0 タイプ B。

Q. メンテナンス

機器とのシリアル通信用の Micro USB コネクタ。

R. 初期設定リセットピンホール

最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

S. ネットワーク

RJ45: イーサネット インターフェイス、1Gb イーサネット インターフェイス。

T. カメラコントロール (2)

RJ45: カメラ コントロール (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続するには、両方のカメラをコントロールするためのイーサネット スイッチが必要です。

U. イーサネット PoE

RJ45: PoE デバイス用の内部ネットワークポート。

V. タッチコントローラ

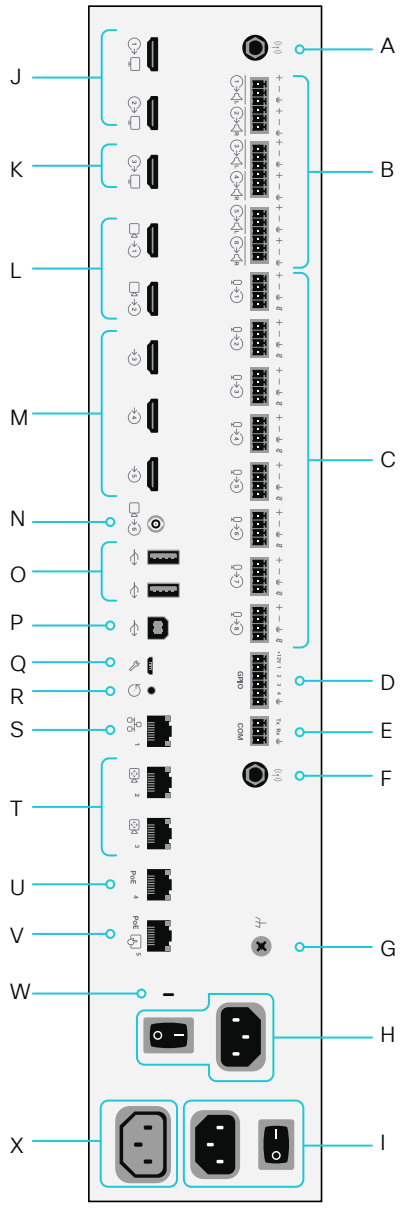
RJ45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

W. ステータス LED

前面ステータス LED を反映します。

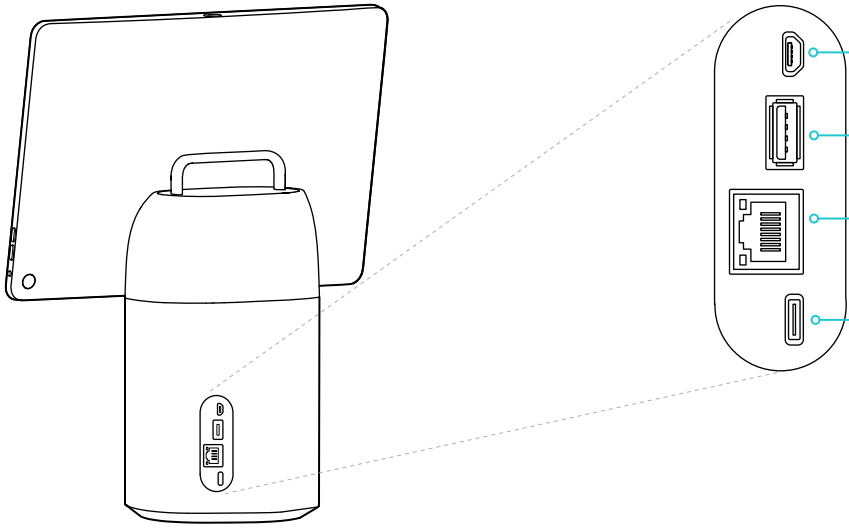
X. 電力出力

コーデック電力出力。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル：Desk Mini

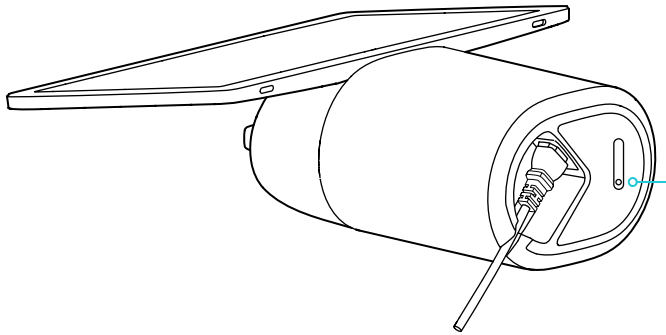


メンテナンス（マイクロ USB）
- デバイスとのシリアル通信用

USB 2.0 タイプ A

ネットワーク
- イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス（RJ45）。

USB-C
- DisplayPort 代替モード使用で最大 1920 × 1080 @ 60 fps（1080p60）のフォーマットをサポートします。
- コンテンツ共有および画面拡張用（コンピューターの外部画面）
- サポート対象のオペレーティング システムでのタッチ転送機能
- ソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用する（USB カメラモード）

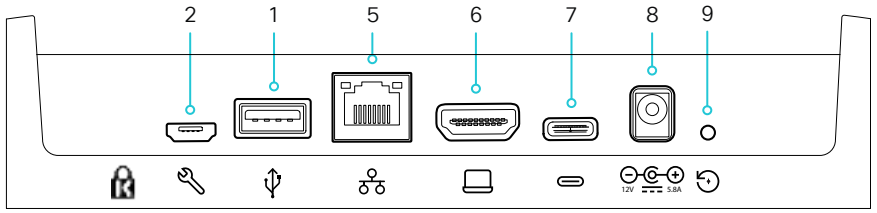


初期設定リセットピンホール
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

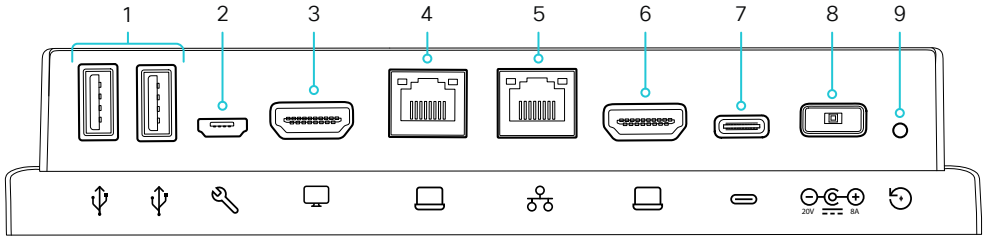
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル:Desk および Desk Pro

1. USB
   - USB 2.0 タイプ A
2. メンテナンス (マイクロ USB)
   - デバイスとのシリアル通信用
3. HDMI 出力: セカンド スクリーン接続用 *(Desk Pro のみ)*
   - HDMI 2.0 タイプ A
   - 最大 3840 × 2160、60 fps (4kp60) までのフォーマットに対応
4. PC 用ネットワーク *(Desk Pro のみ)*
   - イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。
5. ネットワーク
   - イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。
6. HDMI 入力
   - HDMI 2.0 タイプ A 入力。最大で次の形式に対応:
     - 3840 × 2160 で 60 fps (4kp60) *(Desk Pro)*
       1920 × 1080 で 60 fps (1080p60) *(Desk)*
   - コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
7. USB-C
   - DisplayPort 代替モードを使用して、最大で次の形式をサポートします。
     - 3840 × 2160 で 60 fps (4kp60) *(Desk Pro)*
       1920 × 1080 で 60 fps (1080p60) *(Desk)*
   - コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
   - サポート対象のオペレーティング システムでのタッチ転送機能
   - ソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用する (USB カメラモード)
   - ラップトップ充電 (最大 60 W) *(Desk Pro のみ)*
8. 電源
   - 評価:
     - 200 W 最大 *(Desk Pro)*、70 W 最大 *(Desk)*
   - 待機時消費電力:
     - 15 W;ディスプレイオフモード *(Desk Pro)*、 7.5 W;ネットワークスタンバイ *(Desk)*



後部のメインコネクタパネル
(Desk)

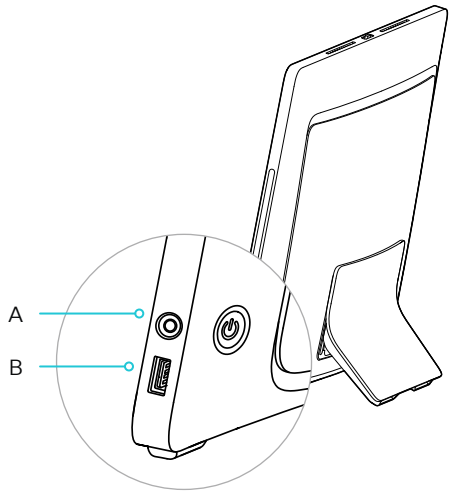


背面のメインコネクタパネル
(Desk Pro)

9. 初期設定リセットピンホール
   - 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

A. アナログ音声出力 *(Desk Pro のみ)*
   - 3.5 mm ステレオ ミニジャック (3 ピン)
   - ヘッドフォン用

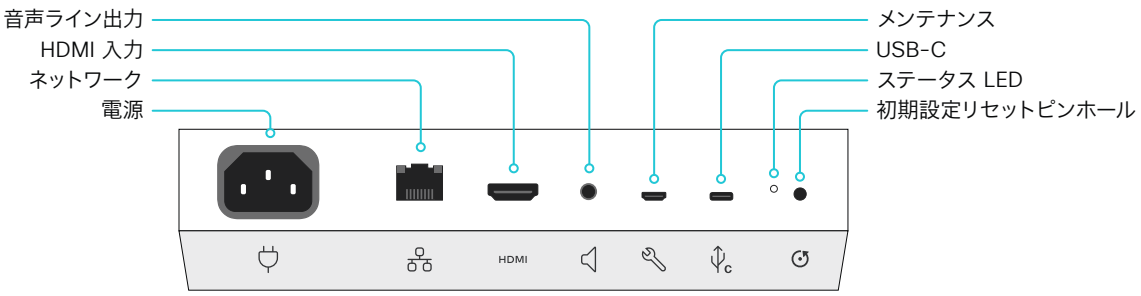
B. USB、音声入出力 *(Desk Pro のみ)*
   - USB 2.0 タイプ A
   - USB ヘッドセット用



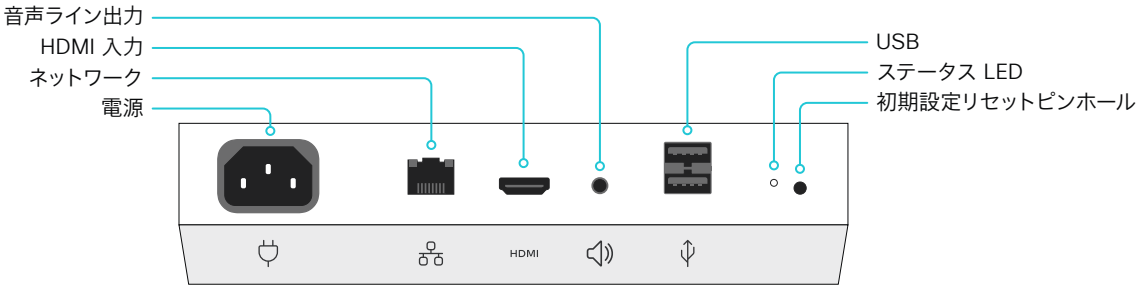
右側面音声コネクタ
(Desk Pro)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

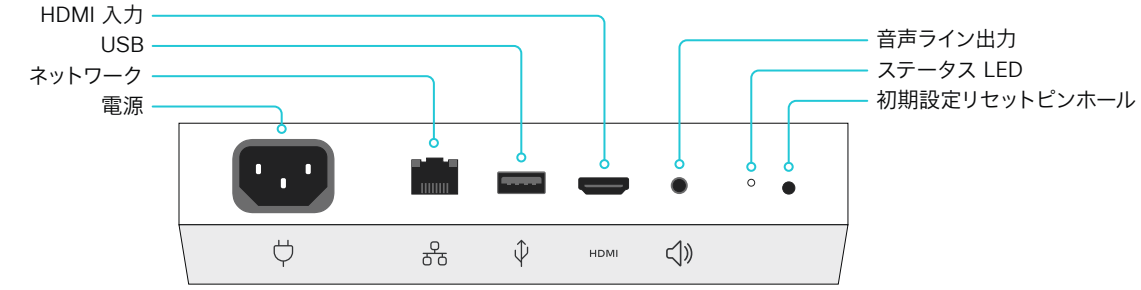
コネクタパネル：Board



Board 55S、70S および 85S [1]



Board 55



Board 70

電源

- Board 55S：100-240 VAC、3.0-1.5 A、50/60 Hz
- Board 70S：100-240 VAC、3.5-2.0 A、50/60 Hz
- Board 85S：100-240 VAC、4.6-2.0 A、50/60 Hz
- Board 55、70: 100-240 VAC、3.5 A 最大、50/60 Hz

ネットワーク

- イーサネットインターフェイス、 10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45) 。[2]

HDMI 入力

- HDMI バージョン 1.4b、解像度最大 3840 × 2160 @ 30 fps。コンピュータまたは外部再生デバイスの場合。高解像度および高フレームレートでの再生には、High Speed HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定のプレゼンテーションケーブルをお勧めします。

音声ライン出力

- 3.5 mm ミニジャック、3 ピンコネクタ。

USB

- Board 55：メンテナンス用 USB 2.0 タイプ A 2 個
- Board 70：メンテナンス用 USB 2.0 タイプ A 1個
- Board 55S、70S、85S: メンテナンス用 Micro USB
- Board 55S、70S、85S：USB-C

初期設定リセットピンホール

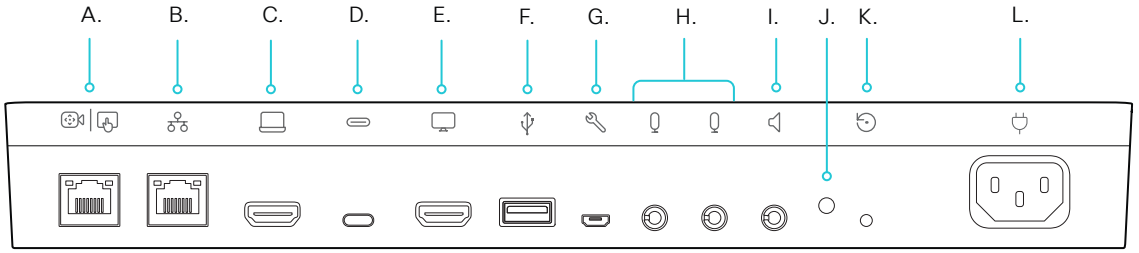
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザインターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

[1] 第 2 世代 Webex Board ファミリ (*S シリーズ*) には、ハードウェアプラットフォームの最適化がいくつか施されています。

[2] すべてのモデルは Wi-Fi にも対応しています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Board Pro



A. タッチコントローラ
- RJ45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

B. ネットワーク
- イーサネットインターフェイス、10 Mb / 100 Mb / 1 Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

C. HDMI 入力
- HDMI 2.0 タイプ A 入力。最大で次の形式に対応:
  - 3840 × 2160 で 30 fps (4kp30)
- コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
- HDCP (高帯域幅デジタル コンテンツ保護) 暗号化コンテンツをサポートします。

D. USB-C
- DisplayPort 代替モードを使用して、最大で次の形式をサポートします。
  - 3840 × 2160 @ 60 fps (4kp60)
- コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
- サポート対象のオペレーティング システムでのタッチ転送機能
- ソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用する (USB カメラモード)
- ラップトップ充電 (最大 60W)

E. HDMI 出力 (セカンド スクリーンへの接続用)
- HDMI 2.0 タイプ A
- 最大 3840 × 2160、60 fps (4kp60) までのフォーマットに対応

F. USB
- USB 2.0 タイプ A

G. メンテナンス (マイクロ USB)
- デバイスとのシリアル通信用

H. マイク入力 (3.5 mm ミニジャック)
- 2 つのアナログマイク入力

I. 音声ライン出力 (3.5 mm ミニジャック)
- アナログライン出力 (ステレオ)

J. ステータス LED

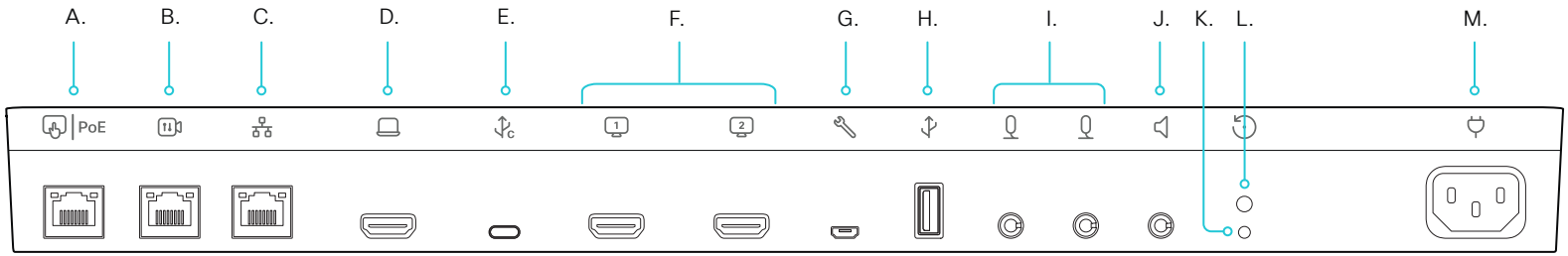
K. 初期設定リセットピンホール
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

L. 電源

電気定格:
- Board Pro 55: 100-240 VAC, 3.5-2.5 A、50/60 Hz、クラス I
- Board Pro 75: 100-240 VAC, 4.5-3.5 A、50/60 Hz、クラス I

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル：Board Pro G2



A. イーサネット (PoE 対応)
- RJ45、100 Mb / 1 Gb イーサネット
- 例えば Room Navigator (タッチコントローラ) の場合

B. イーサネット
- RJ45、100 Mb / 1 Gb イーサネット
- 例えば、Cisco PTZ 4K カメラ制御

C. ネットワーク (LAN)
- イーサネットインターフェイス (RJ45)、100 Mb / 1 Gb イーサネット

D. HDMI 入力
- HDMI 2.0 タイプ A
- ARC (音声リターンチャネル) あり
- 最大 3840 × 2160、60 fps (4kp60) までのフォーマットに対応
- コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
- HDCP (高帯域幅デジタル コンテンツ保護) 暗号化コンテンツをサポートします。

E. USB-C
- DisplayPort 代替モードを使用して、最大で次の形式をサポートします。
  - 3840 × 2160 @ 60 fps (4kp60)
- コンテンツ共有および画面拡張用 (コンピューターの外部画面)
- サポート対象のオペレーティング システムでのタッチ転送機能
- ソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、スピーカーを使用する (USB カメラモード)
- ラップトップ充電 (最大 60W)

F. HDMI 出力 (セカンド スクリーンへの接続用)
- HDMI 2.0 タイプ A
- 最大 3840 × 2160、60 fps (4kp60) までのフォーマットに対応

G. メンテナンス (マイクロ USB)
- デバイスとのシリアル通信用

H. USB
- USB 2.0 タイプ A

I. マイク入力 (3.5 mm ミニジャック)
- バランス型アナログ マイク入力
- Cisco Table Microphone のミュート信号

J. 音声ライン出力 (3.5 mm ミニジャック)
- アナログライン出力 (ステレオ)

K. 初期設定リセットピンホール
- 最後の手段として、ピンホールを使用します。可能であれば、ユーザ インターフェイスまたはデバイスのウェブ インターフェイスからデバイスをリセットすることを推奨します。

L. ステータス LED

M. 電源

電気定格:
- Board Pro 55 G2:100-240V交流、3.0-1.5A、50/60Hz、クラス I
- Board Pro 75 G2:100-240V交流、3.0-1.5A、50/60Hz、クラス I

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

コネクタパネル: Cisco 自然音声モジュール IV アンプ

Cisco 自然音声モジュール IV は Room Kit EQX および RoomPanorama の必須コンポーネントです。これは、イーサネットおよびアナログ入力を備えた 16 チャンネルの音声パワーアンプです。

12V 電源入力および出力

これは、Room Kit EQX および Room Panorama システムの一部である Cisco Quad Camera のパススルー電流制限付き電源接続です。

工場出荷時の状態へのリセット

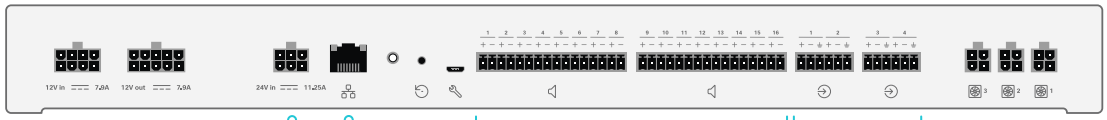
- ピンホール

メンテナンス

- Micro USB

ファン出力

Cisco Room Panorama システムには、ファンをコントロールするための 3 つのファン出力ポートがあります。



アンプ電源入力

アンプの DC 電源入力です。

- 24V DC、11.25A

イーサネット

イーサネットポートは、Codec EQ *(Room Kit EQX 用)* または Codec Pro *(Room Panorama 用)* からの音声ストリーミング、そしてコントロールとソフトウェアのアップグレードに使用されます。

- 1000BASE-T

スピーカー出力

各スピーカー出力チャンネルは、ブリッジ/ディファレンシャルアンプ出力です。+ と - の接続は単一のスピーカーのみに接続し、別のスピーカー出力やグラウンドには接続しないでください。

3.5 mm ユーロブロックコネクタのブリッジ型ディファレンシャル出力。

- チャンネルごとに最大 25 W / 8 オーム (0.1% THD)。
- 0.1% THD, クリッピング以下のすべてのレベルで。
- 106 dB SNR。
- 総出力最大 200 W。

アナログ入力/ライン入力

各アナログ入力は、差動アナログライン入力です。最高の性能を得るには、バランス型アナログライン出力信号に接続する必要があります。しかし、アンバランス信号源でも使用できます。その場合、- ターミナルはアースに接続する必要があります。

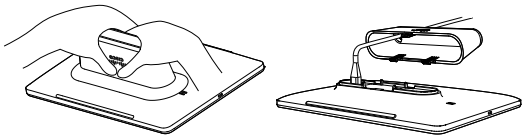
3.5 mm ユーロブロックコネクタの差動入力。

- 最大 24 dBu の入力レベル。
- 106 dB SNR。

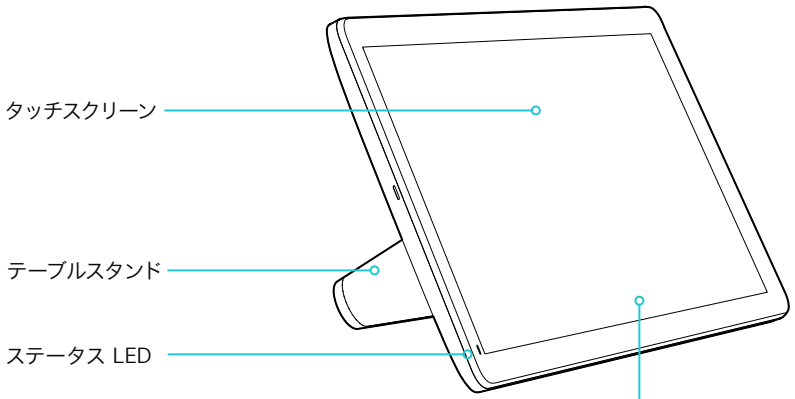
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room Navigator の物理インターフェイス

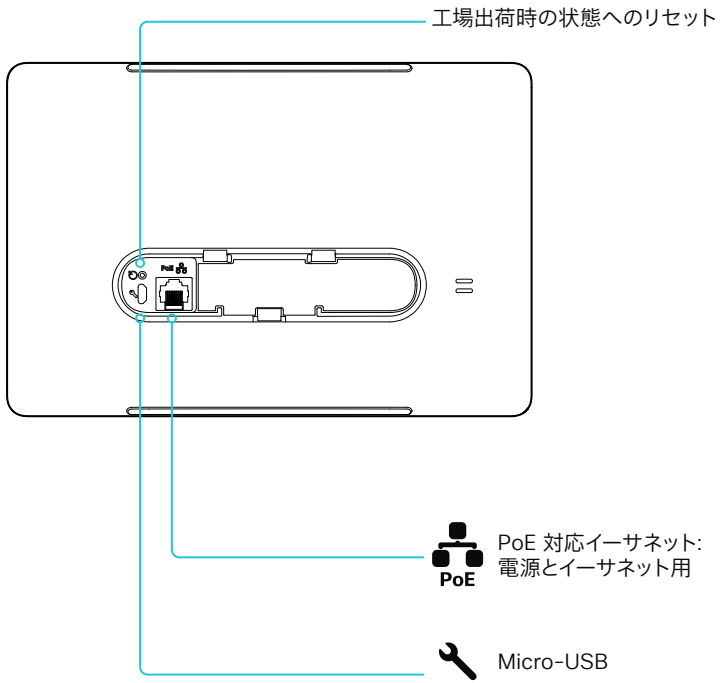
このタッチコントローラは 2021 年初頭にリリースされました。Touch 10 と同じ機能を備えていますが、空気の質や温度などを監視するための環境センサーも提供します。



コネクタパネルにアクセスするには、卓上スタンドを取り外す。強く押しながら回転させる。



サウンドバーとオーディオのミュートはユーザーインターフェイスからアクセスできます。

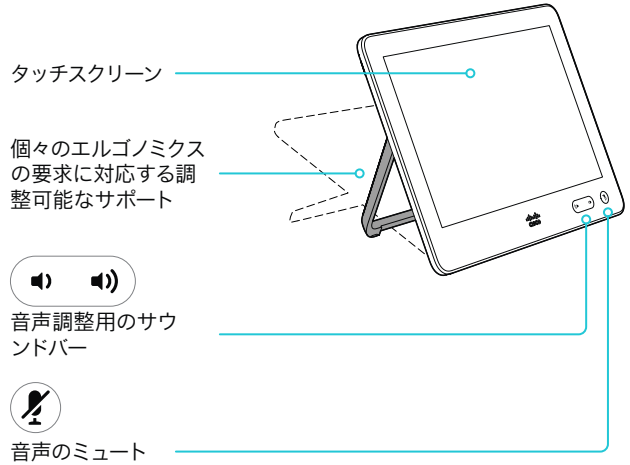


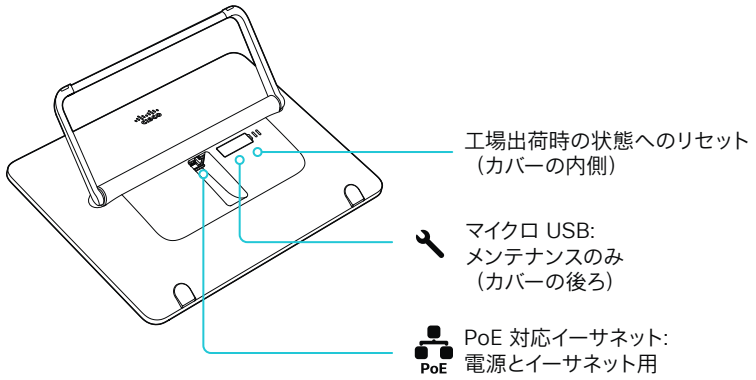
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Touch 10 物理インターフェイス

Cisco Touch 10

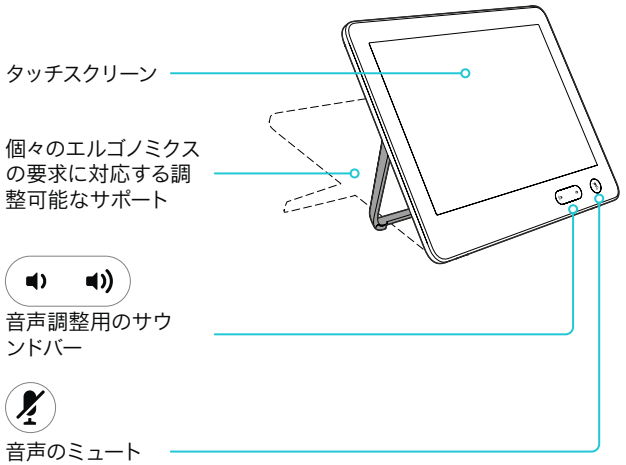
これは Touch 10 コントローラの 2 番目のバージョンです (2017 年後半に発売)。機能は最初のバージョンと同じですが、物理インターフェイスが若干異なります。新しいデバイスは前面のロゴで識別され、背面ではコネクタが少なくなっています。

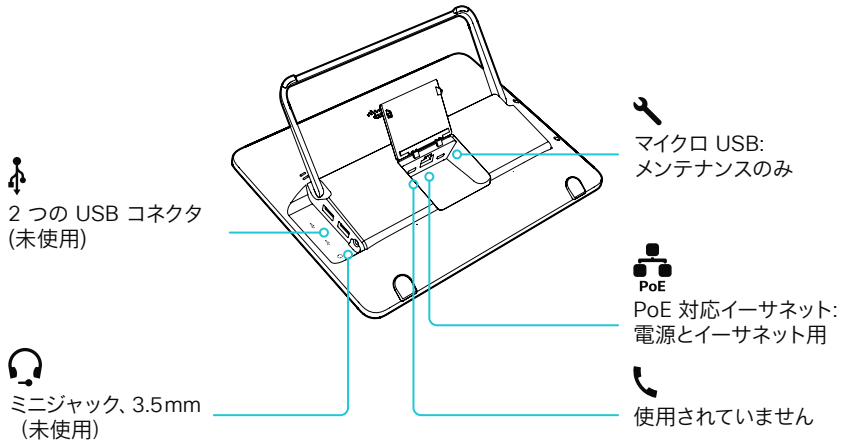




Cisco TelePresence Touch 10

これは Touch 10 コントローラの最初のバージョンです。





© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

第 7 章

付録

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスをウェブカメラまたは BYOD として使用してラップトップから通話する (1/4 ページ)

ラップトップをビデオ会議デバイスに接続すると、ラップトップの会議アプリから発信するときに、デバイスを高性能ウェブカメラとして使用できます 。

この機能は、Bring Your Own Device (BYOD) とも呼ばれます。

このモードでは次のデバイスリソースを使用します:

- カメラ、マイク、スピーカー
- 画面 - 製品に応じて内蔵または外付け。内蔵スクリーンのない製品では、外部スクリーンを接続する必要があります。

ラップトップ ミーティング アプリから: カメラ、マイク、スピーカーのソースとしてビデオ会議デバイスを選択する必要があります。

異なるデバイスは異なる機能を持っていますため、この機能のセットアップと使用方法はさまざまです。

- *USB-Cを完全にサポートするデバイス*:
  - Board Pro、Board Pro G2
  - Desk Pro、Desk、Desk Mini
  - Codec EQ、Room Kit EQX
  - Room Bar、Room Bar Pro
- *USB-C 対応が制限付きのデバイス*:
  - Room Kit Mini
- *USB-C 対応がないデバイス*:
  - Codec Plus、Codec Pro
  - Room Kit、Room 55
  - Room 70 Single、Room 70 G2 Single および Dual

最小要件

最小 USB バージョン:

- USB 2.0

必要なコンピュータのオペレーティングシステム:

- Windows 7
- OS X 10.6

通話中の振る舞い

音声をミュートする

ユーザーはいつでもラップトップ ミーティング アプリからマイクをミュートできます。

管理者はこれらの設定を使用して、ユーザーがデバイス (またはデバイスに接続されているタッチコントローラまたは外部マイク) からもミュートできるかどうかを決定できます。

- *音声 > マイク > USB パススルー > ミュートボタン*
- *音声 > マイク > HDMI パススルー > ミュートボタン*

  非アクティブ: ユーザーがデバイスからミュートできない (Desk シリーズのデフォルト動作)

  アクティブ: ユーザーはデバイスからミュートできます (他の製品のデフォルト動作)

デバイスとミーティング アプリのミュート インジケーターが同期されていない。これにはいくつかの影響があります。

- ユーザーがラップトップ ミーティング アプリから自分自身をミュートすると、デバイスのマイク LED、タッチコントローラ、外部マイクがミュートの色に変わりません。
- ユーザーがデバイス、タッチコントローラ、外部マイクから自分をミュートした場合、通話の他の参加者にはミュートになっていることが通知されません。
- ユーザーがアプリのマイク ソースとしてデバイスを選択し忘れた場合、アプリはラップトップのマイクを使用します。このような場合、デバイス、タッチコントローラ、外部マイクのマイク LED が赤 (ミュートカラー) になっている可能性がありますが、音声はミュートされていません。

デバイスからできるその他のこと

デバイス UI から次の操作を行うことができます。

- カメラを操作する。カメラが使用中のとき、カメラの LED が点灯することに注意してください。
- 音量を調整します。
- バックグラウンド ノイズを除去し、音声品質を最適化します。

ラップトップ ミーティング アプリで行うその他の操作

ラップトップ アプリは、カメラ、マイク、スピーカーのソースとしてビデオ会議デバイスを使用する必要があります。

ラップトップ ミーティング アプリは、デバイス UI によって制御されないすべての通話機能を制御します。これには通話の切断も含まれます。

USB-C 対応がないデバイス:

- また、デバイスの *ラップトップからの通話* アプリを停止する必要があります。

サイレントモード

通常、ミーティング中のラップトップ PC で使用している場合、デバイス自体は *邪魔しないで* モードに設定されています。そのため、ミーティング中にデバイスへの着信通話を受けることはありません。

USB-Cを完全にサポートするデバイス:

- 音声のみのミーティング中、デバイスは *着信拒否* モードにはなりません。

USB-C 対応がないデバイス:

- デバイスは [*着信拒否*] モードのままになります。ただし、デバイスで *ラップトップからの発信* アプリが有効になっている必要があります。、最小化されている場合も含みます。

[1] Microsoft Teams、Skype for business、Slack、Zoomなどです。Cisco では、製品のリリース前にこれらのクライアントのテストを行いました。異なるソフトウェアバージョン間の互換性は定期的にテストされません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスをウェブカメラまたは BYOD として使用してラップトップから通話する (4 ページ中 2 ページ目)

USB-Cを完全にサポートするデバイス

適用対象: Board Pro、Board Pro G2、Desk Pro、Desk、Desk Mini、Codec EQ、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX

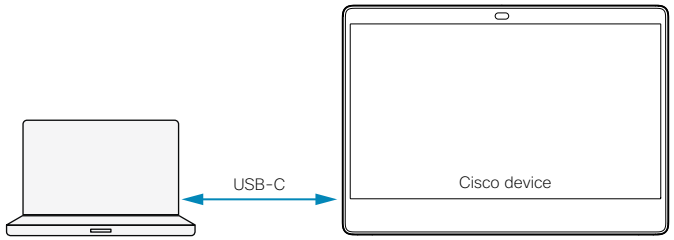
このカテゴリのデバイスには USB-C コネクタがあり、USB-C 接続でラップトップからデバイスにコンテンツを共有できます。

デバイスはこのモードで最大 1080p のビデオをサポートします。

管理者として、デバイスをウェブカメラとしてセットアップして使用するために、特別な構成を行う必要はありません。通話中の振る舞い セクションで説明したように、ミュートに関していくつかのカスタマイズを行うことができます。

ラップトップでの通話にのみ使用する場合、デバイスを通話サービス (クラウドまたはオンプレミス) に登録する必要はありません。初回セットアップ時に登録をスキップした場合、後ほど戻って Cisco にデバイスを登録できます。コントロールパネルを開き、 デバイス設定に進み、 *そしてデバイスのアクティベーションを選択します。*

メモ: ディスプレイがルームバーに接続されていない場合、またはルームバーの *Video Input Connector 2 PresentationSelection = Manual* の場合、上記の手順では、ルームバーをスピーカー出力として選択しても、ラップトップの音声はルームバーのスピーカーからは聞こえません。



USB-C:

- ビデオデバイスのカメラとマイクからコンピュータ クライアントへのビデオと音声。
- コンピューター クライアント (遠端) からスピーカーとビデオデバイスの画面へのビデオと音声。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスをウェブカメラまたは BYOD として使用してラップトップから通話する (3/4 ページ)

USB-C 対応が制限付きのデバイス

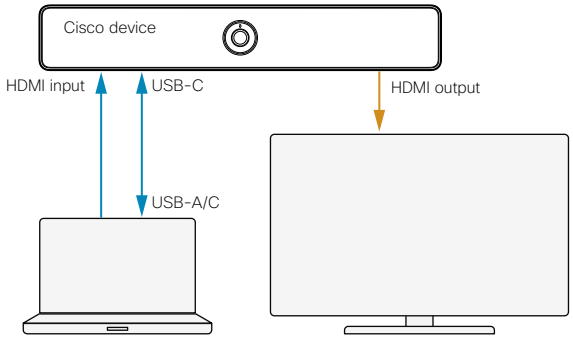
適用対象 : Room Kit Mini

このデバイスには USB-C コネクタがありますが、USB-C 接続でラップトップからデバイスにコンテンツを共有することはできません。コンテンツ共有をサポートするには、HDMI ケーブルも接続する必要があります。

ウェブカメラとして使用する場合、デバイスは最大 1080p のビデオをサポートします。

管理者として、デバイスをウェブカメラとしてセットアップして使用するために、特別な構成を行う必要はありません。通話中の振る舞い セクションで説明したように、ミュートに関していくつかのカスタマイズを行うことができます。

ラップトップでの通話にのみ使用する場合、デバイスを通話サービス (クラウドまたはオンプレミス) に登録する必要はありません。初回セットアップ時に登録をスキップした場合、後ほど戻って Cisco にデバイスを登録できます。コントロールパネルを開き、 デバイス設定に進み、 *そしてデバイスのアクティベーションを選択します。*



USB-C:

- ビデオ会議室デバイスのカメラとマイクからコンピュータ クライアントへのビデオと音声。
- コンピューター クライアントからビデオ会議デバイスのスピーカーへの音声。

HDMI 入力および HDMI 出力:

- コンピューター クライアント (遠端) のビデオをビデオ会議デバイス経由で画面へ。

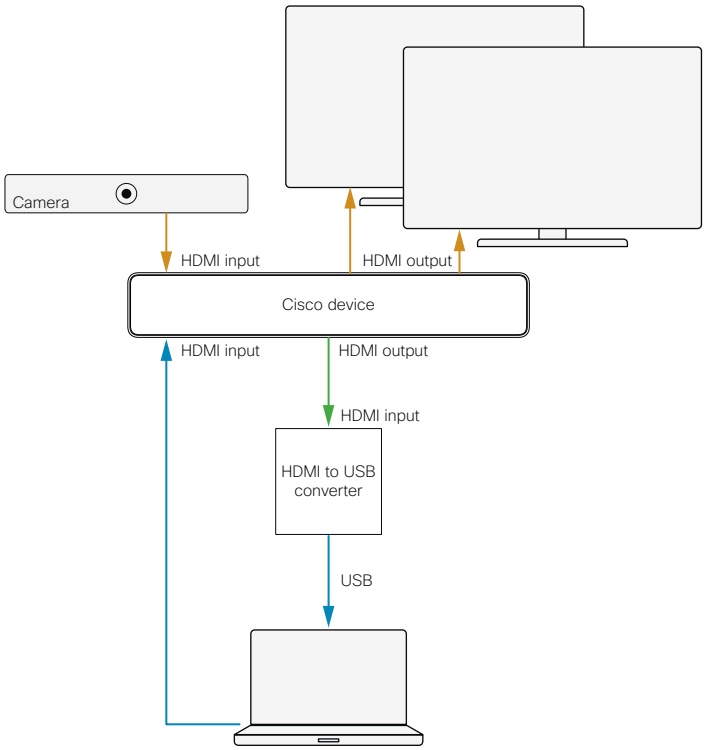
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスをウェブカメラまたは BYOD として使用してラップトップから通話する (4/4 ページ)

USB-C 非対応のデバイス

適用対象 : Codec Plus、Codec Pro、Room Kit、Room 55、Room 70 Single、Room 70 G2 Single、および Room 70 G2 Dual

このカテゴリのデバイスには USB-C コネクタがないため、ラップトップとデバイスの間に HDMI-USB コンバーター (キャプチャ デバイスとも呼ばれます) が必要です。図を参照してください。それとは別に、通常どおりデバイスの周辺機器を接続します。



HDMI パススルーとも呼ばれる機能を次のようにセットアップします。

1. 図を参照に、HDMI-to-USB コンバータをデバイスの HDMI 出力の 1 つに接続します。[1, 2]
2. *ビデオ > 出力 > HDMI > パススルー > 許可* を True に設定して、機能を有効にします。
3. 既定では、デバイスは HDMI-USB コンバーターの最も高い番号の HDMI 出力を使用するようにセットアップされています。

   ビデオ >出力 > HDMI >パススルー >出力コネクタ 設定を使用して、別の HDMI 出力に変更したい場合。その場合、モニタの役割が出力コネクタに正しく設定されていることも確認してください。 *ビデオ > 出力 > コネクタ [n] > モニタロール*。
4. 外部電源対応の HDMI-USB コンバーターがあり、画面が接続されていない場合、デバイスの画面数を手動で設定する必要があります。 *ビデオ > モニタの* 設定です。

   デバイスからミーティングに参加するときに、不一致があるとレイアウトの問題が発生します。
5. *音声 > マイク > HDMI パススルー > ミュートボタン* を **非アクティブ** に設定します。ユーザーがデバイスのタッチコントローラや外部マイクからの音声をミュートできないようにします。通話中の振る舞い セクションでミュートについてお読みください。
6. 120 分後に *ラップトップからの通話* アプリをデバイスが自動的に切断するかどうかを指定します。サイドバーの詳細を参照してください。

HDMI/USB (クライアント向け):

- HDMI-USB コンバーター経由でデバイスのカメラとマイクからコンピューター クライアントへのビデオと音声を送る。

HDMI (クライアントからの):

- コンピューター クライアント (遠端) からデバイスの画面へのビデオを送る。
- コンピューター クライアント (遠端) からデバイスのスピーカーへの音声。

[1] Room 55 Dual、Room 70 Dual、Room 70 Panorama、Room Panorama には、HDMI-USB コンバーター用の予備の HDMI 出力がないため、これらのデバイスは *ラップトップからの呼び出し機能をサポートしていません*

[2] テストの結果、Inogeni 4KX-プラス コンバータを推奨しています。他のものを使用することもできます。

ラップトップからの通話 アプリを閉じる

ラップトップ ミーティング アプリからは常に通話を切断します。ただし、これらのデバイスでは、デバイスの [*ラップトップからの通話*] アプリも閉じる必要があります。デバイスは、閉じられるまで *着信拒否* モードのままです。

手動で閉じていない場合、デフォルトの動作では、アプリは 120 分後に自動的に閉じます。

既定の動作を変更するには、これらの設定を使用します。

- *ビデオ>出力 > HDMI >パススルー機能 >自動切断機能 >有効*: True/False
- *ビデオ>出力 > HDMI >パススルー >自動切断 >遅延時間*: 切断するまでの時間 (分)

Codec Pro および Room 70 G2 の高度な音声設定

音声>出力>ConnectorSetupの設定を *自動に保つことをお勧めします。*

会議室の設定で 手動 にする必要がある場合は、Audio Console (推奨) または API コマンドを使用して、マイクのパススルーを手動で設定します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

パノラマビデオ

パノラミック ビデオでは、2 つのカメラのテレレンズを同時に使用して、広角カメラ ビューを作成します。

サポートされているシナリオでは、 *常に* パノラミックビデオを使用します。これは無効にできる機能ではなく、永久的にも一時的にもオフにすることはできません。

サポートされているシナリオ

パノラマビデオは以下のシナリオで使用されます。

- パノラマビデオをサポートする 2 つのデバイス間のポイントツーポイント コール
- パノラマビデオをサポートする 2 つのデバイス間の CMS ミーティング

今後のソフトウェア リリースで、より多くのシナリオが利用可能になります。

パノラマビデオをサポートするデバイス

- Room Panorama
- Room 70 Panorama

右の望遠レンズでキャプチャされたビデオ

左の望遠レンズでキャプチャされたビデオ

カメラの左右の望遠レンズからのビデオがつなぎ合わされて、ワイド パノラマ ビューが作成されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

リモート監視のセットアップ

要件:

- *リモート監視* オプション

リモート監視は、別の場所からデバイスをコントロールする場合に役立ちます。

入力ソースからのスナップショットはデバイスのウェブ インターフェイスに表示されるため、会議室にいなくてもカメラ ビューを確認し、カメラをコントロールできます。

有効な場合、スナップショットは約 5 秒ごとに自動的に更新されます。

スナップショットを自動的に更新する

デバイスに [*リモート監視*] オプションがあるかどうかを確認する

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[ソフトウェア (Software)]* に移動して、*[オプションキー (Option Keys)]* を選択します。
2. *リモート監視* が **インストール済みのオプションキーのリストで** アクティブ になっているかどうかを確認します。

   有効になっていない場合、リモート監視は利用できません。

リモート監視を有効にする

リモート監視 オプションキーをインストールしてください。オプションキーのインストール方法については、 ► オプションキーを追加する 章を参照してください。

リモート監視オプションを有効にする場合は、プライバシーに関する地域の法律および規制を遵守し、システム管理者がカメラとスクリーンを監視およびコントロールできることをデバイスのユーザーに適切に通知する必要があることに注意してください。デバイスを使用する場合、プライバシー規制を遵守することはお客様の責任であり、Cisco はこの機能の違法な使用に対するすべての責任を負いません。

スナップショットについて

ローカル入力ソース

デバイスのローカル入力ソースのスナップショットが [通話コントロール] ページに表示されます。

スナップショットは、デバイスがアイドル状態のときと通話中のときの両方で表示されます。

遠端のスナップショット

通話中に、相手側のカメラからのスナップショットが表示される場合があります。相手デバイスに *リモートモニタリング* オプションがあるかどうかは関係ありません。

通話が暗号化されている場合、遠端のスナップショットは表示されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのウェブ インターフェイスを使用して通話情報にアクセスし、通話に応答する

ウェブページの上部に緑色のバナーが表示され、着信があることを通知するためです。また、デバイスが通話中であるときに表示されます。

デバイスがアイドル状態の場合、緑色のバナーは表示されません。

着信の通知

[ ] *緑色のバナー* をクリックして [*通話*] ページを開き、通話を応答または拒否することができます。

通話を制御する

関連するコントロールボタンは [*コール*] ページにあります。ボタンを使用して次の操作を行います:

- 通話の詳細を表示する
- コールを保留にする
- 着信に応答する
- 通話を切断する

デバイスは通話中です

*デバイスが通話中である場合、緑色のバナーが表示されます。*デバイスに複数のアクティブ コールがあるかどうかも表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのウェブ インターフェイスを使用して発信する (1/2 ページ)

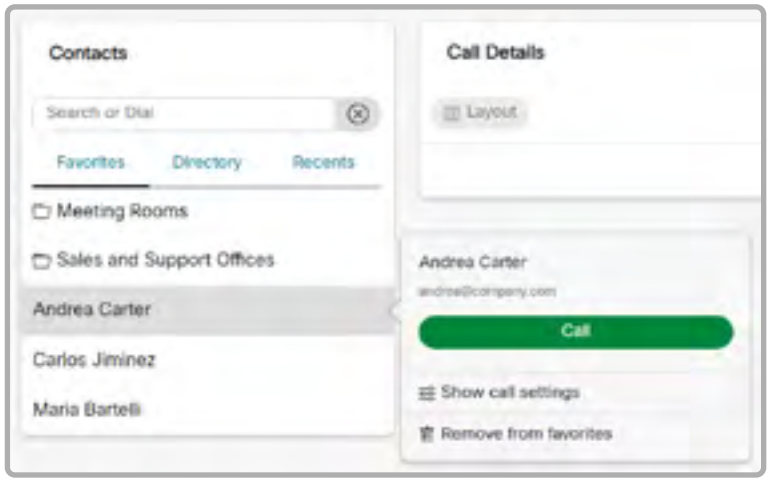
デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[発信 (Call)]* に移動します。

コールの発信

通話の開始にデバイスのウェブ インターフェイスが使用される場合でも、通話に使用されるのはビデオ会議デバイス (ディスプレイ、マイク、スピーカー) です。ウェブインターフェイスを実行している PC ではありません。

1. [*お気に入り*] *ディレクトリ* または *最近の* リストを移動して適切なエントリを見つけます。または *検索またはダイヤル* フィールド*に文字を入力します。正しい連絡先名をクリックします。
2. 連絡先カードの [*発信*] をクリックします。

または、 *検索とダイヤル* フィールドに完全な URI または番号を入力します。次に、URI または番号のとなりに表示される [*発信*] ボタンをクリックします。



DTMF トーンを送信する

アプリケーションが DTMF (デュアルトーン複数周波数) シグナリングを必要とする場合に使用できるキーパッドをクリックして開きます。

通話の詳細を表示/非表示にする

情報ボタンをクリックすると、通話の詳細が表示されます。

ボタンを再度クリックすると、情報が非表示になります。

コールの保留および再開

参加者名の隣にある ボタンを使用して、その参加者を保留状態にします。

通話を再開するには、参加者が保留中のときに表示される ボタンを使用します。

コールを終了する

通話または電話会議を終了するには、[*通話を終了*] をクリックします。表示されるダイアログで選択内容を確認します。

電話会議から 1 人の参加者だけを切断するには、その参加者の ボタンをクリックします。

* 検索では、[*お気に入り*]、[*ディレクトリ*]、および [*最近の*] リストから一致するエントリが表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのウェブ インターフェイスを使用して発信する (2/2 ページ)

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[発信 (Call)]* に移動します。

複数の人に電話をかける

ポイントツーポイントビデオコール (2 者間のみのコール) は、音声のみの参加者を 1 人増やすことができます。

デバイスでオプションの組み込み MultiSite 機能を使用している場合、自分を含めて最大 4 人または 5 人の参加者がビデオ コール (ビデオ会議) に参加できます (表を参照)。

ビデオ会議デバイス	MultiSite 通話での最大参加者数
Board、Codec Plus、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70	4
Board Pro、Codec EQ、Codec Pro、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama	5

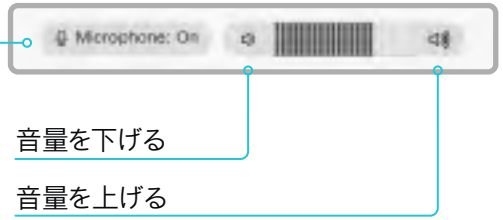
最初の参加者に発信したのと同じ手順で次の電話会議参加者に発信します。

音量を調整する

マイクをミュートにする

*[マイク: オン]*をクリックしてマイクをミュートします。 次に、テキストが「*マイク: オフ*」に変わります。

*[マイク: オフ]*をクリックしてミュートを解除します。



* 追加の音声のみの参加者は次の製品でのみサポートされています: Board、Codec Plus、Codec Pro、Desk Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのウェブ インターフェイスを使用してコンテンツを共有する

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[発信 (Call)]* に移動します。

コンテンツの共有

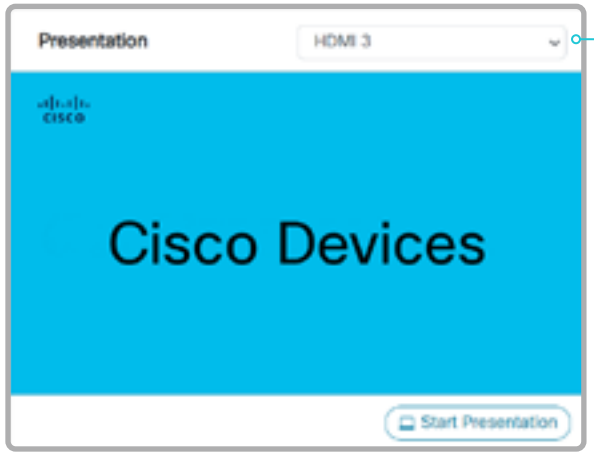
1. *[プレゼンテーション]* ソースのドロップダウンリストで共有するコンテンツソースを選択します。

   1 つの入力ソースのみをサポートする製品では、ドロップダウンリストには 1 つのエントリのみが表示されます。

2. [*プレゼンテーションを開始*]をクリックします。その後、テキストが *プレゼンテーションを停止* に変わります。

コンテンツ共有を停止:

共有中に表示される [*プレゼンテーションを停止*] ボタンをクリックしてください。



プレゼンテーションソースのドロップダウンリスト

共有する入力ソースをドロップダウンリストから選択します。

スナップショット領域

選択したプレゼンテーションソースのスナップショットを表示します。

リモート監視 オプションがあるデバイスでのみ利用できます。

コンテンツ共有について

プレゼンテーションソースをデバイスのビデオ入力に接続することができます。ほとんどの場合、プレゼンテーションソースには PC が使用されますが、お使いのデバイスの設定によっては他のオプションも利用できる場合があります。

通話中に、通話中の他の参加者 (遠端) とコンテンツを共有できます。

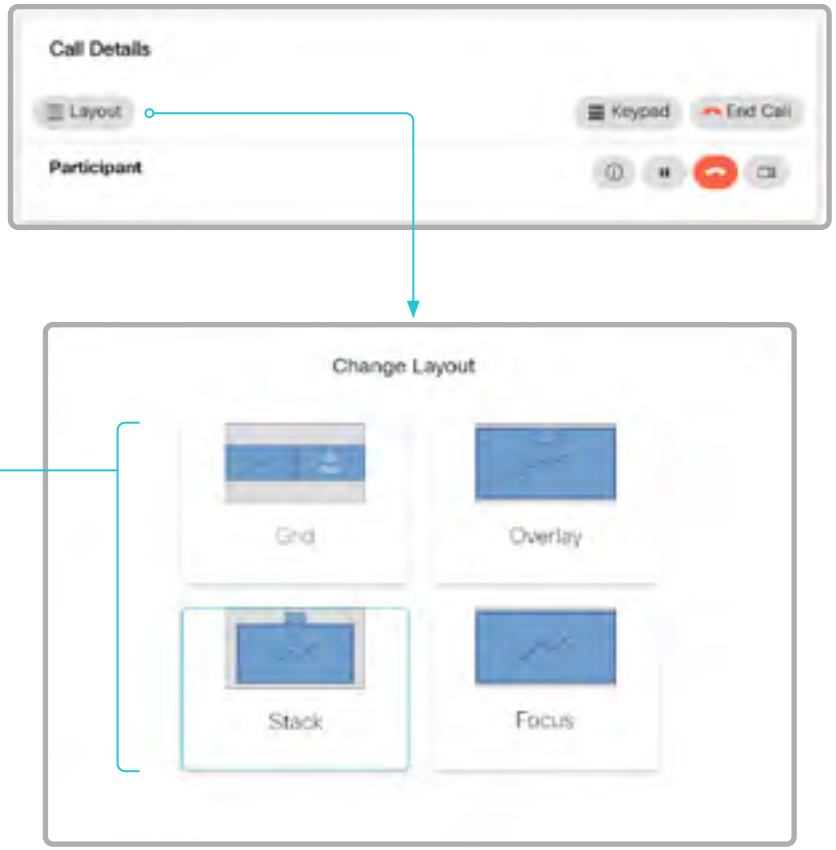
通話中でない場合、コンテンツはローカルに表示されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ローカル レイアウト コントロール

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[発信 (Call)]* に移動します。

メモ: ローカル レイアウト コントロールは、パノラミック ビデオ シナリオでは利用できません。



レイアウトを変更する

[*レイアウト*] をクリックし、表示されるウィンドウから好みのレイアウトを選択します。*

選択できるレイアウトのセットは、デバイス構成によって異なります。

* デバイスのウェブ インターフェイスからの参加者のレイアウトの変更は、ビデオ会議デバイス自体でサポートされている場合でも、会議ブリッジに接続するときはサポートされていません。

レイアウトについて

レイアウトという用語は、プレゼンテーションやビデオを画面上に表示するさまざまな方法を説明するために使用されます。異なるタイプのミーティングには異なるレイアウトが必要です。

通話または電話会議の参加者の数は、利用可能な選択肢に反映されます。

メモ: 一連のレイアウトの名前が現在変更中です。短期間、新旧両方の名前が混在する可能性があります。

古い名前	新しい名前
等しい	グリッド
オーバーレイ	オーバーレイ
拡大表示	重ねて表示
単一	フォーカス

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ローカル カメラを操作する

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[発信 (Call)]* に移動します。

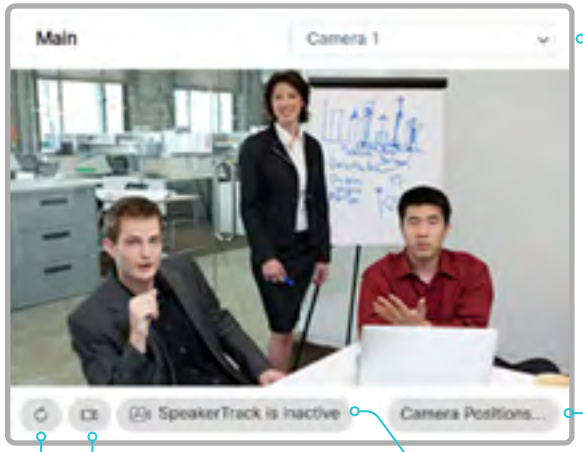
手動カメラコントロールの前提条件

- *ビデオ>入力 >コネクタ >カメラコントロール >モード* 設定が **オンになっています** 。
- カメラにはパン、チルト、またはズーム機能があります。
- 最適な概観 / 発言者トラッキングがオフになっています。
- パノラマビデオは使用されていません。

スナップショット領域

選択しているカメラ (メイン入力ソース) のスナップショットを表示します。

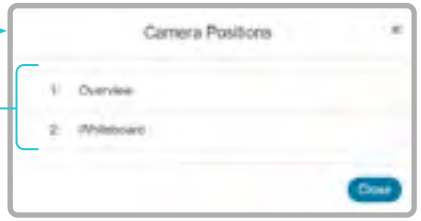
リモート監視 オプションがあるデバイスでのみ利用できます。



メインソースのドロップダウンリスト

ドロップダウンリストから操作するカメラを選択します。

1 つのカメラのみをサポートする製品にはドロップダウン リストがありません。



スナップショットを自動的に更新する

最適な概観 / スピーカートラッキング

クリックして、機能のオンとオフを切り替えます。

カメラをプリセット位置に移動する

1. 必要に応じて、 メイン ソースのドロップダウンリストから制御するカメラを選択してください。
2. [*カメラの位置...*] をクリックして、使用可能なプリセットのリストを開きます。

   プリセットが定義されていない場合、ボタンは無効になり、名前が *カメラ位置なし* になります。
3. プリセットの名前をクリックして、カメラをプリセットの位置に移動します。
4. *[閉じる (Close)]* をクリックして、ウィンドウを閉じます。

パン/チルト/ズーム コントロールを使用してカメラを移動する

スピーカー トラッキング/ベスト オーバービューが有効になっている場合、カメラ コントロールは利用できません。

1. 必要に応じて、 メイン ソースのドロップダウンリストから制御するカメラを選択してください。
2. カメラ アイコンをクリックして、カメラ コントロール ウィンドウを開きます。

   会議室のビデオスナップショットは、 *リモート監視* オプションを持つデバイスでのみ表示されます。
3. カメラをパンするために左または右矢印を使用します。カメラをチルトするために上矢印および下矢印を使います。 + および - でズームイン/ズームアウトできます。

   関連するコントロールのみがウィンドウに表示されます。
4. *[閉じる (Close)]* をクリックして、ウィンドウを閉じます。

デバイスのウェブ インターフェイスを使用してプリセットを定義することはできません。デバイスのユーザ インターフェイスを使用する必要があります。

プリセット カメラ位置を選択すると、スピーカー トラッキング/ベスト オーバービューが自動的にオフになります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

遠端カメラ制御

デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[発信 (Call)]* に移動します。

前提条件

通話中、次の条件を満たしていれば、リモート参加者のカメラ (遠端) をコントロールできます。

- パノラマビデオは *使用していません* 。
- *会議 > 遠隔操作 > モード* 設定が **オン** に切り替えられているか、または **自動** に設定されているかのいずれかです。
  - **自動**に設定した場合、発言者トラッキングをオフにする必要があります。
  - **On**に設定すると、デバイスが最初の移動コマンドを受信したときにスピーカートラッキングは自動的に無効になり、通話が終了すると再び有効になります。
- 相手側カメラにパン、チルト、ズーム機能がある。関連するコントロールのみが表示されます。
- ローカルデバイスは *リモート監視* オプションがあります。

リモート参加者のカメラを操作する

1. カメラ アイコンをクリックして、リモート カメラ コントロール ウィンドウを開きます。
2. カメラをパンするために左または右矢印を使用します。カメラをチルトするために上矢印および下矢印を使います。 + および - でズームイン/ズームアウトできます。

   相手側カメラのコントロールが許可されていない場合、コントロールは画像に表示されません。

   通話が暗号化されている場合、コントロールの背後にある遠隔地のスナップショットは表示されません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room 解析 (1/2 ページ)

ルームアナリティクス機能は、会議室からいくつかの変数を使用し、それらを再利用して、時間の経過または通話ごとの会議室使用率を分析します。

以下で参照されている設定を見つけるには、デバイスのウェブ インターフェイスにログインし、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。状況を確認するには、[*設定*] に移動し、[*状況*] を選択します。

周囲のノイズのレポート

デバイスは、室内の一定の周囲のノイズ レベルをレポートできます。報告される値は、人間の耳の応答を反映した A 加重デシベル値 (dBA) です。この機能に関連するすべての信号処理はローカルであり、送信されるデータは計算されたノイズレベルです。

この値は、ノイズ レベルの異常な変化を検出するために使用できます。これらの変化の原因は、その会議室で働く人にとって不快なノイズである可能性があります。施設管理者は、問題をトラブルシューティングするためにすぐに介入することができます。

周囲のノイズの検出は、デバイスのウェブ インターフェイスからオンまたはオフにできます。 *RoomAnalytics > AmbientNoiseEstimation > モード* 設定です。

人々の存在感知

デバイスには、会議室に人がいるかどうかを確認する機能があります。人の存在を検出するには最低 2 分かかります。会議室が空になってからステータスが変更されるまでに最大 2 分かかります。

この機能は超音波または頭部検出に基づいています。誰が入室していたかは記録されません。出席者の有無のみです。

人のプレゼンス検出は、デバイスのウェブ インターフェイスからオンまたはオフにできます。[*会議室アナリティクス] > 人の存在検出器* の設定です。

オンにすると、検出の入力ソースとして、超音波、頭部検出、またはその両方を使用するかどうかをさらに指定できます。[*RoomAnalytics] > PeoplePresence >入力 > HeadDetector* および *RoomAnalytics > PeoplePresence >入力 >超音波* 設定。

人数

頭部検出 * を使用することで、会議室にいる人数を検出できます。入室者は記録されず、検知された平均人数のみが記録されます。頭として検出できる室内の物体や絵は、カウントされる場合があります。

信頼できる平均値を得るには、通話の継続時間が少なくとも 2 分必要です。2 分未満の通話、および人数カウントが無効な状態で行われた通話は、通話履歴を取得するときに「N/A」と表示されます。

デフォルトでは、デバイスは通話中またはセルフビュー画像を表示しているときにのみ人々をカウントします。

会議室アナリティクス > PeopleCountOutOfCall 設定を使用して、通話外でも人数をカウントするように設定します。セルフビューがオフの場合でも人数のカウントはアクティブになります。ホットデスクがセットアップされていない共有デバイスでは、デバイスがディスプレイがオフのモードのときもカウントはアクティブになります (最初の低電力/スタンバイ段階)。ただし、デバイスがネットワーク スタンバイ (第 2 低電力/スタンバイ ステージ) の場合、人数カウントはアクティブになりません。

Codec EQ、Codec Pro、Codec Plus の場合

- 通話時の人数のカウントには、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラ *を使用する必要があります。*
- 通話時以外の人数のカウントにはクアッド カメラが必要です。

Status

特定の瞬間の人々の存在と人数カウントの状況を確認できます。*ルームアナリティクスの* 状況を確認してください。

* 例外: SpeakerTrack 60 カメラは、頭検出アルゴリズムの代わりに顔検出アルゴリズムを使用しています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Room 解析 (2/2 ページ)

診断

ユーザ インターフェイスから [スピーカー トラック診断] モードを有効にすることで、ライブ参加者カウンターとその他のスピーカー トラック診断情報を画面に表示できます。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン をタップしてコントロールパネルを開きます。それから*デバイスの設定*を選択します。
2. [問題と診断] *を選択し、* [スピーカートラック診断] *をオンにします。*

   ライブの出席者カウンターと他のスピーカー トラックの診断情報の両方が、セルフビュー (通話外および通話中) で表示され、 **遠端に送信されます** (通話中)。

通話履歴コマンド

通話後に、平均人数を [通話履歴] コマンドから抽出できます。

- `xCommand CallHistory Get DetailLevel: Full`

[通話履歴] コマンドは、API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) から利用できます。詳細については、RoomOS API リファレンス ガイドを参照してください。次のリンクにアクセスします。

- ▶ https://www.cisco.com/go/room-docs
- ▶ https://www.cisco.com/go/board-docs
- ▶ https://www.cisco.com/go/desk-docs

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[カスタマイズ (Customization)]

ビデオ会議デバイスのユーザ インターフェイスをカスタマイズする (1/2 ページ)

ユーザ インターフェイスをカスタマイズして、照明やブラインドなどの会議室の周辺機器のコントロールを許可したり、マクロをトリガーしてビデオ会議デバイスの動作を変更したりできます。

これにより、コントロールシステムの機能とビデオ会議デバイスのユーザフレンドリーなタッチユーザーインターフェイスの強力な組み合わせが可能になります。

ルーム内コントロールパネルの例

「*カスタマイズガイド*」を参照して、UI 拡張機能エディタを使用してカスタムのユーザーインターフェイスパネル、アクションボタン、ウェブアプリをデザインする方法、およびビデオ会議デバイスのコントロールとアクションをプログラムする API の使用方法。次のリンクにアクセスします。

▶ https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

また、Cisco RoomOS ウェブサイトでカスタマイズとマクロの詳細、例、その他のリソースを確認してください。次のリンクにアクセスします。

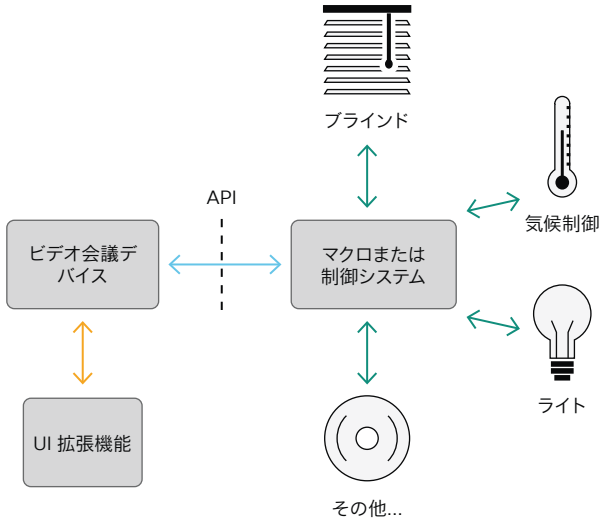
▶ https://roomos.cisco.com

UI コントロール拡張機能のアーキテクチャ

タッチ インターフェイス (タッチコントローラまたは統合型タッチ スクリーン) を備えた Cisco ビデオ会議デバイスと、マクロまたはコントロール システムが必要です。

- マクロは、デバイスの API イベントとコマンドを使用して、スピードダイヤル、言語選択、カスタマイズされたシステム リセットなど、あらゆる種類の機能をトリガーできます。
- 制御システムは、周辺機器用のハードウェアドライバーを備えた、Crestron または AMX などのサードパーティシステムの場合があります。周辺機器をコントロールするのはコントロールシステムであり、ビデオ会議デバイスではありません。

  コントロールシステムをプログラムする場合、ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイス上のコントロールに接続するために、ビデオ会議デバイスの API イベントおよびコマンドを使用する必要があります。



UI 拡張機能の制御スキーマ

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[カスタマイズ (Customization)]

ビデオ会議デバイスのユーザ インターフェイスをカスタマイズする (2/2)

UI 拡張機能エディター

無料エディター

カスタム ユーザ インターフェイス拡張機能 (アクション ボタン、ウェブ アプリ、および室内コントロールなどのカスタム パネル) を作成するために使用する使いやすいドラッグ アンド ドロップ エディターは、ビデオ会議デバイスのソフトウェアに無料で付属しています。

デバイスのウェブインターフェイスにログイン* して *UI 拡張機能エディタに移動します*。

- エディターはデバイスのウェブ インターフェイスで直接開きます。

  新しいパネル、アクション ボタン、またはウェブ アプリを作成してデバイスにプッシュし、ユーザ インターフェイスですぐに結果を確認できます。

プレビュー機能

エディタはプレビュー機能も提供します。これにより、カスタムインターフェイスがユーザインターフェイス上でどのように表示されるかを確認することができます。

- をクリックしてプレビューを開始します。

プレビュー機能はあなたのカスタムパネルの完全なソフトウェアバージョンでもあります。コントロールをクリックするのは、実際のユーザインターフェイスでそれらを選択するのと同じアクションになります。

そのため、プレビュー機能を使用すれば、実際のユーザーインターフェイスを用意しなくてもインテグレーションをテストすることができます。リモート ロケーションからデバイスのカスタム パネルを使用することもできます。

* プログラミング時に必要な UI 拡張機能エディターと API コマンドにアクセスするには、ROOMCONTROL、INTEGRATOR、または ADMIN のユーザ ロールを持つユーザーが必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[カスタマイズ (Customization)]

マクロを使用してビデオ会議デバイスの動作をカスタマイズする

マクロを使用すると、デバイスで実行される独自のコード スニペットを作成できます。言語は JavaScript / ECMAScript 6 で、アロー関数、promise、クラスなどの機能をサポートします。

マクロ フレームワークを使用すると、インテグレーターは、個々の顧客の要件に合わせてデバイスの動作を調整するスクリプトを作成できます。インテグレータは、例えば、独自の機能または機能のバリエーションを実装し、特定の構成または再構成を自動化し、カスタムテストや監視機能を作成できます。

マクロの使用とカスタム ユーザ インターフェイス パネル (UI 拡張) の作成を組み合わせることで、ユーザ インターフェイスを修正して、カスタマイズされたローカル機能をトリガーすることができます。例えば、 のようになります。

- スピード ダイヤル ボタンを追加する
- 会議室をリセットするボタンを追加します。これにより、すべての構成を希望のデフォルト設定に戻すことができます。

マクロの詳細とデバイス内蔵のマクロエディタの使用方法については、*カスタマイズガイド* を参照してください。次のリンクにアクセスします。

▶ https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

また、Cisco RoomOS ウェブサイトでカスタマイズとマクロの詳細、例、その他のリソースを確認してください。次のリンクにアクセスします。

▶ https://roomos.cisco.com

デバイスでマクロの使用を許可する

デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。

- *設定 > マクロの設定 > モード* を **オン**に設定します。

  この設定が **オフ**時にマクロエディタを起動しようとすると、ポップアップメッセージが表示されます。[*マクロを有効にする]* をタップして応答すると、*[マクロ] > [モード]* 設定は自動的に **オン**に変更され、エディタが起動します。

マクロエディタを起動する

デバイス ウェブ インターフェイスにサインイン* して *[マクロエディタ (Macro Editor)]* に移動します。

これにより、デバイスのウェブインターフェイスに埋め込まれているマクロエディタが開きます。 スタンドアロンのエディターは提供していません。

マクロエディター

マクロエディタは強力なツールで、次のことができます。

- コード例をロードすることができます。コードは変更したり、そのまま使用したり、独自のマクロを作成するためのインスピレーションとして使用したりできます。
- 詳細なマクロスクリプトチュートリアルを読むことができます。これはサンプルコードについても詳しく説明しています。
- 独自のマクロを作成し、デバイスにアップロードします。
- 個々のマクロを有効/無効にします。
- マクロを実行したときに何が起こるかを組み込みログコンソールで確認します。

* マクロ エディターにアクセスするには、管理者ユーザ ロールを持つユーザーが必要です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[カスタマイズ (Customization)]

ユーザ インターフェイス上のボタンおよびその他の要素を表示または非表示にする

ユースケースによっては、*[発信 (Call)]* または *[共有 (Share)]* *のようなボタンを使用しないことがあります。*このような未使用のボタンは混乱の原因となります。このような場合は、未使用のボタンをユーザ インターフェイスから削除できます。カスタム UI ボタンはまだ表示されます。標準ボタンを削除してカスタムボタンを追加すると、ユーザーインターフェイスを完全にカスタマイズすることができます。

例えば、誰もこのデバイスからコンテンツや通話を共有しない場合は、*[発信 (Call)]* ボタンと *[共有 (Share)]* ボタンを削除できます。代わりに、実行するタスクにカスタム ボタンとパネルを追加します。

カメラ制御、レイアウトコントロール、予約およびミーティング情報、参加者リスト、ウェブウィジェットなど、他のタイプの UI 要素を非表示にすることも選択できます。

完全な一覧については、すべての *ユーザインターフェイス* 設定を確認してください。これらは ► 「デバイス設定」 の章で説明されています。

詳細情報

ユーザ インターフェースのカスタマイズ方法の詳細については、 *カスタマイズガイドを参照してください。*次のリンクにアクセスします。

► https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

設定

これらはボタンと UI 要素を表示または非表示にする構成の一部です。構成は、デバイス ウェブ インターフェイスと API の両方から利用できます。

- *ユーザインターフェイス >機能 > 通話 > 開始*: デフォルトの [*通話*] ボタン (ディレクトリ、お気に入り、最近の通話リストなど) の表示と非表示を切り替えます。また、通話中の [参加者を *追加*] ボタンに影響を与えます。
- *ユーザインターフェイス >機能 > 通話 > Webexに参加*: Webex ミーティングに参加するための既定のボタンを表示または非表示にします。
- *ユーザインターフェイス >機能 > 通話 > GoogleMeetに参加*: ミーティングコードを入力するだけで Google Meet ミーティングにダイヤルするためのボタンの表示/非表示を切り替えます。*(Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスのみ)*
- *ユーザインターフェイス > 機能 > 通話 > JoinMicrosoftTeamsCVI*: CVI ソリューションを使って Microsoft Teams ミーティングにダイヤルするためのボタンを表示または非表示にします。ユーザーはビデオ会議 ID とパスコードを入力するだけです。
- *ユーザインターフェイス >機能 > コール > Zoomに参加*: Zoomミーティングに参加するボタンを表示または非表示にします。
- *ユーザインターフェイス >機能 >共有 >開始*: 通話中と通話外の両方で、コンテンツを共有およびプレビューするための既定のユーザーインターフェイスが削除されます。
- *ユーザインターフェイス >機能 >ホワイトボード >開始*:ホワイトボードを開始するための既定のボタンを表示または非表示にします。*(タッチ スクリーンを備えた Board および Desk シリーズのデバイス、およびタッチ スクリーンに接続されている Room デバイスのみ。Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスにのみ適用されます)*
- *ユーザインターフェイス >機能 > コール > ビデオミュート*: デフォルトの *ビデオをオフにする* ボタンを表示または非表示にします。
- *ユーザインターフェイス > 機能 > 通話 > 終了*: 「通話を終了」 ボタンの表示または非表示。
- *ユーザインターフェイス >機能 > 通話 > 通話中のコントロール*: [*保留*]、[*再開*]、[*転送*] のボタンを表示または非表示にします。
- *ユーザインターフェイス >機能 > 通話 > レイアウトコントロール*: [*レイアウト*] ボタンを表示または非表示にします。デフォルトでは通話時に利用できます。
- *[UserInterface] >[機能 (Features)] > [発信 (Call)] > [ParticipantList]*: *[参加者 (Participants)]* ボタンを表示または非表示にします。デフォルトでは発信時に利用できます。
- *ユーザインターフェイス >機能 > 通話 > ミュージックモード*: デバイスでミュージック モードを有効にするトグル ボタンを削除します。ミュージック モードは、マイクで音楽をキャプチャする必要がある場合に役立ちます。
- *ユーザインターフェイス > 機能 > 通話 > キーパッド*: 通話中のキーパッドボタンを削除します。これはDTMF入力のためのキーパッドを開きます。
- *ユーザインターフェイス > 機能 > 通話 > セルフビューコントロール*: ユーザ インターフェイス上のセルフ表示コントロールを表示または非表示にします。
- *ユーザインターフェイス > 機能 > 通話 > カメラコントロール*: ユーザ インターフェイス (コントロール パネル) 上のカメラ コントロールの表示/非表示を切り替えます。
- *ユーザインターフェイス > 機能 > 通話 > HdmiPassthrough*: 「ノートパソコンからの通話」ボタンの表示/非表示。 *(Codec Plus、Codec Pro、Room Kit、Room 55、Room 70 Single、Room 70 G2 のみ)*
- *[UserInterface] > [機能 (Features)] > [発信 (Call)] > [Webcam]*: *[ラップトップからの通話 (Call from laptop)]* ボタンを表示または非表示にします。*(Codec EQ、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit Mini、Room Kit EQX、Board Pro、Board Pro G2 のみ)*
- *ユーザインターフェイス >機能 > [ファイル] >スタート*: [ファイル] ボタンの表示と非表示を切り替えます。*(タッチ スクリーンを備えた Board および Desk シリーズのデバイス、およびタッチ スクリーンに接続されている Room デバイスのみ。Webex クラウド サービスに登録されている、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスにのみ適用されます)*
- *ユーザインターフェイス >ヘルプ >ヒント*: デバイスの使用方法に関する情報を提供する [*ヒント*] ボタンを表示または非表示にします。
- *ユーザインターフェイス >機能 >すべて非表示*: デフォルトのボタンをすべて削除します。カスタムボタンは削除されません。

設定はボタンと UI 要素のみを削除し、機能自体は削除しません。例えば、ユーザーインターフェイスから [*共有*] ボタンを削除した場合でも、Proximity を使ってコンテンツを共有できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[カスタマイズ (Customization)]

サードパーティの USB 入力デバイスを使用する

サードパーティの USB 入力デバイスを使用して、ビデオ会議デバイスの特定の機能をコントロールすることができます。Bluetooth リモートコントロール (USB ドングル付き) および USB キーボードは、このような入力デバイスの例です。

この機能は、ビデオ会議デバイスのユーザ インターフェイスの機能を補完するもので、便利な場所で使用します。ユーザ インターフェイスに置き換わるものではありません。

アプリケーションの例 :

- 教室や講義中に、小さなリモート コントロールを使用して、ビデオ会議デバイスをスタンバイ モードから復帰させることができます。また、リモコンを使用して提示する入力ソースを選択することも便利です。
- タッチインターフェイスの使用が許可されていない状況でのカメラビュー (パン、チルト、およびズーム) の制御。例えば、病院の手術室などです。

機能概要

USB 入力デバイスのボタンを押すと、API でイベントが生成されます。マクロやサードパーティの制御装置はそのようなイベントを監視し、それらに応答することができます。この動作は、カスタム UI ボタン (UI 拡張機能) の動作と似ています。SSH セッションで直接 webhook を使ってイベントを監視することも可能です。

アクションを選択するためにすぐに利用できるアクションのライブラリはありません。ご自身でイベントへの対応として実行するべき行動を定義してて、実装しなければなりません。次に例を示します。

- 音量アップキーが押されたときのビデオ会議デバイスの音量を上げます。
- スリープキーが押されたときに、ビデオ会議デバイスをスタンバイモードにします。

設定、イベント、およびステータス

他社製 USB 入力デバイスのサポートは、デフォルトでは無効になっています。*[周辺機器 (Peripherals)] > [InputDevice] > [モード (Mode)]* を **[オン (On)]** に設定することで明示的に有効にします。

ボタンを押して放すと、Pressed および Released イベントが生成されます。

```
*e UserInterface InputDevice Key Action Key: <name of the key>
*e UserInterface InputDevice Key Action Code:<キーの ID>
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: Pressed
** 終了
*e UserInterface InputDevice Key Action Key: <name of the key>
*e UserInterface InputDevice Key Action Code:<キーの ID>
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: Released
** 終了
```

イベントをリッスンするには、InputDevice イベントからのフィードバックを登録する必要があります。

```
xFeedback Register /event/UserInterface/InputDevice
** 終了
```

ビデオ会議デバイスがサードパーティの入力デバイスを検出すると、その入力デバイスはビデオ会議デバイスの *ユーザインターフェイス > 周辺機器 > 接続済みデバイス* ステータスにリストされます。入力デバイスは複数のデバイスとして報告されることがあります。

必要な工具

- Cisco Webex Room、Board、または Desk シリーズのデバイス。
- USB キーボードとしての機能を宣伝するサードパーティ製の入力デバイス。例えば、USB ドングル付きの Bluetooth リモートコントロール。

詳細情報

サードパーティ製の入力デバイスの使用に関する詳細については、*カスタマイズガイド*を参照してください。次のリンクにアクセスします。

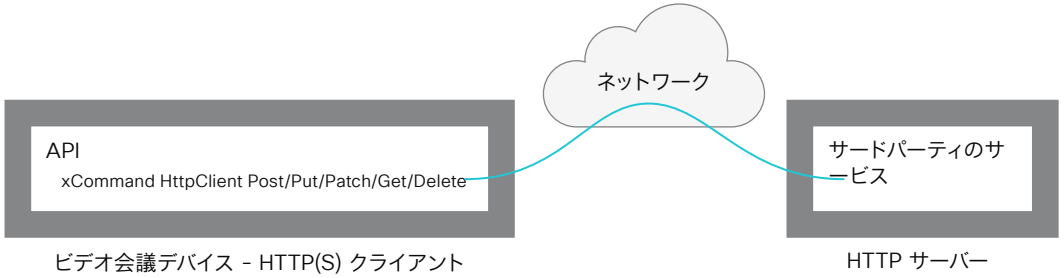
▶ https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

Ciscoサポート (TAC) は、マクロを含むサードパーティコードのデバッグに対応していません。マクロやサードパーティのコードについてヘルプが必要な場合は、▶ Cisco Collaboration Developer コミュニティ を確認してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

[カスタマイズ (Customization)]

HTTP (S) リクエストを送信する



HTTP(S) リクエスト機能を使用すると、ビデオ会議デバイスから HTTP(S) サーバーに任意の HTTP(S) リクエストを送信することができます。さらに、デバイスはサーバから送信された応答を受信します。デバイスは、**Post**、**Put**、**Patch**、**Get** および **Delete** メソッドをサポートします。

マクロを使用すると、必要なときにいつでも HTTPS サーバーにデータを送信できます。送信するデータを選択し、好きなように構造化することができます。このようにすることで、すでに確立されているサービスにデータを適合させることができます。

セキュリティ対策：

- HTTPs リクエスト機能はデフォルトで無効になっています。システム管理者は、 *HttpClient > Mode* を設定して、この機能を明示的に有効にする必要があります。モード を **オン**に設定します。
- システム管理者は、 *HttpClient > AllowHTTP* を設定することで、HTTP の使用を禁止することができます。を許可するHTTP **False**
- システム管理者は、デバイスがデータの送信を許可されているHTTP(S) サーバーのリストを指定することができます。
- 同時 HTTP(S) 要求の数は制限されています。

許可されているHTTP (S) サーバーのリスト

システム管理者は、次のコマンドを使用して、許可された最大 10 の HTTPS サーバ (ホスト) のリストを設定および維持できます。

- `xCommand HttpClient Allow Hostname Add ExpressiOn:<Regular expression that matches the host name or IP address of the HTTP(S) server>`
- `xCommand HttpClient` **でホスト名をクリアする**
- `xCommand HttpClient`**許可ホスト名リスト**
- `xCommand HttpClient`**ホスト名の削除を許可する**`ID: <`**リスト内のエントリの**`ID>`

リストが空でない場合は、リスト内のサーバーにのみHTTP (S) 要求を送信できます。リストが空の場合は、要求を任意の HTTP (S) サーバーに送信できます。

許可されたサーバーのリストに対するチェックは、データの安全でない (HTTP) 転送と安全な (HTTPS) 転送の両方を使用するときに実行されます。

証明書の検証なしの HTTPS の使用

HTTPS 経由で要求を送信する場合、ビデオ会議デバイスはデフォルトで HTTPS サーバーの証明書をチェックします。HTTPS サーバ証明書が有効でない場合は、エラーメッセージが表示されます。デバイスはそのサーバーにデータを送信しません。

証明書検証でHTTPSを使用することをお勧めします。証明書の検証ができない場合、システム管理者は *HttpClient > AllowInsecureHTTPS* を **On**に設定することができます。これにより、サーバーの証明書を検証せずに HTTPS を使用することができます。

HTTP (S) リクエストを送信する

HTTP(S) 要求機能が有効になると、以下のコマンドを使用して、要求を HTTP(S) サーバーに送信することができます。

```
xCommand HttpClient <Method>
  [AllowInsecureHTTP(S): <True/False>]
  [Header: <Header text>]
  [ResponseSizeLimit: <Maximum Response size>]
  [ResultBody: <None/PlainText/Base64>]
  [タイムアウト: <タイムアウト期間>]
  URL: <リクエスト送信先の URL>
```

`<Method>` は `Post`、`Put`、`Patch`、`Get` または `Delete` のいずれかになります。

`Post`、`Put`、`Patch` コマンドは複数行のコマンドです。API ガイドを読むと、複数行のコマンドの使用方法とコマンドパラメータの詳細な説明がわかります。

詳細情報

HTTP(S) Post リクエストの詳細については、*カスタマイズガイド*を参照してください。次のリンクにアクセスします。

► https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ウェブビューベースの機能

デジタル サイネージ

デジタル サイネージを使用すると、デバイスがスタンバイモードのときに、デバイスにカスタム コンテンツ (ウェブページ) を表示できます。デジタル サイネージは、広告コンテンツを表示してブランドを宣伝するための方法ですが、訪問者や社内の従業員情報、ダッシュボード、またはカレンダーを表示する方法でもあります。

コンテンツは、従来のスタンバイモードの背景画像と情報を置き換え、常にフルスクリーンで表示されます。Web ウィンドウまたはタブ 1 つのみがサポートされます。ウェブページが新しいウィンドウまたはタブでページを開こうとすると、現在のページが上書きされます。

キャッシュ、クッキー、ローカル ストレージなどのデータは、デバイスの再起動時に自動的に消去されることはありません。データを削除するには、ストレージ削除コマンドを使用する必要があります。

- `xCommand WebEngine DeleteStorage [タイプ: ウェブアプリ]`

ウェブページがサポートされていない場合、デバイスは通常のハーフウェイク モードに直接進みます。

インタラクティブ モード

適用対象: タッチ スクリーンに接続された Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room デバイス

ユーザーは、画面上のコンテンツと対話できます。例えば、リンクをクリックしたり、フォームにテキストを入力したりできます。

デジタル サイネージのセットアップ

1. デバイス ウェブ インターフェイスにログインして、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *ウェブエンジン > モード* を **オン** に設定するとウェブエンジンが有効になります。
3. *モード* を **オン** に設定すると、デジタルサイネージを有効にします。
4. *[スタンバイ (Standby)] > [看板 (Signage)] > [URL]*に、表示するウェブページの URL を入力します。
5. ウェブページは、デバイスがスタンバイモードになる*前に*表示されます。以下の設定を使用して、ウェブページが表示される時間を決定します。

   [スタンバイ (Standby)] > [モード (Mode)]: **[オフ (Off)]** に設定すると、デバイスがスタンバイモードになることはありません (推奨しません) 。**オン**に設定すると、 *スタンバイ > 遅延* が時間切れになると、デバイスはスタンバイモードになります。

   待機中 >遅延: デバイスがスタンバイモードになるまでのウェブページの表示時間 (分) を指定します。

   待機中 > モーション検出で起動: **オン** に設定すると、ユーザーが入室したときにデバイスがスタンバイ状態から自動的に復帰し、ウェブページの表示を開始します。**オフ** に設定すると、出席者が会議室に入室してもデバイスは影響を受けません。

その他のデジタル サイネージ設定:

- 音声対応のウェブページで音声を再生するかどうかを指定します。

  スタンバイ >サイネージ >音声
- サポートされている場合、ウェブページの操作を許可するかどうかを指定します。

  スタンバイ >サイネージ >対話モード
- ウェブページを一定の間隔で更新します。これは自動的に更新しないウェブページに役立ちます。

  待機中 >看板 >更新間隔

ウェブ エンジン

すべてのウェブ ビュー ベースの機能はウェブ エンジンを使用しています。そのため、ウェブ ビューベースの機能を使用するには、事前にウェブエンジンが有効になっている必要があります。

ウェブ エンジンは Chromium / Qt WebEngine with V8 JavaScript をベースにしています。Chromium のバージョンは定期的に更新されますが、ノートパソコン上の Chrome のバージョンより古い場合があります。

サポートされていない機能は、PDF、WebGL、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知です。Webex クラウド サービスに登録されていない、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされていないデバイスは WebRTC をサポートしていません。

リモートデバッグ

ウェブページで問題が発生した場合は、リモートデバッグをオンにできます。

WebEngine > RemoteDebugging

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、ウェブページの潜在的な問題を特定できます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

ウェブ ビュー ベースの機能に HTTP プロキシを使用するようにデバイスをセットアップすることができます。

NetworkServices > HTTP プロキシ

また、この設定は **オンにする必要があります。**

ウェブエンジン > UseHttpProxy

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ウェブビューベースの機能

Web アプリ

ウェブアプリは、ユーザーがデバイスのホーム画面からアクセスできるウェブページまたはアプリケーションです。ウェブ アプリは、通話中でない場合にのみ使用できます。

Web アプリは全画面で起動し、使用されていない場合は 15 分後にタイムアウトします。Web アプリはインタラクティブな場合があります。

キャッシュ、Cookie、ローカルストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的にクリアされます。

ウェブアプリを作成するには、デバイスのウェブインターフェースから利用可能な *UI 拡張機能エディタ*を使用する必要があります。このエディタでは、ホーム画面で使用されるラベルとアイコンを設定することもできます。デフォルトではウェブページのアイコンが使用されますが、代わりに別のアイコンを選択することもできます。

アイコンの詳細:

- 形式: .ico、.png、.jpg、svg、または .gif
- アイコンサイズ: 最小 60×60 ピクセル、最大 1200×1200 ピクセル

一般的なアプリには、Office 365、Trello、ウィキペディア、YouTube、または社内用ウェブページやツールなどがあります。

詳細情報

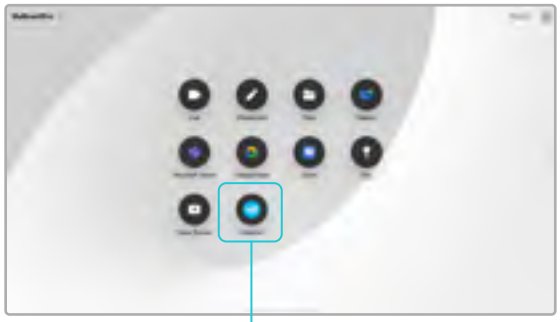
*「カスタマイズガイド」のウェブアプリの作成方法に関する詳細情報を参照してください。*次のリンクにアクセスします。

▶ https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

ウェブ アプリを作成する

1. デバイス ウェブ インターフェイスにサインイン* して、*[設定 (Settings)]* に移動して、*[構成 (Configurations)]* を選択します。
2. *ウェブエンジン > モード* を **オン** に設定するとウェブエンジンが有効になります。
3. *UI 拡張機能エディタ*に移動すると、エディタがデバイスのウェブインターフェースで直接開きます。
4. [*新規*] をクリックし、[ウェブアプリ] [追加] ボタンを選択します。
5. 右側のサイド バーでウェブ アプリのプロパティに入力します。
   - Id: アプリの一意の識別子です。
   - 名前: ボタンのラベル。
   - ウェブアプリ URL: ウェブアプリの URL です。
   - ウェブアプリアイコンの URL (任意): ボタンのアイコン。
   - ウェブアプリの場所: ホーム画面、通話コントロール、両方、またはどこにもない。
6. トップバーにあるエクスポートボタン をクリックして、構成をデバイスにアップロードします。

   ホーム画面に新しいウェブ アプリのボタンが表示されるようになりました。



ホーム画面に表示されたラベルとアイコンのウェブアプリボタン

* プログラミング時に必要な UI 拡張機能エディターと API コマンドにアクセスするには、ROOMCONTROL、INTEGRATOR、または ADMIN のユーザ ロールを持つユーザーが必要です。

ウェブ エンジン

すべてのウェブ ビュー ベースの機能はウェブエンジンを使用しています。そのため、ウェブビューベースの機能を使用するには、事前にウェブエンジンが有効になっている必要があります。

ウェブ エンジンは Chromium / Qt WebEngine with V8 JavaScript をベースにしています。Chromium のバージョンは定期的に更新されますが、ノートパソコン上の Chrome のバージョンより古い場合があります。

サポートされていない機能は、PDF、WebGL、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知です。Webex クラウド サービスに登録されていない、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされていないデバイスは WebRTC をサポートしていません。

リモートデバッグ

ウェブページで問題が発生した場合は、リモートデバッグをオンにできます。

WebEngine > RemoteDebugging

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、ウェブページの潜在的な問題を特定できます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

ウェブ ビュー ベースの機能に HTTP プロキシを使用するようにデバイスをセットアップすることができます。

NetworkServices > HTTP プロキシ

また、この設定は **オンにする必要があります。**

ウェブエンジン > UseHttpProxy

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ウェブビューベースの機能

API ドリブンのウェブ ビュー

ウェブビューは API コマンドを使用して開いたり閉じたりすることができます。インテグレーターは、サードパーティのインテグレーションまたはマクロを作成するときに、これらのコマンドを使用できます。インテグレータは、外部イベントに基づいて読み込む URL を決定します。例えば、会社の重要なアラートを表示する場合などです。

ウェブビューは全画面表示であり、15 分後にタイムアウトになるか、またはビューを閉じる API コマンドが呼び出される場合。

ウェブビューを開く:

- `xCommand UserInterface WebView Display Url: <url>`

ウェブビューを閉じる:

- `xCommand` **ユーザーインターフェイス ウェブビュー クリア**

キャッシュ、Cookie、ローカルストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的にクリアされます。

タッチコントローラの API 駆動型ウェブ ビュー、マクロ、カスタム ボタンを組み合わせることで、システムインテグレータはタッチ スクリーンのないデバイス用のインタラクティブなソリューションも作成できます。タッチコントローラの異なるボタンをタップすると、メイン画面に異なるウェブ ビューが表示されます。例えば、基本的なヘルプページを開いて参照したり、説明ビデオを表示したりします。

ウェブ エンジン

すべてのウェブ ビュー ベースの機能はウェブ エンジンを使用しています。そのため、ウェブ ビューベースの機能を使用するには、事前にウェブエンジンが有効になっている必要があります。

ウェブ エンジンは Chromium / Qt WebEngine with V8 JavaScript をベースにしています。Chromium のバージョンは定期的に更新されますが、ノートパソコン上の Chrome のバージョンより古い場合があります。

サポートされていない機能は、PDF、WebGL、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知です。Webex クラウド サービスに登録されていない、またはデバイス用の Webex Edge にリンクされていないデバイスは WebRTC をサポートしていません。

リモートデバッグ

ウェブページで問題が発生した場合は、リモートデバッグをオンにできます。

WebEngine > RemoteDebugging

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、ウェブページの潜在的な問題を特定できます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

ウェブ ビュー ベースの機能に HTTP プロキシを使用するようにデバイスをセットアップすることができます。

NetworkServices > HTTP プロキシ

また、この設定は **オンにする必要があります。**

ウェブエンジン > UseHttpProxy

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

送信元の構成 (1/2 ページ)

デバイスの API を使用して、単一のメイン ビデオストリームで最大 4 つの入力ソースを組み合わせることができます。

デバイスにより異なる、異なる 入力ソースの最大数は:

ビデオ会議デバイス	最大個の入力ソース
Desk Mini、Room Kit、Room Kit Mini	2
Codec Plus、Room Bar、Room Bar Pro、Room 55、Room 55、Room 70、Desk、Desk Pro、Board Pro、Board Pro G2	3
Codec EQ、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Panorama*、Room 70 Panorama*	4

送信元の構成

コンポジションレイアウト

3 つのレイアウトから選択できます。

- グリッド
- 重ねて表示
- ピクチャ・イン・ピクチャ (2 つの入力ソースを構成する場合にのみ利用可能)

PIP の位置をいずれかのコーナーに変更することができます。PIP のサイズを標準または大に変更することができます。

構成とレイアウトは、通話中と通話外の両方で、いつでも変更できます。

自画面

セルフビューには、相手側に送信されているのと同じ合成画像が表示されます。

個別のカメラコントロール

API コマンド (`xCommand Camera *`) を使用して個々のカメラをコントロールすることはできますが、ユーザーインターフェイス上のコントロールを使用することはできません。

ユーザ インターフェイスでカメラを選択すると、メイン ビデオストリームが、選択したカメラからの合成されたビデオストリームからシングル ストリームに自動的に切り替わります。

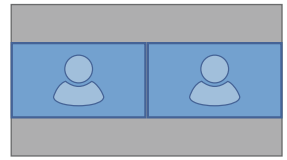
オンデマンドで構成とレイアウトを変更します

入力ソースの合成は、API コマンドを使用する場合にのみ利用できます。そのための専用のユーザ インターフェイスは提供していません。

コンポジションとレイアウトをオンデマンドで簡単に変更できるように、マクロを使用して、そのカスタム ユーザ インターフェイス パネル (UI 拡張) を作成することをお勧めします。

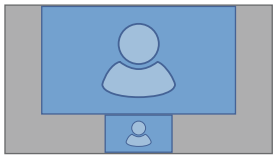
レイアウトれいあうと

グリッド



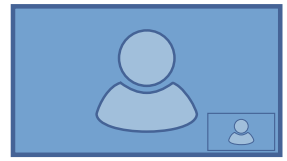
ソース数: 2

重ねて表示



ソース数: 2

ピクチャーインピクチャー *(PIP)*



右下隅

右下隅、大きい PIP

* *Room 70 パノラマおよび Room Panorama:* これらのデバイスは、メインカメラ用に 2 つの入力ソースを使用します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

入力ソースの合成 (2/2 ページ)

API コマンド

```
xCommand Video Input SetMainVideoSource
    ConnectorId: <1..n> SourceId: <1..m>
    Layout: <Equal, PIP, Prominent>
    PIPPosition <LowerLeft, LowerRight,
    UpperLeft, UpperRight>
    PIPSize <Auto, Large>
```

値は次のとおりです。

入力ソースは、接続されている物理的なコネクタ (ConnectorId) または論理ソース識別子 (SourceId) のいずれかによって識別できます。同じコマンドで異なるタイプの識別子を混在させることはできません。 ConnectorId または、SourceId **のいずれかを使用します。**これらの識別子は、 *ビデオ入力コネクタ* および *ビデオ入力ソース* ステータスで確認できます。

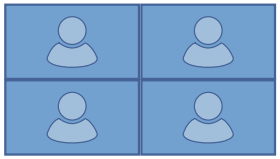
グリッド (**レイアウト: 等分**)、PIP (**レイアウト:** PIP)、スタック (**レイアウト: 目立つ**) レイアウトの違いを例にして確認してください。

PIP の位置をいずれかのコーナーに変更することができます。PIP のサイズは標準 (自動) または大から選択できます。

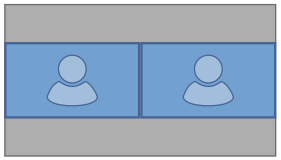
詳細については、API ガイドを参照してください。

例

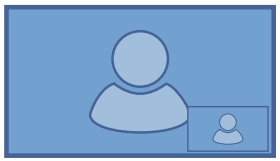
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 ConnectorId: 3 ConnectorId: 4 Layout: Equal
```



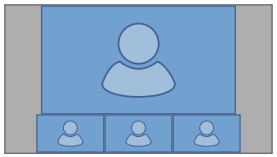
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 Layout: Equal
```



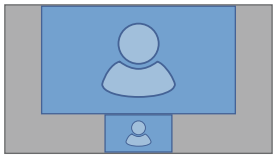
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 Layout: PIP PIPPositiOn:LowerRight PIPSize: Large
```



```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 SourceId: 3 SourceId: 4 Layout: Prominent
```



```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 Layout: Prominent
```



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンテーションのソース構成 (1/2 ページ)

デバイスの API を使用して、単一のビデオストリームで最大 4 つのプレゼンテーション ソースを組み合わせることができます。*

デバイスにより異なる、異なる プレゼンテーションソースの最大数:

ビデオ会議デバイス	異なるプレゼンテーションソースの最大数
Desk Mini、Room Kit、Room Kit Mini、Board	2
Codec Plus、Room Bar、Room Bar Pro、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Desk、Desk Pro、Board Pro、Board Pro G2	3
Codec EQ、Codec Pro、Room Kit EQX、Room 70 G2、Room Panorama*、Room 70 Panorama*	4

ケーブル (HDMI または USB-C - デバイスに応じて) を通じて共有されているソースのみ共有することができます。

送信元の構成

コンポジションレイアウト

2 つのレイアウトから選択できます。

- グリッド
- 重ねて表示

ソースの数は、いつでも変更できます。画像サイズは変更できません。

画面に表示されるソースの順序は、コマンドの順序に従います。左上から開始し右下で終了します。

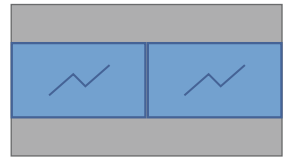
オンデマンドで構成とレイアウトを変更します

プレゼンテーションソースの合成は API コマンドを使用する場合にのみ利用できます。そのための専用のユーザ インターフェイスは提供していません。

コンポジションとレイアウトをオンデマンドで簡単に変更できるように、マクロを使用して、そのカスタム ユーザ インターフェイス パネル (UI 拡張) を作成することをお勧めします。

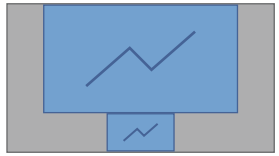
レイアウトれいあうと

グリッド



ソース数: 2

重ねて表示



ソース数: 2

* *Room 70 パノラマおよび Room Panorama:* これらのデバイスは、メインカメラ用に 2 つの入力ソースを使用します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

プレゼンテーションのソース構成 (2/2 ページ)

API コマンド

```
xCommand Presentation Start
    ConnectorId: <1..n>
    PresentationSource: <None, 1..n>
    Instance: <New, 1..n>
    Layout: <Equal, Prominent>
    SendingMode: <LocalRemote, LocalOnly>
```

値は次のとおりです。

入力ソースは、接続されている物理的なコネクタ (ConnectorId) または論理ソース識別子 (PresentationSource) のいずれかによって識別できます。同じコマンドで異なるタイプの識別子を混在させることはできません。ConnectorId または、 PresentationSource のいずれかを使用します。

これらの識別子は、 *ビデオ入力コネクタ* および *ビデオ入力ソース* ステータスで確認できます。

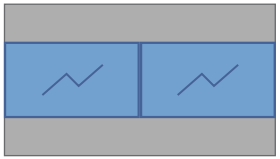
PresentationSource: **なし**を選択すると、黒のフレームが挿入されます。*

グリッド (**レイアウト**:**等分**) 、スタック (**レイアウト**:**目立つ**) レイアウトの違いを例にして確認してください。

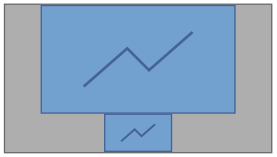
詳細については、API ガイドを参照してください。

例

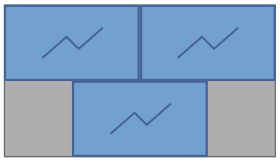
```
xCommand Presentation Start PresentationSource: 1 PresentationSource: 2 Layout: Equal
```



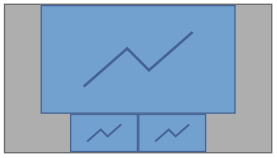
```
xCommand Presentation Start ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 Layout: Prominent
```



```
xCommand Presentation Start ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 ConnectorId: 3 Layout: Equal
```



```
xCommand Presentation Start PresentationSource: 1 PresentationSource: 2 PresentationSource: 3 Layout: Prominent
```



* *Board :* **なし** は利用できません。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスの XML ファイルにアクセスする

デバイスウェブ インターフェースにログインして [*開発者 API*] に移動してください。

XML ファイルはデバイスの API の一部です。これらはデバイスに関する情報を階層的に構造化します。

- *Configuration.xml* には現在のデバイス設定 (configuration) が含まれます。これらの設定は、デバイスのウェブ インターフェイスまたは API (アプリケーション プログラマ インターフェイス) から制御されます。
- *status.xml* 内の情報は、システムとプロセスの変更を反映するために、デバイスによって常に更新されます。ステータス情報は、デバイスのウェブ インターフェイスまたは API から監視されます。
- *コマンド.xml* には、デバイスにアクションを実行させるために使用できるコマンドの概要が含まれています。コマンドは API から発行されます。
- *Valuespace.xml* には、デバイス設定、ステータス情報、コマンドのすべての値スペースの概要が含まれています。

XML ファイルを開く

ファイル名をクリックして XML ファイルを開きます。

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、デバイスで作業するインテグレーションの専門家および開発者のためのツールです。API の詳細は、デバイスの API ガイドに記載されています。

また、インテグレータと開発者向けの次の情報も参照できます。

► https://roomos.cisco.com

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

デバイスのウェブ インターフェイスから API コマンドと構成を実行する

デバイスウェブ インターフェースにログインして [*開発者 API*] に移動してください。

コマンド (xCommand) と構成 (xConfiguration) は、デバイスのウェブ インターフェイスから実行できます。構文とセマンティックスは、デバイスの API ガイドで説明されています。

API コマンドと構成の実行

1. テキストエリアにコマンド (xCommand または xConfiguration)、または一連のコマンドを入力します。
2. *[実行]* をクリックしてコマンドを発行してください。

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、デバイスで作業するインテグレーションの専門家および開発者のためのツールです。API の詳細は、デバイスの API ガイドに記載されています。

また、インテグレータと開発者向けの次の情報も参照できます。

▶ https://roomos.cisco.com

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声の高度なカスタマイズ (1/5 ページ)

Audio Console の紹介

音声コンソールアプリケーションは、高度でカスタマイズ可能な音声機能へのグラフィックインターフェイスを提供します。簡単なドラッグアンドドロップのテクニックを使って、音声入力を出力に接続する方法を定義することができます。

音声コンソールの主な機能は次のとおりです。

- コーデックの音声システムを設定する
- デフォルトのミキシング、ルーティング、イコライザを変更する
- さまざまな入力および出力コネクタのプロパティを設定する
- ローカル補強などの高度な機能を設定する

音声コンソールに対応する製品は以下のとおりです。

- Codec Pro / Room Kit Pro
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama および Room Panorama
- Codec EQ (AV インテグレータオプション付き)[1]
- Room Kit EQX (AV インテグレータオプション付き) [1]

Audio Consoleを開く

デバイスのウェブインターフェイスにログインして [*Audio Console] に移動します*。

これにより、デバイスのウェブインターフェイスに埋め込まれている Audio Consoleが開きます。

Audio Console を使用する

論理入出力グループを定義することから開始します。これらにはあなたが定義した名前を付けることができます。次に、物理的、場合によっては論理的な入力および出力を、論理的な入力および出力グループに割り当てます。

新しい論理グループはいつでも追加または削除できます。

設定に適用した変更は直ちに保存され、有効になります。

1 つの物理出力を複数の論理的な出力グループに指定することはできません。ただし、マイクなどの物理入力は、複数の入力に割り当てることができます。これは、ローカルの音響補強と追加のラウドスピーカーを使用する場合に便利です。例えば、マイクを通して近くの聴衆にも声を聞かせる必要がある講義ホールでビデオを使用する場合などです。

Audio Consoleを使って、相手に送信するマイク信号の部分に *エコーコントロール* をセットアップすることができます。同時に、ローカルで使用する部分の *Echo Control* を適用しない。これを行うには、マイクを *[ダイレクト: オン]を使用して複数の論理グループに割り当てます*。

マイク信号にノイズリダクションとイコライザの設定を適用することもできます。

マイク入力のラインレベル

Codec EQ および Codec Pro ベースのデバイス [2, 3] には専用のライン入力がありませんが、ラインレベル用にマイク入力を使用することはできます。実行するアクションは、デバイス タイプによって異なります。

Codec Pro ベースのデバイス:

ファンタム電源を無効 (*音声 > 入力 > マイク [n] > PhantomPower*) と入力ゲインを下げて (*音声 > 入力 > ; マイク [n] > レベル*)。最小ゲインに設定した場合の最大入力レベルは +24 dBu です。

ラインレベル用にセットアップされた入力を、通常のミュートボタンでミュートおよびミュート解除しない場合は、 *音声 > 入力 > マイクロフォン [n] > ミュートオーバーライド* を **オン** に設定します。

Codec EQ ベースのデバイス:

最小ゲインに設定した場合の最大入力レベルは -18 dBu です。ソースがより高い最大レベルを提供する場合、入力信号のクリップを避けるために、外部アッテネータが必要です。

通常のミュート ボタンは、他のマイク入力と同様に、ラインレベルにセットアップされた入力をミュートおよびミュート解除します。

デバイスのローカル ウェブ ブラウザからの音声

WebRTC 通話または他の WebEngine 関連のソースから音声を受信するために、音声コンソールには、スピーカーと共に出力グループにルーティングされる WebView 1 コネクタを含む入力グループが必要です。

Audio Console を最初にセットアップしたときに WebEngine モードが有効になっている場合、この入力グループはすでに配置されています。ただし、最初のセットアップの後に WebEngine モードが有効になった場合は、手動でグループを作成する必要があります。

ローカル音響補強

このようなソリューションの包括的な説明とベストプラクティスについては、 *追加のラウドスピーカーと音声強化を使用する* ガイドを参照してください。

▶ https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs

[1] オプションキーのインストール方法の 章▶ を参照してください。

[2] Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama は Codec Pro に基づいています。

[3] Room Kit EQX は Codec EQ に基づいています。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声の高度なカスタマイズ (2/5 ページ)

音声リターン チャネル (ARC)

HDMI はどちらの方向にも音声を送信できます。音声が逆方向に送信される場合、これは音声リターンチャネル (ARC) と呼ばれます。

クアッドカメラ、画面、および HDMI 経由で接続された Codec Pro を含む、図示されている構成について考えてみましょう。この設定では、クアッド カメラがカメラとサウンドバーの両方の役割を果たします。Codec Pro はほんの一例です。Audio Console をサポートする任意の製品で置き換えることができます。

Quad Camera のスピーカーを使用する

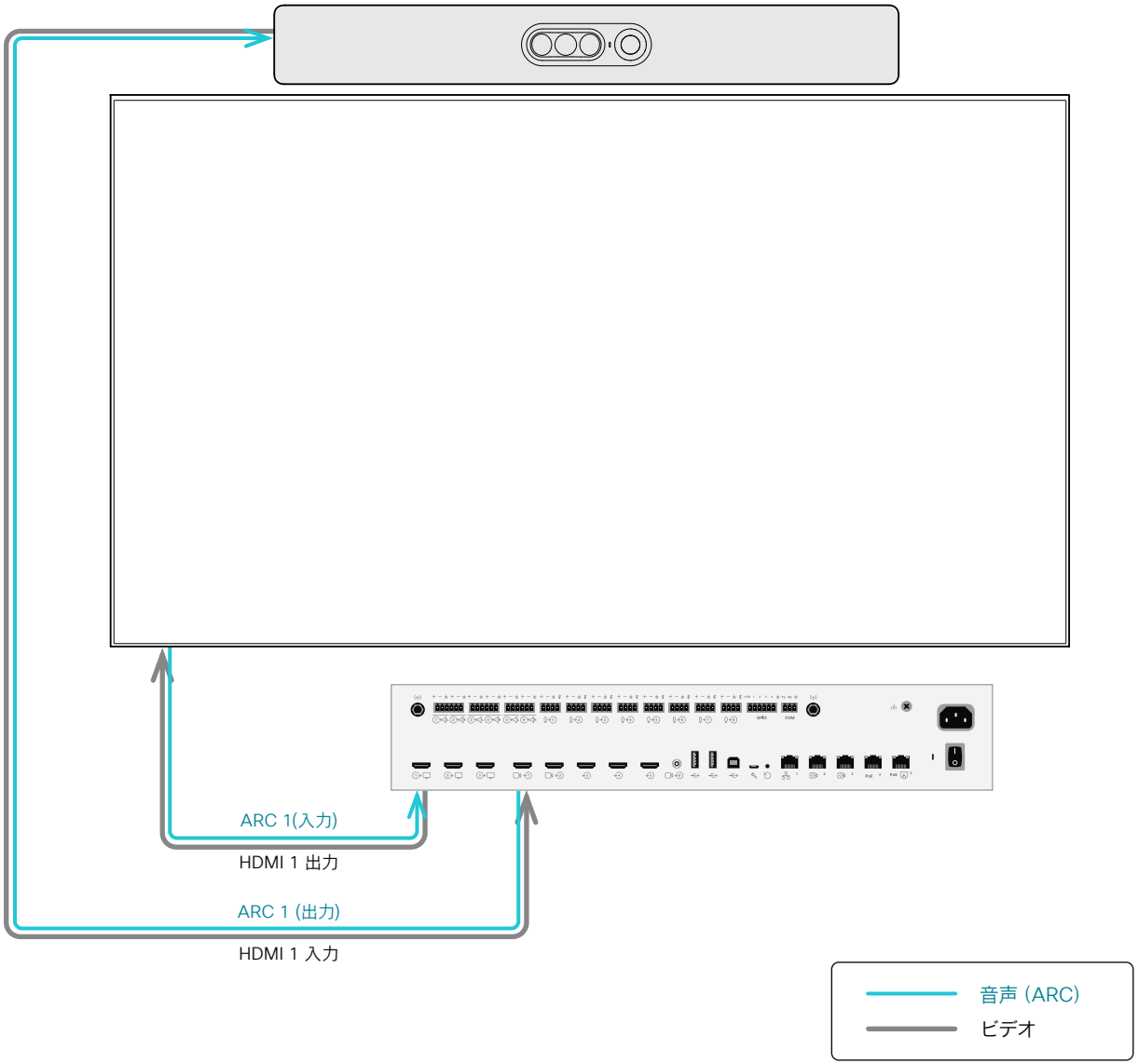
通常、HDMI 1 入力はカメラからコーデックにビデオを提供するために使用され、同じ HDMI 入力の音声リターン チャネルは、音声をコーデックからカメラのスピーカーにルーティングするために使用されます。

クアッド カメラを TV のサウンドバーとして使用する

Codec Pro、Room 70G2、Room 70 Panorama、Room Panorama

セットアップをサウンドバー付きの単なる TV として使用する場合、システムは、コーデックの HDMI 1 出力の ARC を通じて画面からコーデックに音声を送信し、その後、コーデックは HDMI 1 入力の ARC を通じてその音声をクアッドカメラに送信します。

これを行うには、画面で CEC+ARC が有効になっている必要があります。セットアップが 4K ビデオを使用する場合、画面が 4K 形式の CEC+ARC に対応している必要があります。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声の高度なカスタマイズ (3/5 ページ)

Audio Console パネル

音声コンソール は、デバイスのウェブインターフェイスの [*カスタマイズ*] 以下にあります。

接続を削除したり、ゲインを調整するには、ケーブルの図を右クリックします。

デフォルトにリセットする は、検出された接続済みデバイスに基づいてプリセットの接続を作成します。

利用可能な入力コネクタ (物理的または論理的) のプール。

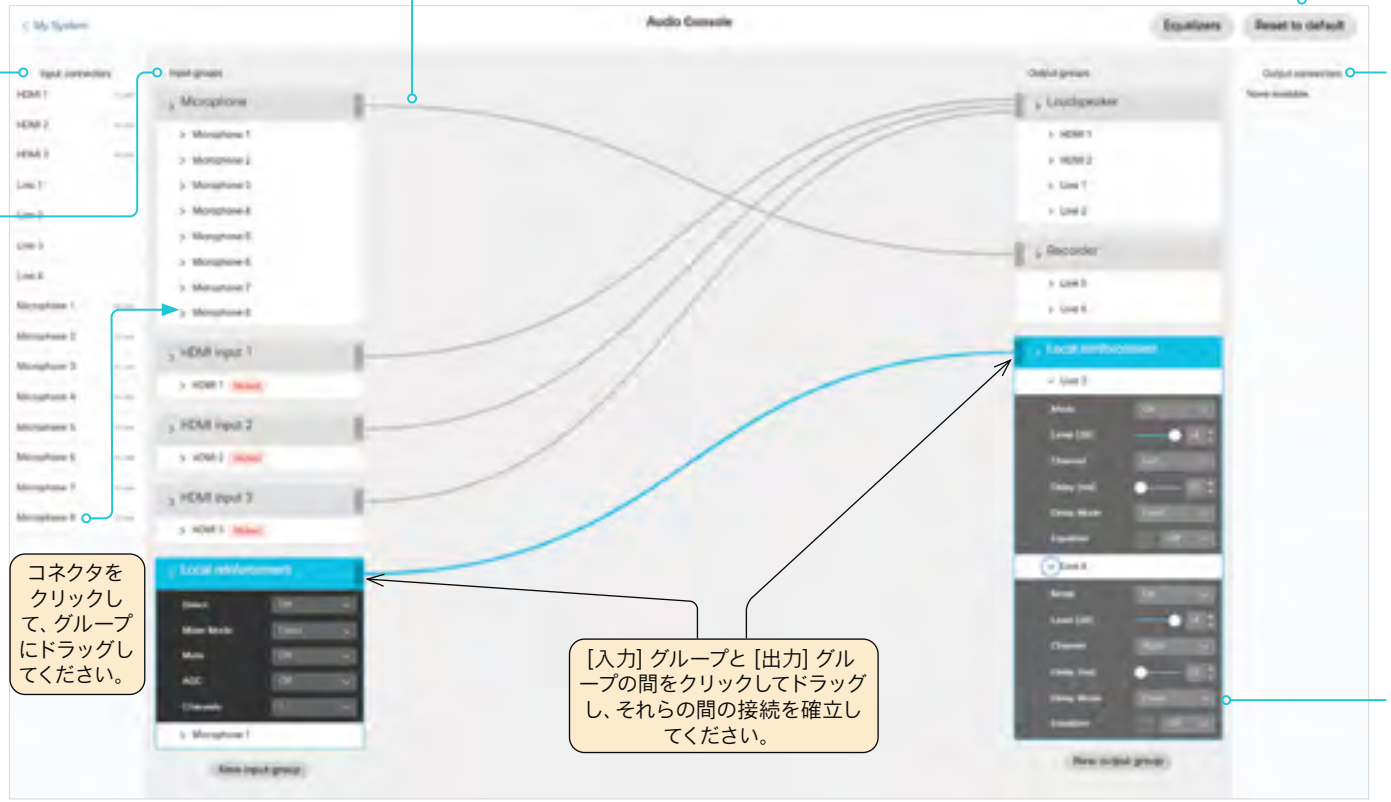
入力コネクタは、論理入力グループに割り当てられます。これらの論理入力グループはあなたが作成します。

論理グループ名は、 *新規入力グループをクリックする際に指定します*。

特定の *入力* コネクタは複数の論理グループに割り当てることができます。ドラッグ &ドロップを使用します。

グループまたはグループのメンバーを削除するには、マウスをグループまたはメンバーの上に移動します。X が表示されます。これをクリックして項目を削除します。

ローカル強化に使用する場合、個々のメンバーではなく、論理グループを展開します。



これは物理的な出力コネクタのプールです。使用されていないものは、非アクティブであると見なされます。

論理出力グループは論理入力グループと似ていますが、物理出力を複数の論理出力グループに指定することはできません。

外部スクリーンによる遅延を避けるため、*遅延モード* を **固定** に設定することをお勧めします。

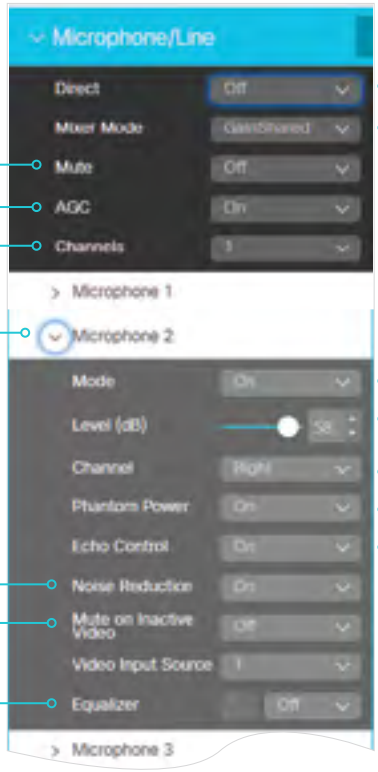
ローカル強化シナリオでは、マイクを *ダイレクト* に設定して、エコー制御などの余分な処理をバイパスします。

これにより、レイテンシを最小化し、メインの音量コントロールがローカルのプレゼンタの音量にも影響を与えることを回避できます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声の高度なカスタマイズ (4/5 ページ)

アナログマイクを設定する



ミュート: 論理グループ全体をミュートします。

AGC: 論理グループ全体に適用する自動ゲインコントロールを有効/無効にします。

チャンネル: 1 (モノラル) または 2 (ステレオ)。

論理グループを展開して、グループレベルの設定にアクセスすることができます。

ノイズ除去: これを **オン** に設定すると、室内の継続的なノイズ (ファンの騒音など) が軽減されます。インパルシブノイズは軽減されません。

非アクティブビデオのミュート: プレゼンタのマイクなどを使用するシナリオでこの機能を使用します。関連するカメラ (プレゼンタを撮影するカメラ) が実際にビデオを送信しない限り、このマイクはミュートされます。ただし、カメラとマイクの組み合わせにこのようにセットアップしておく必要があります。

イコライザー: イコライザーでは、最大 8 つの定義済みイコライザープリセットから選択できます (または、プリセットなしの場合は *オフ*)。

イコライザーをセットアップするためのグラフィックツールについては、 ▶_のセクションで説明しています。

ローカル強化のシナリオでは、マイクロフォンを直接オンに設定し、 *エコーコントロール* のような追加の処理をバイパスします。 これにより、遅延が最小化され、マスターの音量コントロールがローカルのプレゼンタの音量にも影響を与えることを回避できます。その他の場合は、[**オフ**] のままにします。

ミキサーモード は、 **ゲイン共有** または **固定**に設定できます。GainShared が選択されている場合、マイク信号の合計レベルが特定の値を超えることはありませんが、個々のオフセットは保持されます。Fixed モードではレベルが合計されます。

設定: マイクは **オン** または **オフに設定できます。**

レベル (デシベル) / *ゲイン (デシベル)*: 接続されている音声ソースの出力レベルに合わせてゲインを調整します。*

チャンネル が 2 (グループレベル) に設定されている場合、このマイクが左または右チャンネルのマイクのグループに属するかどうかを指定するために、下位のレベルを選択します。 チャンネル

論理グループ全体がグループレベルで *ダイレクト* に設定されている場合、 *エコーコントロール* は該当なしになります。

ファンタム電源: この設定でマイクケーブルから電力が供給されます。マイクがプリアンプと共に使用され、ラインレベル信号を提供する場合、これをオフにすることができます。

マイク入力をライン入力として使用する場合は、必ずゲインを下げてください (通常 40db 以上)。

* これは入力コネクタのゲインです。デバイスに応じて、このフィールドは次のように呼ばれます。
レベル (デシベル) (Codec Pro、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama)
ゲイン (dB) (Codec EQ、Room Kit EQX)

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声の高度なカスタマイズ (5/5 ページ)

イコライザーを設定する

8 つのユーザ定義可能なパラメトリック イコライザー プリセットが利用できます。

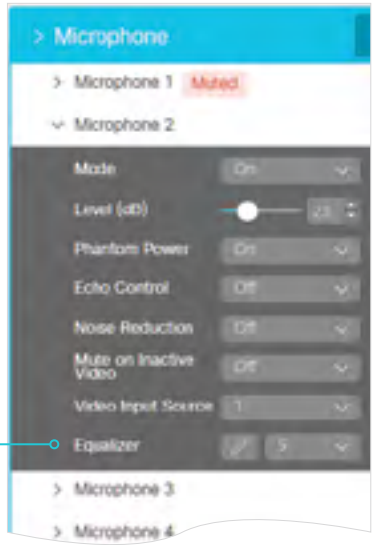
プリセットは最大 6 つのセクションで構成され、それぞれに独自のフィルタタイプ、ゲイン、中心周波数 /クロスオーバー周波数、Q 値を設定することができます。

各セクションはそれぞれの色で表示されます。イコライザーの組み合わせた周波数応答は白線で表示されます。

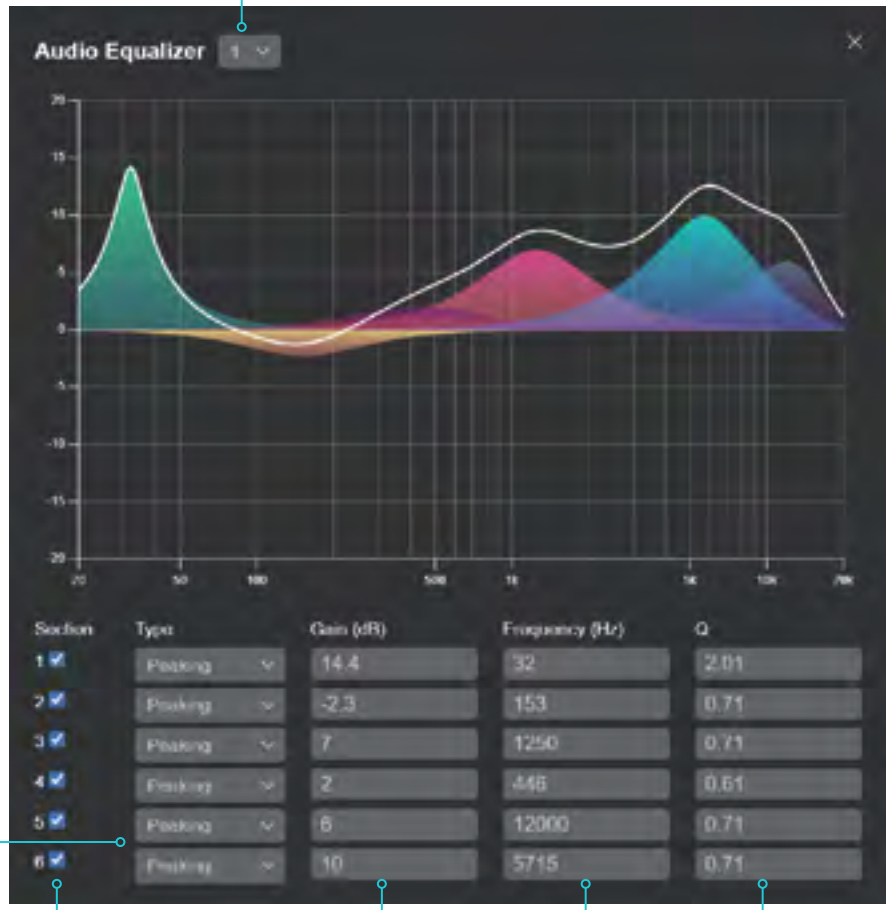
パラメータの変更の効果は、Enter を押すか、別のフィールドを選択するとグラフに表示されます。

設定は自動的に保存されます。

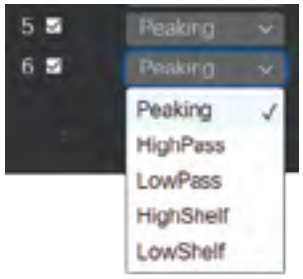
*上部のバーまたは入力グループから*イコライザーにアクセスします。



次のプリセットに移動します (該当する場合)。



利用可能なフィルタタイプ



フィルターセクションを有効または無効にするには、対応するチェックボックスをクリックします。

利得の **値の範囲** は 0 dB ± 20 dB

周波数の **値の範囲** は 20–20 000 Hz です。

Q 値 の値域は 0.1–10.0 です。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

イーサネットポートについて

メインネットワークポート

メインネットワークポートであるネットワークポート 1 は、常に LAN 接続用に予約されています。これはすべてのビデオ会議端末に適用されます。

デバイスに応じて、ネットワーク ポート 1 は数字の 1、ネットワーク記号 (⁂)、またはその両方でマークされます。

補助ネットワークポート

ほとんどのビデオ会議デバイスには複数のネットワークポートがあります。追加のポートは、カメラ、タッチコントローラ、サードパーティのコントロール システムなどの周辺機器に使用できます。

これらのネットワーク ポートの 1 つに接続されている周辺機器は、ビデオ会議デバイスの内部ネットワークでローカル IP アドレスを取得します。メインのネットワークポート (LAN) と他のネットワークポートの間でパケットがデバイスを通過することはできません。

注： 内部ネットワークで許可される IP アドレスの範囲は、Cisco とサードパーティ (Cisco 以外) の周辺機器では異なります。

	許可されている IP アドレス
Cisco の周辺機器	• 169.254.1.41 から 169.254.1.200 (動的、DHCP)
Cisco 以外の周辺機器	• 169.254.1.30 (動的、DHCP) • 169.254.1.225 から 169.254.1.254 (静的)

ローカル ネットワークでは、SSH または HTTP (ポート 443) を使用してビデオ会議デバイスに到達するために 169.254.1.1 を使用できます。

Power over Ethernet (PoE)

一部のネットワークポートは Power over Ethernet (PoE) を提供します。これらのポートは、タッチコントローラなどの周辺機器に電源を供給できます。

製品	補助ネットワークポート数	PoE 対応の補助ネットワーク ポート数
Room Bar Pro	3	3 (、PoE)
Room Bar	1	1 ( )
Room Kit	1	0
Room Kit Mini	1	1 ( )
Room 55	1	1 ( )
会議室キット EQX [1]	4	4 (、PoE)
Room 70[1] / Room 55 Dual[1]	2	1 ( )
Room 70 G2[1]	4	2 (、PoE)
Room 70 Panorama[1] / Room Panorama[1]	4	2 (、PoE)
Codec EQ	4	4 (、PoE)
Codec Plus	2	1 ( )
Codec Pro	4	2 (、PoE)
Board	0	0
Board Pro	1	1 ( )
Board Pro G2	2	1 (、PoE)
デスク	0	0
Desk Mini	0	0
Desk Pro[2]	1	0

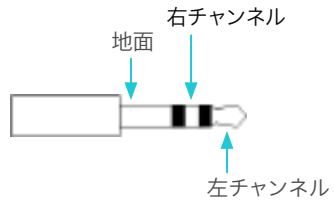
[1] この製品の 1 つまたは複数の補助ポートが内部使用のために予約されています。

[2] この製品の補助ポートはネットワーク拡張ポートです。コンピューターまたはその他のデバイスをこのポートに接続し、ビデオ会議デバイス自体と同じネットワーク/LAN にアクセスすることができます。このポートは周辺機器に使用されず、コーデックからローカル IP アドレスを取得しません。

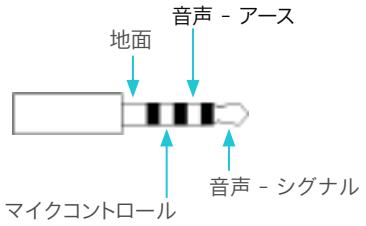
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

ミニジャック コネクタのピン割り当てスキーム

3.5 mm ミニジャック、3 ピン *(ライン出力)*



3.5 mm ミニジャック、4 ピン *(マイク)*



音声コネクタ (ミニジャック) *		
	マイクロフォン	回線出力
コネクタのピン割り当て	チップ = アクティブ リング 1 = コールド リング 2 = マイクコントロール シールド = GND	先端 = 左チャンネル リング = 右チャンネル シールド = GND
信号タイプ	平衡化	アンバランス型
コネクタ (コーデック)	ミニジャック 3.5mm、4 線式	ミニジャック 3.5mm、3 線式
入力インピーダンス	900 オーム/脚	該当なし
出力インピーダンス	該当なし	470 オーム
最大入力レベル	-18.3dBu ±2dB	該当なし
最大出力レベル	該当なし	8.2dBu ±2dB
ファンタム電源	10V ± 0.5V	該当なし
ファントムパワーレジスタ「tip」ピン	1.0k オーム	該当なし
ファントムパワーレジスタ「リング 1」ピン	1.0k オーム	該当なし
周波数応答	20Hz-20kHz ±1dB	20Hz-20kHz ±1dB
S/N 比	-95dB	-100dB

* *Board and Desk Pro:* これらのデバイスには、ライン出力専用のミニジャックソケットが付いています。
Desk、*Desk Mini*、*Room Kit Mini* はミニジャックソケットがありません。
Room Bar にはマイク専用のミニジャックソケットがあります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声入力と出力 (1/2 ページ)

音声入力

Codec Pro ベースの製品では、各入力のゲインを個別に調整したり、ファンタム電源のオン/オフを切り替えることができるため、オーディオ入力をマイク入力とライン入力の両方として使用できます。次の設定を使用します。

- *音声 >入力>マイク [n] >レベル*: 接続された音声ソースに合うように入力コネクタのゲインを調整します。ゲインは 0 から 70 db の範囲で 1 db ステップで調整できます。0 db ゲインでの最大入力レベルは 24 dBu です。
- *音声 >入力>マイク [n] > ファントムパワー*: 既定の設定では入力にファンタム電源が使用されます (48 V ± 1 V)これは、Cisco の卓上マイクとシーリング マイクなどの一部のマイクに必要です。外部ミキサーなどの機器に接続する際にファンタム電源を必要としない場合は、それをオフにすることができます。

音声入力は、最大 4 ポートのユーロブロックコネクタを使用するために設定されています。

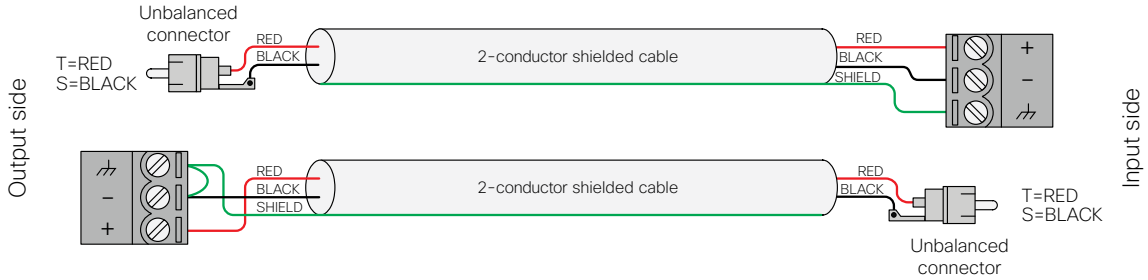
3 ポートのユーロブロックを使用する場合、左端の位置に挿入されていることを確認してください。つまり、ポート 4 (マイクのミュート) は使用されません。

音声出力

音声出力は、3 ポートのユーロブロックコネクタを使用するために設定されています。

アンバランス型コネクタへの接続

これらの図は、ビデオ会議デバイスをアンバランス コネクタに接続する場合のベスト プラクティスを示しています。



© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

音声入出力 (2/2 ページ)

音声入力/出力の仕様		
	マイク/回線入力	回線出力
コネクタの種類	・バランス入力 ・3.5mm ピッチ フェニックス/ユーロブロック タイプ オス ヘッダー	・インピーダンスバランス型出力 ・3.5mm ピッチ フェニックス/ユーロブロック タイプ オス ヘッダー
ファンタム電源	・48V、6.8k オーム インピーダンス/1 脚あたり最大電流 7mA。 ・独立して切り替え可能。	該当なし
入力インピーダンス	・1 脚あたり 2.5kオーム	該当なし
出力インピーダンス	該当なし	・1 脚あたり 200オーム
推奨負荷インピーダーンス	該当なし	・> 600オーム
信号レベル	・0dB 入力ゲイン: 最大 24dBu (1kHz、+/-1dB) ・入力ゲインを 0dB から +70dB まで 1dB ステップで個別に調整可能	・0dB 出力ゲイン: 最大 18dBu (1kHz、+/-1dB) ・出力ゲインを 0 から -24db まで個別に調整可能
周波数応答	・20Hz–20kHz: +0/-1db	・20Hz–20kHz: +0/–0.5db
全高調波歪み + ノイズ (THD+N)	・0dB 入力ゲイン、22dBu 信号レベル: < 0.005% (20Hz-20kHz、22kHz 帯域幅) ・46dB 入力ゲイン、-24dBu 信号レベル: < 0.01% (20Hz-20kHz、22kHz 帯域幅)	・0dB 出力ゲイン、17dBu 信号レベル: < 0.005% (20Hz-20kHz、22kHz 帯域幅)
等価入力ノイズ (EIN)	・46db 入力ゲイン、Rs=150オーム: < -124dBu (20Hz-20kHz A加重)	該当なし
ダイナミック レンジ	・0db 入力ゲイン、Rs=150オーム: > 107db (20Hz-20kHz、22kHz BW) ・46db 入力ゲイン、Rs=150オーム: > 102db (20Hz-20kHz, 22kHz BW)	・0db 出力ゲイン: > 109dB (20Hz-20kHz 無加重)
クロストーク	・0dB 入力ゲイン、23dBu 信号レベル、10kHz: < -110dB ・46dB 入力ゲイン、-23dBu 信号レベル、10kHz: < -110dB	・0dB 出力ゲイン、17dBu 信号レベル 10kHz: < -100dB

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

GPIO および 3G-SDI コネクタ

GPIO コネクタ

デバイスには 1 つの 6 ピン ユーロブロック GPIO (汎用入力/出力) ポート (GND、+12 V、および 4 つの GPIO ピン) があります。

4 つの GPIO ピンのモードは個別に構成できます。ピンは、アクションをトリガーするか (入力)、デバイスのステータスを報告する (出力) ように構成できます。次に例を示します。

- マイクをミュートする (入力)、またはマイクがミュートされているかどうか (出力) をレポートします。
- 通話を承諾または切断する (入力)、またはデバイスが通話中であるかどうかをレポートする (出力)。

動作原理

+12 V ピンは +12 V_{DC} を供給し、最大 500 mAを供給できます。

GNDピンは、GPIO コネクタのすべてのピンに共通のGNDです。

入力として使用される場合、GPIO ピンは次のように状態を検出します。

- 0-1 V_{DC}の電圧でロー状態
- 2-12 V_{DC}の高電圧状態の電圧

出力として使用される場合、GPIO ピンは次のように設定されます。

- ロー状態はピンを低く駆動します、つまり グランドに駆動します
- ハイ状態は、内部プルアップ付きオープン ドレーンにピンを設定します。つまり、外部接続がローに駆動しない限り、ピンは 12 V に設定されます。

コマンドと設定

PIN のモードを設定するには:

事前に定義された入力および出力モードの詳細については、設定の説明をお読みください。

- *GPIO > ピン [n] > モード*
  (x 設定 GPIO ピン [n] モード)

PIN の状態を取得するには:

- *GPIO > ピン [n] > 状態*
  (xStatus GPIO ピン [n] 状態)

手動モードの PIN の状態を設定するには:

- `xCommand GPIO ManualState Set`

API コマンドの詳細については、RoomOS ソフトウェアの API ガイドを参照してください。▶ https://www.cisco.com/go/room-docs に移動する

3G-SDI コネクタ

Codec Pro には 1 つの 3G-SDI 入力コネクタがあります。

コネクタは HD-BNC で、最大 1080p60 の解像度に対応します。3G-SDID 信号は、レベル A、75 Ω、10 ビット データ ネイティブ カラー エンコード 4:2:2 YCbCr です。

カメラをコーデックから遠く離れた場所に配置する場合、例えば、背面にカメラを配置する大きな会議室でカメラを配置する場合は、3G-SDI コネクタを使用します。

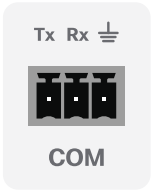
合計の同軸ケーブル長は最大 100m まで対応できるため、ビデオ会議室を構築またはセットアップする際の柔軟性が大幅に向上します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

COM ポートを使用した API アクセス

デバイスには、シリアル接続でデバイスの API にアクセスするために使用できる COM ポートがあります。*

これは 3 ピンのユーロブロックで、Tx (送信)、Rx (受信)、および GND ピンを備えています。



シリアル通信はデフォルトで有効になっています。無効にする場合は、次の設定を使用します。

[シリアルポート] > モード

セキュリティ上の理由から、シリアルインターフェイスを使用する前にログインが求められます。ログインのプロンプトをオフにする場合は、次の設定を使用します。

[シリアルポート] > ログインが必要

デバイスは非常に多くのフィードバックを提供する可能性があるため、可能な限り最高のボーレートで接続を維持することをお勧めします。長いケーブルを使用する場合など、一部の状況では、ビットエラーを避けるために低いボーレートが使用される場合があります。ボーレートを調整する場合は、次の設定を使用します。

シリアルポート > ボーレート

デバイスが CUCM によりプロビジョニングされている場合、シリアルポート設定は CUCM から構成する必要があります。

シリアル接続のパラメータは以下の通りです。

- ボーレート: 9600、19200、38400、57600、または 115200 bps
- データビット: 8
- パリティ: なし
- ストップビット: 1
- フロー制御: なし

ボー レートを除き、micro-USB メンテナンス ポートには同じ構成とパラメーターのセットが使用されます。メンテナンス ポートのボーレートは常に115200bpsです。

* メンテナンスには COM ポートを使用しないでください。代わりにマイクロ USB ポートを使用してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

メンテナンス用シリアルインターフェイス (1/6 ページ)

デバイスとの直接通信に、micro USB コネクタを使用します[1]。Micro USB USB ケーブルが必要です。コンピュータがシリアルポートドライバを自動インストールしない場合、コンピュータに手動でシリアルポートドライバをインストールする必要があります [2]。

ターミナルエミュレータを使ってシリアルインターフェイスに接続します。最も一般的なコンピュータの種類 (PC、MAC) およびオペレーティング システムでは、PuTTY または Tera Term が利用できます。

パラメータ:

- ボーレート: 115200 bps
- データビット: 8
- パリティ: なし
- ストップビット: 1
- ハードウェア フロー制御: オフ

異なる製品のマイクロ USB メンテナンス ポートを見つけるには、次のページの図を参照してください。

デバイス設定

シリアル通信はデフォルトで有効になっています。次の設定を使用して、動作を変更します。

[シリアルポート] >モード

セキュリティ上の理由から、シリアルインターフェイスを使用する前にログインが求められます。次の設定を使用して動作を変更します。

[シリアルポート] >ログインが必要

デバイスが CUCM によりプロビジョニングされている場合、シリアルポート設定は CUCM から構成する必要があります。

Codec Pro、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama

- *シリアルポート >ボーレート* 設定はメンテナンスポートには影響しません。メンテナンスポートは常にデフォルトのボーレートを使用します。

Webex Board 55S、70S、85S:

1. コンピュータからの USB ケーブルをボードの micro-USB ポートに接続します。

   お使いのコンピュータに 2 つの USB - シリアルポートデバイスが表示されます。名前はコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。Linux では、通常はカメラ用は `/dev/ttyUSB0`、メイン用は `/dev/ttyUSB1` です。

   これらのポートは、2 つの CPU のネイティブシリアルインターフェイス (UART) に接続されています。ブートローダからのログを含む、システムからこのポートに印刷されたすべてのものを表示します。

2. 起動完了後にサインインプロンプトが表示されたら、管理者の資格情報でログインします。カメラ CPU ではなく、メイン CPU にしかログインできません。

   サインイン後、ボードの API にアクセスすることができます。

   ボードが出荷時設定にリセットされている場合、サインインは空のパスワードで *admin* です。

Webex Board 55 および 70:

1. コンピュータからの USB ケーブルをボードの USB-A ポートに接続します。Webex Board 55 では,パネルに最も近い USB ポートを使用してください。

2. ボードの電源を入れます。これで、コンピュータの仮想シリアルポートが見えます。名前はコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。Linux では通常、 `/dev/ttyACM0` と表示されます。

   注 : コンピュータを接続する前にボードの電源を入れると、コンピュータはボードを認識できません。

3. サインインプロンプトが表示されたら、管理者の資格情報を使用してログインします。サインイン後、ボードの API にアクセスすることができます。

   ボードが出荷時設定にリセットされている場合、サインインは空のパスワードで *admin* です。

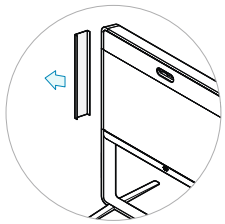
[1] マイクロ USB ポートはメンテナンス用です。シリアル接続でデバイスの API にアクセスする場合、API ガイドを参照してください。

[2] CP210x USB - uArt ブリッジ仮想 COM ポート (VCP) ドライバーが必要です。 ▶ http://www.silabs.com/products/development-tools/software/usb-to-uart-bridge-vcp-drivers を参照してください。

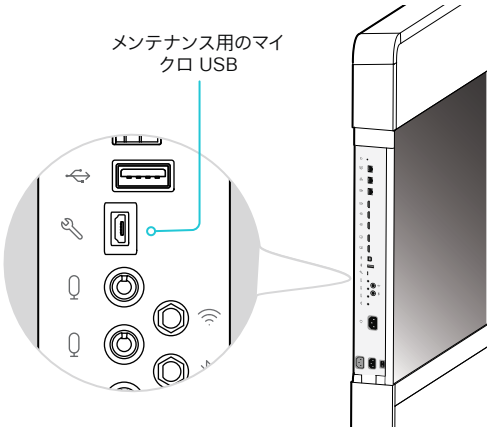
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

メンテナンス用シリアルインターフェイス (2/6 ページ)

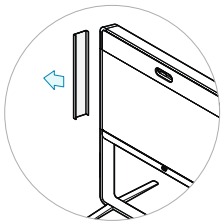
Room 55 Dual および Room 70



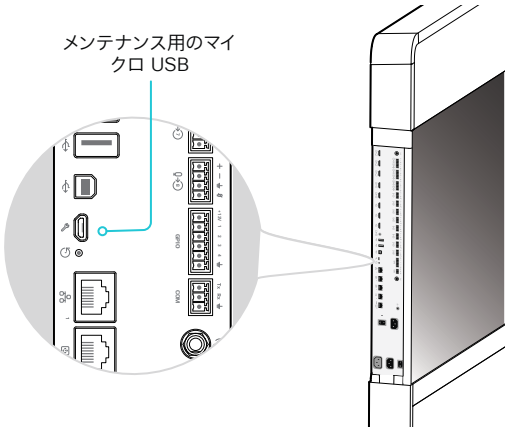
コーデック コネクタ パネルにアクセスするには、デバイスの左側のサイド カバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されます。



会議室 70 G2 および Room 70 Panorama



コーデック コネクタ パネルにアクセスするには、デバイスの左側のサイド カバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されます。

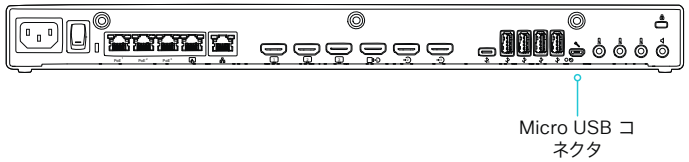


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

メンテナンス用シリアルインターフェイス (3/6 ページ)

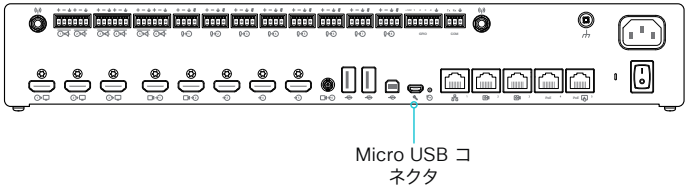
Codec EQ および Room Kit EQX

Room Kit EQX:
右側の画面を取り出してコーデックにアクセスします。

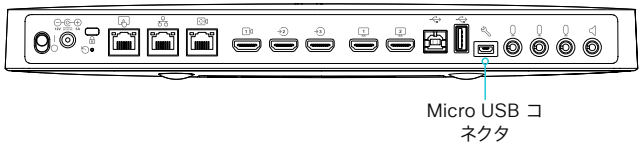


Codec Pro および Room Panorama

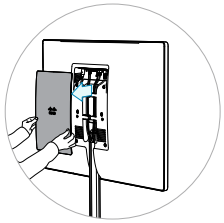
Room Panorama:
デコレーショングリルの下部のハンドルを使用し、左側のモニタを引き下げてコーデックにアクセスします。



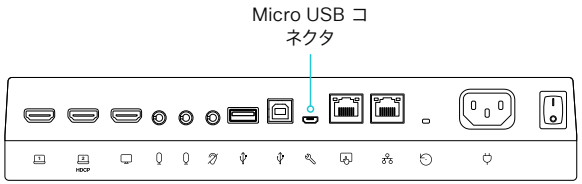
Codec Plus



Room 55



コネクタパネルにアクセスするには、背面カバーを取り外します。

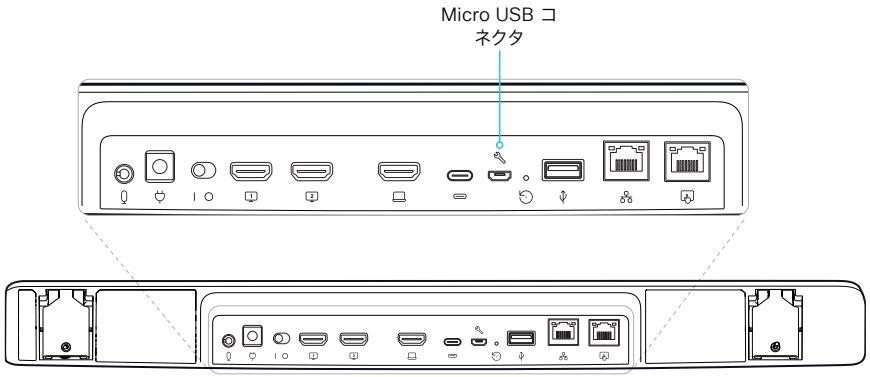


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

メンテナンス用シリアルインターフェイス (4/6 ページ)

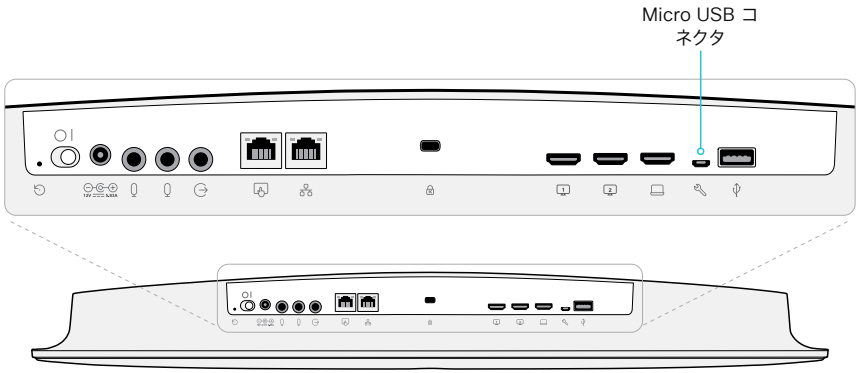
Room Bar

ユニットを前に傾けると、コネクタ パネルにアクセスできます。

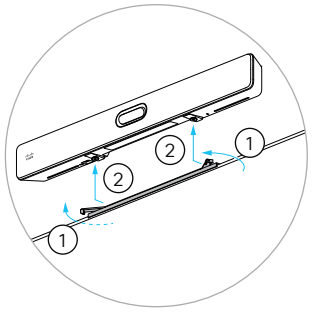


Room Kit

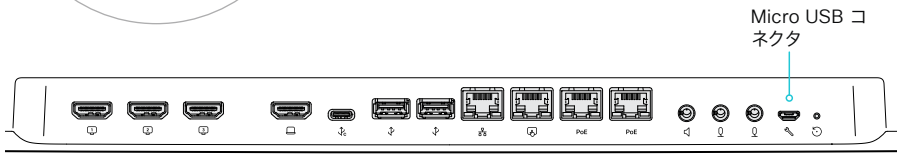
ユニットを前に傾けると、コネクタ パネルにアクセスできます。



Room Bar Pro

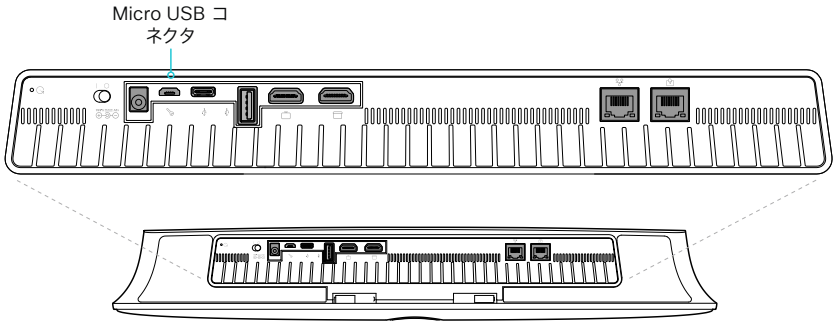


まず、取り付けバーの両側にあるロック ハンドルを引いて、デバイスのロックを解除します (1)。次に、デバイスをゆっくりと手前に引き出し、取り付けバーから持ち上げて (2)、コネクタ パネルにアクセスできるようにします。



Room Kit Mini

ユニットを前に傾けると、コネクタ パネルにアクセスできます。

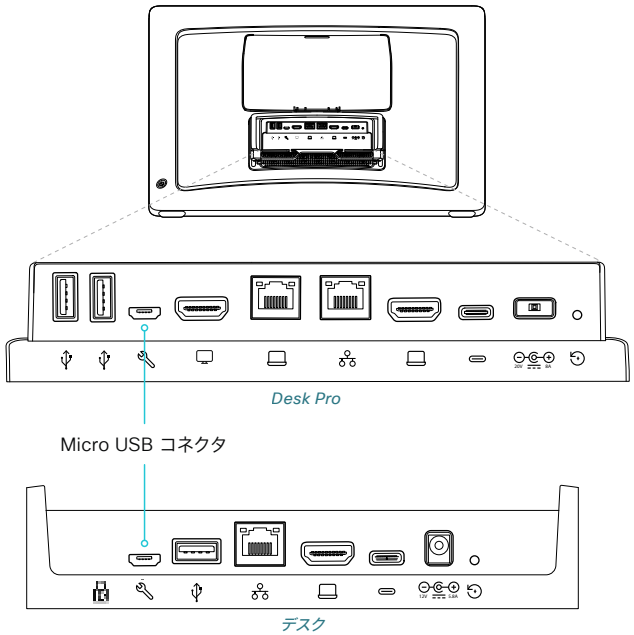


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

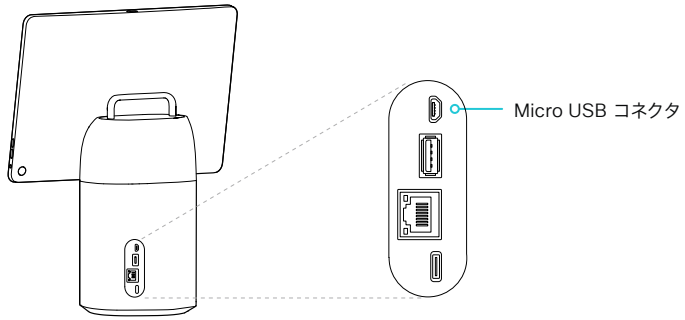
メンテナンス用のシリアルインターフェイス (5/6 ページ)

Desk および Desk Pro

デバイスの背面のカバーを開けると、コネクタ パネルにアクセスできます。



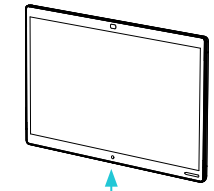
Desk Mini



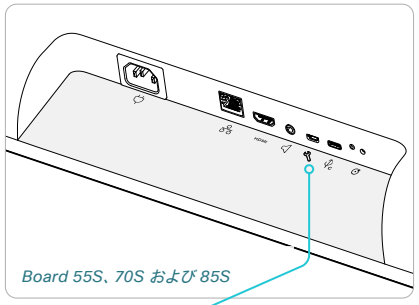
© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

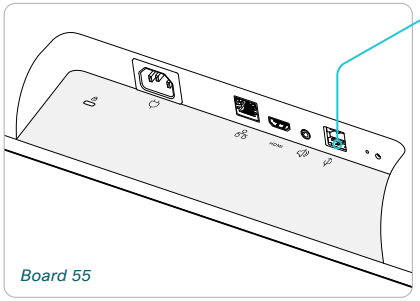
メンテナンス用シリアルインターフェイス (6/6 ページ)

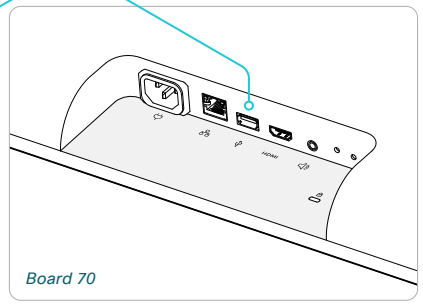
Board



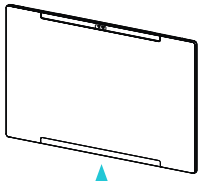
コネクタ パネルは下部にあります







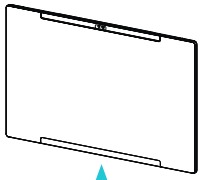
Board Pro



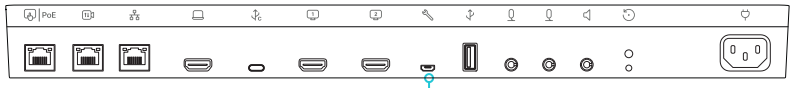
コネクタ パネルは下部にあります

Micro USB コネクタ

Board Pro G2



コネクタ パネルは下部にあります



Micro USB コネクタ

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

そのSystemtools コマンド

Systemtools コマンドはデバイスの管理コントロールに使用され、コマンドラインインターフェイスからのみ利用できます。Systemtoolsは、デバイスのプログラムに使用しないでください。

サポートされているコマンドの概要を確認するには、"systemtools ?"を入力してください。

例：

```
systemtools ?
selectsw
whoami
ライセンス
network
ntp
ps
セキュリティステータス
ブートロゴ
idefixversion
touch
```

コマンドの使用方法を確認するには、コマンドの後に疑問符を追加します。

例:

```
systemtools network ?
usage: network ping <hostname> | traceroute
<hostname> | netstat | addrs | ifconfig |
ifstats <ifname>
```

`systemtools idefixversion` *(Board、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、および Room Panorama)*

接続された Touch 10 に必要なソフトウェア バージョンを返します。

`systemtools license list`

デバイスのすべてのライセンスを一覧表示します。

`systemtools license show <name>`

名前で定義されたライセンスファイルのコンテンツを表示します。

<name>: ライセンスファイルの名前。

`systemtools network ping <hostname>`

ネットワークデバッグコマンド。

<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL です。

`systemtools network traceroute <hostname>`

ネットワークデバッグコマンド。

<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL です。

`systemtools network netstat`

ネットワークデバッグコマンド。

`systemtools network addrs`

デバイスの IP アドレスを表示します。

`systemtools network ifconfig`

ネットワークデバッグコマンド。

`systemtools network ifstats <ifname>`

ネットワークデバッグコマンド。ネットワークインターフェイスの統計を表示します。

<ifname>: インターフェースの名前。

システムツール `ntp`

NTP 状況を表示します。

`systemtools ps`

実行中のすべてのプロセスを一覧表示します。

`systemtools securitystatus`

デバイスのセキュリティ ステータスを表示します。

`systemtools selectsw [image name]`

利用可能なソフトウェアイメージから使用するものを選択します。ソフトウェア イメージを変更すると、デバイスが再起動されます。

引数なし: 利用可能なソフトウェアイメージのバージョンをリストし、どれがアクティブであるかを表示します。

イメージ名: この名前のソフトウェアに切り替えます。

`systemtools touch start` *(Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro のみ)*

タッチスクリーンをテストするためのデバッグコマンドです。

`systemtools touch stop` *(Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro のみ)*

タッチスクリーンをテストするためのデバッグコマンドです。

`systemtools touch forever` *(Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro のみ)*

タッチスクリーンをテストするためのデバッグコマンドです。

`systemtools whoami`

ログインしたユーザーの名前と ID、およびこのユーザーが保持しているユーザ役割を一覧表示します。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

開いている TCP ポート

コーデック内のウェブサーバーは、安全ではない、または不要なポート、プロトコル、モジュール、および/またはサービスの使用を禁止または制限します。一部のポートはデフォルトで開いています。

デバイス設定はデバイス ウェブ インターフェイスから構成できます。ウェブブラウザを開き、デバイスの IP アドレスを入力してサインインします。*[設定 (Settings)]* に移動し、*[構成 (Configurations)]* を選択します。

TCP 22: SSH

ポートを閉じるには、SSH モードを **オフ** に設定します。

ネットワークサービス `SSH` **モード: オフ / オン**

TCP 80: HTTP

ポートを閉じるには、HTTP モードを **オフ** または **HTTPS**に設定します。**オフ** はポート 443 にリダイレクトします。

```
NetworkServices HTTP Mode: HTTP+HTTPS / HTTPS / Off
```

TCP 443: HTTPS

ポートを閉じるには、HTTP モードを **オフ**に設定します。

```
NetworkServices HTTP Mode: HTTP+HTTPS / HTTPS / Off
```

TCP 4043 : リモート ペアリング ソフトウェアのダウンロード *(レガシー アップグレード)*

Touch 10 をサポートするすべての製品に適用されます

このポートは、後方互換性のため開放されています。Touch 10が古いソフトウェアのコーデックにペアリングされ、Touch 10のセキュアアップグレード (TCP 4060) をサポートしていない場合、このポートは Touch 10 にソフトウェアをダウンロードするために使用されます。

タッチコントローラのリモートペアリングを [**オフ**] に設定すると、ポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off / On
```

TCP 4045: リモートペアリングバージョン情報

タッチコントローラのリモートペアリングを [**オフ**] に設定すると、ポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off / On
```

TCP 4047: リモート ペアリング セッション接続

このポートは、タッチコントローラがビデオ会議デバイスとリモート ペアリングしている場合にのみ利用でき、開きます。タッチコントローラのリモートペアリングを [**オフ**] に設定すると、ポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off / On
```

TCP 4051: リモート ペアリング ポート *(非推奨)*

タッチコントローラのリモートペアリングを [**オフ**] に設定すると、ポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off / On
```

TCP 4053: リモートペアリングポート

タッチパネルでリモートペアリングを **オフ**に設定することでポートを閉じることができます。

周辺機器 ペアリング `CiscoTouchPanels` **リモートペアリング: オフ / オン**

TCP 4060: リモート ペアリング ソフトウェア ダウンロード *(セキュアなアップグレード)*

Room Navigator または Touch 10 をサポートするすべての製品に適用されます。

このポートは、ソフトウェアをタッチコントローラにダウンロードするときに使用されます。タッチコントローラのリモートペアリングを [**オフ**] に設定すると、ポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off / On
```

TCP 4062: リモートペアリングポート

タッチコントローラのリモートペアリングを [オフ] に設定すると、ポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off / On
```

TCP 4190: UPnP ポート

ポートを閉じるには、SIP リッスンポートを **オフ**に設定します。

ネットワークサービス `UPnP` **モード: オフ**

TCP 5060/5061: SIP リッスンポート

SIP リッスン ポートは既定で開いています。SIP リッスン ポートは、Cisco UCM (Unified Communication Manager) により無効になっています。ポートを閉じるには、SIP リッスンポートを **オフ**に設定します。

`SIP ListenPort`: **オフ / オン**

TCP 65533: Proximity 接続の代替ポート

ポートはデフォルトでクローズされています。Proximity の代替ポートを有効にする設定が True に設定されている場合、ポートは Proximity 接続に対して開いています。

```
Proximity AlternatePort Enabled: False / True
```


© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

エフェメラル IP ポート

エフェメラル IP ポート範囲 : 32768 - 60999

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

TMS からの HTTPFeedback アドレス

デバイスが Cisco TelePresence Management Suite (TMS) に追加されると、情報 (イベント) を TMS に返信するように自動的に設定されます。デバイスは TMS からこれらのイベントの送信先となるアドレス (HTTP フィードバック アドレス) を受信します。このアドレスがないか、設定が間違っている場合、デバイスは TMS にイベントを送信できません。

イベントへの応答が欠けている

デバイスがイベントに対する応答を受信しない場合、HTTPFeedback アドレスへの応答を間隔を長くしながら最大 6 回まで再送信します。

デバイスがどの再試行にも応答を受信しない場合、エンドポイントは 10 分ごとに HTTPFeedback アドレスにメッセージを送信しようとします。HTTPFeedback ステータスは失敗を示し、失敗のタイプを示す診断メッセージがあります。

メッセージの送信を再試行するときに、TMS の通話詳細記録 (CDR) が失われます。

TMS から新しい HTTPFeedback アドレスを取得する

イベントの送信先となる新しいアドレスを取得するには、デバイスを再起動し、TMS から次の管理アドレスがプッシュされるのを待つ必要があります (TMS 管理者によりスケジュールまたはトリガーされます)。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

オンプレミスに登録されたデバイスをデバイス用の Cisco Webex Edge にリンクする

デバイス用 Webex Edge を使用して、オンプレミスのデバイスを Cisco Webex クラウドサービスに登録することができます。これにより、登録、デバイス設定管理、通話[1]、メディアサービスがオンプレミスのままである場合でも、クラウド機能を選択することができるようになります。Webex Control Hub でクラウドサービスを管理したり、デバイスの診断を受けたりできます。

詳細情報

デバイスをデバイス用 Webex Edge にリンクする方法、サポートされている機能、前提条件、制限の詳細については、Webex ヘルプセンターの記事 ► デバイス用 Webex Edge (https://help.webex.com/cy2l2z/) を参照してください。

Setup

最初にデバイスをオンプレミス サービスに登録することをお勧めします。それから、Webex Edge にリンクします。

詳細については、左側の *デバイス用の Webex Edge* の記事を参照してください。

機能

機能の包括的なリストについては、左側の *デバイス用の Webex Edge* の記事を参照してください。以下にその一部を示します。

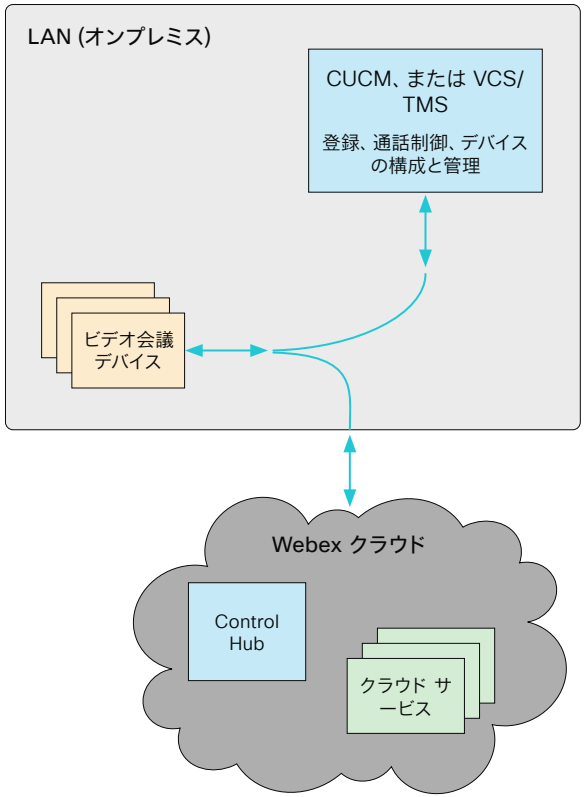
- Control Hub のオンライン/オフライン接続ステータス
- 管理アラートを設定する機能を使用するデバイス診断
- Control Hub で直接利用可能なデバイス履歴分析
- Control Hub からのデバイス設定へのアクセス
- Cloud xAPI アクセス
- Webex コールに参加する場合のリアルタイム メディア メトリック
- コントロールハブからのログの管理
- Control Hub のハイブリッド カレンダー [2]
- Webex Assistant (音声による仮想アシスタント)

上記で参照された *デバイス用の Webex Edge* の記事には、利用可能なすべての機能と制限の更新リストが記載されています。

前提条件

前提条件と制限事項の包括的なリストについては、左側の記事 *デバイス用の Webex Edge* を参照してください。以下にその一部を示します。

- RoomOS または CE ソフトウェアの暗号化バージョン
- 登録している場合: CUCM バージョン 12.5su1、または 11.5.x 最新のデバイスパック付き
- Control Hub 管理者アクセス
- Cisco Webex Device Connector (Webex Edge へのリンクをセットアップするため)
- クラウド サービス ライセンス (Cisco Collaboration Flex Plan)



[1] Webex ミーティングに発信するために Webex クラウド サービスを使用するようにデバイスを構成できます。詳細については、 *Webexがデバイス用のWebex Edgeに最適化された体験* について読む ► デバイス用Webex Edge (https://help.webex.com/cy2l2z/) の記事をWebexヘルプセンターでご覧ください。

[2] TMS の予約は無視されます。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Webex クラウド サービスにデバイスを登録する

画面上の設定アシスタントを使用する代わりに、デバイスのウェブインターフェイスから Cisco Webex にデバイスをリモートで登録できます。

ウェブ インターフェイスからは、現在サービスに登録されていないデバイスのみを登録できます。

注意: すべてのローカルユーザーとこのデバイス用に作成されたカスタマイズが無効になります。

アクティベーション コードを作成する

デバイスを Cisco Webex に登録するには、アクティベーションコードが必要です。

共有モードのデバイス:

管理者は Control Hub でアクティベーション コードを作成する必要があります。

共有モードでデバイスのアクティベーション コードを作成する方法については、「▶ ワークスペースを作成し、Cisco Webex Room デバイスまたは Cisco Webex Board にサービスを追加する」(https://help.webex.com/1mqb9cb/)を参照してください。

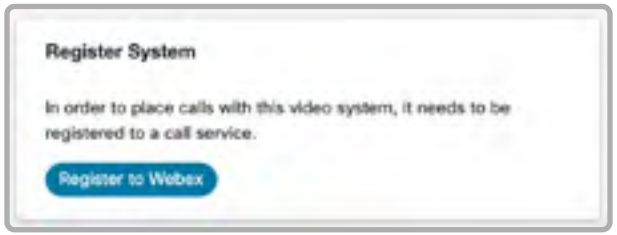
パーソナル モードのデバイス:

*Cisco Webex 設定(https://settings.webex.com)*から、管理者でなくてもアクティベーションコードを取得できます。

パーソナル モードのデバイスのアクティベーション コードを作成する方法については、▶ Webex Board、Room または Desk デバイスをパーソナル デバイスとしてセットアップする (https://help.webex.com/n3alqtv/)を参照してください。

1. デバイスのウェブインターフェースにサインインして *[ホーム (Home)]* に移動します。*登録システム* カードを見つけます。

   このカードは、デバイスがサービスに登録されていない場合にのみ利用できます。



2. *Webex への登録*をクリックします。
3. ポップアップが表示されたら、アクティベーション コードを入力します。

   フォーマット:

   - *xxxx-xxxx-xxxx-xxxx*、または
   - *xxxxxxxxxxxxxxx*

4. 登録後、画面上の設定アシスタントからタイムゾーンと言語を設定する必要があります。設定アシスタントがタイムアウトになった場合、デフォルト設定が適用されます。

制約事項

使用可能な構成の一部は、オンプレミスの登録済みデバイスにのみ適用されます。上記は、Webex に登録されているデバイスには適用されません。API ガイドの *サポートされているコマンド一覧*では、これらの項目には「オンプレミスのみ」と記載されています。

適用外の設定には、H.323、SIP、NTP、CUCM、LDAP、近接通信、相手側カメラ制御に関連する設定などがあります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

サポートされている RFC

RFC (Request forComments) シリーズには、Internet Engineering Task Force (IETF) が作成した技術仕様やポリシーなど、インターネットに関する技術および組織に関するドキュメントが含まれています。

RoomOS ソフトウェアは、以下を含むさまざまな RFC に対応しています。

- RFC 2782 - サービスのロケーションを指定する DNS RR (DNS SRV)
- RFC 3261 - SIP：セッション開始プロトコル
- RFC 3263 - SIP サーバーの検索
- RFC 3361 - SIP サーバーの DHCP オプション
- RFC 3550 - RTP: A Transport Protocol for Real-Time Applications
- RFC 3711 - Secure Real-time Transport Protocol (SRTP)
- RFC 4091 - セッション記述プロトコル (SDP) グループ フレームワークの代替ネットワーク アドレス タイプ (ANAT) 意味論
- RFC 4092 - セッション開始プロトコル (SIP) でのセッション記述プロトコル (SDP) 代替ネットワークアドレスタイプ (ANAT) 意味論の使用法
- RFC 4582 - バイナリフロアコントロールプロトコル

  ドラフト-ietf-bfcp ビス-rfc4582 ビス-00 信頼性の低いトランスポートで使用するための Binary Floor Control Protocol (BFCP) の改訂
- RFC 4733 - DTMF 番号、テレフォニートーン、および電話信号の RTP ペイロード
- RFC 5245 - Interactive Connectivity Establishment (ICE) : A Protocol for Network Address Translator (NAT) Traversal for Offer/Answer Protocols
- RFC 5321 - Simple Mail Transfer Protocol *(Board、Board Pro、Board Pro G2、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Kit Mini)*
- RFC 5589 - SIP コール制御転送
- RFC 5766 - Traversal Using Relays around RFC (TURN)：Session Traversal Utilities for NAT (STUN) のためのリレー拡張
- RFC 5905 - ネットワークタイムプロトコルバージョン 4: プロトコルおよびアルゴリズムの仕様

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

最小帯域幅を計算しています

最小帯域幅要件は技術仕様で指定されています。デュアルストリームが使用される場合、利用可能な帯域幅は 2 つのストリームに分割されます。

デュアルストリームで希望の解像度の最小帯域幅を計算するには、その解像度 (例、720p30) の最小ビットレート (bps) を 2 倍にします。

例えば、720p30 の解像度に対して 768kbps の最小帯域幅があるとします。この場合、デュアルストリームの最小帯域幅は 768 × 2、つまり 1536kbps になります。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco Web サイトのユーザ ドキュメント

すべての Cisco コラボレーションデバイスのユーザマニュアルは、▶https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints にあります。

次の短いリンクを使用して、RoomOS ソフトウェアを実行しているデバイスのドキュメントを検索することをお勧めします。

Room シリーズ:

▶https://www.cisco.com/go/room-docs

Desk シリーズ:

▶https://www.cisco.com/go/desk-docs

Board シリーズ:

▶https://www.cisco.com/go/board-docs

特定のドキュメントを検索するには、*ドキュメント* をクリックして、そのドキュメントが属するカテゴリを検索します。

例えば、管理ガイドを見つけるには *メンテナンスと操作>メンテナンスと操作ガイド* を検索し、 *ドキュメント*をクリックします。

カテゴリとドキュメント タイプ

これらのリストは、ドキュメントタイプが属するカテゴリを示します。すべてのタイプのドキュメントを、すべてのタイプのデバイスで利用できるわけではありません。

インストールとアップグレード >インストールおよびアップグレードガイド

- *インストールガイド:*
  端末の組み立てと設置の方法
- *スタート ガイド:*
  デバイスを初めて起動するために必要な初期設定
- *RCSI ガイド:* 規制コンプライアンスおよび安全性情報

管理と操作 >管理および操作ガイド

- *スタート ガイド:*
  デバイスを初めて起動するために必要な初期設定
- *管理者ガイド:*
  端末の設定と管理に必要な情報
- *スペアパーツの概要、スペアパーツ交換ガイド、ケーブルスキーマ:* ケーブルの接続とスペアパーツの交換の際に役立つ情報

保守と運用 >エンドユーザガイド

- *ユーザガイド:*
  端末の使用方法
- *クイックリファレンスガイド:*
  端末の主な機能の使用方法

参照 >コマンド リファレンス

- *API リファレンス ガイド:*
  端末の公開 API のリファレンス ガイド

参照 >テクニカル リファレンス

- *CAD 描画:*
  寸法付きのデバイスの2D CAD描画

[設定] >構成ガイド

- *カスタマイズガイド:*
  ユーザーインターフェイスのカスタマイズ方法、デバイスの API を使ってユーザーインターフェースのコントロールをプログラムする方法、マクロの作成、Audio Console を使った高度な音声設定の構成、その他のカスタマイズについて説明しています。

リリースと互換性 >リリースノート

- *ソフトウェア リリース ノート*

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved

Cisco の連絡先

当社のウェブサイトで、世界各国にある Cisco の連絡先をご確認いただけます。

▶ https://www.cisco.com/go/offices

をご覧ください 本社

Cisco Systems、Inc.
170 West Tasman Dr.
San Jose、CA 95134 USA

知的財産権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている式、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。全著作権所有。Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、CISCO およびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性が CISCO またはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

★定型★このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。★定型★マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

すべての印刷されたコピーおよび複製されたソフトコピーは管理外のコピーと見なされ、元のオンラインバージョンを参照して最新版を確認する必要があります。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。アドレス、電話番号、FAX 番号の一覧は Cisco ウェブサイト www.cisco.com/go/offices に記載されています。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

Cisco 製品のセキュリティの概要

この製品には、輸入、輸出、譲渡、使用を規制する米国またはその他の国の法律の対象となる暗号化機能が含まれています。Cisco の暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザーは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意したものと見なされます。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、
http://www.bis.doc.gov/policiesandregulations/ear/index.htm を参照してください。

© 2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved